

新約聖書

キリストの生涯

聖書の中心はイエス・キリストです。では、いったいキリストとはどういうお方で、何をなさり、どんなことをお語りになったのでしょうか。ここには、キリストと行動を共にし、その教えを受け、さまざまな出来事を見聞きした人々の証言を、それぞれ違った観点からまとめた、四つの記録が収められています。四人の著者は、キリストの直弟子もいれば、そうでない者もあり、社会的地位も、取税人、青年、医者、漁師と、全く異なります。この四人の目をとおして、キリストの姿が生き生きと描かれています。

マタイの福音書（取税人マタイの記録）

マタイは、税金を取り立てる役人でした。当時、彼らの中には、不正に多く取り立てて、自分のものにする者がいたので、人々にきらわれ、軽べつされる職業でした。しかし、イエスは、あえてそのような人を弟子になさったのです。イエスに出会ったマタイの生活は一変しました。いっさいを捨てて彼にお従いしたのです。そしてこのイエスこそ、以前から神の預言者によって、この世に現われると言われ続けてきた救い主であることを、人々に伝える者となったのです。

一

- 1 初めに、イエス・キリストの先祖の名前を記すことから始めましょう。イエス・キリストはダビデ王の子孫、さらにさかのぼってアブラハムの子孫です。
- 2 アブラハムはイサクの父、イサクはヤコブの父、ヤコブはユダとその兄弟たちの父です。
- 3 ユダはパレスとザラの父〔彼らの母はタマル〕、パレスはエスロンの父、エスロンはアラムの父です。
- 4 アラムはアミナダブの父、アミナダブはナアソンの父、ナアソンはサルモンの父です。
- 5 サルモンはボアズの父〔母はラハブ〕、ボアズはオベデの父〔母はルツ〕、オベデはエッサイの父です。
- 6 エッサイはダビデ王の父、ダビデはソロモンの父〔母は、もとウリヤの妻〕です。
- 7 ソロモンはレハベアムの父、レハベアムはアビヤの父、アビヤはアサの父です。

- 8 アサはヨサパテの父、ヨサパテはヨラムの父、ヨラムはウジヤの父です。
- 9 ウジヤはヨタムの父、ヨタムはアハズの父、アハズはヒゼキヤの父です。
- 10 ヒゼキヤはマナセの父、マナセはアモンの父、アモンはヨシヤの父です。
- 11 ヨシヤはエコニヤとその兄弟たちの父です〔彼らは、イスラエルの人たちがバビロンに移住していた時に生まれました〕。
- 12 バビロンに移住してからは、エコニヤはサラテルの父、サラテルはゾロバベルの父です。
- 13 ゾロバベルはアビウデの父、アビウデはエリヤキムの父、エリヤキムはアゾルの父です。
- 14 アゾルはサドクの父、サドクはアキムの父、アキムはエリウデの父です。
- 15 エリウデはエレアザルの父、エレアザルはマタンの父、マタンはヤコブの父です。
- 16 そして、ヤコブはヨセフの父です〔このヨセフが、キリストと呼ばれるイエスの母マリヤの夫となった人です〕。
- 17 こういう次第で、アブラハムからダビデ王までが十四代、ダビデ王からバビロン移住までが十四代、バビロン移住からキリストまでが十四代となります。

約束されていた救い主

- 18 イエス・キリストの誕生は次のとおりです。 母マリヤはヨセフと婚約していましたが、ところが、結婚する前に、聖霊によってみごもったのです。 19 婚約者のヨセフは、神の教えを堅く守る人でしたから、婚約を破棄しようと決心しました。 しかし、人前にマリヤの恥をさらしたくなかったので、ひそかに縁を切ることにしました。
- 20 ヨセフがこのことで悩んでいた時、御使いが夢に現われて言いました。 「ダビデの子孫ヨセフよ。 ためらわないで、マリヤと結婚しなさい。 マリヤは聖霊様によってみごもったのです。 21 彼女は男の子を産みます。 その子をイエス（救い主）と名づけなさい。 この方こそ、ご自分を信じる人々を、罪から救ってくださるからです。 22 このことはみな、神様が預言者を通して語られた、次のことばが実現するためです。
- 23 『見よ。 処女がみごもって、男の子を産む。 その子はインマヌエル〔神が私たちと共におられる〕と呼ばれる。』
- 24 目が覚めると、ヨセフは、御使いの命じたとおり、マリヤと結婚しました。 25 しかし、その子が生まれるまでは、マリヤに触れませんでした。 そして、生まれた子をイエスと名づけました。

二

イエスの誕生

- 1 イエスはヘロデ王の時代に、ユダヤのベツレヘムの町でお生まれになりました。 そのころ、天文学者たちが、東の国からはるばるエルサレムへやって来て、こう尋ねました。 2 「このたびお生まれになったユダヤ人の王様は、どこにおられますか。 私たちは、その方の星をはるか東の国で見たので、その方を拝むために参ったのです。」

3 それを聞いたヘロデ大王は、ひどくうろたえ、エルサレム中がその噂でもちきりになりました。 4 大王はさっそくユダヤ人の宗教的指導者たちを召集し、「預言者どもは、メシヤ（救い主）がどこで生まれると告げているのか」と尋ねました。

5 彼らは答えました。「ユダヤのベツレヘムです。 預言者ミカがこう書いております。

6 『小さな町ベツレヘムよ。

おまえはユダヤの中でも決して

ただのつまらない町ではない。

おまえから偉大な支配者が出て、

わたしの国民イスラエルを

治めるようになるからだ。』」

7 それでヘロデは、ひそかに天文学者たちを呼びにやり、例の星が初めて現われた正確な時刻を聞き出しました。 8 そして彼らに、「さあ、ベツレヘムへ行って、その子を探すがいい。 見つかったら、必ず知らせしてくれ。 わしも、ぜひその方を拝みに行きたいから」と命じました。

9 彼らがさっそく出発すると、なんと、あの星がまた現われて、彼らをベツレヘムに案内し、とある家の上にとどまったではありませんか。 10 それを見た彼らは、躍り上がって喜びました。

11 その家に入ると、幼子と母マリヤがおられました。 彼らはひれ伏して、その幼子を拝みました。 そして、宝の箱を開け、金と乳香（香料の一種）と没薬（天然ゴムの樹脂で、古代の貴重な防腐剤）を贈り物としてささげました。 12 それから、ヘロデ大王に報告するためにエルサレムへは戻らず、そのまま、自分たちの国へ帰って行きました。 神が夢の中で、ほかの道を通して帰るように警告されたからです。

13 彼らが帰ったあと、主の使いが夢でヨセフに現われて言いました。「起きなさい。 幼子とその母を連れて、エジプトに逃げるのです。 そして、帰れと言うまで、ずっとそこにいなさい。 ヘロデがこの子を殺そうとしています。」 14 ヨセフは、マリヤと幼子を連れて、その夜のうちにエジプトへ旅立ちました。 15 そして、ヘロデ大王が死ぬまで、そこに住んでいました。 こうして、「わたしは、わたしの子をエジプトから呼び出した」という預言者のことばが実現することになったのです。

16 ヘロデは、天文学者たちにだまされたとわかると、怒り狂い、すぐさま、ベツレヘムに兵隊をやって、町とその近辺に住む二歳以下の男の子を一人残らず殺せ、と命じました。 というのは、学者たちが、その星は二年前に現われたと言っていたからです。 17 ヘロデのこの残忍な行為によって、エレミヤの次の預言が実現しました。

18 「ラマから声が聞こえる。

苦しみの叫びと、大きな泣き声が。

ラケルが子供たちのために泣いている。

だれも彼女を慰めることができない。

子供たちは死んでしまったのだから。」

19 ヘロデが死ぬと、エジプトに住むヨセフの夢に主の使いが現われ、 20 「さあ、子供とその母を連れてイスラエルに帰りなさい。 子供を殺そうとしていた者たちは死んだから」と言いました。

21 そこでヨセフは、イエスとマリヤを連れて、すぐイスラエルに帰りました。 22 ところが途中で、新しい王はヘロデの息子アケラオだと聞いてこわくなりました。 するともう一度、夢で、ユダヤ地方に行くなと警告されたので、ガリラヤに行き、 23 ナザレという町に住みつきました。 こうして、預言者がメシヤのことを、「彼はナザレ人と呼ばれる」と語ったとおりになったのです。

三

バプテスマのヨハネ

1 ヨセフ一家がナザレに住んでいたころ、バプテスマのヨハネがユダヤの荒野で教えを宣べ伝え始めました。 彼の訴えることは、いつも同じでした。 2 「悔い改めて、神様に立ち返れ。 天国が近づいたからだ。」 3 このバプテスマのヨハネの働きについては、数百年前、すでに、預言者イザヤが語っています。

「荒野から叫ぶ声が聞こえる。

『主のための道を準備せよ。

主が通られる道をまっすぐにせよ。』」

4 ヨハネはらくだの毛で織った服に皮の帯をしめ、いなごとはち蜜を常食にしていました。 5 このヨハネの教えを聞こうと、エルサレムやヨルダン川流域だけでなく、ユダヤの全地方から、人々が荒野に押しかけました。 6 神にそむく生活を送っていたことを全面的に認め、それを言い表わした人たちに、ヨハネはヨルダン川でバプテスマ（洗礼）を授けました。

7 ところが、パリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）やサドカイ人（神殿を牛耳っていた祭司階級。 ユダヤ教の主流派）が大ぜい、バプテスマを受けに来たのを見て、ヨハネは彼らをきびしくしかりつけました。 「まむしの子らめっ！ だれがおまえらに、もうすぐ来る神のさばきから逃れられると言ったのか。 8 バプテスマを受ける前に、悔い改めてふさわしい行ないをせよ。 9 『自分はユダヤ人だから、アブラハムの子孫だから大丈夫』などとは思ってもみるな。 そんなことは何の役にも立たない。 神様はこんな石ころからでも、今すぐアブラハムの子孫をお造りになれるのだ。

10 今の今でも、神様はさばきの斧をふり上げ、実のならない木を切り倒そうと待ちかまえておられる。 そんな木はすぐにも切り倒され、燃やされるのだ。

11 私は今、罪を悔い改める者たちに水でバプテスマを授けている。しかし、まもなく、私など比べものにもならない、はるかに偉大な方がおいでになる。 その方のしもべとなる値打さえ、私にはない。 その方は、聖霊と火でバプテスマをお授けになる。 12 刈

り入れの時が来たら、麦ともみがらをふるい分け、麦は倉に納め、もみがらは永久に消えない火で焼きすててしまわれる。」

イエス、バプテスマを受ける

13 そのころイエスは、ガリラヤからヨルダン川へ来て、ヨハネからバプテスマ（洗礼）を受けようとなさいました。 14 ところが、ヨハネはそうさせまいとして言いました。

「とんでもない。 私こそ、あなた様からバプテスマを受けなければなりませんのに。」

15 しかしイエスが、「今はそうさせてもらいたい。 なすべきことは、すべてしなければならないのですから」とお答えになり、ヨハネからバプテスマをお受けになりました。

16 イエスが、バプテスマを受けて水から上がって来られると、突然天が開け、イエスは、神の御霊が鳩のようにご自分の上にお下りになるのをごらんになりました。 17 その時、天から声が聞こえました。「これこそ、わたしの愛する子。 わたしは彼を心から喜んでいる。」

四

イエス、悪魔に試される

1 それからイエスは、聖霊に導かれて荒野にお出かけになりました。悪魔に試されるためでした。 2 イエスはそこで、まる四十日間、何一つ口にされなかったので、空腹を覚えられました。 3 その時です、悪魔が誘いかけてきたのは。 「どうだい。 ひとつ、ここに転がっている石をパンに変えてみたら？ そうすりゃあ、あんたが神の子だということも一目瞭然だろうが。」

4 しかしイエスは、お答えになりました。 「それは違う。 聖書（旧約）には、『人はただパンだけで生きるのではなく、神の口から出る一つ一つのことばによる』と書いてある。 わたしたちは、神のすべてのことばに従うべきなのです。」

5 それから悪魔は、イエスをエルサレムに連れて行き、神殿の一番高い所に立たせて言いました。 6 「さあ、ここから飛び降りてみろ。 そうすりゃあ、あんたが神の子だということがわかるだろうよ。 聖書（旧約）に、『神は、御使いを送って、あなたを支えさせ、あなたが岩の上に落ちて碎かれることのないように守られる』と、はっきり書いてあるんだから。」

7 イエスは言い返されました。 「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてあるではないですか。」

8 次に悪魔は、非常に高い山の頂上にイエスを連れて行きました。そして、世界の国々とその繁栄ぶりとを見せ、 9 「さあさあ、ひざまずいて、このおれ様を拝みさえすりゃあ、これを全部あんたにやるよ」とそそのかしました。

10 「立ち去れ、サタン！ 『神である主だけを礼拝し、主にだけ従え』と聖書（旧約）に書いてあるではないか。」イエスは悪魔を一喝なさいました。

11 すると、悪魔は退散し、御使いたちが来て、イエスに仕えました。

イエス、教え始める

12 イエスは、ヨハネが捕らえられたと聞くと、ユダヤを去って、ガリラヤのナザレにお帰りになり、13 まもなく、ゼブルンとナフタリに近い、ガリラヤ湖畔のカペナウムに移られました。14 これは、イザヤの預言が実現するためでした。

15 16 「ゼブルンとナフタリの地、海沿いの道、
ヨルダン川の向こう岸、

多くの外国人が住んでいる北ガリラヤ。

そこで暗やみの中にうずくまっていた人たちは、
大きな光を見た。

死の陰の地に座っていた彼らの上に、
光が差した。」

17 その時から、イエスは教えを宣べ伝え始められました。「悔い改めて神に立ち返りなさい。天国が近づいているから。」

18 ある日、イエスが、ガリラヤ湖の岸辺を歩いておられると、シモン〔別名ペテロ〕とアンデレの二人の兄弟が舟に乗り、網で漁をしているのに出会いました。彼らは漁師でした。

19 イエスが、「わたしについて来なさい。人間をとる漁師にしてあげよう」と声をおかけになると、20 二人はすぐに網を捨て、イエスについて行きました。

21 しばらく行ったところで、今度は別の二人の兄弟ヤコブとヨハネが、父のゼベダイといっしょに、舟の中で網を修繕しているのを見つけ、そこでも、ついて来るようにと声をおかけになりました。22 彼らはすぐ仕事をやめ、父をあとに残して、イエスについて行きました。

23 イエスはガリラヤ中を旅して、ユダヤ人の会堂で教え、あらゆる場所で、天国についてのすばらしい知らせを宣べ伝え、さらに、あらゆる種類の病気や病弱を治されました。

24 このイエスの奇蹟の評判は、ガリラヤの外にまで広がったので、シリアのような遠方からも、人々は病人を連れてやって来ました。その病気や痛みがどのようなものであろうと、悪霊に取りつかれた人であれ、てんかんの人であれ、中風の人であれ、一人残らず治るのです。25 こうして、イエスがどこに行かれても、たいへんな数の群衆があとについて行きました。それは、ガリラヤ、デカポリス、エルサレム、ユダヤのあらゆる所から来た人々で、中にはヨルダン川の向こうから来た人もいました。

五

山上の教え

12 ある日、大ぜいの人が集まって来たので、イエスは弟子たちを連れて山に登り、そこに腰をおろして、彼らにお教えになりました。

3 「心の貧しさを知る謙そんな人は幸福です。天国はそういう人に与えられるからです。4 悲しみ嘆いている人は幸福です。そういう人は慰められるからです。5 柔和で高ぶらない人は幸福です。全世界はそういう人のものになるからです。

6 神の前に、正しく良い者になりたいと心から願っている人は幸福です。 そういう人の願いは完全になえられるからです。 7 親切であわれみ深い人は幸福です。 そういう人はあわれみを受けるからです。 8 心のきよい人は幸福です。 そういう人は親しく神とお会いできるからです。 9 平和をつくり出そうとしている人は幸福です。 そういう人は神の子供と呼ばれるからです。 10 正しい者だということで迫害されている人は幸福です。 天国はそういう人のものだからです。

11 わたしの弟子だということで、悪口を言われたり、迫害されたり、ありもしないことを言いふらされたりしたら、なんとすばらしいことでしょう。 12 喜びなさい。 躍り上がって喜びなさい。 天国では、目を見張るようなごほうびが待っているからです。 昔の預言者たちも、そのように迫害されたことを思い出しなさい。

13 あなたがたは、世の塩です。 もしあなたがたが塩けをなくしてしまったら、この世はどうなるでしょう。 あなたがたも、無用のものとして外に捨てられ、人々に踏みつけられてしまうのです。 14 あなたがたは世の光です。 丘の上にある町は、夜になると灯がともり、だれにもよく見えるようになります。 15 16 あなたがたの光を隠してはいけません。 すべての人のために輝かせなさい。 だれにも見えるように、あなたがたの良い行ないを輝かせなさい。 そうすれば、人々がそれを見て、天におられるあなたがたの父を、ほめたたえるようになるのです。

17 誤解してはいけません。 わたしは、モーセの法律や預言者の教え（旧約聖書）を無効にするために来たのではありません。 かえって、それを完成させ、ことごとく実現させるために来たのです。 18 よく言うておきますが、聖書（旧約）にあるどんなおきても、その目的が完全に果たされるまで、無効になることはありません。 19 ですから、どんな小さいおきてでも、破ったり、また人にも破るように教えたりする人は、天国で最も小さい者となります。 しかし、神のおきてを教え、また自分でもそれを実行する人は、天国で偉大な者となります。

20 よく聞きなさい。 パリサイ人や、ユダヤ人の指導者たちは、神のおきてを守っているのは自分たちだと言いはります。 だが、いいですか。 彼ら以上に正しくなければ、あなたがたは天国には入れません。

21 モーセの法律では、『人を殺した者は、死刑に処す』とあります。 22 しかし、わたしはさらにこうつけ加えましょう。 人に腹を立てるなら、たとい相手が自分の家族であつても、裁判にかけられます。 友達をばか呼ばわりするなら裁判所に引っぱり出されます。 友達をのろったりするなら、地獄の火に投げ込まれます。

23 ですから、神殿の祭壇に供え物をしようとしている時、何か友達に恨まれていることを思い出したら、 24 供え物はそのままにして、相手に会ってあやまり、仲直りすることです。 神に供え物をするのはそのあとにきなさい。 25 あなたを告訴する人と、一刻も早く和解しなさい。 裁判所に引っぱって行かれてからでは、間に合いません。 そうなったら、あなたは留置場に放り込まれ、 26 最後の一文を払い終えるまで、出て来

られないでしょう。

27 モーセの法律では、『姦淫してはならない』とあります。 28 しかし、わたしは言いましょう。 だれでも、みだらな思いで女性を見るなら、それだけでもう、心の中では姦淫したことになるのです。 29 ですから、もしあなたの目が情欲を引き起こすなら、その目を〔それが良いほうの目であっても〕えぐり出して捨てなさい。 体の一部を失っても、体全体が地獄に投げ込まれるより、よっぽどましです。 30 また、もしあなたの手が罪を犯させるなら、〔たといきき腕であっても〕そんな手は切り捨てなさい。 地獄に落ちるより、そのほうがどんなにましでしょう。

31 また、モーセの法律では、『離縁状を手渡すだけで、妻を離縁できる』とあります。

32 しかし、わたしは言いましょう。 だれでも、不倫以外の理由で妻を離縁するなら、その婦人が再婚した場合、彼女にも、彼女と結婚する相手にも姦淫の罪を犯させることになるのです。

33 さらに、モーセの法律では、『いったん神に立てた誓いは、破ってはならない。 どんなことがあっても、みな実行しなければならない』とあります。 34 しかし、わたしは言いましょう。 どんな誓いも立ててはいけません。 たとい『天にかけて』と言っても、神に誓うのと同じです。 天は神の王座だからです。 35 『地にかけて』と言ってもいけません。 地は神の足台だからです。 また『エルサレムにかけて』と言って誓ってもいけません。 エルサレムは大王である神の都だからです。 36 『私の頭にかけて』と言って誓ってもいけません。 あなたがたは髪の毛一本さえ白くも黒くもできないからです。 37 ただ『はい、そうします』とか、『いいえ、そうしません』とだけ言いなさい。 それで十分です。 誓いを立てることで約束を信じてもらおうとするのは、悪いことです。

38 モーセの法律では、『人の目をえぐり出した者は、自分の目もえぐり出される。 人の歯を折った者は、自分の歯も折られる』とあります。 39 しかし、わたしはあえて言いましょう。 暴力に暴力で手向かってはいけません。 もし右の頬をなぐられたら、左の頬も向けてやりなさい。 40 借金のかたに下着を取り上げようとする人には、上着もやりなさい。 41 荷物を一キロ先まで運べと命令されたら、二キロ先まで運んでやりなさい。 42 何か下さいと頼む人には与え、借りに来た人を手ぶらで追い返さないようにしなさい。

43 『隣人を愛し、敵を憎め』とは、よく言われることです。 44 しかし、わたしは言いましょう。 敵を愛し、迫害する人のために祈りなさい。 45 それこそ、天の父の子供であるあなたがたに、ふさわしいことです。 天の父は、悪人にも善人にも太陽の光を注ぎ、正しい人にも正しくない人にもわけ隔てなく雨を降らせてくださいます。 46 自分を愛してくれる人だけを愛したからといって、取り立てて自慢できるでしょうか。 ならず者でも、そのくらいのことはしています。 47 気の合う友達とだけ親しくしたところで、ほかの人とどこが違うと言えるでしょう。 神を信じない人でも、そのくらいのことはします。 48 ですから、あなたがたは、天の父が完全であるように、完全でありな

さい。

六

1 人にほめられようと、人前で善行を見せびらかさないようにしなさい。 そんなことをすれば、天の父からごほうびをいただけません。 2 貧しい人にお金や物を恵む時には、偽善者たちのように、そのことを大声で宣伝してはいけません。 彼らは、人目につくように、会堂や街頭で鳴り物入りで慈善行為をします。 いいですか、よく言っておきますが、そういう人たちは、もうそれで、ごほうびはもらったのです。 3 ですから、人に親切にする時は、右手が何をしているか左手でさえ気づかないくらいに、こっそりとしなさい。 4 そうすれば、隠れたことはどんな小さなことでもご存じの天の父から、必ずごほうびがいただけます。

神様に聞かれる祈り

5 ここで、祈りについて注意しておきましょう。 人の見ている大通りや会堂で、さも信心深そうに祈って見せる偽善者のように祈ってはいけません。 よく言っておきますが、そういう人たちは、もうそれで、賞賛を受けてしまったのです。 6 祈る時には、一人で部屋に閉じこもり、父なる神に祈りなさい。 隠れたことはどんな小さなことでもご存じのあなたの父から、必ずごほうびがいただけます。

7 ほんとうの神を知らない人たちのように、同じ文句をくどくど唱えてはいけません。 彼らは、同じ文句をくり返しさえすれば、祈りが聞かれると思っているのです。 8 いいですか。 父なる神は、あなたがたに何が必要かを、あなたがたが祈る前からすでに、ご存じなのです。

9 ですから、こう祈りなさい。

『天におられるお父様。

あなたのきよい御名があがめられますように。

10 あなたの御国がいま来ますように。

天の御国でと同じように、この地上でも、

あなたのみこころが行なわれますように。

11 私たちに必要な日々の食物を、今日もお与えください。

12 私たちの罪をお赦してください。

私たちも、私たちに罪を犯す者を赦しました。

13 私たちを誘惑に会わせないように守り、
悪い者から救い出してください。アーメン。』

14 もしあなたがたが、自分に対して罪を犯した人を赦すなら、天の父も、あなたがたを赦してくださいます。 15 しかし、あなたがたが赦さないなら、天の父も、あなたがたを赦してくださいません。

16 次に、断食についてですが、神のことだけに心を集中したくて断食をする時は、偽善者たちのような、人目につくやり方は避けなさい。 彼らは、やつれた顔をわざと見せつ

け、同情を買おうとします。よく言っておきますが、そういう人たちは、もうそれで、賞賛を受けてしまったのです。 17 断食をする時は、むしろ晴着をまといなさい。 18 そうすれば、だれもあなたが断食をしているとは気づかないでしょう。 しかし、あなたの父は、どんなことでもご存じです。 そして、報いてくださるのです。

19 財産を、この地上にたくわえてはいけません。 地上では、損なわれたり、盗まれたりするからです。 20 財産は天にたくわえなさい。そこでは、価値を失うこともないし、盗まれる心配ありません。 21 あなたの持ち物が天にあるなら、あなたの心もまた天にあるのです。

22 目が澄みきっているなら、あなたのたましいも輝いているはずです。 23 しかし、目が、悪い考えや欲望でくもっているなら、あなたのたましいは暗やみの中にいるのです。その暗やみのなんと深いことか！

24 だれも、神とお金の両方に仕えることはできません。 必ず、どちらか一方を憎んで、他方を愛するからです。

25 ですから、食べ物や飲み物、着物のことで心配してはいけません。今、現に生きている、そのことのほうが、何を食べ、何を着るかということより、ずっと大事です。 26 空の鳥を見なさい。 食べ物の心配をしていますか。 種をまいたり、刈り取ったり、倉庫にため込んだりしていますか。 そんなことをしなくても、天の父は鳥を養っておられるでしょう。 まして、あなたがたは天の父にとって鳥よりはるかに価値があるのです。 27 だいたい、どんなに心配したところで、自分のいのちを一瞬でも延ばすことができますか。

28 また、なぜ着物の心配をするのですか。 野に咲いているゆりの花を見なさい。 着物の心配などしていないでしょう。 29 それなのに、栄華をきわめたソロモンでさえ、この花ほど美しくは着飾っていませんでした。 30 今日は咲いていても、明日は枯れてしまう草花でさえ、神はこれほど心にかけてくださるのです。 だとしたら、あなたがたのことは、なおさらよくしてくださるでしょう。 ああ、全く信仰の薄い人たち。

31 ですから、食べ物や着物のことは、何も心配しなくていいのです。 32 ほんとうの神を信じない人たちのまねをしてはいけません。 彼らは、このような物がたくさんあることを鼻にかけ、そうした物に心を奪われています。 しかし、天の父は、それらがあなたがたに必要なことは、よくご存じです。 33 神を第一とし、神が望まれるとおりの生活をしなさい。 そうすれば、必要なものは、神が与えてくださいます。

34 明日のことを心配するのはやめなさい。 神は明日のことも心にかけてくださるのですから、一日一日を力いっぱい生き抜きなさい。

七

1 人のあら捜しはいけません。 自分もそうされないためです。 2 なぜなら、あなたがたが接するのと同じ態度で、相手も接してくるからです。 3 自分の目に材木を入れたままで、どうして人の目にある、おがくずほどの小さなごみを気にするのですか。 4 材

木が目をふさいで、自分がよく見えないというのに、どうして、『目にごみが入ってるよ。取ってあげよう』などと言うのですか。 5 偽善者よ。 まず自分の目から材木を取り除きなさい。 そうすれば、はっきり見えるようになって、人を助けることができます。

6 聖なるものを犬に与えてはいけません。 真珠を豚にやっけてはいけません。 豚は真珠を踏みつけ、向き直って、あなたがたに突っかかって来るでしょう。

7 求めなさい。 そうすれば与えられます。 捜しなさい。 そうすれば見つかります。 戸をたたきなさい。 そうすれば開けてもらえます。 8 求める人はだれでも与えられ、捜す人はだれでも見つけ出します。 戸をたたきさえすれば開けてもらえるのです。 9 パンをねだる子供に、石ころを与える父親がいるのでしょうか。 10 『魚が食べたい』と言う子供に、毒蛇を与える父親がいるのでしょうか。 いるわけがありません。 11 罪深いあなたがたでさえ、自分の子供には良い物をやりたいと思うのです。 だったらなおのこと、あなたがたの天の父が、求める者に良い物を下さらないことがあるのでしょうか。

12 人からしてほしいと思うことを、そのとおりに、人にもしてあげなさい。 これがモーセの法律の要約です。

天国への道は狭い

13 狭い門を通らなければ、天国に入れません。 人を滅びに導く道は広く、大ぜいの人とその楽な道を進み、広い門から入って行きます。 14 しかし、いのちに至る門は小さく、その道は狭いので、ほんのわずかな人しか見つけることができません。

15 偽教師たちに気をつけなさい。 彼らは羊の毛皮をかぶった狼だから、あなたがたを、ずたずたに引き裂いてしまうでしょう。 16 彼らの行ないを見て、正体を見抜きなさい。 ちょうど、木を見分けるように。 実を見れば、何の木かはっきりわかります。 ぶどうといばら、いちじくとあざみとを見まちがえることなど、ありえません。 17 食べてみれば、どんな木かすぐにわかります。 18 おいしい実をつける木が、まずい実をつけるはずはないし、まずい実をつける木が、おいしい実をつけるはずもありません。 19 まずい実しかつけない木は、結局は切り倒され、焼き捨てられてしまいます。 20 木でも人でも、それを見分けるには、どんな実を結ぶかを見ればよいのです。

21 信心深そうな口をきく人がみな、ほんとうにそうだとはい限りません。 そういう人たちは、わたしに向かって『主よ、主よ』と言うでしょう。 けれども天国に入れるわけではありません。 天におられるわたしの父のみこころに従うかどうかが決めます。 22 最後の審判の時、大ぜいの人々が弁解するでしょう。 『主よ、主よ。 私たちは熱心に伝道しました。 あなたのお名前を使って悪霊を追い出し、すばらしい奇蹟を何度も行なったじゃありませんか。』 23 しかし、わたしはこう宣告します。 『あなたがたのことは知らない。 ここから出て行きなさい！ あなたがたがしたのは悪いことばかりではありませんか。』

24 わたしの教えを聞いて、そのとおりに忠実に実行する人はみな、堅い岩の上に家を建てる賢い人に似ています。 25 大雨が降り、大水が押し寄せ、大風が吹きつけても、そ

の家はびくともしません。土台がしっかりしているからです。

26 反対に、わたしの教えを聞いても、それを無視する人は、砂の上に家を建てる愚かな人に似ています。27 大雨、大水、大風が襲いかかると、その家はあとかたもなく、こわれてしまうからです。」28 群衆は、イエスの教えに目をみはりました。29 どんなユダヤ人の指導者たちとも違い、特別な権威をもってお語りになっていたからです。

八

イエス、病気を治す

1 イエスが山を下られると、大ぜいの群衆がついて来ました。

2 その時です。らい病人が一人、イエスに駆け寄り、足下にひれ伏しました。「先生。お願いですから、私を治してください。お気持ちひとつで、おできになるのですから。」

3 イエスはその男にさわり、「そうしてあげましょう。さあ、よくなりなさい」と言われました。するとたちまち、らい病はあとかたもなくきれいに治ってしまいました。

4 「さあ、道草を食わないで、まっすぐ祭司のところに行き、体を調べてもらいなさい。モーセの法律にあるとおり、らい病が治った時のささげ物をしなさい。完全に治ったことを人々の前で証明するのですよ。」

5 6 イエスが、カペナウムの町に入られると、ローマ軍の隊長がやって来て、「先生。うちの若い召使が体の麻痺で苦しんでおります。とてもひどく、起き上がることもできません。どうか治してやってください。お願いします」としきりに頼みます。

7 「わかりました。では、行って治してあげましょう」とイエスは承知なさいました。

8 ところが、隊長の返事はこうでした。「先生。私には、あなた様を家にお迎えするだけの資格はありません。わざわざご足労いただくかなくても、ただこの場で、『治れ』と言ってくださるだけでけっこうです。そうすれば、召使は必ず治ります。9 と申しますのは、私も上官に仕える身ですが、その私の下にも部下が大ぜいおります。その一人に私が『行け』と言えば行きますし、『来い』と言えば来ます。また奴隷に『あれをやれ。これをやれ』と命じると、そのとおりにします。私にさえそんな権威があるので、先生から、先生の権威で、病気に『出て行け』とお命じになれば、必ず治るはずです。」

10 イエスはたいへん驚き、群衆のほうをふり向いて言われました。「これほど信仰深い人は、イスラエル中でも見たことがありません。11 いいですか、皆さん。やがて、この人のような外国人が大ぜい、世界中からやって来て、天国で、アブラハム、イサク、ヤコブといっしょに席に着くでしょう。12 ところが、天国はもともとイスラエル人のために準備されたのに、たくさんの人が入りそこねて、外の暗やみに放り出され、泣きわめき、もだえ苦しむことになるのです。」

13 それから、ローマ軍の隊長に、「さあ、家に帰りなさい。あなたの信じたとおりのことが起こっています」と言われました。ちょうどその時刻でした。召使の病気が治ったのは。

14 イエスがペテロの家に行かれると、ペテロのしゅうとめが、高熱でうなされていました。 15ところが、イエスがその手におさわりになると、たちまち熱がひき、彼女は起き出して、みんなの食事の仕たくを始めたではありませんか。

16 その夕方のことです。悪霊に取りつかれた人たちが、イエスのところに連れて来られました。イエスが、ただひと言お命じになると、たちまち悪霊どもは逃げ出し、病人はみな治りました。 17こうして、イエスについてイザヤが、「彼は、私たちの病弱を身に引き受け、私たちの病気を背負った」と預言したとおりになったのです。

イエス、嵐を静める

18 イエスは、自分を取り巻く群衆の数がだんだんふくれ上がっていくのに気づき、湖を渡る舟の手配を弟子たちにお命じになりました。

19 ちょうどその時、ユダヤ教の教師の一人が、「先生。 あなた様がどこへ行かれようと、ついてまいります」と申し出ました。

20 しかし、イエスは言われました。「きつねにも穴があり、鳥にも巣があります。 しかし、メシヤ（救い主）のわたしには自分の家はおろか、横になる所也没有ありません。」

21 また、ある弟子は、「先生。 ごいっしょするのは、父の葬式を出してからにしたいのですが」と言いました。

22 けれどもイエスは、「いや、今いっしょに来なさい。 死人のことは、あとに残った者たちに任せておけばいいのです」とお答えになりました。

23 それから、イエスと弟子たちの一行は舟に乗り込み、湖を渡り始めました。 24すると突然、激しい嵐になりました。 舟は今にも、山のような大波にのまれそうです。ところが、イエスはぐっすり眠っておられます。

25 弟子たちはあわてて、イエスを揺り起こし、「主よ。 お助けください。 沈みそうです」と叫びました。

26 ところがイエスは、「なんということでしょう！ それでも神を信じているのですか。 そんなにこわがったりして」と答えられると、ゆっくり立ち上がり、風と波をおしかりになりました。 するとどうでしょう。 嵐はぴたりとやみ、大なぎになったではありませんか。 27弟子たちは恐ろしさのあまり、その場に座り込み、「いやはや、なんというお方だろう。 風や湖までが従うとはなあ！」と、ささやき合いました。

28 やがて、舟は湖の向こう岸に着きました。 ガダラ人の住む地方です。 と、そこに、二人の男がやって来ました。 実はこの二人は悪霊に取りつかれ、墓場をねぐらにしている人たちでした。 何をされるか分かったものではないので、だれもそのあたりに近寄りませんでした。

29 二人は、イエスに大声でわめき立てました。 「やいやい、おれたちをどうしようってんだい。 確かに、お前さんは神の子さ。 だがな、今はまだ、おれたちを苦しめる権利はないはずだぜ。」

30 さて、ずっと向こうのほうでは、豚の群れが放し飼いになっていました。 31そ

こで悪霊どもは、「もし、おれたちを追い出すんだったら、あの豚の群れの中に入れてくれ」と頼みました。

32 イエスは、「よし、出て行け」とお命じになり、悪霊どもは男たちから出て、豚の中に入りました。そのとたん、群れはまっしぐらに走りだし、湖めがけていっせいに、がけを駆け降り、おぼれ死んでしまいました。33びっくりした豚飼いたちが、近くの町に逃げ込み、事の一部始終をふれ回ると、34それこそ町中の人がこぞって押しかけ、これ以上迷惑をかけてもらいたくないから、ここを立ち去ってくれと、イエスに頼みました。

九

医者が必要なのは？

1 それで、イエスは舟に乗り込み、自分の町カペナウムに帰られました。

2 そうこうするうち、数人の人が、中風の男を運んで来ました。それも、身動きできない病人なので、床に寝かせたまま。必ず治していただけると信じていたからです。イエスはこの人たちの信仰を見て、病人に、「さあ、元気を出しなさい。わたしがあなたの罪を赦したのですから」と言われました。

3 「なんて罰あたりなことばだ！ まるで、自分が神だと言っているようなもんじゃないか。」ユダヤ教の指導者のある者は、腹の中が煮えくり返る思いでした。

4 イエスは、彼らの心中を見抜いて、「なぜそんな悪いことを考えているのですか。56この人に『あなたの罪が赦されました』と言うのと、『起きて歩きなさい』と言うのと、どちらがやさしいですか。さあ、わたしに地上で罪を赦す権威があることを証明してみしましょう」と言い、向き直って、中風の男に命令なさいました。「さあ、起きて、床をたたみ、家に帰りなさい。もう治ったのですから。」

7 すると男はとび起き、家に帰って行きました。

8 この有様を目のあたりにした群衆は、恐ろしさのあまり、震え上がりました。そして、このような権威を人間にお与えになった神を、ただただ、ほめたたえるばかりでした。

9 イエスはそこを去り、道を進んで行かれました。途中、マタイという取税人が税金取立所に座っていたので、「来なさい。わたしの弟子になりなさい」と声をおかけになると、マタイはすぐ立ち上がり、あとについて来ました。

10 そのあと、イエスと弟子たちは、マタイの家で夕食をなさることになり、取税人仲間や名うての詐欺師たちも大ぜい招かれました。

11 これを見たパリサイ人たちはかんかんになり、弟子たちに、「あんたがたの先生は、どうしてあんなひどい連中とつき合うんだい」と食ってかかりました。

12 「健康な人には医者はいりません。医者が必要なのは病人です。」イエスはこうお答えになり、13さらにことばを続けられました。「聖書(旧約)に『わたしが喜ぶのは、いけにえやささげ物ではなく、あなたがたがあわれみ深くなることである』とあります。このほんとうの意味を、もう一度学んできなさい。わたしは、自分を正しいと思ってい

る人たちのためにではなく、罪人を神に立ち返らせるために来たのです。」

14 ある日、バプテスマのヨハネの弟子たちがイエスのところに来て、尋ねました。「なぜ、先生のお弟子さんたちは、私たちやパリサイ人のようには断食しないのですか。」

15 するとイエスは、こうお話しになりました。「花婿の友達は、花婿がいっしょにいる間は、嘆き悲しんだり食事をしなかったりするのでしょうか。しかし、やがて花婿のわたしが、彼らから引き離される日が来ます。その時こそ断食するでしょう。」

16 水洗いしていない布で、古い着物に継ぎ当てをする人がいるのでしょうか。そんなことをしたら、当て布は縮んで着物を破り、穴はもっと大きくなるでしょう。17 また、新しいぶどう酒を貯蔵するのに、古い皮袋を使う人がいるのでしょうか。そんなことをしたら、古い皮袋は新しいぶどう酒の圧力で張り裂け、ぶどう酒はこぼれ、どちらも台なしになってしまいます。新しいぶどう酒を貯蔵するには、新しい皮袋を使います。そうすれば両方とも、もつのです。」

18 このように話しておられると、町の会堂管理人が駆け込んで来ました。そしてイエスの前にひれ伏し、「先生。うちの娘がたったいま息を引き取りました。まだ幼いのに……。お願いします。あの子を生き返らせてください。ちょっと来て、さわっていただければいいのですから」と訴えました。

19 そこでイエスと弟子たちは、彼の家へ向かわれました。20 その途中、十二年間も出血の止まらない病気で苦しんでいた一人の女が、人ごみにまぎれて、うしろからイエスの着物のふさにさわりました。21 「このお方にさわれば、きっと治る」と思ったからです。

22 イエスはふり向き、女に声をおかけになりました。「さあ、勇気を出しなさい。あなたの信仰があなたを治したのですよ。」この瞬間から、女はすっかりよくなりました。

23 さて、管理人の家に着くと、人々でごった返し、葬式の音楽が聞こえてきます。24 そこでイエスは、「さあ、この人たちを外に出しなさい。娘さんは死んではいません。ただ眠っているだけなのですから」とお命じになりました。それを聞くと、みんなはイエスをばかにし、あざ笑いました。

25 人々がみな出て行くと、イエスは少女の寝ている部屋にお入りになり、その手をお取りになりました。するとどうでしょう。少女はすぐに起き上がり、もとどおり元気になったではありませんか。26 すばらしい奇蹟です！このうわさは、たちまち辺り一円に広まりました。

27 イエスが少女の家をあとにされると、二人の盲人が、「ダビデ王の子よ！あわれな私たちをお助けください」と叫びながらついて来ました。

28 そしてついに、イエスが泊まっておられる家にまで入り込んで来ました。イエスが「わたしがほんとうに目を開けることができますと思いますか」とお尋ねになると、彼らは、「はい、もちろんです」と答えました。

29 そこでイエスは、二人の目におさわりになり、「あなたがたの信じるとおりになりな

さい」と言われました。

30 すると、彼らの目が見えるようになったのです！ 「このことをだれにも話してはいけませんよ」と、イエスはきびしくお命じになりましたが、 31 それでも、彼らは、イエスのことを町中にふれ回りました。

32 この人たちと入れ替わりに、悪霊に取りつかれてものが言えなくなった男が、連れて来られました。 33 イエスが悪霊を追い出されると、その人はすぐに口をきき始めたので、みんなは驚きあきれ、「こんなこと、今まで見たことがあるかい」と大声で言い合いました。

34 しかし、パリサイ人たちは、「あいつは、悪霊の王ベルゼブル（サタン）に取りつかれているんだ。それで悪霊どもを簡単に追い出せるのさ」と言いはりました。

助けを求める人は多い

35 イエスは、その地方の町や村をくまなく巡回され、ユダヤ人の会堂で教え、御国についてのすばらしい知らせをお伝えになりました。また、行く先々で、あらゆる病人を治されました。 36 このように、ご自分のところにやって来る群衆をごらんになると、イエスの心は、深く痛みました。 彼らは、かかえている問題が非常に大きいのに、どうしたらよいか、どこへ助けを求めたらよいか、まるでわからないのです。 ちょうど、羊飼いのいない羊のように。

37 イエスは弟子たちに言われました。 「収穫はたくさんあるのに、働く人があまりにも少ないのです。 38 ですから、収穫の主である神に祈りなさい。 刈り入れの場にもっと多くの働き手を送ってくださるようお願いのです。」

一〇

1 イエスは、十二人の弟子たちをそばに呼び寄せられ、彼らに、汚れた霊を追い出し、あらゆる病氣、病弱を治す権威をお与えになりました。

2 - 4 その十二人の名前は次のとおりです。

シモン〔別名ペテロ〕、

アンデレ〔ペテロの兄弟〕、

ヤコブ〔ゼベダイの息子〕、

ヨハネ〔ヤコブの兄弟〕、

ピリポ、

バルトロマイ、

トマス、

マタイ〔取税人〕、

ヤコブ〔アルパヨの息子〕、

タダイ、

シモン〔「熱心党」という急進派グループのメンバー〕、

イスカリオテのユダ〔後にイエスを裏切った男〕。

伝道の心がまえ

5 イエスは、次のような指示をお与えになり、弟子たちを派遣なさいました。「外国人やサマリヤ人のところに行ってははいけません。 6 イスラエル人のところにだけ行きなさい。この人たちは神のおりから迷い出た羊です。 7 彼らのところに行って、『天国は近づいた』と伝えなさい。 8 病人を治し、死人を生き返らせ、らい病人を治し、悪霊を追い出しなさい。ただで受けたのだから、ただで与えなさい。

9 お金は、たとわずかでも、持って行ってはいけません。 10 旅行袋に、着替えの服や、くつ、それに杖も。そういうものは、あなたがたが助けてあげる人たちから、世話してもらいなさい。それが当然のことです。 11 どんな町や村に入っても、神を敬う人を見つけ、次の町へ行くまで、その家に泊まりなさい。 12 泊めてもらう時は、心から頼み、その家の祝福を祈りなさい。 13 もし、神を敬う家庭なら、その家は必ず祝福されるし、そうでなければ、祝福されないでしょう。 14 あなたがたを受け入れない町や家があったら、そこを立ち去る時、足からその場所のちりを払い落としなさい。 15 よく言っておきますが、さばきの日には、あの邪悪なソドムとゴモラの町のほうが、その町よりまだ罰が軽いのです。

16 いいですか。あなたがたを派遣するのは、いわば、羊を狼の群れの中へ送るようなものです。ですから、用心深さの点では蛇のように、純真さの点では鳩のようになりなさい。 17 気をつけなさい。あなたがたは捕らえられて、裁判にかけられ、会堂でむち打たれるからです。 18 わたしのために、総督や王たちの前で取り調べられることもあります。その時こそ、わたしのことを彼らに知らせ、さらに世間の人々に証言するチャンスです。

19 逮捕されたら、取り調べの際、どう釈明しようかなどと心配してはいけません。その時その時に適切なことばが語れるからです。 20 釈明するのは、あなたがたではありません。あなたがたの天の父の御霊が、あなたがたの口を通して語ってくださるのです。

21 兄弟が兄弟を裏切って殺し、親も子を裏切るようになります。そして子は親に反抗し、親を殺します。 22 わたしの弟子だというので、あなたがたはすべての人に憎まれます。けれども、最後までじっと耐え忍ぶ者はみな救われるのです。

23 一つの町で迫害されたら、次の町に逃げなさい。あなたがたがイスラエルの町を全部めぐり終えないうちに、わたしは戻って来るからです。 24 生徒は先生より偉くはなく、使用人は主人より上ではありません。 25 生徒は先生と運命を共にし、使用人は主人と運命を共にします。主人のわたしが、ベルゼブル（サタン）と呼ばれるくらいなのだから、ましてあなたがたは、どんなひどいことを言われるか……。 26 しかし、脅迫する者たちを恐れてはいけません。やがてほんとうのことが明らかになり、彼らがひそかに巡らした陰謀は、すべての人に知れ渡るからです。

27 わたしが今、暗やみで語ることを、夜明けになったら、大声でふれ回りなさい。わたしがあなたがたの耳にささやいたことを、屋上から言い広めなさい。

28 体だけは殺せても、たましいには指一本ふれることもできないような人々を、恐れ
てはいけません。 たましいも体も地獄に落とすことのできる神だけを恐れなさい。 2
9 たった一羽の雀〔二羽で五十円にしかない雀〕でさえ、あなたがたの天の父が知ら
ないうちに、地に落ちることはありません。 30 あなたがたの髪の毛さえ一本残らず数
えられています。 31 ですから、心配しなくてもいいのです。 あなたがたは、神にと
って、雀などより、ずっと大切なものではありませんか。

32 もしあなたがたが、だれの前でも、『私はイエスの友達だ』と認めるなら、わたしも、
天の父の前で、あなたがたをわたしの友だとはっきり認めましょう。 33 しかし、もし
人々の前で、『イエスなんか知るもんか』と言うなら、わたしもまた、天の父の前で、あな
たがたを知らない、と、はっきり言いましょう。

34 わたしが来たのは、地上を平和にするためだ、などと誤解してはいけません。 平
和ではなく、むしろ争いを引き起こすために来たのです。 35 そうです。 息子を父親
に、娘を母親に、嫁をしゅうとめに逆らわせるためです。 36 家族の者さえ最悪の敵と
なる場合があるのです。 37 わたし以上に父や母を愛する者は、わたしを信じる者にふ
さわしくありません。 また、わたしよりも息子や娘を愛する者は、わたしを信じる者に
ふさわしくありません。 38 さらに、自分の十字架を背負ってわたしに従って来ない者
は、わたしを信じる者にふさわしくありません。

39 自分のいのちを一生懸命守ろうとする者は、それを失いますが、わたしのためにい
のちを投げ出す者は、ほんとうの意味でそれを自分のものとします。

40 あなたがたを受け入れる人は、わたしを受け入れるのです。 わたしを受け入れる
人は、わたしをお遣わしになった神を受け入れていることになります。 41 もし預言者
を、神から遣わされた預言者だというので受け入れるなら、預言者と同じごほうびを受け
るでしょう。 また、神を敬う正しい人たちを、彼らが神を敬うというので受け入れるな
ら、彼らと同じごほうびを受けます。

42 また、この小さい者のひとりに、わたしに代わって冷たい水一杯でも与えるなら、
よく言っておきますが、その人は必ずごほうびを受けるのです。」

――

1 イエスは、十二人の弟子たちに、このような指示を与えると、ご自分も教えを宣べ伝
えるために、彼らが行くことになっていた町々へお出かけになりました。

ヨハネとイエスの違い

2 さて、そのころ牢獄にいたバプテスマのヨハネは、キリストがさまざまな奇蹟を行な
っておられることを聞きました。 そこで、弟子たちをイエスのもとに送り、 3 「あな
た様は、ほんとうに、私たちの待ち続けてきたお方ですか。 それとも、まだ別の方を待
たなければならないのでしょうか」と尋ねさせました。

4 イエスは答えて言われました。 「ヨハネのところに帰り、わたしの行なっている奇
蹟について、見たままを話してあげなさい。 5 盲人は見えるようになり、足の立たなか

った者が今は自分で歩けるようになり、らい病人が治り、耳の聞こえなかった人も聞こえ、死人が生き返り、そして、貧しい人々がわたしのすばらしい知らせを聞いていることなどを。 6それから、こう伝えるのです。 『わたしを疑わない人は幸福です。』

7 ヨハネの弟子たちが帰ってしまうと、イエスは群衆に、ヨハネのことを話し始められました。 「あなたがたはヨハネに会おうと荒野へ出かけて行った時、彼をどんな人物だと考えていましたか。 風にそよぐ葦のような人だとでも思っていたのですか。 8それとも、宮殿に住む王子のように、きらびやかに着飾った人に会えるとでも思ったのですか。 9あるいは、神の預言者に会えると期待していたのですか。 そのとおり、彼は預言者です。 いや、それ以上の者です。 10彼こそ、聖書（旧約）の中で、『見よ。 わたしはあなたより先に使者を送る。 その使者は、人々にあなたを迎え入れる準備をさせる』と言われている、その人です。

11 よく言うておきます。 今までに生まれた人の中で、バプテスマのヨハネほどすぐれた働きをした人物はいません。 しかし、天国で一番小さい者でも、ヨハネよりはずっと偉大なのです。 12ヨハネが教えを宣べ伝え、バプテスマ（洗礼）を授け始めてから現在まで、大ぜいの熱心な人々が、天国を目指して押し寄せました。 13すべての律法と預言者（旧約聖書）とは、メシヤ（救い主）を待ち望んできたからです。 そして、ヨハネが現われました。 14ですから、わたしの言うことを喜んで理解しようとする人なら、ヨハネこそ、天国が来る前に現われると言われていた、あの預言者、エリヤだとわかるでしょう。 15さあ、聞く耳のある人は、聞きなさい。

16 あなたがたイスラエル人のことを、何と云えばいいでしょう。 まるで小さな子供のようです。 あなたがたは友達同士で遊びながら、こう責めているのです。 17『結婚式ごっこをして遊ぼうって言ったのに、ちっともうれしがってくれなかったよ。 だから葬式ごっこにしたのに、今度は悲しがってくれないじゃないか。』 18つまり、バプテスマのヨハネが酒も飲まず、また何度も断食していると、『やつは気が変になっている』とけなし、 19メシヤのわたしが、ごちそうを食べていると、『大食いの大酒飲み、最もたちの悪い罪人の仲間だ』とののしります。 もっとも、賢いあなたがたのことですから、うまくつじつまを合わせるでしょうが、知恵が正しいかどうかは、行ないによって証明されるのです。」

わたしのところに来なさい

20 それからイエスは、多くの奇蹟を目のあたりに見ながら、それでも、神に立ち返ろうとしなかった町々をお責めになりました。

21 「ああ、コラジンよ。 ああ、ベツサイダよ。 わたしが、あなたがたの街頭で行なったような奇蹟を、あの邪悪な町ツロやシドンで見せたなら、そこの人々は、とうの昔に、恥じ入り、へりくだって悔い改めていたでしょうに。 22いいですか、さばきの日には、ツロとシドン（悪行のため、神に滅ぼされた町の名）のほうが、あなたがたより、まだましなものとされるのです。 23ああ、カペナウムよ。 大きな名誉を受けたあな

たも、地獄にまで突き落とされるのです。 あなたのところでしたすばらしい奇蹟を、もしあのソドム（悪行のため、神に滅ぼされた町の名）で見せたなら、ソドムは滅ぼされずにすんだでしょうに。 24 いいですか、さばきの日には、ソドムのほうがあなたより、まだましなものとされるのです。」

25 そして、こう祈られました。「ああ、天地の主である父よ。自分を賢いとうめばれる者たちには、あなたの真理を隠し、それを小さな子供たちに示してくださって、ありがとうございます。 26 父よ。これが、お心にかなったことでした。

27 あなたは、すべてのことを、わたしに任せてくださいました。わたしを知っておられるのは、父であるあなただけですし、あなたを知っているのは、子であるわたしと、わたしが教える人たちだけです。 28 重いくびきを負って働かされ、疲れはてている人たちよ。さあ、わたしのところに来なさい。あなたがたを休ませてあげましょう。 29 わたしはやさしく、謙そんな者ですから、それこそ負いやすいわたしのくびきを、わたしといっしょに負って、わたしの教えを受けなさい。そうすれば、あなたがたのたましいは安らかになります。 30 わたしが与えるのは、軽い荷物だけだからです。」

一二

安息日をも支配するイエス

1 そのころのことです。イエスは弟子たちといっしょに、麦畑の中を歩いておられました。ちょうど、ユダヤの礼拝日にあたる安息日でしたが、お腹がすいた弟子たちは、麦の穂を摘み取って食べ始めました。

2 ところが、それを見た、あるパリサイ人たちが抗議しました。「お弟子さんたちが、おきてを破ってますよ。安息日に刈り入れをするなど、もってのほかだ。」

3 しかし、イエスは言われました。「ダビデ王とその家来たちが空腹になった時、どんなことをしたか、聖書（旧約）で読んだことがないのですか。 4 ダビデ王は神殿に入り、祭司しか食べられない供え物のパンを、みんなで食べたではないですか。王でさえ、おきてを破ったわけです。 5 また、神殿で奉仕をする祭司は、安息日に働いてもよい、と聖書に書いてあるのを、読んだことがないのですか。 6 ことわっておきますが、このわたしは、神殿よりもずっと偉大なのです。 7 もしあなたがたが、『わたしは供え物を受けるより、あなたがたにあわれみ深くなってほしいのです』という聖書のことばをよく理解していたら、罪もない人たちを、とがめたりはしなかったはずです。 8 安息日といえども、天から来たわたしの支配下にあるのですから。」

9 このあとで、イエスは会堂にお入りになりました。 10 ふとごらんになると、そこに、片手の不自由な男がいます。これ幸いとばかり、パリサイ人たちは、「安息日に病気を治してやっても、おきてに違反しないでしょうか」と尋ねました。それは、イエスがきっと「さしつかえない」と答えるだろうから、そうしたら逮捕しよう、という計略でした。 11 ところが、イエスの答えは違いました。「あなたがたが、羊を一匹飼っていたとします。ところが、その羊が安息日に井戸に落ちてしまった。さあ、どうします

か。もちろん、すぐに助けてあげるでしょう。 1 2 人間の値打は、羊などとは、比べものになりません。 だから、安息日に良いことをするのは、正しいことなのです。」 1 3 それからイエスは、片手の不自由な男に、「手を伸ばしなさい」と言われ、彼がそのとおりにすると、手はすっかりよくなりました。

1 4 そこでパリサイ人たちは、どうにかしてイエスを逮捕し死刑にしようと、集まって陰謀を巡らしました。 1 5 しかし、それに気づいたイエスは、いち早く会堂を抜け出されました。すると、大ぜいの人がついて来たので、その中の病人をみな治されました。

1 6 そして彼らに、この奇蹟のうわさを言い広めないようにと、くれぐれも注意なさいました。 1 7 こうして、イザヤの預言のとおりになったのです。

1 8 「わたしのしもべを見よ。

彼こそわたしの選んだ者。

わたしが喜ぶ、わたしの愛する者。

わたしは彼の上にわたしの霊を置き、

彼は国々をさばく。

1 9 彼は争わず、

叫ぶことも大声をあげることもない。

2 0 弱い者を踏み倒さず、

どんな小さな望みの火も消さない。

彼は最後の勝利を飾り、

あらゆる争いに終止符を打つ。

2 1 彼の名こそ、全世界の希望となる。」

2 2 その時、悪霊に取りつかれて、目も見えず、口もきけない人が連れて来られたので、イエスは彼の目を開け、口もきけるようになさいました。 2 3 これを見た人々は驚き、「やっぱり、この人がメシヤ（救い主）ではないだろうか」と言い合いました。

2 4 しかし、このことを耳にしたパリサイ人たちは、「イエスが悪霊を追い出せるのは、自分が悪霊の王ベルゼブル（サタン）だからさ」とうそぶきました。

2 5 イエスは彼らの考えを見抜き、こう言われました。「内紛の絶えない国は、結局滅びます。町でも、家庭でも、分裂しては長続きしません。 2 6 もしサタンがサタンを追い出すなら、自分で自分と戦い、自分の国を破壊することになるのです。 2 7 わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出していると言うが、あなたがたの仲間も、悪霊を追い出しているではありませんか。彼らは、いったい何の力で追い出しているのですか。あなたがたの非難があたっているかどうか、彼らに答えてもらいましょう。 2 8 ところで、もしわたしが神の霊によって悪霊を追い出しているとしたら、どうでしょう。神の国はもう、あなたがたのところに来ているのです。 2 9 強い者の家に押し入って、物を盗み出すには、まず、その強い者を縛り上げなければなりません。悪霊も同じことです。まずサタンを縛り上げなければ、悪霊を追い出せるわけがありません。 3 0 わたしに味

方しない者はだれでもみな、わたしの敵なのです。

3132 だから、あなたがたに言うておきます。 どんなにわたしを悪く言おうと、またどんな罪を犯そうと、神は赦してくださいます。 ただ一つ、聖霊を汚すことだけは例外です。 この罪ばかりは、いつの世でも絶対に赦されることはありません。

33 木の良し悪しは、実で見分けます。 良い品種は良い実をつけ、劣った品種は悪い実をつけるものです。 34 ああ、まむしの子らよ。 あなたがたのような悪者の口から、どうして正しい、良いことばが出てくるでしょう。 人の心の思いが、そのまま口から出てくるのですから。 35 良い人のことばを聞けば、その人の心の中にすばらしい宝が

たくわえられていることがわかります。 しかし、悪い人の心の中は悪意でいっぱいです。 36 言うておきますが、やがてさばきの日には、あなたがたは今まで口にしたむだ口を、一つ一つ釈明しなければならないのです。 37 いま口にすることばしだいで、あなたがたの将来は決まります。 自分のことばによって、正しい者と認められるか、あるいは有罪を宣告されるか、そのどちらかになるのです。」

証拠を求める人々

38 ある日、ユダヤ人の指導者とパリサイ人のうちの何人かがやって来て、ほんとうにメシヤ（救い主）なら、その証拠に奇蹟を見せてほしいと頼みました。

39 しかしイエスは、お答えになりました。 「悪と不信の時代に生きる人々だけが、証拠を要求するのです。 けれども、預言者ヨナに起こったこと以外は、何の証拠も与えられません。 40 つまり、ヨナが三日三晩大きな魚の腹の中で過ごしたように、メシヤのわたしも、三日三晩、地の中で過ごすからです。 41 さばきの日には、あのニネベの人々が、あなたがたをきびしく罰する側に立つでしょう。 ニネベの人々はヨナの教えを聞いて、それまでの墮落した生活を悔い改め、神に立ち返ったからです。 ところが、今ここに、ヨナとは比べものにならないほど偉大な者が立っているのに、あなたがたはその人を信じようとしません。 42 シェバの女王でさえ、あなたがたをきびしく罰する側に回るでしょう。 彼女は、ソロモンから知恵のことばを聞こうと、あれほど遠い国から旅して来ることも、いとわなかったからです。 ここに、そのソロモンより、もっと偉大な者がいるのに、あなたがたは信じようとしません。」

43 この邪悪な時代に生きる人たちは、ちょうど悪霊に取りつかれた人のようです。 せっかく、その人から悪霊が出て行っても、しばらくの間、悪霊は別の住みかを求めて荒野をあちこち歩き回るだけです。 結局、適当な場所が見つからないので、 44 『もとの家に帰ろう』と帰ってみると、その人の心はきれいに片づけてあり、しかも空っぽです。 45 そこで、しめたとばかり、もっとたちの悪い七つの霊を連れ込んで、住みついてしまうというわけです。 こうなると、その人の状態は以前より、はるかに悲惨なものとなります。」

46 イエスが人々のひしめき合う家の中で話しておられた時、母と弟たちがやって来ました。 イエスと話がしたかったからです。 47 だれかが、「先生。 お母様と弟さんた

ちがお見えですよ」と知らせると、 48 イエスは、みんなを見回して、「わたしの母や兄弟とは、いったいだれのことですか」と言われました。 49 そして弟子たちを指さし、「ごらんなさい。 この人たちこそわたしの母であり兄弟です。 50 天におられるわたしの父に従う人はだれでも、わたしの母であり、兄弟であり、姉妹なのです」と言われました。

一三

天国のたとえ話

1 その日のうちに、イエスは家を出て、湖の岸边に降りて行かれました。 23 ところがそこも、またたく間に群衆でいっぱいになったので、小舟に乗り込み、舟の上から、岸边に座っている群衆に、多くのたとえを使って教えを語られました。

「農夫が畑で種まきをしていました。 4 まいているうちに、ある種が道ばたに落ちました。すると、鳥が来て、食べてしまいました。 5 また、土の浅い石地に落ちた種もありました。それはすぐに芽を出したのですが、 6 土が浅すぎて、十分根を張ることができません。やがて日が照りつけると枯れてしまいました。 7 ほかに、いばらの中に落ちた種もありましたが、いばらが茂って、結局、生長できませんでした。 8 しかし、中には、耕された良い地に落ちた種もありました。そして、まいた種の三十倍、六十倍、いや百倍もの実を結びました。 9 聞く耳のある人はよく聞きなさい。」

10 その時、弟子たちが近寄って来て、尋ねました。「どうして、人々にはいつも、このようなたとえでお話しになるのですか。」

11 「あなたがたには天国を理解することが許されていますが、ほかの人たちはそうではないからです。」イエスはこうお答えになり、 12 さらに続けて説明なさいました。

「つまり、持っている者はますます多くの物を持つようになり、持たない者はわずかな持ち物さえ取り上げられてしまいます。 13 だから、たとえを使って話すのです。彼らは、いくら見ても聞いても、少しも理解しようとしません。

14 こうして、イザヤの預言のとおりになりました。

『彼らは、聞くには聞くが理解しない。

見るには見るが認めない。

15 その心は肥えて鈍くなり、

その耳は遠く、その目は閉じられている。

彼らは見もせず、聞きもせず、理解もせず、

神に立ち返って、わたしにいやされることがない。』

16 しかし、あなたがたの目は見えているから幸いです。 また、あなたがたの耳は聞いているから幸いです。 17 よく言っておきますが、多くの預言者や神を敬う人たちが、今あなたがたの見聞きしていることを、見たい、聞きたいと、どんなに願ったことでしょう。しかし、残念ながらできなかったのです。

18 さて、さっきの種まきのたとえ話を説明しましょう。 19 最初の道ばたというの

は、踏み固められた堅い土のことで、御国についてのすばらしい知らせを耳にしながら、それを理解しようとしないう人の心を表わしています。　こういう人だと、悪魔がさっそくやって来て、その心から、まかれた種を奪い取っていくのです。　20次に、土が浅く、石ころの多い地というのは、教えを聞いた当座は大喜びで受け入れる人の心を表わしています。　21ところが、その人の生活には深みがないので、このすばらしい教えも、心の中に深く根をおろすことができません。　ですから、しばらくして信仰上の問題が起こったり、迫害が始まったりすると、熱がさめ、いとも簡単に落後してしまうのです。　22また、いばらの生い茂った地というのは、神のことばを聞いても、生活の苦労や金銭欲などがそれをふさいでしまい、しだいに神から離れていく人のことです。　23最後に、良い地というのは、神のことばに耳を傾け、それを理解する人の心のことです。　このような人こそ、出かけて行って、三十倍、六十倍、いや百倍もの人を天国に連れて来ることができるのです。」

24　イエスは、別のたとえ話もなさいました。　「天国は、自分の畑に良い種をまく農夫のようなものです。　25ところがある晩、農夫が眠っているうちに敵が来て、麦の中に毒麦の種をまいていきました。　26麦が育つと、毒麦もいっしょに伸びだしたではありませんか。

27　使用人は主人のところに駆けつけ、このことを報告しました。『だんな様、大変でございます！　極上の種をまいた畑が、なんと毒麦でいっぱいになっています。』

28　『敵のしわざだな。』主人はすぐに真相を見抜きました。　使用人たちが、『毒麦を引き抜きましようか』と尋ねると、　29主人は、『いや、だめだ。　そんなことをしたら、麦まで引き抜いてしまうだろう。　30収穫の時まで、放っておけ。　その時がきたら、まず毒麦だけを束ねて燃やし、あとで麦はきちんと倉庫に納めさせればいいから』と答えました。」

31　また、こんなたとえ話もあります。　「天国は、畑にまいたからしの種みたいです。

32それはどんな種よりも小粒ですが、生長すると大きな木になり、鳥が巣を作れるほどになります。」

33　またさらに、こんなたとえ話もあります。　「天国は、女の人がパンを焼くのにも似ています。　小麦粉に、ほんの少しのイースト菌を入れるだけで、パン生地全体がふくらんできます。」

34　35群衆に話をする時は、イエスはいつも、このようなたとえ話をなさいました。　それは、預言者によって言われたことが実現するためでした。　「わたしはたとえを使って語り、世の初めから隠されている秘密を説き明かそう。」　36こうして、イエスが群衆と別れ、家に入られると、弟子たちは、さっきの毒麦のたとえの意味を説明してくださいと頼みました。

37　イエスは、お答えになりました。　「いいでしょう。　良い麦の種をまく農夫とは、わたしです。　38畑とはこの世界、良い麦の種というのは天国に属する人々、毒麦とは

悪魔に属する人々のことです。 39 畑に毒麦の種をまいた者とは悪魔であり、収穫の時とはこの世の終わり、刈り入れをする人とは御使いたちのことです。

40 この話では、毒麦がより分けられ、焼かれますが、この世の終わりにも、同じようなことが起こります。 41 わたしは御使いを送って、人をそそのかす者や悪人たちをより分け、 42 炉に投げ込んで燃やしてしまいます。悪人たちは、そこで泣きわめき、歯ぎしりしてくやしがるのです。 43 その時、正しい人たちは、父の御国で太陽のように輝きます。聞く耳のある人は、よく聞きなさい。

44 天国は、ある人が畑の中で見つけた宝のようなものです。見つけた人は、もう大喜びで、だれにも知らせず、全財産をはたいてその畑を買い、宝を手に入れるに違いありません。

45 また天国は、良質の真珠を捜している宝石商のようなものです。 46 彼は掘り出し物の真珠を見つけると、持ち物全部を売り払ってでも、それを手に入れようとするのです。

47 48 また天国は、漁師にたとえることもできます。漁師は、いろいろな魚でいっぱいになった網を引き上げると、岸边に座り込んで網の中の魚をより分けます。食べられるものはかごに入れて、食べられないものは捨てるというふうに。 49 この世の終わりにも、同じようなことが起こります。御使いがやって来て、正しい者と悪い者とを区別し、 50 悪い者を火に投げ込むのです。彼らはそこで泣きわめき、歯ぎしりしてくやしがります。 51 これで、わかりましたね。」

「はい。」

52 そこでイエスは、さらにこう言われました。「ユダヤ人のおきてに通じ、しかも、わたしの弟子でもある人たちは、古くからある聖書（旧約）の宝と、私が与える新しい宝と、二つの宝を持つことになるのです。」

故郷の町ナザレでのイエス

53 54 この一連のたとえ話を語り終えられると、イエスはガリラヤのナザレにお帰りになり、町の会堂で教えられました。ところが、人々はみなイエスの知恵とその不思議な力に驚いてしまいました。「なんてこった。 55 たかが大工のせがれじゃないか。あれの母親はマリヤだし、弟のヤコブも、ヨセフも、シモンも、ユダも、 56 妹たちも、よく知っているぞ。みんな、ここに住んでるんだから。なのに、あのイエスが偉いなんてはずはないじゃないか。」 57 人々は、かえってイエスに反感を持つようになりました。

「預言者はどこでもでも尊敬されますが、ただ自分の故郷、身内の者の間では尊敬されないものです。」イエスはこう言われました。 58 このような人々の不信仰のために、そこでは、ほんのわずかの奇蹟を行なわれたただけでした。

一四

殺されたヨハネ

1 そのころ、イエスのうわさを聞いたヘロデ王は、家来たちに言いました。 2 「あれはバプテスマのヨハネだ。 ヨハネが生き返ったに違いない。 そうでなきゃ、こんな奇蹟はできるわけがない。」 3 実はこのヘロデは以前、兄のピリポの妻であったヘロデヤにそそのかされてヨハネを捕らえ、牢獄につないだ張本人でした。 4 それは、ヨハネが、兄嫁を横取りするのはよくないと忠告したからです。 5 その時ヘロデは、ヨハネを殺そうとも考えましたが、それでは暴動が起きる恐れがあったので、思いとどまりました。人々はみな、ヨハネを預言者だと信じて疑わなかったからです。

6 ところが、ヘロデの誕生祝いのパーティーが開かれた席で、ヘロデヤの娘が、みごとな舞を披露し、ヘロデをたいそう喜ばせました。 7 それで王は娘に、「ほしいものを、何でも言うがよい。 必ず与えよう」と誓いました。 8 ところがヘロデヤに入れ知恵された娘は、なんと、バプテスマのヨハネの首を盆に載せていただきたいと願い出たのです。 9 王は心を痛めましたが、自分が誓ったことでもあり、また並み居る客の手前もあって、引っ込みがつかません。 しかたなく、それを彼女に与えるように命令しました。

10 こうしてヨハネは、獄中で首を切られ、 11 その首は盆に載せられ、約束どおり娘に与えられました。 娘はそれを母親のところに持って行きました。

12 ヨハネの弟子たちは死体を引き取って埋葬し、この悲惨な出来事をイエスに知らせました。

13 この知らせを聞くと、イエスは一人、舟をこぎ出し、人里離れた所へ行こうとなさいました。 ところが、大ぜいの群衆がそれと気づき、町々村々から、岸づたいにイエスのあとを追って行きました。

五つのパンと二匹の魚

14 舟から上がられたイエスは、大ぜいの群衆をごらんになり、あわれに思って、病人たちをみな治されました。

15 夕方になったので、弟子たちはイエスのところに来て、「先生。もうとつくに夕食の時間も過ぎてますよ。 こんな寂しい所じゃ、食べ物もないし、みんなを解散してはどうでしょう。 村へ行けば、めいめいで食べる物を買えますから」と勧めました。

16 しかし、イエスはお答えになりました。 「それにはおよびません。 あなたがたが、みんなに食べる物をあげなさい。」

17 弟子たちは驚いて叫びました。 「何ですって！ 先生、いま手もとには、小さなパンが五つと、魚が二匹あるだけなんですよ。」

18 ところがイエスは、「そのパンと魚とを持って来なさい」と言われました。

19 それから、群衆を草の上に座らせると、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて神の祝福を祈り求め、パンをちぎって、弟子たちに配らせました。 20 こうして、みんなが食べ、満腹したのです。 あとで、パンくずを拾い集めると、なんと十二のかごに、いっぱいになったではありませんか。 21 そこには、女や子供を除いて、男だけでも千人ぐらいの人がいたというのに。 22 このあとすぐ、イエスは弟子たちを舟に乗り込

ませて、向こう岸に向かわせ、また、群衆にも解散するよう説得なさいました。

23 みんなをお帰しになったあと、ただお一人になったイエスは、祈るために丘に登って行かれました。 24 一方、湖上では、夕やみが迫り、弟子たちは強い向かい風と大波に悩まされていました。

25 朝の四時ごろ、イエスが水の上を歩いて、弟子たちのところに行かれると、 26 弟子たちは、悲鳴をあげました。 てっきり幽霊だと思ったからです。

27 しかし、すぐにイエスが、「わたしです。 こわがらなくてもよいのです」と声をおかけになったので、彼らはほっと胸をなでおろしました。

28 その時です。 ペテロが叫びました。 「先生。 もしほんとうにあなた様だったら、わたしに、水の上を歩いてここまで来い、とおっしゃってください。」

29 「いいでしょう。 来なさい。」 言われるままに、ペテロは舟べりをまたいで、水の上を歩き始めました。 30 ところが、高波を見てこわくなり、沈みかけたので、大声で、「助けてくれ一つ」と叫びました。

31 イエスはすぐに手を差し出してペテロを助け、「ああ、信仰の薄い人よ。 なぜわたしを疑うのですか」と言われました。 32 二人が舟に乗り込むと、すぐに風はやみました。

33 舟の中にいた者たちはみな厳粛な思いに打たれ、「あなた様はほんとうに神の子です」と告白しました。

34 やがて、舟はゲネサレに着きました。 35 イエスが来られたという知らせはたちまち町中に広まり、人々がどっと押しかけました。 互いに誘い合い、病人という病人をみな連れてきて、 36 イエスに頼みました。 「せめてお着物のすそにでもさわらせてやってください。」 さわった人たちはみな治りました。

一五

規則より大切なもの

1 パリサイ人やユダヤ人の指導者たちが、イエスに会いに、はるばるエルサレムからやって来ました。 2 彼らは、「どうしてあんたの弟子たちは、ご先祖様の言い伝えを守らないのか。 食事の前に手を洗わないとは、けしからん」と問い詰めました。

3 そこでイエスは、こう言われました。 「それならお聞きします。 あなたがたも自分たちの言い伝えのために、神のおきてを破っていますね。 それはどういうわけですか。

4 たとえば、おきてには、『あなたの父と母とを敬え。 だれでも父や母をののしる者は死刑に処せられる』とあります。 5 6 ところが、どうでしょう。 あなたがたは、両親が困っていようが何だろうが、『このお金は教会にささげました』と言いさえすれば、もう両親のためにそのお金を使わなくてもよいと教えています。 つまり、人間の作った規則を盾にとって、両親を敬い、そのめんどろを見なさいという神のおきてを破っているのです。

7 まさに偽善者です。 全くイザヤが預言したとおりです。

8 『彼らは口先ではわたしを敬うが、

心はわたしから遠く離れている。

9 彼らがわたしを拝んでも、むだなことだ。

神のおきての代わりに、

人間の規則を教えているのだから。』

10 それからイエスは、群衆を呼び寄せて言われました。「いいですか、よく聞きなさい。 11 おきてで禁じられている物を食べたからといって、汚れるわけではありません。人を汚すのは、口から出ることばであり、心の思いなのです。」

12 その時、弟子たちが来て言いました。「先生があんなことをおっしゃったので、パリサイ人たちはかんかんですよ。」

13 しかし、イエスは言われました。「わたしの父がお植えにならなかった木は、みな根こそぎ抜かれてしまいます。 14 だから、あの人たちのことは放っておきなさい。彼らは盲人なのです。おまけに、ほかの盲人の道案内までして、結局、二人とも溝にはまってしまうでしょう。」

15 すると、ペテロが尋ねました。「おきてで、きよくないとされている物を食べても汚れないというのは、どうしてですか。」

16 イエスは言われました。「こんなことがわからないのですか。 17 口から入る物は何でも腹に入って、外へ出ます。 18 ところが、悪いことばは悪い心から出てくるので、人を汚すのです。 19 つまり、悪い考え、殺人、姦淫、不品行、盗み、うそ、また悪口などは、心から出て、 20 人を汚すのです。だが、食事の前に手を洗うという規則を破ったからといって、汚れるわけではありません。」

21 イエスはその地方を去り、ツロとシドンに向かわれました。

数々の奇蹟

22 この地方に住んでいるカナン人の女がイエスのところに来て、必死に願いました。「主よ。ダビデ王の子よ！ お願いでございます。どうか、私をあわれと思ってお助けくださいまし。娘が悪霊に取りつかれて、ひどく苦しんでいるのです。」

23 しかし、イエスは堅く口を閉ざして、ひと言もお答えになりません。とうとう弟子たちが、「あの女に早く帰るように言ってください。あんまりしつこいので、うるさくてしかたがありません」と頼みました。

24 それでイエスは、「わたしが遣わされたのは、外国人を助けるためではありません。ユダヤ人を助けるためです」と説明なさいました。

25 それでも女は、イエスの前にひれ伏し、「主よ。どうかお助けください」と願い続けました。

26 イエスは、「子供たちのパンを取り上げて、犬に投げてやるのはよくないことです」と言われました。

27 しかし、女はあきらめません。「おおせのとおりです。でも、食卓の下にいる小犬でも、落ちたパンくずぐらいは食べさせてもらえますもの。」

28 そのことばにイエスは感心し、「あなたの信仰は見上げたものです。 いいでしょう。 願いをかなえてあげましょう」と言われました。 ちょうどその時、娘は治りました。

29 さて、舞台は再びガリラヤ湖に移ります。 イエスは丘に登り、腰をおろしておられました。 30そこへ、大ぜいの人が、足の不自由な者、盲人、体の不自由な人、聾啞者をはじめ、たくさんの病人を連れて来たので、イエスはその人たちをみな治されました。

31 なんとという驚くべき光景でしょう。 口のきけなかった人が興奮して話しだし、歩けなかった人が歩きだし、目の見えなかった人が見えるようになったのです。 人々は驚き、心からイスラエルの神をほめたたえました。

32 イエスは、弟子たちを呼び寄せられました。 「この人たちがかわいそうです。 もう三日もわたしといっしょにいるのですから。 食べ物とはつくにないようだし、このまま帰らせたら、きっと途中で倒れてしまうでしょう。」

33 「でも、こんな寂しい所で、これほどたくさんの人ですよ……。それだけの食べ物を、いったいどこで手に入れるのですか。」

34 「今、手もとにある食べ物は？」

「パンが七つと、小さい魚がほんの少しだけです。」

35 それを聞くと、イエスは、みんなを地べたに座らせました。 36そして、七つのパンと魚を取り、神に感謝をささげてから、それを裂き、弟子たちに渡して、一人一人に配らせました。 3738 婦人や子供を除いても、四千人もの群衆でしたが、だれもが満腹するほど食べました。 あとでパンくずを拾い集めると、なんと七つのかごがいっぱいになりました。

39 そこで、イエスは人々を家に帰し、舟に乗ってマガダン地方へ向かわれました。

一六

まちがった教え

1 ある日、パリサイ人やサドカイ人たちがイエスのところに来て、天からのすばらしい奇蹟を見せてくださいと頼みました。 メシヤ（救い主）だと自称するイエスの主張がほんとうかどうかを、試してやろうと思ったのです。

23 イエスのご返事はこうでした。 「あなたがたは、天気を予測するのが得意です。 夕焼けになると、『明日は晴れだ』と言うし、朝焼けを見ると、『今日は荒れ模様だ』と言います。 そんなに上手に空模様を見分けるのに、これほどはっきりした時代の兆候は、読み取れないのですか。 4今の悪い不信仰な時代は、不思議なしるしが天に現われることばかり求めています。 しかし、ヨナの身に起こった奇蹟以外に、神からの証拠は与えられません。」そしてイエスは、彼らを残したまま去って行かれました。

5 一行は湖の向こう岸へ渡りました。 ところが、食べ物を持って来るのを忘れていたのです。

6 イエスは、「パリサイ人とサドカイ人のイースト菌に気をつけなさい」と忠告なさいましたが、 7弟子たちは、パンを忘れてきたので、おしかりになっているのだろうと勘違

いしました。

8 それに気づいたイエスは、「ああ、信仰の薄い人たちよ。なぜそんなに、食べ物を持って来なかったことを気に病むのですか。9 まだわからないのですか。五つのパンを五千人に食べさせた時、幾かごものパンが余ったではありませんか。10 また四千人に食べさせた時も、たくさんのパンが余りました。11 パンのことなど問題ではありません。どうしてわからないのですか。もう一度、はっきり言いましょう。わたしは、『パリサイ人とサドカイ人のイースト菌に気をつけなさい』と言ったのです」と言われました。

12 それでやっと弟子たちにも、イースト菌とは、パリサイ人やサドカイ人のまちがった教えのことだとわかりました。

わたしはだれか

13 ピリポ・カイザリヤに行った時、イエスは弟子たちに、「みんなは、わたしのことをだれだと言っていますか」とお尋ねになりました。

14 弟子たちは答えました。「バプテスマのヨハネだと言う人もいますし、エリヤだと言う人もいます。また、エレミヤだとか、ほかの預言者の一人だとか、いろいろです。」

15 「では、あなたがたは、どうなのですか。」

16 シモン・ペテロが答えました。「あなた様こそ、キリスト（救い主）です。生ける神の子です。」

17 「ヨナの息子シモンよ。神があなたを祝福してくださったのです。それがわかったのは、天におられるわたしの父が、あなたに個人的に教えてくださったからです。人間の力ではありません。18 あなたはペテロ（岩）です。わたしはこの大きな岩の上にわたしの教会を建てます。地獄のどんな恐ろしい力も、わたしの教会に打ち勝つことはできません。19 あなたに天国のかぎをあげましょう。あなたが地上でかぎをかける戸は、みな、天でも閉じられ、あなたが地上でかぎを開ける戸はみな、天でも開かれるのです。」

20 このあとイエスは、ご自分がキリストであることをほかの人に話してはいけない、と弟子たちに注意なさいました。

21 その時から、イエスは、ご自分が、エルサレムに行くことと、そこでご自分の身に起こること、すなわち、ユダヤ人の指導者たちの手でひどく苦しめられ、殺され、そして三日目に復活されることを、はっきり弟子たちに話し始められました。

22 ところが、ペテロはイエスをわきへ呼んで忠告しました。「先生。とんでもございませぬ。あなたのようなお方に、そんなことが起こってたまるものですか！」

23 イエスはふり向かれ、「サタンよ。出て行きなさい！ そのようなことを言って、わたしをわなにかける気ですか。あなたはただ人間的な見方をして、神の立場を忘れている！」とおしかりになりました。

24 それから、弟子たちに言われました。「だれでもわたしの弟子になりたいければ、

自分を捨て、自分の十字架を背負って、わたしについて来なさい。 25いのちを大事にする者は、いのちを失うことになります。 しかし、わたしのためにいのちを投げ出す者は、それをもう一度自分のものにできるのです。 26たとい、全世界を自分のものにしても、永遠のいのちを失ってしまったら、何の得になるでしょう。 いったい、永遠のいのちほど価値のあるものが、ほかにあるでしょうか。 27メシヤのわたしは、やがて、父の栄光を帯びて、御使いたちと共にやって来ます。 そして、一人一人を、その行ないによってさばくのです。 28今ここにいる者の中には、生きているうちに、わたしが御国の力を帯びて来るのを、その目で見る者がいます。」

一七

栄光に輝くイエス

1 六日後、イエスは、ペテロと、ヤコブとヨハネの兄弟とを連れて、人里離れた高い山の頂上に登られました。 2すると、三人の目の前で、たちまちイエスの姿が変わりました。 顔は太陽のように輝き、着物はまばゆいほどの白さです。

3 そこへ突然、モーセとエリヤが現われて、イエスと親しく話し始めたではありませんか。 4これを見て、ペテロは思わず口走りました。 「ああ、先生。 なんとありがたいことでしょう。 こんなすばらしい所に居合やすなんて！ もし、よろしければ、小屋を三つお建てしましょう。 あなた様と、モーセ様とエリヤ様のために。」

5 ところが、そう言っているうちにも、光り輝く雲が現われて、三人をすっぽり包んでしまいました。 そして雲の中から、「これこそ、わたしの愛する子。 わたしは彼を心から喜んでいる。 彼の言うことを聞きなさい」という声がしました。

6 この声を聞いた弟子たちは、恐ろしさのあまり、わなわなとふるえ、ひれ伏してしまいました。 7イエスは近寄り、彼らにさわって言われました。 「さあ、起きなさい。 こわがることはありません。」

8 それで、ようやく顔を上げると、そこにはもう、イエスのほかにはだれもおられませんでした。

9 山を降りながら、イエスは、いま見たことを、自分が復活するまではだれにも話してはいけません、とお命じになりました。

10 そこで、弟子たちが尋ねました。 「どうしてユダヤ人の指導者たちは、メシヤ（救い主）が来る前に、エリヤが必ず戻って来ると主張しているのでしょうか。」

11 「彼らの言うとおりです。 まずエリヤが来て、すべての準備をするのです。 12実際、エリヤはもう来たのです。 しかし、人々は彼を認めず、ひどい目に合わせました。 そればかりか、メシヤのわたしもまた、彼らの手で苦しめられるのです。」

13 その時、弟子たちは、イエスがバプテスマのヨハネのことを言っておられるのだと気づきました。

山を降りたイエス

14 彼らがふもとに着くと、大ぜいの群衆が待ちかまえていました。 その時、一人の男

が駆け寄り、イエスの前にひざまずいて叫びました。 15 「先生。 息子をあわれと思ってお助けください。 ひどいてんかん持ちで、火の中でも水の中でも、おかまいなしに倒れるのです。 16 それで、お弟子さんたちのところに連れて来て、お願いしたのですが、だめでした。」

17 「ああ、なんと不信仰な人たちでしょう。 いったいつまで、あなたがたのことを我慢しなければならないのですか。 さあ、その子をここに連れて来なさい。」 18 こう言って、その子に取りついていいる悪霊をおしかりになると、悪霊は、出ていき、子供はその場ですっかり治ってしまいました。

19 あとで弟子たちは、そっとイエスに尋ねました。 「どうして、私たちには悪霊が追い出せなかったのでしょうか。」

20 イエスはお答えになりました。 「信仰が足りないからです。 もしあなたがたに、からの種ほどの信仰があったら、この山に向かって『動け』と言えば、そのとおり山は動くのです。 何でもできないことはありません。 21 ただし、こういった悪霊は、祈りと断食によらなければ、とても追い出せないのです。」

22 23 まだガリラヤにいたある日のこと、イエスはこんなことをお話しになりました。 「わたしは裏切られ、人々の手に引き渡され、殺されますが、三日目には必ず復活します。」これを聞いて、弟子たちの心は悲しみと恐れとで、いっぱいになりました。

24 カペナウムに着いた時、神殿に納める税金を取り立てる役人がペテロのところへ来て、「あんたがたの先生は、税金を納めないのか」と尋ねました。

25 「もちろん、納めますとも。」こう答えると、ペテロは急いで家に入り、このことを話そうとしました。 ところが、まだ話を切り出さないうちに、イエスのほうから、お尋ねになりました。 「ペテロ。 あなたはどう思いますか。 世の王たちはだれから税を取り立てるでしょうか。 自分の子供たちからですか、それとも、ほかの人たちからですか。」

26 「ほかの人たちからです」とペテロは答えました。

「では、王の子供たちは税金を納める必要はないのです。 27 しかし、役人たちを怒らせたくはありません。 今から湖へ行ってつり糸をたれてみなさい。 最初につれた魚の口から、わたしたち二人分の税金を払うだけのお金が見つかるはずです。 それで払いなさい。」

一八

小さい子供のように

1 そこへ、弟子たちがやって来て、「私たちのうち、だれが天国で一番偉いのでしょうか」と尋ねました。

2 するとイエスは、近くにいた小さい子供を呼び寄せ、みんなの真ん中に立たせてから、話されました。

3 「よく聞いておくのですよ。 悔い改めて神に立ち返り、この小さい子供たちのよう

にならなければ、決して天国には入れません。 4ですから、小さい子供のように自分を低くする者が、天国では一番偉いのです。 5また、だれでも、この小さい者たちを、わたしのために受け入れる者は、わたしを受け入れるのです。 6反対に、わたしに頼りきっているこの子供たちの信仰を失わせるような者は、首に大きな石をくくりつけられて、海に投げ込まれたほうが、よっぽどましです。

7 悪がはびこるこの世はいまわしいものです。誘惑されるのは避けられないとしても、誘惑のもとになる人はいまわしいものです。 8罪を犯させるものは、手だろうが足だろうが、切り取ってしまいなさい。 五体満足で地獄へ行くより、片手片足になっても天国に入るほうが、よっぽどましです。 9また、目が罪を犯させるなら、そんなものはえぐり出しなさい。 両眼そろって地獄へ行くより、片目でも天国に入るほうが、よっぽどましだからです。

10 この小さい子供たちの一人でも、見下げたりしないように気をつけなさい。 言っておきますが、天国では、子供たちを守る御使いが、いつでもわたしの父のそば近くにいるのです。 11メシヤ（救い主）のわたしは、神から離れ、迷っている者を救うために来たのです。

12 ある人が百匹の羊を持っていたとします。 そのうちの一匹が迷い出ていなくなったら、その人はどうするでしょう。 ほかの九十九匹はその場に残したまま、いなくなっただけを一匹を捜しに、山へ出かけるでしょう。 13そして、もし見つけようものなら、何でもなかったほかの九十九匹以上に、この一匹のために大喜びします。 14同じように、わたしの父も、この小さい者たちの一人でも滅びないようにと願っておられるのです。

人を赦す者

15 信仰の友達があなたがたに罪を犯した時は、一人で行って、その誤りを指摘してあげなさい。 もし、相手が忠告を聞いて罪を認めれば、あなたはその友達を取り戻したことになるのです。 16しかし、もしあなたの言うことに耳を貸そうとしないなら、一人か二人の証人を立てて、もう一度相手のところへ行きなさい。 あなたの言い分をすべて証明してもらうためです。 17それでも忠告を聞き入れないなら、その問題を教会に持ち出しなさい。 そして、教会があなたを支持してもなお、相手がそれを受け入れないなら、教会はその人と交わるのをやめなさい。 18言っておきますが、あなたがたが地上で赦したり、禁じたりすることは、天でも同じようになされるのです。

19 このことも言っておきましょう。 もし、あなたがたのうち二人の者が、何であれ、この地上で心を一つにして願い求めるなら、天におられるわたしの父は、その願い事をかなえてくださいます。 20たとえ二、三人でも、わたしを信じる者同士が集まるなら、わたしはその人たちの真ん中にいるからです。」

21 その時、ペテロが、イエスのそばに来て尋ねました。 「先生。 友達が私に罪を犯した場合、何回ぐらいまで赦してやればいいでしょうか。 七回でしょうか。」

22 イエスはお答えになりました。 「いや、七回を七十倍するまでです。」

23 天国は、帳じりをきちんと合わせようとした王にたとえることができます。 24 清算が始まってまもなく、王から三十億円というばく大な借金をしていた男が引き立てられて来ました。 25 その男は借金を返すことができなかったのも、王は、自分の身や持ち物全部を売り払ってでも返済しろ、と命じました。

26 ところが、男は王の前にひれ伏し、顔を地面にすりつけて、『ああ、王様。 お願いでございます。 もう少し、もう少しだけお待ちください。 きっと全額お返しいたしますから』と、必死に願いました。

27 これを見て、王はかわいそうになり、借金を全額免除し、釈放してやりました。

28 ところが、赦してもらった男は、王のところから帰ると、その足で、六十万円貸してある人の家に出かけました。 そして、首根っこをつかまえ、『たったいま借金を返せ』と迫ったのです。

29 相手は、男の前にひれ伏して、『今はかんべんしてください。 もう少ししたら、きっとお返ししますから』と、拝まんばかりに頼みました。

30 しかし、男は少しも待ってやろうとはせず、その人を捕らえると、借金を全額返すまで牢にたたき込んでしまいました。

31 このことを知った友人たちが王のところへ行き、事の成り行きを話しました。 32 怒った王は、借金を免除してやった男を呼びつけて、言いました。 『この人でなしめっ！ おまえがあんなに頼んだからこそ、あれほど多額の借金も全部免除してやったのだ。 33 自分があわれんでもらったように、ほかの人をあわれんであげるべきではなかったのかっ！』

34 そして、借金を全額返済し終えるまで、男を牢に放り込んでおきました。 35 あなたがたも、心から友達を赦さないなら、天の父も、あなたがたに同じようになさるのです。」

一九

1 これらのことを話し終えられると、イエスはガリラヤをお去りになり、ヨルダン川を渡って、ユダヤ地方に向かわれました。 2 すると、大ぜいの人があとを追って来たので、病人を治されました。

結婚と離婚

3 イエスをわなにかけ、破滅させてやろうと、何人かのパリサイ人がやって来ました。 そして、「あなたは離婚をお認めになりますか」と尋ねました。

4 - 6 「聖書（旧約）を読んだことがないのですか。 聖書には、神が初めに男と女を造られたので、人は両親から離れて、永遠に妻と結ばれ、二人の者は一体となる、と書いてあるではないですか。 彼らはもう二人ではなく、一人なのです。 ですから、神が結び合わせたものを、だれも離すことはできません。」

7 「でも、モーセは、離縁状を渡しさえすれば、妻と別れてもよいと言いましたよ。」なおも食い下がる彼らに、 8 イエスは答えて言われました。「モーセがそう言ったのは、

あなたがたの心が邪悪で強情なのを知っていたからです。しかしそれは、神がもともと望んでおられたことではありません。 9 言っておきますが、不倫以外の理由で妻を離縁し、ほかの女性と結婚する者は、姦淫の罪を犯すのです。」

10 「それなら、結婚しないほうがましですね。」弟子たちがイエスに言いました。

11 「そうは言っても、独身で通すことは、だれにでもできることではありません。ただ、神に力を与えられた者だけが、できるのです。 12 生まれつき結婚する能力のない人もいるし、人の手で結婚できないようにされた人もいます。またある人は、天国のために、自分から進んで独身を通します。わたしの言ったことを受け入れることのできる人は、受け入れなさい。」

13 その時、イエスに手を置いて祈っていただこうと、人々が小さい子供たちを連れて来ました。ところが、弟子たちは、「先生のおじやまだ」としかりつけました。

14 しかし、イエスはそれをとどめて、「子供たちを自由に来させなさい。じゃまをしてはいけません。天国は、この子たちのような者の国なのですから」と言われました。

15 そして、子供たちの頭に手を置いて祝福し、そこを去って行かれました。

天国に入るには？

16 一人の青年がイエスのところに来て、こう質問しました。「先生。永遠のいのちがほしいのですが、どんな良いことをしたら、もらえるでしょうか。」

17 「良いことについて、なぜわたしに尋ねるのですか。ほんとうに良い方は、ただ神お一人なのです。しかし、質問に答えてあげましょう。天国に入るには、神のおきてを守ればいいのです。」

18 「どのおきてでしょうか。」

「殺してはならない、姦淫してはならない、盗んではならない、うそをついてはならない、

19 あなたの父や母を敬いなさい、隣人を自分と同じように愛しなさい、というおきてです。」

20 「それなら、全部守っています。ほかには？」

21 「完全な者になりたければ、家に帰って、財産を全部売り払い、そのお金を貧しい人たちに分けてあげなさい。天に宝をたくわえるのです。それから、わたしについて来なさい。」 22 青年はこれを聞くと、悲しそうに帰って行きました。たいへんな金持ちだったからです。

23 イエスは、弟子たちに言われました。「金持ちが天国に入るのは、なんとむずかしいことでしょう。 24 もう一度言いますが、金持ちが天国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうがずっとやさしいのです。」

25 このことばに、弟子たちはすっかり面食らってしまいました。「それなら、この世の中で、救われる人などいるのでしょうか。」

26 イエスは、弟子たちをじっと見つめて言われました。「人間にはできません。だが、神には、何でもできます。」

27 その時、ペテロが質問しました。「私たちは何もかも捨てて、お従いしてまいりました。それで、いったい何がいただけるのでしょうか。」

28 イエスはお答えになりました。「メシヤ（救い主）のわたしが、やがて、御国の栄光の王座につく時、あなたがたも十二の王座について、イスラエルの十二の部族をさばくことになるのですよ。29 わたしに従うために、家、兄弟、姉妹、父、母、妻、子、あるいは財産を捨てた者はだれでも、代わりにその百倍もの報いを受け、また永遠のいのちまでいただくのです。30 ただ、今は先頭に行くように見える者が、その時には最後になり、今は最後にいるように見えても、その時には先頭になる者が大ぜいいるのです。

二〇

1 天国を、こんなふうにととえることもできます。農園の経営者が、果樹園で働く日雇労務者を雇おうと、朝早く出かけて行きました。2 そして、日当六千円の約束で、労務者たちを果樹園へ送り込みました。

3 二、三時間後、また、職を求める人々の集まる場所へ行ってみると、仕事にあぶれた男たちがたむろしています。4 それで、その人たちも、夕方には適当な賃金を払うという約束で、果樹園へ行かせました。5 昼ごろと、午後の三時ごろにも、同じようにしました。

6 夕方五時近くに、もう一度出かけてみると、まだぶらぶらしている者たちがいます。『どうして一日中遊んでいるのかね』と尋ねると、7 『仕事がないんでさあ』と答えたので、農園主は言いました。『それなら今すぐ行って、私の農園でみんなといっしょに働きなさい。』

8 終業の時刻になり、農園主は会計係に言いつけて、労務者たちを呼び集めました。そして、最後に雇った男たちから順に日当を支払いました。9 五時に雇われた男たちの日当はなんと一人六千円です。10 それで、早くから仕事にかかっていた男たちは、もっとたくさんもらえるだろうと思いました。ところが、彼らの日当もやっぱり六千円だったのです。

11 12 当てがはずれた者たちはみな、農園主に文句を言いました。『あいつらは、たった一時間働いただけなんですぜ。なのに、この炎天下、一日中働いたおれたちと同じに払ってやるんですかい。』

13 ところが、農園主はその一人に答えました。『いいかね。私はおまえに何も悪いことはしていないぞ。おまえは一日六千円で働くことを承知したはずだ。14 文句を言わずに、それを持って帰れ。私はだれにでも分けへだてなく払ってやりたいのだ。

15 自分の金をどう使おうと、自由だろうが。私がほかの者たちに親切なので、おまえは腹を立てているのか。』16 このように、最後の者が最初になり、最初の者が最後になるのです。」

仕える者になきなさい

17 さて、エルサレムへ行く途中のことです。 イエスは十二人の弟子だけをわきへ呼び寄せ、 18 やがて、自分がエルサレムでどんな目に会うかを、お話しになりました。

「わたしは、祭司長や他のユダヤ人の指導者たちに引き渡され、彼らから死刑を宣告されます。 19 そしてローマの役人の手に渡され、あざけられ、十字架につけられます。 しかし、わたしは三日目に復活するのです。」

20 その時、ゼベダイの息子ヤコブとヨハネとの母親が、息子たちを連れて来ました。母親はイエスの前にひざまずき、「お願いがございます」と言いました。

21 「どんなことですか。」

「どうぞ、あなた様の御国で、二人の息子を、あなた様の次に高い位につかせてやってくださいまし。」

22 ところがイエスは、「あなたには、何もわかっていませんね」と答え、今度は、ヤコブとヨハネのほうをご覧になりました。

「あなたがたは、わたしが飲もうとしている恐るべき杯を飲むことができますか。」

「はい。 できます。」イエスの質問に、二人はきっぱり答えました。

23 しかしイエスは、「確かに飲むことにはなるでしょう。 だが、だれをわたしの次の位につかせるかは、わたしの決めることではありません。 わたしの父がお決めになることです」と言われました。

24 ほかの十人の弟子たちは、ヤコブとヨハネがイエスにどんな願い事をしたかを聞いて、もうれつに腹を立てました。

25 そこでイエスは、彼らを呼び集め、言われました。 「この世の普通の人たちの間では、王は暴君であり、役人は部下にいばり散らすものです。 26 だが、あなたがたの間では、違います。 リーダーになりたい者は、仕える者になりなさい。 27 上に立ちたいと思う者は、奴隷のように仕えなければなりません。 28 メシヤ（救い主）のわたしでさえ、人々に仕えられるためではなく、みんなに仕えるためにこの世に来たのです。 そればかりか、多くの人の罪の代償として自分のいのちを与えるために来たのです。 だからあなたがたも、わたしを見なさい。」

29 イエスの一行がエリコの町を出ると、大ぜいの人があとについて行きました。

30 途中の道ばたに二人の盲人が座っていました。 イエスのお通りだと聞いた二人は、大声で訴えました。 「主よ。 ダビデ王の子よ！ 私どもをあわれんでください。」

31 人々が黙らせようとすると、ますます激しく叫び立てます。

32 33 ところが、イエスは二人の前でぴたりと足を止め、「どうしてほしいのですか」とお尋ねになりました。 「先生。 見えるようになりたいんです。」彼らは答えました。

34 イエスは心からかわいそうに思い、彼らの目におさわりになりました。 すると、たちまち目が見えるようになり、二人はイエスについて行きました。

二一

エルサレムへ

1 一行がエルサレムに近づき、オリーブ山のふもとのベテパゲ近くまで来た時、イエスは弟子を二人、こう言って使いに出しました。

2 「村に入るとすぐ、一頭のろばといっしょに、子ろばが見つからないのに気づくでしょう。それをほどいて、連れて来なさい。 3 もしだれかに、何をしているのかと聞かれたら、『主がお入用なのです』とだけ答えなさい。 そうすれば、何もめんどろは起こらないはずです。」

4 それは、次のような昔の預言が実現するためでした。

5 「エルサレムに告げよ。

『王がおいでになる。

ろばの子に乗って。

柔和な王がおいでになる。』」

6 二人の弟子は、イエスの言いつけどおりに、 7 ろばの親子を連れて戻りました。 そして、子ろばの背に自分たちの上着をかけ、イエスをお乗せしました。 8 すると、群衆の中の大ぜいの者が、イエスの進んで行かれる道に自分たちの上着を敷いたり、木の枝を切ってきて敷き並べたりしました。

9 どっと押し寄せた群衆は、イエスを取り囲み、口々に叫びました。

「ダビデ王の子、ばんざーいっ！」

「主をほめたたえよ！」

「このお方こそ神の人だーっ！」

「主よ。 このお方に祝福を！」

10 イエスがエルサレムに入られると、町中が上を下への大騒ぎです。だれもが興奮して、「いったい、その方はどなたなんだい」と尋ねます。

11 イエスについて来た群衆は、「ガリラヤのナザレ出身の預言者イエス様だよ」と答えました。

12 それから、イエスは宮にお入りになり、境内で商売していた者たちを追い出され、両替人の机や、鳩を売っていた者たちの台をひっくり返し始められたのです。

13 そして、彼らにはっきりと言われました。「聖書（旧約）には、『わたしの神殿は祈りの場所と呼ばれる』と書いてあります。ところがあなたがたは、それを強盗の巣にしてしまったではありませんか。」

14 この宮の中へも、盲人や足の不自由な人たちがやって来たので、イエスは彼らを治されました。 15 ところが、祭司長や他のユダヤ人の指導者たちは、イエスが不思議な奇蹟を行なうのを見、また宮の中で小さい子供までが「ダビデ王の子、ばんざーいっ！」と叫ぶのを聞いて、すっかり腹を立てました。 16 そしてイエスに、「子供までがあんなことを言っているのに、おまえには聞こえないのか」と抗議しました。

しかしイエスは、お答えになりました。「もちろん聞こえています。 だが、いったい、あなたがたは聖書を読んだことがないのですか。 『小さい子供でさえ神をたたえる』

と、書いてあるのを。」

17 それから、イエスはエルサレムを出て、ベタニヤ村にお戻りになり、そこで一泊なさいました。

18 翌朝、エルサレムに向かう途中、イエスは空腹になりました。 19 ふと見ると、道ばたにいちじくの木があります。 さっそく、そばへ行き、実がなっているかどうかをごらんになりましたが、あいにく葉ばかりです。 それで、イエスはその木に、「二度と実がなるな」と言われました。 すると、どうでしょう。 木はみるみる枯れていきました。

20 「ああ、先生。 どうしたんでしょう。 こんなにもすぐに枯れるなんて……。」 すっかり驚いた弟子たちの質問に、 21 イエスはお答えになりました。 「よく聞きなさい。 あなたがただって、信仰を持ち、疑いさえしなければ、もっと大きなことができるのですよ。 たとえば……、このオリーブ山に、『動いて、海に入れ』と言っても、そのとおりになります。 22 ほんとうに信じて祈り求めるなら、何でも与えられるのです。」

敵のわな

23 イエスが宮に戻って教えておられると、祭司長と他のユダヤ人の指導者たちが来ました。 「昨日、おまえは商人たちを、ここから追い出したな。 いったい何の権威があって、そんなことをしたんだ。 ええつ。 さあ答えてもらおう。」彼らは詰め寄りました。

24 イエスはお答えになりました。 「いいでしょう。 だが、まずわたしの質問に答えなさい。 そのあとで答えましょう。 25 バプテスマのヨハネは、神から遣わされたのですか。 それとも、遣わされなかったのですか。」彼らは集まって、ひそひそ相談しました。 「もし、『神様から遣わされた』と答えれば、『それを知っていて、どうしてヨハネのことばを信じなかったのか』と聞かれるだろう。 26 だからといって、『神様から遣わされたのではない』と言えば、今度は、ここにいる大ぜいの群衆が騒ぎだすだろう。 なにしる連中はみな、ヨハネを預言者だと信じきっているんだから。」 27 結局、「わかりません」と答えるほかありませんでした。

するとイエスは、言われました。 「それなら、わたしもさっきの質問には答えません。 28 ところで、次のような話をどう思いますか。 ある人に息子が二人いました。 兄のほうに『今日、農場で働いてくれ』と言うと、 29 『はい、行きます』と答えたのに、実際には行きませんでした。 30 次に、弟のほうに、『おまえも行きなさい』と言いました。 弟は『いやです』と答えましたが、あとで悪かったと思い直し、出かけました。 31 二人のうち、どちらが父親の言うことを聞いたのでしょうか。」「もちろん、弟です。」彼らは答えました。

次にイエスは、そのたとえ話の意味を説明なさいました。 「確かに、悪人や売春婦たちのほうが、あなたがたより先に神の国に入ります。 32 そうでしょう。 バプテスマのヨハネが来て、悔い改めて神に立ち返れと言った時、あなたがたはその忠告を無視しました。 しかし、極悪人や売春婦たちは言われたとおりにしました。 あなたがたは、それを目のあたりにしながら、なお罪を捨てようとしませんでした。 ですから、信じること

ができなかったのです。

33 もう一つのたとえ話をしましょう。 ある農園主が、ぶどう園を造り、垣根を巡らし、見張りの塔を建てました。 そして、収穫の何割かを取り分にするという約束で、農夫たちにぶどう園を貸し、自分は外国へ行って、そこに住んでいました。

34 さて、収穫の時期になったので、幾人かの代理人をやり、自分の分を受け取ろうとしました。 35 ところが農夫たちは、代理人たちに襲いかかり、袋だたきにするやら、石を投げつけるやらしたあげく、一人を殺してしまいました。

36 農園主はさらに多くの人を送りましたが、結果は同じことでした。 37 最後には、ついに息子を送ることにしました。 息子なら、きっと敬ってくれるだろうと思ったからです。

38 ところが農夫たちは、その息子が来るのを見ると、『おっ、あれは、ぶどう園の跡取りだ。 よーし、あいつを片づけようぜ。 そうすりゃあ、ここはおれたちのものだ』と言って、 39 彼をぶどう園の外に引きずり出し、殺してしまいました。

40 さあ、農園主が帰って来た時、この農夫たちはどんな目に会うでしょうか。」

41 「もちろん農園主は、その悪者どもを情け容赦なく殺して、きちんと小作料を納める、ほかの農夫たちに貸すに決まっています。」

42 「聖書（旧約）にこう書いてあるのを、読んだことがないのですか。

『建築士たちの捨てた石が、
最も重要な土台石となった。

なんとすばらしいことか。

主は、なんと驚くべきことをなさる方か。』

43 わたしが言いたいのは、こういうことです。 神の国はあなたがたから取り上げられ、収穫の中から、神に納める分をきちんと納める、ほかの人たちに与えられるのです。

44 この真理の石につまずく者はみな打ち砕かれます。 反対に、この石が落ちてくると、だれもかれも、こっぴどいんです。」

45 祭司長やパリサイ人たちは、このたとえ話を聞いて、その悪い農夫とは、実は自分たちのことなのだと気づきました。 46 それで、なんとかイエスを始末しようと考えましたが、群衆がこわくて手出しができません。 群衆は、イエスを預言者だと認めていたからです。

二二

天国とは？

1 天国がどのようなものを教えようと、イエスはまた幾つかのたとえ話をなさいました。

2 「たとえば、天国は、王子のために盛大な結婚披露宴を準備した王のようなものです。

3 大ぜいの客が招待されました。 宴会の準備がすっかり整ったので、王は使いをやり、招待客に、もうおいでになる時間です、と知らせました。 ところが、なんと、みな出席

を断わってきたではありませんか。 4 それでも王は、もう一度別の使いをやり、こう言わせました。『何もかも用意ができました。 肉も焼き始めています。 あなた様のおいでを待つばかりです。』

5 ところが、招待客はそれをせせら笑うだけで、ある者は農場へ、ある者は自分の店へと出かけて行きました。 6 そればかりか、中には王の使者に恥をかかせたり、なぐったり、殺してしまう者さえいました。

7 これを聞いて、もうれつに怒った王は、すぐさま軍隊を出動させ、人殺しどもを滅ぼし、町を焼き払ってしまいました。 8 そして王は、『披露宴の準備はできたというのに、招いておいた者どもは列席する資格のない連中ばかりだった。 9 よろしい。 さあ、町へ行って、出会う者は片っぱしから、みな招待してくるのだ』と命じました。

10 王の使者たちは、命令どおり、善人悪人の区別なく、だれでも招待してきました。宴会場は客でいっぱいです。 11 ところが、王が客に会おうと出て来ると、用意しておいた婚礼の礼服を着ていない客が一人います。 12 『礼服もつけずに、どうしてここへ入って来たのか』と尋ねましたが、その男は何とも返事をしません。

13 それで王は、側近の者たちに命じました。『この男の手足を縛って、外の暗やみに放り出せ。 そこで泣きわめいたり、歯ぎしりしたりしてくやしがるがよい。』 14 招待される人は多くても、選ばれる人は少ないのです。」

15 そのころ、パリサイ人たちは、イエスをわなにかけて逮捕のきっかけになることを言わせようと、知恵をしぼりました。 16 そして、数人の仲間をヘロデ党（ヘロデを支持する政治的な一派）の者たちといっしょにイエスのところへやり、こう質問させました。

「先生。 あなた様がたいへん正直なお方で、だれをも恐れず、また人をえこひいきもなさらず、いつも堂々と真理を教えておられることは、よく存じ上げております。 17 それで、ぜひともお教え願いたいのですが……、ローマ政府に税金を納めることは、正しいことでしょうか。 それともよくないことでしょうか。」

18 イエスは、彼らの計略を見抜いて言われました。

「偽善者たち！ わたしをわなにかけようというのですか。 19 さあ、銀貨を出して見せなさい。」

20 「ここに刻まれているのは、だれの肖像ですか、その下にある名前はだれのものですか。」銀貨を受け取ったイエスは問いました。

21 「カイザル（ローマ皇帝）です。」

「そのとおり。 ローマ皇帝のものなら、それはローマ皇帝に返しなさい。 しかし神のものは全部、神に返さなければなりません。」

22 彼らはこの答えに驚き、返すことばもなく、すごすごイエスの前から立ち去りました。

23 ちょうど同じ日に、死後の復活などはないと主張するサドカイ人たちも来て、イエスに尋ねました。 24 「先生。 モーセの法律では、ある男が結婚して子供のいないまま

死んだ場合、弟が兄の未亡人と結婚して、生まれた子供に兄のあとを継がせることになっていますね。 25ところで、こういう場合はどうなるのでしょうか。 七人兄弟の家族があつて、長男は結婚しましたが、子供がないまま死んだので、残された未亡人は次男の妻になりました。 26ところが、次男も子供がないまま死に、その妻は三男のものになりました。 しかし、三男も四男も同じことで、ついにこの女は、七人兄弟全部の妻になりましたが、結局、子供はできずじまいでした。 27そして、彼女も死んだのですが……、28そうすると、復活の時には、彼女はいったいだれの妻になるのでしょうか。 生前、七人とも彼女を妻にしたのですが。」

29 しかし、イエスは言われました。 「あなたがたは聖書も神の力もわかっていません。 思い違いをしています。 30いいですか。 復活の時には、結婚などというものはありません。 みんなが天の使いのようになるのです。 3132ところで、死人が復活するかどうかについて、聖書を読んだことがないのですか。 神が、『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』と言われた時（すでに死んでしまったアブラハム、イサク、ヤコブがいま神の御前で生きていなければ、神は『アブラハム、イサク、ヤコブの神であった』と言われるはずですが）、あなたがたにも直接そう語りかけておられたのだということが、わからないのですか。 神は死んだ人の神ではなく、生きている人の神なのです。」

一番重要な戒め

33 群衆はこのイエスの答えに、すっかり感心しました。 3435しかし、パリサイ人たちはそうはいきません。 サドカイ人たちが言い負かされたと知ると、彼らは彼らで新しい質問を考え出し、さっそくイエスのところにやって来ました。 その中の法律の専門家が、 36「先生。 モーセの法律の中で一番重要な戒めは何でしょうか」と尋ねました。

37 イエスはお答えになりました。 『心を尽くし、たましいを尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。』 38これが第一で、最も重要な戒めです。 39第二に重要なもの、同じようなもので、『自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい』という戒めです。 40ほかのすべての戒めと預言者たちの命令も、この二つから出ています。 ですから、この二つを守れば、ほかの戒めを全部守ったことになるのです。 これを守りなさい。」

41 それから、イエスは、回りを取り囲んでいるパリサイ人たちに質問なさいました。

42 「キリストをどう思いますか。 彼はいったいだれの子ですか。」

「ダビデ王の子です。」

43 「それでは、なぜダビデは聖霊に動かされて語った時、キリストを『主』と呼んだのでしょうか。 確かこんなふうに……。

44 『神が私の主に言われた。

「わたしがあなたの敵を

あなたの足の下に置くまで、
わたしの右に座っていなさい。』

45 ダビデがキリストを『主』と呼んでいるのなら、キリストが、ただのダビデの子であるわけはありません。」

46 これには、返すことばありませんでした。 その日以来、だれも、あえてイエスに質問しようとしなくなりました。

二三

偽善者のまちがい

1 イエスは群衆と弟子たちに、お語りになりました。 2 「ユダヤ人の指導者やパリサイ人たちが、あまりたくさんの戒めを作り上げているので、あなたがたは、彼らをまるでモーセみたいだと思っているでしょう。 3 もちろん、彼らの言うことは、みな実行すべきです。言っていることはいいのですから。 だが、やっていることだけは絶対にまねてはいけません。 彼らは言うとおりに実行していないからです。 4 とうてい実行できないような命令を与えておいて、自分では、それを守ろうともしないのです。

5 彼らのやることと言ったら、人に見せびらかすことばかりです。幅広の経札（聖書のことばを納めた小箱で、祈りの時に身につける）を腕や額につけたり、着物のふさ（神のおきてを思い出すために着物のすそにつけるように命じられていた）を長くしたりして、あたかも聖者であるかのように、ふるまいます。 6 また、宴会で上座に着いたり、会堂の特別席に座ったりするのが何より好きです。 7 街頭でいねいなあいさつを受けたり、『ラビ』とか『先生』とか呼ばれることも大好きです。 8 だがあなたがたは、だれからもそう呼ばれないようにしなさい。 なぜなら、神だけがあなたがたのラビ〔教師〕であって、あなたがたはみな同じ兄弟だからです。 9 またこの地上で、だれをも『父』と呼ばないようにしなさい。 天におられる神だけが『父』と呼ばれるにふさわしい方だからです。 10 それに、『先生』と呼ばれてもいけません。 あなたがたの先生は、ただキリスト一人です。

11 人に仕える人が最も偉大な者です。 ですから、まず仕える者になりなさい。 12 われこそはと思っている人たちは、必ず失望し、高慢の鼻をへし折られてしまいます。 一方、自分から身を低くする者は、かえって高く上げられるのです。

13 いまわしい人たちよ。 パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。 あなたがたは偽善者です。 天国に入ろうとしている人たちのじゃまをし、自分でも入ろうとはしないのです。 14 町の大通りで、見栄のための長い祈りをし、聖者のようなふりをしながら、そのくせ未亡人の家を食いものにしています。 偽善者たち。 15 そうです。 あなたがたのような偽善者こそいまわしいものです。 たった一人の改宗者（ユダヤ教に転向した人）をつくるために、どんな遠くへでもせっせと出かけて行くが、結局その人を、自分より倍も悪い地獄の子にしてしまうからです。 16 自分の目が見えないくせに人の道案内をしようとする者たち。 いまわしい人たちよ。 あなたがたの規則では、『神殿にかけて』

と誓った誓いは何でもないが、『神殿の黄金にかけて』と誓った誓いは果たさなければなら
ないそうですね。 17 愚かな人たち。 黄金と、黄金を神聖なものにする神殿と、いつ
たいどちらが大切なのですか。 18 また、『祭壇にかけて』と誓った誓いは破ってもいい
が、『祭壇の上の供え物にかけて』と誓った誓いは果たさなければならぬそうですね。

19 愚かな人たち。 祭壇の上の供え物と、その供え物を神聖なものにする祭壇自体と、
いったいどちらが大切なのですか。 20 『祭壇にかけて』と誓うことは、祭壇の上のす
べてのものにかけて誓うことにもなるのだし、 21 『神殿にかけて』と誓うなら、神殿
と、そこにおられる神にかけて誓うことになるのです。 22 また、『天にかけて』と誓う
なら、神の御座と神ご自身にかけて誓うことになるのです。

23 いまわしい人たちよ。 パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。 あなたがたは偽善
者です。 自分の畑でとれる、はっかの葉の最後の一枚に至るまで、実にきちょうめんに
十分の一をささげているのに、正義と思いやり、信仰というほんとうに大切なことは無視
しています。 もちろん、十分の一献金はしなければなりません。 しかし、もっと大切
なことをなおざりにしては、何にもなりません。 24 自分の目が見えないくせに、他人
の道案内をしようとする者たち。 あなたがたは、ぶよはこして取り出しながら、らくだ
は丸ごと飲み込んでいるのです。

25 いまわしい人たちよ。 パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。 あなたがたは偽善
者です。 杯の外側はきれいにみがき上げるが、内側はゆすりと貪欲で汚れきっています。

26 目の見えないパリサイ人たち。 まず杯の内側をきれいにしなさい。 そうすれば、
杯全体がきれいになるのです。

27 いまわしい人たちよ。 パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。 あなたがたは美し
く塗り立てた墓のようです。 外側がどんなにきれいでも、中は死人の骨や汚らしいも
の、腐ったものでいっぱいなのです。 28 自分を聖人らしく見せようとしているが、そ
の信仰深そうな外見とは裏腹に、心の中はあらゆる偽善と罪で汚れているのです。

29 いまわしい人たちよ。 パリサイ人、ユダヤ教の指導者たち。 あなたがたは偽善
者です。 先祖が殺した預言者の記念碑を建てたり、先祖の手にかかった、神を敬う者た
ちの墓前に花を飾ったりして、 30 『私たちには、ご先祖様がしたような、こんな恐ろ
しいまねは、とてもできません』と言っています。

31 そんなことを言うこと自体、自分があの悪人たちの子孫だということを、自分で証
言するようなものです。 32 あなたがたは先祖の悪業を継いで、その目盛りの不足分を
満たしているのです。 33 蛇よ。 まむしの子らよ。 あなたがたは、地獄の刑罰を逃れ
ることはできません。

34 わたしがあなたがたのところに、預言者や、聖霊に満たされた人、神のことばを書
き記す力を与えられた人たちを遣わすと、あなたがたは彼らを十字架につけて殺したり、
会堂でむち打ったり、町から町へと追い回して迫害したりします。

35 36 こうして、正義の人アベルから、神殿と祭壇との間で殺されたバラキヤの子ザカ

リヤに至るまで、神を敬う人たちが流したすべての血について、あなたがたは有罪とされます。　そうです。　何世紀にもわたって積み重ねられてきたこれらの報いは、今この時代の者たちの上に一度に降りかかってくるのです。

37　ああ、エルサレム、エルサレム。　預言者たちを殺し、神がこの都のために遣わされたすべての人を石で打ち殺す町よ。　わたしは、めんどりがひなを翼の下に集めるように、何度、あなたの子らを集めようとしたことでしょう。　それなのに、あなたがたはそれを拒んでしまったのです。　38ですから、あなたがたの家は荒れ果てたまま見捨てられます。　39はつきり言うておきます。　神から遣わされた方を喜んで迎えるようになるまで、あなたがたは二度とわたしを見ることはありません。」

二四

この世の終わり

1　イエスが神殿の庭から出ようとしておられると、弟子たちが近寄って来て、「この神殿は、たいそう立派ですね」と言いました。

2　ところが、イエスは言われました。　「今、あなたがたが目を見張っているこれらの建物は、一つの石もほかの石の上に残らないほど、あとかたもなく壊されてしまいます。」

3　そのあとのことです。　イエスがオリーブ山の中腹に座っておられると、弟子たちが来てこっそり尋ねました。　「そんな恐ろしいことがいつ起こるのですか。　あなた様がもう一度おいでになる時や、この世の終わりには、どんな前兆があるのでしょうか。」

4　そこでイエスは、彼らに説明なさいました。　「だれにもだまされないようにしなさい。　5そのうち、自分こそキリストだと名乗る者が大ぜい現われて、多くの人を惑わすでしょう。　6また、あちらこちらで戦争が始まったといううわさが流れるでしょう。　だがそれは、わたしがもう一度来る時の前兆ではありません。　こういう現象は必ず起こりますが、それでもまだ、終わりが来たものではありません。　7民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、至る所でききんと地震が起こります。　8しかし、これらはみな、やがて起こる恐ろしい出来事のほんの始まりにすぎないのです。

9　その時、あなたがたは苦しめられ、殺されることもあるでしょう。また、わたしの弟子だというだけで、世界中の人から憎まれるでしょう。　10ですから、その時には多くの者が罪の生活に逆戻りし、互いに裏切り、憎み合います。　11また多くの偽預言者が現われ、大ぜいの人を惑わします。　12罪があらゆる所にはびこり、人々の愛は冷えきってしまいます。　13けれども、最後まで耐え忍ぶ者は救われるのです。

14　そして御国についてのすばらしい知らせが全世界に宣べ伝えられ、すべての国民がそれを耳にします。　それから、ほんとうの終わりが来るのです。

15　ですから、預言者ダニエルが語った、あの恐るべきものが聖所に立つのを見たなら〔読者よ、この意味をよく考えなさい〕、　16その時は、ユダヤにいる人たちは山に逃げなさい。　17屋上にいる人たちは家の中の物を持ち出そうと下に降りてはいけません。

18畑で野良仕事をしている人たちは着物を取りに戻ってはいけません。

19 このような日には、妊娠している女と乳飲み子をかかえている母親は、ほんとうに不幸です。 20 あなたがたの逃げる日が、冬や安息日にならないように祈りなさい。 2

1 その時には、歴史上、類を見ないような大迫害が起こるからです。

22 もし、このような迫害の期間が短くされないなら、人類は一人残らず滅ぶでしょう。だが、神に選ばれた人たちのために、この期間は短くされるのです。

23 その時、『キリスト様がここにおられるぞ』とか、『あそこだ』『いや、ここだ』などと情報が乱れ飛んでも、そんなデマを信じてはいけません。 24 それは、偽キリストや偽善者たちです。 彼らは不思議な奇蹟を行なって、できることなら、神に選ばれた者たちをさえ、惑わそうとするのです。 25 いいですね。 よく警告しておきますよ。

26 ですから、だれかが、『メシヤ(救い主)がまたおいでになった。荒野におられるぞ』と知らせても、わざわざ見に出かけることはありません。 また、『メシヤはこれこれの所に隠れておられるぞ』と言っても、信じてはいけません。 27 なぜなら、メシヤのわたしは、いなくとも東から西へひらめき渡るようにして、帰って来るからです。 28 死体がある所には、はげたかが集まるものです。

29 これらの迫害が続いたすぐあとで、太陽は暗くなり、月は光を失い、星は天から落ち、宇宙に異変が起こります。

30 その時、わたしが来るという前兆が天に現われるのです。 地上のあらゆる国の人々は深い悲しみに包まれ、わたしが力とすばらしい栄光を帯びて、雲に乗って来るのを見ます。 31 ラッパが高らかに鳴り響く中で、わたしは御使いたちを遣わします。 御使いたちは、天と地の果てから果てまで行き巡り、選ばれた者たちを集めるのです。

32 さあ、いちじくの木から教訓を学びなさい。 いちじくの葉が出てくれば、夏は間近です。 33 同じように、このようなことが起こり始めたら、わたしは、もう戸口まで来ているのです。 34 それらのことが全部起こってから、この時代は終わりになるのです。

35 天地は消え去りますが、わたしのことばは永遠に残ります。 36 だが、その日、その時がいつであるかは、だれも知りません。 御使いばかりか、神の子さえも、知らないのです。 ただ父だけがご存じです。

37 38 ちょうど、ノアの時代のように。 当時の人々は洪水が襲う直前まで、やれ宴会だ、パーティーだ、結婚式だと陽気にやっていました。 39 何もかも押し流されてしまうまで、洪水のことなど信じようとしなかったのです。 わたしが来る時も、それと同じです。

40 その時、二人の人が野良仕事をしていると、一人は天に上げられ、一人はあとに残されます。 41 家事をしている二人の婦人のうち、一人は天に上げられ、一人はその場に残されます。

42 主はいつ来られるか、わからないのだから、いつ来られてもいいように準備をしておきなさい。

4 3 寝ずの番をしていれば、どろぼうに入られることもありません。 4 4 同じように、日ごろの備えが万全であれば、わたしが何の前ぶれもなくやって来ても、少しも困ることはないはずです。

4 5 4 6 あなたがたは、主の、賢い忠実な召使として働いていますか。 あなたがたに、子供たちの食事の世話をし、家の中を管理する仕事を任せたではありませんか。 わたしが帰って来た時、その仕事を忠実にやっているところを見られる人はしあわせです。 4 7 わたしはそのような忠実な人たちに、全財産を管理させるつもりです。

4 8 しかし、もし、あなたがたが悪い召使で、『主はまだ当分、帰って来ないだろう』と高をくくり、 4 9 仲間をいじめたり、宴会を開いて酒を飲んだりし始めたらどうでしょう。 5 0 主は何の前ぶれもなく、思いがけない時に帰って来て、この有様を見、 5 1 あなたがたを激しくむち打ち、偽善者たちと同じ目に合わせるでしょう。 あなたがたは泣きわめき、歯ぎしりしてくやしがるのです。

二五

再び天国のたとえ話

1 天国は、ランプを持って花婿を迎えに出た、十人の娘〔花嫁の付き添い〕の話でも説明できます。 2 - 4 そのうちの五人は賢く、ランプの油を十分用意していましたが、残りの五人は愚かで、うっかり忘れていました。

5 さて、花婿の到着が遅れたので、みな横になり寝入ってしまいました。 6 真夜中ごろ、ようやく、『花婿のお着き一つ。 迎えに出なさい』と叫ぶ声がします。

7 8 娘たちはとび起きると、めいめい自分のランプを整えました。 その時、油を用意していなかった五人の娘は、ランプが今にも消えそうなので、ほかの五人に油を分けてほしいと頼みました。

9 『ごめんなさい。 でも、分けてあげるほどはないの。 それよりもお店に行って、買って来たほうがいいんじゃないかしら。』

1 0 こう言われて、あわてて買いに行っているうちに、花婿が到着しました。 用意のできていた娘たちは、花婿といっしょに披露宴に行き、戸は閉じられました。

1 1 そのあとで、例の五人が帰って来て、『ご主人様一つ、戸を、戸を開けてくださーい』と叫びました。

1 2 ところが主人は、『さっさと行ってしまえ。 もう遅すぎる！』と冷たく答えました。

1 3 こんなことにならないために、目を覚まして、いつでもわたしを迎える準備をしないさい。 わたしが来るその日、その時が、いつかわからないのですから……。

1 4 天国はまた、他国へ出かけたある人の例で説明できます。 彼は出発前に、使用人たちを呼び、『さあ、元手をやるから、これで留守中に商売をしろ』と、それぞれにお金を預けました。

1 5 めいめいの能力に応じて、一人には百五十万円、ほかの一人には六十万円、もう一人には三十万円というふうに。 こうして、彼は旅に出ました。 1 6 百五十万円受け取

った男は、それを元手にさっそく商売を始め、じきに百五十万円もうけました。 17 六十万円受け取った男もすぐ仕事を始め、六十万円もうけました。

18 ところが、三十万円受け取った男は、地面に穴を掘ると、その中にお金を隠してしまいました。

19 だいぶ時がたち、主人が帰って来ました。 すぐに使用人たちが呼ばれ、清算が始まりました。 20 百五十万円預かった男は三百万円を差し出しました。

21 主人は彼の働きをほめました。 『おまえはわずかなお金を忠実に使ったな。 今度はもっと大きな責任のある仕事をやろう。 私と一っしょに喜んでくれ。』

22 次に、六十万円受け取った男が来て、報告しました。 『ご主人様。 ごらんください。 あの六十万円を倍にしました。』

23 『よくやった。 おまえはやり手で、しかも忠実なやつだ。 わずかなお金を忠実に使ったから、次はもっとたくさんの仕事をやろう。』主人はこの男もほめてやりました。

24 25 最後に、三十万円受け取った男が進み出て、言いました。 『ご主人様。 あなた様はたいそうひどい方でございます。 私は前々から、それを存じ上げておりましたから、せっかくお金をもうけても、あなた様が横取りなさるのではないかと、こわくてしかたがなかったのです。 それで、あなた様のお金を土の中に隠しておきました。 はい、これがそのお金でございます。』

26 これを聞いて、主人は答えて言いました。 『なんという悪いやつだ！ なまけ者めが！ 私がおまえのもうけを取り上げるのが、わかっていたというのか。 27 だったら、せめて、そのお金を銀行にでも預金しておけばよかったのだ。 そうすりゃあ、利息がついたじゃないか。 28 さあ、こいつのお金を取り上げて、三百万円持っている者にやってしまえ。 29 与えられたものを上手に使う者にはもっと多くのものが与えられて、ますます豊かになる。 だが不忠実な者は、与えられたわずかなものさえ取り上げられてしまうのだ。 30 役立たずは、外の暗やみへ追い出してしまえ。 そこで、泣きわめくなり、歯ざしりしてくやしがるなりするがいい。』

31 けれども、メシヤ（救い主）のわたしが、その栄光の輝きのうちに、すべての御使いと共にやって来る時、わたしは栄光の王座につきます。 32 そして、すべての国民がわたしの前に集められます。 その時わたしは、羊飼いが羊とやぎとを選別するように、人々を二組に分け、 33 羊はわたしの右側に、やぎを左側に置きます。

34 王として、わたしはまず、右側の人たちに言います。 『わたしの父に祝福された人たちよ。 さあ、この世の初めから、あなたがたのために用意されていた御国に入りなさい。 35 あなたがたは、わたしが空腹だった時に食べ物を与え、のどが渴いていた時に水を飲ませ、旅人だった時に家に招いてくれたからです。 36 それにまた、わたしが裸の時に服を与え、病気の時や、牢獄にいた時には見舞ってもくれました。』

37 すると、これらの正しい人たちは答えるでしょう。 『王様。 私たちがいったいいつ、あなた様に食べ物を差し上げたり、水を飲ませたりしたのでしょうか。 38 また、

いったいいつ、あなた様をお泊めしたり、服を差し上げたり、 39 お見舞いにうかがったりしたでしょうか。』

40 『あなたがたが、だれでも困っている人に親切にしたのは、わたしにしたのと同じなのですよ。』

41 次に、左側にいる人たちに言います。 『のろわれた者たちよ。 さあ、悪魔とその手下の悪霊どものために用意されている、永遠に燃え続ける火の中に入りなさい！ 4

2 あなたがたは、わたしが空腹だった時にも食べ物をくれず、のどが渴いていた時にも水一滴恵もうとはせず、 43 旅人だった時にも、もてなそうとはしませんでした。 またわたしが裸の時にも着物一枚くれるわけではなく、病気の時にも、牢獄にいた時にも知らん顔をしていたではありませんか。』

44 すると彼らは、こんなふうに抗議するでしょう。 『王様。 私たちがいったいいつ、あなた様が空腹だったり、のどが渴いていたり、旅人だったり、裸だったり、病気だったり、牢獄におられたりするのを見て、お世話しなかったとおっしゃるのですか。』

45 そこで、わたしはこう言います。 『あなたがたが、これらの一番小さい者たちを助けようとしなかったのは、わたしを助けなかったのと同じです。』

46 こうして、この人たちは永遠の刑罰を受け、一方、正しい人たちには永遠のいのちが与えられるのです。」

二六

ユダの裏切り

1 イエスはこれらのことを話し終えると、弟子たちに言われました。

2 「あなたがたも知っているように、あと二日で過越の祭りが始まります。 いよいよ、わたしが裏切られ、十字架につけられる時が近づいたのです。」

3 ちょうどそのころ、大祭司カヤパの家では、祭司长やユダヤ人の指導者たちが集まり、4 イエスをひそかに捕らえて殺そうという相談のまっ最中でした。 5 しかし、「祭りの間は見合わせたほうがいいだろうな。 群衆の暴動でも起きたら、それこそ大変だから」というのが、彼らの一致した意見でした。

6 さて、イエスはベタニヤへ行き、らい病人シモンの家にお入りになりました。 7 そこで食事をしておられると、非常に高価な香油のつぼを持った女が入って来て、その香油をイエスの頭に注ぎかけました。

8 それを見た弟子たちは、腹を立てました。 「なんてもったいないことを！ 9 売ればひと財産にもなって、貧しい人たちに恵むこともできたのに。」

10 イエスはこれを聞いて言われました。 「なぜ、そうとやかく言うのですか。 この女はわたしのために、とてもよいことをしてくれたのです。 11 いいですか。 貧しい人たちならいつも回りにいますが、わたしはそうではありません。 12 今、この女が香油を注いでくれたのは、わたしの葬りの準備なのです。 13 ですから、よく言うておきますが、この女のことは、いつまでも忘れられないでしょう。 そして御国のすばらし

い知らせが伝えられる所ならどこでも、この女のしたことも語り継がれるでしょう。」

1415 このことがあってから、十二弟子の一人、イスカリオテのユダは祭司長たちのところへ、「あのイエスをあなたがたに売り渡したら、いったい、いくらいただけるんですか」と聞きに行きました。 こうして、とうとう彼らから銀貨三十枚を受け取ったのです。 16 この時から、ユダはイエスを売り渡そうと機会をねらい始めました。

17 過越の祭りの日、すなわちイースト菌を入れないパンの祭りの最初の日に、弟子たちが来て、イエスに尋ねました。 「先生。 過越の食事は、どこですればよろしいでしょうか。」

18 「町に入って行くと、これこれの人に会います。 その人に言いなさい。 『私どもの先生が「わたしの時が近づいた。 お家で弟子たちといっしょに過越の食事をしたいのだが」と申しております。』」 19 弟子たちはイエスの言われたとおりに事を運び、夕食の用意をしました。

20 その夕方、十二弟子といっしょに食事をしている時、 21 イエスは、「あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切ろうとしています」と言われました。

22 これを聞いた弟子たちはひどく心を痛め、口々に「まさか、私じゃないでしょうね」と尋ねました。

23 「わたしといっしょに鉢に手を浸している者が、裏切るのです。 24 わたしは預言のとおり、死ななければなりません。 だが、わたしを裏切る者はのろわれます。 その人は、むしろ生まれなかったほうがよかったのです。」

25 ユダも、何げないふりをして尋ねました。 「先生。 まさか、私じゃないでしょうね。」

「いや、あなたです。」 イエスはお答えになりました。

26 食事の最中に、イエスは一かたまりのパンを取り、祝福してから、それをちぎって弟子たちに分け与えました。 「これを取って食べなさい。 わたしの体です。」

27 またぶどう酒の杯を取り、感謝の祈りをささげてから、弟子たちに与えて言われました。 「皆この杯から飲みなさい。 28 これは新しい契約を保証するわたしの血、多くの人の罪を赦すために流される血です。 29 よく言っておきますが、やがて父の御国で、あなたがたといっしょに新しく飲む日まで、わたしは二度と、このぶどう酒を飲みません。」

30 このあと、一同は賛美歌をうたうと、そこを出て、オリーブ山に向かいました。

31 その時、イエスは弟子たちに言われました。 「今夜あなたがたはみな、わたしを見捨てて逃げるでしょう。 聖書(旧約)に、『わたしが羊飼いを打つ。 すると羊の群れは散り散りになる』と書いてあるから……。 32 だが、わたしは復活して、もう一度ガリラヤに行きます。 そこであなたがたに会います。」

33 「たとい、みんながあなた様を見捨てようと、私だけは、この私だけは絶対に、見捨てなどいたしません」と叫ぶペテロに、 34 イエスは言われました。 「はっきり言い

ましょう。 あなたは今夜鶏が鳴く前に、三度、わたしを知らないと言います。」

35 しかしペテロは、「死んでも、あなた様を知らないなどとは申しません」と言いやり、ほかの弟子たちも、口々に同じことを言いました。

苦しみ祈るイエス

36 それからイエスは、弟子たちを連れて、木の茂ったゲツセマネの園に行かれました。そして弟子たちに、「わたしが向こうで祈っている間、ここに座って待っていてください」と言い残し、37 ペテロと、ゼベダイの子ヤコブとヨハネだけを連れて、さらに奥のほうへ行かれました。その時です。激しい苦痛と絶望がイエスを襲い、苦しみもだえ始められました。

38 「ああ、恐れと悲しみのあまり、今にも死にそうです。ここを離れずに、わたしといっしょに目を覚ましてください。」

39 三人にこう頼むと、イエスは少し離れた所に行き、地面にひれ伏して必死に祈られました。「父よ。もし、もしできることなら、この杯を取り除いてください。しかし、わたしの思いどおりにではなく、あなたのお心のままになさってください！」

40 それから、弟子たちのところへ戻って来られると、なんと、三人ともぐっすり眠り込んでいるではありませんか。そこで、ペテロを呼び起こされました。「起きなさい、ペテロ。たったの一時間も、わたしといっしょに目を覚ましていられなかったのですか。」

41 油断しないで、いつも祈っていなさい。さもないと誘惑に負けてしまいます。あなたがたの心は燃えていても、肉体はとても弱いのですから。」

42 こうしてまた、彼らから離れて、祈られました。「父よ。もし、この杯を飲みほさなければならないのでしたら、どうぞ、あなたのお心のままになさってください！」

43 イエスがもう一度戻って来られると、三人はまたもや眠り込んでいます。まぶたが重くなって、どうしても起きていられなかったのです。44 イエスは、三度目の祈りをするために戻り、前と同じ祈りをなさいました。

45 それからまた、弟子たちのところに来て、「まだ眠っているのですか！目を覚まさない。時が来ました。いよいよ、わたしは悪い人たちに売り渡されるのです。46 立ちなさい。さあ、行くのです。ごらんなさい、裏切り者が近づいて来ます」と言われました。

47 イエスがまだ言い終わらないうちに、十二弟子の一人ユダがやって来ました。彼といっしょに、ユダヤ人の指導者たちが差し向けた大ぜいの群衆も、手に手に剣やこん棒を持って向かって来ます。48 彼らの間では、ユダがあいさつする相手こそイエスだから、そいつを逮捕するようと、前もって打ち合わせがしてありました。49 それで、ユダはまっすぐイエスのほうへ歩み寄り、「先生。こんばんは」と声をかけ、さも親しげにイエスを抱きしめました。

50 イエスが「ユダよ。さあ、おまえのしようとしていることを、しなさい」と言われたその瞬間、人々はてんでに飛びかかり、イエスを捕らえました。

5 1 その時、イエスといっしょにいた一人が、さっと剣を抜き放つと、大祭司の部下の耳を切り落としました。

5 2 ところが、イエスは彼を制せられたのです。「剣をさやに納めなさい。 剣を使う者は、自分もまた剣で殺されるのです。 5 3 わからないのですか。 わたしが願いさえすれば、父が何万という御使いを送って、わたしを守ってくださるのです。 5 4 しかし、もし今そんなことをしたら、こうなると書いてある聖書（旧約）のことばが実現しないではありませんか。」

5 5 そして今度は、群衆に向かって言われました。「剣やこん棒で、これほどもののしく武装しなければならないほど、わたしは凶悪犯なのでしょうか！ わたしが毎日神殿で教えていた時には、手出しもできなかったではありませんか。 5 6 だがいいですか、こうなったのはすべて、預言者たちのことばが実現するためなのです。」

もうこの時には、弟子たちはみな、イエスを見捨てて逃げ去っていました。

5 7 暴徒どもは、イエスを大祭司カヤパの家に引っ立てました。 ちょうど、ユダヤ人の指導者たちが、一堂に集まり、今や遅しと待ちかまえているところでした。 5 8 一方、ペテロは遠くからあとをつけて行き、大祭司の家の中庭にもぐり込みました。 そして兵士たちにまじって、イエスがどんなことになるのか見届けようと思いました。

5 9 そこには、祭司長たちやユダヤの最高議会の全議員が集まり、なんとかイエスを死刑にしようと、偽証する者を捜し回っていました。

6 0 ところが、偽証した者は多かったのですが、その証言がみな食い違っているのです。そうこうするうちに、やっとのことで、格好の証人が現われました。 二人の男が進み出て、 6 1 「こいつは、『神殿を打ちこわして、三日の間に建て直すことができる』と言っていました」と、証言したのです。

6 2 大祭司はここぞとばかりに立ち上がり、イエスに問いました。「さあ、黙っていないで答えたらどうだ。 ほんとうにそんな大それたことを言ったのか。 それとも言わなかったのか。」 6 3 それでもなお、イエスは黙っておられます。 大祭司は続けました。「生ける神の御名によって命じる。 おまえは神の子キリストなのかどうか。 さあ、はっきり答えてみろ。」

6 4 イエスはお答えになりました。「そのとおり、わたしがキリストです。 あなたがたは、やがてメシヤ（救い主）のわたしが、神の右の座につき、雲に乗って来るのを見るでしょう。」

6 5 これを聞いた大祭司は、即座に着物を引き裂き、大声で叫びました。「冒瀆だ！ 神を汚すことばだ！ これだけ聞けば十分だ。 さあ、みんなも聞いたとおりだ。 6 6 この男をどうしよう。」

一同はいっせいに叫びました。「死刑だ、死刑だ、死刑にしろっ！」

6 7 そうして、イエスの顔につばきをかけたり、げんこつでなぐったりしました。 中には、平手打ちを食らわせて、 6 8 「おい、キリストだってなあ。 当ててみろよ。 今

おまえさんを打ったのはどこのどいつだい」とからかう者もいました。

ペテロの大失敗

69 一方、ペテロは中庭に座っていましたが、一人の女中がやって来て、「あら、あんたイエスといっしょにいた人じゃないの。二人ともガリラヤの人でしょう」と話しかけました。

70 ところがペテロは、「人違いだ。変な言いがかりはよしてくれ」と大声で否定しました。

71 まずいことになったと、急いで出口のほうへ行きかけると、また別の女中に見つかりました。女中は回りの人たちに、「ねえねえ、この人もナザレから来たイエスという人といっしょだったわよ」と言いふらすではありませんか。

72 ペテロはあわててそれを打ち消し、その上、「断じて、そんな男は知るもんか」と誓いました。

73 ところが、しばらくすると、近くにいた人たちが彼のところへ来て、口々に言い始めました。「いやーっ、おまえは確かにあの男の弟子の一人だぞ。隠してもむださ。そのガリラヤなまりが何よりの証拠だからな。」

74 たじたじとなったペテロは「そんな男のことなんか、絶対に知るもんか。これがうそなら、どんな罰があたってもかまわないぞ」と言いだしました。

するとどうでしょう。すぐに、鶏の鳴く声が聞こえました。75 その瞬間、ペテロは、はっとわれに返りました。「鶏が鳴く前に、あなたは三度わたしを知らないと言うでしょう」と言われたイエスのことばを思い出したからです。ペテロは外へ駆け出して行くと、胸も張り裂けんばかりに激しく泣きました。

二七

イエスの裁判と十字架の死

1 さて、朝になりました。祭司長とユダヤ人の指導者たちはまた集まり、どうやってローマ政府にイエスの死刑を承認させようかと、あれこれ策を練りました。2 それから、縛ったまま、イエスをローマ総督ピラトに引き渡しました。

3 ところで、裏切り者のユダは、どうなったでしょう。イエスに死刑の判決が下されると聞いてはじめて、彼は自分のしたことがどんなに大それたことか気づき、深く後悔しました。祭司長やユダヤ人の指導者たちのところに銀貨三十枚を返しに行き、4 「私はとんでもない罪を犯してしまった。なんてことだ。罪のない人を裏切ったりして…」と言いました。

しかし祭司長たちは、「今さらわたしの知ったことか。かつてにしろ」と突っぱね、取り合おうとしません。

5 それでユダは、神殿の床に銀貨を投げ込み、出て行って首をくくって死んでしまいました。6 祭司長たちはその銀貨を拾い上げてつぶやきました。「まさか、これを神殿の金庫に入れるわけにもいくまい。人を殺すために使った金を納めるなど、おきてに反

することだからなあ……。」

7 相談の結果、そのお金で、陶器師が粘土を取っていた畑を買い上げ、そこをエルサレムで死んだ外国人の墓地とすることに決まりました。 8そこでこの墓地は、今でも「血の畑」と呼ばれています。

9 10 こうして、エレミヤの預言のとおりになったのです。 「彼らは銀貨三十枚を取った。 それは、イスラエルの人々がその人を見積った値段だ。 彼らは、主が私に命じられたように、それで陶器師の畑を買った。」

11 さてイエスは、ローマ総督ピラトの前に立たれました。 総督はイエスを尋問しました。 「おまえはユダヤ人の王なのか。」 イエスは「そのとおりです」とお答えになりました。

12 しかし、祭司長とユダヤ人の指導者たちからいろいろな訴えが出されている時には、口をつぐんで、何もお答えになりませんでした。 13それでピラトは、「おまえにあれほど不利な証言をしているのが、聞こえんのか」と尋ねました。

14 それでもイエスは何もお答えになりません。 これには総督も、驚きあきれてしまいました。

15 ところで、毎年、過越の祭りの間に、ユダヤ人たちが希望する囚人の一人に、総督が恩赦を与える習慣がありました。 16当時、獄中には、バラバという悪名高い男が捕らえられていました。 17それで、その朝、群衆が官邸に詰めかけた時、ピラトは尋ねました。 「さあ、いったいどちらを釈放してほしいのか。 バラバか、それともキリストと呼ばれるイエスか。」 18こう言ったのは、イエスが捕らえられたのは、イエスの人気をねたむユダヤ人の指導者たちの陰謀にすぎない、とにらんだからです。

19 裁判のまっ最中に、ピラトのところへ夫人が、「どうぞ、その正しい方に手をお出しになりませんように。 ゆうべ、その人のことで恐ろしい夢を見ましたから」と言ってよこしました。

20 ところが、祭司長とユダヤ人の役人たちは、バラバを釈放し、イエスの死刑を要求するように、群衆をたきつけました。 21それで、ピラトがもう一度、「二人のうち、どちらを釈放してほしいのか」と尋ねると、群衆は即座に、「バラバを！」と大声で叫んだのでした。

22 「では、キリストと呼ばれるあのイエスは、どうするのだ。」

「十字架につけろっ！」

23 「どうしてか。 ええっ。 あの男がいったいどんな悪事を働いたというのだ。」 ピラトがむきになって尋ねても、人々は「十字架だっ！ 十字架につけろっ！」と叫び続けるばかりです。

24 どうにも手のつけようがありません。 暴動になる恐れさえ出してきました。 あきらめたピラトは、水を入れた鉢を持って来させ、群衆の面前で手を洗い、「この正しい人の血について、私には何の責任もない。 責任は全部おまえたちが負え」と言いました。

25 すると群衆は大声で、「かまうもんか。責任はおれたちが負ってやらあ。子供らの上にふりかかってもいいぜ」とわめき立てるのでした。

26 ピラトはやむなくバラバを釈放し、イエスのほうは、むち打ってから、十字架につけるためにローマ兵に引き渡しました。27 兵士たちはまず、イエスを兵営に連れて行き、全部隊を召集すると、28 イエスの着物をはぎとって赤いガウンを着せ、29 長いとげのいばらで作った冠を頭に載せ、右手には、王の笏に見立てた葦の棒を持たせました。それから、拝むまねをして、「これはこれは、ユダヤ人の王様ですか。ばんざーいっ！」とはやし立てました。30 また、つばきをかけたり、葦の棒をひったくって頭をたたいたりしました。

31 こうしてさんざんからかったあげく、赤いガウンを脱がせ、もとの服を着せると、いよいよ十字架につけるために引っ立てて行きました。32 刑場に行く途中、通りすがりの男にむりやりイエスの十字架を背負わせました。クレネから来合わせていたシモンという男でした。33 ついに、ゴルゴタ、すなわち「がいこつの丘」という名で知られる場所に着きました。34 兵士たちはそこで、薬用のぶどう酒を飲ませようとしたのですが、イエスはちょっと口をつけただけで、飲もうとはなさいませんでした。

35 イエスを十字架につけ終わると、兵士たちはさいころを投げてイエスの着物を分け合いました。36 それがすむと、今度はその場に座り込んで見張り番です。37 またイエスの頭上には、「この者はユダヤ人の王イエスである」と書いた罪状書きを打ちつけました。

38 その朝、強盗が二人、それぞれイエスの右と左で十字架につけられました。39 刑場のそばを通りかかった人々は、大げさな身ぶりをしながら、口ぎたなくイエスをののしりました。40 「やーい。神殿を打ちこわして、三日のうちに建て直せるんだってなあ！へん、おまえが神の子だって？なら、十字架から降りてみろよ。」

41 祭司長やユダヤ人の指導者たちも、イエスをあざけりました。42 「ふん、他人は救えるが自分は救えないというわけか。イスラエルの王が聞いてあきれられるわ。さあ、十字架から降りて来い！そうしたら信じてやろうじゃないか。43 おまえは神様に頼ってるんだろうが。神様のお気に入りなら、せいぜい助けていただくがいい。なにしろ、自分を神の子だと言ってたんだからな。」

44 強盗までがいっしょになって、悪口をあびせました。

45 さて時間がたち、正午にもなったでしょうか、急にあたりが暗くなり、一面のやみにおおわれました。それが、なんと三時間も続いたのです。

46 三時ごろ、イエスは大声で、「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれました。それは「わが神、わが神。どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。

47 近くで、その声を聞いた人の中には、「あれはエリヤを呼んでいるのだ」と思う者もいました。48 一人の男がさっと駆け寄り、海綿に酸っぱいぶどう酒を含ませると、それを葦の棒につけて差し出しました。49 ところが、ほかの者たちは、「放っておけよ。

エリヤが救いに来るかどうかわ、とくと拝見しようじゃないか」と言うだけでした。

50 その時、イエスはもう一度大声で叫んで、息を引き取られました。 51 するとどうでしょう。 神殿の至聖所を仕切っていた幕が、上から下まで真っ二つに裂けたのです。大地は揺れ動き、岩はくずれました。 52 さらに墓が開いて、生前神を敬う生活を送った人たちが、大ぜい生き返りました。 53 彼らはイエスが復活されたあと、墓を出てエルサレムに入り、多くの人の前に姿を現わしたのです。

54 十字架のそばにいた隊長や兵士たちは、このすさまじい地震やいろいろの出来事を見て震え上がり、「ああ、この人はほんとうに神の子だった！」と叫びました。

55 イエスの世話をするためにガリラヤからついて来た、大ぜいの婦人たちも、遠くからこの様子を見ていました。 56 マグダラのマリヤ、ヤコブとヨセフの母マリヤ、ゼベダイの息子のヤコブとヨハネとの母などです。

イエスの埋葬

57 夕方になりました。 イエスの弟子で、アリマタヤ出身のヨセフという金持ちが来て、 58 ピラトに、イエスの遺体を引き取りたいと願い出ました。 ピラトは願いを聞き入れ、遺体を渡すように命じました。 59 ヨセフは遺体を取り降ろすと、きれいな亜麻布でくるみ、 60 岩をくり抜いた、自分の新しい墓に納めました。 そして、大きな石を転がして入口をふさぎ、帰って行きました。 61 この有様を、マグダラのマリヤともう一人のマリヤが、近くに座って見ていました。 62 63 翌日の安息日に、祭司長やパリサイ人たちがピラトに願い出ました。 「総督閣下。 あの大うそつきめは、確か、『わたしは三日後に復活する』……とか何とかぬかしていました。 64 それをいいことに、弟子どもが死体を盗み出し、イエスは復活したと言いふらしては、まずいことになりかねません。 それこそ、今どころの騒ぎではすみません。 大混乱になるかもしれません。ですからどうぞ、墓を三日目まで封印するように命令を出してください。」

65 ピラトは答えました。 「よろしい。 では神殿警備員に、厳重に見張らせるがよい。」

66 そこで彼らは、石に封印をし、警備員をおいて、だれも忍び込めないようにしました。

二八

イエスは復活した！

1 安息日も終わり、日曜日になりました。 マグダラのマリヤともう一人のマリヤは、明け方早く、墓へ出かけました。

2 突然、大きな地震が起きました。 主の使いが天から下って来て、墓の入口から石を転がし、その上に座ったからです。 3 御使いの顔はいなずまのように輝き、着物はまばゆいほどの白さでした。 4 警備員たちはその姿を見て震え上がり、まるで死人のようになって、へなへなと座り込んでしまいました。

5 すると、御使いがマリヤたちに声をかけました。 「こわがらなくてもいいのです。

十字架につけられたイエス様を捜していることはわかっています。 6 だがもう、イエス様はここにはおられません。 前から話していたように復活されたのです。 中に入って、遺体の置いてあった所を見てごらんなさい……。 7 さあ早く行って、弟子たちに、イエス様が死人の中から復活されたこと、ガリラヤへ行けば、そこでお会いできることを知らせてあげなさい。 わかりましたね。」

8 二人は、恐ろしさに震えながらも、一方ではあふれる喜びを抑えることができませんでした。 一刻も早くこのことを弟子たちに伝えようと、一目散に駆けだしました。 9 すると、そこへ突然イエスがお姿を現わされ、目の前にお立ちになり、「おはよう」とあいさつなさいました。 二人はイエスの前にひれ伏し、御足を抱いて礼拝しました。

10 イエスは言われました。 「こわがらなくてもいいのですよ。 行って、わたしの兄弟たちに、すぐガリラヤへ行くように言いなさい。 そこでわたしに会えるのです。」

11 二人が町へ急いでいるころ、墓の番をしていた警備員たちは祭司長たちのところに駆け込み、一部始終を報告しました。

12 13 ユダヤ人の指導者が全員召集され、善後策が講じられました。 その結果、警備員たちにお金をつかませて、夜、眠っている間に、イエスの弟子たちが死体を盗んでいった、と言わせることにしました。

14 「もしこのことが総督閣下の耳に入ったとしても、うまく説得してやるから心配ない。 おまえたちには決して迷惑はかけない。」 彼らはこう約束しました。

15 賄賂を受け取った警備員たちは、言われたとおりに話しました。 そのため、この話は広くユダヤ人の間に行き渡り、今でも、彼らはそう信じているのです。

16 一方、十一人の弟子はガリラヤに出かけ、イエスから指示された山に登りました。

17 そこでイエスにお会いして礼拝しましたが、中には、ほんとうにイエスだと信じない者もいました。

18 イエスは弟子たちに言われました。 「わたしには天と地のすべての権威が与えられています。 19 だから、出て行って、すべての国の人々をわたしの弟子とし、彼らに、父と子と聖霊との名によってバプテスマ（洗礼）を授けなさい。 20 また、新しく弟子となった者たちには、あなたがたに命じておいたすべての戒めを守るように教えなさい。 わたしはこの世の終わりまで、いつもあなたがたと共にいるのです。」

■

マルコの福音書（青年マルコの記録）

すべての人に気を配り、いたわり、愛し続けるイエス。どんな時でも、苦しみ、悲しみ、助けを必要としている人々に仕え続けられるイエス。そして、最後には、全人類の救いのために、ご自分のいのちまでも投げ出されたイエス。本書は、そういうイエスの姿を見、行動を共にした使徒ペテロの語る思い出話の数々を、イエスが逮捕される時、逃げた青年（マルコ一四・五一、五二）と思われているマルコが記録したものです。

一

1 神の子イエス・キリストの世にもすばらしい物語の始まりは、こうです。

2 神様が地上にご自分のひとり子を遣わされることと、彼を迎える準備のために特別な使者を送られることとは、預言者イザヤがずっと以前に告げていました。

3 「この使者は、不毛の荒野に住み、すべての人に呼びかける。『生活を正せ。主をお迎えする準備をせよ』と、イザヤの書物に書いてあります。

バプテスマのヨハネの働き

4 この使者とは、バプテスマのヨハネのことです。彼は荒野に住み、人々にこう教えました。「罪を赦していただくために、悔い改めて神に立ち返れ。そして、そのしるしにバプテスマ（洗礼）を受けるのだ。」 5 このヨハネのことばを聞こうと、エルサレムばかりか、ユダヤ全国から大ぜいの人々が詰めかけ、次々と今までの悪い思いや行ないを神様に告白しました。ヨハネはそういう人たちに、ヨルダン川でバプテスマを授けていたのです。 6 らくだの毛で織った着物に、皮の帯、いなごとはち蜜が常食という生活を送りながら、 7 彼は次のように宣べ伝えました。

「私よりもはるかにすばらしい方が、もうすぐおいでになる。私など、その方のしもべとなる値打もない。 8 私は水でバプテスマを授けているが、その方は聖霊様によってバプテスマをお授けになるのだ。」

9 そのころ、イエスもガリラヤのナザレから来て、人々といっしょに、ヨルダン川で、ヨハネからバプテスマをお受けになりました。 10 ところが、イエスが水から上がられたちょうどその時、天がさっと開け、聖霊が鳩のようにご自分の上に下って来られるのが見えました。 11 そして天から、「あなたはわたしの愛する子、わたしの喜びだ」というお声が聞こえました。

12 このあとすぐ、聖霊はイエスを荒野へ追いやりました。 13 イエスは、そこで四十日間、野獣と共に過ごし、罪を犯させようとするサタンの誘惑をお受けになりました。しかし後には、御使いたちがやって来て、イエスに仕えていました。

14 ヨハネがヘロデ王の命令で逮捕されると、イエスはガリラヤに行き、神のすばらしい知らせを宣べ伝えました。

15 「いよいよ、来るべき時が来ました。神の国が近づいたのです。皆、悔い改めなさい。このすばらしい知らせに従って行動するのです。」

イエス、弟子を集める

16 ある日、イエスがガリラヤ湖の岸边を歩いておられると、シモンとアンデレが兄弟で網を打っている姿が目に入りました。二人は本職の漁師でした。

17 イエスは声をおかけになりました。「さあ、ついて来なさい。人間をとる漁師にしてあげましょう。」18すると二人はすぐ網を置き、イエスについて行きました。

19 もう少し先に行かれると、ゼベダイの息子のヤコブとヨハネとが舟の中で網を修繕しています。20そこでまた、この二人もお呼びになりました。二人とも、父と雇い人たちとを舟に残したまま、イエスについて行きました。

21 さて、一行はカペナウムの町にやって来ました。土曜日の朝、イエスはユダヤ人の礼拝所である会堂へ出かけて、教えを語られました。22それを聞いた会衆は驚きました。イエスの話し方が、これまで聞いてきたのとは、まるで違っていたからです。イエスはやたらに他人のことばを引用せず、権威をもって堂々と話されました。

イエス、大ぜいの病人を治す

23 ところが、その会堂に悪霊に取りつかれた人がいて、大声で叫びだしました。24「やい、ナザレのイエス！ おれたちをどうしようというんだい。おれたちを滅ぼすために来たんだろうが。あんたのことはよく知ってるぜ。そうとも、神のきよい御子様よ！」

25 イエスは、悪霊にそれ以上は言わせず、「その人から出て行きなさい！」とお命じになりました。26すると、悪霊は大声をあげ、その人を激しく引きつけさせて、出て行きました。27この有様に聴衆は肝をつぶし、興奮のあまり口々に論じ合いました。

「いったい、どうなってるんだ！」

「悪霊どもさえ、命令を聞くなんて……。」

「新しい教えなのかね。」

28 イエスの評判は、たちまちガリラヤの全地方に広まりました。

29 このあと、会堂を出た一行は、シモンとアンデレの家に行きました。30あいにく、この時シモンのしゅうとめは、高熱にうなされて、床についていました。イエスはそれを知ると、31さっそく彼女のそばに行き、手を取って助け起こされました。するとどうでしょう。たちまち熱が下がり、すっかり元気になったしゅうとめは、みんなをもてなすために、いそいそと食事の用意を始めたのです。

32 日の沈むころになると、シモンの家の庭は、イエスに治していただくために連れて来られた、病人や悪霊に取りつかれた者たちで、いっぱいになりました。33また戸口には、カペナウム中の人たちが詰めかけ、がやがや騒ぎながら中の様子をながめていました。34イエスはこの時も、大ぜいの病人を治され、悪霊を追い出されました。しかも、悪霊にひと言も口をきかせませんでした。悪霊は、イエスがどういう方か知っていたからです。

35 翌朝、イエスは夜明け前に起き、ただ一人、人気のない寂しい所へ行行って祈られま

した。

36 そのうちに、あちらこちらとイエスを捜し回ったシモンたちが来て、37「みんなが先生を捜してますよ」と言いました。

38 イエスは、「さあ、ほかの町へ出かけましょう。そこでも教えなければなりません。わたしはそのために来たのですから」とお答えになりました。

39 こうしてイエスは、ガリラヤ中をくまなく回り、会堂で教え、悪霊に取りつかれた人を大ぜいお助けになりました。

40 ある時、一人のらい病人がやって来て、イエスの前にひざまずき、熱心に頼みました。「お願いでございます。どうか私の体をもとどおりに治してください。先生のお気持ちひとつで治るのですから。」

41 イエスは心からかわいそうに思い、彼にさわって、「そうしてあげましょう。さあ、よくなりなさい」と言われました。42すると、たちまち、らい病はあとかたもなくなり、完全に治ってしまいました。4344「これからすぐに祭司のところへ行き、体を調べてもらいなさい。途中で寄り道や立ち話をしてはいけません。健康な体に戻ったことを明らかにするために、モーセの命じたとおりの供え物をしなさい。」

45 イエスにきびしく止められたにもかかわらず、男は、うれしさを抑えきれず、この出来事を大声でふれ回って歩きました。そのため、イエスの回りにはみるみる人垣ができ、公然とは町へ入れなくなりました。しかたなく町はずれにとどまっておられましたが、そこにも、人々が大ぜい押しかけて来ました。

二

1 数日後、イエスはカペナウムに戻られました。イエス来訪のニュースはたちまち町中に伝わり、2人々がいっぱい集まって来ました。家は足の踏み場もないほどで、外にまで人があふれています。この人たちに、イエスは神の教えを語られました。3その時、四人の人が、担架で中風の男を運んで来ました。4しかし、群衆をかき分けて中へ入ることもできません。そこで、屋根にのぼり、穴をあけると、そこから病人を担架に乗せたまま、イエスの前へつり降ろしました。

5 必ず治してもらえると、堅く信じて疑わない彼らの信仰をごらんになって、イエスは中風の男に、「あなたの罪は赦されました」と言われました。

6 ところが、その場にいた何人かのユダヤ人の宗教的指導者たちの心中は、おだやかではありません。7「なんだって！ 神様を汚すことばだ。いったい自分を何様だと思っているのか。罪を赦すなんて、神様にしかできないことなのに。」

8 イエスはすぐに、彼らが心の中で理屈をこねているのを見抜かれました。「どうして、そう思うのですか。9-11この人に、『あなたの罪が赦されました』と言うのと、『起きて歩きなさい』と言うのと、どちらがやさしいですか。さあ、メシヤ（救い主）のわたしが罪を赦したという証拠を見せてあげましょう。」イエスは中風の男のほうに向き直られ、「あなたはもうよくなりました。床をたたんで、家に帰りなさい」と言われまし

た。

12 すると、男はとび起き、床をかかえ、あっけにとられている見物人を押し分けて、出て行ってしまいました。「こんなことは、見たこともない！」人々は口々に叫び、心から神を賛美しました。

13 イエスはまた湖畔に行き、集まって来た大ぜいの群衆にお教えになりました。14 岸辺を歩いておられると、税金取立所にアルパヨの子レビが座っています。「ついて来なさい。わたしの弟子になりなさい。」イエスの呼びかけに、レビはさっと立ち上がり、あとに従いました。

15 その夜、レビは、イエスを夕食に招待しました。その席には、取税人仲間や、評判の悪い人たちも大ぜい招かれていました。イエスに従う者には、この種の人々も多かったのです。16 しかし、これを見たパリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）のある学者たちは、気持ちがおさまりません。弟子たちに詰め寄りました。「おまえさんたちの先生は、どうして、こんなくずみたいな連中といっしょに食事をするのか。」

17 彼らの非難に、イエスはこうお答えになりました。「丈夫な者に医者はいりません。病人こそ医者が必要なのです。わたしは自分を正しいと思っている人たちのためにではなく、罪人を神に立ち返らせるために来たのです。」

パリサイ人の非難

18 バプテスマのヨハネの弟子やパリサイ人たちは、断食のおきてを守っていました。ある時、彼らが来て、「どうして先生のお弟子さんたちは断食しないのですか」と問いました。

19 イエスは、こうお答えになりました。「花婿の友達、披露宴の席で、ごちそうに、はしをつけなかったり、嘆き悲しんだりはしません。20 しかし、やがて花婿が彼らから引き離される日が来ます。その時には断食するのです。21 こう言えばわかるでしょう。水洗いしていない新しい布で、古い着物の継ぎ当てをしてごらんください。どうなりますか。当て布は縮んで着物を破り、穴はますます大きくなってしまいうでしょう。22 新しいぶどう酒を古い皮袋に入れることもしません。そんなことをしたら、皮袋は張り裂け、ぶどう酒はこぼれ、どちらもだいなしでしょう。新しいぶどう酒には、新しい皮袋が必要なのです。」

23 ある安息日のこと、イエスと弟子たちは麦畑の中を歩いていました。その時、弟子たちは麦の穂を摘んで、食べ始めました。

24 これを見たパリサイ人たちは、「お弟子さんたちがあんなことをするなんて！安息日に刈り入れをするのは、おきて違反なのをご存じのはずでしょう」と抗議しました。

25 26 しかしイエスはお答えになりました。「ダビデ王とその家来たちが空腹でがまんできなかった時、神殿に入って〔当時アビヤタルが大祭司でしたが〕、祭司以外に食べてはいけない特別のパンを食べたという記事を、読んだことがないのですか。それもおき

てに反することでしょう。 27 いいですか。 安息日は人間のためにつくられたのであって、人間が安息日のためにつくられたものではありません。 28 しかしメシヤ（救い主）のわたしには、安息日に何をしてよいかを決める権威もあるのです。」

三

1 カペナウムで、イエスがまた会堂に入られると、そこに片手の不自由な男がいました。

2 その日は安息日だったので、イエスに敵対する者たちはみな、イエスの行動に目を光らせていました。 この男の手を治しでもしたら、それをきっかけに逮捕してやろうとたくらんでいたからです。

3 イエスはその男を呼び、会衆の前に立たせられました。 4 それから、敵対する者たちのほうを向いて言われました。 「さあ、答えてください。 安息日に良いことをするのと悪いことをするのと、どちらが正しいですか。 安息日は、いのちを救う日ですか。それとも殺す日ですか。」しかし、だれも押し黙っています。 5 イエスは、人の不幸に対する彼らの冷淡さ、頑固さを深く嘆き、怒りを込めて見回すと、片手の不自由な男に、「さあ、手を伸ばしてごらんなさい」と言われました。 男がそのとおりにすると、たちどころに治ってしまいました。

6 おさまらないのはパリサイ人です。 すぐ会堂を飛び出し、ヘロデ党の者たち（ヘロデ王を支持する政治的な一派）と、イエスを殺す計画を相談し始めました。 7 8 一方、イエスと弟子たちは湖のほとりへ立ちのかれましたが、それでも、ガリラヤ全地、ユダヤ、エルサレム、イドマヤばかりか、ヨルダン川の向こう岸、さらにツロやシドンといった遠方からも、たくさんの群衆がやって来て、あとについて行きました。 イエスの奇蹟の評判が広まるにつれ、「ひと目でいいからイエス様を見たい」と、人々が押しかけたからです。

9 イエスは、群衆が岸辺に押し寄せても大丈夫のように、弟子たちに小舟を一そう用意させました。 10 その日、多くの病人が治されたと聞いて、病気の人たちがみな、何とかしてイエスにさわろうと詰めかけたからです。

11 また、悪霊に取りつかれた人たちは、イエスを見さえすれば、その前にひれ伏して、「あなたは神の子です！」と叫ぶのでした。 12 イエスは彼らに、ご自分のことをだれにも口外してはいけないと、きびしく警告なさいました。

選ばれた十二人

13 その後イエスは丘に登り、今までに選ばれた者たちを召集されました。 皆が集まったところで、 14 十二人の者を特に選び出されました。 いつもそば近くに置き、彼らに、神のすばらしい知らせを宣べ伝えさせたり、 15 悪霊を追い出させたりするためでした。

16 - 19 十二人の名前は次のとおりです。

シモン〔イエスによって「ペテロ」と名づけられた〕、

ヤコブとヨハネ〔ゼベダイの息子で、イエスから「雷の子」と呼ばれた〕、

アンデレ、

ピリポ、
バルトロマイ、
マタイ、
トマス、
ヤコブ〔アルパヨの息子〕、
タダイ、
シモン〔「熱心党」という急進派のメンバー〕、
イスカリオテのユダ〔後にイエスを裏切った男〕。

20 イエスが、泊まっていた家に戻れると、群衆がまた集まって来ました。まもなく家の中は人でいっぱいになり、食事をする暇もないほどです。21 これを身内の者たちが聞き、力づくでも、イエスを家に連れ戻そうとしました。てっきり、イエスは気が変になったと思ったからです。

だれがイエスの兄弟、姉妹か

22 しかし、エルサレムから来ていたユダヤ教の教師たちは、こんなふうになんか言いました。「やつは、悪霊の王ベルゼブル（サタン）に取りつかれているのだ。だから、手下の悪霊どもがやつの言うことを聞いて、おとなしく引き下がるのさ。」

23 イエスは、こんなことを言う人々をそばに呼び、だれもがわかるように、たとえを使って話されました。「どうしてサタンがサタンを追い出せるのでしょうか。24 内部で分かれ争っている国は、結局自滅してしまいます。25 争い事や不和が絶えない家庭は、崩壊するだけです。26 サタンの場合も全く同じことです。内部で争っていたら、何もできないばかりか、生き残ることさえできません。27 強い人の家に押し入って、その財産を盗み出すには、まずその強い人を縛り上げなければならないでしょう。悪霊を追い出すには、まずサタンを縛り上げなければならないのです。」

28 これは大切なことだから、はっきり言います。人が犯す罪は、どんな罪でも赦してもらえます。たとい、わたしの父を汚すことばでも。29 しかし聖霊を汚す罪だけは、決して赦されません。それは永遠の罪なのです。」

30 こう言われたのは、彼らが、イエスの奇蹟は聖霊の力によるものだとは認めず、サタンの力によるのだと言いふらしていたからです。

31 さて、イエスの母と弟たちが、教えを聞く人々でごった返す家に来て、話があるから出て来るように、とことづけました。32 「お母様と弟さんたちが、お会いしたいと外でお待ちです」と言われて、33 イエスはこうお答えになりました。「わたしの母と兄弟とは、それはいったい、だれのことですか。」

34 それから、ぐらりと回りを見渡し、「この人たちこそわたしの母であり兄弟です。35 だれでも、神のお心のままに歩む人が、わたしの兄弟、姉妹、また母なのですよ」と言われました。

神の国のたとえ話

1 イエスが湖のほとりで教えておられると、またもや大ぜいの群衆が集まって来ました。それでイエスは小舟に乗り、そこに腰をおろして、お話しになりました。 2 イエスが人々に教えられる時には、たとえ話を使うのが普通でしたが、この日の話は次のようなものでした。

3 「よく聞きなさい。 農夫が種まきをしました。 畑に種をまいていると、 4 ある種はあぜ道に落ちました。 すると鳥が来て、その種を食べてしまいました。 5 別の種は土の浅い石地に落ちました。 初めは急速に生長した種も、 6 土が浅いため、根から十分養分を取ることができず、強烈な日差しの中で、すぐに枯れてしまいました。 7 また、いばらの中に落ちた種もありましたが、いばらが茂って、生長をはばみ、結局、実を結べませんでした。 8 けれども中には、良い地に落ちた種もありました。 その種は、三十倍、六十倍、いや百倍もの収穫をあげることができたのです。 9 聞く耳のある人はよく聞きなさい。」

10 その後、イエスが一人になられると、十二人の弟子と、ほかの弟子たちが、そろってイエスに尋ねました。 「先生。 さっきのお話はどういう意味でしょう。」

11 イエスはお答えになりました。 「あなたがたには、神の国の真理を知ることが許されていますが、ほかの人には隠されているのです。 12 預言者イザヤが言ったように、『彼らは見もし、聞きもするが、悔い改めて神に立ち返り、その罪を赦していただくことはない』のです。 13 ところで、こんな簡単なたとえ話がわからないのですか。 こんな調子では、これから話すほかのすべてのたとえ話は、どうなることでしょう……。

14 いいですか。 農夫とは、人々に神のことばを伝える人のことです。 このような人たちは、聞く人の心に良い種をまこうとします。 15 ある種が落ちた、踏み固められたあぜ道とは、神のことばを聞いても心を堅く閉ざした人のことです。 すぐにサタンがやって来て、そのことばを忘れさせてしまうのです。 16 17 土が浅く石ころの多い地とは、最初は喜んで神のことばを聞く人の心を表わしています。 ところが、そんな地に落ちた種は、根を深くおろすことができません。 だから、初めのうちこそうまくいっても、迫害が始まると、たちまちぐらついてしまうのです。

18 19 いばらの地とは、神のすばらしい知らせに耳を傾け、それを受け入れる人の心を表わしています。 けれども、すぐにこの世の魅力、金もうけの楽しさ、成功欲、物欲のとりこになり、神のことばなどは心からはじき出されて、実を結ぶまでには至らないのです。

20 良い地とは、神のことばをまちがいなく受け入れ、神のために、三十倍、六十倍、いや百倍もの収穫をあげる人の心を表わしています。」

21 イエスは、続けてお話しになりました。 「せっかく灯をともしたランプに箱をかぶせ、光をさえぎる人がいるでしょうか。 もちろん、いません。 それでは意味がありませんから。 だいたいランプというものは、台の上に置き、あたりを照らしてこそ、存

在価値があるのです。

22 いま隠されているものはみな、いつかは明るみに出されます。 23 聞く耳のある人はよく聞きなさい。 24 また、聞いたことは必ず実行しなさい。 そうすればするほど、わたしの言ったことがわかるようになります。 25 持っている人はさらに与えられ、持っていない人は、持っているわずかな物さえ取り上げられてしまうのです。

26 神の国のたとえを、もう一つ話しましょう。

ある農夫が畑に種をまいて、 27 家に帰りました。 日がたつにつれて、別に何もなくても、種はどんどん生長しました。 28 土が種を生長させるからです。 まず芽が出て、次に穂、そして最後に実が入ります。 29 すると、さっそく農夫が刈り取るのです。」 30 また、こうも言われました。 「神の国をどう説明し、何にたとえたらいいでしょう。 31 そうですね、神の国は小さなからしの種みたいです。 からしの種は、種の中でも一番小さいものですが、 32 生長すると、とても大きくなり、鳥が巣を作れるほどになります。」

33 このように、イエスは多くのたとえを使い、人々の理解力に応じて教えられました。

34 たとえを使わずに話をなさることはありませんでした。 しかし弟子たちにだけは、あとでその意味を説き明かされました。

35 夕やみの迫るころ、イエスは弟子たちに、「さあ、湖の向こう岸に渡ろう」と言われました。 36 弟子たちは群衆をあとに残し、イエスの乗った小舟をこぎ出しました。 しかし、あとからついて来る舟も、何そうかありました。 37 ところが、まもなく、恐ろしい嵐が襲って来たのです。 小舟は大波にほんろうされ、舟は水浸しです。 38 イエスはと見れば、ともものほうで眠っておられます。 弟子たちは気が気ではありません。 半狂乱のていでイエスを呼び起こしました。 「先生！ 舟が沈みかけているのに、よく平気でいられますねっ！」

39 イエスはゆっくり起き上がられると、風をおしかりになり、湖に「静まれっ！」と言われました。 するとどうでしょう。 たちまち風はやみ、湖は何事もなかったかのような大なぎになりました。

40 イエスは弟子たちに言われました。 「どうしてそんなにこわがるのですか。 まだわたしが信じられないのですか。」

41 弟子たちは、ただもう恐怖に打ちのめされて、「ああ、なんというお方だ。 風や湖までが従うとは！」と、ささやき合いました。

五

イエス、悪霊を追い出す

1 やがて一行は湖を渡り、向こう岸のゲラサ人の地に着きました。 2 イエスが小舟をおりる間もなく、悪霊に取りつかれた男が墓場から走って来て、イエスを迎えました。

3 4 この男は墓場に寝起きしていましたが、すごい強力で、手かせ足かせをはめられても、たちまち引きちぎって逃げってしまうのでした。 そんなわけで、だれもこの男を取り押さえ

ることができません。 5 昼も夜も、大声でわめき、とがった石で体をかきむしりながら、墓場や山の中をさまよい歩いていました。

6 この男は、イエスがまだ遠く湖上にいる時からその姿を認め、走って来たのです。そしてイエスの前まで来ると、いきなり地にひれ伏しました。

7 8 その時です。 イエスは男に取りついている悪霊に、「悪霊よ、出て行きなさい」とお命じになりました。すると悪霊は、ぞっとするような声で、「おれ様を、ど、どうしようというんだい。 お願いだから、苦しめないでくれーっ！ いと高き神の子、イエス様」とわめきたてました。

9 イエスが「あなたの名前は？」とただされると、「レギオン(ローマ軍隊の一軍団)だ。おれたちは大ぜいでこいつに取りついてるんでね」と、悪霊は答えました。

10 それから、自分たちを遠方へ追い払わないでほしいと、しきりに頼み続けました。

11 その時たまたま、湖畔に沿った丘の上で、豚の大群がえさをあさっていました。 12 悪霊どもは、「おれたちをあの豚の中へやってくれ」と願いました。

13 イエスが、お許しになると、悪霊はすぐさまその男から出て、豚の中に入りました。とたんに、二千匹もの群れがいっせいに、がけを駆け降り、湖に飛び込んでおぼれてしまいました。

14 豚飼いたちは近くの町や村に逃げて行き、この出来事をふれ回りました。人々は、自分の目で確かめようと、ぞろぞろ出かけて来ました。 15 たちまちイエスの回りは黒山の人ばかりです。 しかも、うわさの男は、ちゃんと服を着、すっかり正気に戻って座っているではありませんか。 人々は恐ろしくなりました。 16 初めからこの出来事を目撃していた人たちが、みんなに一部始終を説明しました。 17 それを聞くと、人々はイエスに、かわりあいになりたくないから、どこかへ行ってくれ、と願い始めたのです。

18 イエスはまた舟に乗り込みました。悪霊に取りつかれていた男が、「ぜひお伴を」と願いましたが、 19 お許しにならず、「家族や、友人のところへお帰りなさい。 神がどんなに素晴らしいことをしてくださったか、また、どんなにあわれんでくださったかを話してあげなさい」と言われました。 20 男はさっそく、デカポリス(十の町)地方を回り、イエスがどんなに素晴らしいことをしてくださったかを知らせました。 その話を聞いた人々はみんな驚きました。

イエス、少女を生き返らす！

21 イエスがもう一度、舟で向こう岸へ渡られると、大ぜいの群衆が詰めかけました。

22 そこへ、その地方の会堂管理人で、ヤイロという名の人に来て、イエスの前にひれ伏しました。 23 娘を助けてほしいというのです。「先生。 娘が危篤なんです。 まだ、ほんの子供なのに……。 どうぞ、娘の上に手を置き、治してやってください。」

24 必死の願いに、イエスはヤイロといっしょに出かけました。 群衆は押し合いへし合い、イエスについて行きました。 25 さてその中に、出血の止まらない病気で十二年間も苦しみ続けてきた女がいました。 26 大ぜいの医者にかかり、さんざん苦しい目に

会い、治療代で財産をすっかり使い果たしてしまいましたが、病気はよくなるどころか、悪化する一方でした。 27 イエスがこれまでに行なったすばらしい奇蹟の数々を耳にした彼女は、人ごみにまぎれて近づき、背後からイエスの着物にさわりました。

28 「せめてこの方の着物にでも手を触れさせていただければ、きっと治る」と考えたからです。 29 さわったとたん、出血が止まり、彼女は病気が治ったと感じました。

30 イエスはすぐ、自分から病気を治す力が出て行ったのに気づき、群衆のほうをふり向かれて、「今、わたしにさわったのはだれですか」とお尋ねになりました。

31 「こんなに大ぜいの人がひしめき合っているのですよ。 それなのに、だれがさわったのかと聞かれるのですか。」弟子たちはげんな顔で答えました。

32 それでもなお、イエスはあたりを見回しておられます。 33 恐ろしくなった女は、自分の身に起こったことを知り、震えながら進み出てイエスの足もとにひれ伏し、ありのままを、正直に話しました。 34 イエスは言われました。「あなたの信仰があなたを治したのですよ。 もう大丈夫です。 いつまでも元気でいるのですよ。」

35 こう話しておられるうちに、ヤイロの家から使いの者が来て、娘は死んでしまったので、来ていただいても手遅れだと伝えました。 36 しかしイエスは、ヤイロに言われました。「恐れてはいけません。ただわたしを信じなさい。」

37 イエスは、群衆をその場にとどまらせ、ペテロとヤコブとヨハネのほかは、だれにもついて行くことをお許しになりませんでした。 38 ヤイロの家に着くと、だれもかれもが取り乱し、大声で泣いたり、わめいたり、たいへんな騒ぎです。 これを見たイエスは、 39 中に入られ、「なぜ、泣いたり、わめいたりしているのですか。 子供は死んだわけではありません。 ただ眠っているだけです」と言われました。

40 それを聞いた人々は、イエスをあざ笑いました。 しかしイエスは、全員を家の外に出されると、娘の両親と三人の弟子だけを連れて病室に入られました。

41 そして娘の手を取り、「さあ、起きなさい」と声をおかけになりました。 42 するとどうでしょう。 少女はぱっととび起き、ぐるぐる歩き回るではありませんか！〔娘はこの時、十二歳でした。〕両親は、ただあつけにとられて見守るばかりです。 43 イエスは、このことを決して口外しないようにと、きびしくお命じになってから、少女に何か食べさせるようにと言われました。

六

1 まもなくイエスはその地方を去り、弟子たちを連れて故郷の町ナザレに帰られました。

2 3 次の安息日に、会堂へ出かけて話をなさると、聴衆はその知恵と奇蹟にすっかり驚きました。 イエスのことを、自分たちと同じ、ただの田舎者だと思っていたからです。

「あいつのどこがおれたちと違うというんだい。 ただの大工のせがれじゃないか。 母親はマリヤだし、ヤコブやヨセやユダやシモンは兄弟だ。 妹たちだって、おれたちといっしょにここに住んでるじゃないか。」町の人たちはイエスに腹を立てました。

4 そこで、イエスは言われました。「預言者はどこででも尊敬されます。 ただ、自

分の故郷、親族、家族の中では別です。」

5 こうして、人々の不信仰のために、ほんのわずかの病人に手を置いて治されただけで、そこでは何一つ大きな奇蹟を行なえませんでした。 6 イエスは、自分を信じようとしなないナザレの人たちの態度に、驚かれました。

このことがあってから、イエスは付近の村々を巡り歩いて、お教えになりました。 7 また、十二人の弟子を呼び、悪霊を追い出す力を与えると、二人ずつ組にして送り出されました。 8 9 そして、携行品は杖だけにし、食料も旅行袋も、お金も、はき替えのくつも、着替えの下着も持って行ってはいけませんか、注意されました。

10 また、続けて言われました。 「どこの村でも、一軒の家に泊まるように。 あっちこっちと家々を渡り歩いてはいけません。 11 もしその村が、あなたがたを門前払いにし、あなたがたのことばに耳を貸そうともしないなら、そこから出る時、足のちりを払い落としなさい。 それは、その村を滅びるに任せたというしるしです。」

12 こうして、弟子たちは出て行き、出会ったすべての人に、悔い改めて神に立ち返るようにと教え、 13 多くの悪霊を追い出し、オリーブ油を塗って大ぜいの病人を治しました。

ヨハネの死

14 イエスの奇蹟は至る所で話題になったので、まもなく、ヘロデ王の耳にも入りました。 王は、このイエスがバプテスマのヨハネの生き返りだと考えました。 そして人々も、「だからこそ、イエスにはあんな奇蹟ができるのだ」とうわさしました。 15 中には、預言者エリヤが生き返ったのだと考える者もあり、いや昔の偉大な預言者たちのような新しい預言者だ、と主張する者もありました。

16 しかしヘロデは、「いや、あれはわしが処刑したヨハネに違いない。 ヨハネが死人の中から生き返ったのだ」と言いました。

17 18 実はこのヘロデが、兵士たちに命じて、ヨハネを捕らえ、投獄したのです。 ヨハネがヘロデに、兄嫁のヘロデヤを横取りするのはよくないと抗議したからです。 19 ヘロデヤはその腹いせに、ヨハネを殺してやろうと思いましたが、ヘロデの許可なしには、何の手出しもできません。 20 ヘロデが、ヨハネを正しくきよい人物だと知って、尊敬し、保護していたからです。 ヘロデはヨハネと話をすると、決まって不安にかられましたが、それでも好んで聞いていました。

21 ところが、とうとうヘロデヤに絶好のチャンスが訪れました。 それはヘロデの誕生日のことでした。 王は、宮中の高官、高級将校、ガリラヤ地方の名士などを招待して、宴会を開きました。 22 その時、ヘロデヤの娘が居並ぶ客の前で舞をまい、一同をたいそう楽しませました。 喜んだ王は、「ほしいものはないか。 なんなりと申せ」と言い、 23 その上、「国の半分をやってもよいぞ」と誓ったのです。

24 娘は出て行って、母親と相談しました。 すると母親は、しめたとばかり、「バプテスマのヨハネの首をいただきたいと申し上げなさい」と入れ知恵しました。

25 娘は、王の前に進み出ると、「今すぐ、バプテスマのヨハネの首を、盆に載せていただきます」と言いました。

26 王は困ったことになったと心を痛めましたが、誓ったことでもあり、また一同の手前もあって引込みがつきません。 27 やむなく護衛兵に、獄中のヨハネの首を切り、その首を持って来るように命じました。 兵士は言われたとおり、 28 ヨハネの首を盆に載せてきて、ヘロデヤの娘に渡しました。すると、娘はさっそく、それを母親のところへ持って行きました。

29 ヨハネの弟子たちはそのことを聞くと、遺体を引き取り、墓に葬りました。

五つのパンと二匹の魚

30 さて、十二人の弟子は旅を終えてイエスのもとに帰り、自分たちのしたこと、また行った先々で人々に教えたことなどを、くわしく報告しました。

31 イエスは弟子たちに言われました。「さあ、しばらく人ごみを避けて休みましょう。」イエスのもとには人の出入りが多く、食事をする暇もなかったからです。 32 彼らは舟に乗り、静かな場所へ出かけました。 33 ところが、大ぜいの群衆がそれと気づき、岸づたいに走って行って、一行が上陸するのを待ちかまえていました。 34 舟から上がられたイエスの前には、大ぜいの群衆がたむろしていました。まるで羊飼いのいない羊のような群衆を見て、イエスは深くあわれみ、いろいろなことを教え始められました。

35 36 午後遅くなって、弟子たちがイエスのところに来ました。「先生。この人たちに、近くの村や農場へ行って、めいめいで食べ物を買うように言っていただけませんか。こんな寂しい所では、何もありません。それに時刻も遅いことですし……。」

37 しかし、イエスは言われました。「あなたがたが、この人たちに食べ物をあげるのです。」

「何ですって！ いったい何を食べさせたらいいんですか。この大ぜいの人たちに。そんなことをしたら、破産してしまいますよ。」

38 「手持ちの食べ物がどのくらいあるか、見て来なさい。」こう言われて、弟子たちは調べに行きました。その結果は、パンが五つと魚が二匹あるだけでした。 39 40 イエスは、群衆に座るようにお命じになりました。まもなく、五十人から百人ほどの色とりどりのグループが、それぞれ一団となって緑の草の上に座りました。

41 イエスは五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げて、感謝の祈りをささげると、パンをちぎって、人々に配るよう弟子たちに手渡されました。魚も同様になさいました。

42 群衆は、もうこれ以上は食べられないというほど、たらふく食べました。

43 44 その場で食事したのは、男だけでも五千人はいました。あとで草の上のパンくずを拾い集めると、なんと十二のかごにいっぱいでした。

45 それからすぐ、イエスは弟子たちに、舟に戻り、先にベツサイダまで行くようにお命じになりました。あとで弟子たちと落ち合うつもりで、イエスだけその場に残り、群衆を解散させられたのです。

46 そのあと、イエスは山へ登られました。 祈るためです。 47 夜になり、舟に乗った弟子たちは湖の真ん中までこぎ出していましたが、イエスはただ一人、陸地におられました。 48 ふと、ごらんになると、弟子たちは向かい風と波のためにこぎあぐね、危険にさらされています。 夜明けの三時ごろ、イエスは水の上を歩いて彼らに近づき、そのままそばを通り過ぎようとされました。 49 ところが、弟子たちは湖上を歩くイエスを幽霊と見まちがい、恐怖のあまり大声をあげました。 50 皆が、おびえてしまったからです。 イエスはすぐに、「安心なさい。 ほら、わたしです。 こわがることはありません」と声をおかけになりました。 51 イエスが舟に乗り込まれると、風はぴたりとやみました。 弟子たちは訳がわからず、ただぼんやりと座っているだけでした。 52 前日の夕方、あれほどの奇蹟を目のあたりにしながら、弟子たちには、イエスがどんな方か、まだわかっていなかったのです。 彼らは、初めから信じようとしていなかったからです。

53 一行は、湖の向こう岸のゲネサレに着き、舟をつなぎました。 54 彼らが舟から上がると、人々はすぐにイエスだと気づき、 55 その地方全体に、イエスがおいでになったとふれ回りました。 寝たままの病人が次々にイエスのもとに運び込まれました。 56 イエスがおいでになると、村でも町でも農場でも、人々は病人を広場に寝かせ、せめて着物のすそにでもさわらせてやってくださいと、必死に願うのです。 こうして、さわった者はみな治りました。

・

七

本当に大切なのは心

1 ある日、ユダヤ人の宗教的指導者たちが数人、イエスを調べてやろうと、わざわざエルサレムから出向いて来ました。 2 そして、イエスの弟子の中に、ユダヤの食前のしきたりを守らない者がいるのを見つけました。 3 そのしきたりというのは、ユダヤ人の中でも特にパリサイ人たちがやかましく守っているものでした。 古くからの言い伝えで、食事の前には必ず、腕からひじにかけて水を注ぐ決まりだったのです。 4 また市場から帰って来た時には、食べ物に触れる前に必ず体に水を注ぎかける決まりもありました。 そのほかにも、水差し、なべ、皿を洗うことなど、何世紀ものあいだ守り続けてきた、こまごまとしたおきてやしきたりがあったのです。 5 そこで、宗教的指導者たちはイエスに、「どうしてあんたの弟子は、昔からの言い伝えを守らないのか。 手も洗わないで、食事をするとはいけしからん」と詰め寄りました。

6 イエスはお答えになりました。「あなたがたこそ偽善者です。 預言者イザヤが言ったのは、あなたがたのことだったのです。

『彼らは口先ではわたしを敬うが、
心はわたしから遠く離れている。』

7 彼らがわたしを拝んでも、むだなことだ。

神のおきての代わりに、
人間の規則を教えているのだから。』
なんと的を射たことばでしょう。

8 あなたがたは、神の特別な命令をないがしろにして、自分たちの言い伝えを代用として
いるのです。 9 それを守るために、よくも神のおきてを捨て、踏みにじったものです。

10 例をあげましょう。 モーセは、『あなたの父と母とを敬え』というおきてを神から
託され、あなたがたに伝えました。 また、父や母をののしる者は死刑に処せられるとも
言いました。 11 12 ところがどうです。 あなたがたときたら、『すみませんが、お助
けするわけにはまいりません。 差し上げるはずのものは、神様にささげてしまいました
から』と言いさえすれば、助けを求める両親をおろそかにしてもかまわない、と教えてい
るのです。 13 あなたがたは自分たちのつくった言い伝えを守るために、神のおきてを
破っているのです。 これは、ほんの一例にすぎません。 ほかにも同じような例がたく
さんあるのです。」

14 イエスは、もう一度群衆を呼び寄せられ、「さあ、よく聞いて、その意味を考えなさい。
15 16 人は決して外から入る食べ物によって汚されるのではありません。 むし
ろ内から出て来ることばや思いによって汚されるのです」と言われました。

17 それから群衆と別れ、家に入られました。 すると弟子たちが、「さっきのおことば
は、どういう意味でしょうか」と尋ねました。

18 イエスはお答えになりました。「こんなことがわからないのですか。 食べ物は人を
汚さないということが、そんなに不思議なのですか。」 19 いいですか。 食べ物は別に
人の心に入るわけではないでしょう。 腹に入って、外へ出るだけではありませんか。 こ
うして、あらゆる食べ物がおきてにかなうきよい物であることを示し、 20 さらに続け
て言われました。 「人の内側から出るもの、それがくせものです。 21 肉欲、盗み、
殺人、姦淫、 22 貪欲、邪悪、あざむき、好色、ねたみ、悪口、高慢、あらゆる愚かさ、
それらのものはみな、人の心の中からあふれ出ます。 23 この内側から出て来るものが、
人を汚し、神にふさわしくない者とするのです。」

広まるイエスのうわさ

24 イエスはガリラヤを去り、ツロとシドンの地方に行かれました。 内緒の旅行でした
が、いつものように、イエス来訪のニュースは、あっという間に広がってしまったのです。

25 小さな娘が悪霊に取りつかれて困っていた母親が、うわさを聞いて駆けつけました。
彼女はイエスの前にひれ伏すと、 26 娘から悪霊を追い出してくださいと、必死で頼み
ました。 実は、この女はスロ・フェニキヤ人で、ユダヤ人から見れば、「軽べつすべき外
国人」でした。

27 イエスは女に言われました。 「わたしはまず、同胞のユダヤ人を助けなければな
りません。 子供たちのパンを取り上げて、小犬に投げてあげるのはよくないことなの
です。」

28 「おっしゃるとおりでございます。でも先生、食卓の下の小犬だって、子供たちのパンくずは食べるではありませんか。」

29 この答えにイエスは感心しました。「実に見上げたものです。さあ、安心して家にお帰りなさい。悪霊はもう、娘さんから出て行きましたよ。」

30 女が家に戻ってみると、娘は静かにベッドに横たわっており、悪霊は出たあとでした。

31 イエスはツロをあとにし、シドンからデカポリス（十の町）地方を通って、ガリラヤ湖畔にお帰りになりました。32 その時、人々が、耳も聞こえず、口もきけない男を、イエスのところに連れて来て、「どうぞ、手を置いて治してやってください」と頼みました。

33 イエスはその男を群衆の中から連れ出し、自分の指を男の両耳に差し入れ、それからつばきをして舌にさわられました。34 そして、天を見上げてふっとため息をつき、「開け」とお命じになりました。35 するとどうでしょう。耳は完全に聞こえるようになり、舌のもつれもとけて、はっきり話せるようになったではありませんか。

36 イエスは群衆に、うわさを広めないようにと堅く口止めされましたが、そう言えば言うほど、人々はかえって言い広めました。37 イエスのなさったことに、驚き、あきれたからです。「ああ、なんてすばらしいことをなさるお方だろう。耳が聞こえず、口もきけない人さえ、お治しになった！」と、人々は何度も言い合いました。

八

1 そのころ、またおびただしい群衆が集まって来ましたが、みんなの食べる物がなくなったので、2 イエスは弟子たちを呼んで言われました。「この人たちがかわいそうです。もう三日も、わたしといっしょにいるのだから、食べ物とはつくにないはずですよ。

3 このまま帰らせたら、きっと途中で倒れてしまいます。中には遠くから来た人もいることでしょうし……。」

4 「でも、先生。こんな寂しい所で、これほど大ぜいの人たちなんですよ。いったいどこで、食べ物を手に入れるのですか。」

5 「パンは幾つありますか。」

「七つです。」

6 イエスは、群衆に地べたに座るようにお命じになりました。そして七つのパンを取り、神に感謝の祈りをささげてから、ちぎって弟子たちに手渡され、弟子たちがみんなに配りました。7 まだ小さい魚が少しばかりあったので、これも同様に祝福してから、人々に配るよう弟子たちに手渡されました。

8 9 こうして、全員が満腹するほど食べました。それからイエスは、人々を家にお帰しになりました。その日集まった人の数はおよそ四千人でしたが、あとでパンくずを拾い集めると、なんと七つのかごにいっぱいになりました。

ダルマヌタへ

10 このあとすぐ、イエスは弟子たちと舟でダルマヌタ地方へ向かわれました。 11

その地方のパリサイ人たちはイエスが来られたと知り、議論をふっかけてやろうと、勇んでやって来ました。「奇蹟を見せたらどうだい。天に不思議なしるしが現われでもしたら、あんたを信じようじゃないか。」

12 このことばに、イエスは思わず、ため息をおつきになりました。「とんでもありません。いったいどれだけ奇蹟を見れば気がすむのですか。」

13 イエスは彼らを残して、また舟に乗り、湖の向こう岸に渡られました。14ところが、弟子たちがうっかり、出発前に食べ物を用意するのを忘れたので、舟の中にある食べ物といえば、一かたまりのパンだけでした。

15 まだ湖上にいた時、イエスは弟子たちに、厳粛なお顔で、「ヘロデ王とパリサイ人たちのイースト菌に気をつけなさい」と言われました。

16 弟子たちは、「先生は、なぜあんなことをおっしゃったんだろう」と首をかしげましたが、結局、パンを持って来なかったからだろうということに、話が落ち着きました。

17 弟子たちが「ああでもない、こうでもない」と言い合っているのを聞いて、イエスは言われました。「いや、そんなことはありません。まだわからないのですか。なんて物わかりの悪い人たちでしょう。18ちゃんと、目も耳もそろっているのに、見えても聞こえてもしないのですか。何も覚えていないのですか。19五つのパンを五千人に食べさせた時のことを。あの時、パンくずは幾かごになりましたか。」

「十二かごです。」

20 「じゃあ、七つのパンで四千人に食べさせた時は？」

「七かごです。」

21 「それなのに、まだあなたがたは、パンがないのを、わたしが苦にしていると思うのですか。」

22 一行がベツサイダに到着すると、人々が盲人の手を引いて来ました。「どうか、さわって治してやってください」と頼むので、23イエスはその盲人の手を取り、村の外へ連れ出されました。そして彼の両眼につばきをつけ、手をあてて、「どうですか、何か見えますか」とお尋ねになりました。

24 男はあたりをきょろきょろ見回しながら、「は、はい。見えます。見えます。人が見えます。ぼんやりしていますが……。まるで、木が歩いてるみたいです」と答えました。

25 イエスはもう一度、両眼におさわりになりました。男はじっと見つめていました。するとだんだん視力が回復し、何もかも、はっきり見えるようになりました。

26 イエスは、男を家族のもとへお帰しになり、「村へは行かないように」と注意されました。

イエスこそ救い主

27 イエスの一行はガリラヤを去り、ピリポ・カイザリヤの村々へ行きました。道々、イエスは弟子たちに、「人々は、わたしのことをだれだと言っていますか」とお尋ねになり

ました。

28 「バプテスマのヨハネだと言う者もいれば、エリヤだと言う者もいます。 また昔の預言者が生き返ったと言う者もいます」と、弟子たちは答えました。

29 するとイエスは、「では、あなたがたは、だれだと思っているのですか」とお尋ねになりました。 即座に、ペテロが、「あなた様こそキリスト（救い主）です」と答えました。

30ところが、イエスは、このことをだれにも話してはいけないと、きびしく言われました。

31 それから、やがて自分が経験する恐ろしい出来事——長老、祭司長、ユダヤ人の指導者たちに捨てられ、殺され、三日目に復活することを、弟子たちに話し始めました。 32それも、実にはっきりとお話しになったので、ペテロはイエスをわきに呼び、「そんなことをおっしゃるものではありません」と忠告しました。

33 イエスは、ふり返って弟子たちを見回すと、非常にきびしい口調でペテロに言われました。「下がれ、サタン！ あなたはただ人間的な見方をして、神の立場からは考えてみようともしていないのです。」

34 それから、弟子たちと群衆とを呼び寄せ、こう言われました。「だれでもわたしについて来なければ、自己中心の生活をやめ、自分の十字架を背負って、ついて来なさい。

35いのちを守ることにばかり、あくせくしていたら、かえってそれを失います。 わたしと、この神のすばらしい知らせとのためにいのちを投げ出す者だけが、生きることの意味をほんとうに知るのです。

36 たとい全世界を自分のものにしても、いのちを失ったら、何の得があるでしょう。

37いのちを買い戻すどんな手だてがあるというのでしょうか。 38だれでも、この不信仰と罪の時代にあって、わたしとわたしのことばとを恥じる者をメシヤ（救い主）のわたしも、やがて父の栄光を帯びて聖なる御使いと共に帰って来る時、恥じるのです。」

九

栄光に輝くイエス

1 イエスはさらに、ことばを続けました。「ここに立っている人人の中には、神の国が大きな力を持って来るのを見るまで、生きている人がいます。」

2 それから六日後、イエスはペテロとヤコブとヨハネだけを連れて、山に登られました。突然、イエスの顔が栄光に輝き、 3着物はまばゆいばかりの白さになりました。 世のどんな布さらし屋も、こんなに白くはできないと思われるほどの白さでした。 4そこへ、なんとエリヤとモーセが現われ、イエスと親しく話し始めたではありませんか。

5 これを見たペテロは、思わず叫びました。「先生。 なんとすばらしいことでしょう！ ここに、お一人に一つずつ、三つの小屋を建てましょう。」

6 こう言う以外に、何と言ったらよいかわからなかったのです。 弟子たちはみな、おびえ切っていました。

7 ペテロがまだ言い終わらないうちに、雲がすっぽり彼らを包み、太陽をさえぎったか

と思うと、雲の中から、「これはわたしの愛する子。この人の言うことを聞きなさい」という声がしました。

8 あっけにとられた弟子たちがあたりを見回すと、すでにモーセとエリヤの姿は見えません。ただイエスがおられるだけでした。

9 山を降りながら、イエスは弟子たちに、いま見たことを、自分が死人の中から復活する時まで、だれにも口外しないようにとお命じになりました。10 三人はそのことを深く心に秘めておきましたが、「死人の中から復活する」とはどういう意味かわからず、あれこれ話し合いました。

11 そこで彼らは、「どうしてユダヤ人の宗教的指導者たちは、メシヤ（救い主）が来る前に、必ずエリヤが来るはずだ、と言っているのでしょうか」と尋ねました。12 13 イエスは、「まずエリヤが来て道を整えるというのはほんとうです。実際、エリヤはもう来たのです」とお答えになりました。そして、エリヤは預言どおり、人々からひどい仕打ちを受けたのですと説明されてから、「では、メシヤが、さんざん苦しめられ、ひどく軽べつされるという預言はどういうことでしょうか」とお尋ねになりました。

山を降りたイエス

14 四人が弟子たちのところに帰ってみると、大ぜいの群衆に囲まれて、弟子たちと数人のユダヤ人の指導者たちが論争のまっ最中でした。15 人々は、イエスの姿を見て驚き、すぐに駆け寄り、あいさつしました。16 「何を議論しているのですか」と、イエスはお尋ねになりました。

17 すると一人の男が、こう答えました。「先生。あなた様に息子を治していただくのと連れてまいりました。息子は悪霊に取りつかれていて、ものを言うことができません。18 この悪霊が取りつくとき、どこであろうと、あたりかまわず押し倒すので、息子は口からあわを吹き、歯ざしりして、体を硬直させてしまいます。お弟子さんたちに、何とか悪霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、だめでした。」

19 「ああ、なんと信仰の薄い人たちでしょう。いつまで、あなたがたといっしょにいないかならないことでしょうか。さあ、その子を連れて来なさい。」

20 さっそく少年が連れて来られました。ところが、イエスを見るなり、悪霊が彼をひどくひきつけさせたので、ぱったり倒れ、あわを吹きながら、のたうち回りました。

21 イエスは父親にお尋ねになりました。「いつからこのようになったのですか。」
「それが、小さい時分からで。22 悪霊は、この子を殺そうと、何度も火の中、水の中に倒したんで……。先生、お願いします。もしおできになるなら、何とか、何とかしてください！」

23 「もしできるなら、と言うのですか。あなたが信じるなら、どんなことでもできるのです。」

24 「信じます、信じますとも！ ああ、どうか不信仰な私をお助けください。」

25 人だかりが、だんだんひどくなるのを見て、イエスは悪霊をしかりつけました。「聞

くことも言うこともできなくさせる霊よ。 さあ、この子から出て行きなさい！ 二度と戻って来てはいけない！」

26 すると悪霊は大声をあげ、もう一度少年を激しくひきつけさせて出て行きました。少年はぐったりとなり、まるで死んだように動きません。 人々はざわつき始めました。

「おい、死んでしまったぞ」というささやきも聞こえます。 27ところが、イエスが少年の手を取って起こされると、彼はぱっと立ち上がり、すっかり元気になりました。 28あとで、家に入り、ほかにはだれもいなかった時、弟子たちはイエスに尋ねました。「どうして私たちには、あの悪霊を追い出せなかったのでしょうか。」

29 イエスは、「こういうことには、特に祈りが必要なのです」とお答えになりました。

30 一行はそこを去り、ガリラヤを通して行きました。 イエスは、できるだけ人目につかないように心を配っておられました。 31なるべく多くの時間をさいて、弟子たちと語り合い、教育するおつもりだったからです。 「メシヤ（救い主）のわたしは裏切られ、殺され、そして三日目に復活します」と、イエスは教えられました。

32 しかし弟子たちには何のことやら、さっぱりわかりません。 かといって、イエスに直接その意味を尋ねるのも、なんだかこわかったのです。

33 カペナウムに着き、泊まることになっていた家に入ってしばらくすると、イエスが弟子たちに、「ここへ来る途中、何を言い合っていたのですか」とお尋ねになりました。

34 弟子たちは顔を真っ赤にして、うつむいてしまいました。 実は、だれが一番偉いかと言い合っていたからです。

35 イエスは腰をおろし、弟子たちを回りに呼び寄せると、「だれでも一番偉くなりたい人は、一番小さい者となり、だれにでも仕える者となりなさい」と教えられました。 36それから、小さな子供を真ん中に立たせ、腕に抱いて言われました。 37「見なさい。だれでもわたしの名のゆえに、このような小さい者をも受け入れる人は、わたしを受け入れているのです。 そしてわたしを受け入れる人は、わたしを遣わされたわたしの父をも受け入れているのです」

38 ある時、弟子のヨハネがイエスに言いました。 「先生。 あなた様のお名前を使って悪霊を追い出している人を見かけましたよ。 でも、私たちの仲間じゃなかったので、即刻やめさせました。」

39 するとイエスは言われました。 「やめさせることはありません。わたしの名によって奇蹟を行ないながら、そのすぐあとで、わたしに逆らう者はいないのですから。 40わたしたちに反対しない者は、味方なのです。 41あなたがたがキリストの弟子だと知って、水一杯でも飲ませてくれる人は、よく言っておきますが、必ずごほうびをもらいます。

42だが反対に、これら小さい者の一人にでも信仰を失わせるような者は、大きな石を首にくくりつけられて、海中に投げ込まれたほうが、よっぽどましです。

4344もし手が悪いことをするなら、切り取ってしまいなさい。 片手になっても永遠

に生きるほうが、両手そろって、いつまでも燃え続ける地獄の火に投げ込まれるよりは、ずっとよいのです。 4546 もし足があなたを悪事に引きずり込むなら、切り取ってしまいなさい。 片足になっても永遠に生きるほうが、両足そろって、地獄に落ちるよりは、ずっとよいのです。

47 もし目が罪を犯すなら、えぐり出してしまいなさい。 片目ででも神の国に入るほうが、両眼そろって地獄の火を見るより、はるかによいのです。 48 地獄では、彼らを食ううじはいつまでも死なず、燃えさかる火は消えることはありません。 49 すべてのものは、火のような試練で塩けをつけられるのです。

50 良い塩も、塩けをなくしたら、だいなしです。 味つけの役に立たなくなっています。 だからあなたがたも、塩けをなくさないように、よく注意しなさい。 そして、互いに仲むつまじく暮らしなさい。」

一〇

神様からのすばらしい報い

1 イエスはカペナウムをあとにし、ユダヤ地方とヨルダン東岸へ行かれました。 またもや群衆が集まったので、イエスは彼らに教えておられました。

2 そこへ何人かのパリサイ人たちが来て、イエスに、「あなたは、離婚をお認めになりますか」と尋ねました。 もちろん、これはわなでした。

3 「モーセは、離婚について何と言いましたか。」反対に、イエスがお尋ねになりました。

4 「離婚してもさしつかえないと言いました。 ただその時は、男が女に離縁状を書く決まりですが。」

5 「なぜモーセはそう言ったのか、考えてみなさい。 あなたがたの心が邪悪で強情だったから、しかたなく認めたのです。 67 離婚は神の意志に反します。 神は、そもその初めから、人を男と女とに造られたのです。 ですから、人は両親から離れて、 8 妻と一体となるのです。 もはや二人ではなく、一人なのです。 9 神が一つにしてくださいましたものを、だれも引き離してはなりません。」

10 イエスが家に戻られると、弟子たちはまた、この問題を持ち出しました。

11 イエスは言われました。 「ほかの女と結婚したいばかりに妻を離縁するなら、妻に対して姦通罪を犯すのです。 12 また夫と離婚して別の男と再婚する女も同様です。」

13 さて、イエスに祝福していただこうと、人々が、子供たちを連れてやって来ました。 ところが弟子たちは、じゃまだとばかり、彼らを追い返そうとしました。

14 それをごらんになったイエスは、憤って弟子たちをおしかりになりました。 「子供たちを、自由に来させなさい。 神の国はこの子供たちのような者の国なのです。 追い払うなど、とんでもありません。 15 いいですか。 よく言っておきますが、小さな子供のように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに入ることはできません。」

16 それから、子供たちを抱き上げ、頭に手を置いて、祝福されました。

17 イエスが道に出て行くと、一人の人が走り寄って、ひざまずき、「先生。 あなた様

は尊いお方です。 お教えてください。 天国に入るには、どうしたらよいでしょうか」と尋ねました。

18 「どうしてわたしを尊いと言うのですか。 尊いお方は神お一人です。 19 まあ、それはさておき、今の質問に答えましょう。 守るべき戒めは知っていますね。 そう、殺してはならない、姦淫してはならない、盗んではならない、うそをついてはならない、だまし取ってはならない、あなたの父と母とを敬いなさい、という戒めです。」

20 「はい、先生。 私は今まで、これらの戒めを一つも破ったことはありません。」

21 イエスは心から彼に同情して言われました。 「あなたには、たった一つだけ欠けたところがあるのです。 さあ、家に帰って、財産を全部売り払い、そのお金を貧しい人たちに分けてやりなさい。 そうすれば、天に宝をたくわえることになるのです。 それから、わたしについて来なさい。」

22 このイエスのことばに、その人は顔をくもらせ、悲しそうに、すすり泣いて帰って行きました。 たいへんな金持ちだったからです。

23 そのうしろ姿をじっと見ておられたイエスは、弟子たちのほうをふり返られ、「金持ちが神の国に入るのは、実にむずかしいことです」と言われました。

24 これには、弟子たちもびっくりしてしまいました。 イエスは、もう一度言われました。 「愛する子供たちよ。 財産を頼みとする人が神の国に入るのは、なんとむずかしいことでしょう。 25 金持ちが神の国に入るよりは、らくだが針の穴を通るほうが、よっぽどやさしいのです。」

26 弟子たちはますます驚いて言いました。 「そうだとしたら、この世の中で、いったいだれが救われるのでしょうか。」

27 イエスは弟子たちをじっと見つめ、「神でなければできません。 神には、どんなことでもできるのです」と言われました。

28 するとペテロが、自分や他の弟子たちが捨ててきたものをいちいち数え始めました。 「私たちは何もかも捨てて、あなた様に従ってまいりました。」

29 30 これを聞いて、イエスは言われました。 「はっきり言っておきます。 わたしを愛するゆえに、また神のすばらしい知らせを人々に告げ知らせるために、家、兄弟、姉妹、父、母、子、財産をすべて投げ捨てた者は、必ずその百倍の報いを受けます。 この地上では迫害されますが、それでも家、兄弟、姉妹、母、子、土地はちゃんと戻ってきます。 そればかりか、次の世では永遠のいのちを受けるのです。 31 今は一番偉そうに見える者が、その時には一番軽んじられ、今は小さい者と見くびられていても、その時には一番大きい者となる者が大ぜいいるのです。」

イエス、ご自分の死と復活を予告する

32 さて一行は、エルサレムを目指して進んで行きました。 イエスが先頭で、弟子たちはあとから続きます。 彼らは恐れと不安な気持ちにかられていました。 そこでイエスは、弟子たちをわきへ呼び、エルサレムに到着してから自分の身に起こることを、もう

一度、話して聞かせられました。

33 「エルサレムに着くと、メシヤ（救い主）のわたしは捕らえられ、祭司長やユダヤ人の指導者たちに引き渡され、死刑を宣告されます。そして死刑執行のためにローマの役人の手に渡され、34 あざけられ、つばきをかけられ、むちで打たれ、殺されます。だが、わたしは三日目に復活するのです。」

35 さて、ゼベダイの息子のヤコブとヨハネが来て、イエスにこっそりと頼みました。「先生。 折り入ってお願いしたいことがあるのですが……。」

36 「どんなことですか。」

37 「実は、あなた様の御国で、私たちをあなた様の次に高い位につかせていただきたいのです。 一人はあなた様の右に、一人は左にというぐあいに。」

38 しかし、イエスは言われました。「あなたがたは、何もわかっていませんね。 わたしが飲もうとしている恐るべき杯を飲み、わたしが受けようとしている苦しさのバプテスマ（洗礼）を受けることができるとでも言うのですか。」

39 「できますとも！」と、自信をもって答える二人に、イエスは、「確かにあなたがたはわたしの杯を飲み、バプテスマを受けるでしょう。 40 だが、だれをわたしの次の位につかせるかは、わたしが決めることはありません。 もうすでに、決まっているのです」とおっしゃいました。

41 この、ヤコブとヨハネの願い事を知ったほかの弟子たちは、もうれつに腹を立てました。 42 それでイエスは、皆を呼び集められ、こう言われました。「あなたがたも知っているとおおり、この世の王や高官は、支配者として権力をほしいままにしています。

43 しかし、あなたがたの間では違います。 偉くなりたければ、皆に仕える者となりなさい。 44 人を支配したければ、奴隷のように仕える者となりなさい。 45 メシヤのわたしでさえ、人に仕えられるためではなく、仕えるために来たのであり、多くの人の罪の代償として、自分のいのちを与えるために来たのです。」

46 一行はエリコに着きました。 やがてその町を出ようとする、大ぜいの群衆がついて来ます。 その時、テマイの子でバルテマイという名の盲目のこじきが、道ばたに座っていました。

47 ナザレのイエスのお通りだと聞いて、バルテマイは大声を張り上げました。「イエス様、ダビデ王の子よ！ どうぞお助けを！」

48 「うるさい。 黙れっ！」と、だれかがどなりつけました。 それでも、バルテマイはますます声を張り上げ、「ああ、ダビデ王の子よ。 お助けください」とくり返し叫びました。

49 その声を聞きつけて、イエスはつと立ち止まり、「あの男を連れて来なさい」と言われました。 そこで、人々はその盲人に、「運のいいやつだ。 おい、イエス様がお呼びだぞ」と告げました。 50 バルテマイは、はおっていた上着をぱっと脱ぎ捨てると、喜び勇んでイエスのそばに跳んで来ました。

5 1 「どうしてほしいのですか」と、イエスがお尋ねになると、彼はもどかしげに、「先生。見えるように、見えるようになりたいんです」と答えました。

5 2 「わかりました。さあ、もうあなたの目は治りました。あなたの信仰があなたを治したのです。」イエスがこう言われた瞬間、彼の目は見えるようになり、イエスについて行きました。

――

エルサレムに着いてから

1 2 エルサレム郊外のオリーブ山のふもとに、ベテパゲとベタニヤという二つの村がありました。その近くまで来られた時、イエスはこう言って、弟子を二人、村へ使いに出されました。「あそこの村に行きなさい。するとすぐに、だれも乗ったことのないろばの子が見つからないであろうのに気づくでしょう。それをほどこいて、連れて来なさい。3 もしだれかに何をしているのかと聞かれたら、『主がお入用なのです。すぐお返します』とだけ答えなさい。」

4 5 二人が出かけてみると、なるほど、表通りに面した家の外に、ろばの子が見つないであります。さっそく綱をほどこにかかると、そばにいた人たちが見とがめて、「そのろばの子を、いったいどうしようというんだい」と尋ねました。

6 二人が、イエスに教えられたとおりに答えると、その人たちは納得しました。

7 ろばの子をイエスのところに連れて来た弟子たちは、上着を脱ぎ、ろばの背中にかけました。イエスがその上に乗られると、8 群衆の中の多くの者たちも次々と上着を脱ぎ、イエスの進んで行かれる道に敷いたり、野原から葉のついた枝を切ってきて、敷き並べたりしました。

9 1 0 イエスを行列の真ん中にし、ぐると取り囲んだ群衆が、口々にこう叫びました。

「王様、ばんざーいっ！」

「主の御名によって来られる方に祝福を！」

「この方が興される御国に、われらの父祖ダビデの国に祝福を！」

「全世界の王、ばんざーいっ！」

1 1 こうして、イエスはエルサレムに着き、宮に入られました。そして中の様子をよくごらんになってから、もう時間も遅かったので、十二人の弟子たちといっしょに、ベタニヤまで引き返されました。

1 2 翌朝、ベタニヤを出たイエスは、途中で空腹になりました。1 3 ふと見ると、少し離れた所に、葉の茂ったいちじくの木があります。近づいて、実がなっているかどうかごらんになりました。ところが、その木は葉ばかりでした。まだ実のなる季節ではなかったからです。

1 4 それでイエスは、その木に向かって、「二度と実をつけることがないように」と言われました。弟子たちはこのことばを心にとめていました。

1 5 エルサレムに戻ると、イエスは宮に入り、境内で商売をしていた者たちを追い出し

にかかれ、両替人の机や、鳩を売っていた者たちの台をひっくり返されました。 16
また、いろいろな荷物を持って境内を通り抜けることも、お許しになりませんでした。

17 そういう人たちに、イエスは、このように言われました。 「聖書（旧約）には、
『わたしの神殿は、世界中の人たちの祈りの場所と呼ばれる』と書いてあるではありませんか。 それなのに、あなたがたはここを強盗の巣にしてしまったのです。」

18 こうしたイエスの言動を耳にした祭司長やユダヤ人の指導者たちは、どうすれば首
尾よくイエスを始末できるかと、相談を始めました。人々がみなイエスの教えに夢中にな
っていたので、へたに動いて暴動でも起きたら、それこそ一大事と考えたからです。

19 その夕方、いつものようにイエスと弟子たちはエルサレムを出ました。 20 翌朝、
例のいちじくの木の下を歩きかかると、なんと根もとまですっかり枯れているではあり
ませんか！ 21 ペテロはすぐ、前の日にイエスがこの木に向かって言われたことばを思
い出し、大声をあげました。 「先生。 ごらんください。 昨日あなた様がのろわれた
木が枯れています！」

22 23 イエスは、弟子たちにお答えになりました。 「よく言っておくが、あなたがた
でも神を信じさえすれば、このオリーブ山に『動いて、海に入れ』と言っても、そのとお
りになります。 大切なのは、信じて疑わないことです。 24 いいですか。 よく聞き
なさい。 あなたがたはどんなことでも祈り求めることができます。 そして信じて疑わ
ないなら、それらのものはみな与えられるのです。 すでにあなたがたのものなのです。
25 だが、祈っている時、だれかに恨みをいだいていたら、まずその人を赦してやりな
さい。 そうすれば、天におられるあなたがたの父も、あなたがたの罪を赦してください
ます。」

26 - 28 一行は、またエルサレムにやって来ました。 イエスが宮の中を歩いておられ
ると、祭司長やユダヤ人の指導者たちが近づいて、「ここで何をしているのか。 いったい
だれが、あんたに商人たちを追い出す権利を与えたのか」と食ってかかりました。

29 イエスはお答えになりました。 「では、まずわたしの質問に答えなさい。 その
あとで答えましょう。 30 バプテスマのヨハネは、神から遣わされたのですか。 それ
とも、違うというのですか。 さあ、答えてもらいましょう。」

31 彼らは集まってひそひそ相談しました。 「もし、『神様から遣わされた』と答えれ
ば、『それを知っていながら、なぜ、ヨハネを信じなかったのか』と聞かれるだろう。 3
2 かといって、もし、『神様から遣わされたのではない』と答えれば、ここにいる群衆が騒
ぎ出すだろう。」〔人々はみな、ヨハネは預言者だと堅く信じていたのです。〕

33 彼らはしかたなく、「わかりません」と答えました。 するとイエスは、「それなら、
わたしもあなたがたの質問には答えないことにします」と言われました。

・

一二

ぶどう園のたとえ話

1 それからイエスは、たとえを使って人々に話し始められました。

「ある農園主がぶどう園を造り、垣根を巡らし、ぶどうの汁をしぼる穴を掘り、見張りのやぐらを建てました。そして、このぶどう園を農夫たちに貸し、外国へ出かけました。

2 ぶどうの収穫の季節になったので、農園主は代理の者をやり、分け前を受け取ろうとしました。3 けれども農夫たちは、代理の者を袋だたきにしたあげく、手ぶらで送り帰したのです。

4 そこで、もう一人の代理人を送りましたが、彼も同じような仕打ちを受け、しかも頭にひどいけがを負いました。5 農園主はまた別の人を送りました。こともあろうに、農夫たちはその人を殺してしまいました。そのあとも次々に人が送られましたが、みな袋だたきにされたり、殺されたりして、6 残るは、農園主の息子だけになりました。愛するたった一人の息子でした。しかし農園主は『息子だったら、農夫たちも尊敬してくれるだろう』と思い、ついにその息子を送り出しました。

7 ところが、農夫たちは息子を見ると、『おい、絶好のチャンスだぜ。ぶどう園の跡取りがやって来らあ。よーし、あいつを殺っちまおうぜ。そうすりゃあ、ここはおれたちのものよ』とばかり、8 いっせいに息子を捕らえて殺し、死体をぶどう園の外に放り出しました。

9 農園主がこのことを知ったら、どうすると思いますか。すぐさま帰って来て、農夫たちを皆殺しにし、ぶどう園はほかの人たちに貸すでしょう。10 あなたがたは、聖書（旧約）にこう書いてあるのを読んだことがないのですか。

『建築士たちの捨てた石が、最も重要な土台石となった。

11 なんとすばらしいことか。

主はなんと驚くべきことをなさる方か。』

敵のわなを見破る

12 このたとえ話を聞いた祭司長やユダヤ人の指導者たちは、その悪い農夫とは、実は自分たちのことなのだと気づき、イエスを捕らえようと思いましたが、群衆の暴動がこわくて手出しができません。しかたなく、イエスをそのままにして、そそくさと立ち去りました。13 それでも、何とかして逮捕の口実をつかもうと、パリサイ人やヘロデ党（ヘロデ王を支持する政治的な一派）の者たちを送りました。

14 彼らはイエスに尋ねました。「先生。あなた様のおっしゃることは、いちいちごもつともでございます。そうですとも、あなた様は、私利私欲にとらわれず、まじめに神の道を教えておられます。つきましては……、ちょっとお尋ねしたいのですが、ローマ政府に税金を納めるのは正しいことでしょうか。それとも……。」

15 彼らのわなを見破ったイエスは、「教えてあげるから、銀貨を見せなさい」と言われました。

16 そして銀貨を受け取ると、こうお尋ねになりました。

「この銀貨に刻んである肖像と名前はだれのものですか。」

「ローマ皇帝のものです。」

17 「その通りです。 皇帝のものなら、皇帝に返しなさい。 しかし、神のものはすべて、神に返さなければなりません。」こう言われて、彼らは頭をかかえ込んでしまいました。

18 次に、復活などありえないと主張していたサドカイ人たち（神殿を牛耳っていた祭司階級。ユダヤ教の主流派）がやって来ました。

19 「先生。 モーセの法律によると、ある男が結婚して子供がないまま死んだ場合、弟が兄の未亡人と結婚して、生まれた子供に兄のあとを継がせることになっています。 20 - 22 ところで、ここに七人兄弟がいたとしましょう。 長男は結婚しましたが、子供がないまま死に、残された未亡人は次男の妻になりました。 ところが次男も子供ができずに死んだので、その妻は三男のものになりました。 三男も四男も同じことで、ついにこの女は、七人兄弟全部の妻になりましたが、結局、子供はできずじまいでした。 最後にこの未亡人も死にました。

23 そこでお尋ねしたいのですが……、復活の時、この女はいったいだれの妻になるのでしょうか。 七人とも彼女を妻にしたのですが。」

24 イエスはお答えになりました。「聖書も神の力もわかっていないようですね。 全く思い違いをしています。 25 復活の時には、結婚などはないのです。 みんなが天の使いのようになるのですから。

26 ところで、復活のあるなしについては、聖書の、モーセと燃える柴の箇所を読んだことがないのですか。 神はモーセに、『わたしはアブラハムの神、イサクの神、ヤコブの神である』と言われました。

27 実際には、これらの人たちは数百年も前に死んでいたのに、神はモーセに、彼らはなお生きていと教えられたのです。 そうでなければ、すでに存在していない人の『神である』などと、おっしゃるはずがありません。 あなたがたは、この点で決定的なまちがいを犯しています。」

28 イエスのそばで、この見事な返答ぶりを聞いていた一人のユダヤ教の教師が、「先生。 すべての戒めの中で、どれが一番重要な戒めでしょうか」と尋ねました。

29 「『イスラエルよ、聞け！ 主なる神こそ、ただ一人の神です。 30 心を尽くし、たましいを尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの主を愛しなさい。』これが最も重要な戒めです。

31 第二は、『自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい』という戒めです。 これ以上に重要な戒めはありません。」

32 「先生。 あなた様は今、神様はお一人で、ほかに神はいないとおっしゃいましたが、まさにそのとおりです。 33 そして、神殿の祭壇にどんな供え物をささげるよりも、『心を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして主を愛し、また隣人を自分と同じように愛す

る』ことのほうが、ずっと大切です。」

34 この賢明な答えに感心したイエスは、「あなたは神の国から遠くない」と言われました。 そのあとはもう、だれも、あえてイエスに質問しようとはしませんでした。

35 その後、神殿の境内で教えておられた時、イエスはこうお尋ねになりました。「ユダヤ教の教師たちは、どうしてキリストがダビデ王の子だと言いはるのですか。 36 ダビデ自身が、といっても、ほんとうは聖霊がダビデを通して語られたのですが、こう言っているではありませんか。

『神が私の主に言われた。

「わたしがあなたの敵を
あなたの足台とするまで、
わたしの右に座っていなさい。』

37 ダビデがキリストを主と呼んでいるのなら、どうしてキリストがダビデの子でありうるのでしょうか。」こういう議論に群衆は大喜びです。好奇のまなざしで、わくわくしながらイエスの話に聞き入っていました。

38 イエスは、ほかにも次のような話をなさいました。

「ユダヤ教の教師たちを警戒しなさい。 彼らは見るからに学者らしいぜいたくなガウンをはおったり、広場を歩いている時に、大ぜいの人からあいさつされたりするのが、何よりうれしいのです。 39 また会堂で特別席に座ったり、宴会で上座に着いたりするのも大好きです。 40 裏では、恥知らずにも、未亡人の家を食いものにしながら、人前では長ったらしい祈りをして、これ見よがしに神を敬うふりをしています。 こういう人たちは、人一倍きびしい罰を受けるのです。」

41 それから、神殿の献金箱のそばに座り、人々がお金を投げ入れる様子をじっと見ておられました。 大ぜいの金持ちが、気前よく大金をささげているところへ、 42 みすばらしいなり未亡人がやって来て、そっと十円玉を二つ投げ入れました。

43 44 それをごらんになったイエスは、弟子たちを呼び寄せられ、こう言われました。「あの貧しい未亡人は、どの金持ちよりも、はるかに多く投げ入れたのですよ。 金持ちたちはあり余る中からほんの少しばかりささげたのに、この女は、乏しい中から持っている全部をささげたのですから。」

一三

この世の終わり

1 イエスが宮から出ようとしておられた時、弟子の一人が言いました。「先生。 まあ、なんと美しい建物でしょう。 なんと見事な石でしょう。」

2 すると、イエスはお答えになりました。「なるほどすばらしいものです。 だが、この建物も、たった一つの石さえほかの石の上に残らないほど、あとかたもなくくずれ落ちてしまうのです。」

3 4 イエスがオリーブ山で、宮のほうを向いて座っておられると、ペテロ、ヤコブ、ヨハ

ネ、アンデレがひそかにイエスに尋ねました。「いったいいつ、神殿にそんなことが起こるのですか。　そうなる前に、何か前兆でもあるのでしょうか。」

5　そこで、イエスはゆっくり話し始められました。　「だれにもだまされてはいけません。　6自分こそキリストだと名乗る者が大ぜい現われて、多くの人を惑わすからです。　7また、あちこちで戦争が始まるでしょう。　けれども、まだ終わりが来たわけではありません。

8　民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、至る所で地震やききんが起きます。しかしこれらはみな、やがて襲って来る苦しみ、ほんの始まりにすぎないのです。　9しかし、これらのことが起こり始めたら、よく警戒しなさい。　非常な危険が迫っているからです。　あなたがたは法廷に引き出され、会堂でむち打ちの刑を受け、またわたしに従う者だというだけで、総督や王たちの前で訴えられるでしょう。　しかしその時こそ、神のすばらしい知らせを語るチャンスです。　10終わりの時が来る前に、この知らせは世界中の人々に伝えられなければなりません。　11逮捕されても、取り調べの時、どう釈明しようかと心配することはいりません。　ただ、その時、神があなたがたに語ってくださることだけを話せばいいのです。　話をするのはあなたがたではなく、聖霊なのです。

12　兄弟同士が裏切り合い殺し合うかと思えば、親までが子を裏切り、子もまた親に反逆し、殺します。　13そしてあなたがたは、わたしの弟子であるというだけで、すべての人に憎まれます。　しかし終わりまで、わたしへの信仰を捨てずに耐え忍ぶ者は、みな救われます。

14　恐るべきものが神殿に立つのを見たら〔読者よ、よく考えなさい〕、ユダヤにいる人たちは、山へ逃げなさい。　1516急ぐのです。もしその時、屋上にいたら、家の中に戻ってはいけません。　畑で野良仕事をしていたら、お金や着物を取りに帰ってはいけません。

17　このような日に妊娠している女と乳飲み子をかかえている母親は、ほんとうに不幸です。　18あなたがたの逃げるのが、冬にならないように祈りなさい。　19それは、神が天地を創造された初めから今に至るまで、いまだかつてなかったような恐るべき日からです。　20主が、このわざわいの期間を短くしてくださらないかぎり、地上には、一人も生き残れないでしょう。　だが、神に選ばれた人たちのために、その期間は短くされるのです。

21　その時、だれかが『この方がキリスト様だ』とか『いや、あの方がそうだ』とか言っても、気をとられてはいけません。　22偽キリストや偽預言者が次々に現われて、不思議な奇蹟を行ない、できることなら神に選ばれた者たちをさえ惑わそうとするからです。　23気をつけていなさい。　警告しておきますよ。

24　この苦難の時に続いて、太陽は暗くなり、月は光を失い、　25星は落ち、宇宙に異変が起こります。

26　その時すべての人が、メシヤ（救い主）のわたしが大きな力と栄光とを帯びて、雲

に乗って来るのを見るでしょう。 27 わたしは御使いたちを遣わし、世界中から、天と地の果てから、選ばれた者たちを呼び集めるのです。

28 さて、いちじくの木から教訓を学びなさい。 いちじくの葉が出てくれば、夏は間近です。 29 同じように、いま言ったようなことが起これば、わたしはもう戸口まで来ているのです。

30 そうです。 これが、この時代の終わりの前兆なのです。 31 天地は消え去りますが、わたしのことばは永遠に残ります。

32 しかし、だれも、天の使いも、わたし自身でさえも、その日、その時がいつかは知りません。 ただ父だけが知っておられます。 33 だから、いつ終わりが来ても困らないように、〔わたしの帰りを〕目を覚まして待っていなさい。

34 こう言えば、もっとはつきりするでしょう。 ある人が外国旅行に出かける時、使用人たちに留守中の仕事の手配をし、門番には、主人の帰りを見張っているようにと命じて出かけました。 35 だから、しっかり目を覚ましていなさい。 いつわたしが帰ってくるか、夕方か、夜中か、明け方か、それともすっかり明るくなってからか、わからないのですから。 36 不意をつかれて、居眠りしているところを、見られないようにしなさい。 37 あなたがただけでなく、すべての人にも、念を押しておきます。 わたしの帰りを、抜かりなく見張っていなさい。」

一四

裏切られたイエス

1 過越の祭り〔イースト菌を入れないパンを食べる、年に一度のユダヤ人の祭り〕が二日後に迫りました。 いぜんとして、祭司長やユダヤ人の指導者たちは、イエスを捕らえて死刑にしようと、うの目たかの目で機会をうかがっています。

2 しかし、「祭りの間はまずいぞ。 群衆が暴動でも起こすと取り返しがつかないからな」と用心していました。

3 さて、イエスは、ベタニヤのらい病人シモンの家におられました。 ちょうど食卓に着いておられる時、女が一人、入って来ました。 高価な香油の入った美しいつぼを持っています。 女はイエスに近づくと、いきなりつぼの封を切り、香油をイエスの頭に注ぎかけました。

4 5 同席していた何人かの者たちは腹を立て、「なんてもったいないことをする女だ。 この香油なら、高く売れて、貧しい人たちに恵むこともできたのに」と女をとがめました。

6 しかしイエスは、彼らに言われました。 「するままにさせておきなさい。 良いことをしてくれたのに、なぜ非難するのですか。 7 貧しい人たちは、いつも身近にいるから、その気があれば、いつでも助けることができます。 しかし、わたしはもう、そんなに長くこの地上にいないのです。

8 この女は、精一杯のことをしてくれました。 わたしの葬りの準備に、香油を塗ってくれたのですから。 9 よく言うておきます。 世界中どこでも、神のすばらしい知ら

せが伝えられる所では、この女のしたことも必ず賞賛されるでしょう。」

10 ところで、弟子の一人、イスカリオテのユダは、イエスを売り渡そうと、わざわざ祭司長たちのところに出かけました。

11 ユダが来意を告げると、祭司長たちは有頂天になり、「謝礼ははずんでやるぞ」と約束しました。それ以来、ユダは、イエスを売り渡すチャンスをねらうようになりました。

12 過越の祭りの最初の日、すなわち、小羊をいけにえとしてささげる日に、弟子たちは「どこで過越の食事をなさるおつもりですか」と尋ねました。13そこでイエスは弟子を二人エルサレムへやり、その準備をさせることにしました。「町を歩いて行くと、水がめを持って来る男に出会うから、その男について行きなさい。14彼が入った家の主人に、『私どもの先生が、過越の食事をする部屋を見て来るようにと申しました』と言いなさい。15主人はすっかり用意の整った二階の広間を見せてくれるはずです。そこで食事のしたくをしなさい。」

16 二人が町に入って行くと、何もかもイエスの言われたとおりでした。こうして、過越の準備は整いました。

17 夕方、イエスと弟子たちは連れ立って、そこにやって来ました。18皆が食卓を囲んで食事をしていると、イエスは言われました。「いいですか。よく覚えておきます。今わたしといっしょに食事をしている者の一人が、わたしを裏切るのです。」

19 これを聞いた弟子たちは、ひどく心を痛め、口々に、「まさか、私じゃないでしょうね」と尋ねました。

20 「あなたがた十二人の中の一人で、今わたしといっしょに、同じ鉢にパンを浸している者が、裏切り者です。21預言者が、ずっと昔からはっきり預言してきたように、わたしは死ななければなりません。だが、わたしを裏切る者はのろわれます。その人はむしろ生まれてこなかったほうがよかったのです。」

22 食事の最中に、イエスはパンを取り、神様の祝福を祈ってから、それをちぎり、弟子たちに分け与えられました。「食べなさい。これはわたしの体です。」

23 それからぶどう酒の杯を取り、神様に感謝の祈りをささげてから、弟子たちに与えられました。弟子たちはみな、その杯から飲みました。

24 イエスは言われました。「これは多くの人のために流す、わたしの血です。神と人間との新しい契約を保証する血です。25よく覚えておきますが、やがて神の国で、もっとすばらしいものを飲むその日まで、わたしは、もう決してぶどう酒を飲みません。」

26 一同は賛美歌をうたってから、オリーブ山に向かいました。

27 イエスは、弟子たちに言われました。「あなたがたはみな、わたしを見捨てるでしょう。神が預言者を通して、『わたしが羊飼いを打つ。すると羊は散り散りになる』と言われたとおりに。28だが、わたしは復活して、ガリラヤに行きます。そこであなたがたに会うでしょう。」

29 「だれがどうあろうと、私だけは、この私だけは絶対にあなた様を捨てません」と

叫ぶペテロに、 30 イエスは、「ペテロよ。 あなたは明日の朝、鶏が二度鳴く前に、三度わたしを知らないと言うでしょう」と言われました。

31 「とんでもない！ たとい死んでも、絶対にあなた様を知らないなどとは申しません。」ペテロは大声で言い返しました。ほかの弟子たちも、口々に誓い始めました。

32 さて、一同は、オリーブの木の茂っている、ゲツセマネと呼ばれる園にやって来ました。「わたしが向こうで祈っている間、ここに座っていなさい。」

33 こうお命じになると、イエスは、ペテロとヤコブとヨハネだけを連れて、奥のほうに行かれました。その時、恐れと絶望に襲われて、イエスはもだえ始められました。 34

「わたしは悲しみのあまり、今にも死にそうです。 お願いだから、ここを離れず、わたしといっしょに目を覚ましていなさい。」

35 こう頼むと、三人から少し離れた所へ行き、地面にひれ伏して、もしできることなら、自分を待ちかまえている恐ろしい時が来ないようにと、切に祈られました。

36 「父よ、父よ。 あなたはどんなことでもおできになります。 どうぞ、この杯を取り除いてください。 しかし、わたしの思いどおりにではなく、あなたのお心のままになさってください！」

37 イエスが弟子たちのところへ戻って来られると、三人が三人とも、ぐっすり眠り込んでいるではありませんか。そこで、ペテロに声をかけました。「シモンよ。眠っているのですか。 たったの一時間でも、わたしといっしょに目を覚ましていられなかったのですか。 38 しっかり目を覚まして祈っていなさい。 さもないと誘惑に負けてしまいます。 心は燃えていても、肉体は弱いのですから。」

39 こうしてまた、彼らから離れ、前と同じことを祈られました。 40 そのあと、もう一度弟子たちのところへ戻って来ると、またもや、三人とも眠り込んでいます。 ひどく眠気がさして我慢できなかったからです。 彼らは何と言いわけしたらよいか、わかりませんでした。

41 イエスは三度目に戻って来て言われました。「まだ眠っているのですか。 それだけ眠れば十分でしょう。 さあ、時が来ました。 いよいよ、わたしは悪い者たちの手に売り渡されるのです。 42 さあ、立ちなさい。 行くのです。 見なさい、裏切り者がやってきました。」

43 イエスがまだ言い終わらないうちに、祭司長やユダヤ人の指導者たちの差し向けた暴徒たちが、手に手に剣やこん棒を振りかざし、弟子の一人であるユダを先頭に近づいて来ました。

44 ユダは前もって、「いいか。 私があいさつをする相手がイエスだから、そいつをつかまえて、引っ立てて行くのだ」と打ち合わせておきました。 45 それで、やって来るとすぐ、イエスに近づき、「先生」と声をかけ、さも親しげに抱きしめました。 46 そのとたん、暴徒たちがいっせいにイエスを取り押さえました。 47 その時、イエスのそばにいた一人が、さっと剣を抜き放つと、大祭司の部下に切りかかり、相手の耳を切り落と

してしまいました。

48 イエスは暴徒たちに向かって言われました。「剣やこん棒で、これほどものものしい武装をしなければならないほど、わたしは凶悪な犯罪者なのですか！ 49 なぜ、神殿で捕らえようとしなかったのですか。 わたしはあそこで毎日教えていたのに。 いいですか、これもみな、わたしについての預言が実現するためなのです。」

50 この時にはもう、弟子たちはみな、イエスを見捨てて逃げ去っていました。 51

52 ただ一人、亜麻布を一枚だけまとして、イエスのうしろからついて行く青年がいました。ところが、途中で暴徒たちに見つかり、危うく、つかまりそうになったので、引きちぎられた亜麻布を脱ぎ捨て、裸のまま、ほうほうのていで逃げて行きました。

ペテロ、イエスを知らないと言う

53 イエスは、大祭司の家に引っ立てられて行きました。 祭司長やユダヤ人の指導者たちも、急いで駆けつけ、まもなく全員がそろいました。 54 さてペテロは、遠くからあとをつけて行き、うまく門からもぐり込んで、兵士たちにまぎれて、火のそばでうずくまっていました。

55 中では、イエスに死刑の宣告を下すための証拠集めに、祭司長やユダヤの最高議会の全議員がやっきになっていましたが、何も見つけることができません。 56 偽の証人は大ぜい名乗り出たのですが、証言がみな食い違っていたからです。

57 58 そのうち、とうとう何人かが、「確か、こいつが『人間の手で造られた神殿をこわして、人間の手によらない神殿を三日で建ててみせる』とほざいているのを聞きました」と偽証しました。 59 しかしこの点でも、証言は一致しませんでした。

60 その時、大祭司が進み出て、イエスに問いました。「おまえは、これらの訴えに答えないうもりか。 えっ、どうなんだ。 何も釈明する気はないのか。」

61 イエスは、ひと言もお答えになりません。 大祭司は続けて、「おまえは神の子、キリストなのか」と問い詰めました。

62 「そのとおりです。 あなたがたは、やがてわたしが神の右の座につき、雲に乗って、もう一度この地上に来るのを見るでしょう。」

63 64 この答えに、大祭司は、即座に着物を引き裂き、こう叫びました。「これだけ聞けば十分だ！ さあ、お聞きのとおりだ。 神を汚したこの男を、どうしよう。」こうして、イエスの死刑は全員一致で確定しました。

65 このあと、ある者たちは、イエスにつばきをかけたり、目隠しして、げんこつで顔をなぐり、「今なぐったのはだれだい。 さあ当ててみろよ。 預言者様」とあざけったりしました。 役人たちもイエスを引き取って、打ちたたきました。

66 一方ペテロは、下の中庭にいました。 大祭司の女中の一人が、 67 火にあたっているペテロに気づき、じっと見つめながら言いました。「あら、あんた。 ナザレ人イエスといっしょにいた人じゃないの？」

68 ペテロはそのことばを打ち消し、「変な言いがかりはよしてくれ」と言って、出口の

方へ行きかけました。その時、鶏が鳴きました。

69 すると女中は、またもペテロをしげしげと見つめ、そばに立っている人たちに、「ほら、あの人。あの人はイエスの弟子よ」と言いふらしました。

70 ペテロはあわててそれを打ち消しました。しばらくすると、火のそばに立っていたほかの男たちも、「おまえは確かにイエスの仲間だ。ガリラヤ人だからな」と騒ぎだしました。

71 ペテロは、「そんな男のことなんか、知るもんか。これがうそなら、どんな罰があたってもかまわないぞ」と叫びました。

72 するとすぐ、鶏が二度目に鳴くのが聞こえました。その瞬間、イエスのことばが、ぱっとペテロの心にひらめきました。「鶏が二度鳴く前に三度わたしを知らないと言います」ということばを思い出したのです。ペテロは激しく泣きくずれました。

一五

イエスの裁判、十字架の死、埋葬

1 朝早く、祭司長と長老、それにユダヤ教の教師たちからなる最高会議の全議員が、次の手はずをあれこれ協議した結果、縛ったまま、イエスをローマ総督ピラトに引き渡すことに決まりました。

2 「おまえはユダヤ人の王なのか」というピラトの尋問に、イエスは「そのとおりです」とお答えになりました。

3 そこで祭司長たちは、あることないことを挙げつらね、イエスを訴えました。4 これを聞いたピラトは、「どうして何も言わないのか。あんなにまで訴えているのに、平気なのか」と尋ねました。

5 しかしイエスは、ひと言もお答えになりません。これにはピラトも、驚き、あきれてしまいました。

6 さてピラトは、毎年、過越の祭りには、人々の願うままにユダヤ人の囚人を一人、釈放してやることにしていました。

7 たまたまこの時、暴動で人殺しをし、投獄されていた暴徒たちの中に、バラバという男がいました。

8 群衆はピラトの前に押し寄せ、例年どおり囚人を釈放するよう迫りました。

9 そこで、ピラトは尋ねました。「『ユダヤ人の王』を釈放してほしいのか。おまえたちが赦してほしいのはこの男か。」10 こう言ったのは、イエスが捕らえられたのは、彼の人気をねたむ祭司長たちのでっち上げによる、とにらんだからです。

11 ところが、祭司長たちも拔かりはありません。たくみに群衆をけしかけ、イエスではなくバラバの釈放を要求させたのです。

12 「バラバは釈放するとして、おまえたちが王と呼んでいるあの男は、いったいどうするつもりか。」

13 「十字架につける！」

14 「なぜだ。 ええっ、あの男が、いったいどんな悪事を働いたというのだ！」それでも群衆はおさまりません。 なおも大声で、「十字架につけろ！」とわめき続けます。

15 ピラトは群衆のきげんをそこねたくなかったので、結局、バラバを釈放することになりました。 イエスのほうは、先端に鉛のついたむちで打たせてから、十字架につけるために引き渡しました。

16 ローマ兵たちは、イエスを総督官邸内の兵營に引っ立てて行き、全部隊を召集しました。 17その目の前で、イエスに紫色のガウンを着せ、長く鋭いとげのあるいばらで冠を作り、頭にかぶせると、 18「よおっ、ユダヤ人の王様」とはやし立て、皮肉たっぷり敬礼しました。 19それから、頭を葦の棒でたたいたり、つばきをかけたり、ひれ伏して拝むまねをしたりして、からかいました。

20 こうしてさんざん笑いものにしたあげく、紫色のガウンをはぎとってもとの着物をきせ、いよいよ、十字架につけるために引き出しました。

21 途中、ちょうど、田舎から来合わせていたクレネ人のシモンという男に、むりやりイエスの十字架を背負わせました〔シモンは、アレキサンデルとルポスの父親です〕。

22 兵士たちは、イエスをゴルゴタ〔がいこつ〕と呼ばれる場所に連れて行きました。

23そこで、没薬を混ぜたぶどう酒（痛みを和らげる飲み物）を飲ませようとしたのですが、イエスはお断わりになりました。 24兵士たちは、イエスを十字架につけてしまうと、さっそくくじを引き、その着物を分け合いました。

25 イエスが十字架につけられたのは、朝の九時ごろでした。

26 イエスの頭上には、罪状書きが掲げられ、それには「ユダヤ人の王」と書いてありました。

27 その日、二人の強盗も、イエスといっしょに十字架につけられました。 二人の十字架はイエスの両側でした。 28こうして、『彼は罪人の一人に数えられた』という聖書（旧約）のことばどおりになったのです。

2930刑場のそばを通りかかった人たちは、大げさな身ぶりをしながら、「ざまあみろ！ 神殿を打ちこわして三日で建て直すんだってなあ、そんなに偉いなら、たった今、十字架から降りて来いよ、自分を救ったらどうなんだい！」と、口ぎたなくイエスをののしりました。

31 祭司長やユダヤ人の指導者たちも、同じようにあざけりました。

「ふん、人を救っても、自分は救えないというわけか。」

32 「よおよお、キリスト様。 イスラエルの王様。 十字架から降りてみる。 そうしたら、信じてやろうじゃないか。」

イエスの両側で十字架につけられていた強盗までが、悪口をあびせました。

33 さて、正午にもなったころ、急にあたりが暗くなり、一面やみにおおわれました。それが、なんと三時間も続いたのです。

34 三時ごろ、イエスは大声で「エリ、エリ、レマ、サバクタニ」と叫ばれました。 そ

れは「わが神、わが神。 どうしてわたしをお見捨てになったのですか」という意味です。

35 近くで、その声を聞いた人の中には、預言者エリヤを呼んでいるのだと思う者もありました。 36 その時、一人の男がさっと駆け寄り、海綿に酸っぱいぶどう酒を含めると、それを葦の棒につけて、差し出しました。 そして、「さあ、エリヤがこいつを降ろしに来るかどうか、とくと拝見しようじゃないか」と言いました。

37 イエスはもう一度大声で叫ぶと、息を引き取られました。

38 するとどうでしょう。 神殿の幕が、上から下まで真っ二つに裂けたのです。

39 十字架のそばに立っていたローマ軍の士官は、イエスの死の有様を見て、「この方はほんとうに神の子だった！」と叫びました。

40 数人の婦人が、遠くから恐る恐るこの様子をながめていました。マグダラのマリヤ、小ヤコブとヨセの母マリヤ、サロメをはじめ、何人かの婦人たちです。 41 この女たちは、イエスがガリラヤにおられた時、いつもお仕えしていたのです。 ほかに大ぜいの婦人が、イエスといっしょにエルサレムまで来ていました。

42 43 以上の出来事はすべて、安息日の前日に起こったことです。 その日の夕方、一人の人がピラトのところへ行き、勇気を奮い起こして、イエスの遺体を引き取りたいと申し出ました。 その人はアリマタヤ出身のヨセフといい、ユダヤの最高議会の有力な議員で、神の国が来ることを熱心に待ち望んでいました。

44 ピラトは、イエスがもう死んでしまったとは、どうしても信じられません。 ローマ軍の士官を呼びつけ、しかと問いました。 45 士官が死を確認したので、それではと、遺体の引き取りを許可しました。

46 ヨセフは亜麻布を何メートルも買って来ると、イエスの遺体を十字架から取り降ろし、布でくるんで、岩をくり抜いた墓の中に納め、入口は石を転がしてふさぎました。

47 マグダラのマリヤとヨセの母マリヤとは、イエスが葬られるのをじっと見守っていました。

一六

イエスは復活した！

1 翌日の夕方、安息日が終わると、マグダラのマリヤとヤコブの母マリヤ、それにサロメの三人は、さっそく、イエスの遺体に塗る香料を買い求めました。

2 翌朝早く、日が昇るとすぐ、婦人たちは香料を持って墓へ急ぎました。 3 ところが、気にかかることが一つあります。 どうしたら、あの大きな石を入口から取りのけることができるのでしょうか。 道々、そのことばかり話し合っていました。

4 それがどうでしょう。 着いてみると、あの重い石はどけてあり、入口が開いているではありませんか。 5 中に入ると、右のほうに、白い着物をきた青年が座っています。 婦人たちはびっくりして、息も止まるほどでした。 6 その御使いがおもむろに口を開きました。「そんなに驚くことはありません。 十字架につけられたナザレのイエス様を捜しているのでしょうか。 あの方はもうここにはおられません。復活されたのです。ごらんな

さい。ここがあの方の遺体があった場所です。 7 さあ、行って、ペテロやほかの弟子たちに、『イエス様はあなたがたより先にガリラヤへ行かれます。 前もって言われたとおり、そこでお会いできるのです』と知らせてあげなさい。」

8 婦人たちは震え上がり、転がるようにして墓から逃げ帰りました。そして、あまりの恐ろしさに、この出来事をだれにも話すことができませんでした。

9 「さて、イエスの復活は、日曜日の早朝のことでした。 最初にイエスにお会いしたのは、マグダラのマリヤです。 彼女はかつて、イエスに七つの悪霊を追い出していただいたことがありました。 10 11 マリヤはすぐさま、悲しみに打ちひしがれて泣いている弟子たちのところへ行き、「大変よ！ イエス様は生きておられるわよ。 私、ちゃんとこの目でお目にかかったんですもの」と話しました。 しかし、弟子たちは、マリヤの言うことを信じようとしませんでした。

12 その日の夕方、二人の弟子がエルサレムから田舎へ向かう道を歩いていました。 そこへイエスが現われましたが、とっさには、だれだか見分けがつきませんでした。 以前とは違った姿をしておられたからです。 13 やっとイエスだとわかると、エルサレムに跳んで帰り、ほかの弟子たちに、この出来事を知らせました。 しかし、だれも二人の言うことを信じませんでした。

14 その後、十一人の弟子たちが食事をしているところへ、イエスが現われ、彼らの不信仰をお責めになりました。 「どうして、わたしが復活したと言う者たちの証言を信じなかったのですか。 全く頑固な人たちです。」

15 それから、こう宣言されました。 「全世界に出て行きなさい。 すべての人々に、このすばらしい知らせを宣べ伝えるのです。 16 信じて、バプテスマ（洗礼）を受ける者は救われます。 しかし、信じない者は、罪に定められます。

17 信じる人々は、わたしの権威によって悪霊を追い出し、新しいことばを語ります。

18 蛇をつかんでも安全だし、毒を飲んでも害はありません。 病人に手を置けば、病気は治ります。」

19 こう語り終えると、イエスは、天に上げられ、神の右の座につかれました。

20 弟子たちは、命じられたとおり出て行き、あらゆる所で、このすばらしい知らせを宣べ伝えました。 主が共に働いてくださったので、数々の奇蹟が起こり、弟子たちの教えの確かさが証明されました。]

■

ルカの福音書（医者ルカの記録）

快復の見込みのない病気で絶望している人。 社会的地位も低く、人からいやしめられ、軽べつされている人。 人々に訴える力も、権力もない弱い女たち。 社会の片隅に追いやられ、存在すらも認められない、そのような人たちの心を、イエスは大切になさいました。 そして、つらい思いでいる人々の気持ちを理解し、やさしい励ましと、慰めのことばを一人一人にかけていかれたのです。 そういうキリストの姿が、医者ルカの目を通して生き生きと描かれています。

—

神様を愛する親愛なる友へ。

1 2 イエス・キリストの伝記は、最初からの目撃者であり弟子であった人たちの証言をもとに、すでに幾つかでき上がっています。 3 しかし私は、すべての記録を、もう一度初めからチェックし、徹底的に調査した上で、あなたのために順序正しく書いて差し上げたいと思うようになりました。 4 それによって、教わっていたことはみな正確な事実であることが、よくわかりいただけたと思います。

ザカリヤへの約束

5 私の話は、ヘロデがユダヤの王であった時代にユダヤの祭司をしていた、ザカリヤという人のことから始まります。 ザカリヤは、神殿で奉仕するアビヤの組の一員で、妻エリサベツも祭司の家系でアロンの子孫でした。 6 この夫婦は神様を愛し、おきてを忠実に守り、心から従っていました。 7 しかし、エリサベツは子供のできない体だったので、夫婦には子供がなく、二人ともすっかり年をとっていました。

8 さて、ザカリヤの組が週の当番となり、彼は神殿で祭司の務めをしていましたが、 9 祭司職の習慣に従ってくじを引いたところ、聖所に入って主の前に香をたくという光栄ある務めが当たりました。 10 香がたかれている間、民衆は神殿の庭で祈るのです。 大ぜいの人が集まっていました。

11 ザカリヤが聖所で香をたいていると、突然、御使いが現われ、香をたく壇の右側に立ったではありませんか。 12 ザカリヤはびっくりし、言い知れぬ恐怖に襲われました。

13 しかし、御使いは言いました。「ザカリヤよ。 こわがることはありません。 うれしい知らせなのだから。 神様があなたの祈りをかなえてくださったのです。 エリサベツは男の子を産むでしょう。 その子にヨハネという名前をつけなさい。 14 その子はあなたがたの喜びとなり、楽しみとなります。 また多くの人もあなたがたと共に喜びます。 15 その子が、主の前に偉大な者となるからです。 彼はぶどう酒や強い酒は絶対に飲みません。 生まれる前から聖霊様に満たされており、 16 やがて、多くのユダヤ人を神様に立ち返らせるのです。 17 昔の預言者エリヤのように、たくましい霊と力にあふれて、メシヤ（救い主）の前ぶれをし、人々にメシヤを迎える準備をさせます。 大人には子供のような素直な心と呼び覚まし、逆らう者には信仰心を起こさせるのです。」

18 「そんなことは信じられません。 私はもう老いぼれですし、妻もすっかり年をとっているんです。」

19 「私はガブリエル、神様の前に立つ者です。 神おん自らが、すばらしい知らせを伝えるために、私を遣わされたのです。 20 この知らせを、あなたは信じませんでした。その罰に、あなたは神様に打たれて口がきけなくなります。 子供が生まれるまで話すことはできません。 その時が来れば、必ず私の言ったとおりになるのです。」

21 外の人たちは、ザカリヤが出て来るのを、今や遅しと待ちかまえていましたが、なぜそんなに手間どっているのか不思議でなりません。 22 ついに出て来ました。 ところが、何も言わないのです。 しかし、ザカリヤの身ぶりから、きっと神殿の中で幻を見たのだらうと考えました。 23 ザカリヤは残りの期間の奉仕をすませ、家に帰りました。

24 まもなく、エリサベツは妊娠し、五か月間、家に引きこもっていました。

25 エリサベツは、「主は、私に子供を与えて、恥を取り除いてくださった。 なんとあわれみ深いお方でしょう」と言いました。

マリヤへの約束

26 その翌月、神は御使いガブリエルを、ガリラヤのナザレ村に住む、マリヤという処女のところへお遣わしになりました。 27 この娘は、ダビデ王の子孫にあたるヨセフという人の婚約者でした。

28 ガブリエルはマリヤに声をかけました。 「おめでとう、恵まれた女よ。 主が共におられます。」

29 これを聞いたマリヤは、すっかり戸惑い、このあいさつはどういう意味だろうと考え込んでしまいました。

30 すると御使いが言いました。 「こわがらなくてもいいのです、マリヤ。 神様があなたに、すばらしいことをしてくださるのです。 31 あなたはすぐにみごもり、男の子を産みます。 その子を『イエス』と名づけなさい。 32 彼は非常に偉大な人になり、神の子と呼ばれます。 神である主は、その子に先祖ダビデの王座をお与えになります。

33 彼は永遠にイスラエルを治め、その国はいつまでも続くのです。」

34 「どうして子供ができましょう。 まだ結婚もしていませんのに。」

35 「聖霊様があなたに下り、神様の力があなたをおおうのです。 ですから、生まれてくる子供は聖なる者、神の子と呼ばれます。 36 ちょうど半年前、あなたのいとこのエリサベツも、『子供のできない女』と言われていたのに、あの年になってみごもりました。

37 神様の約束は、必ずそのとおりになるのです。」

38 「私は主の召使にすぎません。 何もかも主のお言いつけどおりにいたします。 どうぞ、いま言われたとおりになりますように。」マリヤがこう言うと、御使いは見えなくなりました。

39 40 数日後、マリヤはユダヤの山地へ急ぎました。 そして、ザカリヤの住む町へ行き、エリサベツを訪ねました。

4 1 マリヤのあいさつを聞くと、エリサベツの子供は、お腹の中で跳びはね、エリサベツは聖霊に満たされました。

4 2 エリサベツは喜びを抑えきれず、大声でマリヤに言いました。「あなたほど素晴らしい恵みを受けた女はいないわ。 お子さんが、神様の最も大きな誉れを表わすようになるんですもの。 4 3 主のお母様がわざわざおいでくださるなんて、身に余る光栄だわ。 4 4 あなたが入って来てあいさつなさった時、子供がお腹の中で喜び踊りましたの。 4 5 神様が語られたことは必ずそのとおりになると信じたので、神様はあなたに、こんなすばらしいことをしてくださったのね。」

4 6 マリヤは答えました。

「ああ、私は心から主を賛美いたします。

4 7 救い主である神様を、心から喜びます。

4 8 神様は取るに足りない召使のような私さえ、
お心にとめてくださいました。

これから永遠に、どの時代の人々も、
私を、神様に祝福された者と呼ぶでしょう。

4 9 力ある聖なる方が、私に大きなことをしてくださったからです。

5 0 そのあわれみは、いつまでも、神様を恐れかしこむ者の上にとどまります。

5 1 その御手はどんなに力強いことでしょう！
主は心の高ぶった者を追い散らし、

5 2 権力をふるう者を王座から引きずり降ろし、
身分の低い者を高く引き上げ、

5 3 飢え渴いた者を満ち足らせ、
金持ちを手ぶらで追い返されました。

5 4 主は約束を忘れず、
しもベイスラエルをお助けになりました。

5 5 先祖アブラハムとその子孫を、永遠にあわれむと約束されたとおりに。」

5 6 マリヤは、エリサベツの家に三か月ほどいてから、家に帰りました。

バプテスマのヨハネの誕生

5 7 さて、エリサベツの待ちに待った日が来て、男の子が生まれました。 5 8 このニュースはたちまち近所の人や親類の間に伝わり、人々は、神がエリサベツをあわれんでくださったことを、心から喜び合いました。

5 9 子供が生まれて八日目に、友人や親類の人が集まりました。 その子に割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を行なうためです。 だれもが、子供の名前は父親の名を継いで、「ザカリヤ」になるものとばかり思っていました。

6 0 ところがエリサベツは、「いいえ、この子にはヨハネという名をつけますの」と言うではありませんか。

6 1 「なんだって！ 親族にそんな名前の者は一人もないじゃないか。」 6 2 あっけにとられた人々は、父親のザカリヤに、身ぶりで尋ねました。

6 3 ザカリヤは、紙をくれと合図し、それに「この子の名はヨハネ」と書いたので、一同はびっくりしてしまいました。 6 4 とたんに、ザカリヤの口が開きました。 また話せるようになったのです。 彼は神を賛美し始めました。

6 5 これには近所の人たちも驚き、このニュースはユダヤの山地一帯に広まりました。

6 6 だれもがその出来事を心にとめ、「この子はいったい、将来どんな人物になるんだろう。うーん、確かにこの子には、主の守りと助けがあるぞ」とうわさし合いました。

6 7 さて、父親のザカリヤは聖霊に満たされ、こう預言しました。

6 8 「イスラエルの神、主をほめたたえよう。

主は来て、ご自分の民を解放し、

6 9 そのしもベダビデ王の血筋から、力ある救い主を遣わされた。

7 0 ずっと昔から、聖なる預言者を通して約束されたとおりに。

7 1 救い主は、私たちを憎むすべての敵から救い出してくださる。

7 2 7 3 主は私たちの先祖をあわれみ、

特にアブラハムをあわれみ、

彼と結んだ聖なる契約を果たされた。

7 4 私たちを敵の手から解放し、

恐れず主に仕える者としてくださった。

7 5 私たちはきよい者、

神様の前に立つにふさわしい者とされた。

7 6 幼い息子よ。

おまえは栄光ある神の預言者と呼ばれよう。

おまえがメシヤ（救い主）のために道を備え、

7 7 主の民に、罪が赦され、

救われる道を教えるからだ。

7 8 これはみな、ただ神の深いあわれみによることだ。

天の夜明けがいま訪れようとしている。

7 9 その光は、暗黒と死の陰にうずくまる者たちを照らし、私たちを平和の道へと導くのだ。」

8 0 ヨハネは心から神を愛し、やがて成長すると、イスラエルの人々の前で公に語り始めるまで、たった一人、寂しい荒野に住んでいました。

二

イエスの誕生

1 そのころ、皇帝アウグストが全ローマ帝国の住民登録をせよと命じました。 2 これは、クレニオがシリアの総督だった時に行なわれた、最初の住民登録でした。

3 登録のため、国中の人がそれぞれ先祖の故郷へ帰りました。 4 ヨセフは王家の血筋だったので、ガリラヤ地方のナザレから、ダビデ王の出身地ユダヤのベツレヘムまで行かなければなりません。 5 婚約者のマリヤも連れて行きましたが、この時にはもう、マリヤのお腹は目立つほどになっていました。

6 ベツレヘムにいる間に、 7 マリヤは初めての子を産みました。男の子でした。 彼女はその子を布でくるみ、飼葉おけに寝かせました。 宿屋が満員で、泊めてもらえなかったからです。

8 その夜、町はずれの野原では、羊飼いが数人、羊の番をしていました。 9 そこへ突然、御使いが現われ、主の栄光がさっとあたり一面を照らしたのです。 これを見た羊飼いたちは恐ろしさのあまり震え上がりました。

10 御使いが言いました。 「こわがることはありません。 これまで聞いたこともない、すばらしい出来事を知らせてあげましょう。 すべての人への、うれしい知らせです。

11 今夜ダビデの町（ベツレヘム）で救い主がお生まれになりました。 この方こそ主キリストです。 12 布にくるまれ、飼葉おけに寝かされている赤ん坊、それが、目じるしです。」

13 するとたちまち、天の軍勢が現われ、御使いといっしょに神をほめたたえました。

14 「天では、神様に栄光があるように。

地上では、

平和が、神様に喜ばれる人々にあるように。」

15 御使いの大軍が天に帰ると、羊飼いたちは、「さあ、ベツレヘムへ行こうぜ。 主が知らせてくださった、すばらしい出来事を見てこようじゃないか！」と言い合いました。

16 羊飼いたちは息せき切って町まで駆けて行き、ようやくヨセフとマリヤとを捜しあてました。 飼葉おけには、赤ん坊が寝ています。 17 何もかも御使いの言ったとおりです。 羊飼いたちはこのことを大ぜいの人に話して聞かせました。 18 それを聞いた人々はみな、ひどく驚きましたが、 19 マリヤはこれらのことを胸に納め、時々、思い返していました。

20 羊飼いたちは、お告げどおり赤ん坊にお会いできたので、神を賛美しながら、帰って行きました。

21 八日たち、割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を行なう日になりました。 その子は、母の胎内に宿る前から御使いに示されたとおりに、「イエス」と名づけられました。

22 モーセの法律によるきよめ（母親のきよめと幼子の献児）の時が来ると、両親はイエスを主にささげるため、エルサレムに連れて来ました。 23 モーセの法律には、「女から最初に生まれる子が男であれば、その子を主にささげなければならない」とあったのです。

24 両親は、決まりどおり、「山鳩一つがい、または家鳩のひな二羽」をきよめの供え物としてささげました。 25 その日、神殿には、エルサレムに住むシメオンという人がい

ました。正しい、信仰のあつい人で、聖霊に満たされ、メシヤ（救い主）のおいでをひたすら待ち望んでいました。 26 主が遣わされるその方を見るまでは絶対に死なない、という聖霊のお告げを受けていたのです。 27 その日は、聖霊に導かれて神殿に来ました。そして、マリヤとヨセフが、決まりどおり、イエスを主にささげるためにやって来るのに出会ったのです。 28 シメオンはイエスを抱き上げ、神を賛美しました。

29 「主よ。今こそ私は安心して死ねます。

30 お約束どおり、この目でメシヤを見、

31 あなたが遣わされた救い主にお会いしたのですから。

32 この方はすべての国を照らす光、

あなたの民イスラエルの光栄です。」

33 ヨセフとマリヤはそこに立ったまま、驚いてシメオンの言うことを聞いていました。

34 35 シメオンは両親を祝福してから、マリヤに言いました。「剣があなたの胸を刺し通すでしょう。イスラエルの多くの人がこの子を信じようとしないで、滅びるからです。しかし、この子によって大きな喜びを受ける人も大ぜいいます。こうして、多くの人の隠れた思いが現わされるのです。」

36 37 その日、女預言者アンナも神殿にいました。彼女はアセル族のパヌエルの娘で、たいへんな年寄りでした。七年の結婚生活の後、未亡人で通し、もう八十四歳にもなっていたのです。彼女は神殿を一步も離れず、祈りと断食に明け暮れ、神に仕える毎日を送っていました。

38 そこにいたアンナも神に感謝をささげ、救い主のおいでを待ちわびていたエルサレムのすべての人に、メシヤがおいでになったと語り聞かせました。

少年イエス

39 モーセの法律どおりにすべてのことをすませると、ヨセフとマリヤはガリラヤのナザレに帰りました。 40 イエスは成長してたくましくなり、年に似合わず賢い子だ、と評判になるほどでした。神も絶えずイエスを祝福してくださいました。

41 さて、両親は過越の祭りには、毎年かささずエルサレムに行きました。 42 十二歳の時、イエスは祭りの習慣どおり、両親についてエルサレムに行きました。 43 祭りが終わると、両親は帰途に着きましたが、イエスはそのまま、エルサレムに残りました。そうとは知らない両親は、 44 てっきりほかの人たちといっしょだろうと考え、たいして気にもとめず、その日一日、旅を続けました。ところが、夕方になってもイエスの姿は見あたりません。あわてて、親族や友人たちの間を捜し始めました。 45 それでも、やっぱり見つかりません。とうとう捜しながらエルサレムまで引き返しました。

46 三日後、ようやく、イエスの居場所がわかりました。なんと、神殿で法律の教師たちを相手に、むづかしい議論をしていたのです。 47 取り巻く見物人はみな、イエスの知恵と答えとに舌を巻いていました。

48 両親は、わが子が落ち着きはらって座っているのを見て、面食らってしまいました。

「どうして、こんなことをしてくれたんですっ！ お父さんもお母さんも、どんなに心配して捜し回ったか知れないんですよ」と、マリヤが言いました。

49 ところがイエスは、「なぜ捜したの。 ぼくがお父さんの家〔神殿〕にいるって、わからなかったのかなあ」とお答えになりました。 50 こう言われても、どういうことか、両親にはさっぱりわかりませんでした。

51 それからイエスは、両親といっしょにナザレにお帰りになり、彼らによくお仕えになりました。 マリヤは、このことをみな、心にとめておきました。 52 イエスは身長も伸び、知恵も加わって、神にも人にも愛されました。

三

ヨハネ、活動を始める

12 ローマ皇帝テベリオの治世の十五年目に、神は、荒野に住むザカリヤの子ヨハネにお語りになりました。〔当時、ポンテオ・ピラトが全ユダヤの総督で、ヘロデはガリラヤ、その兄弟ピリポがイツリヤとテラコニテ、ルサニヤがアビレネを治めていました。 大祭司はアンナスとカヤパでした。〕

3 ヨハネはヨルダン川周辺をくまなく歩き、罪が赦されるために、今までの生活を悔い改めて、神に立ち返ったことを表明するバプテスマ（洗礼）を受けるようにと、教えを説き始めました。

4 預言者イザヤの書にあるとおりです。

「荒野から叫ぶ声が聞こえる。

『主の道を準備せよ。

主が通られる道をまっすぐにせよ。

5 山はけずられ、

谷は埋められ、

曲がった所はまっすぐにされ、

でこぼこ道は平らにされる。

6 こうして、すべての人が

神様から遣わされた救い主を見るのだ。』

7 バプテスマを受けに来る人たちに、ヨハネはきびしい口調で話しました。

「まむしの子らめっ！ おまえたちは神様に立ち返ろうともせず、ただ地獄から逃れたい一心でバプテスマを受けようとしている。 8 その前に、悔い改めたことを行ないで示すがいい。 アブラハムの子孫だから大丈夫などとは思ってもみるな。 そんなものは何の役にも立ちはない。 神様はこの石ころからでも、今すぐアブラハムの子孫をお造りになれるのだ。 9 今の今でも、神様のさばきの斧はふりかぶられ、おまえたちを根もとから切り倒そうと待ちかまえている。 そうだ。 良い実を結ばない木は、すぐにも切り倒され、火に投げ込まれてしまうのだ。」

10 「じゃあ、いったいどうすればいいんです？」

11 こう尋ねる群衆に、ヨハネはずばり答えました。「下着を二枚持っていたら、一枚は貧しい人に与えよ。余分の食べ物があったら、お腹をすかせている人に与えよ。」

12 取税人たち〔ローマに納める税金をあくどいやり方で取り立て、人々から毛虫のようにきらわれていた〕でさえ、バプテスマを受けようと出かけて来ました。そして、恐る恐る「あの一、私どもは、どうしたらよろしいので？」と尋ねました。

13 「正直になれ。ローマ政府が決めた以上の税金を取り立ててはいけない。」

14 兵士たちも尋ねました。「おれたちやあ、どうすりゃいいんだね。」

「脅しや暴力で金をゆすったり、何もしない人を訴えたりしてはいけない。給料で満足しろ。」

15 人々はみな、まもなく救い主がおいでになると期待していました。そして、もしかしたらヨハネがキリストではないかとも考えました。

16 この疑問を、ヨハネはきっぱり否定しました。「私はただ水でバプテスマを授けている。しかし、もうすぐ、私よりはるかに権威ある方がおいでになるのだ。その方のしもべとなる値打さえ、私にはない。いいか。その方は、聖霊と火でバプテスマをお授けになる。17 また、麦と、もみがらとをふるい分け、麦は倉に納め、もみがらを永久に消えない火で焼き尽くされるのだ。」18 ヨハネは、ほかにも多くのことを教え、神のすばらしい知らせを伝えました。

19 20〔当時、ガリラヤの領主ヘロデが、兄嫁のヘロデヤを横取りするなど、悪事を重ねていたので、ヨハネはおおびらに非難しました。そのため、捕らえられ、牢獄にたたき込まれてしまいました。こうしてヘロデは、多くの悪事に、さらにもう一つ悪事を重ねたのです。〕21 さて、そうしたある日のこと、イエスは、ヨハネからバプテスマを受ける群衆にお加わりになりました。バプテスマをお受けになり、祈っておられると、天が開き、22 聖霊が鳩のようにイエスにお下りになりました。そして、天から「あなたはわたしの愛する子、わたしの喜びだ」という声が聞こえました。

イエスの家系

23 - 38 イエスが公に教え始められたのは、およそ三十歳のころでした。

人々はイエスを、ヨセフの息子とっていました。

このヨセフの父はヘリ、

ヘリの父はマタテ、

マタテの父はレビ、

レビの父はメルキ、

メルキの父はヤンナイ、

ヤンナイの父はヨセフ、

ヨセフの父はマタテヤ、

マタテヤの父はアモス、

アモスの父はナホム、

ナホムの父はエスリ、
エスリの父はナンガイ、
ナンガイの父はマハテ、
マハテの父はマタテヤ、
マタテヤの父はシメイ、
シメイの父はヨセク、
ヨセクの父はヨダ、
ヨダの父はヨハナン、
ヨハナンの父はレサ、
レサの父はゾロバベル、
ゾロバベルの父はサラテル、
サラテルの父はネリ、
ネリの父はメルキ、
メルキの父はアデイ、
アデイの父はコサム、
コサムの父はエルマダム、
エルマダムの父はエル、
エルの父はヨシュア、
ヨシュアの父はエリエゼル、
エリエゼルの父はヨリム、
ヨリムの父はマタテ、
マタテの父はレビ、
レビの父はシメオン、
シメオンの父はユダ、
ユダの父はヨセフ、
ヨセフの父はヨナム、
ヨナムの父はエリヤキム、
エリヤキムの父はメレヤ、
メレヤの父はメナ、
メナの父はマタタ、
マタタの父はナタン、
ナタンの父はダビデ、
ダビデの父はエッサイ、
エッサイの父はオベデ、
オベデの父はボアズ、
ボアズの父はサラ、

サラの父はナアソン、
ナアソンの父はアミナダブ、
アミナダブの父はアデミン、
アデミンの父はアルニ、
アルニの父はエスロン、
エスロンの父はパレス、
パレスの父はユダ、
ユダの父はヤコブ、
ヤコブの父はイサク、
イサクの父はアブラハム、
アブラハムの父はテラ、
テラの父はナホル、
ナホルの父はセルグ、
セルグの父はレウ、
レウの父はペレグ、
ペレグの父はエベル、
エベルの父はサラ、
サラの父はカイナン、
カイナンの父はアルパクサデ、
アルパクサデの父はセム、
セムの父はノア、
ノアの父はラメク、
ラメクの父はメトセラ、
メトセラの父はエノク、
エノクの父はヤレデ、
ヤレデの父はマハラレル、
マハラレルの父はカイナン、
カイナンの父はエノス、
エノスの父はセツ、
セツの父はアダム、
アダムの父は神です。

▪

四

イエス、悪魔に試される

1 さて、イエスは聖霊に満たされ、ヨルダン川をあとにすると、御霊に導かれるまま、ユダヤの荒野に向かわれました。 2そこで、悪魔が四十日間、イエスを誘惑したのです。

その間、何も口にされなかったので、空腹を覚えられました。

3 その時です。 悪魔がたくみに誘いかけました。 「もしあんたが神の子なら、ここに転がっている石をパンに変えてみたらどうだい。」

4 しかしイエスは、お答えになりました。 「『人はただパンだけで生きるのではない』と聖書（旧約）に書いてあるではないかっ！」

5 次に悪魔は、イエスを高い所へ連れて行き、一瞬のうちに、世界の国々とその繁栄ぶりをを見せて言いました。

6 7 「さあ、ここにひれ伏して、このおれ様を拝んでみろ。 そうすりゃあ、これらの国々とその栄光とを、全部やってもいいぜ。 何もかも、このおれ様のもの、おれ様の自由だからな。」

8 イエスはお答えになりました。 「『神である主だけを礼拝し、主にだけ従え』と聖書（旧約）に書いてあるではないかっ！」

9 さらに悪魔は、イエスをエルサレムへ連れて行き、神殿のてっぺんに立たせて言いました。 「さあ、ほんとうに神の子だと言うなら、ここから飛び降りてみろ。 10 聖書には『神様は、御使いを送って、 11 あなたを支えさせ、あなたが岩の上に落ちて碎かれることのないように守られる』と、はっきり書いてあるんだから。」

12 しかしイエスは、お答えになりました。 「『あなたの神である主を、試してはならない』とも書いてあるっ！」

13 あの手この手と誘惑のかぎりを尽くすと、悪魔は一時、イエスから離れました。
イエス、活動を始める

14 イエスが、聖霊の力に満たされてガリラヤにお戻りになると、まもなく、その地方一帯に評判が広まりました。 15 あちこちの会堂で教えをお語りになるイエスは、人々の賞賛の的でした。

16 それからイエスは、少年時代を過ごしたナザレにお帰りになり、いつものように、土曜日に会堂へ行かれました。 聖書を朗読しようと席を立つと、 17 預言者イザヤの書が手渡されたので、次の個所をお開きになりました。

18 19 「わたしの上に主の御霊がとどまっておられる。
主は、貧しい人たちにこのすばらしい知らせを伝えるために、
わたしを任命された。

主はわたしを遣わして、
捕虜には解放を、
盲人には視力の回復を告げられる。
踏みにじられている人を自由にし、
主の恵みの年を告げられる。」

20 朗読を終えると、聖書を閉じ、係りの者に返して、腰をおろされました。 みんなの目はいつせいにイエスに注がれました。 21 それにこたえるように、イエスはこう宣

言なさいました。「この聖書のことばは、今日、実現したのです。」

22 人々はみなイエスをほめ、そのことばのすばらしさに驚きました。ところが一方では、「いったいどうなってんだ。ただのヨセフのせがれじゃないか」とささやき合いました。

23 そこで、イエスは言われました。「たぶん、あなたがたは、『医者よ、自分を治してみろ』ということわざを引いて、『カペナウムで行なった奇蹟を、郷里でもしてみせろ』と言うのでしょうか。24 だが、はっきり言いましょう。どんな預言者でも、故郷では歓迎されないものです。25 26 たとえば、エリヤはどうだったのでしょうか。三年半ものあいだ雨がなく、国中が大ききんに見舞われた時、イスラエルには助けを求める未亡人が大ぜいいました。だが、当のエリヤは、そういう人たちのところへではなく、わざわざシドンのサレプタに住む外国人の未亡人のところへ遣わされ、奇蹟によって彼女を助けました。27 また預言者エリシャの場合はどうだったのでしょうか。ユダヤにも大ぜい、らい病人がいたというのに、そのだれもが治されず、ただシリヤ人ナアマンだけが治されたではありませんか。」

28 こう言われて、会堂にいた人たちはもうれつに腹を立てました。29 どっとイエスに襲いかかり、町が建っている丘のがけつぷちまで連れて行きました。そこから突き落とすつもりだったのです。30 ところがイエスは、群衆の間をすり抜け、去って行かれました。

31 それから、ガリラヤの町カペナウムに帰り、毎土曜日、会堂で教えを宣べ伝えられました。32 ここでもまた、人々はイエスの教えに驚きました。イエスが、自分を権威づけるために、むやみに他人の意見を引用するのではなく、真理を知っている者のように語られたからです。

33 ある時、会堂で教えておられると、悪霊に取りつかれた男が、イエスに向かって、大声でわめき立てました。

34 「やいやい、ナザレのイエス。お願いだから出てってくれよ！ おれたちをどうしようってんだ。おれたちを滅ぼしに来たんだろが。あんたがだれかって？ よーくわかってらあ。神のきよい御子様よ。」

35 イエスは悪霊をさえぎり、「黙りなさい。その人から出て行きなさい」とお命じになりました。すると突然、悪霊は、人々の目の前で男を投げ倒しましたが、それ以上は何の危害も加えずに出て行きました。

36 あっけにとられた人々は、口々に言い合いました。「悪霊までが言うことを聞くなんてなあ！ この方のことばには、なんという力があるんだろが。」37 こうしてイエスのうわさは、この地方一帯に、野火のような勢いで広まりました。

38 その日、イエスは会堂から、シモンの家へ行かれました。すると、シモンのしゅうとめが高熱にうなされているところでした。「お願いします。治してやってください」と頼まれて、39 イエスはベッドのそばに立ち、熱病をおしかりになりました。する

とどうでしょう。　たちまち熱がひき、平熱に戻ったしゅうとめは、すぐに起き上がり、食事の用意を始めたではありませんか。

40　夕方になると、病人を連れた村の人たちが、ぞくぞく詰めかけました。　イエスは、どんな病気であろうと、連れて来られた病人一人一人にさわって、治されました。　41中には悪霊に取りつかれた人もいましたが、イエスの命令一下、悪霊は大声で、「あんたは神の子だっ！」と叫びながら出て行きました。　イエスはこの悪霊にきつく口止めなさいました。　悪霊が、イエスはキリスト（救い主）だと知っていたからです。

42　翌朝早く、イエスはただ一人、人気のない寂しい所へ行かれました。　人々はあちこち捜し回り、やっとのことでイエスを見つけ出すと、もうどこへも行かないで、ずっとここにいてくださいと、しきりに頼みました。　43ところがイエスは、お答えになりました。「ほかの町々にも、神のすばらしい知らせを伝えなければならないのです。　そのために、わたしは来たのですから。」　44こうしてイエスは、ユダヤ中を旅し、ほうぼうの会堂で教えをお語りになりました。

五

イエス、弟子を集める

1　ある日、イエスがゲネサレ湖のほとりで教えを宣傳しておられるところへ、大ぜいの人が神のことばを聞こうと押しかけました。　23ふと見ると、水ぎわの二そうの小舟で、漁師たちがせっせと網を洗っています。　イエスはそのうちの一そうに乗り込んで、持ち主のシモンに少しこぎ出してもらい、舟の中に座ったまま、群衆に教えられました。

4　お話が終わると、シモンにおっしゃいました。「さあ、もっと沖へこぎ出して、網をおろしてごらんなさい。　たくさん魚がとれますよ。」

5　「でも先生。　おれたちは夜通し一生懸命働いたんですぜ。　なのに、雑魚一匹とれなかった。　だけど、まあ、せつかくそうおっしゃるんだから、もう一度やってみますがね……。」

6　ところがどうでしょう。　今度は網が破れるほどたくさんの魚がとれたのです。　7あまり多くて、手がつけれません。　大声で助けを求めました。　仲間の舟が来ましたが、二そうとも魚でいっぱいになり、今にも沈みそうです。

8　シモン・ペテロは事の真相に気づくと、あわててイエスの前にひれ伏し、「ああ、先生。　どうぞ私みたいな者から離れてください。　私は罪深い人間で、とてもおそばへは寄れません」と叫びました。　9あまりの大漁に、ペテロも仲間たちも恐ろしくなったからです。

10仲間には、ゼベダイの息子のヤコブやヨハネもいました。　イエスはシモンに、「こわがらなくてもいいのです。　今からは人間をとる漁師になるのですから」と言われました。

11　岸へ上がると、彼らは何もかも捨てて、イエスにお従いしました。

イエス、病気を治す

12　イエスがある村におられた時のことです。　そこに、らい病に全身を冒された男がいました。　彼はイエスを見るや、その前にひれ伏し、額を地面にこすりつけて頼みまし

た。

「お願いでございますっ！ どうぞ私の体を、体をもとどおりにしてください。 あなた様のお気持ちひとつで治るのですから。」

13 イエスは手を伸ばして男にさわり、「治してあげましょう。 どれどれ、さあ、もう大丈夫ですよ」と言われました。 すると驚いたことに、らい病はたちまち消え去り、あとかたもなくなったのです。 14 「このことをだれにも話してはいけませんよ。 すぐに祭司のところへ行って、体を調べてもらい、モーセの法律どおりのささげ物をしなさい。 そうすれば、病気が治ったことが、みんなの前で証明されるのです。」こう言われたにもかかわらず、 15 イエスのうわさはあつという間に広まり、大ぜいの人が教えを聞こう、病気を治してもらおうと詰めかけました。 16 しかしイエスは、何度も荒野に身を避け、祈っておられました。

17 ある日、イエスが教えておられると、パリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）と法律の専門家が数人そばに座っていました。 [ガリラヤやユダヤのすべての村、またエルサレムから来た人たちです。] イエスには、病気を治す神の力がありませんでした。

18 19 その時、数人の人がやって来ました。 見ると、中風の男を、それも、ふとんごとかついでいます。 彼らは、何とか群衆をかき分けてイエスのところへ行こうとしましたが、とても近づけたものではありません。 しかたなく、屋根にのぼり、天井に穴をあけ、病人をふとんごと、人々の真ん中に立っておられるイエスの目の前につり降ろしました。

20 イエスはこれほどまでの信仰を見て、病人に、「あなたの罪は赦されました」と宣言なさいました。

21 「なんて罰あたりなことばだっ！ いったい何様だと思ってるのか。 冒涇だ！ 明らかに神様を汚す言葉だ。 罪を赦すなんて、神様にしかできないことなのに……。」パリサイ人や法律の専門家たちは、心の中で強く反発しました。

22 それを見抜いたイエスは、「なぜ、わたしのことばが神を汚すことになるのですか。 23 24 この人に、『あなたの罪は赦されました』と言うのと、『起きて歩きなさい』と言うのと、どちらがむずかしいですか。 わたしは病気を治す力も、罪を赦す権威も持っているのです。 それを証明してみせましょう」と言い、中風の男に、「さあ、起きなさい。 床をたたんで、家に帰りなさい」とお命じになりました。

25 男はぱっとはね起き、並み居る人をしり目に、すぐに床を取り上げると、神を賛美しながら帰って行きました。 26 居合わせた人たちはたいへんです。 みな恐れに取りつかれ、「不思議だ。 まるで考えられないことだ」と幾度もくり返しては、神をほめたたえました。

27 このあと、町を出ようとされた時、一人の取税人が税金取立所に座っているのが見えました。 その男の名はレビと言いました。 「さあ、ついて来て、わたしの弟子にな

りなさい。」 28 イエスの誘いに、レビは何もかも捨て、さっと立ち上がり、あとに従いました。

29 まもなくレビは、家で、イエスのために盛大な歓迎会を催しました。多くの取税人仲間をはじめ、大ぜいの人が招かれました。

パリサイ人たちの言いがかり

30 ところが、パリサイ人や法律の専門家たちはこの光景を見て、弟子たちに激しい非難をあげました。「おまえさんたちは、どうして、こんなくずのような連中といっしょに食事をするんだい。」

31 イエスは、お答えになりました。「医者が必要なのは病人で、健康な人ではありません。32 わたしは、自分を正しいと思う人を招くためではなく、罪人を招いて、罪を悔い改めさせるために来たのです。」

33 彼らも負けてはいません。今度は違った面から、詰め寄りました。「バプテスマのヨハネの弟子たちは、いつも断食して祈っている。パリサイ人の弟子たちも同様だ。なのに、おまえさんのお弟子たちときたら、平気で飲み食いしている。そのわけを聞かしてもらおうじゃないか。」

34 イエスは言われました。「しあわせな人が断食しますか。結婚披露宴で、花婿の招待客がお腹をすかしたままにいることがあるでしょうか。もちろん、ありえません。

35 しかし、花婿が彼らから引き離される日が来ます。その時こそ、断食するのです。」

36 続いて、もう一つのたとえ話をなさいました。「古い着物に継ぎを当てるのに、新しい着物から布切れを切り取る人がいるのでしょうか。そんなことをしたら、新しい着物もだめになるし、古い着物も継ぎ目が破れて、結局どちらもだいなしです。37 また、新しいぶどう酒を古い皮袋に入れる人がいるのでしょうか。そんなことをしたら、古い皮袋は新しいぶどう酒の圧力で張り裂け、ぶどう酒もこぼれてしまいます。38 新しいぶどう酒は、新しい皮袋に入れるものです。39 こうも言えます。だれでも古いぶどう酒を飲んだあとで、新しいぶどう酒を口にしたいとは思わないでしょう。『古い物はよい』と言われるとおりです。」

六

安息日の主であるイエス

1 ある安息日のことです。イエスと弟子たちは麦畑の中を歩いていました。弟子たちは歩きながら、麦の穂を摘んでは、手でもみ、殻を取って食べました。

2 パリサイ人たちが目ざとくそれを見つけ、抗議しました。「どう見ても違反だ！ お弟子たちのやってることは何です？ 明らかに刈り入れじゃないか。安息日の労働はユダヤのおきてで禁じられているというのに。」

3 イエスは、お答えになりました。「聖書（旧約）を読んだことがないのですか。ダビデ王とその家来たちが空腹になった時、どうしたでしょうか。4 ダビデ王は神殿に入り、主に供えられた特別なパンを取って食べたではありませんか。これはおきてに反す

ることでしたが、自分ばかりか、家来たちにも分けてあげました。」 5 また、こうも言われました。「わたしは安息日の主です。」

6 今度は別の安息日のことです。 イエスは会堂で教えておられました。 ちょうどそこに、右手の不自由な男が居合わせました。 7 安息日だというので、法律の専門家やパリサイ人たちは、イエスがこの男を治してやるかどうか、うの目たかの目で見ています。何とかしてイエスを訴える口実を見つけようと、必死だったのです。

8 彼らの魂胆を見抜いたイエスは、その男に、「さあ、みんなの真ん中に立ちなさい」とお命じになりました。 男が言われたとおりにすると、 9 イエスはパリサイ人たちに、「ひとつ聞きたいのですが、安息日に良いことをするのと悪いことをするのと、どちらが正しいでしょうか。 人のいのちを救うのと、いのちを奪うのと、どちらが正しいでしょうか」とお尋ねになりました。

10 それから、会衆をぐると見回し、男に、「さあ、手を伸ばしなさい」とおっしゃいました。 そのとおりにすると、なんと、右手はすっかりもとどおりです。 11 これを見たパリサイ人たちは逆上し、イエスを殺そうとたくらみ始めました。

イエス、十二人を選ぶ

12 それからまもなく、イエスは山へ行き、徹夜で祈られました。 13 夜明けごろ、弟子たちを呼び寄せると、特に十二人を選び、「使徒」という名をおつけになりました。 14 - 16 十二人の名前は次のとおりです。

シモン [イエスはペテロともお呼びになりました]、

アンデレ [シモンの兄弟]、

ヤコブ、

ヨハネ、

ピリポ、

バルトロマイ、

マタイ、

トマス、

ヤコブ [アルパヨの息子]、

シモン [「熱心党」という急進派グループのメンバー]、

ユダ [ヤコブの息子]、

イスカリオテのユダ [後にイエスを裏切った男]。

17 18 イエスは弟子たちといっしょに山を降り、広々とした所にお立ちになりました。するとほかの大ぜいの弟子と群衆が駆け寄り、たちまちイエスの回りは、人の波でうずまりました。 ユダヤ全地、エルサレム、はるか北のツロやシドンの海岸地方などから、イエスの話を聞き、また病気を治してもらおうと、はるばるやって来た人ばかりです。 悪霊に苦しめられている人もいたので、イエスは治されました。 19 だれもがみな、イエスにさわろうと押し合いへし合いの大騒ぎです。 さわれば、病気を治す力がイエスから

出て、どんな病気もいやされたからです。

20 それからイエスは、弟子たちのほうをふり向き、話し始められました。

「あなたがた貧しい人は幸福です。 神の国はあなたがたのものだからです。 21 いま空腹な人は幸福です。 やがて十分満足するようになるからです。 泣いている人は幸福です。 もうすぐ笑うようになるからです。 22 わたしの弟子だというので、憎まれたり、追い出されたり、悪口を言われたりするなら、なんとすばらしいことでしょう。 23 そんなことになったら、心から喜びなさい。 躍り上がって喜びなさい。 やがて天国で、目を見張るばかりのごほうびが、いただけるからです。 そして、同じような扱いを受けた、昔の預言者たちの仲間入りができるのです。

24 これとは反対に、金持ちたちを待ち受けているのは悲しみだけです。 彼らの幸福はこの地上限りのものだからです。 25 肥え太り、今は栄えていても、やがて恐ろしい飢えの日が来れば、彼らの大笑いは、一瞬にして悲しみに変わるでしょう。 26 ほめそやされる者はあわれです。 偽預言者はいつの時代でも、そのような扱いを受けたからです。

27 いいですか、よく聞くのです。 敵を愛しなさい。 あなたがたを憎む者によくしてやりなさい。 28 あなたがたをのろう者の幸福を祈ってあげなさい。 あなたがたを侮辱する者に神の祝福を祈り求めなさい。

29 もしだれかが頬をなぐったら、もう一方の頬もなぐらせなさい。 また、もしだれかが上着を取ろうとしたら、下着もつけてやりなさい。 30 持ち物は何でも、ほしがる人にやりなさい。 盗難にあっても、それを取り返そうとやきもきしてはいけません。 31 人からしてほしいと思うことを、そのとおり人にもしてあげなさい。

32 愛してくれる人だけを愛したところで、ほめられたことでも何でもありません。 神を知らない人でさえ、それぐらいのことはします。 33 よくしてくれる人にだけ、よくしたところで、何の意味があると言うのでしょうか。 罪人でさえ、それぐらいのことはします。 34 また、返してもらえる人にだけお金を貸したところで、善行と言えるでしょうか。 全額戻るとわかっていれば、どんな悪党でも、仲間にお金を貸してあげます。

35 敵を愛しなさい。 よくしてあげるのです。 返してもらうことなど当てにせず、気前よく貸してあげなさい。 そうすれば、天から、すばらしいごほうびがいただけます。 神の子供になれるのです。 神は、恩知らずの者や極悪人にも、あわれみ深い方だからです。

36 天の父と同じように、あわれみ深い者になりなさい。 37 人のあら捜しをしたり、悪口を言ったりしてはいけません。 自分もそうされないためです。 人には広い心で接しなさい。 そうすれば、彼らも同じようにしてくれるでしょう。 38 与えなさい。 そうすれば与えられます。 彼らは、まずに押し込んだり、揺すり入れたりしてたっぷり量り、あふれるばかりにして返してくれます。 自分が量るそのはかりで、自分も量り返されるのです。」

39 イエスはさらに、もう一つのたとえ話をなさいました。

「盲人が盲人の道案内をしたら、どうなるでしょう。 一人が穴に落ち込めば、もう一人のほうも巻き添えを食うでしょう。 40 生徒が先生より偉くなれますか。 しかし、一生懸命勉強すれば、先生と同じぐらいにはなれます。

41 また、自分の目に材木が入っているのに、どうしてほかの人の目の中にある、おがくずほどの小さなごみを気にするのでしょうか。 42 材木がじゃまで、よく見えもしないのに、どうして、『目にごみが入ってるよ。 取ってあげよう』などと言うのでしょうか。 偽善者よ！ まず自分の目から材木を取り除きなさい。 そうすれば、はっきり見えるようになって、ほかの人の小さなごみを取ってあげることもできるのです。

43 おいしい実をつける木が、まずい実をつけるはずはないし、まずい実をつける木が、おいしい実をつけるはずありません。 44 つまり、木は実によって見分けることができるのです。 いばらにいちじくの実はないし、野ばらにぶどうの実もありません。

45 良い人は良い心から良い行ないを生み出します。 悪い人は隠された悪い心から悪い行ないを生み出します。 心に秘めたことが、ことばになってあふれ出るからです。

46 なぜ、『主よ、主よ』と呼びながら、わたしに従おうとはしないのですか。 47 そばに来て、わたしの教えを聞き、そのとおり実行する人はみな、 48 地面を深く掘つて、岩の上に土台をすえ、その上に家を建てる人のようです。 洪水になり、激流に洗われても、家はびくともしません。 土台がしっかりしているからです。

49 しかし、わたしのことばを聞いても実行しない人は、ちょうど、土台なしで家を建てる人のようです。 激流が押し寄せると、家はあとかたもなく、こわれてしまいます。」

七

すばらしい奇蹟

1 これらのお話を終えると、イエスはカペナウムの町に帰って行かれました。

2 ちょうどそのころ、あるローマ軍の隊長が目をかけていた召使が、病気で死にかかっていたいました。 3 イエスの評判を聞いた隊長は、日頃みんなに尊敬されているユダヤ人の長老たちをイエスのところにやり、召使のいのちを助けに来てくださいと願いました。 4 依頼を受けた長老たちは、この隊長がどんなにすばらしい人物かを説明し、熱心に頼みました。 「あなた様に助けていただく値打のある人がいるとしたら、この方こそふさわしい人です。 5 ユダヤ人を愛し、会堂も建ててくれました。」

6 7 イエスは長老たちといっしょに出かけられました。 家まであとわずかという時、隊長の友人たちが来て、ことづけを伝えました。 「先生。 わざわざおいでくださいませんように。 とても、そんな名誉を受ける資格はございません。 自分でお迎えに上がることに失礼と存じます。 どうぞ今おられる所で、ただひと言おことばをください。 それで十分でございます。 召使は必ず治ります。 8 私も上官の権威の下にあるのですが、その私でさえ部下には権威があります。 たとえば、私が『行け』と命じれば行きますし、『来い』と言えば来ます。 また奴隷にも『あれをやれ』『これをやれ』と言えば、そのと

おりにするのです。」

9 これを聞くと、イエスはたいへん驚き、群衆のほうをふり向いて言われました。「どうです、皆さん。これほど信仰深い人は、イスラエル中でも見たことがありません。」

10 使いの者たちが戻ってみると、どうでしょう。召使はすっかり治っていました。

11 それからまもなく、イエスは弟子たちといっしょにナインの町へ行かれました。いつものように、あとから大ぜいの人がぞろぞろついて行きます。12 町の門の近くで、葬式の行列にばったり出会いました。死んだのは、夫に先立たれた女の一人息子でした。町の人が大ぜい母親に付き添っています。

13 痛々しい母親の姿を見てかわいそうに思ったイエスは、「泣かなくてもいいのですよ」と、やさしく声をおかけになりました。14 そして歩み寄り、棺に手をかけると、かついでいた人たちが立ち止まったので、「少年よ、起きなさい」と言われました。15 すると少年はすぐに起き上がり、回りの人たちに話しかけたではありませんか。イエスは少年を母親に返してあげたのです。

16 人々はびっくりし、ものも言えませんでした。次の瞬間、あちこちから神を賛美する声がわき上がりました。

「大預言者様だっ！」

「神様のお働きだっ！ この目で見たぞっ！」

17 この日の出来事は、あっという間にユダヤ全土と回りの地方一帯に広まりました。イエスとヨハネ

18 イエスのこうした行ないの数々は、バプテスマのヨハネの弟子たちの耳にも入り、細大もらさずヨハネに報告されました。19 20 ヨハネは、弟子を二人イエスのもとへやり、こう尋ねさせました。「あなた様は、ほんとうに私たちの待ち続けてきたお方なののでしょうか。それとも、まだ別の方をお待ちしなければ……。」

21 ちょうどその時、イエスはさまざまな病気にかかった大ぜいの病人を治し、盲人を見えるようにし、悪霊を追い出しておられるところでした。22 イエスの答えはこうでした。「帰って、ヨハネに、今ここで見聞きしたことを話してやりなさい。盲人が見えるようになり、立てなかった人が、今は自分で歩けるようになり、らい病人が治り、耳の聞こえなかった人が聞こえるようになり、死人が生き返り、貧しい人々がすばらしい知らせを聞いていることなどを。23 それから、『わたしを疑わない人はしあわせです』と伝えなさい。」

24 ヨハネの弟子たちが帰ってしまうと、イエスは人々に、ヨハネのことを話し始められました。「ヨハネに会いに荒野へ出かけた時、どんな人物だと考えていましたか。風にそよぐ葦のような人だとでも思ったのですか。25 それとも、きらびやかに着飾った人に会えるとも……。ぜいたくな暮らしをしている人なら宮殿にいます。荒野にはいません。26 あるいは、預言者に会えると期待したのですか。そのとおり、ヨハネは預言者以上の者です。27 彼こそ聖書（旧約）の中で、『見よ。わたしはあなたより

先に使者を送る。その使者は人々に、あなたを迎える準備をさせる』と言われている、その人です。 28 今まで生まれた人の中で、ヨハネほどすぐれた働きをした人はいません。けれども、神の国で一番小さい者も、ヨハネよりはずっと偉大なのです。

29 ヨハネの教えを聞いた人はみな、取税人たちでさえ、神の正しさを認め、バプテスマ（洗礼）を受けました。 30 ただパリサイ人と法律の専門家だけが、そっぽを向いたのです。あつかましくも、神のご計画を退け、ヨハネのバプテスマを拒否したのです。

31 このような人々のことを、どう言ったらいいでしょう。 32 まるで遊び友達に文句を言っている子供のようにです。『結婚式ごっこして遊ぼうって言ったのに、ちっともうれしがってくれないでさ、それで葬式ごっこにしたら、今度は、ぜんぜん悲しがってくれないや』とわめいているのです。 33 つまり、バプテスマのヨハネが何度も断食し、生涯、酒も飲まずにいと、『やつは気が変になっている』ときめつけ、 34 わたしが食事をしたり、ぶどう酒を飲んだりすると、『あいつは大食いの大酒飲み、一番たちの悪い罪人どもの仲間だ』とののしります。 35 けれども、神の知恵の正しさは、神を信じる者たちが証明するのです。』

罪を赦された女

36 あるパリサイ人から食事に招待されたので、イエスは快く応じました。一同が食卓に着いていると、 37 町の女が一人、高価な香油の入った美しいつぼを持ってやって来ました。この女は売春婦でした。 38 女は部屋に入るなり、イエスのうしろにひざまずき、さめざめと泣きました。あまり泣いたので、イエスの足が涙でぬれるほどでした。女はていねいに髪で涙をぬぐい、心を込めて足にくちづけしてから、その上に香油を注ぎかけました。

39 イエスを招待したパリサイ人は、この出来事を見て、「これで、やつが預言者でないことが、はっきりしたぞ。もしほんとうに神様から遣わされた方なら、この女の正体がわかるはずだからな」とひそかに思いました。

40 ところが、イエスは何もかもお見通しでした。

「シモンよ。あなたに言っておきたいことがあります。」

「はい、先生。何でございましょう。」

41 「ある男が二人の人に金を貸しました。一人には百五十万円、もう一人には十五万円でした。 42 ところが二人とも、どうしても借金を返せません。金を貸した男はたいへん思いやりのある人だったので、二人の借金を帳消しにしてあげました。この二人のうちどちらがよけいに、貸し主に感謝し、彼を愛したでしょうか。」

43 「たくさん借りていたほうでしょうね。」シモンの答えに、イエスも、「そのとおりです」とうなずかれました。

44 それから、ひざまずいている女のほうをふり向き、シモンに言われました。「ほら、この女を見なさい。わたしが自宅に来た時、あなたは足を洗う水さえ出してくれませんでした。ところがこの女は、涙でわたしの足を洗い、髪でふいてくれました。 4

5 あなたはあいさつのくちづけをしてくれなかったが、この女はわたしが入って来た時から、何度も足にくちづけしてくれました。 46 それにどうです。 あなたはわたしの頭にオリーブ油を注いでくれましたか。 それが、あたりまえの礼儀というものでしょう。けれども、この女は足にこんなに高価な香油を注いでくれたのです。 47 だから、この女の多くの罪は赦されました。 この女がわたしを多く愛してくれたからです。 少ししか赦されない者は、少ししか愛さないのです。」

48 そして女に言われました。「あなたの罪は赦されているのですよ。」

49 その場に同席していた人たちが、心の中でつぶやき始めました。「罪を赦すなんて、いったい自分を何様だと思ってるんだろう。」

50 しかし、イエスは女に、「あなたの信仰があなたを救ったのです。安心してお帰りなさい」と言われました。

八

種まきのたとえ話

1 その後しばらくして、イエスはガリラヤの町や村を回り、神のすばらしい知らせを伝え始められました。 十二人の弟子も同行しました。 2 イエスに悪霊を追い出してもらったり、病気を治してもらったりした女たちもいっしょでした。 この中には、七つの悪霊を追い出してもらったマグダラのマリヤや、 3 ヘロデ王の執事クーザの妻ヨハンナ、スザンナをはじめ、財産を投げ出して、イエスや弟子たちの世話をする大ぜいの婦人がいました。

4 ある日、話を聞こうと、大ぜいの群衆が町々村々から押しかけたので、イエスはこんなたとえ話をなさいました。

5 「一人の農夫が、種まきをしようと畑に出かけました。 種をまいているうちに、ある種は道ばたに落ちて、踏みつけられ、そのうち鳥が来て食べてしまいました。 6 土の浅い石地に落ちた種もありました。 それは芽を出したのですが、水分が足りないので、すぐ枯れてしまいました。 7 いばらの中に落ちた種もありましたが、いばらがいっしょに生え出て、結局、生長できませんでした。 8 しかし、中には良い土壌に落ちた種もありました。 それはぐんぐん育ち、まいた種の百倍もの実を結びました。」

イエスは話しながら、「聞く耳のある人はよく聞きなさい」と、みんなの注意をうながされました。

9 「このたとえはどういう意味なんですか。」弟子たちに質問されて、 10 イエスはお答えになりました。

「あなたがたには神の国を理解することが許されていますが、群衆はそうではありません。だから、たとえで話すのです。 彼らは見たり聞いたりしても、少しも理解しようとしません。」

11 さて、このたとえの意味を説明しましょう。 種とは神の教えのことです。 12 ある種が落ちた道ばたとは、神のことばを聞いても、受けいれない頑固な心を表わします。

やがて悪魔が来て、それを持ち去り、信じて救われるのをじゃまするのです。 13次に、土の浅い石地とは、喜んで教えは聞くものの、ほんとうの意味で心に根を張れない状態のことです。 教えられたことはいちいちもつともだと納得し、しばらくの間は信じているのですが、迫害の嵐がやってくると、すぐにぐらついてしまうのです。 14いばらの中の種とは、聞いて信じて、その後、いろいろな心配事や金銭欲、また人生のさまざまな重荷や快樂などに、信仰を妨げられてしまう人のことです。 これでは、せっかく教えを聞いても、だれにも話して聞かせることができません。

15 良い土壌とは、素直で正直な心の人を表わします。 こういう人は、神のことばを聞くと、それをしっかり守り、辛抱強くほかの人に話してあげるので、大ぜいの人が信じるようになるのです。」

16 また、次のようなたとえ話もなさいました。

「ランプをつけてから、すっぽりおおいをかけ、光をさえぎる人がいるでしょうか。 ランプはあたりを照らすように台の上に置くものです。 17これは、いつの日か、すべてのことが明るみに出されることを示しています。 18だから、どのように聞くか、よく注意しなさい。 持っている者はもっとたくさん与えられ、持っていない者は、持っているつもりのも物までも、取り上げられてしまうからです。」

19 ある時、母と弟たちがイエスに会いに来ました。 ところが、イエスが教えておられた家は黒山の人ばかりで、とても中へは入れません。 20だれかが、「先生。 お母様と弟さんがたがお見えですよ」と知らせると、 21イエスはみんなを見回し、「わたしの母、わたしの兄弟たちとは、神のことばを聞いて、それを守る者のことです」とお答えになりました。

イエス、嵐を静める

22 そのころのことです。 ある日、イエスは弟子たちと舟に乗り込み、「さあ、湖の向こう岸に渡ろう」と言われました。 23途中、イエスが横になられ、眠っておられると、風が出てきました。 風はだんだん強くなります。 恐ろしい嵐に、舟は水をかぶって、今にも沈みそうです。 もう一刻の猶予もありません。

24 弟子たちはあわててイエスを揺り起こし、「先生、先生。 舟が沈みそうですっ！」と叫びました。 そこで、イエスはゆっくり起き上がると、「静まれっ！」と嵐に命じられました。 するとどうでしょう。 たちまち風も波もおさまり、何事もなかったかのように静かになりました。

25 イエスはおっしゃいました。 「ああ、あなたがたの信仰はどこにあるのですか。」弟子たちは驚くやら恐ろしいやらで、「なんてお方だろう。 風や波までが言うことを聞くとは！」とささやき合いました。

26 こうして一行は、無事ガリラヤの対岸にあるゲラサ人の地方に着きました。 27舟から上がると、この町に住む男が一人、イエスに会いに来ました。 長年、悪霊に取りつかれ、家もなく、裸のまま、墓場をねぐらにしている男でした。 28男はイエスを見

るやいなや、恐ろしい叫び声をあげて、その場に倒れました。「やいやい、おれ様をどうしようってんだっ！いと高き神の子イエス様よ。お願いだから、苦しめないでくれっ！」

29 こうわめいたのは、イエスが悪霊に、出て行けとお命じになったからです。今までは、悪霊が何度も男に取りつくので、鎖でしっかり縛りつけておくのですが、どんなに太い鎖でも、いつもやすやすと引きちぎり、荒野へ逃げてしまうのでした。30「あなたの名前は？」というイエスの質問に、悪霊は、「レギオン（ローマ軍の一軍団）だ」と答えました。男には何千という悪霊が入り込んでいたからです。31悪霊どもは、底なしの穴に行くことだけはかんべんしてくれと、必死に願ひ続けました。

32 うまいことに、近くの山の中腹で、豚の群れがえさをあさっています。悪霊どもは、しめたとばかり、その豚の中に入らせてくれと頼みました。イエスがお許しになると、33すぐさまその男から出て、豚の中に入りました。そのとたんです。群れはいっせいに駆け降り、がけから湖に飛び込んで、おぼれ死んでしまいました。34びっくりした豚飼いたちは近くの町に駆け込み、この出来事を言いふらしました。

35 まもなく、大ぜいの人々が、どやどや集まって来ました。自分の目で確かめようと思ったのです。と、どうでしょう。今まで悪霊に取りつかれていた男が、きちんと服を着込み、すっかり正気に戻って、イエスの前に座っているではありませんか。みんなは、あっけにとられてしまいました。36初めから一部始終を目撃していた人たちが、事細かにその時の状況を説明しました。37それを聞くと、人々はますます恐ろしくなり、イエスに、ここから立ちのいて、もうこれ以上かわり合わないでくれと頼み始めました。それで、イエスは舟に戻り、また向こう岸へ帰って行かれました。38悪霊に取りつかれていた男は、ぜひにとお伴を願ひ出ましたが、イエスはお許しになりません。39「家族のところへ帰りなさい。神がどんなにすばらしいことをしてくださったかを、話してあげるのです。」こう言われて、男は町中の人に、イエスのすばらしい奇蹟を話して回りました。

イエス、娘を生き返らす

40 ガリラヤに帰ると、イエスは心からの歓迎を受けました。人々はおいでを待ちわびていたのです。

41 その時、ユダヤの会堂管理人で、ヤイロという名の人々が来て、イエスの足もとにひれ伏し、家においでくださいと願ひました。42十二歳になる一人娘が、危篤状態だったのです。熱心な頼みに、イエスは人垣をかき分けるようにして、ヤイロの家に向かわれました。

4344途中で、一人の女が、いやされたい一心で、うしろからイエスにさわりました。十二年もの間、出血の止まらない病気に悩まされ、どうしても治らなかったからです。ところが、イエスの着物のふさにさわったとたん、出血は止まりました。

45 イエスは、「わたしにさわったのはだれですか」とお尋ねになりました。みんなが

めいめい自分ではないと答えた時、ペテロが口を出しました。「先生。 わかりっこありませんよ。 回りにはこんなに大ぜいの人がひしめき合っているんですから……。」

46 「いや、だれかがさわりました。 力が出て行くのを感じたのですから。」

47 女は、イエスが何もかもご存じなので、わなわな震えだしました。 とても隠しきれません。 しかたなくイエスの前にひれ伏し、さわった訳とすっかりよくなったこととを、包み隠さず打ち明けました。

48 イエスは女に、「あなたの信仰があなたを治したのですよ。 さあ、安心してお帰りなさい」とおっしゃいました。

49 まだイエスが話し終えないうちに、ヤイロの家から使いの者が駆けつけ、こう言いました。「どんな様っ！ お嬢様は、たった今お亡くなり……。 先生にわざわざおいでいただいても、手遅れでございます。」

50 これを聞いて、イエスはヤイロに言われました。「恐れなくて、わたしを信じていなさい。 娘さんは必ずよくなりますから。」

51 家に着くと、イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブの三人の弟子と、両親のほかはだれも、中へ入ってはいけなさいと言われました。 52 家の中は嘆き悲しむ人でごった返していたのです。「もう泣くのはやめなさい。 娘さんは死んだものではありません。 ただ眠っているだけです。」 53 娘が死んだことをよく知っていた人々は、このイエスのことばをあざ笑いました。

54 イエスが手を取り、「さあ、起きなさい」と呼びかけると、 55 その瞬間、娘は生き返り、すぐに起き上がったではありませんか。 イエスは何か食べさせるようにとお言いつけになりました。 56 あまりのことに、両親はあつけにとられていたからです。 そして、このことをだれにも話さないようにと、堅く口止めなさいました。

・

九

イエス、神の国を告げ知らせる

1 ある日、イエスは十二人の弟子を呼び集め、悪霊を追い出し、病気を治す力と權威とお授けになりました。 2 こうして、すべての人に神の国が来ることを告げ知らせ、病人を治すために、派遣されたのです。

3 イエスの指示はこうでした。「杖も、旅行袋も、食べ物も、お金も持って行ってはいけません。 また下着も二枚はいりません。 4 どの町でも、ずっと同じ家に泊まりなさい。

5 もし、町の人たちがあなたがたのことばに耳を貸さないなら、回れ右して、急いで町から出なさい。 その時は、神が怒っておられる証拠に、足のちりを払い落としなさい。」

6 弟子たちは村々を巡り、神のすばらしい知らせを伝え、病人を治して歩きました。

7 イエスの奇蹟のうわさを耳にした領主ヘロデは、ひどくとまどいました。「きっとバプテスマのヨハネが生き返ったのだ」と言う人もあれば、 8 「いや、エリヤか、昔の

預言者の一人だろう」と主張する人もいるというぐあいに、それぞれ、かつてなことを言い合っていたからです。とにかく、うわさはうわさを呼び、いろいろな憶測が国中に乱れ飛びました。

9「ヨハネなら、確かにわしが首をはねた。だとしたら、この不思議なうわさの主はいったい何者だろう。」ヘロデは、自分でイエスに会ってみようと思いました。

10 さて、旅から帰った弟子たちは、その経過を残らず報告しました。イエスは彼らを連れ、ひそかにベツサイダの町に行こうとされましたが、11 人々の目を逃れることはできませんでした。大ぜいの群衆が、あとを追って来たのです。そのような彼らを、イエスは心から喜んで迎え、神の国について教えたり、病人を治したりなさいました。

12 そのうち、日も暮れ始めたので、十二人の弟子たちはイエスのところへ来て頼みました。「先生。この人たちを解散させてください。近くの村や農場に行って、食べ物と今夜の宿を見つけることができるようにしてやらなければ……。こんな寂しい所じゃ、何もありませんから。」

13 「いいえ。あなたがたで、みんなに食べ物をあげるのです。」イエスの答えに、弟子たちはあきれ顔で抗議しました。「何ですって！ 手もとには、パンが五つと魚が二匹あるだけです。これだけ大ぜいの人食べる物を、買い出しに行けとでもおっしゃるんですか。」14 こう言うのも、むりはありません。男だけでも五千人はいたのですから。

しかし、イエスは、「さあ、みんなを五十人ぐらいずつのグループに分けて、座らせなさい」と言われます。15 弟子たちは訳がわからないながらも、指示どおりにしました。

16 そこでイエスは、五つのパンと二匹の魚を取り、天を見上げ、感謝の祈りをささげられました。それからパンをちぎり、人々に配るため、弟子たちに手渡されました。17 みんながお腹いっぱい食べたあと、パンくずを集めると、なんと十二かごにもなりました。

18 ある日のこと、イエスは一人で祈っておられました。弟子たちは少し離れた所で待っています。しばらくしてイエスは歩み寄り、「人々は、わたしのことをだれだと言っていますか」とお尋ねになりました。

19 「バプテスマのヨハネだと言う者もいますし、エリヤだと言う者もいます。それに、昔の預言者が生き返ったのだと言っている者も……。」

20 「では、あなたがたはどう思っているのですか。」即座にペテロが答えました。「あなた様こそ神のキリスト（救い主）です！」

21 しかしイエスは、このことをだれにも言うてはいけませんときびしく戒め、22 「わたしは多くの苦しみを受け、ユダヤ人の指導者たち、長老、祭司長、法律の専門家たちに捨てられ、殺され、そして三日目に復活するのです」とお話しになりました。

23 それから、一同に言われました。

「いいですか。わたしについて来たい人はだれでも、自分のつごうや利益を考えてはい

けません。日々自分の十字架を背負い、わたしのすぐあとについて来なさい。 24いのちを守ることにばかりあくせくしている者は、かえってそれを失います。 ですが、わたしのためにいのちを投げ出す者は、それを救うのです。 25たとえ全世界を手に入れても、ほんとうの自分を失ってしまったら、何の役にも立ちません。

26 メシヤのわたしも、自分自身と父と聖なる御使いとの栄光を帯びてやって来る時、わたしとわたしのことばとを恥じるような者たちのことを、恥じるでしょう。 27よく言っておきますが、あなたがたの中には、神の国を見ないうちは決して死なない者がいるのです。」

栄光に輝くイエス

28 八日が過ぎました。 イエスはペテロ、ヨハネ、ヤコブを連れ、祈るために山に登られました。 29祈っておられるうちに……、どうでしょう。 イエスの顔は輝きだし、着物はまばゆいばかり白くなったのです。 30その時、二人の人が現われ、いかにも親しげにイエスと話し始めました。 なんとモーセとエリヤです。 31二人の姿も輝いています。 三人は、神の計画どおり、イエスがエルサレムで最期を遂げることについて話し合っていたのです。

32 ペテロもほかの二人も、まぶたが重くなり、ぐっすり寝込んでしまいました。 はっと気がつくと、イエスは栄光に包まれ、モーセとエリヤといっしょに立っておられます。 33二人が立ち去ろうとするのを見て、すっかり動転していたペテロは、何を言っているのかもわからないまま、思わず口走りました。「先生。 なんて素晴らしいんでしょう！ そうだ。 小屋を三つお建てしましょう！ 一つは先生のために。 それから、モーセ様とエリヤ様のためにも一つずつ。」

34 ペテロがまだ言い終わらないうちに、光り輝く雲がもくもく立ち込め、一同をすっぽりおおったので、弟子たちは恐ろしさのあまり、がたがた震えだしました。 35すると雲の中から「これはわたしの子、わたしの選んだ者。 この人の言うことを聞け」という声がしたのです。

36 その声がやむと、イエスの姿しか見あたりません。 三人の弟子たちは、この時のことを、ずっとあとになるまで、だれにも話しませんでした。

山を降り、エルサレムを目指して進むイエス

37 次の日、一行が山から降りて来ると、大ぜいの群衆が待ちかまえているところでした。 38この時、群衆の中から一人の男が叫びました。「先生、どうかお助けを！ 息子を見てやってください。 たった一人の息子なんです。 39なのに、悪霊に取りつかれて……。 なにしろ、大声でわめくは、ひきつけを起こして口からあわを吹くはで、たいへんなんです。 それも一度や二度じゃないんで。 悪霊は何度も何度も取りついて、発作を起こさせ、なかなか離れようとしません。 40そこで、ここにいらっしゃるお弟子さんたちに、悪霊を追い出してくださいとお願いしたのですが、だめでした。」

41 イエスは弟子たちに言われました。「ああ、全く手に負えない、不信仰な人たち

よ！　いつまで我慢しなければならいのでしょうか。さあ、その子を連れて来なさい。」

42　少年が近寄ると、悪霊はその子を押し倒し、激しくひきつけさせました。　イエスは悪霊に出て行けと命じ、すっかり元気になった少年を、父親の手に返してあげました。

43　人々は、こんなことは神にしかできないと考え、恐ろしくなりました。

人々がイエスの巻き起こすさまざまの不思議なことについて、盛んにほめたてていた時、イエスは弟子たちにおっしゃいました。

44　「いいですか、よく聞いて、しっかり覚えておきなさい。　メシヤ（救い主）のわたしは、やがて裏切られるのです。」　45ところが弟子たちには、何のことか、さっぱりわかりません。　このことばの真意が隠されていたからです。　それに、何となくこわくて、聞き返すこともできませんでした。

46　さて、弟子たちの間で、やがて来る神の国ではだれが一番偉いかという議論が持ち上がりました。　47彼らの考えを見抜いたイエスは、小さな子供を一人そばに立たせて、

48お話しになりました。「だれでも、このように小さな子供を大切にする者は、実は、わたしを大切にしているのです。　またわたしを大切にする者は、わたしを遣わされた神を大切にしているのです。　わかりましたね。　最も謙そんな者が、ほんとうは最も偉大な者となるのです。」　49弟子のヨハネが、そばに来て報告しました。「先生。　無断であなた様のお名前を使い、悪霊を追い出している人を見かけました。　もともと、仲間じゃなかったので、すぐやめさせましたがね。」

50　ところが、イエスは言われました。「そんなことをしてはいけません。　敵対しない者はみな、味方なのですから。」

51　天に帰られる日がだんだん近づきました。　イエスは鉄のように強固な意志を内に秘め、エルサレムを目指して、ひたすら進んで行かれました。

52　そんなある日、イエスは使いを出して、サマリヤ人の村で泊まろうとなさいました。

53ところが、使いの者は追い返されてしまいました。　サマリヤ人が、エルサレムに向かう一行だとわかり、村に迎え入れるのをいやがったからです。

54　このいきさつを聞いたヤコブとヨハネは、かっとなりました。「先生。　天から火を呼び下し、やつらを焼き滅ぼしてやりましょうか。」　55しかし、イエスはふり返り、二人をおしかりになりました。　56一行は別の村に向かいました。

57　道を歩いている時、ある人がイエスに言いました。「あなた様がおいでになる所なら、どんな所へでもまいります。」

58　イエスはお答えになりました。「これだけは、よく覚えておきなさい。　わたしには寝る所さえないのです。　きつねにも穴があり、鳥にも巣があるというのに、天から来たメシヤのわたしには、この地上には住む家もないのです。」

59　またある時、イエスは一人の男に、弟子になるようにと声をおかけになりました。男は承知しましたが、ただ父親が死んで葬式を出すまで待つてくださと頼みました。

60　イエスはお答えになりました。「死人のことは、あとに残った者たちに任せてお

きなさい。 あなたの務めは、出て行って、世界中の人たちに神の国が来ると伝えることです。」

6 1 別の人はこうも言いました。 「はい、先生。 喜んでお従います。でもその前に、家族の許しを得てきたいのですが……。」

6 2 しかし、イエスは言われました。 「ほんの片時でも、その人のために計画された仕事から目をそらす者は、神の国にふさわしくありません。」

一〇

伝道の心がまえ

1 さてイエスは、ほかに七十人の弟子を選び、これから訪問する予定の町や村に、二人一組で、先に派遣なさいました。

2 その時、次のような注意をお与えになりました。

「収穫はたくさんあるのに、働く人があまりにも少ないのです。ですから、収穫の責任者である主に、もっと大ぜいの働き手を送ってくださるようお願いなさい。 3 さあ、出かけなさい。 だがこれだけは忘れないように。 あなたがたを派遣するのは、まるで羊を狼の群れの中に送るようなものです。 4 お金も旅行袋も、はき替えのくつも持たないで行きなさい。 途中、道草を食ってははいけません。

5 どんな家に入っても、神の祝福があるようにと祈りなさい。 6 その家に祝福を受ける値打があれば、祝福はとどまるし、そうでなければ、あなたがたのところに返って来ます。

7 一つの村に入ったら、あっちこっちと家々を渡り歩いてはいけません。 同じ家に泊まり、とやかく言わずに、出される物をごちそうになりなさい。 ていねいなもてなしを遠慮することはありません。 働く者が報酬を受けるのは当然です。

8 9 喜んで迎えてくれる町では、次のことを守りなさい。 出された物は何でも食べることと、病人を治し、『神の国が、すぐそこまで来ている』と宣言すること、この二つです。

1 0 しかし、歓迎してくれないような町では、大通りに出て、こう言いなさい。

1 1 『あなたがたは必ず滅びます！ これがそのしるしです。 この町のちりは、足から払い落として行きます。 ただ、神の国がすぐそこまで来ていることは知っておきなさい。』

1 2 よく言うておきましょう。 さばきの日には、あの邪惡な町ソドムのほうが、その町よりよっぽどましなのです。 1 3 ああコラジンよ。 ああベツサイダよ。 どんな恐ろしいことが待ち受けていることか。 わたしがあなたがたにしたような奇蹟を、ツロとシドンでしたら、そこの人々はどうの昔に荒布をまとい、頭に灰をかぶって嘆き悲しみ、罪を悔い改めたことでしょう。 1 4 そうです。 さばきの日には、ツロとシドンのほうが、あなたがたより罰が軽いのです。 1 5 ああカペナウムの住民よ。 あなたがたはどうでしょう。 天に上げられるとうぬぼれている者たちよ。 思い違いもひどすぎます。 あなたがたは地獄に突き落とされるのです！」

16 さらに続けて言われました。

「あなたがたを受け入れる人は、実は、わたしを受け入れているのです。 あなたがたを受け入れない人は、わたしを受け入れないばかりか、わたしを遣わされた神をも受け入れないのです。」

17 その後、七十人の弟子たちは喜び勇んで旅行から帰り、イエスに報告しました。「あなた様のお名前を使うと、悪霊どもでさえ、言うことを聞きましたっ！」

18 「そうです。 わたしは見ました。 まるでいなくまみたいに、サタンが天から落ちるのを。 19 あなたがたには、敵のあらゆる力に打ち勝ち、蛇やさそりを踏みつぶす権威を与えてあります。 だから、あなたがたに危害を加えるものなど、一つもないのです。 20 だが、悪霊どもが言うことを聞くからといって、いい気になってはいけません。 何よりも大切なのは、あなたがたの名前が天国の市民として登録されていることなのです。」

21 この時、イエスの心は、聖霊が与えてくださる喜びでいっぱいになりました。

「父よ。天地の主であるあなたをほめたたえます。 これらのことを頭のよい者や世渡りのうまい者たちには隠して、小さい子供のように神を信じきる者に示してくださいました。ほんとうに、ありがとうございます。 これが、あなたのお心にかなったことでした。 22 すべてのことで、わたしはあなたの代理を務めます。 あなただけが子のほんとうの姿をご存じですし、あなたをほんとうに知っているのは、子のわたしと、あなたを紹介しようと、わたしが選んだ者たちだけなのです。」

23 それから弟子たちのほうを向いて、そつと言われました。

「あなたがたの目はなんと幸せなことでしょうか！ この上なくすばらしいものを見ているのですから。 24 大ぜいの昔の預言者や王たちは、あなたがたの見聞きたことを、見たい、聞きたいと、どれほど願ったかしれません。 残念ながら、その願いはかなえられなかったのです。」

親切なサマリヤ人

25 ある日、法律の専門家がわざわざやって来て、イエスを試そうとしました。「先生。 ちょっとお聞きしたいんですが、天国で永遠に生きるには、何をしたらよろしいでしょうか。」

26 「モーセの法律には、どう書いてありますか。」

27 「心を尽くし、たましいを尽くし、力を尽くし、思いを尽くして、あなたの神である主を愛しなさい、自分自身を愛するようにあなたの隣人を愛しなさい、とございますが。」

28 「そう、そのとおりにすればいいのです。 そうすれば、永遠に生きられます。」

29 しかし法律の専門家は、自分がある種の人々を愛していないことを正当化しようと、「ですが……、隣人とはだれのことで？」と聞き返しました。

30 イエスは直接答える代わりに、例をあげて説明なさいました。

「エルサレムからエリコへ旅をしていたユダヤ人が、強盗に襲われました。 強盗どもは、

身ぐるみはぎ取り、あり金全部を奪うと、殴ったり、蹴ったりして半殺しにし、道ばたに放り出してさっさと逃げて行きました。

31 ちょうどそこへ、ユダヤの祭司が通りかかりました。 ふと見ると、旅人が倒れています。 でも、めんどくに巻き込まれたくなかったので、そそくさと道の反対側へ回り、何くわぬ顔で通り過ぎてしまいました。 32 しばらくすると、今度はレビ人〔神殿で奉仕する人〕が通りかかりましたが、彼も、倒れている旅人を横目でちらっとながめただけで、行ってしまいました。

33 ところが、常日頃ユダヤ人に軽べつされていたサマリヤ人が、たまたま通りかかり、旅人を見つけました。 気の毒な有様に、心から同情したサマリヤ人は、 34 急いでそばにひざまずき、傷口に薬をぬり、包帯を巻いて応急手当をしました。 それから、自分のろばに乗せ、宿屋まで運んで、一晩中、看病してあげました。 35 翌日、宿屋の主人に六千六百円渡し、『あの人を介抱してあげてください。 足りない分は、帰りに寄ってお払いしますから』とくれぐれも頼みました。

36 この三人のうちだれが、強盗に襲われた人の隣人になったと思いますか。」

37 「もちろん、親切にしてやった人です。」この答えを聞くと、イエスは言われました。「そのとおりです。 あなたも同じようにしなさい。」

38 エルサレムへの旅の途中で、イエスはある村に立ち寄られました。その村のマルタという名の婦人が、喜んで一行を家に迎えました。 39 マルタにはマリヤという妹がおりました。 マリヤは座り込んで、イエスの話にじっと聞き入っていました。

40 一方マルタはというと、てんてこ舞の忙しさです。 「どんなごちそうで、おもてなししようかしら。 あれがいいかしら、それとも……。」気を使うことばかりです。 とうとうイエスのところへ来て、文句を言いました。 「先生。 私が、目が回るほど忙しい思いをしているのに、まあ、どうでしょう。 妹ったら、何もしないで座ってるだけなんですから。 不公平じゃございません？ 少しは手伝いをするように、おっしゃってくださいな。」

41 しかし主は、マルタに言われました。 「マルタさん。 あまり多くのことに気を使いすぎているようですね。 42 でも、どうしても必要なことはただ一つだけです。 妹さんはそれを見つけたのです。 わたしはそれを取り上げようとは思いません。」

――

祈りについて

1 ある時、イエスは外で祈っておられました。 ちょうど祈り終えたところへ一人の弟子が来て、「主よ。 バプテスマのヨハネが弟子たちに教えたように、私たちにも祈りを教えてください」と願いました。

2 そこでイエスがお教えになった祈りは、こうでした。

「天のお父様。 あなたのきよい御名が、あがめられますように。

あなたの御国がすぐに来ますように。

3 私たちに日々必要な食物をお与えください。

4 私たちの罪をお赦してください。

私たちも、私たちに罪を犯した者を赦します。

私たちを誘惑に会わせないでください。」

5 6 祈りについての教えはまだ続きました。それが、このたとえ話です。

「真夜中に、どうしてもパンを三つ借りなければならなくなつて、友達の家に向けつくとします。戸をどンドンたたき、大声を張り上げて、『迷惑をかけてすまないけど、突然のお客でねえ。あいにく、家には一切れのパンもないんだよ。お願いだから貸してくれないか』と頼みます。7 友達は何と答えるでしょう。中から、『おいおい、かんべんしてくれよ。いま何時だと思ってるんだい。戸じまりもしてしまったし、もうみんな寝てるんだ。何も出してやれないよ』とどなり返すだけかもしれません。

8 だが、これだけは言えます。友達だからというのでは何もしてくれなくても、しつこくたたき続けるなら、その根気に負けて、必要な物をみな出してくれるでしょう。9 祈りも同じです。あきらめずに、求め続けなさい。そうすれば、与えられます。捜し続けなさい。そうすれば、見つかります。戸をたたきなさい。そうすれば、開けてもらえます。10 求める人は与えられ、捜す人は見つけ出し、戸をたたく人は開けてもらえるのです。

11 パンをねだる子供に、石ころをあげる父親がいるのでしょうか。魚が食べたいと言うのに、毒蛇を与える親がいるのでしょうか。12 卵がほしいと言うのに、さそりをあげたりするのでしょうか。もちろん、あげるはずがありません。

13 罪深い人間でさえ、子供には良い物をあげたいと思うのが人情です。そうだとしたら天の父が、求める者に聖霊を下さらないということはありません。」

14 ある時、イエスは悪霊に取りつかれて口がきけない男から、悪霊を追い出してあげました。すると、どうでしょう。男はぺらぺらしゃべりだしたのです。その場に居合わせた人々はすっかり驚いてしまいました。15 しかし中には、意地悪く中傷する人もいました。「へん、別に驚くほどのことじゃないさ。悪霊を追い出すことなんか朝飯前だろうよ。なにしろやつは、悪霊の王ベルゼブル〔サタン〕の力をもらってるんだからな。」16 またほかの人は、ほんとうにメシヤ（救い主）なら、その証拠に、何か不思議な奇蹟を天に起こしてほしいと求めました。

17 そういう一人一人の考えを見抜いて、イエスは言われました。「内乱の絶えない国は滅びます。争ったり、けんかばかりしている家庭も同じことです。18 あなたがたの言うように、ベルゼブルがわたしに悪霊を追い出す力を与えて、自分自身と戦っているとしたら、どうしてサタンの国はやっていけるでしょう。19 それにしても、あなたがたの仲間になつて、悪霊を追い出す人がいるではありませんか。わたしがベルゼブルの力で悪霊を追い出しているというのなら、彼らになつてそうでしょう。あなたがたの考えが正しいかどうか、その人たちに聞いてみたらどうです。20 しかし、もしわたしが神の力

で悪霊を追い出しているとしたら、もう神の国があなたがたのところに來ている証拠です。

21 強く、完全武装したサタンが宮殿を守っているうちは、彼の国は安泰です。 22 しかし、もっと強く、もっと強力な武器を持った者が襲いかかったら、なんなく倒され、武器も持ち物も、一つ残らず取り上げられてしまうでしょう。

23 わたしに味方しない者はみな敵です。 助けてくれない者は、じゃまをする者です。

24 悪霊が人から追い出されると、別の住みかはないかと荒野をあちこちうろつき回ります。ところが、やっぱり適当な場所が見つからないので、もとの所へすくすく戻って行きます。 25 見ると、以前の住みかはすみずみまで掃除が行き届き、きれいになっています。 26 こいつはしめたとばかり、自分より、もっとたちの悪い七つの悪霊を連れて来て、住みついてしまうというわけです。 そうなったら、その人の状態は以前よりずっとみじめになるのです。」

27 こう話しておられると、群衆の中から、一人の婦人が感きわまって叫びました。「あなたのお母様はなんて幸せな方でしょう！ あなたを宿したお腹、あなたの吸った乳房はなんて祝福されているんでしょう！」

28 「そのとおりです。 でも、神のことばを聞いて、そのとおり実行する人のほうが、もっと祝福されているのです。」

29 群衆の数はどんどんふくれ上がる一方です。 イエスは教えを宣べ伝え始められました。

「今の時代は、悪人のはびこる悪い時代です。 人々は、寄ってたかって、メシヤなら、天に何か不思議なしるしを起こしてみせろと、しつこく求めます。 けれども、わたしが見せられる証拠はたった一つ、ヨナの奇蹟だけです。 30 ヨナの経験は、ニネベの人たちの目に、神がヨナを派遣されたことの明らかな証拠と映りました。 わたしも、このヨナと同じような経験をします。 それが、わたしをこの世の人たちのところへお遣わしになったのは神だという、動かぬ証拠となるのです。

31 さばきの日には、シェバの女王が立ち上がり、この時代の人々を名指しで断罪します。 彼女は、ソロモンから知恵のことばを聞くために、あれほど遠い国からはるばる旅して来ることを、いとわなかったからです。 けれども、そのソロモンよりはるかに偉大な者が、ここにいます。 [それなのに、だれ一人見向きもしません。]

32 ニネベの人たちも立ち上がり、この時代の人々に刑罰を宣告します。 彼らはヨナの教えを聞いて、それまでの墮落しきった生活を悔い改めたからです。 けれども、そのヨナより、もっと偉大な者が、ここにいます。 [ところが、耳を傾ける人は一人もいません。]

33 ランプをつけて、わざわざそれを隠す人がいますか？ ランプは部屋を明るく照らすものだから、燭台の上に置かなければ、何にもなりません。 34 目は、心の中まで明るくします。 澄みきった目は、たましいの中まで光をとおします。 肉欲に汚れた目は、光をさえぎり、あなたを暗やみに閉じ込めてしまします。 35 ですから、光がおおい隠

されないように、よく気をつけなさい。 36内面が光に満ちあふれている人は、顔も、明るい光をあてられたように、はつらつと輝くことでしょう。」

偽善者のまちがい

3738話が一段落したところで、あるパリサイ人が、イエスを食事に招待しました。 イエスは誘われるまま彼の家に行き、食卓に着かれました。ところが、その時、なぜか手をお洗いになりません。この儀式は、ユダヤでは必ず行なう習慣でしたので、家の主人は全く意外だという顔つきで、まじまじとイエスをながめました。

39 イエスは、おっしゃいました。「あなたがたパリサイ人は、確かに外側はきれいに洗います。しかし、内側はどうですか？ 汚れたままで、食欲や悪意がいっぱいではありませんか。 40愚かな人たちです。神は外側だけを造られたのですか。もちろん、そんなことはありません。神はちゃんと内側も造られたのです。 41内面のきよさは行ないに表われます。たとえば、どれだけ親切に、貧しい人たちを助けてあげるかによって、はっきりするのです。

42 あなたがたパリサイ人は、実にいまわしいものです。どんなわずかな収入でも、実にきちょうめんに十分の一をささげていながら、正義と神を愛することとは、きれいさっぱり忘れているのですから。もちろん、十分の一献金は大いにけっこうです。しかし、もっと大切なことをなおざりにしては意味がありません。

43 あなたがたパリサイ人は、実にいまわしいものです。会堂で特別席に座ったり、市場を歩いていて、みんなからていねいなあいさつを受けたりするのが、何よりの楽しみなのですから。 44そんなあなたがたを待ちかまえているのは何でしょう。そう、恐ろしいさばきです。あなたがたはまるで、野原にある、人目につかない墓みたいです。人々は、汚れたものが近くにあるとは気づかず、平気であなたがたのそばを通り過ぎるのです。」

45 そばに立って話を聞いていた法律の専門家が、我慢がならないといったふうに、食ってかかりました。「失礼ですが、おことばがすぎませんか。私たちまで侮辱なさるとは。」

46 イエスは、言われました。「そうではありません。あなたがたにも恐ろしいさばきが待ち受けているのです。とうてい実行できない命令を与えて、人々を押しつぶしておきながら、自分は守ろうともしないのですから。 47あなたがたも、いまわしいものです。昔、預言者を殺した先祖と、全くよく似ています。 48人殺しとちっとも変わりません。ずうずうしくも、先祖が殺した預言者の記念碑を建て、『ご先祖様は正しかった』と認めているのですから。だから、あなたがただって、きっと同じことをしたでしょう。

49 あなたがたのことを、神はこう言っておられます。『わたしは、預言者や使徒たちを派遣します。しかしあなたがたは、彼らを殺したり、迫害したりするのです。』

5051今の時代に生きるあなたがたは、世界が造られてからずっと、すなわち、アベル

が殺された時から、ザカリヤが神殿と祭壇との間で殺された時まで、神の預言者たちを殺し続けてきた責任を問われます。そうです。確かにあなたがたには責任があるのです。

52 法律の専門家たちよ、全くいまわしいものです。人々の目から真理を隠しているのですから。自分が真理を信じないばかりか、ほかの人たちが信じるチャンスさえ奪っているのです。」

5354 これには、パリサイ人や法律の専門家たちも頭にきました。この時からです。彼らがむずかしい質問を矢のようにあびせて、何とかイエスをわなにかけ、逮捕する口実を得ようとし始めたのは。

一二

神を恐れなさい

1 そのうちに、群衆の数はますますふくれ上がり、押し合いへし合いの有様です。イエスはまず、弟子たちに警告なさいました。

「何よりも、パリサイ人の偽善ぶりに注意しなさい。ほんとうは悪いことをたくらんでいるのに善人ぶる者たちのやり方にごまかされてはいけません。2 だが、そういう偽善は、いつまでも隠しおおせるものではありません。やがて、パン生地の中のイースト菌のように、ふくれ始め、だれの目にもはっきりします。3 暗やみにまぎれて言ったことがみな、明るみで聞かれ、奥の部屋でささやいたことが、屋上から大声で宣伝されるのです。

4 親しい友よ。体を殺しても、たましいには指一本ふれることができない者たちを恐れてはいけません。5 ほんとうに恐れなければならない相手を教えましょう。殺したあとで、地獄に投げ込む力を持っておられる神を恐れなさい。神こそ、ほんとうに恐れなければならないお方なのです。

6 雀五羽はいったいいくらですか。たったの百円ではありませんか。こんな雀一羽でさえ、神はお見捨てにならないのです。7 それどころか、あなたがたの髪の毛の本数さえご存じなのです。恐れることはありません。あなたがたは、たくさんの雀より、はるかに価値があるのですから。

8 次のことをはっきりさせておきましょう。この地上で、わたしを友とはっきり認めるなら、メシヤ（救い主）のわたしも、神の使いの前で、確かにわたしの友だと認めます。

9 だが、もし人前で、わたしを知らないと言うなら、わたしも神の使いの前で、こんな人を見覚えもないと言います。10 それでも、わたしに逆らうぐらいなら、何とか赦されます。だが、聖霊に言い逆らう者は絶対に赦されないのです。

11 裁判を受けるために、役人や会堂の権力者たちの前に引き出されても、どう釈明しようかなどと、くよくよ心配してはいけません。12 聖霊が、時にかなったことばを教えてくださいからです。」

13 その時、群衆の中から一人の男が叫びました。「先生一っ！ どうぞ兄に、父の遺産を分けてくれるよう言ってください。」

14 「はて、だれがわたしをそんなことの裁判官にしたのですか。」 15 続けてイエスは群衆に言われました。「食欲には、くれぐれも注意なさい。どんな物持ちでも、人のいのちは財産とは無関係なのですから。」

16 そこで、たとえ話を一つなさいました。

「ある金持ちが、良い作物のとれる肥えた畑を持っていました。 17 倉はいっぱいで、収穫物を全部納めきれないほどです。 あれこれ考えたあげく、うまいことを思いつきました。 18 『こうすりゃいいんだ。あの倉を取りこわして、もっと大きいのを建てる。そうすりゃあ、作物を全部納められるさ。』 19 ひとり悦に入った金持ちは、ふんぞり返って、われとわが身に言い聞かせたものです。『もう何も心配はいらないぞ。これから先何年分もの食料がたっぷりあるんだ。のんびり、楽しくやろう。さあ、酒だ、女だ、歌だっ!』

20 しかし神は、こう言われました。『愚か者よ! あなたのいのちは、今夜にもなくなるのです。 そうしたら、ここにある物は、いったいだれのものになるのですか。』

21 いいですか。 この地上でいくらお金をため込んでも、天国に財産を持っていない者はみな、愚か者なのです。」

22 それから、また弟子たちのほうを向き、先をお続けになりました。

「ですから、言っておきましょう。食べ物には十分か、着る物はどうか、といったことでいちいち気を使うのはやめなさい。 23 人のいのちは、食べ物や着る物よりどれだけ価値があるか知れないのです。 24 からすを見なさい。種もまかず、刈り入れもせず、倉を持ってるわけでもありません。それでもゆうゆうと構えていられるのは、神が養ってくださるからです。神にしてみれば、からすなどより、あなたがたのほうが、よっぽど大切なのです。

25 それに、くよくよしたところで、どうにもなりません。心配すれば、寿命が一日でも延びるのですか? 26 こんな小さなことさえできない者が、もっと大きなことを心配したところで何になるでしょう。

27 ゆりの花を見なさい。別に働いているわけでもないし、紡いだり、織ったりするわけでもありません。だが全盛時代のソロモンでさえ、この花ほど着飾ってはいませんでした。 28 今日は咲き誇っていても、明日はしぼんでしまう花でさえ、神はこのように装ってくださるのです。 そうだとしたら、疑い深い人たちよ、どうして、神がちゃんと着物を用意してくださるとは考えないのですか。 29 何を食べようか、何を飲もうかと食事の心配をするのはやめなさい。神が用意してくださるのに、思いわずらってははいけません。 30 人はだれでも毎日のパンのためにあくせく働きます。天の父が、必要なものはすべてご存じだというのに……。 31 神の国を第一に考えるなら、神は必要なものを毎日与えてくださるのです。

32 たとい少数派でも恐れることはありません。神は喜んで、あなたがたを神の国に導いてくださるのです。 33 持ち物を売り払って、貧しい人たちに分けてあげなさい。

そうすれば、天にある財布はふくらんでふくらんで、はち切れそうになること間違いありません。ところが、この財布は破れもしなければ、穴があくこともないから、あなたがたの財産がなくなることは絶対にありません。どろぼうに盗まれることも、虫に食われる心配もありません。34 宝のある所に、心も思いも釘づけになるものだからです。

35 きちんと身じたくを整え、あかりをともしていなさい。36 主人が結婚披露宴から戻るのを待っている人のように。こうしていれば、主人がノックすると同時に、戸を開けて迎えることができます。37 そのように忠実な姿を見られる人は、ほんとうに幸せ者です。主人は、感心な者だと思い、食卓で、反対に自分のほうから給仕してくれるでしょう。38 主人の帰りは夜の九時になるか、真夜中になるか、かいかもわかりません。しかし、いつ帰ってもいいように準備のできている人は、ほんとうに幸せ者です。

39 どろぼうがいつ入るかわかっていれば、家人は、てぐすね引いて待ちかまえています。同様に、主人の帰りが何時ごろか、はっきりわかかっていれば、準備をして待つのはあたりまえです。40 だから、いつでも用意していなさい。メシヤのわたしは、思いがけない時に来るのです。」

41 ペテロが、いぶかしげに尋ねました。「主よ。今の……お話は、私たちにだけ……話されたのですか。それとも……、ここにいるみんなに……？」

42 - 44 イエスは、お答えになりました。

「では、こう言えばわかるでしょうか。主人の留守中、ほかの召使たちの面倒を見る責任を負わされた、忠実で賢い人たちに話しているのです。主人が戻った時、かいかいしく働いているところを見られるなら、ほんとうに幸せです。主人に全財産を任されることになるでしょう。

45 ところが、『ご主人様はまだまだお帰りになるまい』と高をくくり、いい気になって召使たちを打ちたたき、飲んだり食べたりのどんちゃん騒ぎをしていたらどうでしょう。

46 主人は出し抜けに帰って来て、この有様を見ます。不屈き者は、責任ある地位からはずされ、不忠実な者と同じ仕事につけられるのがおちです。47 自分の義務を心得ながら、果たそうとしなかった罰です。

48 だが、自分でも気がつかないうちに悪いことをした人の罰は、軽くてすみます。だれでも多く与えられた者は多く求められ、多く任された者は多く要求されるのです。

49 わたしは、この地上に火を投げ込むために来ました。ああ、この仕事がもうすでに終わっていたらよかったのに。50 恐ろしいバプテスマ（洗礼）が待っています。それが成し遂げられるまで、どんなに苦しい思いをすることでしょう。

51 このわたしが地上に平和を与えるために来た、とでも思っているようですが、とんでもない見当違いです。それどころか、争いと分裂を引き起こすために来たのです。52 今から後、家庭内に分裂が生じるでしょう。五人家族だとすれば、三対二というぐあいに、わたしに賛成するか反対するかで分かれ争うことになるのです。53 父親がわたしのことで決断を下すと、子供は逆らうでしょう。母と娘との意見は一致なくなり、

本来なら尊重されるしゅうとめの考えも、嫁にはねつけられてしまうでしょう。」

5 4 それから、群衆に話しかけられました。

「あなたがたは天気を予測するのがとても上手です。西の空に雲がわき上がれば、『やっ、にわか雨が来る』と言い、まさにそのとおりになります。

5 5 また南風が吹けば、『やれやれ、ひどく暑い日になるぞ』とこぼし、それもまた、予測どおりになるのです。5 6 偽善者たちよ！これほど上手に空模様を見分けられるのに、目前に迫る危機についての警告には、少しの注意もはらおうとしないのですか！5 7 どうして、何が正しいかを見分けようとししないのですか。

5 8 裁判所へ行く途中、あなたを訴える人と出会ったら、裁判官の前に出るまでに、問題を解決するよう努力しなさい。さもないと、牢獄に入れられてしまいます。5 9 そうなったら、罰金を最後の一元までも払いきらなければ、出してもらえないのです。」

一三

救われる人は少ないのか

1 そのころ、ガリラヤ出身のユダヤ人が数名、エルサレムの神殿で供え物をしていた時、ピラトに殺害されたというニュースが、イエスに伝えられました。

2 これを聞いたイエスは、逆に、お尋ねになりました。「あなたがたは、この人たちが、ほかの、どのガリラヤ出身の人よりも罪が深かったから、こんな災難に会ったと思うのですか。3 それは違います。あなたがただって、今の悪い行ないをやめて神に立ち返らなければ、同じように滅びるのです。

4 そうそう、シロアムの塔の下敷きになって死んだ人がいました。確か……十八人でした。彼らのことはどう思いますか。エルサレムで一番罪深い人たちだったのでしょうか。5 とんでもありません。あなたがたも罪を悔い改めないなら、同じように滅びるのです。」

6 そして、次のようなたとえ話をなさいました。

「ある人が、ぶどう園にいちじくの木を植えました。そして、実がなっているかどうか、何度も何度も、見に行きました。ところが、期待はいつも裏切られてばかりです。7 とうとう主人は頭にきて、『こんなろくでもない木は切り倒してしまえっ！』と番人に命じました。『三年だぞ。三年も待ったというのに、一つも実がならない。もうこれ以上、手をかけることはない。全く場所ふさぎもいいとこだ。』

8 すると番人が、何とか思いとどませようと、なだめにかかりました。『まあまあ、ご主人様。もう一年、もう一年だけお待ちください。特に念入りに、肥料をやってみましょう。9 それで来年実がなれば、もうけもの。だめで、もともとです。それから切り倒しても遅くはありません。』

1 0 ある安息日のこと、イエスは会堂で教えておられました。1 1 そこに、十八年もの間、腰が曲がったきりで、全然伸ばすことのできない女がいました。

1 2 イエスは女をそばへ呼び、「さあ、あなたの病気は治りましたよ」とおっしゃいまし

た。 13 イエスがさわると、どうでしょう。 たちまち腰はしゃんとなったではありませんか。 女は喜びを抑えきれず、神をあがめ、賛美しました。

14 ところが、会堂のいっさいの責任を持っていた、この地方のユダヤ人の指導者は、それが安息日だというので、もうれつに腹を立て、群衆に怒りをぶちまけました。 「よりによって安息日に病気を治してもらうなど、もってのほかだっ！ 仕事のできる日は、一週間に六日もあるだろうが。 その間に治してもらえ。」

15 「いいえ、あなたがたこそ偽善者です。 安息日に働いていないと言いきれるのですか。 安息日でも、家畜を小屋から出してやり、水を飲ませに連れて行くではありませんか。 16 わたしは今、十八年もの間サタンに束縛されていた、ユダヤ人の女を解放してあげたのです。 たまたまそれが安息日だったからといって、どこがいけないのですか。」

17 このイエスのことばに、敵対する者たちは、ぐうの音も出ず、恥じ入るばかりでした。 群衆はと言うと、イエスの行なったすばらしい奇蹟に大喜びです。

18 そこでイエスは、神の国について教え始められました。

「神の国は何に似ているでしょう。 どういうふうに説明したらいいでしょう。 19 そう、神の国は畑にまいた小さなからしの種みたいです。 やがて、大きな木に生長し、鳥が枝に巣をかけるほどになるのです。 20 21 また神の国は、パン生地の中のイースト菌のようだとも言えます。 目には見えないけれども、少しずつ確実に作用して、パン全体を大きくふくらませるのです。」

22 イエスは町々村々を通り、人々に教えながら、ひたすらエルサレムへと進んで行かれました。

23 ある人がイエスに、「救われる人は少ないのでしょうか」と尋ねました。

イエスはお答えになりました。

24 「天国への戸は狭いのです。 できるかぎりの努力をして、そこから入りなさい。 よく言っておきますが、入ろうとしても、入れない人が大ぜいいるのです。

25 家の主人が戸を開けてからでは遅すぎます。 外に立ち、どんどんたたきながら、『ご主人様一っ！ 開けてくださーい、お願いでございませーす』と、なりふりかまわず頼んでも、中からは『おまえたちなんか、全然知らないね』と、冷たい返事が返ってくるだけです。

26 それでもあきらめず、『何かのおまちがいでは？ 私どもは、あなた様と食事をごいっしょしたこともありますし、大通りで、あなた様から教えていただきました』と食い下がります。

27 けれども主人は、けんもほろろに答えるのです。 『おまえたちなど知らないと言うのが、聞こえんのかっ！ おまえたちのような悪党は、ここには入れないのだ。 とつとつ行ってしまえっ！』

28 アブラハム、イサク、ヤコブ、それに預言者たちもみな神の国に入っているのに、あなたがたはいつまでも外に立ち尽くして、泣きわめき、歯ぎしりするのです。 29

方人々は、あちらからもこちらからも来て、神の国に迎え入れられ、席に着きます。 30 いいですか。このことは肝に銘じておきなさい。今は軽んじられている者が、その時には大いにほめたたえられ、今は重んじられている者が、その時には最も軽んじられるのです。」

31 ちょうどその時、パリサイ人が数人、つかつかと歩み寄り、イエスに忠告しました。「いのちが惜しかったら、ここから出て行きなさい。ヘロデ王があなたをねらっています。」

32 イエスはお答えになりました。「あのきつねにこう言ってやりなさい。今日も、明日も、わたしは悪霊を追い出し、病気を治します。そして三日目に、目的を達成します。 33 そうです。今日も、明日も、その次の日も、わたしは進んで行くのです。神から遣わされた預言者が、エルサレム以外の場所で殺されることは、ありえないからです。

34 ああ、エルサレム、エルサレム。なんという町でしょう。預言者たちを殺し、町を救うために遣わされた人たちを石で打ち殺すとは。めんどりがひなを翼の下にかばうように、何度あなたの子供たちを集めようとしたことでしょう。しかし、あなたがたは、それを拒んだのです。 35 だから今、あなたがたの家は、荒れ果てたまま見捨てられます。はっきり言いましょう。あなたがたが、『主の名によって来られる方、ようこそ』と言うその日まで、わたしの姿を二度と見ることはないのです。」

■

一四

12 ある安息日のこと、イエスはパリサイ派の指導者の家に入られました。パリサイ人たちは、その場にいた水腫の男をどうなさるか、息をこらし、目をさらのようにして、イエスを見つめました。

3 するとイエスは、回りに立っているパリサイ人や法律の専門家たちに、「ところで、安息日に病気を治すことは、おきてにかないますか。それとも……、違反でしょうか」とお尋ねになりました。

4 だれも、押し黙って答えません。イエスは男の手を取り、病気を治してあげると、すぐに家にお帰しになりました。 5 それから、面と向かってパリサイ人たちにお尋ねになりました。「あなたがたのうちで、安息日に絶対働かない者がいますか。息子や牛が穴に落ちたら、安息日だろうが何だろうが、すぐに引き上げてあげるのではありませんか。」

6 今度も、あえて答える者はいませんでした。

自分から名誉を求めるな

7 イエスは、宴会に招かれた人たちがみな、少しでも上席に座ろうとしているのに気づいて、こう忠告なさいました。

8 「結婚披露宴に招かれた時、いつでも上席に座ろうとしてはいけません。あなたよりもっと名誉ある人が招かれていた場合のことを、考えてごらんください。その人が姿を

見せたら、 9 主人は、『あいすみませんが、こちらの方と代わっていただけませんか』と申し出るでしょう。 そうなると、赤恥をかいた上に、すごすごと末席に着かなければならないのです。

10 招かれた時には、まず末席に座りなさい。 そうすれば、主人が来て、『さあさあ、ご遠慮なさらしないで、もっと上席にお進みください』と勧めるでしょう。 あなたは居並ぶ客の前で面目を施すことになるのです。 11 自分から名誉を受けようとする人は低くされ、自分から、腰を低くする人は、身に余る名誉を受けるのです。」

12 それから、食事に招いてくれた人にも、念を押されました。 「宴会を開く時には、友人や兄弟、親類、それにお金持ちの知人などを招かないようにしなさい。 彼らはお返しに、あなたを招くからです。 13 むしろ、貧しい人や体の不自由な人、足の不自由な人や盲人などを招待しなさい。 14 幸い、そういう人たちはお返しができないので、やがて神を敬う者たちの復活の日に、神が手ずからその分を報いてくださるでしょう。」

15 この忠告を聞いて、同席していた客の一人が、「神の国で食事をする、それ以上のしあわせ者はいないでしょうな」と言いました。

16 イエスは、遠回しにたとえ話でお答えになりました。

「ある人が大宴会を催すことにして、大ぜいの人に招待状を送りました。 17 準備がすっかり整ったので、召使に、宴会が始まる時間です、とふれ回らせました。 18 ところがなんと、招待客はみな、そろいもそろって口実をつくり、出席を断わり始めたのです。 一人は、ちょうど畑を買ったところなので、これから見に行かなければならないと断わり、 19 ほかの人は、さっき五くびきの牛を買ったので試してみたいと言いわけをしました。 20 またある人は、結婚したばかりで、それどころではないと断わりました。

21 召使は戻り、ありのままを主人に報告しました。 主人はかんかんに怒りました。 そして、『よし、それなら、今度は大通りや裏通りに行って、貧しい人や体の不自由な人、足の不自由な人、盲人たちを、片っぱしから招待して来い』と命じました。 22 そうやって客を集めても、会場にはまだ空席が目立ちます。

23 それで主人は言いました。 『えーい。 もうこうなったら、家がいっぱいになるように、街道や垣根の外へ行って、出会った者はだれでもかまわん、無理にでも連れて来い。 24 初めに招待した者たちには、一口だって宴会の食事など出してやるものか。』

25 さて、イエスのあとには、大ぜいの群衆がぞろぞろついて行きました。 イエスはふり返り、彼らに言われました。

26 「だれでも、わたしに従いたければ、父、母、妻、子、兄弟、姉妹以上に、いや自分のいのち以上にわたしを愛しなさい。 27 また、自分の十字架を背負い、わたしに従って来なければ、とてもわたしの弟子にはなれません。

28 けれども、仕事に手をつけるのは、必要な経費を見積もってからにしなさい。 家を建てるのに、資金の見通しが立たないうちに建て始める人がいますか。 29 そんなことをすれば、土台を据えただけで、資金切れとなるかもしれません。 それこそいい物笑

いです。

30 人々は、『よおよお、あのざまを見ろよ。 建てかけで金がなくなったんだとさ』とけなし、あざ笑うでしょう。

31 また、一万の兵を持つ王が、二万の敵軍との交戦を考える時は、必ず参謀会議を開き、はたして勝ち目があるかどうか、あらゆる角度から検討するでしょう。

32 どうしても勝ち目がないとわかれば、敵軍がまだ遠くにいるうちに、使者を送り、何としても講話条約を結ばなくてはなりません。 33 だれでも、まず座って、自分の持ち物を数え上げ、それを全部わたしのために捨てるのでなければ、わたしの弟子にはなれません。

34 塩が塩けをなくしたら、何の役に立ちますか。 35 味のない塩など、肥やしにもなりません。 捨てるほかはないのです。 聞く耳のある人は、よく聞きなさい。」

一五

失われた者が見つかる喜び

1 イエスの教えを聞きに来る人たちの中には、あくどい取り立てをする取税人や札つきの悪党が、かなりいました。 2 ユダヤ教の指導者や法律の専門家は、イエスがそういう問題の多い人々につきあい、時には食事までいっしょにするのを見て、不平をもらしました。 3 そこでイエスは、次のようなたとえ話をなさいました。

4 「羊を百匹持っているとします。 そのうちの一匹が迷い出て、荒野で行方がわからなくなったらどうしますか。 ほかの九十九匹は放っておいて、いなくなった一匹が見つかるまで捜し歩きましょう。 5 そして、見つかったら、大喜びで羊を肩にかつぎ上げ、 6 家に帰ると、さっそく友達や近所の人たちを呼び集めて、いっしょに喜んでもらうでしょう。

7 それと同じことです。 迷い出た一人の罪人が神のもとに帰った時は、少しも迷ったことのない九十九人を合わせたよりも大きな喜びが、天にあふれるのです。

8 もう一度、別のたとえで話してみましょう。 女の人が銀貨を十枚持っていました。 ところが、どうしたことか一枚なくしてしまったのです。 この女は、ランプをつけ、家の中をすみからすみまで掃除して、その一枚を見つけるまで、必死で捜し回るでしょう。

9 そして、見つけ出したら、一人ではもの足りず、友達や近所の人を呼び、いっしょに喜んでもらうでしょう。 10 同じように、一人の罪人が罪を悔いて神のもとに帰った時、神の使いたちはたいへんな喜びにわくのです。」

11 イエスはもっとよく説明しようと、また別のたとえ話もなさいました。

「ある人に息子が二人いました。 12 ある日、弟のほうが出し抜けに、『お父さん。 あなたが亡くなってからじゃなく、今すぐ財産の分け前がほしいんだけどな。 だめですか』と言いだしたのです。 それで父親は、二人にそれぞれ財産を分けてやりました。

13 もらう物をもらうと、何日もたたないうちに、弟は荷物をまとめ、そそくさと遠い国に旅立ちました。 そこで放蕩に明け暮れ、全財産を使い果たしてしまいました。 1

4 一文なしになった時、その国に大ききんが起こり、食べる物にも事欠く有様でした。 15
5 それで、その地方のある農夫に頼み込み、畑で豚を飼う仕事をもらいました。 16
6 あまりのひもじさに、豚のえさのいなご豆さえ食べたいほどでしたが、だれも食べる物をくれません。

17 こんな毎を送るうち、彼もやっと目が覚めました。『あーあ、家なら雇い人に
だって、あり余るほど食べ物があるだろうな……。なのにおれときたら、なんてみじめ
なんだ。こんなところで飢え死にしかけてる。 18
8 そうだ。家に帰ろう。帰って、お父さんに頼もう。「お父さん。すみませんでした。神様にも、お父さんにも、罪
を犯してしまつて……。 19
9 もう息子と呼ばれる資格はありません。どうか、雇い人として使ってください。』

20 決心がつくと、彼は父親のもとに帰って行きました。ところが、家までは、まだ
遠く離れていたというのに、父親は息子の姿を、いち早く見つけたのです。『あれが帰
つて来た。かわいそうに、あんな、みすばらしいなりで……。』こう思うと、じっと待つ
てなどいられません。走り寄つてぎゅつと抱きしめ、口づけしました。

21 『お父さん。ごめんなさいっ！ ぼくは神様にも、お父さんにも、取り返しのつ
かないことをしてかしました。もう息子と呼ばれる資格はありません……。』

22 ところが父親は、使用人たちにこう言いつけたのです。『さあさあ、何をぼやぼ
やしている。一番よい服を出して、これに着せてやれ！ 宝石のついた指輪も、くつも
だ。 23
3 あつ、それから、肥えた子牛を料理して、盛大な祝宴の用意も忘れんようにな。
24
4 死んだものとあきらめていた息子が生き返り、行方の知れなかった息子が帰つて来た
のだから。』こうして、祝宴が始まりました。

25 ところで、兄のほうはどうでしょう。その日も畑で働いていました。家に戻つ
てみると、何やら楽しげな踊りの音楽が聞こえます。 26
6 いったい何事かと、使用人の一人に尋ねると、 27
7 『弟さんが帰られたのでございますよ。だんな様は、たいへん
なお喜びで、肥えた子牛を料理し、ご無事を祝う宴会を開いておられるのです』と
言うではありませんか。

28 事情を聞くと、無性に腹が立ってきました。中に入るのさえしゃくにさわり
ます。父親が出て来て、いろいろとなだめてみました。 29
9 それでも気持ちはおさまりません。『私はこれまで、お父さんのために汗水流して働いてきたんですよ。言いつけにだ
って、ただの一度もそむいたことはありません。なのに、友達と宴会を開けと言つて、子やぎ
一匹くれたことがありますか。 30
0 ところが、女にうつつを抜かし、あなたのお金を使い果たした弟のやつには、最上の子牛を料理して、お祭り騒ぎをするんですか』と、食
つてかかりました。

31 すると父親は言いました。『いいか、よく聞きなさい。おまえはいつだ
って、私のそばにいたじゃないか。私のものは全部おまえのものだ。 32
2 だがな、考えてもみな。あれはおまえの弟なんだよ。死んだと思つてあきらめていたのに、無事に帰つ

て来たんじゃないか。 いなくなっていたのが見つかったんだから、お祝いするのはあたりまえじゃないか。』

一六

神とお金の両方に仕えることはできない

1 さてイエスは、弟子たちにも話をなさいました。

「ある金持ちが計理士を雇いました。ところが、この計理士はずる賢い男で数字をごまかしている、といううわさを聞きました。

2 さっそく金持ちは彼を呼びつけ、きつく言い渡しました。『帳簿をごまかしているそうだな。もっぱらのうわさだぞ。なんてことだ。こうなった以上、やめてもらおう。報告書を整理しておくんだな。』

3 計理士は、はたと考え込みました。『さて、どうしたものか。首になるのは時間の問題だ。日雇いをやるほどの力もないし、かといって、まさかこじきをするってわけにも……、だめだ、とてもプライドが許さない……。4 待てよ。そうだ、こうしよう。これなら、首になっても大丈夫。みんなが面倒を見てくれることまちがいなしだ。』

5 どうしたかと言うと、彼は雇い主からお金を借りている人を一人一人呼び出して、話し合ったのです。まず、最初の人とはこんなぐあいに。『主人にいくら借りがありますか。』6『オリーブ油三千五百リットルです。』『そうですか。えーと、これが証文ですね。さあ破って、破って。代わりに、その半分を借りたという証文を書くんですよ。』

7 次の人にも同じように。『あなたの借りはどのくらいですか。』『小麦三十トンです。』『いいでしょう。これが証文……。じゃあ、新しく二十五トンの証文を書いてください。これと取り替えてあげるから。』

8 この抜け目のなさには、さすがの金持ちも舌を巻き、うまいやり方だ、とほめないわけには、いきませんでした。確かに、この世の人々のほうが、神を信じる者たちよりずっと抜け目がないのです。9 不正の富を利用してでも、親しい友達をつくりなさい。そうしておけば、富がなくなった時、親切にしてやった人たちが、永遠の天の住まいに迎え入れてくれるでしょう。10 小さなことに忠実な人は、大きなことにも忠実です。小さなことに不忠実な人は、大きな責任を与えられても、忠実に果たすことはできません。

11 この世の富も任せられない人に、どうして、天にある、ほんとうの富を任せられるでしょう。12 他人の富に忠実でなかったら、あなたがたは自分の富さえ、任せてもらえないのです。

13 だれも、二人の主人に仕えることはできません。一方を憎んで他方に忠実であるか、あるいは、一方を重んじて他方は軽んじるようになるからです。神とお金の両方に仕えることはできないのです。」

14 何よりもお金に目のないパリサイ人たちは、当然のことながら、この話を聞いて、イエスをあざけりました。

15 そんな彼らに、イエスは、おっしゃいました。「あなたがたは、人前では、いか

にも上品でうやうやしい態度をとっています。しかし神は、あなたがたの悪い心をお見通しです。いくら人の目をごまかし、賞賛を受けても、神には憎まれるのです。16バプテスマのヨハネが現われて教えを説き始めるまでは、モーセの律法と預言者たちのことば（旧約聖書）が、あなたがたの指針でした。しかしヨハネ以後は、神の国のすばらしい知らせが宣べ伝えられ、大ぜいの人々がむりにでも入ろうと、押し合いへし合いしています。17だからといって、おきてのどんな細かい部分も、効力を失ったというわけではありません。たとい天地が滅びようと、神のおきてはびくともしないのです。

18 だから、妻を離縁してほかの女と結婚する者は、姦通罪を犯すことになり、離縁された女と結婚する者も同罪なのです。」

19 イエスは話を続けられました。

「金持ちがいました。きらびやかな服を着、ぜいたくざんまいの暮らしでした。20ある日のこと、その家の門前に、ひどい病気にかかったラザロというこじきが横になっていました。21金持ちの家の食べ残りでもいい、とにかく食べ物にありつきたいと思っていたのです。かわいそうに、犬までが、おできだらけのラザロの体をなめ回します。22やがて、このこじきは死にました。御使いたちに連れられて行ったのは、生前神を信じ、正しい生活を送った人たちのところでした。そこで、アブラハムといっしょにいることになったのです。そのうち、金持ちも死んで葬られましたが、23彼のたましいは地獄に落ちました。苦しみあえぎながら、ふと目を上げると、はるかかなたに、アブラハムといっしょにいるラザロの姿が見えます。

24 金持ちはあらんかぎりの声を張り上げました。『アブラハム様一っ！ どうぞお助けを。お、お願いでございまーす。ラザロをよこし、水に浸した指先で、ほんのちよっとでも舌を冷やさせてください。この炎の中では、もう苦しくて、苦しくてたまりません。』

25 しかし、アブラハムは答えました。『思い出してもみろ。おまえは生きている間、ほしい物はなんでも手に入れ、思うままの生活をした。だがラザロはどうだ。全くの無一物だった。それで今は反対に、ラザロは慰められ、おまえは苦しむのだ。26それに、そちらへ行こうにも、間に大きな溝があつて、とても行き来はできない。』

27 『ああ、アブラハム様。それならせめて、ラザロを私の父の家にやってください。

28まだ五人の兄弟がいるのです。彼らだけは、こんな目に会わせたくありません。どうぞ、この恐ろしい苦しみのあることを、教えてやってください。』

29 『それは聖書が何度も警告してきたことではないかね。その気があれば、いつでも読めるはずだよ。』

30 金持ちはあきらめません。『でも、アブラハム様。彼は、聖書を読みたがらないのでございます。ですが、もしだれかが死人の中から遣わされて行ったら、彼らも罪深い生活から立ち直れるでしょう。』

31 アブラハムはきっぱり言いきりました。『モーセと預言者たちのことばに耳を貸

さないのなら、だれかが生き返って話したところで同じことだ。 彼らは聞こうとしないだろう。』

一七

1 ある日のこと、イエスは弟子たちにお話しになりました。

「罪を犯させようとする誘惑は、いつもつきまとっています。 しかし誘惑する本人は、何ともいまわしいものです。 2 これら小さい者の心を傷つける者は、首に大きな石をくくりつけられて、海に投げ込まれるほうが、よっぽどましです。

3 いいですか。 友達が罪を犯したら、注意してあげなさい。 そして悔い改めたら、赦してあげなさい。 4 あなたに対して日に七度罪を犯しても、そのたびに『悪かった。赦してくれ』とあやまるなら、赦してあげなさい。」

からし種ほどの信仰

5 ある日、使徒たちが主に、「もっと信仰が強くなりたいんですが、どうしたらいいでしょう」と尋ねました。

6 イエスの答えはこうでした。

「ほら、あそこに桑の木があるでしょう。 小さな、からしの種ほどの信仰でもあれば、あの木を根こそぎ海の中へ投げ込むことぐらい、どうさもないことです。 そう命令しさえすれば、たちまちそのとおりになります。 7 - 9 ところで話は変わりますが、畑を耕すか、羊の番をするかして一日中働いた奴隷が、帰って来るなりどっかと腰をおろし、食事を始めるなどということがあるでしょうか。 まず主人の食事のしたくをし、給仕をすませ、それからようやく、自分の食事をするのが普通です。 しかも、そうしたからといって取り立てて感謝されるわけでもありません。 当然のことをしたと思われるだけです。 10 あなたがたがわたしに従って来るにしても同じことで、特別ほめられることはありません。 義務を果たしているにすぎないのですから。」

11 一行はエルサレムを目指して進み、途中サマリヤとガリラヤの境を通りました。 12 ある村に入ると、十人のらい病人がずっと向こうのほうから、 13 大声で、「イエス様一つ！ どうぞお助けを！」と叫びました。

14 イエスはそちらに目をやり、「さあ、祭司のところへ行き、らい病が治ったことを見せてきなさい」と言われました。 そのとおり出かけて行くと、途中で、らい病はきれいに治りました。

15 16 その中の一人が、イエスのところに引き返し、足もとにひれ伏して、「ありがとうございます。 おっしゃるとおり、すっかりよくなりました。 神様に栄光がありますように」と言いました。 実はこの人は、ユダヤ人から軽べつされていたサマリヤ人でした。

17 「はて、十人全部を治したはずだが……、ほかの九人はどうしたのか。 18 神を賛美するために帰って来たのが、この外国人だけとは……。」

19 こうおっしゃってから、イエスはその男に、「さあ、立ってお帰りなさい。 あなたの信仰があなたを治したのです」と言われました。

準備をして待て

20 ある日、パリサイ人たちがイエスに尋ねました。「神の国はいったい、いつ来るのですか。」

「神の国は、目に見える形では来ません。 21『ここに来た』とか、『あそこに来た』とか言えないのです。はっきり言いましょう。神の国は、あなたがたの中にあるのです。」

22 そのあとで、イエスは神の国についてもう一度、弟子たちにお話しになりました。

「まもなく、一日でいいからいっしょにいたいと願っても、わたしはもうここにはいない、という日が来ます。 23その時にはまた、『イエス様は帰って来られた。ここにおられるぞ』とか、『いや、あそこだ』というふうに、情報が乱れ飛ぶでしょう。そんなうわさを信じたり、彼らのしり馬に乗ってあとを追いかけてたりしてはいけません。 24わたしが帰って来る時には、はっきりわかるからです。ちょうど、いなづまが空の端から端までひらめき渡るように、一目瞭然なのです。 25しかしその前に、わたしはひどい苦しみを受け、この国の人々全部から、つまはじきにされなければなりません。

26 わたしが帰って来る時、人々は、かつてのノアの時代のように、神のことなどには、まるで無関心でしょう。 27ノアが箱舟に入り、洪水が押し寄せ、何もかも滅ぼし尽くすまで、人々は飲んだり、食べたり、結婚したり、いつもと変わらない生活をしていました。

28 また、ロトの時代の人々とも、比べることができるでしょう。 当時も、人々はいつもと同じように、食べたり飲んだり、売ったり買ったり、植えたり建てたりの生活をしていましたが、 29ロトがソドムの町を抜け出した日に、火と硫黄が天から雨あられと降り注ぎ、一人残らず滅ぼされてしまったのです。 30わたしが再び来る時も同じです。その瞬間まで、『すべてがいつものとおり』なのです。

31 その日、外出中の者は、荷物を取りに家へ戻ってはいけません。野良仕事をしている者も、家に帰ってはいけません。 32ロトの妻がどんな目に会ったか、思い出さない。 33だれでも、いのちにしがみつく者は失い、いのちを投げ出す者が、かえって自分のものにできるのです。 34よく言うておきましょう。その夜二人の男が一つの部屋に寝ていると、一人は天に上げられ、一人は残されます。 35 36家事をしている二人の婦人のうち、一人は天に上げられ、一人は残されます。 また、畑でいっしょに野良仕事をしている二人の男も、同様です。」

37 「主よ。どこでそんなことが起こるのですか。」

「死体のあるところに、はげたかも集まるのです。」

一八

祈り続けなさい

1 ある日、イエスは弟子たちに、いつでも祈り、また答えられるまで祈り続けることを教えようと、一つのたとえ話をなさいました。

2 「ある町に、少しも神を恐れず、人を人とも思わない裁判官がいました。 3同じ町

に住む一人の未亡人が、たびたび、この裁判官のところへ押しかけ、『訴えられて困っています。どうかお力添えを』と願い出ました。 4 5 裁判官はしばらくの間は、相手にもしていませんでしたが、あまりのしつこさに、とうとう我慢できなくなりました。彼は心の中でこう考えました。『わしは神様だろうが人間様だろうが、ちっともこわくなんかない。だが、あの女ときたひにや、うるさくてかなわん。しかたがない。裁判をしてやることにしよう。そうすりゃあ、もう、わずらわしい思いをしなくてすむだろう。』

6 主は続けて言われました。

「このように、悪徳裁判官でさえ音を上げてしまうのなら、 7 まして神は、昼も夜もひたすら訴え続ける信者たちを、必ず正しく取り扱ってくださるはずでしょう。そうは思いませんか。 8 神はすぐに答えてくださるのです。ただ問題は、メシヤ（救い主）のわたしが帰って来る時、いったいどれだけの人が信仰を持って祈り続けているかです。」

9 それから、自分の美德を鼻にかけ、他人を軽べつする人たちに、こんな話をなさいました。

10 「二人の男が祈るために神殿へ行きました。一人は自尊心が強く、あくまでも自分を正しいと主張するパリサイ人、もう一人は、人のお金をだまし取る取税人でした。 11 高慢なパリサイ人は、胸を張って祈りました。『神様。ありがとうございます。私はほかの連中、特に、ここにいる取税人のような罪人ではありません。人をだましたこともなければ、姦淫したこともありません。 12 一週間に二回は必ず断食し、全収入の十分の一もきちんと献金しています。』

13 一方、取税人は遠く離れて立ち、目を伏せ、悲しみのあまり胸をたたきながら、『神様。罪人の私めを、あわれんでください』と叫びました。 14 よく言っておきますが、罪を赦されて帰ったのは、パリサイ人ではなく、この罪人のほうです。高慢な者は卑しい者とされ、謙そんな者には大きな名誉が与えられるからです。」

15 ある日のことです。イエスにさわって祝福していただこうと、人々が子供たちを連れて来ました。ところが弟子たちは、じゃまだとばかり、追い返そうとしました。

16 するとイエスは、子供たちを呼び寄せ、弟子たちに言われました。「いいから、子供たちを自由に来させなさい。追い払うなんてとんでもありません。 17 神の国は、この子供たちのように、素直に信じる心を持っている人たちのものなのです。」

天国に入るには？

18 ある時、一人のユダヤ教の指導者がイエスに尋ねました。「先生。あなた様は尊いお方です。そこでお聞きしたいのですが、天国に入るには、どうすればよろしいのでしょうか。」

19 「わたしのことを『尊い』と言いましたね。それがどういうことか、わかっているのですか。『尊い』方は、ほかのだれでもない、ただ神お一人だけです。

20 それはそれとして、質問に答えましょう。戒めは知っていますね。姦淫してはいけない、殺してはいけない、盗んではいけない、うそをついてはいけない、父や母を敬

え、とあります。」

21 「子供のころから、戒めはきちんと守ってきました。」

22 「そうですか、でも一つだけ欠けたところがあります。 さあ、財産を全部売り払って、その代金を貧しい人たちに分けてあげなさい。天に宝をたくわえるのです。それから、わたしについて来なさい。」

23 このイエスのことばに、その人はがっくり肩を落として立ち去りました。 たいへんな金持ちだったからです。

24 そのうしろ姿を食い入るように見つめていたイエスは、弟子たちに言われました。「金持ちが神の国に入るのは、なんとむずかしいことでしょう。 25 それよりは、らくだが針の穴を通るほうが、よっぽどやさしいのです。」

26 これには弟子たちも驚き、思わず叫びました。「そんなにむずかしいのですかっ！ だとしたら、救われる人などいるのでしょうか。」

27 「人間にはできません。 だが、神にはできるのです。」

28 すかさずペテロが口をはさみました。「私たちは家も捨てて、お従いしました。」

29 「そうですね。 あなたがたのように、神の国のために、家、妻、兄弟、両親、子供を捨てた者はだれでも、 30 この世ではその何倍もの報いを受け、やがて来る世では、永遠のいのちまでいただけるのです。」

31 ここで、十二人の弟子たちをそばに呼び寄せ、特に言って聞かせられました。「あなたがたも知っているとおおり、わたしたちはエルサレムへ行くところです。 そこで、昔の預言者たちのことばどおりのことが、わたしの身に起こります。 32 わたしは外国人の手に渡され、あざけられ、侮辱され、つばきをかけられ、 33 むちで打たれ、ついには殺されますが、三日目に復活するのです。」

34 ところが弟子たちには、イエスの言われることが、さっぱりわかりません。「先生はきっと、なぞをかけておられるのだろう」としか考えられませんでした。

35 ほどなくエリコという所で、盲人が一人、道ばたに座り込み、通りがかりの人に物ごいをしていました。 36 大ぜいの人があわただしく通り過ぎ、あたりの様子も、何だかざわついてきました。 いったいどうしたのでしょうか。 不思議に思った盲人は、そばにいた人をつかまえて尋ねました。 37 すると、ナザレのイエスのお通りだと言うではありませんか。 38 盲人は、この時とばかり大声で叫びだしました。「イエス様一っ！ ダビデ王の子よ！ どうぞお助けを！」

39 イエスの前を進んで来た人たちが、黙らせようとしたましたが、そうすればするほど、ますます大声でわめき立てます。「ダビデ王の子よ！ お助けを！」

40 その時、イエスはそばまで来て、つと足を止め、「あの人を連れて来なさい」と言われました。 41 それから、彼にお尋ねになりました。「どうしてほしいのですか。」
「見えるようになりたいんです！」

42 「わかりました。 さあ、見えるようになりなさい。 あなたの信仰があなたを治

したのです。」

4 3 その瞬間、彼の目は見えるようになりました。そして、心から神をほめたたえながら、イエスについて行きました。この出来事を見ていた人たちもみな、神を賛美しました。

一九

ザアカイの救い

1 2 イエスはエリコの町を通り過ぎるところでした。この町には、ローマの税金取り立ての仕事をしているザアカイという男がいました。取税人の中でもとりわけ権力をふるっていた、たいへんな金持ちでした。3 さて、このザアカイも、ひと目イエスを見ようと思いましたが、なにぶん背が低いので、いくら背伸びをしても、人垣のうしろからは何も見えません。4 そこで、ずっと先のほうに走って行き、道ばたにあったいちじく桑の木によじ登り、見下ろしていました。

5 やがて、そこへ差しかかったイエスは、ザアカイを見上げると、彼の名を呼んで、「ザアカイさん。早く降りてきなさい。今晚はあなたの家に泊めてもらうつもりでいますから」と言われました。

6 ザアカイは急いで降りると、大喜びでイエスを家に迎えました。

7 しかし、これを見ていた人々の心中は、おだやかではありません。「なにも、あの札つき悪党の家の客にならなくても……」と、ぶつぶつ文句を言いました。

8 一方、ザアカイは主の前で、こう告白したのです。「先生。今からは、財産の半分を貧しい人たちに分けてあげます。税金を取り過ぎた人たちには、四倍にして払い戻します。」

9 1 0 イエスは言われました。「その告白こそ、今日この家に救いが来たことの動かぬ証拠です。この人も迷い出たアブラハムの子供の一人なのだから。メシヤ（救い主）のわたしは、実にこの人のような者を捜し出して救うために来たのです。」

1 1 イエスがはいよいよエルサレムに近づくのを見て、今すぐにでも神の国が実現するのではないかと早合点した人々がいました。そのまちがい正そうと、イエスはたとえ話を一つなさいました。

1 2 「ある所に身分の高い人が住んでいました。やがてその地方の王に任命されるため、遠くの首都に出かけることになりました。1 3 そこで、出発前に十人の家来を呼び寄せ、留守中に事業を始めるようにと、めいめいに六十万円ずつ渡しました。1 4 ところがその住民の中には、その人が王になるのを快く思わない人々があり、反対の声明文を首都に送りつけたのです。

1 5 さて、その人は王位を受けて帰ると、さっそく、資金を預けた家来たちを呼び集め、経過報告をさせました。

1 6 最初の家来は、元金の十倍というすばらしい利益をあげたと報告しました。

1 7 王は非常に喜び、『でかしたぞ！ 感心なやつだ。少しばかりのものにも忠実に励

んでくれた。よし、ほうびに、十の町を治めさせよう』と言いました。

18 次の家来が進み出て、元金の五倍の利益をあげたと報告しました。

19 『よくやった！ おまえには五つの町を治めてもらおう。』王は上きげんで言いました。

20 ところが、三番目の家来は、預かった資金をそっくりそのまま差し出すではありませんか。『私はお金を大切に保管しておきました。21 せっかくもうけても、横取りされてしまうのではつまりません。あなた様はほんとうにひどい方で、ご自分のものではないものまで取り立て、他人の作った穀物さえ、取り上げるのですから。』

22 王は激しく怒ってどなりつけました。『なんて悪いやつだっ！ わしが、そんなにひどい人間だと言うのか。よし、それなら思い知らせてやろう。それほどよくわかっていたのなら、23 なぜ、銀行に預けておかなかったのか。そうすりゃあ、利息ぐらいついたのに。』

24 王は側近の者たちに、『さあ、こいつからお金を取り上げ、一番多くもうけた者にやっしまえ』と命じました。

25 『ですが王様。あの者はもうすでに、たくさん持っていますが。』

26 それでも、王は言いました。『そのとおり。だがな、いつでもそうだが、持っている者はさらに多く与えられ、持っていない者はそのわずかな物さえ失ってしまうのだ。27 それから、謀反を起こしたやつらのことだが、すぐにここへ引っ立てろ。わしの目の前で死刑にしてやるがいい。』

エルサレムを目前にして

28 お話を終えると、イエスは先頭に立ち、エルサレムに向かわれました。29 一行がオリーブ山のふもとのベテパゲとベタニヤの村に近づいた時、イエスは、先に弟子を二人、使いに出し、こう指示なさいました。30 「さあ、あの村へ行って、道ばたにつないである、ろばの子を捜しなさい。まだだれも乗ったことのないろばの子です。見つけたら、綱をほどいて、連れて来るのです。31 もしだれかにとがめられたら、『主がお入用なのです』とだけ答えなさい。」

32 二人は、言われたとおり、ろばの子を見つけました。33 さっそく綱をほどきにかかると、持ち主が来て、「何をしてるんだ。おれたちのろばの子をどうしようってんだ」と聞きただしました。

34 弟子たちは、「主がお入用なのです」と答え、35 ろばの子を連れて来ました。そして、その背中に自分たちの上着を敷き、イエスをお乗せしました。

36 37 イエスがろばの子に乗って進んで行かれると、大ぜいの人々が次々と上着を脱ぎ、道に敷き並べました。この一団がオリーブ山のふもとに差しかった時、群衆の中から大きな声が上がりました。イエスが行なわれたすばらしい奇蹟のことで、神を賛美し始めたのです。

38 「神様がお立てくださったわれらの王に

祝福があるように。

天よ、喜べ。

いと高き天で、神様に栄光があるように！」

39 群衆の中にいたパリサイ人たちは、これが気に入りません。「先生。 あんなことを言ってます。 しかってください。」

40 ところが、イエスはお答えになりました。「それもいいでしょう。 だが、この人たちが黙っても、道ばたの石が叫びだします。」

41 さらにエルサレムに近づいた時、イエスは都をごらんになり、はらはらと涙をこぼされました。 42 「永遠の平和が、すぐ手の届くところにあつたのに、あなたはそれをはねつけてしまいました。 もう遅すぎます。 43 敵が、城壁に土塁を築き、あなたを包囲し、攻め寄せ、 44 子供たちもろとも、地面にたたきつけるでしょう。 一つの石もほかの石の上に残らないほど、完全に破壊されるのです。 せっかく神が機会を与えてくださったのに、それをはねつけた罰です。」

神殿での出来事

45 このあと、イエスは宮に入り、境内で商売していた者たちを追い出しにかかられました。 そして、強い調子で言われました。 46 「聖書（旧約）に『わたしの神殿は祈りの場所と呼ばれる』と、はっきり書いてあるではありませんか。 それなのに、あなたがたは強盗の巣にしてしまったのです！」

47 その日からイエスは、毎日、神殿で教え始められました。 一方、祭司長や他の宗教的指導者、それに町の実力者たちは、イエスを殺すうまい方法はないかと虎視眈々機会をねらっていましたが、 48 全く手出しができませんでした。 民衆がイエスをすっかり英雄視し、語られるひと言ひと言に、熱心に聞き入っていたからです。

■

二〇

1 ある日、イエスが宮の中で人々を教え、神のすばらしい知らせを宣べ伝えておられるところへ、祭司長や、他の宗教的指導者たちが、イエスと対決しようと、やって来ました。

2 彼らは、何の権威で商人たちを宮から追い出したのか、と詰め寄りました。

3 イエスはお答えになりました。「答える前に、まず、わたしから質問しましょう。

4 バプテスマのヨハネは神に遣わされて来たのですか。 それとも、ただ自分の考えを主張しただけですか。」

5 彼らは集まって、ひそひそ相談しました。「ヨハネの語ったことが神様からの教えだと答えてみろ、逆にわなにかけられてしまうぞ。 6 かといってなあ……、神様からじゃないと答えるわけにもいくまい。そんなことをしたら、今度は、群衆が襲いかかって来るだろう。 やつらはみな、ヨハネを預言者だと信じ込んでいるんだから。」 7 とうとう、「わかりません」と答えました。

8 イエスは、「そうですか。 では、わたしも答えません」とおっしゃいました。

9 それから、また人々のほうを向き、次のようなたとえ話をなさいました。

「ある人がぶどう園を造り、それを数人の農夫に貸して外国へ行き、長いこと、そこに住んでいました。 10 やがて、収穫の季節になりました。 主人は代理の者をやり、分け前を受け取ろうとしました。ところが、農夫たちはどうしたでしょう。 代理人を袋だたきにし、手ぶらで追い返したのです。 11 また別の代理人を送りましたが、彼もまた袋だたきにされ、さんざん侮辱されたあげく、手ぶらで追い返されました。 12 三人目の代理人も同じこと、傷を負わされ、ほうほうのていで逃げ帰りました。

13 考えあぐねた主人は、一人つぶやきました。『いったい、どうしたものか……。 そうだ！ 息子をやろう。 かわいいやつだ。 息子なら、きっと農夫たちも一目おくに違いない。』

14 ところが、当の農夫たちは、主人の息子が来るのを見て、『おい、絶好のチャンスだぞ。 ありゃあ、跡取り息子だ。 さあ、あいつを殺っちまおうぜ。 そうすりゃあ、ぶどう園はおれたちのものよ』とささやき合いました。

15 そのことばどおり、農夫たちは息子をぶどう園の外に引きずり出し、殺してしまいました。

さて、主人はどうするでしょう。 16 今度は自分で乗り込み、農夫たちを皆殺しにし、ぶどう園はほかの人たちに貸すに決まっています。」

この話を聞いていた人たちはみな、「そんな恐ろしいことがあるなんて、とても考えられません」と答えました。

17 しかしイエスは、人々の顔をぐると見回しながら、おっしゃいました。「では、聖書（旧約）に、

『建築士たちの捨てた石が、
最も重要な土台石となった』

と書いてあるのは、どういう意味ですか。」 18 さらにことばをお続けになり、「この石につまずく者はみな、打ち砕かれます。 反対に、この石が落ちてくれば、だれもかれも、こっぴみじんです」と言われました。

19 祭司长や宗教的指導者たちは、この話を聞いて、その悪い農夫とは、実は自分たちのことなのだと気づき、すぐにもイエスを捕らえたいと思いました。 しかし群衆の暴動がこわくて、どうにも手出しができません。 20 そこでローマ総督に報告できる逮捕の口実をつかもうと、何とかして不利になることを言わせようと、やつきになりました。 こうして機会をねらっていた彼らは、正直者のふりをしたスパイどもをイエスのもとにやり、 21 こう質問させました。「先生。 私どもは、あなた様がどんなに正直な教師か、よく承知しております。 あなた様はいつも真理を語り、他人の思わくなど気にせず、ひたすら、神の道を教えておられます。 22 それで、ぜひ、お教えいただきたいのですが…、ローマ政府に税金を納めるのは正しいことでしょうか。 それとも……。」

23 彼らの計略は見えすいています。 イエスは言われました。 24 「銀貨を見せな

さい。ここに刻まれているのは、だれの肖像、だれの名前ですか。」

「カイザル（ローマ皇帝）のもので。」

25 「それなら、皇帝のものは、皇帝に返せばいいでしょう。しかし、神のものはみな、神に返さなければなりません。」

26 公衆の面前でイエスのことばじりをとらえようとするたくらみは、みごと失敗に終わりました。彼らは、イエスの答えに恐れ入り、返すことばもありません。

27 次にやって来たのは、死んでしまえばそれまでで、復活などありえないと主張していた、サドカイ人たち（神殿を牛耳っていた祭司階級。ユダヤ教の主流派）でした。

28 「モーセの法律には、もしある人が子供のいないまま死んだら、弟は残された未亡人と結婚しなければならず、二人の間にできた子供は、法律的には死んだ者の子として、その家を継ぐ、と書いてあります。29ところで、七人兄弟がいたとします。長男は結婚しましたが、子供がないまま死んだので、30次男がその未亡人と結婚しました。ところが、彼も子供ができずに死にました。31こうして、兄弟が次々にこの未亡人と結婚したのですが、七人とも子供がないまま死にました。32最後に、未亡人も死にました。33そこでお尋ねしたいのですが……、この女は復活の時、いったいだれの妻になるのでしょうか。兄弟みなが彼女と結婚したのですが。」

3435「結婚とは、この地上に住む人たちのものです。死人の中から復活して、天国へ行く資格ありと認められた人たちは、結婚などしません。36二度と死ぬこともありません。この点では、御使いと変わりなく、また、死人の中から新しいいのちへと復活したので、神の子供なのです。」

3738しかし、あなたがたがほんとうに聞きたいのは、復活があるかないか、ということでしょう。モーセ自身は何と書き残していますか。燃えさかる柴の中に現われた神とお会いした時、モーセは神を、『アブラハムの神様、イサクの神様、ヤコブの神様』と呼びました。主が彼らの神と呼ばれている以上、彼らは生きているはずですよ。死んだのではありません。神の目から見れば、すべての人が生きているのです。」

39 その場に居合わせたユダヤの法律の専門家たちは、「先生。全く非の打ちどころのないお答えです」と言い、40あえてそれ以上、尋ねようとはしませんでした。

41すると今度は、反対にイエスが質問なさいました。「あなたがたはどうして、キリストをダビデの子だと言うのですか。4243ダビデ自身が、聖書（旧約）の詩篇の中でこう歌っています。

『神が私の主に言われた。

「わたしがあなたの敵を

あなたの足の下に置くまで、

わたしの右に座っていなさい。』

44キリストは、ダビデの子であると同時に神であるなどということがありうるのでしょうか。」

45 人々がイエスのことばに耳を傾けていると、イエスは弟子たちに言われました。

46 「ユダヤ教の学者たちを警戒しなさい。 彼らはぜいたくな着物をきて歩き回り、
通りで人々から、ていねいなあいさつを受けるのが何より好きです。 また会堂や宴会で、
特別席に着くのも大好きです。 47 うわべは、さも信心深そうに、長々と祈りますが、
その実、未亡人をだまして財産を奪い取ろう、とたくらんでいるのです。 こういう人々
には、神から、最もきびしい罰が下るのです。」

二一

1 さて、宮の中でのことです。 イエスは、金持ちたちが次々と献金箱にお金を投げ込
む様子を見ておられました。 2 そこへ貧しい身なりの未亡人がやって来て、十円玉を二
個そっと投げ入れました。

3 それを見たイエスは「実のところ、この女は、だれよりも多くささげたのです。 4
ほかの人たちはあり余る中からほんのわずかなだけささげたのに、この女は乏しい中から持
っている全部をささげたからです」と言われました。

世の終わり

5 弟子たちの何人かが、神殿のすばらしい石細工や壁の飾りなどに目を奪われ、感心し
ながら話し合っていました。

6 するとイエスは、彼らに言われました。 「今は賞賛の的になっているこれらのもの
が、一つの石もほかの石の上に残らないほど、完全に破壊され、全くの瓦礫の山と化する
日がもうすぐ来ます。」

7 「いつのことですか！ その前に、何か前兆があるのでしょうか。」驚いた弟子たちが、
思わず叫びました。

8 イエスはお答えになりました。 「だれにもだまされないようにしなさい。 『私が
キリストだ。 今こそ時が来た』と言いふらす者が大ぜい現われるからです。 そういう
人々を、絶対に信じてはいけません。 9 また、戦争や暴動が始まったという情報が乱れ
飛んでも、あわてふためかないようにしなさい。 戦争は必ず起こりますが、すぐに終わ
りが来るわけではありません。 10 民族は民族に、国は国に敵対して立ち上がり、 1
1 すさまじい地震が起こり、多くの国がききんに見舞われ、伝染病が流行し、恐ろしい異
変が天に現われます。

12 だが、このことが起こる前に、まず大迫害の時代が来るのです。あなたがたは、わ
たしを信じているばかりに、会堂や牢獄、また王や総督の前に、引立てられます。 1
3 その結果、かえってメシヤ（救い主）のことが広く知られ、あがめられるようになるの
です。 14 だから、人々の訴えにどう釈明しようかと心配してはいけません。 15 答
えることは、わたしが教えてあげます。 どんな反対者も反論できない、すばらしい答え
です。 16 一番身近な人、たとえば両親、兄弟、親類、また友人などがあなたがたを裏
切り、逮捕に役買うようになるでしょう。 中には殺される者も出ます。 17 わたし
の弟子だということで、あらゆる人があなたがたを憎むようになるでしょう。 18 だが、

あなたがたの髪の毛一本さえ、なくなることはありません。 19 忍耐強く忍び通せば、いのちを自分のものにできるのです。

20 エルサレムが軍隊に包囲されるのを見たら、滅びの時が来たと思いなさい。 21 ユダヤにいる人たちは山へ逃げなさい。 エルサレムにいる人たちは市外へ逃げなさい。地方の人たちは都に逃げ込んではいけません。 22 神のさばきの日だからです。 預言者が書いた聖書（旧約）のことばどおりのことが起こるのです。 23 その日、妊娠している女と乳飲み子をかかえた母親は、ほんとうに気の毒です。 この国に大きな苦難がふりかかり、神の怒りが下るからです。 24 人々は敵の手にかかってむごい殺され方をするでしょう。 また捕虜となって多くの国々に連れ去られたり、追放されたりする人もいます。 エルサレムは占領され、神の恵みの時が来て、外国人の勝利の期間が終わるまで、外国人に踏みにじられるのです。

25 それから、天に不思議な現象が起こります。 太陽と月と星には不吉な前兆が現われ、地上では荒れ狂う海と高潮のために、諸国民はおじ惑い、大騒ぎとなります。 26 人々は、何か、とてつもなく恐ろしいことが起こるのではないかという不安にかられ、意気阻喪します。不動と信じられていた天そのものが揺れ動くのですから、むりもありません。 27 その時、地上にいる人々は、メシヤのわたしが、雲に乗り、力と輝かしい栄光を帯びてやって来るのを見るでしょう。 28 いま言ったようなことが起こり始めたら、しっかりと立ち、天を見上げなさい。 救いの時が近づいているのです。」

29 このあとイエスは、人々にたとえ話をなさいました。

「いちじくの木やほかの木に注意しなさい。 30 葉が出てくれば、ああ、もうすぐ夏だなど思うでしょう。 31 同じように、こうした現象が起こるのを見たら、神の国はもうそこまで来ていると考えなさい。

32 はっきり言いましょう。 このことが全部起こってから、世の終わりが来るのです。

33 天と地とは消えてなくなります。 けれどもわたしのことばは、永遠に真実なものとして残るのです。

34 35 気をつけなさい。 わたしは不意に来ます。 その時になって、あわてふためかないようにしなさい。 どんちゃん騒ぎをしたり、酒におぼれたり、ほかの人々のようにこの世の心配事のために駆けずり回ったりしている姿を、見られないようにしなさい。 36 少しでも油断してはいけません。 できることなら、こんな恐ろしい目を見ずに、わたしの前へ出られるように、熱心に祈りなさい。」

37 38 イエスは毎日、宮で教えておられました。 人々は朝早くから、話を聞こうと詰めかけます。 こうして夜になると、オリーブ山に戻られるのが常でした。

二二

イエスを殺す陰謀

1 イースト菌を入れないパンを食べる、ユダヤ人の過越の祭りが近づきました。 2 祭司長や他の宗教的指導者たちは、何とかイエスを殺そうと、あれこれ陰謀を巡らしていま

した。 群衆の暴動を引き起こさずにイエスを葬り去るうまい方法がないものかと、やっきになっていたのです。

3 さて、十二人の弟子の一人イスカリオテのユダの心に、サタンが忍び込みました。 4 ユダはわざわざ祭司長や神殿の警備隊長たちのところへ出かけ、イエスを売り渡す一番よい方法を相談しました。 5 この協力に彼らは大喜びでした。 ほうびをやる約束までしたほどです。 6 それでユダは、群衆が回りにいない時にひそかにイエスを逮捕しようと、チャンスをうかがい始めました。

7 さて、過越の小羊を殺し、イースト菌を入れないパンといっしょに食べる、過越の日になりました。 8 イエスはペテロとヨハネを先にやり、過越の食事をする場所を捜さしました。

9 「どこへ行けば、よろしいでしょう。」

10 「エルサレムに入るとすぐ、水がめを運んでいる男に出会うから、あとについて行きなさい。 11 彼が入った家の主人に、『私どもの先生が、弟子たちといっしょに過越の食事のできる客間を見せていただきたい、と申しておりますが』と言いなさい。 12 主人は、用意万端ととのった、二階の広間を見せてくれるでしょう。 そこで食事の用意をしなさい。 さあ、急いで。」

13 二人が町に行ってみると、何もかも言われたとおりです。 こうして、食事の準備はできあがりしました。

最後の晩餐

14 やがて時間になり、一同は、その広間で、そろって食卓に着きました。 15 まず口を切ったのは、イエスです。 「苦しみの始まる前に、ぜひ、いっしょに過越の食事をしたいと思っていました。 16 今だから言いますが、神の国で過越が実現するまで、わたしは二度と過越の食事をしません。」

17 それから、ぶどう酒の杯を取り、感謝の祈りをささげてから、こう言われました。「これを分け合いなさい。 18 わたしは神の国が来るまで、二度とぶどう酒は飲みません。」

19 次にパンを取り、神に感謝してから、それをちぎり、弟子たち一人一人に分け与えながら言われました。「これはあなたがたに与える私の体です。 わたしの記念に、食べなさい。」

20 食事のあと、杯を弟子たちに渡して言われました。「このぶどう酒は、神があなたがたを救ってくださるという新しい契約を保証するものです。 つまり、あなたがたのたましいを買い戻すために、わたしが流す血の代わりなのです。 21 それなのに、この食事にいっしょに座っている一人が、わたしを裏切るのです。 22 わたしは死ななければなりません。 それが神のご計画なのです。 だが、裏切り者には、どんな恐ろしいのろいが待ち受けていることでしょうか……。」

23 弟子たちは、そんなことをするのは、いったいだれだろう、といぶかりました。

24 それが一段落すると、やがて実現する御国で、だれが一番偉いかということで、あ
あでもない、こうでもない議論を始めました。

25 イエスは、この有様をご覧になって言われました。「この世では、王や高官たち
が、支配者として権力をほしいままにしています。 26 だが、あなたがたの間では違
います。一番よく人に仕える人こそ、指導者になるのです。 27 この世では、主人が食
卓に着き、召使に給仕をさせます。 だが、あなたがたの間では、それではいけません。
このわたしが給仕してあげるのですから。 28 だがあなたがたは、わたしにふりかかっ
た、さまざまの試練の時に、よくいっしょに耐え抜いてくれました。 29 だから、父が、
わたしに御国をお任せくださったように、わたしも、あなたがたにすばらしい特権をあげ
ましょう。 30 御国で、わたしの食卓に着き、共に食事をする特権、また王座に座って、
イスラエルの十二の部族をさばく特権です。

31 シモン、シモン。 いいですか。 サタンがあなたがたを麦のように、ふるいにか
けることを願い出ました。 32 だが、安心なさい。 あなたの信仰が全くだめになら
ないように、祈ってあげました。 だから、悔い改めて立ち直った時には、仲間の者たち
もしっかり立てるように、力づけてやりなさい。」

33 するとシモンは、とんでもないといった顔で、きっぱりと言いきりました。「主
よ、何をおっしゃるのです！ 私は牢獄までもついてまいります。 ごいっしょに死ぬ覚
悟もできております。」

34 「ペテロよ。 残念ですが、はっきり言います。 明日の朝、鶏が鳴くまでに、あ
なたは三度、わたしを知らないと言いはるでしょう。」

35 それから、弟子たちにお尋ねになりました。「前に、神のすばらしい知らせを伝
えようと、あなたがたを派遣した時、わずかの金も、旅行袋も、着替えも持たせませんで
した。 その時、旅先で何か不自由しましたか。」

「いいえ、ちつとも。」

36 「だが今は、手持ちの物があれば、旅行袋も財布も持っていきなさい。 剣がなか
ったら、着物を売り払ってでも手に入れなさい。 37 『彼は罪人の一人に数えられた』
という預言どおりのことが、わたしに起こるからです。 そうです。 預言者がわたしに
ついて預言したことは、何もかも、そのとおりになるのです。」

38 「先生。 剣なら二振りありますが。」

「そうですか、それで十分です。」

逮捕されたイエス

39 それから、イエスは弟子たちと連れ立って部屋を出、いつものようにオリーブ山に
行かれました。 40 「誘惑に負けないように、神に祈りなさい。」

41 42 こう言い残すと、イエスは、石を投げれば届くあたりまで歩いて行き、ひざまず
いて祈り始められました。「父よ。許していただけるなら、どうぞこの恐ろしい杯を取
り除いてください。 ですが……、わたしの思いどおりにではなく、あなたのお心のまま

になさってください。」 43 この時、天から御使いが現われ、イエスを力づけました。 44 イエスは苦しみもだえながら、いよいよ力を込めて祈られます。 大粒の汗が、まるで血のしずくのように、したたり落ちました。 45 ようやく立ち上がり、弟子たちのところに帰って来ると、どうでしょう。 弟子たちは、悲しみのあまり、疲れ果てて眠り込んでいます。

46 「どうして眠っているのですか。 さあ、起きなさい。 誘惑に負けないように、祈りなさい。」

47 こう言い終わらないうちに、十二弟子の一人ユダに先導されて、大ぜいの暴徒が押し寄せました。 ユダはイエスに駆け寄り、さも親しげに頬にくちづけのあいさつをしました。

48 しかしイエスは、あわれむように、「ユダよ。 あなたは、くちづけでメシヤ（救い主）を裏切るのですか」と言われました。

49 この事態の急変に取り乱した弟子たちは、「戦いましょう、先生。やつらをたたき切ってやりましょう！」と騒ぎだしました。 50 そして一人が、大祭司の家来に襲いかかり、右の耳を切り落としました。

51 「やめなさい。 それ以上手向かってはいけません。」イエスはこう命じてから、その家来の傷口にさわって、治されました。 52 次に、暴徒どもの先頭にいた祭司長、神殿の警備隊長、ユダヤ人の指導者たちに向かって言われました。「剣やこん棒とは。 こんなものものしい武装をしなければならないほど、わたしは凶悪犯なのですか。 53 なぜ神殿で捕らえなかったのですか。 毎日あそこにいたのに。 しかし、今はあなたがたの時、サタンが勝ち誇る時なのです。」

ペテロの大失敗

54 人々はイエスを捕らえ、大祭司の家に引っ立てました。 遠くから、ペテロが、恐る恐るあとをつけて行きました。 55 家の中庭では、兵士たちがたき火を囲んで暖まっています。 ペテロもその中にまぎれて座り込んでいました。

56 そのうち、一人の女中が火のあかりでペテロに気づき、「この人、イエスといっしょだったわ！」と叫びました。

57 「と、とんでもない！ そんなやつは知らんよ！」ペテロはあわてて打ち消しました。

58 しばらくすると、ほかの男が「いいや、おまえはやつらの仲間には違いない」と言い寄りました。「違う、違う。 絶対そんなことはない！」ペテロはまた否定しました。

59 一時間ほどたったのでしょうか。 また別の男が、「おまえは確かにイエスの弟子だ。 その証拠に、二人ともガリラヤ人じゃないか」ときめつけました。

60 ペテロは夢中で否定しました。「何のことだい！ さっぱりわからないぜ。」こう言うか言わないかのうちに、鶏の鳴き声が聞こえました。

61 その瞬間、イエスはふり向き、ペテロを見つめられました。 ペテロは、はっと我

に返りました。「あすの朝、鶏が鳴くまでに三度、わたしを知らないと言うだろう」というイエスのことばを思い出したのです。 62 ペテロは外へ走り出て、激しく泣きくずれました。

6364 さて、見張りの警備員たちは、イエスをからかい始めました。目隠しをしては、こぶしでなぐり、「おい、今なぐったのはだれだ。さあ当ててみろよ、預言者様やーい」とはやし立てるなど、 65 ありとあらゆる侮辱を加えました。

66 翌朝、夜がしらじらと明けそめるころ、ユダヤの最高議会が開かれました。祭司長をはじめ、国中の指導者たちがみな勢ぞろいしています。そこへ、イエスは引き出されました。 6768 尋問が始まりました。「ほんとうに、おまえはメシヤ（救い主）か。はっきりしろ。」

「そうだと言ったところで、信じる気はもうとうないでしょう。釈明させるつもりも。 69 しかし、栄光のメシヤであるわたしが、全能の神の右の座につく時は、もうすぐです。」 70 議場は騒然、尋問する声も荒立ってきました。「なにーっ！ あくまで神の子だと言いはるつもりかっ！」

「そのとおりです。」イエスはお答えになりました。

71 「これだけ聞けば十分だっ！ こいつの口から確かに聞いたぞ。」議員たちは叫びました。

二三

イエス、死刑の判決を受ける

1 衆議一決。全議員がうちそろって、イエスを総督ピラトのもとに引っ立てて行きました。 2 そして、口々に訴えました。「こやつは、ローマ政府に税金を納めるなどか、自分こそメシヤ（救い主）だの、王だのとぬかし、国民を惑わした不届き者でございます。」

3 ピラトはイエスに問いました。「ほんとうに、おまえはユダヤ人のメシヤであり、王なのか。」

「そのとおりです。」

4 ピラトは祭司長や群衆のほうを向き、「この男には罪はないではないか」と言いました。

5 これを聞いて、人々は狂ったように叫びました。「とんでもございませぬ！ こやつはガリラヤからエルサレムまで、ユダヤ全国、至る所で民衆をたきつけ、暴動を起こそうとしたんですよっ！」

6 そこでピラトは、「では、この男はガリラヤ人なのか」と尋ね、 7 人々がそうだと答えると、イエスをヘロデ王のもとへ連行するように命じました。ガリラヤはヘロデの支配下にあり、その時ヘロデは、ちょうどエルサレムに滞在中だったからです。 8 イエスに会えて、ヘロデは大喜びでした。前々からイエスのうわさを耳にし、ぜひ一度、奇蹟を見たいものだと思っていたのです。

9 ヘロデはイエスを前にして、次から次へと質問をあげました。ところがイエスは、きつと口をつぐみ、何一つお答えになりません。 10 祭司長や他の宗教的指導者たちも、

そばに立ち、激しい口調で訴えました。

11 ヘロデと部下の兵士どもは、さんざんイエスをばかにし、あざけたあげく、王が着るようなガウンを着せて、ピラトのもとに送り返しました。 12 それまで敵対していたヘロデとピラトが、どういう訳か、たいそう親しくなったのは、この日からです。

13 ピラトは、祭司長とユダヤ人の指導者たち、それに民衆もみないっしょに呼び出し、
14 判決を言い渡しました。

「おまえたちは、この男を、ローマ政府への反乱を指導したかどで訴えた。それで、くわしく調べてみたが、そのような容疑事実はない。この男は無罪だ。 15 ヘロデも同じ結論に達し、私のもとに送り返してきた。この男は死刑にあたるようなことは何もしていない。 16 だから、先端に鉛のついたむちで打ってから釈放しようと思う。」

17 18 しかし、人々はいっせいにわめき立てました。「そいつを殺せっ！バラバを釈放しろっ！」 19 バラバとは、エルサレムで、政府転覆を図った罪と殺人罪とで、投獄されていた男でした。 20 ピラトは、なんとかしてイエスを釈放しようと、なおも、群衆を説得しようとしたが、 21 彼らは聞き入れません。「十字架だっ！十字架につけろっ！」と叫び続けるばかりです。

22 ピラトは、三度目に念を押しました。「どうしてだっ！この男がどんな悪事を働いたというのか。死刑を宣告する理由など見つからん。だから、むち打ってから釈放してやるつもりだ。」 23 それでも、騒ぎはおさまりません。ますます大声で、イエスを殺せとわめき立てる群衆の声に、ついに、ピラトも負けてしまいました。

24 しかたがありません。要求どおり、イエスに死刑を宣告し、 25 反逆罪と殺人罪で投獄されていたバラバを釈放しました。イエスのほうは、すぐに人々の手に渡し、好きなようにさせました。

26 イエスを刑場に引いて行く途中、田舎からエルサレムに着いたばかりの、シモンというクレネ人に会いました。全く好都合です。むりやり十字架を背負わせ、イエスのうしろから運ばせました。 27 大ぜいの群衆や、悲しみに打ちひしがれた婦人たちが、あとから、ぞろぞろついて行きます。

28 イエスは婦人たちのほうをふり向き、とぎれとぎれに言われました。「エルサレムの娘たちよ……。わたしのために泣いてはならない。自分と、子供たちのために、泣きなさい……。 29 いいですか……。子供のできない女のほうが、しあわせだ、と思われる日が、すぐにでも、来るのです。 30 その時、人々は……。山に向かって、『私たちの上に倒れて、押しつぶしてくれっ！』と叫び、丘に向かって……。『私たちを埋めてくれっ！』と必死で、頼むでしょう……。 31 生木のわたしでさえ、こんな目に会ったら……。あなたがたのような……。枯れ木同然の人たちには、いったい……。どんなことが……起こるでしょう。」

イエスの十字架の死と埋葬

32 33 イエスだけでなく、ほかにも二人の犯罪者が、「がいこつ」と呼ばれる場所で処刑

されるために、引き立てられました。刑場に着くと、いよいよ十字架刑です。イエスは真ん中に、二人はその両側に……。

34 その時、イエスはこう言われました。「父よ。この人々をお赦してください。自分たちが何をしているかわかっていないのです。」

兵士たちがさいころを投げて、イエスの着物を分け合うのを、35 群衆はそばで、おもしろそうにながめています。一方、ユダヤ人の指導者たちは、得意げにイエスをあざけりました。「たいしたお人好しよ。他人ばかり助けてやってよ。このざまは何だ。ほんとうに神様に選ばれたメシヤ（救い主）なら、自分を救ってみろ！」

36 兵士たちも、酸っぱいぶどう酒を差し出しながら、皮肉たっぷりに、37「よおよお、ユダヤ人の王様っ！ご自分を救ったらどうだい！」とからかいました。

38 十字架のイエスの頭上には、「これはユダヤ人の王」と書いた罪状書きが、掲げてありました。

39 イエスの横で十字架につけられていた犯罪人の一人までが、「あんたメシヤ様なんだってなあ。だったらよお、自分とおれたちを救ってもよさそうなもんだぜ。ええっ、どうなんだいっ！」とののしりました。

40 41 しかしもう一人は、それをたしなめました。「この期に及んで、まだ神様を恐れないのかっ！おれたちやあ悪事を働いたんだから、殺されて当然さ。だがよ、このお方はどうだ。悪いことなんぞ、これっぽっちもしちゃおられないんだぜ。」42そして、イエスにこう頼みました。「イエス様。御国に入られる時、どうぞ、私を思い出してください。」

43 イエスはお答えになりました。「あなたは今日、わたしといっしょにパラダイスに入ります。約束します。」

44 その時です。正午だというのに、突然、あたりが暗くなり、午後三時まで、そんな状態が続きました。45 太陽は光を失い、神殿の幕が、なんと真つ二つに裂けたのです。

46 その時イエスは、大声で、「父よ。わたしの霊をおゆだねします！」と叫ばれたかと思うと、息を引き取られました。

47 刑を執行していたローマ軍の隊長は、不思議な出来事を見て、神への恐れに打たれ、「確かに、この人には罪がなかった」と叫びました。

48 また、十字架を見物に来ていた大ぜいの人も、この、イエスの最期の有様を見ると、みな深い悲しみに沈んで、すごすご家へ帰って行きました。49 一方、ガリラヤからイエスに従って来た婦人たちやイエスの友人たちは、遠くから、じっとこの様子を見守っていました。

50 - 52 そのころ、ユダヤの最高会議の議員で、アリマタヤ出身のヨセフという人が、ピラトのもとに行き、イエスの遺体を引き取りたいと願い出ました。彼はメシヤが来るのをひたすら待ち望んでいた神を敬う人物で、他の議員たちの決議や行動には、全然同意

していませんでした。 53 ヨセフは遺体を十字架から降ろし、長い亜麻布に包んで、岩をくり抜いた、新しい、まだだれも葬ったことのない墓に納めました。 54 これは、安息日の準備の日にあたる金曜日の、午後遅いころのことでした。

55 遺体が十字架から降ろされた時、ガリラヤから従って来た婦人たちは、ヨセフのあとについて行き、イエスが墓に納められるのを見届けました。 56 それから家に戻り、急いで、遺体に塗る香料と香油とを用意しましたが、すぐに安息日になったので、ユダヤのおきてに従って休みました。

二四

イエスは復活した！

1 日曜日の明け方早く、待ちかねた婦人たちは香油を持って墓に急ぎました。 2 着いてみると、どうしたことでしょう。 入口をふさいであった大きな石が、わきへ転がしてあるではありませんか。 3 中へ入って見ると、主イエスの体は影も形もありません。

4 「いったい、どうなってるのかしら。」きつねにでもつままれたような気持ちです。すると突然、まばゆいばかりに輝く衣をまとった人が二人、目の前に現われました。 5 女たちは、もう恐ろしくて恐ろしくて、顔も上げられません。 地に伏したまま、わなわな震えていました。 その時、二人が声をかけました。 「なぜ生きておられる方を、墓の中で捜しているのです。 6 7 あの方はここにはおられません。 復活なさったのです。 まだガリラヤにおられたころ、何と言われましたか。 メシヤ（救い主）は悪い者たちの手に売り渡され、十字架につけられ、それから三日目に復活する、と宣言なさったではありませんか……。」

8 そう言われて女たちは、はっと思いあたりました。 9 すぐさまエルサレムに取って返し、一部始終を、十一人の弟子やほかの人たちに話しました。 10 そのとき墓へ行った婦人たちは、マグダラのマリヤとヨハンナ、ヤコブの母マリヤ、そのほか数人でした。

11 ところが、男たちには、この話がまるで物語のようで、とても現実のこととは思えません。 だれも、まともに信じようとしませんでした。

12 しかしペテロは、それでも一応は確認しなければ、と墓へ駆けつけ、身をかがめて中をのぞき込みました。 するとどうでしょう。 亜麻布のほかには、何も見あたりません。 この出来事に驚いて、家に戻って行きました。

13 この同じ日曜日のことです。 二人の弟子が、エルサレムから十一キロほど離れたエマオという村へ急いでいました。 14 二人が道々話し合っていたことは、イエスの死のことでした。 15 そこへ突然、当のイエスが近づき、彼らと連れ立って歩き始めました。 16 しかし二人には、イエスだとはわかりません。 神がそうなさったのです。

17 イエスがお尋ねになりました。 「何やら熱心にお話しのようですね。 いったい何が、そんなに問題なのですか。」すると二人は、急に顔をくもらせ、思わず足を止めました。

18 クレオパというほうの弟子が、あきれたように、「エルサレムにしながら、先週起こ

った、あんな恐ろしい出来事を知らないなんて……、そんな人は、あなたぐらいのものでしょう」と言いました。

19 「そうですか。 で、どんなことでしょうか？」

「ナザレ出身のイエス様のことをご存じないのですか。 この方は、信じられないような奇蹟を幾つもなさった預言者で、素晴らしい教師でもあられたんですよ。 そんなわけで、神様からも人からも、重んじられていたんですが、 20 祭司長や他の宗教的指導者たちは、理不尽にもこの方をつかまえて、ローマ政府に引き渡し、なんと、十字架につけてしまったんですよ。 21 - 23 私たちは、この方こそ栄光に輝くメシヤで、イスラエルを救うために来られたに違いない、とまあ、こんなふうを考えていたんですがね……。 ところが、話はそれで終わらないんですよ。 弟子仲間の婦人たちが、なんとも奇妙なことを言いだしたんです。 その処刑があった日から、今日で三日目になるんですがね、今朝がた早く、その婦人たちが墓へ行ったところ、イエス様のお体は影も形もないと言うじゃありませんか。 しかもその場に御使いが現われて、イエス様は生きておられると語ったとか何とか……。 24 その話を聞いて、仲間のある者たちが墓へ駆けつけて確認したんですがね、彼らも口をそろえて、墓は空っぽだったと証言してるんですよ。」

25 「ああ、どうしてそんなに、ものわかりが悪いのですか。 預言者たちが聖書（旧約）に書いていることを信じられないのですか。 26 キリストは、栄光の時を迎える前に、必ずこのような苦しみを受けるはずだと、預言者たちは、はっきり予告したではありませんか。」

27 それからイエスは、創世記から始めて、聖書（旧約）全体にわたって次から次へと預言者のことばを引用しては、救い主についての教えを説き明かしました。

28 そうこうするうち、そろそろエマオに近づきましたが、イエスは、まだ旅を続ける様子です。 29 二人は、じきに暗くなるから、今晚はここで、いっしょに泊まってくださいと熱心に頼みました。 それで、イエスもいっしょに家に入りました。 30 一同が食卓に着くと、イエスはパンを取り、神に祝福を祈り求め、ちぎって、二人に渡しました。

31 その瞬間、二人の目が開かれ、その人がイエスだとわかりました。と同時に、イエスの姿はかき消すように見えなくなりました。

32 二人はあつけにとられながらも、「そう言えば、あの方が歩きながら語りかけてくださった時も、聖書のことばを説明してくださった時も、不思議なほど心が燃えたなあ」と言い合いました。 33 34 そして、すぐエルサレムへ取って返しました。 戻ってみると、十一人の弟子たちやほかの弟子たちが迎え、「主は、ほんとうに復活されたんだよ。 ペテロがお会いしたんだからまちがいない」と話すではありませんか。

35 そこで二人も、エマオへ行く途中イエスと出会ったことや、パンをちぎられた時に、はっきりイエスだとわかったことなどを事細かに話しました。 36 ところが、この話の最中に、突然イエスが現われ、みんなの真ん中に立って、あいさつされました。 37 それなのに、だれもかれも幽霊を見ているのだと勘違いし、ぶるぶる震えています。

38 「なぜそんなに驚くのですか。 どうしてそんなに疑うのですか。 39 さあ、この手を、この足を、よくごらんください。 わたしにまちがいないでしょう。 さあ、さわってみなさい。 これでも幽霊でしょうか。 幽霊だったら、体などないはずですよ。」 40 イエスはこう言いながら、手を差し出して釘の跡をお見せになり、また足の傷もお示しになりました。

41 弟子たちは、うれしいにはうれしいのですが、まだ半信半疑です。心を決めかねて、ぼう然と突っ立っていました。 それでイエスは、「何か食べ物がありますか」とお尋ねになりました。

42 焼き魚を一切れ差し上げると、 43 イエスはみんなのしている前で召し上がりました。

44 「以前、いっしょにいた時、モーセや預言者の書いたこと、それに聖書（旧約）の詩篇にあることはみな、必ずそのとおりになると話して聞かせたはずですよ。 忘れてしまったのですか。」 45 イエスが弟子たちの心の目を開かれたので、彼らにも、やっと納得がきました。 46 イエスは、さらに先をお続けになりました。 「そうです。メシヤが苦しめられ、殺され、そして三日目に復活することは、ずっと昔から記されていたのです。 47 わたしのもとに立ち返る人は、だれでも罪が赦されます。 この救いの知らせは、エルサレムから始まり、世界中に伝えられるのです。 48 あなたがたはこのことの証人です。 初めから何もかも見てきたのですから。

49 父が約束してくださった聖霊を送ります。 しかし、聖霊がおいでになり、天からの力で満たしてくださるまでは、だれにも話してはいけません。 この都にとどまっています。」

50 それからイエスは、一同をベタニヤまで連れて行き、手を上げて祝福してから、 51 天に帰って行かれました。 52 人々は、イエスを礼拝すると、喜びに胸を躍らせて、エルサレムに戻り、 53 いつも宮にいて、神を賛美していました。

■

ヨハネの福音書（漁師ヨハネの記録）

ヨハネは漁師でした。キリストを信じてから約三年の間、イエスに身近に接し、彼が普通の人と全く違うことを見いだしたのです。それは、今まで出会った人には見られなかった権威あることばや、人々から恐れられ、敬われている学者や指導者に、はっきりとその間違いを正す態度、そして、神様に祈り求めてなされる数々の奇蹟等によってでした。ヨハネは知ったのです。イエスこそ、ご自分で言われるとおりの、神のひとり子であり、この世の救い主であることを。

一

キリストこそほんとうの光

1 2 まだ何もない時、キリストは神と共におられました。キリストは、いつの時代にも生きておられます。キリストは神なのです。3 このキリストが、すべてのものをお造りになりました。そうでないものは一つありません。4 キリストには永遠のいのちがあります。全人類に光を与えるいのちです。5 そのいのちは、暗やみの中でさんざんと輝き、どんな暗やみも、この光を消すことはできません。

6 7 イエス・キリストこそほんとうの光です。このことを証言させるために、神はバプテスマのヨハネをお遣わしになりました。8 ヨハネ自身は光ではなく、ただその光を指し示す証人にすぎません。9 後に、ほんとうの光である方が来て、全世界の人々を照らしてくださったのです。

1 0 ところが、世界を造った方が来られたというのに、だれもこの方に気づきませんでした。1 1 1 2 自分の国にしながら、自分の民のユダヤ人にさえ、受け入れてはもらえなかったのです。この方を心から喜び迎えたのは、ほんのわずかな人にすぎません。しかし、受け入れた人はみな、この方から、神の子供となる特権をいただきました。それにはただ、この方が救ってくださると信じればよかったのです。1 3 信じる人はだれでも、新しく生まれ変わります。神が、そう望まれたのです。人間の熱意や計画は全く関係ありません。

1 4 キリストは人間となり、この地上で私たちと共に生活なさいました。彼は恵みと真実の方でした。私たちはこの方の栄光を目のあたりにしました。それは天の父のひとり子としての栄光でした。

1 5 ヨハネは人々にキリストを紹介しました。「私が今まで、『まもなく来られる方は、私よりはるかに偉大な方だ。私が生まれるずっと前からおられたからだ』と口をすっぱくして言ってきたのは、まさにこの方のことなのだ。」1 6 この方の恵みは尽きるところを知りません。私たちはみな、次から次へと、あふれるばかりに恵みをいただきました。

1 7 モーセはきびしい命令と、情け容赦もない法律とを与えただけでしたが、イエス・キリストはその上に、愛に満ちた赦しの道を備えてくださったからです。1 8 いまだかつて、実際に神を見た人はいません。しかしもちろん、神のひとり子だけは別です。御

子は、父なる神といつもいっしょですから、神について知っていることは、何でも教えてください。くださったのです。

ヨハネの証言

19 ユダヤ人の指導者たちは、エルサレムから、祭司とその助手たちとをヨハネのもとへ派遣し、「おまえはキリストか」と問いたださせました。

20 ヨハネは、「とんでもない」と、きっぱり否定しました。

21 「そうか。では、いったい何者だ。エリヤか。」

「いや、違う。」

「すると、あの預言者か。」

「いや。」

22 「では、いったい何者か。はっきりしてくれ。私たちは帰って報告しなければならないのだ。ええっ、おまえは何者なのだ。」

23 「私は、イザヤが預言した、あの、荒野から聞こえる叫び声にすぎない。『主を迎える準備をせよ』と叫ぶ声、あれが私だ。」

24 25 パリサイ人（特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）から派遣された人たちは、なおも問い詰めました。「キリストでも、エリヤでも、あの預言者でもないのなら、いったいどんな資格でバプテスマ（洗礼）を受けているのか。」

26 ヨハネは答えました。「私はただ、水でバプテスマを受けているだけだ。しかし、ここにいる人々の中には、あなたがたのまだ知らない方がおられる。27 まもなく、あなたがたの間で働きを始められるだろう。私には、その方のしもべとなる資格もないのだ。」

28 この出来事は、ヨハネがバプテスマを受けていたヨルダン川の東岸にある、ベタニヤ村で起こりました。

29 翌日のことです。ヨハネは、イエスが来られるのを見て、言いました。「ご覧なさい！ この方こそ、世の人々の罪を取り除く神の小羊だ。30 ああ、『まもなく、私よりはるかに偉大な方がおいでになる。私よりずっと前からおられる方だ』と常々話していたのは、この方のことだったのだ。31 今までは、この方だとわからなかった。だが、私がここで水のバプテスマを受けているのは、まさにこの方を、イスラエルの人々に紹介するためだったのだ。」

32 ヨハネはさらに続けました。「確かに、聖霊様が鳩のように天から下り、この方の上にとどまられるのを見た。

33 初めは私も、この方がその方だとはわからなかった。だが、バプテスマを受けさせるために私を遣わす時、神様はこう言われたのだ。『もし、聖霊がだれかに下り、その上にとどまるのを見たら、その方こそ、あなたの捜し求める方、聖霊のバプテスマをお授けになる方だ。』34 そのとおりのことが、この方に起こった。しかと、この目で見たのだ。この方は神の子にまちがいない。」

イエス、弟子を集める

35 その翌日、ヨハネは二人の弟子といっしょに立っていました。36目を上げると、イエスが歩いておられるではありませんか。その姿を食い入るように見つめながら、ヨハネは、「ご覧なさい。神の小羊だっ！」と言いました。

37 これを聞いた弟子は二人とも、急いでイエスのあとを追いかけてきました。

38 その足音にイエスはふり向かれ、二人を見てお尋ねになりました。「おや、何かご用でしょうか？」

「失礼ですが、先生。どちらにお住まいで？」

39 「いっしょに来なさい。すぐにわかりますよ。」こう言われて二人は、イエスの泊まっておられる所までついて行きました。だいたい午後四時ごろだったのでしょうか。その日は、それからずっと、イエスといっしょにいました。40二人のうち一人は、シモン・ペテロの兄弟アンデレでした。

41 それから、アンデレはシモンを捜し出し、「とうとうメシヤ〔訳すとキリスト〕様にお会いしたよ」と言いました。42そして、彼をイエスのところへ引っ張って行きました。

イエスはシモンをじっと見つめられ、「あなたはヨハネの子シモンですね。だがこれからは、ペテロ、つまり『岩』と呼ばせてもらいますよ」と言われました。

43 その翌日、イエスは、ガリラヤへ出発なさいました。途中、ピリポを見つけ、「さあ、ついて来なさい」と言われました。44ピリポは、アンデレやペテロと同郷で、ベツサイダの出身だったのです。

45 ピリポはナタナエルを捜しに行き、会うなり言いました。

「メシヤ(救い主)様にお会いしたぞ。モーセや預言者たちが言ったあのお方だよ。ナザレ出身のイエスという方なんだ。ヨセフという人の息子さんだそうだ。」

46 「ナザレだって！」ナタナエルはびっくりしました。「あんな所から、すぐれた人物なんか出っこないぜ。」

しかしピリポは、「まあまあ、とにかく来てみろよ。自分の目で確かめたらいいだろう」と言いはります。

47 ナタナエルも行ってみる気になりました。イエスは、歩いて来るナタナエルの姿に目をとめておっしゃいました。

「根っからの正直者がやって来ます。この人こそ生粋のイスラエル人です。」

48 「どうして、おわかりなのですか。」ナタナエルは聞き返しました。

「見ましたよ。ピリポがあなたに会う前に、いちじくの木の下にいたのを。」

49 「先生。あなた様は神の子、イスラエルの王です！」

50 「そう信じるのは、あなたがいちじくの木の下にいるのを見た、わたしが言ったからですか。だが、それよりはるかにすばらしい証拠があります。51天が開けて、神の使いたちがメシヤのわたしをとおって行き来するのを、やがて、あなたがたは見るの

です。」

二

イエス、水をぶどう酒に変える

1 それから三日目に、ガリラヤのカナという村で結婚式があり、イエスの母マリヤは、客として出席しました。 2 イエスと弟子たちも招待されました。 3 ところが、宴会の最中だというのに、ぶどう酒が切れてしまったのです。 マリヤは、そのことをイエスに知らせました。

4 イエスは、「今はだめですよ、お母さん。 まだ、奇蹟を行なう時ではありませんから」と、お答えになりました。

5 しかし、マリヤは手伝いの者たちに、「この人の言いつけどおりになさってね」と申し渡しました。

6 さてそこには、石の水がめが六つありました。 ユダヤ教の儀式に使う水がめで、それぞれ八十リットルから百二十リットルぐらい入るものです。 7 イエスは手伝いの者たちに、「さあ、縁までいっぱい水を入れなさい」と指示なさいました。 彼らがそのとおりにすると、 8 「いいでしょう。 では今度は、それを汲んで、宴会の世話役のところへ持って行きなさい」と言われました。 彼らは、言われるままに持って行きました。

9 宴会の世話役が試しに一口味わってみると、おいしいぶどう酒です。 「こんな上等の酒を、いったいどこから出してきたんだろう」と首をかしげました。 「もちろん手伝いの者たちは何もかも知っています。」そこで、花婿を呼び出して、 10 言いました。

「これは極上のぶどう酒じゃないですか。 あなたは並みの方じゃありませんね。 たいていどこの家でも、初めに良いぶどう酒を出し、酔いがまわって味がわからなくなると、安物でごまかすものですよ。 ところがあなたは、一番上等なものを、最後まで取っておかれたんですからね。」

11 このガリラヤのカナでの奇蹟は、イエスが神の力を公に示された最初のものでした。 これを見て、弟子たちは、「イエス様は正真正銘のメシヤ（救い主）だ」と信じたのです。

12 その結婚式のあと、イエスは、母や兄弟、弟子たちといっしょにカペナウムへ行き、数日間、滞在されました。

イエス、エルサレム神殿をきよめる

13 ユダヤ人の過越の祭りが近づき、イエスはエルサレムへ行かれました。

14 そして、宮の境内で、供え物用の牛、羊、鳩を売る商人たちや、勘定台を前にどっかと座り込んでいる両替人たちをごらんになりました。 15 あまりの有様に、イエスはなわでむちを作り、商売人たちをみな追い出され、鳩や羊や牛を追い散らし始められました。 次々に両替人の勘定台をひっくり返されるので、お金はあたり一面に散らばり、足の踏み場もありません。 16 鳩を売る者たちには、「それを持って、出て行きなさい。 父の家を金もうけの場所にしてはいけません」と、言われました。

17 そのとき弟子たちは、「神の家を思う熱心が、わたしを焼き尽くす」という、聖書(旧

約)の預言を思い出したのです。

18 おさまらないのは、ユダヤ人の指導者たちです。 かんかんになって抗議しました。

「いったい何の権利があって、この人たちを追い出すのかっ！ そんな権威を神様から与えられてるんだったら、その証拠に奇蹟を見せてもらおうじゃないか。」

19 イエスはお答えになりました。「わかりました。 この神殿をこわしなさい。 三日で建て直してみせましょう。」

20 「何だってっ！ この神殿は建てるのに四十六年もかかったんだ。それを三日で建てると言うのかっ！」ユダヤ人たちはあきれ返りました。 21 しかしイエスが「この神殿」と言われたのは、自分の体のことだったのです。 22 イエスが復活されてから、弟子たちは、このことを思い出しました。 そして、イエスは自分のことを、聖書のことを引用して話されたのであり、何もかもそのとおりになると、改めて納得がいったのです。

23 過越の祭りの時、イエスがエルサレムで奇蹟を行なわれたので、多くの人が、「この方は確かにメシヤ(救い主)様だ」と信じるようになりました。 24 25 しかしイエスは、そういう人々を信用されたわけではありません。 人間がどれほど変わりやすいものか、その心の底の底まで、知り尽くしておられたからです。

三

新しいいのちが与えられる

12 とつぷり日も暮れたある夜のこと、パリサイ人で、ニコデモという名のユダヤ人の指導者が、イエスに会いに来ました。「先生。 だれもみな、あなた様が神様から遣わされた教師であることを存じ上げております。 あなた様のなさる奇蹟を見ればもう、わかりきったことでございます。」

3 「そうですか。 でもよく言っておきますが、あなたはもう一度生まれ直さなければ、絶対に神の国へは入れません。」

4 ニコデモは、思わず大声で叫びました。「ええっ、もう一度生まれるのですか！ いったい、どういうことですか。 年をとった人間が母親の胎内に戻って、もう一度生まれるんですか。 そんなこと、できっこありませんよ。」

5 「よく言っておきますが、だれでも水と御霊によって生まれなければ、神の国へは入れません。 6 人間からは人間のいのちが生まれるだけです。 けれども聖霊は、天からの、全く新しいいのちを下さるのです。 7 もう一度生まれなければならない、と言われたからといって、驚くことはありません。 8 風は、音が聞こえるだけで、どこから吹いて来るかも、どこへ行くのかもわかりません。 御霊だって同じことです。 次はだれに、この天からのいのちが与えられるか、まるでわからないのです。」

9 「それはいったい、どういうことで？」

10 「あなたはみんなに尊敬されているユダヤ人の教師ではありませんか。 このようなこともわからないのですか……。 11 わたしは知っていること、見たことだけを話し

ているのです。 それなのに、あなたがたは信じてくれません。 12 人間の世界で現に起こっていることなのですよ。 それも信じられないくらいなら、天で起こることなど、話したところで、とても信じられないでしょう。 13 メシヤ (救い主) のわたしだけが、この地上に下って来て、また天に帰るのです。 14 モーセが荒野で、青銅で作った蛇を、さおの先に掲げたように、わたしも木の上に上げられなければなりません。 15 わたしを信じる人はだれでも、永遠のいのちを持つためです。」

16 実に神は、ひとり子をさえ惜しまず与えるほどに、世を愛してくださいました。 それは、神の御子を信じる者が、だれ一人滅びず、永遠のいのちを得るためです。 17 神がご自分の御子を世にお遣わしになったのは、世に有罪判決を下すためではありません。 救うためです。

18 この神の子に救っていただけると信じ、何もかもお任せする者は、永遠の滅びを免れます。 しかし、お任せしない者は、神のひとり子を信じなかったのですから、すでにさばかれ、有罪判決を下されたのです。 19 そのような判決が下ったわけは、こうです。 天からの光が世に來ているのに、彼らは、自分の行ないが悪かったため、光よりも暗やみを愛したのです。 20 暗やみの中で罪を犯したいので、彼らは天からの光をきらいしました。 罪が暴露され罰せられるのを恐れて、光のほうに出て来ようとしません。 21 しかし、正しいことを行なっている人は、喜んで光のほうに出て来ます。 神の望まれることを行なっていると、だれの目にもはっきりわかるためです。

22 その後、イエスと弟子たちは、エルサレムを去り、しばらくユダヤに滞在し、バプテスマ (洗礼) を授けていました。

ヨハネとイエスの役割

23 24 そのころはまだ、バプテスマのヨハネは投獄されておらず、サリムに近いアイノンで、バプテスマを授けていました。 そこには、水がたくさんあったからです。 25 ある日、一人のユダヤ人が、「イエス様のバプテスマのほうがすぐれている」と、ヨハネの弟子たちに議論を吹かけました。 26 弟子たちは、ヨハネのところに来てこぼしました。「先生。 ヨルダン川の向こう岸でお会いしたあの方、あなた様がメシヤ (救い主) だとおっしゃったあの方も、バプテスマを授けておられるそうで……。 みんな、こちらには来ないで、どんどんあの方のほうへ行ってしまう。」

27 ヨハネは答えました。「天の神様が、一人一人にそれぞれの役割を決めてくださる。 28 私の役目は、だれもがあの方のところへ行けるように道を備えることだ。 私はキリストではないと、はっきり言ったはずだよ。 あの方のために道を備えるために、私はここにいるのだ。 29 一番魅力のあるものに人々が集まるのは当然だろうが。 花嫁は花婿のもとへ行く。 花婿の友達も花婿といっしょに喜ぶ。 私は花婿の友達だから、花婿の喜ぶ声を聞くと、うれしくてたまらないのだ。 30 あの方はますます偉大になり、私はますます力を失う。

31 あの方は天から來られた方。 ほかのだれよりも偉大なお方だ。 私は地から出た

者。地上のことしかわからない。 32 あの方は、見たこと聞いたこととお話しになる。だが、そのおことばを信じる人はなんと少ないことか……。 33 あの方を信じれば、神様が真理の源だとわかるのに。 34 神様から遣わされたあの方は、神様のことばをお話しになる。あの方の上には、神の御霊が無限に注がれているからだ。 35 父なる神様はこの方を愛し、万物をこの方にお与えになった。

36 この方は神様の御子なのだ。この方に救っていただけると信じ、何もかも任せきる者はだれでも、永遠のいのちを得る。だが、この方を信じない者、従わない者は、絶対に天国を見ることはできない。そればかりか、神様の怒りがその人の上にとどまるのだ。」

四

サマリヤ人の女

1 さて、イエスのところには、ぞくぞくと人々が詰めかけ、バプテスマ（洗礼）を受けて弟子になり、その数はヨハネよりも多いといううわさが、パリサイ人たちの耳に入りました。イエスはこのことを知ると、 2——もっとも、実際にバプテスマを授けていたのは、イエス自身ではなく、弟子たちでしたが、—— 3 ユダヤをお去りになり、またガリラヤ地方へ行かれました。

4 その途中で、どうしてもサマリヤをお通りにならなければなりません。

5 6 サマリヤのスカルという村にさしかかったのは、ちょうど正午ごろでした。そこに、昔ヤコブが息子ヨセフに与えた土地があり、ヤコブの井戸がありました。日のかんかん照りつける長い道のりを歩いて来られたイエスは、疲れ果て、井戸のそばにぐったり腰をおろされました。

7 まもなく、サマリヤ人の女が一人、水を汲みに来ました。イエスは、「すみませんが、水を一杯下さい」と声をおかけになりました。 8 そのとき弟子たちは、村へ食べ物を買に行っており、ほかにはだれもいません。

9 女はびっくりしたようです。「あれまあ、あんたユダヤ人じゃないのさ。あたしはサマリヤ人だよ。なのにどうして、水をくれなんて頼むのさ。」「当時、ユダヤ人はサマリヤ人を見下し、口をきこうとさえしなかったのです。」

10 「もし、神があなたに、どんなにすばらしい贈り物を用意しておられるか、また、わたしがだれかを知ってさえいたら、あなたのほうから、いのちの水をくださいと願ったでしょう。」

11 「そんなこと言ったって、あんたは水を汲むおけも綱も持ってないじゃないか。この井戸はとても深いんだよ。そのいのちの水を、いったいどこから汲むのさ。 12 あんたは、あたしたちのご先祖ヤコブ様よりも偉いつてのかい。ヤコブ様はこの井戸をあたしたちにくれたんだよ。ヤコブ様も、その子孫も、家畜もみんな、この井戸の水を喜んで飲んだんだ。これよりいい水をくれるってのかい。」

13 「この水を飲んでも、すぐにまた、のどが渇きます。 14 けれども、わたしがあ

げる水を飲めば、絶対に渴くことはありません。 わたしがあげる水は、それを飲む人のうちで、永久にかけない泉となり、いつまでも、その人を永遠のいのちで潤すからです。」

15 「先生。 その水をあたしに下さいよ。 そうすりゃ、のども渴かないし、毎日こんな遠くまで、てくてく歩いてさ、水汲みに来なくてすむもの。」

16 「帰って、夫を連れて来なさい。」

17 18 「でも、あたし、結婚なんかしてない。」

「それもそうです。 あなたは五回も結婚したけれど、今いっしょに暮らしてる男は、確かに夫ではありませんね。」

19 「先生。 あなた様は預言者でしょう。 20 だったら教えてくださいよ。 ユダヤ人は、礼拝の場所はエルサレムだけだと言いはるし、サマリア人は、あたしたちのご先祖様が礼拝した、このゲリジム山だと言ってる。 どうしてなんです？」

21 - 24 「いいですか。 父なる神を礼拝する場所は、この山か、それともエルサレムか、などどこだわる必要のない時が来るのです。 大切なのは、どこで礼拝するかではありません。 どのように礼拝するかです。 霊的な、真心からの礼拝をしているかどうか問題なのです。 神は霊なるお方だから、正しい礼拝をするには、聖霊の助けが必要です。 神はそのような礼拝をしてほしいのですよ。 あなたがたサマリア人は、神のことはほとんど何も知らないで礼拝していますが、私たちユダヤ人はよく知っています。 救いはユダヤ人を通してこの世に来るのですから。」

25 「そりゃあね、キリストと呼ばれるメシヤ（救い主）様がおいでになることだけは、知ってますよ。 その方がおいでになれば、いっさいのことを説明してくださるんでしょう。」

26 「わたしがそのメシヤです。」

27 ちょうどその時、弟子たちが戻って来ました。 驚いたことに、イエスは女と話しておられるではありませんか。 しかし、どうしてなのか、何を話していらっしゃるのか尋ねた者はいませんでした。

28 女は、水がめを井戸のそばに置いたまま村に帰り、会う人ごとに話しかけました。

29 「ねえねえ、来て、会ってごらんよ。 あたしのしてきたことを、何もかも言い当てた方がいるのさ。 あの方こそ、キリスト様に違いないよ。」 30 この誘いに村人たちは、イエスに会おうと、ぞくぞく押しかけました。

31 その間に、弟子たちはイエスに、「先生。 どうぞお食事を」と勧めました。 32 ところがイエスは、「いやけっこうです。 わたしには、あなたがたの知らない食べ物があるのですよ」と言われたのです。

33 弟子たちはげげんそうに、「だれかが食べ物を持って来たんだろう」と言い合いました。

34 そこでイエスは説明なさいました。 「いいですか、わたしの食べ物というのは、わたしを遣わされた神のお心にかなうことをし、神の仕事をやり遂げることなのです。 3

5『刈り入れはまだ四か月も先のこと、夏も終わりにならなければ始まらない』と
思っているようですね。 だが、回りをよく見なさい。 人間のたましいの畑は広々と一面に実
り、刈り入れを待つばかりです。 36刈り入れをする人たちは、たくさんの報酬をもら
い、永遠のいのちに入るたましいを天の倉に取り入れます。 その時、種をまいた者も、
刈り入れをした者も、共に、大いに喜ぶのです。 37『一人が種をまき、ほかの人が
刈り入れる』ということわざのとおりです。 38あなたがたが自分で種まきをしなか
った畑に、わたしはあなたがたを遣わしました。 ほかの人々が苦勞して育てたものを、
あなたがたが刈り入れるのです。」

39 スカルの村から押しかけたサマリア人の多くは、例の女が、「あの方はあたしのして
きたことを、何もかも言い当てた」と言うのを聞いて、イエスをメシヤだと信じました。
40彼らは井戸のところに来てイエスにお会いすると、村に滞在してくださいと頼みまし
た。 そこでイエスは、二日間、滞在しました。 41その間に、もっと大ぜいの人が、
イエスのことばを聞いて、信じました。 42そういう人々は女に「もう私たちは、おま
えさんが話してくれたことを聞いたから信じてるんじゃないよ。 この方の言われること
を、じかに聞いたからさ。 この方こそ、ほんとうに世の救い主だ」と、言いました。
43 さて、二日の後、イエスはスカルの村を去り、ガリラヤへ行かれました。 44イ
エスは常々、「預言者は、故郷では尊敬されないものです」と言っておられました。 45
ところが、どうでしょう。 ガリラヤの人たちは、大喜びでイエスを迎えたのです。 そ
れもそのはず、この人たちは過越の祭りの時にエルサレムにいて、イエスのなさったこと
を、全部見ていたのです。

イエス、役人の息子を治す

46 ガリラヤ旅行の途中、イエスはカナの村に行かれました。 以前、水をぶどう酒に
変えた所です。 ところで、カペナウムの町に、重病の息子をかかえた政府の役人がいま
した。 47うわさでは、イエスはユダヤを出てガリラヤを旅行中だということです。 役
人は、さっそくカナまでやって来ました。 そしてイエスにお会いすると、「息子が今にも
死にそうなんです。 どうぞカペナウムへおいでになって、治してやってくださいっ！」
と熱心に頼みました。

48 「わたしがもっと多くの奇蹟を行なわなければ、信じようとしないのですか。」

49 「先生。 お願いですっ！ 子供が死なないうちにおいでください。」

50 「さあ、家にお帰りなさい。 お子さんは治りました。」

役人は、イエスのことばを信じ、家へ急ぎました。 51途中、召使たちが迎えに来て、
「お坊っちゃんまは、すっかりよくなりました」と知らせました。

52 「えっ！ いつからだ。」

「昨日の午後一時ごろでしょうか、急に熱が下がりまして……。」

53 それはまさに、イエスが「お子さんは治りました」と言われた時刻とぴったりに一致
していました。 このことがあって、役人と家族全員が、イエスをメシヤ（救い主）だと

信じました。

54 これは、イエスがユダヤから来られて、ガリラヤで行なわれた第二の奇蹟です。

五

聖書（旧約）はイエスを指し示す

1 その後、ユダヤ人の祭りがあったので、イエスはエルサレムに戻られました。 2 エルサレム市内には、羊の門の近くに、ベテスダという池がありました。 池の回りには、屋根つきの五つの廊下があります。 3 そこに、足の不自由な人、盲人、手足の麻痺した人など、大ぜいの病人が横たわっていました。 [この人たちは、水面が揺れ動くのを待っていたのです。 4 というのは、時々主の使いが来て、水をかき回すことがあり、その時、最初に池に入った人は、病気が治ったからです。]

5 その中に、三十八年間も病気で苦しんでいる男がいました。 6 イエスはこの男をぐらんになり、長い間どんなに苦しんできたかを知って、「よくなりたいですか」とお尋ねになりました。

7 「もうあきらめてますよ。 せつかく水が動いても、だれも池に入れてはくれないんだから。 何とかして行こうとしている間に、いつでもほかの人が先に入っちゃうんでね。」

8 「さあ、立って、床をたたんで家に帰りなさい。」

9 イエスがこう言われると、たちまち病気は治りました。 男はすぐに床をたたみ、歩きだしたのです。

ところが、この奇蹟が行なわれたのが安息日だったので、 10 ユダヤ人の指導者たちはひどく腹を立て、その男をしかりつけました。「安息日に仕事をするとはけしからん。 床を運んだりするのは、おきて違反だっ！」

11 「でも……、私を治してくださった方が、そうしろとおっしゃったんですよ。」

12 「そんなことを言ったのはどこのどいつだっ！」彼らは問い詰めましたが、 13 男には、だれかわかりません。 イエスはすでに、人ごみに姿を消しておられたからです。

14 しばらくして、イエスは宮でその男を見つけ、声をおかけになりました。 「どうですか、すっかりよくなったでしょう。 もう前のように罪を犯してはいけませんよ。 そうでないと、もっとひどい目に会うかもしれませんから。」

15 男は、ユダヤ人の指導者たちを捜し出し、治してくれたのはイエスだと告げました。

16 ユダヤ人の指導者たちは、イエスを、安息日の違反者ときめつけ、しつこい攻撃を始めました。 17 ところが、イエスはお答えになりました。 「わたしの父は、絶えず良い働きをしておられます。 その模範にならっているのです。」

18 これを聞いたユダヤ人の指導者たちは、ますます、イエスを殺そうと思うようになりました。 イエスが安息日のおきてを破ったばかりか、事もあろうに、神を「父」と呼んで、自分を神と等しい者とされたからです。

19 イエスはお答えになりました。 「よく言っておきます。 子は自分からは何もできません。 ただ父がしておられることを見て、同じようにするだけです。 20 父は子

を愛して、自分のすることは何でも、子に教えてください。子は、病気を治すことなど比べものにならないほど大きな、驚くべき奇蹟を行ないます。 21 父が死人を生き返らせるように、子も、思うままに人を死人の中から生き返らせもするのです。 22 父は、罪のさばきを、いっさい子に任せておられます。 23 すべての者が父を敬うように、子をも敬うためです。だから、父がお遣わしになった神の子を敬わないのは、父を敬わないのと全く同じことです。

24 よく言うておきます。わたしの言うことを聞き、わたしを遣わされた神を信じる人はだれでも、永遠のいのちがあります。罪のために罰せられることは絶対にありません。すでに死からいのちに移っているのです。 25 はっきり言いましょう。死人が、神の子であるわたしの声を聞く時が、じきに來ます。いやもう來ているのです。そして、聞いた者は生きます。 26 父が自分のいのちを、子にも与えてくださったからです。 27 また、全人類の罪をさばく權威も下さいました。

それもみな、子がメシヤ（救い主）だからです。 28 驚いてはいけません。墓の中の死人がみな、神の子の声を聞く時が來ます。 29 その時、彼らは復活します。良いことをしてきた者は、永遠のいのちをいただくために、悪いことをし続けてきた者は、さばきを受けるために。

30 しかしわたしは、父と相談もせずには判決を下したりはしません。ただ言われるとおりにさばくだけです。ですから、わたしのさばきは絶対に公平で正しいのです。自分の考えだけによらず、わたしを遣わされた神の意志に従ってさばくからです。

31 わたしが自分について証言しても、だれも信じないでしょう。 32 しかし、わたしのことを証言してくださる方がほかにおられます。その方の証言はまちがいなく真実です。 33 あなたがたは、バプテスマのヨハネの教えを聞こうと、わざわざ出かけて行きました。確かに、ヨハネがわたしについて語ることは、何もかもほんとうのことです。 34 しかし、わたしについての最高の証言は、人間の証言ではありません。ただ、ヨハネの証言のことを思い出させたのは、わたしを信じて救われてほしい一心からです。 35 なるほどヨハネはしばらくの間、ひとときわ明るく輝き、あなたがたもそれを喜びました。

36 しかし、わたしには、ヨハネの証言よりも、もっとすぐれた証言があります。それは、わたしの行なう奇蹟です。これらの奇蹟は、父がわたしに託されたもので、父がわたしをお遣わしになったという、動かぬ証拠なのです。 37 また、父もおん自ら、直接あなたがたに姿を現わしたり、語りかけたりはなさいませんが、わたしのことを証言しておられます。 38 ところがどうです。あなたがたは、父のことばを聞こうとしません。神のことづけを伝えるために遣わされたわたしを、信じないのですから。

39 あなたがたは、永遠のいのちを見つけようと、熱心に聖書を調べています。その聖書は、わたしを指し示しているのです。 40 それなのにあなたがたは、わたしのところに来ようともしません。ですから、永遠のいのちを受けることができないのです。

41 42 あなたがたがわたしを認めようが認めまいが、そんなことはどうでもいいことで

す。あなたがたのうちには神の愛がないのですから。 43 わたしは父の代理として来たのに、あなたがたは喜んで迎えてはくれません。ところが、ほかの人が、神から遣わされたのでもなく、ただ自分の権威を引っ下げて来ると、待ってましたとばかり、手をたたいて迎えるのです。 44 もっとも、あなたがたが信じられないのも、むりはありません。互いにほめたり、ほめられたりすることは喜んで、ただ一人の神からほめていただくことなどまるで関心がないのですから。

45 しかし、このことでああなたがたを父に訴えるのは、わたしではありません。それはモーセです。あなたがたはモーセのおきてにひたすら天国への望みをかけていますが、おきてを与えた当のモーセが訴えるのです。 46 それもみな、あなたがたがほんとうはモーセを信じていないからです。モーセはわたしのことを書いたのです。そのモーセを信じないから、わたしをも信じないのです。 47 モーセの書いたものを信じないくらいだから、わたしを信じないのも不思議はありません。」

・

六

天からのパンであるイエス

1 その後、イエスはテベリヤ湖とも呼ばれるガリラヤ湖の向こう岸に行かれました。 2 - 5 大ぜいの群衆が、どこまでもあとについて行きました。イエスが病人を治されるのを見たからです。人々の多くは、年一度の過越の祭りのため、エルサレムへ行く途中でした。

イエスが丘に登り、弟子たちといっしょに腰をおろされると、大ぜいの群衆も、追いかけるように、あとからあとから丘に登って来ます。

その様子をながめながら、イエスはピリポにお尋ねになりました。「ピリポ。この人たち全部に食べさせるには、どこからパンを買ってきたらいいのでしょうか。」 6 もっとも、これは、ピリポを試しただけで、どうするかは、もうとつくに決めておられたのです。

7 ピリポは、「こんなに大ぜいじゃ、ひと財産あっても、まだ足りないでしょうね」と答えました。

8 シモン・ペテロの兄弟アンデレが口をはさみました。 9 「この子が、大麦のパンを五つと魚を二匹持ってますよ。でもなあ、こんなに大ぜいじゃ、焼け石に水かな？」

10 イエスは、「さあ、みんなを座らせなさい」とお命じになりました。男だけでも五千人はいたでしょうか。それが全員、草の生えた斜面に、どやどや腰をおろしました。

11 そこで、イエスはパンを取り、神に感謝の祈りをささげてから、人々にお配りになりました。また魚も同様になさいました。みんなほしただけ食べて、お腹はいっぱいです。

12 イエスは弟子たちに言われました。「さあ、少しもむだにしないよう、パンくずを集めなさい。」 13 残り物を集めると、なんと十二のかごにいっぱいです。

14 それを見た人々は、どんなにすばらしい奇蹟が起こったのか初めて気づき、口々に、

「この方こそ、待ちに待ったあの預言者様だっ！ 絶対にまちがいない！」と叫びました。

15 人々は熱狂して、むりやりにでも、イエスを王にまつり上げかねない勢いです。イエスはそっと抜け出し、ただ一人、山に登って行かれました。

16 その日の夕方、弟子たちは湖の岸辺に降りて行きました。17 もう暗くなったのに、イエスはまだ戻られません。そこで舟に乗り込み、カペナウムに向けて湖を渡り始めました。

18 19 ところが、しばらくこいで行くうちに、風が出てきました。風はびゅうびゅう吹きまくり、湖も荒れだしました。それも、だんだんひどくなる一方です。四、五キロほどもこぎ出したのでしょうか。ふと見ると、イエスが舟のほうに歩いて来られます。あまりの恐ろしさに、ただもう震え上がるばかりです。20 イエスが、「こわがることはありません」と声をおかけになると、21 やっと気を取り直し、うれしそうにイエスを舟にお乗せしました。するとどうでしょう。舟はすぐに目ざす地に着いたのです。

22 朝になりました。湖のこちら側では、大ぜいの人々が、イエスに会おうと集まって来ました。昨日、イエスをあとに残し、弟子たちだけが舟で出かけたことを知っていたからです。23 イエスが感謝の祈りをささげ、みんなでパンを食べた場所の近くに、テベリヤから数隻の小舟が来ていました。24 イエスも弟子たちも、そこにはいないとわかると、人々は、その舟に乗り込み、イエスを捜してカペナウムまで来ました。

25 そしてイエスを見つけると、さっそく、「先生。いったいどうやって、ここまでおいでになったのです？」と尋ねました。26 「いいですか。あなたがたがわたしのそばにいたがるのは、わたしを信じているからではありません。パンを食べさせてあげたからですね。27 食べ物みたいになくなってしまうものに、心を奪われてはいけません。それよりも、永遠のいのちを手に入れる努力をなさい。メシヤ（救い主）のわたしは、それをあげるのです。そのためにこそ、父なる神は、わたしをお遣わしになったのですから。」

28 「神様に満足していただくには、どうしたらいいんでしょうか。」

29 「神が遣わされた者を信じることです。それこそ、神が望んでおられることです。」

30 31 「あなた様がメシヤなら、その証拠に、もっといろいろな奇蹟を見せてください。そう、毎日ただでパンを下さるとか……。ちょうど先祖たちが荒野を旅した時、毎日パンをもらったようにね。『モーセは天からのパンを彼らに与えた』と聖書（旧約）に書いてあるでしょう。」

32 「そのパンを与えたのは、モーセではありません。わたしの父です。そして今、父はあなたがたに、天からのほんとうのパンを下さるおつもりです。33 ほんとうのパンとは、神から遣わされて天から来た、一人の方のことです。その方が、世の人々にいのちを与えるのです。」

34 「先生。ぜひそのパンを、一生の間、毎日下さい。」

35 「わたしが、そのいのちのパンなのです。わたしのところに来る人は、二度と飢

えることはありません。 わたしを信じる人は、決して渴くことはありません。 36と
ころがあなたがたときたら、どうでしょう。 前にも言ったように、わたしを見ながら信
じないのですから。 全く困った人たちです。 37けれども、父が与えてくださった人
は、わたしのところに来ます。 そういう人を拒むようなことは絶対にしません。 38
わたしが天から下って来たのは、自分の思いのままにするためではなく、神の意志どおり
に行なうためだからです。 39神が与えてくださったすべての人を、一人も失わないよ
うに守り、終わりの日に永遠のいのちに復活させるのです。 40事実、父は、子を信じ
る者がみな、永遠のいのちを得、終わりの日に、復活することを願っておられるのです。」
41 ユダヤ人たちは、イエスが「わたしは天から下って来たパンです」とはっきり言わ
れたので、ぶつぶつ文句を言い始めました。

42 「何だって！ たかがヨセフの息子イエスじゃないか。 父親も母親もいやという
ほど知ってらあ。なのに、『わたしは天から下って来た』などと、とんでもないことをぬ
かしやがって」と彼らは叫びました。

43 イエスはお答えになりました。 「わたしの言ったことでぶつぶつ言い合うのはや
めなさい。 44わたしをお遣わしになった父が引き寄せてくださらない限り、だれもわ
たしのところへは来られません。わたしのところに来る者を一人残らず、わたしは終わり
の日に復活させるのです。 45聖書（旧約）には、『彼らはみな神によって教えられる』
と書いてあります。 父の語ることばを聞き、父から真理を学んだ人たちは、わたしのと
ころへ来ます。 46実際に父を見た者は一人もいません。 ただわたしだけが、この目
で父を見たのです。

47 よく言っておきます。 わたしを信じている人はだれでも、すでに永遠のいのちを
得ているのです。 48そうです、わたしが、いのちのパンなのです。 49あなたがた
の先祖は、荒野で、空から降って来たパンを食べましたが、結局はみな死んでしまいまし
た。 50けれども、天から下って来たパンは違います。 それを食べる人は永遠のいの
ちをいただくのです。 51わたしが、その、天から下って来た、いのちのパンです。 こ
のパンを食べる人はだれでも、永遠に生きます。 このパンは、人類の救いのためにささ
げる、わたしの体なのです。」

52 ユダヤ人たちは、イエスはいったい何を言っているのかと、あれこれ議論し始めま
した。 「なんてことを言うんだ。 自分の体を、食べさせるんだってさ。 そんなこと
できるもんか。」

53 そこでイエスは、またお話しになりました。 「よく言っておきます。 メシヤの
肉を食べ、その血を飲まなければ、永遠のいのちを得ることはできません。 54けれど
も、わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む人はみな、永遠のいのちがあります。 わたし
は終わりの日に、その人を復活させます。 55わたしの肉はほんとうの食べ物、わたし
の血はほんとうの飲み物です。 56わたしの肉を食べ、わたしの血を飲む人はみな、わ
たしのうちにとどまり、わたしもその人のうちにとどまります。 57わたしは、わたし

をお遣わしになった、生ける神の力によって生きています。 同じように、わたしを食べる人は、わたしによって生きるのです。 58 わたしは、天から下って来たほんとうのパンです。 このパンを食べる人はみな、永遠に生きます。 空から降って来たパンを食べたのに死んでしまった先祖たちみたいに、死ぬことはありません。」 59 [以上は、イエスがカペナウムの会堂でなさったお話です。]

60 これには、弟子たちでさえ、思わず「なんてむずかしい話だ。 さっぱりわからない」とつぶやくほどでした。

61 それに気づいたイエスは、彼らにおっしゃいました。 「こんなことでつまづくのですか。 62 そんなことでは、メシヤのわたしが天に帰るのを見たら、いったいどう思うことでしょうか……。 63 いいですか。 ただ聖霊だけが、永遠のいのちを与えてくださいます。 肉体的にこの世に生まれただけでは、絶対に、永遠のいのちの贈り物はいただけません。 いま話してあげたのは、まさにこのこと、どうしたら、ほんとうの霊的ないのちを、いただけるかということなのです。 64 だが残念なことに、あなたがたの中には、わたしを信じない者がいます。」 イエスは初めから、信じない者はだれか、裏切り者はだれかを、知っておられたのです。

65 イエスは先をお続けになりました。 『父が引き寄せてくださらない限り、だれもわたしのところへは来られません』と言ったのは、そういう意味なのです。」

66 この時から、大ぜいの弟子たちが、イエスとたもとを分かち、もはや行動を共にしませんでした。

67 そこでイエスは、十二人の弟子たちにも、「あなたがたは、まさか行ってしまわないでしょうね」とお尋ねになりました。

68 シモン・ペテロが、即座に答えました。 「何をおっしゃるんです、先生。 あなた様をさしおいて、ほかの人のところへ行くわけがないじゃありませんか！ 永遠のいのちを与えることばを握っているのは、あなた様だけなんですから。 69 私たちは、そのことばを信じておりますし、あなた様が神のきよい御子だということも、存じ上げております。」

70 「あなたがた十二人を選んだのはわたしです。 だが、なんということでしょう。 悪魔が一人まぎれ込んでいます。」 71 イエスが言われたのは、イスカリオテのシモンの子ユダのことでした。 ユダは、十二人の弟子の一人でありながら、イエスを裏切ろうとしていたのです。

七

仮庵の祭りにおけるイエス

1 このあと、イエスはガリラヤに行かれ、村から村を巡回なさいました。 ユダヤ人の指導者たちが命をつけねらっていたので、ユダヤ以外の地に身を避けようと思われたからです。 2 そうこうするうち、ユダヤの年ごとの祭りである仮庵の祭りが近づきました。

3 イエスの弟たちは、祭りのためにユダヤへ行くよう、しきりに勧めました。「もっと大ぜ

いの人が奇蹟を見ってくれるような所へ行ったらどうだい。 4 こんな所でくすぶってても有名にはなれないよ。 兄さんがそんなに偉いんだったら、世間の人に証明してみせなくっちゃ」と、半ばあざけるように言いました。 5 弟たちでさえ、イエスを信じていなかったのです。

6 「今はまだ、その時ではありません。 しかし、あなたがたはいつ行ってもいいし、いつ行こうが、別にかまいません。 7 世間の人に憎まれるはずありませんから。 だが、わたしは憎まれています。 彼らの痛いところを突くからです。 8 いいから、あなたがただけで行きなさい。 わたしは、行く時が来たら行きますから。」 9 こう言って、イエスはガリラヤに残っておられました。

10 しかし、弟たちが出かけたあと、人目を忍んでこっそりお出かけになったのです。

11 ユダヤ人の指導者たちは、祭りの間にイエスを見つけ出してやろうと思い、「だれかイエスを見かけた者はいないか」と、やつきになって尋ね回りました。 12 確かに、イエスのことはいろいろ話題になりました。 「あの方はすばらしい方だ」とほめる者もいれば、「いや、違う。 とんだ食わせ物だ」と非難する者もいます。 13 しかし、だれも指導者たちの仕返しを恐れ、表立ってうわさするほど大胆な人はいませんでした。

14 祭りも半ばになったころ、イエスは宮へ行き、おおびらに教え始められました。

15 それを聞いたユダヤ人の指導者たちは驚いて、「こいつは、一度も学校で学んだことがなくせに、どうして、こんなに深い知識を持ってるんだろう！」と言いました。

16 「わたしの教えは、自分で考え出したことではありません。 わたしをお遣わしになった神の教えなのです。 17 ほんとうに神の望まれるとおりのことをしようと思う人なら、わたしの教えが神から出たものか、あるいはわたしから出たものか、はっきりわかるはずです。 18 自分の意見だけをまくし立てる人は、実は、わが身がほめられたい一心なのです。 しかし、自分をお遣わしになった方の榮譽を求める人は、正直者です。 19 自分ではモーセのおきてを守らないのに、どうして、おきてを破ったと、わたしを非難するのですか。 どうして命までつけねらうのですか。」

20 群衆が答えました。 「おい、気でも変になったんじゃないか。 だれがあんたを殺そうってんだい？」

21 - 23 「わたしが安息日に病気の人を治したら、労働をしたと驚いています。 だが、あなたがたはどうでしょうか。 モーセのおきてどおりに割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を施すためには〔実際は、割礼の習慣はモーセのおきてより古くからあったのですが〕、安息日でも、平気で労働するではありませんか。 割礼の日がちょうど安息日にあたっても、別だん気にもかけず、あたりまえのように割礼を施しています。 それなら、安息日に病人を元気にしてやって、どこが悪いでしょうか？ 何を根拠にわたしを非難するのですか。 24 よく考えてみなさい。 わたしの言うことはまちがっているでしょうか？」

25 エルサレムの人々の間では、互いにこんなことが言い交わされていました。 「こ

の人は、連中が殺そうとねらってる人じゃないか。 26ところがさ、今ここで、おおっぴらに話をしてるってのに、だれも何も言わないんだからな。 指導者たちも、結局は、正真正銘のキリスト様だと認めちゃったのかね。 27だけども、この人がキリスト様のわけではないよ。 どの生まれか、身元が知れてるんだから。 キリスト様は、どこからともなく、突然、現われなさるはずだからね。」

28 イエスは宮で、大声をあげて教えられました。 「皆さん。 確かに、わたしの生まれも、育ちもはっきりしています。 しかしわたしは、あなたがたの全く知らない方の代理なのです。 その方は真実です。 29わたしはその方を知っています。 その方といっしょにいたのですから。 その方がわたしをお遣わしになったのです。」

30 ユダヤ人の指導者たちは、何とかしてイエスを逮捕しようと思いました。 しかし、実際に手を出す者は一人もいません。 まだ、その時ではなかったのです。

31 宮にいた人々の多くは、イエスを信じ、「これだけの奇蹟をなさるからには、やっぱりキリスト様じゃないだろうか」と言い合いました。

32 パリサイ人たちは、群衆がこう考えているとわかるや、祭司長たちとぐるになり、イエスを逮捕するために、役人を差し向けました。 33ところがイエスは、その人たちに言われました。 「まだその時ではありません。 もうしばらく、ここにいます。 そのあとで、わたしをお遣わしになった方のところに帰るのです。 34その時には、わたしを捜しても、見つけることはできません。 また、わたしのいる所に来ることもできません。」

35 このことばに、ユダヤ人の指導者たちはすっかり面食らいました。「こいつは、いったいどこへ行くつもりだろう。 もしかしたら、ユダヤを出て、外地のユダヤ人や、あるいは、ひょっとして外国人に教えを伝えようとでも考えてるのかもしれないな。 36だが、捜しても見つけだせないとは、どういうことだろう。 それに、『わたしのいる所に来ることができない』とも言ったが、何のことやらまるで見当もつかない。」

37 祭りの最後の一番大切な日に、イエスは大声で群衆に語りかけました。 「だれでも、のどが渇いているなら、わたしのところへ来て飲みなさい。 38わたしを信じれば、心の奥底からいのちの水の川が流れ出ると、聖書（旧約）に、はっきり書いてあるでしょう！」 39「イエスは聖霊のことを言われたのです。 御霊は、イエスを信じる人すべてに与えられることになっていましたが、この時はまだでした。 イエスが、天にある栄光の座に戻っておられなかったからです。」

40 イエスがこう言われるのを聞いて、群衆のうちのある者は、「この人は、確かに、キリスト様のすぐ前に来るという、あの預言者だ！」と、確信をもって言いました。 41 42「この方こそキリスト様だ！」と言いきる者もいました。 しかし、「いや、そんなはずはない。 まさかガリラヤみたいな所からキリスト様は出ないだろうよ。キリスト様は、れっきとしたダビデ王の血筋で、ダビデ王の生地ベツレヘムの村に生まれると、聖書（旧約）に、はっきり書いてあるんだからな」と主張する者まで現われました。 43こんな

ぐあい、イエスについての意見はまちまちでした。 44 中には、逮捕したいと思う者さえいましたが、手を出すまでには至りませんでした。

45 イエスの逮捕に向かった宮の警備員たちは、すごすごと祭司長やパリサイ人たちのところに戻るほかありません。 「どうして、やつをつかまえて来なかったのかっ！」彼らはきびしく問いました。

46 警備員たちは、口ごもりながら答えました。 「は、はい。 でも、あの人の話すことが、とてもすばらしくて……。 なにせ、これまで聞いたこともないようなお話なんですから。」

47 これを聞くと、パリサイ人たちはあざ笑いました。 「さては、おまえたちも惑わされたな。 48 われわれユダヤ人の議員やパリサイ人の中で、あいつをメシヤ（救い主）だと信じてる者が、一人でもいるか？ 49 そりゃあ、無知な連中は頭から信じきってるかしらんがね。 だが、やつらに何がわかるか。 罰あたり者めが。」

50 その時、ニコデモが口を開きました。 「そうです。夜ひそかにイエスを訪ねた、あのユダヤ人の指導者です。」

51 「おことばですがね、取り調べもしないうちに、有罪だと決めるのは、合法的ではありませんな。」

52 「おや、あなたも卑しいガリラヤ人なんですか。 まあ、聖書（旧約）を調べることですな。 ガリラヤから預言者など出るはずがないことを、ご自分の目で確かめたらどうです。」

53 こうして、一同は散会し、めいめい家に帰りました。

八

赦された不倫の女

1 さて、イエスはオリーブ山に戻られましたが、 2 翌朝早く、また宮にお出かけになりました。 たちまち人々が押しかけ、黒山の人ばかりです。 イエスはゆっくり腰をおろし、話し始められました。 3 その最中に、ユダヤ人の指導者やパリサイ人が、寄ってたかって、一人の女を引っ立てて来ます。 彼らは、あつけにとられて見つめる人々の目の前に、女を突き出しました。

4 「先生。 この女を見てください。 不倫の現場でつかまったんですよ。 5 モーセの法律では、こういう不届き者は石で打ち殺すことになってますが、どうしたものでしょう。」

6 こう言ったのは、何かことばじりをとらえて、訴えてやろうという魂胆があったからです。 ところがイエスは、体をかがめ、指で地面に何か書いておられるだけです。 7 けれども、彼らは引き下がりません。 あくまで質問を続けます。 そこで、イエスは、ゆっくり体を起こし、「わかりました。 この女を石で打ち殺しなさい。 しかしいいのですか。 最初に石を投げるのは、今まで、一度も、罪を犯したことの無い者ですよ」と言われました。

8 そして、すぐにまた体をかがめ、地面に何か書きつけられました。 9すると、ユダヤ人の指導者もパリサイ人も、ばつが悪そうに、年長者から順に一人去り、二人去りして、とうとうイエスと女だけが、群衆の前に取り残されました。

10 イエスは体を起こし、女に言われました。「はて、あなたを訴えた人たちはどこにいますか。 罰する者は一人もいなかったのですか。」

11 「はい、先生。」

「そうですか。 わたしもあなたを罰しません。 さあ、行きなさい。 もう二度と罪を犯してはいけませんよ。」

世の光であるイエス

12 そのあとで、イエスは人々にお話しになりました。「わたしは世の光です。 わたしに従って来れば、暗やみでつまづくことはありません。 いのちの光が、あなたがたの進む道をあかあかと照らすからです。」

13 すると、パリサイ人たちがぶつぶつ文句を言いました。「自慢話もほどほどにしたらどうだい。 うそばかり並べ立てて！」

14 「わたしはありのままを言っているのです。 うそでも、でたらめでもありません。 自分がどこから来てどこへ行くか、よくわかっています。 ところがあなたがたは、全然わかりません。 15 事実を知らないで、判決を下しているのですから。 まあ今は、とやかく言うのはやめておきましょう。 16 しかし、あなたがたをさばいたとしても、わたしのさばきは、どこから見ても正しいのです。 わたしをお遣わしになった父がいつしよにさばいてくださるからです。 17 あなたがたの法律では、ある出来事について二人の証言が一致すれば、事実と認められることになっています。 18 だとしたら、わたしとわたしをお遣わしになった父とで、りっぱに二人の証人がそろいます。」

19 「じゃあ、そのお父上とやらはどこにいるんだい。」

「わたしのことを知らないから、父のこともわからないのです。わたしを知っていたら、父をも知っていたでしょうに。」

真理はあなたを自由にする

20 こうした話がなされたのは、宮の中の献金箱が置いてある所でした。 しかし、だれ一人、イエスを逮捕する者はいません。 まだ、その時ではなかったのです。

21 イエスはまた、こんな話もなさいました。「わたしはもうすぐ、いなくなります。 あなたがたは必死でわたしを捜しても、結局は、罪が赦されないまま死ぬのです。 わたしが行く所へは、来られません。」

22 ユダヤ人たちは、さっぱり、わけがわかりません。「この人は自殺でもするつもりなのかね。 彼が行く所へ私たちは行けない、とか何とか言ってたけど、いったい、どういうことだい」と首をかしげるばかりです。

23 そこでイエスは、言われました。「いいですか。 あなたがたは地上に生まれた者ですが、わたしは天から来た者です。 あなたがたはこの世の者ですが、わたしは違い

ます。 24 だから、『あなたがたは罪が赦されないまま死ぬ』と言ったのです。 わたしが神の子、メシヤ（救い主）であることを信じなければ、罪ののろいの下で、死ぬしかないからです。」

25 「あなたはいったい、どういう方なのですか。」

「そのことは、いつも、はっきり言っていたはずですよ。 26 あなたがたには非難したいことや、教えたいことが山ほどあります。 しかし、そうはしません。 ただ、わたしをお遣わしになった方から聞いたことだけを話してあげましょう。 その方は真実な方だからです。」 27 それでも彼らにはまだ、イエスが神のことを話しておられるのが、わかりませんでした。

28 「わたしを殺してはじめて、あなたがたは、わたしがメシヤと気づくでしょう。 そして、わたしが自分の考えではなく、父から教わったことを話したとわかるでしょう。 29 わたしをお遣わしになった方が、いつもいっしょにおられます。 わたしをお見捨てになることはありません。 いつもその方のお心にかなうことをするからです。」

30 31 この話を聞いたユダヤ人の指導者の多くは、イエスをメシヤと信じるようになりました。

その人たちにイエスは、「わたしが教えたとおりに生活すれば、ほんとうの弟子と言えます。

32 あなたがたは真理を知り、その真理があなたがたを自由にするのです」と言いました。

33 「おことばですが、私たちはれっきとしたアブラハムの子孫です。 これまで、だれの奴隷になったこともありません。 『自由にする』とはどういうことでしょう。」

34 「それは違います。 あなたがたは一人のこらず罪の奴隷なのです。 35 奴隷には何の権利也没有ありません。 しかし、息子は別です。 ありとあらゆる権利を持っています。 36 だから、神の子が自由にしてあげたら、それこそ、ほんとうに自由の身になるのです。 37 確かに、あなたがたはアブラハムの子孫です。 けれども、あなたがたの中には、わたしを殺そうとねらっている者がいるのです。 わたしのことばが、心にしっかり根を下ろしていないからです。 38 せっかく、わたしの父といっしょにいた時に見たことを話してあげても、あなたがたは、自分の父の言いつけに従っているだけです。」

39 「私たちの父はアブラハムです。」 彼らは、きっぱり言いきりました。

「いや、あなたがたの父がアブラハムだったら、彼の良い模範にならったはずですよ。 40 ところが、どうです。 反対にわたしを殺そうとしているではありませんか。 しかも、その理由がまるでおかしいのです。 わたしが神から聞いた真理を語ったからというのですから。 アブラハムなら、そんなことは絶対にしなかったでしょう。 41 そんなことをするのは、自分の父の言いつけに従っているからです。」

「私たちは私生児じゃありません。 私たちの真の父は、神ご自身ですよ。」

42 「ほんとうにそのとおりなら、わたしを愛したはずですよ。 わたしは神のもとから来たのですから。 自分の考えで、今、ここに、いるのではありません。 父が、ここにお遣わしになったのです。 43 まあ、わたしの言うことがわからないのも、むりはある

ません。理解できないようにされているのですから……。 44 あなたがたの父は悪魔です。悪魔の子が、悪魔の悪い行ないを喜んでまねても、不思議ではありません。悪魔は初めから人殺しで、真理をきらっています。悪魔のうちには真理の一かけらもありません。悪魔がうそをつくのは、しごく当然です。そもそも、うそつきの元祖なのですから。 45 だから、真理を語っても、あなたがたが信じてくれないのは、あたりまえです。

46 あなたがたのうち、だれが、たった一つでもわたしの罪を指摘できますか。できないでしょう。真理を話してあげるのに、なぜわたしを信じないのですか。 47 神の子供ならだれでも、神のおっしゃることを喜んで聞くはずですが、ところが、あなたがたは聞き従わないのですから、神の子供ではありません。」

48 「あんたはサマリヤ人だ！ よそ者だ！ 悪魔だっ！ そうとも、やっぱり悪魔に取りつかれてるんだ。」ユダヤ人の指導者たちはわめき立てました。

49 イエスは「いや、断じてそんなことはありません。わたしは父を尊敬しています。あなたがたはわたしを軽べつしているから、そんな誤解をするのです。 50 もっとも、敬意をはらってもらいたいとも思いませんが。ただ、神が、わたしの名誉のために、わたしを受け入れない人々をおさばきになるのです。 51 よく言っておきましょう。わたしに従う者は、いつまでも死なないのです」と言われました。

52 「あんたが悪霊に取りつかれていることが、はっきりした。アブラハムも、偉大な預言者たちも死んだのだ。なのに、『わたしに従う者は死なない』などと、よく言うよ。

53 ええっ、どうなんだい。ご先祖のアブラハム様よりもお偉いのかい。アブラハム様は死んだろうが。それとも、あの預言者たちよりも偉いとでも？ その預言者たちも死んだがね。いったい何様だと思ってるんだい。」

54 イエスは、言われました。「わたしがただ自慢しているだけなら、全くむなしいものです。しかし、わたしに栄光を与えてくださるのは、父なのです。この方を、あなたがたは『私たちの神様』と呼んでいます。

55 そう呼びながら、実はこの方を知りもしません。わたしはよく知っています。知らないなどと言ったら、それこそ、あなたがた同様、大うそつきになります。わたしがこの方を知り、この方に全く従っているというのはほんとうです。 56 あなたがたの先祖アブラハムは、わたしの日を思いやって喜びにあふれました。わたしが来るとわかったからです。」

57 「へえーっ、まだ五十にもなってないあんたがね……。さぞかしよく、アブラハム様を見たことだろうよ。」

58 「アブラハムが生まれるずっと前から、わたしはいたのです。これは、まぎれもない事実です。」

59 話がここまで来ると、もう堪忍袋の緒が切れました。ユダヤ人の指導者たちは、手に手に石をつかみ、今にもイエスを打ち殺さんばかりのけんまくです。しかし、イエ

スはすばやく身を避け、急いで宮を抜け出されました。

九

ただ、神の力が現わされるため

1 さて、道を歩いていた時のこと、イエスは生まれつきの盲人をごらんになりました。

2 弟子たちが尋ねました。「先生。 どうしてこの人は、生まれつき目が見えないのです？ 本人が罪を犯したからですか。 それとも両親が……？」

3 「いや、そのどちらでもありません。 ただ神の力が現わされるためです。 4 わたしたちはみな、わたしをお遣わしになった方からいただいた仕事を、急いでやり遂げなければなりません。 もうすぐ夜が来ます。 そうしたら、もう仕事はできないのですから。 5 だが、まだこの世にいる間は、わたしは、光を与え続けましょう。」

6 こう言われると、イエスは地面につばをし、泥をこね、それを盲人の目に塗って、 7 言われました。「さあ、シロアムの池に行って、洗い落としなさい」〔「シロアム」とは、「遣わされた者」の意味〕。 その方が言われたとおりにすると、どうでしょう。 ちゃんと見えるようになって戻って来たではありませんか！

8 近所の人や、彼が盲目のこじきだったことを知っている人はたまげ返り、「これが、あのこじきかい？」と口をそろえて叫びました。

9 こちらで「そうだ」と言えば、「いや、違う」と言う声も聞こえます。 みな、「あいつのはずはない。 だが実によく似てるな！」と思ったのです。

すると当のこじきが、「なに言ってんだい。 おれだよ」と言いました。

10 人々はあつけにとられながらも、「いったい全体どうしたんだい。 どうやって見えるようになったんだよ」と矢つぎばやに尋ねました。 何が起ったのか知りたくてたまらなかったのです。

11 その男は答えました。「イエスという方が、泥をこねて、目に塗り、『シロアムの池に行って、泥を洗い落としなさい』と言ったのさ。 それで、そのとおりにすると、見えるようになったんだよ。」

12 「その人は今どこにいるんだい。」

「さあ、知らないな。」

13 人々は、男をパリサイ人たちのところへ連れて行きました。 14 ところで、この日は、たまたま安息日でした。 15 パリサイ人たちに事の一部始終を尋ねられて、男は、イエスが目に塗った泥を洗い落とすと見えるようになったいきさつを、くわしく話しました。

16 パリサイ人のある者は、「そのイエスというやつは、神様から遣わされたんじゃないぞ。 安息日に仕事なんかしたんだからな」ときめつけます。

かと思うと、「だがな……、罪人にすぎない普通の人間に、こんな奇蹟が行なえるだろうか……」と疑問を投げかける者もいます。 意見は真つ二つに分かれました。

17 しかたなく、その盲目だった男に、「おまえの目を開けてくれた人のことをどう思う

か」と問いました。

「きっと神様が遣わした預言者ですよ」と男は答えました。

18 ユダヤ人の指導者たちは、この男が盲目だったことを、どうしても信じようとはしません。とうとう両親まで呼び出し、19確かめることにしました。「この男は息子だな。ほんとうに生まれつき見えなかったのか。だったら、どうして見えるようになった？」

20 「はい、確かに息子でございます。この子は生まれつき目が見えませんで……。

21 けれども、どうして見えるようになったのか、どなたがこれの目を開けてくださったのかは、少しも存じません。どうぞ本人からじかにお聞きくださいまし。もう一人前の大人ですから、自分で説明できるでしょう。」

22 23 こう言ったのは、ユダヤ人の指導者たちがこわかったからです。彼らはすでに、「イエスはメシヤ（救い主）だ」と言う者は、だれかれの区別なく会堂から除名すると公表していたのです。

24 指導者たちは、男をもう一度呼び寄せ、きつく申し渡しました。「イエスなんかじゃなく、神様をあがめなさい。やつは悪党だ。」

25 「さあ、あの方が善人か悪人かは、わかりませんがね。これだけは、はっきりしています。私は今まで見えなかったのに、今は見えるんです。」

26 「だが、あいつは何をした？ どうやっておまえの目を開けた？」

27 男はまたかと腹を立て、大声で言いました。「そのことは、もう話したではありませんか！ お聞きにならなかったのですか。もう一度言えとは、どういうことでしょう。あの方の弟子にでもなるおつもりで？」

28 こう言われて、指導者たちは男をののしりました。「なにっ、おまえこそあいつの弟子のくせに。われわれはモーセの弟子だ。29 神様はまちがいなく、モーセにお語りになった。だが、あいつはどここの馬の骨かわかるもんか！」

30 「これは驚きました。あの方は盲人の目を開けることができますんですよ。なのに、あの方のことは何も知らないとおっしゃる。31 神様は悪人の言うことはお聞きになりません。しかし、神様を礼拝し、お心にかなうことを行なう者には、耳を傾けてくださるんじゃないでしょうか。32 世の初めからこのかた、生まれつきの盲人の目を開けた人など、いたためしがありません。33 神様から遣わされた方でなければ、こんなことはできないはずです。」

34 こうまで言われては、もう我慢ができません。「このろくでなしめっ！ われわれを教えようとでもいうのかっ！」とどなりつけたあげく、男を追い出してしまいました。

35 そのいきさつを伝え聞いたイエスは、男をお捜しになり、見つけ出されると、「あなたはメシヤを信じますか」とお聞きになりました。

36 「先生。どなたがメシヤ様で？ 教えてください。ぜひ信じたいのです。」

37 「もうその人に会っているのですよ。あなたと話しているわたしがメシヤなので

す。」

38 「主よ。 信じます。」男はそう言って、イエスを礼拝しました。

39 すると、イエスは言われました。 「わたしがこの世に来たのは、心の目の見えな
い人を見えるようにするため、また、見えると思い込んでいる人に、実は盲目だといふこ
とを、わからせるためなのです。」

40 ちょうどその場に居合わせたパリサイ人たちが、けげんそうに尋ねました。 「な
んですか、じゃあ、私たちも盲目だと言うのか？」

41 「もしあなたがたが盲目だったら、罪に問われないですんだでしょう。 しかし、
何もかもわかっているとあくまで言いはるので、あなたがたの罪はそのまま残るのです。」

■

一〇

良い羊飼であるイエス

1 「よく言っておきます。 羊の囲いの中に、門から入らないで、柵を乗り越えて忍び
込む者は、強盗に違いありません。

2 羊飼いなら、堂々と門から入って来るはずですよ。 3 門番も羊飼いは門を開けてくれ
ます。 彼の声を聞くと、羊は回りに駆け寄って来ます。 羊飼いは一匹一匹自分の羊の
名を呼んで連れ出すのです。 4 先頭に立つのは羊飼いで、羊はそのあとについて行きます。
声を知っているからです。 5 知らない人にはついて行きません。 反対に逃げ出します。
聞き覚えのない声だからです。」

6 イエスがこのたとえ話をなさっても、聞いている人々には、どういう意味かさっぱり
わかりません。 7 そこで、イエスは説明なさいました。

「いいですか。 わたしが、羊の出入りする門なのです。 8 わたしより前に来た人々は
みな、どろぼうか強盗です。 ほんとうの羊は、彼らの言うことは聞きませんでした。 9
そう、わたしは門なのです。 この門から入る者は救われます。 また、安心して出入り
ができ、緑の牧草を見つけるのです。 10 強盗は、盗んだり、殺したり、滅ぼしたりす
るために来ます。 しかしわたしが来たのは、いのちを、あふれるほど豊かに与えるため
です。

11 わたしはまた、良い羊飼いです。 良い羊飼いは羊のためにはいのちも捨てます。

12 雇い人は、狼が来れば、羊など見向きもせず、自分だけ、すぐに逃げ出します。 羊
の持ち主でも、羊飼いでないからです。 こうして狼は羊にとびかかり、群れを追い散
らしてしまうのです。 13 雇い人は、ただ、お金で雇われているだけです。 羊のこ
とを、ほんとうに心にかけているわけではないので、平気で逃げってしまうのです。

14 わたしは良い羊飼いであり、自分の羊を知っています。 また羊もわたしを知って
います。 15 わたしの父がわたしを知っておられ、わたしも父を知っているのと同じで
す。 わたしは羊のためにいのちを捨てるのです。 16 このほかに、別の囲いにも羊が
います。 その羊をも導かなければなりません。 やがてその羊も、わたしの声に注意深

く聞き従い、一人の羊飼いのもとに一つの群れとなるのです。

17 わたしが、再びいのちを得るために、いのちを投げ出すからこそ、父はわたしを愛してくださいます。 18 だれもわたしの意に反して、わたしを殺すことはできません。自分から進んでいのちを捨てるのです。わたしには、いのちを自由に捨て、もう一度それを得る権威と力があるからです。父がこの権威を下さったのです。」

19 この話のことで、ユダヤ人の指導者たちの意見は、また真っ二つに分かれました。

20 「こいつは悪霊に取りつかれてるか、それとも気が変になってるかだ。こんなやつ言うことに耳を貸す必要なんかあるもんか」と息まく者があるかと思えば、 21 「いや、とても悪霊に取りつかれた者のことばとは思えないな。だいいち、悪霊に盲人の目を開けることなんかできるはずもないだろう」と言い返す者も出るというしまつです。

宮きよめの祭りにおけるイエス

22 23時は冬でした。宮きよめの祭りがあり、イエスもエルサレムにおられました。ちょうど、宮の中のソロモンの廊と呼ばれる所を歩いておられると、 24 ユダヤ人の指導者たちが来て、まわりを取り囲みました。「いつまで気をもませるつもりです？ キリスト様なら、はっきりそう言ったらいいでしょう。」

25 彼らの質問に、イエスはお答えになりました。「そのことだったら、もう話しました。もっとも、あなたがたは信じませんでした。父の御名によって、何度も奇蹟を行なったでしょう。証拠はそれで十分なはずです。 26 それでも、あなたがたはわたしを信じないのです。あなたがたはわたしの羊の群れに属さないのですから、しかたがありません。 27 わたしの羊はわたしの声を聞き分けます。わたしは彼らを知っているし、彼らもわたしにはついて来ます。 28 わたしは彼らに永遠のいのちを与えるのです。だから、絶対に滅びたりはしません。だれも、わたしの手から彼らを奪い取ることはできません。 29 父がわたしに下さった群れなのですから。父はだれよりも力があります。わたしの羊をさらうことなんか、だれにもできません。 30 わたしと父とは一つです。」

31 これを聞いて、ユダヤ人の指導者たちは、にわかに石をつかみました。イエスを打ち殺そうということです。

32 「わたしは、神の指図どおり、たくさんの奇蹟を行なって、人々を助けただけです。そのどこがいけなくて殺されなければならないのでしょうか？」

33 「なにも良い行ないを責めてるわけじゃない。神様を汚したからだ。ただの人間のくせに、神だなどとぬかしおって！」

34 「あなたがたの律法には、『わたしは言った。『あなたがたは神神だ』』と書いてあるではありませんか。 35 無効になることのありえない聖書が、神のことばを受けた人々を神々と呼んでいるのです。 36 とすれば、父がきよめ分かち、この世にお遣わしになった者が、『わたしは神の子だ』と言うのが、どうして神を汚すことになるのですか。

37 わたしが神の奇蹟を行なっていないのなら、わたしを信じなくてかまいません。 3

8しかし、もし神の奇蹟を行なっているのなら、わたしを信じないにしても、奇蹟そのものは信用しなさい。父がわたしのうちにおられ、わたしが父のうちにいることが、はっきりわかるでしょう。」

39 彼らが、またも逮捕しかねない勢いなので、イエスはうまくその場を切り抜けられ、エルサレムをあとになさいました。40そして、ヨルダン川を渡り、ヨハネが最初にバプテスマ（洗礼）を授けていたあたりにおられましたが、41ここでも、大ぜいの人が、あとからあとから詰めかけます。

彼らは口々に言いました。「ヨハネは一つも奇蹟を行なわなかったけど、この方について話したことは、何もかもそのとおりになったな。」42こうして、大ぜいの人が、イエスこそメシヤ（救い主）だと信じるようになったのです。

――

ラザロの死

12マリヤのことを覚えていますか。イエスの足に高価な香油を注ぎ、それを髪でぬぐったあの婦人です。さて、そのマリヤの兄弟ラザロが病気になりました。彼と、マリヤ、その姉のマルタはいっしょにベタニヤに住んでいました。3マルタとマリヤはイエスのもとに使いをよこしました。「先生。あなた様が目をかけてくださったラザロが重い病気にかかり、明日をも知れない状態です。」

4 この知らせを聞いたイエスは、言われました。「この病気は、ラザロが死んで、それで終わりということにはなりません。神の栄光が現わされるためですから。神の子のわたしが、栄光を受けるのです。」

5 イエスは、マルタたち三人を心から愛しておられました。6けれども、なぜか、なお二日間そこにいて、なかなか腰を上げようとはなさいません。7二日たって、ようやく、「さあ、ユダヤに行きましょう」と、弟子たちに言われました。

8 ところが、もうれつな反対が返ってきたのです。「なんてことを、先生！つい先日、ユダヤ人の指導者たちが、先生を殺そうとしたのをお忘れですか！なのに、また、このこと出かけて行くなんて全く非常識です。」

9 「昼間は十二時間あります。その間に歩けば、安全で、つまづくこともありません。

10ところが、夜歩いたらとても危険です。暗くて、足を踏みはずすかもしれませんから。」イエスはこうお答えになってから、11さらに続けられました。「友達のラザロが眠っています。彼を起こしに行かなくては。」

1213これを、ラザロが夜ぐっすり眠れたものと勘違いした弟子たちは、「じゃあ、病状はよくなってるんですね」と聞き返しました。しかしイエスは、ラザロは死んだと言われたのです。

14 そこで、今度は、はっきりとおっしゃいました。「ラザロは死んだのです。15わたしがその場に居合わせなくてよかったのです。これでまた、あなたがたがわたしを信じる機会が増えるのですから。さあ、彼のところへ出かけましょう。」

16 ここで、「ふたご」とあだ名されているトマスが、「おい、みんなで行ってさ、先生とごいっしょに死のうじゃないか」と、仲間の弟子たちに誘いかけました。

17 一行がベタニヤに着いてみると、もう手遅れでした。ラザロはすでに墓に葬られ、四日にもなるというのです。18 ベタニヤは、エルサレムからわずか三キロほどの所でしたので、19 ユダヤ人たちが大ぜい、お悔やみに詰めかけていました。マルタとマリヤが慰めのことばを受けているところへ、20 イエスのおいでが知らされました。マルタはそれを聞くと、取る物も取りあえず、迎えに駆けつけました。ところが、マリヤは家の中にじっと座ったままでした。

21 マルタはイエスに訴えました。「先生！ あなた様が、あなた様さえいてくださったら、ラザロは死なずにすみましたものを……。22 でも、まだ遅くはありません。あなた様が神様にお願いしてくだされば、生き返らせていただけますもの……。」

23 イエスは言われました。「そのとおりです。ラザロは生き返るのです。」

24 「はい。いつかすべての人が復活する日には、もちろん……。」

25 「このわたしが、死人を生き返らせ、もう一度いのちを与えるのです。わたしを信じる者は、たといほかの人と同じように死んでも、また生きるのです。26 わたしを信じて永遠のいのちを持っているからです。滅びることなど絶対にありません。このことを信じますか、マルタ。」

27 「はい、先生。あなた様こそ、長いあいだ待ち続けてきた神の子キリストだと、信じております。」

28 マルタは、家に戻り、マリヤをわきへ呼んでそっと耳うちしました。「先生がね、すぐそこまでおいでになって、あんたに会いたいって言ってらしたわよ。」29 そこでマリヤは、すぐにイエスのところへ出かけて行きました。

イエス、ラザロを生き返らす

30 さて、イエスはまだ村に入らず、マルタが出迎えた場所におられました。31 マリヤを慰めていたユダヤ人たちは、彼女がそそくさと出て行くのを見て、きっと墓へ泣きに行くのだらうと思って、あとについて行きました。

32 マリヤは、イエスのところまで来ると、くずおれるように足もとにひれ伏し、涙ながらに言いました。「ああ、先生……。あなた様さえいてくださったら、ラザロは、ラザロはまだ生きて……。」

33 イエスは、目の前でマリヤが泣き伏し、ユダヤ人たちもいっしょに嘆き悲しんでいるのに強く心を打たれ、動揺なされた様子です。34 「ところで、ラザロの墓は？」とおっしゃいました。

「来て、ごらんください。」35 イエスの目に涙があふれました。

36 「お気の毒になあ、心底ラザロを愛しておられたんだよ。二人はほんとうに親しかったのだ。」ユダヤ人たちはこう言い合いました。

37 しかし、中には、「盲人の目を開けたこの人でも、ラザロを生かしておくことはでき

なかったのかね」と、非難がましく言う人もいました。 38 これを聞いたイエスは、まとも心に深い憤りをお感じになりました。 墓に着きました。 それはほら穴で、入口には重い石が立てかけてあります。

39 「さあ、石をわきにどけなさい。」イエスは人々をうながされました。マルタがあわてて押しとどめました。 「でも、もうひどいにおいがしてますわ。 なにしろ、死んでから今日で四日ですもの。」

40 イエスは、マルタにおっしゃいました。 「もし信じるなら、神のすばらしい奇蹟を見る、と言ったはずですよ。」

41 人々は言われるままに石を取りのけました。 イエスは天を見上げ、「父よ。 願いを聞いてくださってありがとうございます。 42 もちろん、いつも聞いてくださることはわかっています。 ただ、ここに立っているみんなにもわかるように、こう申し上げたのです。 あなたがわたしをお遣わしになったことを、信じてもらいたいからです」と祈られました。 43 それから、大声で、「ラザロよ。 出て来なさいっ！」とお命じになりました。

44 すると、どうでしょう。 布でぐるぐる巻かれた姿のまま、ラザロが出て来たではありませんか！ 顔も布で包まれたままです。 イエスはあっけにとられている人々に言われました。 「さあ、早く布をほどいてやって、帰らせなさい。」

45 マリヤについて来て、この出来事を見た大ぜいのユダヤ人も、ついにイエスを信じるようになりました。 46 しかし、パリサイ人たちのところへ行き、事細かに、このことを報告する者も何人かいました。

47 そこで、祭司長やパリサイ人たちは、この問題を協議するため、さっそく議会を召集したのです。 たいへんな議論になりました。 「あいつが確かに奇蹟を行なっているというのに、いったい何をぐずぐずしているのか。 48 あいつをこのまま放っておいてみる。 国民一人残らずあいつを信じるようになってしまうぞ。 そんなことにでもなったら、取り返しがつかない。 ローマ軍が踏み込んで来て、われわれを殺し、ユダヤ政府を乗っ取るだろう。」

49 すると、その年の大祭司カヤパが、業をにやして言いました。「ばかを言うな。 こんなこともわからないのか。 50 全国民の代わりに、やつ一人に死んでもらえば事はすむのだ。 国民全体が減じるなんて、冗談じゃない。」

51 イエスが全国民の代わりに死ぬことを、ほかでもない大祭司カヤパが預言したのです。 カヤパは、自分で考えたものではありません。 そう言うように、聖霊に導かれたのです。 52 これは、イエスが、イスラエル人ばかりか、世界中に散らされているすべての神の子供たちのためにも死んでくださるという預言でした。 53 この時から、ユダヤ人の指導者たちは、イエスを殺す、うまい計画をあれこれ練り始めました。

54 そんなこともあって、イエスは、人前でおおっぴらに活動するのをやめ、エルサレムをあとにされました。 そして、荒野に近いエフライムの村で、しばらく弟子たちと共

に身を潜めておられました。

55 ユダヤ人の過越の祭りが近づきました。この時は、大ぜいの人各地からエルサレムに集まります。みな祭りの始まる前にきよめの儀式をすませようと、数日前には着くように出かけて来るのです。56 人々はイエスに会いたいと思いました。宮のあちこちで、「どうだろうね。あの方は、祭りにいらっしゃるかな」と、しきりにうわさし合う声が聞こえます。57 一方、祭司長やパリサイ人たちの頭には、イエスを逮捕することしかありません。「イエスを見かけた者は、直ちに届け出よ」という命令を出していました。

一二

イエスに香油を注ぐマリヤ

1 過越の祭りの始まる六日前に、イエスはベタニヤにお着きになりました。いつか生き返らせてやった、あのラザロがいる村です。2 さっそく晚餐が用意されました。マルタは給仕にいとまがありません。ラザロはイエスといっしょに食卓に着いています。3 そこへマリヤが、香油のつぼを手に入、入って来ました。それは、ナルドから作った純粋な香油で、とても高価なものです。マリヤはイエスのそばに歩み寄ると、驚いたことに、その香油をイエスの足に注いだのです。それから、ていねいに髪でぬぐいました。たちまち家中にすばらしい香りがたちこめました。

4 ところが、弟子の一人で、イエスを裏切ろうとしていたイスカリオテのユダが、非難がましく言いました。5 「やれやれ、この香油はひと財産ものだよ。売って、その代金を貧しい人たちに恵んでやればよさそうなものなのに。全くもったいない話だ。」6 こう言ったのは、貧しい人たちのことを心にかけていたからではありません。仲間の会計をいっさい任されているのをいいことに、使い込みを重ねていたからです。

7 イエスはお答えになりました。「したいようにさせておきなさい。マリヤは、わたしの葬りの準備をしてくれたのです。8 貧しい人たちは、いつでも助けてあげられます。だが、わたしはもう、それほど長くいっしょにはいられないのですから。」

9 エルサレムの市民は、イエスがおられると聞いて、どっとラザロの家に押しかけました。イエスに会うためばかりではありません。一度死んで生き返ったラザロを、一目見たいとも思ったのです。10 これには、祭司長たちも頭をかかえ込み、いっそのことラザロも殺してしまおうと相談しました。11 ラザロのことで、大ぜいのユダヤ人がユダヤ教から離れ去り、イエスをメシヤ（救い主）と信じるようになったからです。

エルサレムにおけるイエスの最後の宣教

12 翌日、イエスがエルサレムに向かわれるというニュースが町中に広まりました。過越の祭りで上京した人々は、13 「それ、イエス様をお迎えしろ」と、手に手にしゅろの枝を振りかざして駆けつけます。沿道はたちまち人の波、波、波……。あちこちで大歓声が上がります。

「救い主様一つ！

イスラエルの王様ばんざーいっ！

神の大使ばんざーいっ！」

14 イエスはろばの子に乗っておられました。 こうして、預言どおりのことが起こったのです。

15 「イスラエルの民よ。

あなたがたの王を恐れるな。

王は柔和で、ろばの子に乗って、

来られるのだから。」

16 「この時、弟子たちにはまだ、この出来事が預言どおりに起こったとは、思えませんでした。 しかし、イエスが天にある栄光の座に帰られたあと、「そういえば、あの事も聖書にあるとおりだった。 この事も預言どおりだった」と、一つ一つ思い当たることばかりでした。」

17 群衆の中には、イエスがラザロを生き返らせる現場を目撃した人たちの顔もちらほら見られます。 彼らは事件の一部始終をふれ回っていました。 18 こんなに大ぜいの人がイエスを出迎えたのも、実を言えば、そのすばらしい奇蹟のことを聞いたからなのです。

19 この有様に、パリサイ人たちは、とうとうやけを起こしてしまいました。 「なんてことだっ！ 見ろ。 みんな、あいつについて行ったじゃないかっ！」

20 さて、過越の祭りに加わろうと、エルサレムに来ていた数人のギリシヤ人が、 21 ベツサイダ出身のピリポのところへ来て、「先生。ぜひともイエス様にお会いしたいのですが」と頼み込みました。 22 ピリポはアンデレにそのことを話し、二人でお願いしようということになりました。

23 イエスはお答えになりました。 「いよいよ、わたしが天にある栄光の座に帰る時が来たのです。 24 よく言っておきます。 畑にまかれる一粒の麦のように、わたしも地に落ちて死ななければなりません。 そうしなければ、いつまでたっても、一人のまま、一粒の種のままです。 だが、死ねば、多くの新しい実が生じ、新しいいのちが豊かに実を結ぶことになります。 25 この地上のいのちを愛するなら、結局はそれを失うだけです。 しかし、地上のいのちに執着しなければ、代わりに永遠の栄光を受けるのです。

26 わたしの弟子になりたい者は、ついて来なさい。 わたしに仕える者は、わたしのいる所にいなければならないのですから。 わたしに従う者を、父は重んじてくださるのです。 27 だが、今いったい、わたしはどうしたらいいのでしょうか……。 『父よ。行く手に待ちかまえていることからお救いください』と祈るべきでしょうか。 ああ、だが、このために、このためにこそ、わたしは来たのです……。 28 父よ。 どうぞあなたの栄光を現わし、あなたの名が、あがめられるようにしてください！」

その時、天から声が聞こえました。 「わたしはすでにそうしたし、また、もう一度そうしよう。」

29 この声を聞いた群衆はかつてに想像をめぐらし、「雷が鳴ったのだ」と思う者もあれば、「御使いが語りかけたのだ」と言いはる者もいるというしまつでした。

30 そこで、イエスは群衆に言われました。「この声が聞こえたのは、わたしのためではありません。あなたがたのためです。31 さばきの時が来ています。この世の支配者サタンは追い出されるのです。32 わたしは十字架の上に上げられる時、すべての人をわたしのもとの引き寄せましょう。」33 こう言われたのは、自分がどのような死に方をするかを示されるためでした。

34 「あなた様が死ぬですって？ メシヤ（救い主）様は永遠に生きていて、絶対に死んだりなさらないものと思っておりましたのに。 どうして、そんなことをおっしゃるのです？ いったいどんなメシヤ様のことを言っておられるのですか。」

35 「もうほんのしばらくの間、わたしの光はあなたがたのために輝いています。 光のある間に光の中を歩きなさい。 暗やみが襲って来る前に、行こうと思う所に行きなさい。 襲って来てからでは遅すぎます。 道を見つけることもできません。36 まだ時間のある間に、光を十分に用いなさい。 そうすれば、光の子になれるのです。」イエスは、こう話し終えられると、そこを立ち去り、身を隠されました。

37 ところが、イエスがあれほど多くの奇蹟をなさったにもかかわらず、大部分の人は、イエスをメシヤとは信じませんでした。38 まさに、イザヤが預言したとおりです。「主よ。 だれが私たちのことばを信じるのですか。 だれが、神様の力強い奇蹟を、証拠と認めるのですか。」39 人々は信じることができませんでした。 イザヤは次のようにも言っています。40 「神は彼らの目を盲目に、心をかたくなにされた。 彼らが見ることも、理解することも、わたしのもとの立ち返っていやされることもないためだ。」41 この預言は、イエスのことを指しています。 イザヤは、メシヤの栄光の幻を見て預言したからです。

42 それでも、だれも信じなかったというわけではありません。 ユダヤ人の指導者の中にさえ、イエスをメシヤと信じる者がかなりいました。 ただ、パリサイ人たちに会堂から除名されるのがこわくて、そのことを打ち明ける気になれなかったのです。43 神にほめていただくことよりも、人にほめられることのほうを重んじたからです。

44 イエスは大声で、群衆に語りかけました。「わたしを信じて任せきる人は、ほんとうの意味で神を信じているのです。45 わたしを見るのは、わたしをお遣わしになった方を見るのと同じだからです。46 わたしは、この暗い世に輝く光として来ました。 わたしを信じる人がだれも、もはや暗やみの中をさまようことのないためです。47 わたしのことばを聞きながら従おうとしない人がいても、あえてさばきはしません。 わたしが来たのは、世の人々を救うためで、さばくためではないからです。48 しかし、わたしを退け、わたしの言うことを受け入れないすべての人をさばくものがあります。 わたしの語った真理が、終わりのさばきの日に、その人をさばくのです。49 その真理は、わたしがかつてに考え出したことではなく、父が語れとお命じになったことだからです。

50 神の命令は、人を永遠のいのちに導きます。 だから、神が語れと言われたことを、何でもそのとおりに語っているのです。」

一三

イエス、弟子の足を洗う

1 過越の祭りの前に、イエスは、いよいよ、この世を去って父のもとに帰る最後の時が来たと覚悟を決め、弟子たちを最後まで徹底的に愛しとおされました。 2 夕食の間のことです。 悪魔はすでに、シモンの子、イスカリオテのユダに、今夜こそ、かねてからの計画を実行に移す絶好の時だという考えを、吹き込んでいました。 3 イエスは、父がすべてのものを与えてくださったことと、自分が神のもとから来て、また神のもとに帰ろうとしていることを知り、 4 夕食の席から、ゆっくり立ち上がられ、上着を脱ぎ、手ぬぐいを取って腰に巻かれました。 5 そして、たらいに水を入れ、弟子たち一人一人の足を洗い、腰の手ぬぐいでふき始められたのです。

6 シモン・ペテロの番になりました。 ペテロは言いました。 「主よ。 足を洗っていただくなど、もったいなくてとてもできません。」

7 「なぜこんなことをするのか、今はわからないでしょう。 だが、あとでわかるようになります。」

8 「いいえ。 わからなくてもけっこうです。 どうかもう、おやめください」とペテロは言いひります。

「だが、足を洗ってあげなければ、わたしの仲間にはなれません。」

9 これには、ペテロもすっかりあわてて、「そ、それなら、足だけとおっしゃらず、手も、それに頭も！」と叫びました。

10 「水浴した者は、足だけ洗えば、全身きれいになります。 今あなたがたはきれいなのです。 もっとも、みんながみんな、というわけではありませんが。」 11 イエスは、だれが裏切り者かちゃんとお見通しだったので、「みんながみんな、きれいなわけではありません」と言われたのです。

12 弟子たちの足を洗い終わると、また上着をきて、席に戻り、改めてお尋ねになりました。 「わたしのしたことがわかりますか。 13 あなたがたはわたしを『先生』とも『主』とも呼んでいます。 それはかまいません。 まさにそのとおりなのですから。 14 その、主でも先生でもあるわたしが足を洗ってあげたのですから、あなたがたも互いに足を洗い合いなさい。 15 わたしは模範を示したのです。 わたしがしたとおりに、あなたがたもしなさい。 16 使用人は主人より偉くはないし、遣わした本人より使者のほうが大物だということもありえません。 17 このことがわかったら、すぐ実行しなさい。 これこそ祝福される道です。

18 あなたがた全員に、こう言っているのではありません。 あなたがたを選んだのは、このわたしです。 ですから、一人一人がどんな人間かよく知っています。 聖書（旧約）には、『わたしと食事を共にしている者が、わたしを裏切る』とはっきり書いてあるでしょ

う。 いいですか。 まもなく、そのとおりのことが起こるのです。 19 今そのことを話しておきましょう。 その時になって、あなたがたがわたしを信じられるように。

20 よく言っておきます。 わたしが遣わす者を心から受け入れる人はだれでも、わたしを受け入れるのです。 そして、わたしを心から受け入れることは、わたしをお遣わしになった父を受け入れることなのです。」

新しい戒めを与えるイエス

21 ここでイエスは、込み上げる霊の悲しみを抑え、叫ばれました。「そうです。 まぎれもない事実なのです。 あなたがたのうちの一人が、わたしを裏切るのです！」 22 弟子たちは、だれのことか見当もつきません。 きょんととして顔を見合わせるばかりです。 23 ところで、私は日ごろから特に目をかけていただいていたので、食卓では先生の隣に座っていました。 24 だからでしょうか、シモン・ペテロが私に、「そんな恐ろしいことをしでかすのは、いったいだれか聞いてくれ」と合図を送ってきました。

25 そこで私は、先生に、「主よ。 だれがそんなことを？」と尋ねました。

26 「わたしが手ずからスープに浸したパンを与える者がそうです。」

こう言われると、イエスはパンを浸し、イスカリオテのシモンの子ユダに与えられたのです。

27 ユダがそのパンを口に入れるが早いか、サタンがユダの心に入り込みました。 そこで、イエスはユダに、「さあ、急いで、することをしなさい」と言われました。

28 食卓に着いているほかの者はみな、何のことやら、さっぱりわかりません。 29 ユダが一行の会計係だったので、おおかた、食べ物の代金の支払い、貧しい人々に金を恵むことぐらいだろう、と思った者もありました。 30 ユダはぱっと席を立つと、夜のやみに飛び出して行きました。

31 ユダが姿を消すとすぐ、イエスが言われました。「時が来ました。 神の栄光がわたしの回りに輝き渡るのも、時間の問題です。 同時にまた、わたしの身に起こるすべてのことゆえに、神も大いにほめたたえられるでしょう。 32 神はわたしに、ご自分の栄光を与えてくださるのです。 それも、すぐに。 33 心から愛してやまない子供たちよ。 ああ、もう時間がありません。 あなたがたを残して行かなければならないのです……。 その時には、いくらわたしを捜しても、わたしのところへ来ることはできません。 そう、ユダヤ人の指導者たちにも言っておいたとおりです。

34 そこで今、新しい戒めを与えましょう。 わたしがあなたがたを愛するように、互いに愛し合いなさい。 35 互いに心から愛し合うなら、わたしの弟子であることが、だれの目にもはっきりするのです。」

36 さっそく、シモン・ペテロが尋ねました。「主よ。 いったい、どこへいらっしゃるのですか？」

「あなたは、今はついて来れません。 しかし、ずっとあとになって、ついて来ます。」

37 「でも、どうしてですか。 どうして今はだめなのですか。 あなた様のためなら

死ぬ覚悟もできてます。」

38 「わたしのために死ぬ、と言うのですか。 いや違います。 そう言うあなたが、明日の朝、鶏が鳴く前に、三度、わたしを知らないと言いはるのです。」

一四

1 「どんなことがあっても、心配したりあわてたりしてはいけません。 神を信じ、何もかも、わたしに任せなさい。 2 父の住んでおられる所には、家がたくさんあります。 もしなかったら、はっきり言っておいたでしょう。 実を言えば、あなたがたを迎える家を準備しに行くのです。 3 すっかり準備ができれば、迎えに来ます。 わたしがいる所に、いつでも、いられるようにしてあげるためにです。

4 これだけ言えば、わたしがどこへ行くか、どうしたらそこへ行けるか、もうわかったでしょう。」

5 するとトマスが、言い返しました。 「いいえ、ちっともわかりません。 先生がどこへおいでになるのか、まるで見当もつきません。 まして、そこへ行く道など、どうしてわかりましょう。」

6 イエスはトマスにおっしゃいました。 「いいですか。 わたしが道です。 そして真理でもあり、いのちでもあります。 わたしを通らなければ、だれ一人、父のところへは行けません。 7 わたしがどういう者か知っていたら、わたしの父のこともわかったはずです。 今から、あなたがたは父を知る、というより、もうすでに父を見ているのです。」

8 今度はピリポが口をはさみました。 「先生。 あなたのお父様を見せてください。 それだけで十分ですから。」

9 「ピリポ。 こんなに長くいっしょにいるのに、わたしがどういう者か、まだわからないのですか。 わたしを見た者は、父を見たのです。 それなのにどうして父を見せてくださいなどと言うのですか。 10 わたしが父のうちにおり、父がわたしのうちにおられることを信じないのですか。 いいですか。 わたしは自分の考えを話しているのではありません。 わたしのうちに住んでおられる父の命じるままに話しているのです。 父は、わたしを通して、働きをなさいます。 11 わたしが父のうちにおり、父がわたしのうちにおられる、ただこのことを信じなさい。 もし信じられないなら、わたしが見せてあげた力ある奇蹟を思い出してごらんなさい。 そうしたら信じられるでしょう。

12 よく言っておきます。 わたしを信じる者はだれでも、わたしと同じ奇蹟を行なうばかりか、それよりもさらに大きな奇蹟さえ行なうのです。 わたしが父のもとに行くからです。 13 わたしの名を使って、父に願い求めなさい。 どんなことでもかまいません。 必ずかなえてあげます。 それもみな、父がほめたたえられるためです。 14 そうです。 わたしの名によって、どんなことでも願い求めなさい。 必ずかなえてあげます。

イエス、もう一人の助け主（聖霊）を送ると約束する

15 わたしを愛するなら、わたしの戒めを守りなさい。 16 父に、もう一人の助け主

を送っていただくよう、お願いしましょう。その助け主は、絶対にあなたがたを離れません。 17 その方とは聖霊、すなわち、すべての真理へと導いてくださる御霊のことです。世間の人は、この方を受け入れることはできません。この方を求めもしなければ、認めようとしませんからです。しかし、あなたがたはこの方を知っています。あなたがたと共に住み、あなたがたのうちにられるからです。 18 そうですとも。わたしがあなたがたを見捨てたり、嵐のまただ中に、孤児のように置き去りにしたりなどするものですか。必ずあなたがたのところに帰って来ます。 19 もうすぐ、わたしはこの世を去りますが、それでもなお、いっしょにいるのです。わたしは再び生き返り、あなたがたもいのちを受けるからです。 20 わたしが復活する時、あなたがたは、わたしが父のうちにおり、あなたがたが、わたしのうちにおり、またわたしが、あなたがたのうちにいることがわかります。 21 わたしに従い、わたしの戒めを守る人は、わたしを愛する人です。わたしを愛する人を、父は愛してくださいます。わたしもまたその人を愛し、わたし自身を現わします。」

22 ユダ〔イスカリオテのユダではなく、同名の他の弟子〕がイエスに、不思議そうに尋ねました。「先生。私たち弟子にだけ、ご自分を現わそうとなさって、世間の人に現わそうとなさらないのは、どうしてですか。」

23 イエスはお答えになりました。「わたしを愛し、わたしのことばを守る人にだけ、わたしは自分を現わすのです。父もまた、そういう人を愛してくださいます。わたしたちはその人のところに来て、その人といっしょに住みます。 24 わたしのことばを守らない人は、わたしを愛していないのです。わたしは、自分で考え出したことを話しているのではありません。わたしをお遣わしになった父が教えてくださったことを話しているのです。 25 今、まだあなたがたといっしょにいる間に、このことをみな話しておきます。 26 しかし、父がわたしの代わりに助け主〔聖霊のこと〕を送ってくださる時には、わたしが話しておくことを、その方がみな思い出させてくださるばかりか、それ以上のことを、いろいろ教えてくださるのです。」

27 ところで、贈り物をあげましょう。そう、あなたがたの思いと心を安らかにしてあげる、それがわたしの贈り物です。わたしが与える平安は、この世が与える、はかない平安とは比べものになりません。だから、どんな時にも、おろおろしたり、恐れしたりしてはいけません。 28 『わたしは行くが、また戻って来る』と言ったことを思い出さない。ほんとうにわたしを愛しているなら、わたしのために心から喜んでくれるはずですよ。今わたしは、父のもとに行けるのですから。父はわたしよりも偉大です。 29 わたしは、まだ起こらないことを前もって話しました。それが起こった時に、あなたがたがわたしを信じるためです。

30 もう、あまり多くのことを話す時間がありません。この世の悪い支配者が、そこまで近づいているからです。彼はわたしに何もできません。 31 わたしは、父がせよとおっしゃることを進んで実行します。わたしが父を愛していることを、世の人が思い

知るためです。 さあ、出かけましょう。

一五

すばらしい実を結ぶために

1 わたしはほんとうのぶどうの木、わたしの父はぶどう園の農夫です。 2 父は、実のならない枝をみな切り落とし、実のなる枝は、もっとたくさんなるように、余分な枝を整理なさいます。 3 父はいつそう強く、役立つ者にしようと、すでに、あなたがたの枝を整理してくださいました。 わたしが与えた命令という、はさみを使って、きれいに手入れをすまされたのです。 4 わたしのうちに生きるよう心がけなさい。 またわたしが、あなたがたのうちに生きられるようにしなさい。 枝は幹につながっていなければ、実を結べないでしょう。 同じようにあなたがたも、わたしから離れたら、実を結ぶことなど、とてもできません。

5 そうです。 わたしがぶどうの木で、あなたがたはその枝なのです。 人がわたしのうちに生き、わたしもその人のうちに生きていれば、その人は実をいっぱい結びます。 わたしを離れては何もできません。 6 わたしから離れる者はだれでも、役に立たない枝のように投げ捨てられ、枯れてしまいます。 最後には、ほかの枝といっしょに積み上げられ、焼かれてしまうのです。 7 しかし、もしわたしのうちにとどまり、わたしの命令に従うなら、何でもほしいものを求めなさい。 きっとかなえられます。 8 わたしのほんとうの弟子は、実をいっぱい結びます。 そのことによって、父が大いにほめたたえられるのです。

9 父がわたしを愛してくださったように、わたしもあなたがたを愛しました。 わたしの愛のうちに生きなさい。 10 わたしの戒めを守るなら、わたしの愛のうちに生き続けます。 わたしが父の戒めを守り、父の愛のうちに生きているのと同じです。 11 このことを話したのは、あふれる喜びを共に味わいたいからです。 12 わたしがあなたがたを愛するように、あなたがたも互いに愛し合いなさい。 これがわたしの教えです。 13 愛は何によって測ることができるでしょう。 友のためにいのちを投げ出すこと、これより大きな愛はありません。 14 わたしの命令に従う人は、わたしの友です。 15 あなたがたはもう使用人ではありません。 今からは、わたしの友です。 主人は使用人に秘密を打ち明けたりはしません。 だがわたしは、父から聞いたことを、何もかも話してあげたのです。

16 あなたがたがわたしを選んだのではありません。 わたしが、あなたがたを選んだのです。 そして任命しました。 だから、あなたがたは行って、いつまでも残る、すばらしい実を結びます。 また、わたしの名前を使って父に求めるものは、何でもいただけるのです。 17 もう一度念を押します。 互いに愛し合いなさい。 18 あなたがたは、世間の人にひどく憎まれるからです。 だが、忘れてはいけません。 あなたがたより先に、わたしが憎まれたのです。 19 あなたがたが彼らと一つ穴のむじなであつたら、世間も、あなたがたを愛したでしょう。 だが、そうではありません。 わたしが、自分で

選び、世間から連れ出したのです。 だからこそ、世間はあなたがたを憎むのです。 20『使用人は主人より偉くはない』と言ったのを、覚えているでしょう。 わたしを迫害した人々が、あなたがたを迫害して、何の不思議があるでしょう。 しごく当然のことです。 わたしの言うことを聞く人なら、あなたがたの言うことも聞くはずです。 21世間の人は、わたしの弟子だというだけで、あなたがたを迫害します。 わたしをお遣わしになった神を、全く知らないからです。

22 わたしが来て、何も話さなかったのであれば、彼らは無罪です。だが今はもう、罪の言いわけは許されません。 23だれでもわたしを憎む者は、わたしの父をも憎むのです。 24わたしがあれほどの奇蹟を行なわなかったのであれば、彼ら是有罪と宣告されることもなかったでしょう。 だが実際は、奇蹟をはっきり見たにもかかわらず、わたしもわたしの父をも憎んだのです。 25こうして、『彼らは理由もなしにわたしを憎んだ』という、メシヤ(救い主)についての預言は、そのとおり実現しました。

26 だが、わたしはあなたがたに、助け主、すなわち、すべての真理の根源である聖霊を遣わしましょう。 その方は、父のもとから来て、わたしのことを、何から何まで語ってくださいます。 27あなたがたもまた、わたしのことをすべての人に語らなければなりません。 初めから、わたしといっしょにいたからです。

・

一六

悲しみは喜びに変わる

1 このことを話したのは、これからどんなことが起こっても、あなたがたがおたおたしないためです。 2覚悟しなさい。 会堂から除名され、いのちまでつけねられる身になるのですから。 事実、あなたがたを殺すことで、神への奉仕を果たすのだと、人々がとんでもない思い違いをする時が来ます。 3父をも、わたしをも知らない人々のやりそうなことです。 4いいですか。 この警告をしっかりとめておきなさい。 迫害が現実起きた時、あわてふためかないですむようにしなさい。 今までこんなことを言わなかったのは、しばらくでも、いっしょにいてあげられたからです。

5 しかし今は、わたしをお遣わしになった方のもとに行かなければなりません。 それでもあなたがたは、わたしが何のためにそこへ行くのか、知りたくないようです。 だれ一人、どこに行くのか尋ねもしないではありませんか。 6ただもう、わたしの話を聞いて、悲しみで胸が張り裂けんばかりなのでしょう。 7だがほんとうは、わたしが行くのは、あなたがたにとって一番よいことなのです。 わたしが行かなければ、助け主はおいでになりません。 行けば、必ずおいでになります。 それというのも、わたしが、その方を遣わすからです。

8 その方が来られると、世間の人に誤りを認めさせます。 罪、心の正しさ、神との正しい関係、さばきからの救いということで、人々はまるで考え違いをしているのです。 9まず罪とは、わたしを信じないことです。 10正しい心を持ち、神と正しい関係を結べ

るのは、わたしが父のもとに行き、もはやわたしを見なくなるからです。 11 さばきから救われるのは、この世の支配者がすでにさばかれたからです。

12 ああ、話しておきたいことは、まだまだ、たくさんあります。 それなのに、今のあなたがたには、理解できないことばかり……。 13 だが、真理である聖霊が来られます。 その方の指導を受けて、あなたがたもいつか、すべての真理を知るのです。 聖霊は、自分の考えを述べたりはなさいません。 ただ、聞くまを伝えてくださるのです。 やがて起こることについても話してくださいます。 14 また、わたしを賞賛し、わたしの栄光を示すことによって、大きな栄誉を与えてくださいます。 15 父の栄光はみなわたしの栄光です。 だから聖霊がわたしの栄光を示すと言ったのです。 16 じきに、わたしは去って行きます。 もはやわたしを見ることはできません。 だが、またすぐに、わたしを見るのです。」

17 18 この話を聞いて、弟子たちの何人かが、ひそひそささやき始めました。 「いったい何のことだろう。 『じきに、わたしを見なくなり、またすぐに、わたしを見る』とか、『父のもとに行く』とかおっしゃったけど、さっぱりわからないな。」

19 弟子たちが質問したくて、うずうずしていると、イエスはそれに答えるように、また話し始められました。 「何をひそひそ言い合っているのですか。 そんなにわたしの言うことがわからないのですか？ 20 いいですか。 わたしの身に起こることで、この世は、それ見たことかと大喜びし、あなたがたは悲しみます。 だが、やがてわたしに再会するのです。 その時、悲しみは大きな喜びに変わるでしょう。 21 苦しんで子供を産む母親の喜びと全く同じです。 今の今までの激しい苦しみは、うれしさのあまり足が地につかないほどの大きな喜びに変わり、痛みも何もかも、まるでうそのように忘れてしまうのです。 22 今は悲しみでいっぱいでしょう。 だがわたしは、もう一度あなたがたに会います。 その時あなたがたは、だれにも奪われない喜びにあふれるのです。 23 その時には、何一つわたしに求める必要はありません。 直接父に求めることができるからです。 父は、わたしの名前で求めるものは何でも、与えてくださいます。 24 今までこのような求め方をしたことはありませんね。 わたしの名前で求めなさい。 そうすれば与えられ、あなたがたは喜びに満ちあふれるのです。

25 わたしはたとえを使って話しましたが、そんな必要はなくなる時が来ます。 その時には、父のことを何もかもはっきりと話しましょう。 26 その時、あなたがたはわたしの名前で願い事をするのです。 わたしが代わって、どうぞ願いを聞き届けてやってくださいと父に頼む必要はなくなります。 27 わたしを愛し、わたしが父から来たことを信じるあなたがたを、父も心から愛してくださるからです。 28 そう、わたしは父のもとからこの世に来ました。 そして、また世を去り、父のもとに帰るのです。」

29 「それならわかります、先生！ 少しもなぞめいたところはありません。 30 あなた様は何もかも、ご存じです。 差しで口など、とても口はばったくてできません。 あなた様は、確かに神様に遣わされた方です。」

3 1 「やっと信じてくれるのですね。 3 2 ああ、でも時が来れば、あなたがたは、ばらばらに追い散らされます。 わたし一人を残して、見向きもせず、一目散に家に逃げ帰るのです。 いや、その時はもう来ています。 だが、わたしは一人ではありません。 父がついておられます。 3 3 あなたがたも、心配しないで、安心していなさい。 こんなにも、念には念を入れて話してあげたのは、そのためなのですから。 確かに、この世では苦難と悲しみが山ほどあります。 しかし、元気を出しなさい。 わたしはすでに世に勝ったのです。」

一七

イエスの祈り

1 ひとしきり語り終えられると、イエスは天を見上げて言われました。 「父よ。 いやいよ時が来ました。 わたしがあなたに栄光をお返しできるように、わたしの栄光を現わしてください。 2 地上のすべての人を支配する権威を、わたしに下さったのですから。 こうして、あなたから任せられた一人一人に、永遠のいのちを与えるのです。 3 ただ一人の、まことの神であるあなたと、あなたがこの地上にお遣わしになったわたしを知ること、それが、永遠のいのちを得る道です。 4 わたしは、何もかも、あなたに言われたとおりやり遂げ、地上であなたの栄光を現わしました。 5 父よ。 今こそあなたの前で、わたしの栄光を現わしてください。 世界が造られる前に、ごいっしょに持っていたあの栄光で、わたしを輝かせてください。

6 あなたのことはすべて、この人たちに話しました。 彼らはこの世にいましたが、あなたが世から選び出し、わたしに下さったのです。 実際にはいつもあなたのものである彼らを、わたしに下さったのです。 彼らはあなたのおことばを守りました。 7 いま彼らは、わたしの持っているものはみな、あなたからの贈り物であることを知っています。 8 わたしが、あなたの命令を伝えたからです。 彼らはそれを受け入れ、確かに、わたしがあなたのもとから、この地上に遣わされて来たのだと納得し、信じています。

9 お願いがあります。 もちろん、世のためではなく、あなたがわたしに下さった者たちのためです。 何と言っても、彼らはあなたのものなのですから。 1 0 彼らはみな、わたしのもの、また、あなたのものです。 あなたは彼らを、他のすべてのものといっしょに、わたしに下さいました。 ですから、彼らはわたしの栄光なのです。 1 1 わたしは世を去り、あなたのもとに帰ります。 彼らをあとに残して……。 ああ、父よ。 この人たちが一人も脱落しないように守ってください。 わたしたちが一つであるように、彼らも一つとならせてください。 1 2 わたしがいっしょにいた間は、あなたの家族として、一人一人を安全に守りました。 滅びないように、いつも見守りました。 ただ地獄の子は別です。 彼一人だけが滅びました。 聖書（旧約）に言われていたとおり……。

1 3 今わたしは、みもとにまいります。 彼らの心がわたしの喜びでいっぱいになるようにと、いっしょにいる間は、できるだけのことを話しました。 1 4 あなたの命令も伝えました。 するとどうでしょう。 世間の人は彼らを憎んだのです。 わたし同様、彼

らもこの世と調子を合わせようとしなからずです。 15 彼らをこの世から取り去ってくださいとはお願いしません。 ただ、サタンから安全に守ってやってください。 16 わたし同様、彼らも、この世のものではありません。 17 あなたの真理のこばを教え、彼らを純粋な、きよい者としてください。 18 あなたがわたしを世にお遣わしになったように、わたしも彼らを世に遣わします。 19 また、彼らが真理を知る、きよい者として成長できるように、この身をささげます。

20 この人たちのことだけでなく、この人たちの証言を聞いて、わたしを信じるすべての人のためにも祈ります。 21 父よ。 お願いします！ あなたとわたしが一つであるように、彼らも一つの心、一つの思いとなりますように。 あなたがわたしのうちにおられ、わたしがあなたのうちにいるのと同じように、彼らをもわたしたちのうちにいらせてください。 それを見て、あなたがわたしをお遣わしになったことを、世間が信じますように。

22 あなたが下さった栄光を、わたしは彼らに与えました。 わたしたちが一つであるように、彼らも輝かしい一致を保ってほしかったからです。 23 わたしが彼らのうちにおり、あなたがわたしのうちにおられて初めて、みな完全に一つになるのです。 その時、世間は、あなたがわたしをお遣わしになったことを知り、わたしだけでなく彼らをも愛しておられることを、認めざるをえなくなるのです。 24 父よ。 彼らを、わたしといっしょにいらせてください。 わたしの栄光を見させてあげてください。 世界の造られる前からわたしを愛しておられた、あなたが下さった栄光を。

25 ああ、父よ。 何事につけても正しい父よ。 世間はあなたを知りません。 けれども、わたしはあなたを知っています。 この弟子たちも、あなたがわたしをお遣わしになったことを知っています。 26 わたしが教えたのです。 これからも教えます。 あなたの大きな愛が彼らをつつみ、わたしも彼らのうちにいられるように。」

一八

逮捕されるイエス

1 ようやく話し終えると、イエスは弟子たちといっしょに出かけ、ケデロンの谷を横切り、とあるオリーブ園に入って行かれました。 2 裏切り者のユダも知っている場所でした。 前によく弟子たちと、ここに来たことがあったのです。

3 祭司長とパリサイ人たちは、一個大隊の兵士と神殿警備員たちをユダにつけてやりました。 手に手にあかあかと燃えるたいまつやランプをかざし、武器を引っ下げた一隊が、オリーブ園に押しかけます。

4 5 イエスは、自分の身に起こることを何もかもご存じだったので、少しもあわてません。 前に進み出て人々を迎えました。 裏切り者のユダもいっしょです。 「だれを捜しているのですか。」

「ナザレのイエス！」

「わたしがイエスです。」 6 このイエスのこばに、人々はみな息をのんであどざりし、ばたばたとあお向けに倒れました。

7 イエスはもう一度お尋ねになりました。「だれを捜しているのですか。」

「ナザレのイエス。」

8 「わたしがそうと言ったではありませんか。 目当てがこのわたしなら、ほかの者は関係ありません。 このまま帰らせてあげなさい。」 9 こうおっしゃったのは、さっき、「わたしに下さった人たちを、ただの一人も失いませんでした」と言ったとおりになるためでした。

10 その時、シモン・ペテロは剣を抜き放ち、大祭司の部下、マルコスの右の耳を切り落としました。

11 しかし、イエスはペテロをたしなめました。「剣をさやに納めなさい。 父が下さった杯は飲まなければならないのです。」

12 これを聞くと、ユダヤ人の警備員たちは、大隊長や兵士たちといっしょに、やにわに襲いかかり、イエスを縛り上げてしまいました。 13 彼らがまずイエスを引っ立てて行ったのは、その年の大祭司カヤパのしゅうとアンナスのところでした。 14 カヤパは以前、ユダヤ人の指導者たちに、「一人の人が、全国民の代わりに死ぬほうが得策だ」と助言した人物です。 15 シモン・ペテロは、もう一人の弟子といっしょに、恐る恐るイエスについて行きました。 その弟子はうまいぐあいに大祭司の知り合いだったので、イエスといっしょに中庭に入れてもらえましたが、 16 ペテロは、じりじりしながら、門の外に立っているほかありません。 そこへあの弟子が来て、門番の女に頼み込んだので、やっと入れてもらえることになりました。 17 ほっとしたのもつかの間、女は、まじまじとペテロを見やり、「ねえ、ちょっと、あんた、イエスの弟子じゃない？」と聞くではありませんか。

「とんでもない、何を言うんだい。」そらとぼけてその場はなんとか切り抜けました。

18 寒い日でした。 警備員や召使たちは、炭火をかこんで、暖まっています。 ペテロも何くわぬ顔で、いっしょに立って暖まっていました。

19 中ではいよいよ、大祭司がイエスに、弟子たちのことや教えの内容などについて、尋問を始めたところです。

20 イエスはお答えになりました。「わたしの教えは、わかっているでしょう。 いっつも会堂や宮で教えたのですから。 ユダヤ人の指導者の皆さんも、聞いておられたはずです。 それ以外に、隠れて別のことを教えたことはありません。 21 どうして、そんな質問をするのですか。 そのようなことは、わたしの話を聞いた人たちに尋ねればすむのに。 ここにも何人かはいるでしょう。 わたしが何を言ったか、その人たちが一番よく知っています。」

22 「無礼者！ それが、大祭司様に対する口のきき方かっ！」そばに立っていた役人の一人が、どなりつけざま、平手でイエスをなぐりました。

23 イエスは、お答えになりました。「何か、まちがったことでも言いましたか。 だったら、証拠を見せてください。 正しいことを言う者をなぐる法はないはずです。」

24 こうしたやりとりのあと、アンナスはイエスを、縛ったまま、大祭司カヤパのところに回しました。

25 一方、シモン・ペテロはどうしたでしょう。 火のそばで暖まっていると、またしても人々が、「あんた、あの人の弟子じゃないかね」と問い詰めるではありませんか。

「弟子だって？ 冗談じゃない。」

26 こう答えたものの、まずいことに、ペテロが耳を切り落とした、あの大祭司の部下の親類にあたる者が居合わせたのです。 「しらばっくれてもだめだぜ。 あのオリーブ園で、確かにイエスといっしょだったぞ。」

27 こうまで言われても、ペテロはあくまで白をきりました。 と、その時、鶏の鳴く声が聞こえました。

裁判を受けるイエス

28 カヤパの取り調べは、その朝早く終わり、今度はローマ総督の番です。 訴える人々は、イエスを総督官邸まで連れて行きましたが、中へは入ろうとしません。 そんなことをしたら、身が汚れて、過越の小羊が食べられなくなるというのです。（ユダヤ教のおきてでは、異教徒の家に入ることは、たいへん汚らわしいことだったのです。） 29それで、総督ピラトがわざわざ外に出て来て、問いいただきました。 「何を告発するのか。 いったいこの男はどんな悪事を働いたのだ。」

30 「やつが犯罪人でないなら、逮捕したりはいたしません！」彼らも負けずにやり返します。

31 「そうか。 だったら、おまえたちが裁判したらよかろう。 おまえたちの法律に従ってな。」

「お忘れですか。 私どもにはこの男を死刑にする権利はないのですよ。 ぜひとも閣下のご承認がいただきたいですな。」 32 こうして、自分がどのような方法で処刑されるか、イエスが前もって話しておられたことが、現実となったのです（マタイ二〇・一九参照）。

33 ピラトは官邸内に戻ると、イエスを呼び寄せて尋ねました。 「おまえはユダヤ人の王か。 どうなんだ。 ええつ。」

34 「はて、王といわれましても……。 普通の意味での王ですか。 それとも、ユダヤ人の言う王でしょうか。」

35 ピラトは頭にきて言い返しました。 「なにっ！ 私がユダヤ人だとでも言うつもりか。 おまえをここに引っ立てて来たのは、ユダヤ人と祭司長どもなんだぞ。 いったいどうしたのだ。 何をしでかしたのか。」

36 「わたしは地上の王ではありません。 もし地上の王であつたら、逮捕された時、弟子たちは戦いをいどんだでしょう。 わたしの国はこの世のものではないのです。」

37 「なんだと、それじゃあ、やっぱりおまえは王なんだなっ！」

「いかにもそのとおりです。 そのためにこそ、わたしは生まれたのです。 そう、この世に真理を伝えるために。 真理を愛する者はみな、わたしに従うのです。」

38 「真理だと？ 真理とは何だ。」吐き捨てるように叫ぶと、ピラトはまたユダヤ人たちのところへ行き、こう提案しました。 「あの男は無罪だ。 39ところで、毎年過越の祭りの時には、囚人を一人釈放してやることになっている。 おまえたちさえよければ、あの『ユダヤ人の王』を釈放してやるが、どうだ。」

40 「違う！ あいつじゃない！ バラバだ！」彼らはまた大声でわめき立てました。このバラバという男は強盗だったのです。

一九

1 しかたなくピラトは、イエスの背中を鉛のついたむちで打たせました。 2そして兵士たちは、いばらで冠を編み、イエスの頭にかぶらせ、王の着る紫色のガウンを着せました。 3それから、「よお、ユダヤ人の王様、ばんざーいっ！」とさんざんからかい、おまけに平手でたたいたりしたのです。

4 ピラトはもう一度外に出て、ユダヤ人たちに念を押しました。「今、あの男を連れ出す。だがいいか。 私の見たところでは、あの男は無罪だ。」

5 イエスは、いばらの冠に紫色のガウンという姿のまま、出て来られました。 「よく見ろ。 この男だ」と、ピラトが言いました。

6 「十字架につけろっ！ 十字架だっ！」イエスを見るやいなや、祭司長やユダヤ人の役人たちは、大声でわめき立てました。

「そこまで言うなら、おまえたちがやれっ！ 私の調べでは無罪だからな。」

7 「こいつは自分を神の子とぬかしました。 私どもの法律では、死刑です。」

8 このことばを聞くと、ピラトは、ますますこわくなりました。 9もう一度、イエスを官邸へ連れ戻し、尋ねました。 「おまえはいったい、どこから来た？」しかし、イエスは、ひと言もお答えになりません。

10 ピラトはさらに問い詰めます。 「何も言わないのか。 わからんやつだな。 私の命令ひとつで、おまえを釈放することも、十字架につけることもできるのだぞ。」

11 イエスは言われました。 「神から与えられた権威でなければ、あなたは何も手出しはできません。 ですから、わたしをあなたに引き渡した者の罪は、もっと大きいのです。」

12 何とかしてイエスを釈放しようと手を尽くすピラトに、ユダヤ人の指導者たちは激しく抵抗しました。 「こやつを釈放なさるおつもりで？ そんなことをしたら、あなた様はカイザル（ローマ皇帝）の味方ではありません。 だれであろうが、自分を王とする者は謀反人です。」

13 こう言われて、ピラトは、まともやイエスを外に連れ出し、敷石〔ヘブル語では「ガバタ」〕という場所で裁判の席に着きました。 14ちょうど、過越の祭りの前日、正午ごろのことでした。

「さあ、おまえたちの王だ。」

15 「殺せ、殺せ。 十字架につけろっ！」

「なにっ？ おまえたちの王をか？」

「カイザルのほかに王はないっ！」祭司長たちは、むきになって叫び返します。

16 これでは、しかたがありません。ピラトもあきらめ、十字架につけるため、イエスをユダヤ人に引き渡しました。

十字架につけられ、埋葬されるイエス

17 ついに、イエスはユダヤ人たちの手に落ちたのです。イエスは、十字架を背負われ、エルサレム市外の、「がいこつ」〔ヘブル語で「ゴルゴタ」〕という場所へ引っ立てられて行かれました。18 人々はそこで、ほかの二人といっしょにイエスを十字架につけました。イエスは真ん中、二人はその両側に。19 ピラトは、イエスの頭上に、「ユダヤ人の王、ナザレのイエス」と書いた罪状書きを掲げました。20 処刑の場所は都に近く、しかも、罪状書きはヘブル語、ラテン語、ギリシヤ語で書いてあったので、大ぜいの人が読みました。

21 これを見た祭司長たちは、ピラトに抗議しました。「『ユダヤ人の王』とあるのは納得がいきません。『ユダヤ人の王と自称した』と書き直してください。」

22 「私が書いたことに口出しする気かっ！ そのままにしておけ。」ピラトは頑として聞き入れません。

23 さて、イエスを十字架につけてしまうと、兵士たちは、はぎ取った着物を四つに分け、一つずつ取りました。下着もそうしようとしたのですが、見ると縫い目がありません。

24 「こいつは裂くわけにいかないな。よし、だれが取るか、くじで決めようぜ」と相談がまとまりました。「彼らはわたしの着物を分け合い、下着をくじ引きにした」という聖書（旧約）のことばどおりになったのです。25 兵士たちがこんなやり方をしたのも、実はそのためでした。

十字架のそばには、イエスの母マリヤ、おば、クロパの妻マリヤ、マグダラのマリヤが立っていました。26 特に目をかけていただいた私もいっしょでした。イエスは、私のそばに立ち尽くしているご自分の母親を見つめられ、「お母さん。ほら、そこにあなたの息子がいますよ」とお声をかけられました。

27 それから、弟子の私に、「さあ、あなたの母親ですよ」とおっしゃいました。その時以来、私は先生のお母さんを家に引き取ったのです。

28 こうして、何もかもすっかり終わったことを知ったイエスは、「わたしは渇く」と言われました。これも聖書（旧約）のことばどおりの出来事です。29 そこには、ちょうど酸っぱいぶどう酒のつぼが置いてあります。人々は、海綿を浸し、ヒソプの枝の先につけて、イエスの口もとに差し出しました。

30 それをお受けになると、最後に「何もかもなしとげた」とひと言叫ばれ、息を引きとられたのです。

31 まずいことに、翌日は安息日でした。〔しかも特別に重要な日でした。〕ユダヤ人の指導者たちは、どうしても、死体を翌日まで十字架にかけっぱなしにしておきたくあり

ません。ピラトに、受刑者どものすねを折って早く死なせるよう取り計らってほしい、と願い出ました。そうすれば、取り降ろせるからです。32 さっそく兵士たちが来て、イエスといっしょに十字架につけられた二人の男のすねを折りました。33 最後に、イエスのところに来て見上げると、すでに死んでおられます。それで、すねを折るのはやめにしました。34 ところが、兵士の一人が何を思ったのか、いきなり槍でわき腹を突きました。すると、どうでしょう。そこから血と水が流れ出たのです。35 この一部始終を、私は確かにこの目で見ました。それをありのままに、正確に報告しています。皆さんにも信じていただきたいからです。36 37 兵士たちがこうしたのは、聖書(旧約)に、「彼の骨は一つも砕かれない」、また「彼らは自分たちが突き刺した方を見る」とあるとおりのことが、起こるためでした。

38 このあと、弟子でありながら、ユダヤ人の指導者たちを恐れて、それをひた隠しにしていたアリマタヤのヨセフが、勇気を奮い起こし、ピラトに、イエスの死体を引き取りたいと願い出ました。ピラトの許可を得ると、すぐ刑場に駆けつけ、死体の取り降ろしにかかりました。39 前に、夜、イエスのところに来たことのあるニコデモも、没薬(天然ゴムの樹脂で、古代の防腐剤)とアロエでつくった埋葬用の香油を三十キロほど用意して来ました。40 二人はいっしょに、ユダヤ人の埋葬の習慣に従い、香料をしみ込ませた長い亜麻布でイエスのお体を包みました。41 刑場の近くに、木の生えている園があり、そこには、さいわい新しい墓がありました。42 安息日の前日ですから、急がなければなりません。すぐ近くだったこともあり、イエスをその墓に納めました。

二〇

イエスは復活した！

1 週の初めの日(日曜日)、朝早く、まだ暗いうちに、マグダラのマリヤは墓に行きました。見ると、入口の石がわきにのけてあります。

2 驚いたマリヤは、息せき切ってシモン・ペテロと私のところに駆けつけ、「た、たいへんよ。だ、だれかが、主のお体を取ってっちゃったわ！ねえ、いったい全体、どこに置いたのかしら」と叫びました。

3 4 私たちは、それを確かめようと、二人して墓に急ぎました。私はペテロより速かったので、先に着きました。5 すぐさま身をかがめてのぞき込むと、亜麻布が見えます。けれども、中には入りませんでした。6 続いてシモン・ペテロが駆けつけ、ためらわず中に入りました。彼もやっぱり、亜麻布と、7 そこからやや離れた所に、イエスの頭に巻いたはずの布がそのままの形で置いてあるのを見ました。8 私もあとから入り、この有様を見て、イエスが復活なさったことを信じました。9 この時までは、イエスは必ず復活すると書いてある聖書のことばを、全く理解していなかったのです。

10 二人は家に帰りました。11 同じころ、マリヤは墓に戻り、外に立って泣いていました。ところが、泣きながら身をかがめて墓の中をのぞき込むと、12 イエスのお体があった場所の、頭と足にあたる所に、白い着物をきた御使いが二人、座っているでは

ありませんか。

13 「なぜ泣いているのです？」御使いたちがマリヤに尋ねました。

「だれかが私の主を取って行ったからですわ。 どこに置いたのか、まるっきりわからないんですもの。」

14 こう答えてふり向くと、だれかが立っています。 なんとイエスでした。 しかし、マリヤはまだ気がつかないようです。

15 イエスはマリヤにお尋ねになりました。 「どうかしましたか。 泣いたりして…。 だれを捜しているのですか？」

マリヤは、園の管理人と勘違いしていたので、「あの方を運んだのはあなた？ もしそうだったら、どこに置いたのか教えてください。私が引き取ります」と言いました。

16 「マリヤ。」イエスが呼びかけられました。 その声にマリヤは、イエスのほうを向いて叫びました。

「先生っ！」

17 「待ちなさい。 すがりつくのはやめなさい。 まだ父のもとに上っていないのですから。 それよりも、してほしいことがあります。 行ってわたしの兄弟たちに、『わたしは、わたしの父、またあなたがたの父である方、わたしの神、またあなたがたの神である方のもとに上って行く』と伝えてほしいのです。」

18 マグダラのマリヤは、さっそく帰って行き、弟子たちに、「ねえ聞いて、主にお会いしたのよ」と告げ、イエスの言われたとおりに話しました。

19 同じ日曜日の夕方のことです。 弟子たちは、ユダヤ人の指導者たちを恐れて、戸にしっかりかぎをかけ、肩を寄せ合うようにして集まっていました。 その時、突然、全く突然に、イエスが一同の中にお立ちになったのです。 「平安があるように。」イエスはまず、こうあいさつされてから、 20 手とわき腹をお見せになりました。 主を見た弟子たちの喜びは、どんなだったでしょう。

21 イエスはもう一度言われました。 「平安があるように。 父がわたしをお遣わしになったように、わたしもあなたがたを遣わします。」 22 ここで、一同にふっと息を吹きかけ、また言われました。 「聖霊を受けなさい。 23 あなたがたが赦すなら、だれの罪も赦されます。 あなたがたが赦さない罪は赦されません。」

疑わずに信じなさい

24 十二弟子の一人で、「ふたご」と呼ばれたトマスは、その時、その場に居合わせませんでした。 25 それでみんなが、「ほんとうだよ。主にお会いしたんだよ」と口をすっぱくして話しましたが、本気にしません。 頑として、こう言いをはるばかりです。 「主の御手に釘あとを見、この指をそこに差し入れ、この手を主のわき腹に差し入れてみなきゃ、信じるもんか。」

26 八日たちました。 その日も、弟子たちは集まっていました。 今度はトマスもいっしょです。 戸には、かぎがかかっています。 ところが、突然、前の時と全く同じよ

うに、イエスが一同の中に立ち、「平安があるように」と、あいさつなさったではありませんか。

27 それからイエスは、トマスにおっしゃいました。「さあ、あなたの指をこの手に当ててみなさい。あなたの手をこのわき腹に差し入れてみなさい。いつまでも疑っていないで、信じなさい。」

28 「ああ、わが主、わが神よ！」感きわまって、トマスは叫びました。

29 「わたしを見たから信じたのですか。しかし、見なくても信じる者はしあわせです。」

30 この本に記した奇蹟のほかにも、もっと多くの奇蹟をイエスが行なわれるのを、弟子たちは見ました。31 しかし、これらのことを特に書いたのは、あなたがたが、イエスは神の子キリストであると信じるため、またそう信じていのちを得るためです。

二一

ガリラヤ湖畔で弟子に現われたイエス

1 このことがあってから、ガリラヤ湖のほとりで、もう一度、イエスは弟子たちの前に現われました。その時のいきさつはこうです。

2 シモン・ペテロ、「ふたご」と呼ばれたトマス、ガリラヤのカナ出身のナタナエル、私の兄弟のヤコブ、それに私と、ほかに二人の弟子がいっしょにいました。

3 「漁に行くぞ」とシモン・ペテロが言いだしました。

すると、みんな、「それじゃあ、おれたちも」というわけで、そろって出かけました。小舟に乗り込み、漁が始まりました。ところが、一晩中かかっても、雑魚一匹とれません。

4 もう夜明けというころ、だれかが岸边に立っているのが見えました。ぼんやりかすんでいるので、だれかは、ちょっとわかりません。

5 「おーい。魚はとれたかーい。」その人が声をかけてきました。

「いやー、全然だめだよー。」

6 「では、舟の右側に網を下ろしてごらんなさい。きっと、たくさんとれますよ。」さっそく、そのとおりにすると、どうでしょう。重くて引き上げられないほど、たくさんの魚がかかったのです。

7 その時、私ははっと気がつき、「おい、あの方は主だぞ！」とペテロに言いました。それを聞くとペテロは、裸だったので、あわてて上着をはおり、さっと水に飛び込みました。

8 舟に残った私たちは、百メートルほど離れた岸边まで、魚ではち切れんばかりの網を引いて、そろそろ進みました。9 着いてみると、炭火がおこしてあります。その上では魚がいいぐあいに焼けており、パンもあります。

10 「今とった魚を少し持って来なさい。」11 こう言われて、シモン・ペテロがまっ先に飛んで行き、網を陸に引き上げました。数えてみると、なんと、大きな魚が百五十三匹……。しかも、網はどこも破れていません。

12 「さあ、ここへ来て、朝ごはんにしなさい」とイエスはうながされます。「ほん

とうに主ですか」などとあえて尋ねる者は、一人もいません。それほどよく、わかっていたのです。 13 イエスはそばに来られ、パンと魚をめいめいに配ってくださいました。

14 死人の中から復活されたあと、私たちに現われてくださったのは、これで三度目です。

15 食事がすむと、イエスはシモン・ペテロを見つめておっしゃいました。 「ヨハネの子シモン。 ほかのだれよりもわたしを愛しますか。」

「はい、主よ。 私があなたを愛することは、あなたをご存じです。」

「それでは、わたしの小羊を養いなさい。」

16 イエスは、くり返しお尋ねになりました。 「ヨハネの子シモン。 ほんとうにわたしを愛していますか。」

「はい、主よ。 私があなたを愛することは、あなたをご存じです。」

「それでは、わたしの羊の世話をしなさい。」

17 イエスはもう一度、念を押されました。 「ヨハネの子シモン。 ほんとうにわたしを愛していますか？」

三度こんな尋ね方をされたので、ペテロは心に痛みを感じながら答えました。 「主よ。 いっさいをご存じなのはあなた様です。 私があなたを愛することは、あなたをご存じです。」

「それでは、わたしの羊を養いなさい。 18 あなたは若い時には、したいことをし、行きたい所に行きました。 だが、年をとると、そうはいかなくなります。 あなたは自分の手を伸ばし、だれかほかの人が、行きたくもない所へあなたを引っ張って行くのです。」

19 こう言われたのには訳がありました。 ペテロがどんな死に方をして、神の栄光を現わすかを、知らせようとなさったのです。 それから、「わたしについて来なさい」と言われました。

20 ペテロが何げなくふり向くと、イエスが特に目をかけておられた弟子が、ついて来るではありませんか。 あの最後の夕食の時と、イエスに寄りかかって、「主よ。 裏切り者はだれですか」と尋ねた弟子です。

21 たちまちペテロの好奇心が頭をもたげました。 「主よ。 彼はどうなんです？ どういう死に方をするのですか。」

22 「もう一度戻って来るまで、彼に生きていてほしいと、わたしが思ったとしても、あなたとはなんの関係もないでしょう。 人のことは気にしないで、ただわたしについて来ればいいのです。」

23 このことから、その弟子は死なないといううわさが、クリスチャンたちの間に広まりました。 しかし、イエスはそう断言なさったわけではありません。 ただ、「もう一度戻って来るまで、彼に生きていてほしいと、わたしが思ったとしても、あなたとはなんの関係もないでしょう」と言われただけなのです。

24 その弟子とは、実は私のことです。 私はこれらの出来事を、見たとおり、ここに

記録しました。 この記録が正確なことは、私たちみんなが知っています。

25 イエスのなさったことは、ほかにもたくさんあります。 それをいちいち書き記すとしたら、全くきりがないでしょう。 世界中が本であふれるほど書いても、それでもまだ足りないと思います。

■

キリスト教会の誕生

教会はまず、エルサレムで誕生しました。そして、パレスチナから、小アジア、ギリシヤへと、次々に伝道活動を推し進め、ついに、当時の世界の中心ローマにも、その輪は広がっていったのです。人々の激しい反対や迫害にもめげず、弟子たちは力強く、大胆にキリストの教えを伝えました。こうして、世界各地にキリスト教が広まり、教会がつくられる有様が、教会の中心的指導者であったペテロとパウロの活動や体験を軸に、種々の事件をまじえながら展開していきます。

使徒の働き（弟子たちの伝道記録）

自分たちの師であったイエス・キリストが捕らえられ、十字架上で殺されたのを知った弟子たちは、ユダヤ人を恐れ、一個所に閉じこもっていました。けれども、その彼らの目前に、復活したイエスが立った時、不安と恐れが消え、イエスこそ人類の救い主であることを、力強く人々に知らせる者と変わったのです。本書は、一地域から、そして、ほんの小さな人々の集まりから出発したキリスト教会の誕生と発展、および、キリストの弟子たちの働きの記録です。

一

1 2 神を愛する親愛な友へ。

この前の手紙では、イエスの生涯とその教えについて書き、イエスが、お選びになった使徒たちに、聖霊によって指示を与え、天に帰られたところまで、お伝えしました。

3 十字架刑のあと、四十日にわたって、イエスは何度も使徒たちに姿を現わされました。自分が、まぎれもなくイエスであることを、さまざまな方法で証明なさったのです。またそのつど、神の国のこともお話しになりました。

イエスの昇天

4 そんなある時のことです。イエスは使徒たちに、こうお命じになりました。「エルサレムから離れてはいけません。前にも言ったように、父が約束を果たしてくださるまで、待っていてください。

5 バプテスマのヨハネは、水でバプテスマ（洗礼）を授けたが、もうじき、あなたがたは

聖霊様によるバプテスマを受けるからだ。」

6そこで、またイエスが姿を現わされた時、使徒たちはわくわくしながら、「主よ。今こそ、イスラエルを解放し、独立国として再興なさるのですか」と尋ねました。

7「それがいつかは、父がお決めになる。あなたがたが、とやかく言うことはできないのだよ。8だが、聖霊様があなたがたに下る時、あなたがたは大きな力を受け、エルサレムからユダヤ全土、そしてサマリヤから地の果てまで、わたしの死と復活を伝える証人となるのだ。」

9こうお答えになると、イエスは、あれよあれよと見守る使徒たちの目の前で、天にのぼり、たちまち雲の中に姿を消されました。10彼らがなおも目をこらして見上げていると、突然、白い着物をきた人が二人、そばに立って言いました。

11「ガリラヤの人たちよ。なぜ空ばかり見上げているのですか。イエス様は天にのぼりましたが、いつかまた、今と同じようにして、地上へ帰って来られるのです。」

12このことが起こったのはオリーブ山でした。そこから一キロほど歩いてエルサレムに戻るとすぐ、1314使徒たちは、泊まっていた家の二階で、祈り会を始めました。そこにいたのは次の人たちです。

ペテロ、

ヨハネ、

ヤコブ、

アンデレ、

ピリポ、

トマス、

バルトロマイ、

マタイ、

ヤコブ〔アルパヨの息子〕、

シモン〔「熱心党」という反体制グループのメンバー〕、

ユダ〔ヤコブの息子〕、

イエスの母、兄弟たち、

何人かの婦人たち。

15この祈り会は数日間続きました。ある日、百二十人ほども集まっていた時、ペテロが立ち上がり、次のように提案しました。

16「皆さん。暴徒どもの手引きをした裏切り者のユダには、聖書のことばどおりのことが起こりました。そうならなければならなかったのです。ずっと昔、聖霊様によって、ダビデ王が預言したことだからです。17ユダは、使徒にも選ばれた、私たちの仲間でした。18ところが彼は、裏切りでもうけた金で畑を手に入れたものの、まっさかさまに落ちて、体が裂け、はらわたがみな飛び出すという無残な死に方をしたのです。19この出来事は、あっという間にエルサレム中に広まり、いつしか、人々はその場所を『血

の畑』と呼ぶようになりました。 20 実は、聖書（旧約）の詩篇の中で、ダビデ王が『彼の家は荒れ果て、だれも住まなくなれ』『彼の仕事を、ほかの人に与えよ』と預言しています。

21 22 だから今、ユダの代わりにほかの人を、イエスの復活の証人に選ばなければなりません。 選ばれる者の資格ですが……、何と言っても、初めから私たちと行動を共にしてきた人でなければいけません。 そう、イエス様がヨハネからバプテスマを受けて以来、別れを告げて天にのぼられるまでの間、ずっと私たちといっしょにいた人です。」

23 一同は二名の候補者を立てました。 ユストというヨセフ〔別名バルサバ〕と、マッテヤです。

24 25 それから、ふさわしい人が選ばれるように、みな一心に祈りました。 「ああ、主よ。 あなた様はすべての人の心をご存じです。 どうぞ、裏切り者のユダの代わりに、二人のうち、どちらを使徒にお選びになるか、お示してください。 ユダは当然行くべき所に行ってしまいました。」

26 いよいよくじを引きます。 当たったのは……、マッテヤです。 こうして、ほかの十一人に、彼が使徒として加わることになりました。

二

聖霊が下る

1 さて、イエスの死と復活から、七週間が過ぎました。 五旬節（ユダヤ教の祭りの一つ）の日です。 信者たちが一堂に集まっていると、 2 突然、天からものすごい音がしました。 まるで、激しい風が吹きつけるような音です。 それが、家全体にぐうぐうと響き渡ったのです。 3 そして、めらめら燃える炎の舌のようなものが現われ、みんなの頭上にとどまりました。 4 するとどうでしょう。 その場にいた人は、一人残らず聖霊に満たされ、知りもしない外国語で話し始めたではありませんか。 聖霊が、それだけの力を与えてくださったのです。

5 その日、エルサレムには、たくさんの敬虔なユダヤ人が、祭りのために、世界のあちこちから集まっていました。 6 この大音響に、人々は、いったい何事かと駆けつけましたが、弟子たちの話していることばを聞いて、すっかり面食らってしまいました。 まぎれもなく自分たちの国のことばだったからです。

7 さっぱり訳がわかりません。 ただ口々に、こう言い合うばかりでした。 「こ、こんなことって、あるかい。 みんな、ガリラヤ出身の人だというのに……。 8 それが、私たちの国のことばで、すらすら話している。 9 ここには、パルテヤ人、メジャ人、エラム人、またメソポタミヤ、ユダヤ、カパドキヤ、ポント、アジヤ、 10 フルギヤ、パンフリヤ、エジプト、それにリビヤのクレネ語が使われている地方などから来た人たちがいるし、ほかにも、ローマからの旅行者で、もともとのユダヤ人もいれば、ユダヤ教への改宗者もいるといったぐあいに様々だ。 11 あっ、そうそう、クレテ人やアラビヤ人もいたっけ。 それがどうだ。 それぞれの生まれ故郷のことばで、神様のすばらしい奇蹟の

話を聞くとはなあ……。」

12 人々はただ呆然として、「いったい、どうなってるんだ？」と顔を見合わせました。

13 しかし、中には、「なに、あいつら、酔っぱらってるだけさ」と、あざける連中もいました。

14 するとペテロが、十一人の使徒と共につかつかと進み出て、声を張り上げ、人々に語りかけました。

「よそから来られた方も、エルサレムに住んでおられる皆さんも、どうぞお聞きください。

15 皆さんの中には、私たちが酒に酔っているのだとおっしゃる方もいますが、そんなことは絶対にありません。酒に酔うには時間が早すぎます。朝の九時から酒を飲む人はいないでしょう。16 いま見ていることは、まさに、何世紀も前に、預言者ヨエルが預言したことなのです。

17 『神は言われる。

終わりの日に、

わたしはすべての人にわたしの霊を注ぐ。

その時、あなたがたの息子、娘は預言し、

青年は幻を見、

老人は夢を見る。

18 聖霊は、男女を問わず、わたしに仕える者たちに注がれる。

すると、彼らは預言をする。

19 また、わたしは天と地に不思議なしるしを現わす。血と火と煙の雲だ。

20 主の恐るべき日が来る前に、

太陽は暗くなり、月は血のように赤くなる。

21 しかし、主にあわれみを求める者はみな、あわれみを受けて救われる。』

22 ああ、皆さん。これから申し上げることを聞いてください。よくご存じのように、ナザレのイエスは、大ぜいの人の前で、すばらしい奇蹟を行なわれました。神様は、こうして、だれにもはっきりわかるように、イエス様の身元を保証なさったのです。23 神様は、あらかじめ計画したとおり、この方を、あなたがたの手でローマ政府に引き渡し、十字架で処刑することをお許しになりました。24 そうした上で、この方を死の恐怖から解放し、復活させたのです。この方が、ずっと死んだままでいることなど、ありえないことだったからです。

25 ダビデ王は、イエス様のことをこう言っています。

『主はいつも私と共におられる。

主が私を助け、

神の大きな力が私を支える。

26 だから、心は喜びにあふれ、

舌は主をほめたたえる。

たとえ死んでも、私には望みがある。

27 あなたは、私のたましいを地獄に放置せず、

あなたの聖なる息子の体を、

朽ち果てさせることもない。

28 私を生き返らせ、

あなたの前で、すばらしい喜びにあふれさせる。』

29 愛する皆さん。 考えてもみなさい。 ダビデはここで、自分のことを語っているわけではありません。 そうでしょう。 ダビデは死んで、葬られ、その墓は今でも、ちゃんと残っているではありませんか。

30 しかし、彼は預言者でしたから、子孫の一人がメシヤ（救い主）となり、ダビデの王座につくと神が誓われたことは、知っていたのです。

31 それで、遠い将来を望み見ながら、メシヤの復活を預言しました。 メシヤのたましいは地獄に放置されず、その体が朽ち果てることもない、と語ったのです。 32 そのとおり、神様はイエス様を復活させました。 私たちはみな、そのことの証人です。

33 今イエス様は、天で最も名誉ある神の右の座についておられます。 そして、約束どおり、父は聖霊様を送ってくださいました。 その結果、たったいま見聞きしたことが起こったのです。

34 35 いいですね。 ダビデは、決して自分のことを言ったのではありません。 ダビデは天にのぼったことはないからです。 それに、当のダビデが、こうも言っています。

『神は私の主に言われた。

「わたしがあなたの敵を

完全に征服するまで、

わたしの右に座っていなさい。』

36 ですから、イスラエルのすべての人に、はっきり言っておきます。 神様は、あなたがたが十字架につけたイエス様を主とし、キリスト（救い主）とされたのです。」

37 ペテロのことばは、人々の心を強く打ちました。「それじゃあ、私たちはどうすればいいんでしょう。」 あちらからもこちらからも、使徒たちへの質問の声があがりました。

38 ペテロは答えました。 「一人一人が、罪の生活から足を洗って神様に立ち返りなさい。 そして、罪を赦していただくために、イエス・キリストの名によってバプテスマ（洗礼）を受けなさい。 そうすれば、聖霊様という贈り物をいただけます。 39 それは、キリスト様が約束してくださったのです。 あなたがたは言うまでもなく、あなたがたの子孫、また遠くにいても、私たちの神である主が、ちゃんとお招きになったすべての人にも、与えられるのです。」

40 このあとも、ペテロの説教はえんえんと続きました。 イエスのことや、悪に満ちた

この時代から救われなければならないことを、ことばを尽くして訴えたのです。 4 1 この日、ペテロの言うことを信じた人はバプテスマを受けましたが、その数は全部で三千人ぐらいでした。 4 2 みな、使徒たちの教えをよく守り、聖餐式（キリスト教の儀式の一つ）や祈り会に毎回きちんと出席していました。 4 3 だれもが、心から神様を恐れ敬うようになり、一方、使徒たちは次々と奇蹟を行ないました。

4 4 信者たちはみないっしょにいて、それぞれの持ち物を分け合い、 4 5 金が必要な人には、財産を売り払って与えました。 4 6 毎日、神殿できちんと礼拝をし、聖餐の時は、小人数に分かれてめいめいの家に集まり、心から喜びと感謝にあふれて、食べ物を分け合いました。 4 7 心から神を賛美する彼らに、町中の人は少なからず好感をいただき、神もまた、救われる者を毎日、仲間に加えてくださいました。

三

美しの門で

1 ある日の午後、ペテロとヨハネは宮へ出かけました。 日課である午後三時の祈りをするためです。 2 もうすぐ宮だという所で、生まれつき立ち上がることもできない男が運ばれて来るのに、出会いました。 この男は、いつも、宮の「美しの門」のそばに置いてもらい、宮に入る人たちから施しを受けていたのです。 3 二人が前を通り過ぎようとする、「だんな様方。 どうぞお恵みを」と、その男が声をかけました。

4 二人は立ち止まり、男をじっと見つめました。 やがて、ペテロが口を開きました。「私たちをごらん。」

5 男は何かもらえるのだろうと思って、二人を見上げました。

6 ところが、ペテロは全く意外なことを言ったのです。「あげようにも、お金は持っていないんだよ。 だが、ほかのものをあげよう。 ナザレのイエス・キリストの名によって命じる。 さあ、立って歩きなさい。」

7 8 そう言うなり、ペテロは手をかして立たせようとしてしました。 すると、驚いたことに、足もくるぶしもたちまち強くなり、しゃんと立ち上がったのです。 そして、すたすた歩き始めました。 二人が宮に入ると、男も跳んだりはねたりして、神を賛美しながらついて行きます。

9 中にいた人たちは、神を賛美しながら歩いている男を、じろじろながめました。 どうしたことでしょう。 1 0 いつも「美しの門」で見かける、足の悪いこじきではありませんか。 だれもかれもびっくり仰天、たまげ返るばかりです。 1 1 そうこうするうち、みんながいっせいに、三人のいる「ソロモンの廊」と呼ばれる回廊に押し寄せました。 男はうれしくてたまらないのでしょう。 ペテロとヨハネにまつわりついて離れません。 この有様を目のあたりにした人々は、あまりのことに恐ろしくなったほどです。

1 2 さあ、絶好のチャンスです。 ペテロがすかさず話し始めました。

「皆さん。 どうして、そんなに驚くのです？ なぜ、私たちが自分の力や信仰深さによって、この人を歩かせたかのように、私たちを見つめるのです？ 1 3 この奇蹟は、アブ

ラハム、イサク、ヤコブの神様、私たちの先祖の神様が、そのしもベイエスに栄光を与えるために、なされたことです。 その方を、あなたがたはピラトの面前で、はっきり拒否しました。 ピラトがあれほど釈放しようとしたにもかかわらず……。 14 このきよく正しい方を自由にしようと考えるところか、反対に人殺しの男を釈放しろと要求したのです。 15 こうして、とうとう、いのちの源である方を殺してしまいました。 しかし神様は、この方を復活させてくださいました。 ヨハネも私も、このことの証人です。 あなたがたが処刑したあと、私たちは確かに、復活したこの方にお会いしたのです。

16 この方のお名前の力で、この人は治ったのです。 彼の足が以前どんな状態だったかは、ご存じのとおりです。 神様から与えられた、イエスの名を信じる信仰によって、彼は完全に治ったのです。

17 愛する皆さん。 あなたがたは何も知らなかったのでしょうか。 知らなかったからこそ、イエス様をあんな目に会わせたのでしょうか。 それは、指導者連中にも言えることです。 18 しかし神様は、実にこのことによって、メシヤ（救い主）は苦しめられるという預言を実現してくださったのです。 19 ですから、すっかり心を入れ替えて、神様に立ち返りなさい。 そうすれば、神様は罪をきよめてくださいます。 20 そして、すべてを新しくする恵みの時に、メシヤであるイエス様を、もう一度遣わしてくださるのです。

21 22 この方は、昔からの預言どおり、すべてのものが罪ののろいから救われる時まで、天にとどまっていなければなりません。 たとえば、ずっと昔に、モーセは言いました。『神である主は、やがて、私と同じような預言者を起こされる。 この方の語ることはすべて注意深く聞け。 23 この方に耳を傾けない者はだれでも、必ず滅ぼされるのだ。』

24 実に、サムエルをはじめ、それ以後の預言者はみな、現在起こっていることを預言しました。 25 あなたがたは、預言者たちの子孫でしょう。 だったら、神様がアブラハムに与えた、全世界はユダヤ民族によって祝福されるという先祖への約束に、あなたがたも、ちゃんと含まれているのです。 26 神様は自分の息子を復活させると、真っ先にあなたがたイスラエル人のもとに遣わしました。 あなたがたを、罪の生活から引き戻し、祝福なさるためです。」

四

ペテロとヨハネの逮捕

1 二人が話しているところへ、祭司たちや神殿の警備隊長、それにサドカイ人たち（神殿を牛耳っていた祭司階級。 ユダヤ教の主流派）が来ました。 2 聞いてみると、二人は堂々と、イエスが死人の中から復活したと話しています。 これはまずい、と思った彼らは、 3 二人を逮捕しましたが、もう夕方だったので、一晩、留置場に入れておくことになりました。 4 しかし、二人の話を聞いた人たちが大ぜい信じ、信者の数は、男だけで五千人に上りました。

5 翌日、ユダヤ人の指導者たちの会議が、エルサレムで開かれました。 6 大祭司アンナス、カヤパ、ヨハネ、アレキサンデル、そのほか大祭司の一族もみな顔をそろえています。

7二人が一同の前に引き出されました。いよいよ尋問の始まりです。「おまえたちは、何の力で、まただれの権威で、こんなことをしたのか。」

8その時、ペテロは聖霊に満たされ、落ち着きはらって答えました。「わが国の名誉ある指導者、ならびに長老の方々。 9お尋ねの件は、あの足の悪い男のことで、どのようにして彼が治ったかということでしょうか。 10そのことなら、あなたがた、いや、イスラエルのすべての人たちに、はっきりお話ししたいのです。 この出来事は、あなたがたが十字架につけ、神様が復活させてくださった、あのメシヤ（救い主）、ナザレのイエス様の名と力とによるのです。 11メシヤのイエス様は、まさに『建築士たちの捨てた石が、最も重要な土台石になった』と旧約聖書にある、その石なのです。 12この方以外には、だれによっても救われません。 天下に、人がその名を呼んで救われる名は、ほかにないのです。」

13あまりにも大胆な二人の態度に、議員たちもたじたじです。 しかも二人は、明らかに教育も受けていなければ、宗教の専門家でもありません。 ただただ驚くばかりです。そしてとうとう、イエスといっしょにいたから、そうなったのだ、と認めないわけにはいなくなりました。 14その上、実際に足の治った当の男が二人のそばに立っていたのでは、この事実を否定することもできません。 15しかたなく、二人を退場させ、秘密に協議しました。

16「さあて、あいつらを、どうしよう。 たいへんな奇蹟を行なったという事実は、どうにも否定のしようがない。 なにしろ、エルサレム中の人たちが知っているんだからな……。 17だが、これ以上の宣伝活動はやめさせなきゃならん。 今後イエスのことを人前で語ったら、ただじゃすまないぞと、脅してやろう。」 18話が決まったところで、もう一度二人を呼び入れ、こんりんざいイエスのことを話してはならないと、きつく申し渡しました。

19しかし、ペテロとヨハネは、きっぱり答えました。「神様にではなく、あなたがたに従うことを、神様が望んでおられるとでもお考えなのですか。 20私たちは、イエス様の行なわれたことや、お話しになったことを、知らせないわけにはいきません。」

21議員たちは、なおもしつこく脅しましたが、効き目はありません。 かとって、二人を罰しようものなら、暴動が起りかねないと考え、ついにあきらめ、釈放しました。人々がみな、すばらしい奇蹟を見て、神をほめたたえていたからです。 22なにしろ、四十年も立てなかった人が、完全に治ったのですから、むりもありません。

23晴れて自由の身になると、ペテロとヨハネは、すぐほかの弟子たちのところへ帰り、議員たちの言ったことを残らず伝えました。

祈りと賛美にあふれる教会

24これを聞いた信者たちはみな、心を一つにして祈りました。

「ああ、天と地と海と、その中にあるすべてのものを造られた主よ。 25 26 あなた様は、はるか昔、あなた様のしもべである先祖ダビデの口を通し、聖霊様によって、こう語

られました。

『なぜ異教徒どもは主に怒りを燃やし、
愚かな国々は全能の神に、むだな抵抗をするのか。
地上の王たちは一つとなり、
神とキリストに戦いをしかける。』

27まさに、この預言どおりのことが、今エルサレムで起こっています。ヘロデ王と総督ピラト、それにローマ人どもがみな、イスラエルの人たちと手を組み、あなたが油を注いだ、聖なるしもベイエスに反逆しました。28何もかも、あなた様のお考えのとおりです。連中のやっていることは一つ残らず、知恵ある力によって、あなた様が行なわせているのです。29ああ主よ、どうか今、連中の脅しを聞き、忠実に、しかも大胆に、あなた様の教えを語れるように、私たちをお守りください。30私たちに、病気を治す力を与え、あなた様の聖なるしもベイエスの名によって、奇蹟と不思議なことを行なわせてください。」

31こう祈った時、集まっていた家が激しく揺れ動き、一同はたちまち聖霊に満たされて、大胆に神の教えを語り始めました。

神様へのうそ

32さて、イエスを信じた人たちはみな、心と思いを一つにし、だれ一人、財産を惜しむ者もなく、すべてのものを平等に分け合っていました。33使徒たちは、主イエスの復活を力強く語り、信者同士では、だれもが親しくつき合っていました。3435土地や家を持っている人はみな、それを売り払い、代金を使徒たちのところに持って来しました。そのお金は、必要に応じて、みんなに分配されたので、貧しい者は一人もいませんでした。36一例をあげましょう。キプロス島出身で、レビ族の一人、ヨセフの場合です。彼はバルナバ〔慰めの子〕と呼ばれていましたが、37畑を売った代金を、「困っている人たちに」と言って、使徒たちのところへ持って来しました。

五

1ところが、中にはこんな事件もありました。アナニヤという人が、妻サッピラといっしょに財産を売り払いました。2しかしアナニヤは、代金の一部を手もとに残しておきながら、すまして、「これで全額です」と言って、使徒たちに差し出したのです。妻サッピラと示し合わせた上のことでした。

3しかし、ペテロはそれを見抜いて、彼を責めました。「アナニヤよ。悪魔に心を奪われたのかっ！ これで全額ですと言った時、おまえは、ほかのだれでもない、聖霊様ご自身にうそをついたのだ。4おまえの財産は、売ろうと売るまいと、おまえのものであることに変わりはない。たとえ売ったとしても、その代金をどれぐらい人に施すかも全く自由だ。なのに、どうしてこんなことをしたっ！ わかっているのか。おまえは私たちにじゃなく、神様にうそをついたのだぞ。」

5このことばを聞くと、アナニヤはばたきと床に倒れ、あっという間に死んでしまったの

です。 これを見た人々は、恐ろしさのあまり、ちぢみ上がりました。 6 やがて青年たちが、死体を布でおおい、外に運び出して葬りました。

7 それから三時間ほどあとでしょうか。 アナニヤの妻が、何事も知らずにやって来ました。 8 ペテロは尋ねました。「あなたがたが売った土地の代金は、これで全額ですか。」
「はい、そうです。」

9 「よくまあ、夫婦そろって大それたことを考えたものだ。 聖霊様をだまそうとはな。 見ろ。 おまえの夫を葬った青年たちが、門のすぐそばまで来ている。 おまえも運び出してもら方がいい。」

10 ペテロが言い終わるか終わらないかのうちに、サッピラは床に倒れ、息が絶えました。 ちょうどそこへ、青年たちが入って来ました。 確かに死んでいるのを見届けると、その足で運び出し、夫のそばに葬りました。 11 教会全体と、この出来事を聞いたすべての人が、言い知れない恐怖にとらわれたことは、言うまでもありません。

12 一方、使徒たちは、神殿の「ソロモンの廊」で、定期的に集会を開いていました。 目をみはるような奇蹟も、たくさん行なわれました。 13 ほかの人々は、その仲間入りはしないまでも、みな使徒たちを心から尊敬していました。 14 こうして、男女を問わず、主を信じる人がますます増えていきました。 15 人々はずいに、病人をふとんごと通りへかつぎ出し、「せめて、ペテロ様の影だけでもかかれば……」と願うほどになりました。

16 また、エルサレム付近の町々からも、大ぜいの人が、病人や悪霊に取りつかれた人たちを連れて来ました。 その人たちは一人残らず、すっかりよくなりました。

また逮捕された使徒

17 これを知った、大祭司とその一族であるサドカイ派の人たちはみな、激しいねたみからかれ、 18 うむを言わず使徒たちを逮捕し、留置場に放り込んでしまいました。

19 しかし、夜、主の使いが来て、留置場の戸を開け、使徒たちを外に連れ出して言いました。 20 「さあ宮へ行き、このいのちの教えを、大胆に語りなさい。」

21 言われたとおり、使徒たちは夜明けごろ宮へ行き、すぐに説教を始めました。 一方、大祭司とその取り巻き連中は、宮に来て、ユダヤの最高議会と長老全員を召集しました。 さあ、いよいよ尋問を始めようと、人をやり、使徒たちを引き出して来させることになりました。 22 ところが、警備員が留置場をのぞいてみると、どうしたことでしょう。 使徒たちの影も形もありません。 びっくりして議会に取って返し、 23 「もぬけのからです。 かぎはちゃんとかかっていたし、外には見張りもありましたのに」と報告しました。

24 これを聞いた警備隊長や祭司長たちは、さっぱり訳がわかりません。 いったい何事がもち上がるのだろうか、あわてふためくばかりです。 25 その時、一人の人が駆つけて、留置場にいるはずの人たちが、宮で説教していると知らせました。

26 27 警備隊長は役人たちを伴って出かけ、使徒たちを連行して来ましたが、何一つ、手荒なことはしませんでした。 下手に手出しでもしようものなら、かえって自分たちの

身が危ういと思ったからです。 こうして、ようやく使徒たちが議会に引き出されました。 28 まず、大祭司が問いました。「二度とイエスのことを説教してはならないと、あれほどきつく申し渡したではないか。 それなのに、なんだ。 エルサレム中に教えを広めている。 おまえたちの魂胆はわかっている。 あいつを殺した責任を、私たちにかぶせようというのだ。」

29 しかし、ペテロと使徒たちは答えました。「人間よりも、神様に従うべきです。 30 ご先祖の神様は、あなたがたが十字架で処刑したイエス様を、復活させてくださいました。 31 神様は、大きな力でこの方を引き上げ、神の王子、また救い主となさったのです。 それもみな、罪を悔い改め赦していただく機会を、イスラエルの人々に与えるためでした。 32 私たちは、実にこのことの証人です。 神様に従うすべての人に与えられる聖霊様もまた、このことの証人なのです。」

33 これを聞いた議員たちは烈火のごとく怒り、使徒たちを殺そうと決めました。 34 ところがこの時、一人の議員が立ち上がりました。 パリサイ派（信徒で、特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）のガマリエルで、法律の専門家として名が通っている人物です。 彼は、意見を述べる間、使徒たちを議会から連れ出すことを要求しました。 35 それから、一同に言いました。「イスラエルの皆さん。 あの人たちの扱い方には、よくよく注意してください。 36 しばらく前のことになりますが、チウダという男の事件を覚えておいででしょうか。 この男が、いかにも偉大な人物のように見せかけたため、四百人ほどの者が仲間になりましたね。 ところが結局、当の本人は殺され、一味も、散り散りばらばらになりました。

37 それから、人口調査の時にも、ガリラヤ人のユダという男が民衆をそそのかして反乱を起こしました。 しかし、やはり、この男も死に、仲間も散らされました。

38 それで、提案ですが、あの人たちを放っておいてはどうでしょう。 もし彼らの教えや行動が、ただのでっち上げなら、遅からずくつがえされてしまうでしょう。 39 しかし、もし神様の力によるものだったら、いかなる人といえども阻止はできません。 いや、そればかりか、まかりまちがえば、神様に敵対することにもなりかねません。」

40 説得は効を奏しました。 一同は、ガマリエルの忠告に従うことにしたのです。 そこで、使徒たちをもう一度呼び入れ、むち打ちにし、二度とイエスの名を口にしてはならないと命じてから釈放しました。 41 使徒たちは、神様の名のために、はずかしめを受けたことを、むしろ喜びながら、議会をあとにしました。 42 そして毎日、宮や家家で教え、イエスこそキリストだと宣べ伝えました。

六

1 ところが、信者の数がどんどん増えると、内部からも不満の声が出るようになりました。 ギリシヤ語を話すユダヤ人たちが、ヘブル語を話すユダヤ人たちに苦情をぶつけたのです。 事の原因は、彼らの未亡人たちが、毎日の食料の配給で差別待遇されていることでした。

2 そこで十二人の使徒は、信者全員を召集し、こう提案しました。「私たちが食料の配

給に時間をさくのは、よくありません。 何よりも、神様のことばを伝えることにまい進すべきです。 3そこで、愛する皆さん。 この仕事にふさわしい人、賢明で、聖霊様に満たされた人に、いっさいを任せることにしましょう。 さあ回りをよく見回して、この人という人を七人選んでください。 4そうすれば、私たちは祈りと説教と教育に打ち込むことができます。」

5全員がこの提案に賛成し、次の人たちを選びました。

ステパノ〔常に聖霊に満たされた、信仰深い人物〕、

ピリポ、

プロコロ、

ニカノル、

テモン、

パルメナ、

アンテオケのニコラオ〔ユダヤ教に改宗していた外国人で、今はクリスチャン〕。

6以上の七名が前に立ったので、使徒たちは彼らのために祈り、手を置いて祝福しました。

7こうして、神のことばはますます広まり、エルサレムでは、弟子の数が驚くほど増えていきました。 ユダヤ教の祭司たちの中からも、信仰に入る者が大ぜい出ました。 8さて、ステパノは聖霊の力に満たされた、信仰深い人物で、すばらしい奇蹟を行なっていました。

9ところがある日、「自由民」というユダヤ教の一派の面々が、ステパノに議論をふっかけました。 するとたちまち、クレネやエジプトのアレキサンドリヤ、トルコのギリキヤ地方やアジヤ地方から来たユダヤ人たちも、仲間に加わり、ああでもないこうでもない、と言いだしました。 10しかしステパノは、聖霊に助けられ、知恵のかぎりを尽くして語ったので、だれも、たち打ちできません。

11それで連中は、何人かの者をそそのかし、「彼はモーセや神様を汚すことばを吐いたぞ」と、言いふらさせました。

ステパノの弁明

12こうして連中は、ステパノに対する民衆の怒りをあおり立て、ユダヤ人の指導者たちまで扇動して、とうとうステパノを捕らえ、議会に引いて行きました。 13偽証人どもは、でたらめの証言を並べ立てました。 「こいつは、いつも、神殿やモーセの律法に逆らうことばかり言ってます。 14確かに、こいつが、ナザレのイエスはこの神殿をぶっこわし、モーセの律法をみな無効にしてしまう、とぬかすのを聞きました。」 15この時、議会にいた者は、いっせいにステパノに目をやりました。 するとどうでしょう。 彼の顔は、御使いのように輝いているではありませんか。

・

1 大祭司はステパノに、「この訴えのとおりか」と問いました。

2 ステパノは、答弁を始めました。

「お聞きください、皆さん。 ご先祖アブラハムがまだシリヤに移らない前、つまり、イラクに住んでいたころ、栄光に輝く神様が彼に現われました。 3そして、故郷を離れ、親族とも別れて、神様が命じる国へ行くように、とおっしゃいました。 4そこでアブラハムはカルデヤ人の地を離れ、シリヤのカランに移り、父親が死ぬまでそこに住みました。そのあと神様は、彼をこのイスラエルに連れて来られたのです。 5ところがそこには、彼の土地はたったの一坪もなく、その上、子供もありませんでした。

にもかかわらず、神様は、やがてこの地が全部、アブラハムとその子孫のものになる、と約束されたのです。 6同時に、子孫たちが、この地を去って外国に住み、四百年のあいだ奴隷になるとも言われました。 7ただし、『わたしは、彼らを奴隷とした国民を必ず罰する。 その後、あなたの子孫はこの地に戻り、ここでわたしを礼拝するようになる』との約束を添えて……。

8神様はまた、その時、割礼の儀式（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を定め、それを神様とアブラハムの子孫との契約の証拠となさいました。 それで、アブラハムの息子イサクは、生後八日目に割礼を受けたのです。 このイサクの息子がヤコブで、ヤコブの十二人の息子は、それぞれユダヤ民族の十二部族の長となりました。

9その一人ヨセフは、ほかの兄弟たちのねたみを買ひ、エジプトに奴隷として売られました。 しかし神様は、ヨセフと共にいて、 10あらゆる苦境から彼を救い出し、エジプトの王パロの前で彼に恵みを施されたのです。 神様がヨセフにすばらしい知恵を与えたので、パロはヨセフを、エジプト全土を治める大臣に取り立て、宮中の管理もいっさい任せました。

11ところが、やがてエジプトとカナンの全土に大ききんが起こり、ご先祖たちは、たいへんな苦境に陥りました。 食料がなくなったのです。 12話に聞くと、エジプトにはまだ穀物があるそうです。 ヤコブはさっそく、息子たちをやり、食料を買わせました。

13二度目の時、ヨセフは自分の素性を兄弟たちに打ち明けました。 パロもそのことを知ったので、 14ヨセフは人をやり、父ヤコブと兄弟たちの一族、総勢七十五人を、エジプトに招きました。 15こうして、ヤコブと息子たちはエジプトに住み、そこで死にました。 16遺体はみなシケムに持ち帰り、アブラハムがシケムのハモルの子から買った墓地に葬りました。

17神様がアブラハムに立てた、彼の子孫を奴隷から解放するという約束の 때가 近づくにつれ、ユダヤ人の人口は、エジプトでどんどんふくれ上がっていきました。 18そのうち、ヨセフのことを知らない王が即位し、 19ユダヤ人に悪巧みをはかりました。 事もあろうに、親たちに、子供を野原に捨てさせたのです。

20モーセが生まれたのは、ちょうどこのような時でした。 彼は神様の目にかなった、かわいらしい子供でした。 両親は、三か月の間、家の中に隠しておきましたが、 21

とうとう、それ以上は隠しきれなくなり、しかたなく捨てることにしました。ところが、エジプト王パロの娘が、その子を見つけ、養子として育てることになったのです。22こうして、モーセはエジプトの最高の教育を受け、たくましく、雄弁な王子に成長しました。23四十歳の誕生日が近づいたある日、モーセは、同胞のイスラエル人のところへ行ってみよう、と思い立ちました。24ところが、行ってみると、どうでしょう。一人のエジプト人が、イスラエル人を虐待しているではありませんか。モーセはイスラエル人をかばおうとの一心から、相手のエジプト人を殺してしまいました。25モーセは、イスラエル人を助けるために、神様が自分をお遣わしになったと認めてもらえるだろうと、かっぴに決め込んでいました。ところが、現実には、思いどおりにいきません。

26翌日、もう一度出かけて行くと、今度はイスラエル人同士で争っているのにぶつかりました。モーセは間に割って入り、『兄弟同士じゃないか。けんかなんかやめろ』と押しとどめました。

27すると、相手を痛めつけていたほうの男が、よけいな口出しをするな、とわめきました。『やいやい、だれがあんたを、おれたちの支配者や裁判官にしたんだよー。28ええっ、どうなんだい。昨日、あのエジプト人を殺したみたいによー、おれまで殺そうってのかい。』

29これを聞いて、モーセはまずいことになったと、エジプトを逃げ出し、ミデアンの地に身を寄せました。そこで、二人の子供をもうけたのです。

30それから四十年の歳月が流れました。ある日のことです。シナイ山に近い荒野で、御使いが柴の燃える炎の中に現われました。31モーセはその光景に驚き、何かと一目散に駆け寄ってみると、主の声が聞こえてきました。32『わたしはあなたの先祖、アブラハム、イサク、ヤコブの神である。』モーセはすっかり震え上がり、顔を上げる勇氣ありません。

33主は続けて語られました。『くつを脱ぎなさい。あなたの立っている所は聖なる地だから。34わたしは、エジプトで苦しめられているわたしの民の姿を見、またその叫びを聞いた。わたしは彼らを救い出そうと下って来たのだ。行け。わたしが、あなたをエジプトに遣わすのだ。』35こうして神様は、『だれがあんたを、おれたちの支配者や裁判官にしたのかよ』と、ユダヤ人たちに退けられたモーセを、もう一度、エジプトに帰らせたのです。モーセは初めて、イスラエル人の支配者、また解放者となったのです。36モーセは、数々の驚くべき奇蹟によって、人々をエジプトから連れ出し、紅海を横断して、四十年にわたる荒野での生活を指導しました。

37このモーセが、『神様はあなたがたの中から、私のような預言者をお立てになる』と、イスラエルの人々に宣言したのです。38モーセは荒野では、神様と人との仲介者でした。すなわち、シナイ山で、神のおきてである、いのちのことばを御使いから受け、それをイスラエルの人々に与える役を果たしたのです。

39しかしご先祖は、モーセの言うことに従おうとせず、しきりにエジプトに帰りたがり

ました。 40そして、アロンに、『私たちをエジプトに連れ帰ってくれる神々の像を作ってくださいよ。 私たちを、エジプトから連れ出したモーセは、どうなったかわかったもんじゃない』と迫りました。 41彼らは子牛の像を作って、供え物をささげ、自分たちが作った物で楽しくやっていました。

4243このため、神様は彼らに背を向け、彼らが日や月や星を神と思い、仕えるのを放っておかれました。 神である主は、預言者アモスの書の中で、こう語っておられます。

『イスラエルよ。 あなたがたは
四十年の荒野の生活で、
わたしに、いけにえをささげたことがあるか。
いや、あなたがたのほんとうの関心は、
異教徒の偶像にあったのだ。
モロクの神や星の神ロンパ、
そのほか自分たちで作った偶像に。
だから、わたしはあなたがたを、
バビロンのかなたへ捕らわれの身とする。』

44荒野の旅で、ご先祖は、持ち運びのできる幕屋を、神殿の代わりに携えていました。その中には、神様が下さった十戒を彫った、石の板が二枚ありました。 この幕屋は、神様がモーセに指示なさったとおり、寸分の狂いもなく造ってありました。 45ご先祖は代々、この幕屋を受け継ぎ、ヨシュアの指揮のもとに外国と戦って得た新しい領土に運び込み、ダビデ王の時代までありました。

46さて、神様はダビデ王をたいへん祝福なさいました。 ダビデ王は、ヤコブの神様のために、永久に残る神殿を建てさせてくださいと、熱心に願いましたが、 47実際に建てたのは、息子のソロモン王でした。 48 - 50しかし神様は、人間が造った神殿にはお住みにならないのです。 主は預言者の口を通して、次のように語っておられます。

『主は言われる。
天はわたしの王座、
地はわたしの足台。
いったいどのような家を
わたしのために建てようというのか。
わたしが、そのような所にとどまるだろうか。
わたしが、天と地とを造ったのではないか。』

51ほんとうに、強情な異教徒です、あなたがたは。 いつまで聖霊様にそむき続けるのですか。 かつてのご先祖たちのまねをして……。 52あなたがたのご先祖が、迫害しなかった預言者の名をあげることができたら、一人でもいいから、言ってごらんなさい。 ご先祖たちは、正しい方がおいでになると預言した人たちを殺したのですが、あなたがたは、当のメシヤ(救い主)を裏切り、殺したのです。 53そうです。 あなたがたは、

御使いが手ずから下さった神のおきてを、わざと破っているのです。」

ステパノの死

54 この告発に、ユダヤ人の指導者たちの怒りは爆発しました。 彼らは歯ぎしりしてくやしがりしました。 55 しかし、ステパノは聖霊に満たされ、ぐっと頭をもたげて天を見上げました。 その目に、神様の栄光と神様の右に立っておられるイエス様の姿が、ありありと見えました。 56 「ごらんなさい。 天が開けて、メシヤのイエス様が、神様の右に立っておられますっ！」

57 しかし、そのとき人々は耳をおおい、割れんばかりの大声をあげ、ステパノ目がけて殺到したので、彼の声はほとんど聞き取れないほどでした。 58 人々は、ステパノを石で打ち殺そうと、町の外に引きずり出しました。 証人たち〔死刑執行人たち〕は上着を脱ぎ、パウロという青年の足もとに置きました。

59 石が雨あられと飛んで来る中で、ステパノは祈りました。 「主イエスよ。 私の霊を、私の霊を迎え入れてください。」 60 そして、ひざまずき、「主よ。 どうぞこの罪の責任を、この人たちに負わせないでくださいっ！」と大声で叫んだかと思うと、ついに事切れました。

八

1 パウロは、ステパノを殺すことに大賛成でした。 その日から、激しい迫害の嵐がエルサレムの教会を襲い、使徒たち以外の者はみな、いのちからがら、ユダヤやサマリヤへ逃げのびました。 2 ステパノの遺体は、敬虔なユダヤ人たちの手で、悲しみのうちに埋葬されました。 3 一方、パウロは気違いのようになって、教会を荒らし回り、家々に押し入っては男女を問わず引きずり出し、牢にぶち込みました。

ピリポ、サマリヤへ

4 しかし、エルサレムから逃げ出したクリスチャンたちは、どこへ行っても、イエスのすばらしい知らせを伝えて歩きました。 5 ピリポはサマリヤの町へ行き、人々に、キリストのことを話しました。 6 ピリポが奇蹟を行なったので、みんな彼の話に熱心に耳を傾けました。 7 悪霊どもは大声でわめきながら人々から出て行き、中風の人や足の不自由な人たちも、次々に治ります。 8 今や、町中が喜びにわき返り、大騒ぎです。

9 - 11 さてこの町には、長年、魔術を行なってきた人がいました。 シモンと言い、持ち前の不思議な力で人々をびっくりさせたので、サマリヤ地方でたいへんな影響力を持っていました。 メシヤ（救い主）ではないかと言われたことも、しばしばでした。 12 しかし今は、だいぶ様子が違ってきました。 ピリポが来て、イエスこそメシヤだと教えたからです。 彼が神の国について話すのを聞き、大ぜいの人が信じ、男も女もみなバプテスマ（洗礼）を受けました。 13 そのうちにシモンも信じ、バプテスマを受けることになりました。 彼はピリポの行くところは、どこへでもついて行き、その奇蹟に驚いていました。

14 エルサレムにとどまっていた使徒たちは、サマリヤ人が神の教えを信じたと伝え聞き、

ペテロとヨハネを派遣しました。 15二人はサマリヤに来ると、さっそく、新しいクリスチャンたちが聖霊を受けるようにと祈りました。 16主イエスの名によってバプテスマを受けただけで、まだ聖霊が下っていなかったからです。 17二人が信者たちに手を置いて祈ると、みな聖霊を受けました。

18使徒たちが手を置くと聖霊が与えられるのを見たシモンは、この力を買い取ろうと、お金を持ってやって来ました。 19「お願いします。手を置けば、だれでも聖霊様が受けられるように、私にもその力を下さい。」彼は、声を大にして頼みました。

20しかし、ペテロは答えました。「その金もろとも滅んでしまえっ！金で神様の贈り物が買えるとでも思っているのか。とんでもない了見違いだ。 21心が神様の前に正しくないのに、この特権がいただけるはずはない。 22こんなことは二度とするな。主に祈れ。おまえのような不心得者でも、まだ赦していただけるかもしれない。 23ちゃんとわかってるぞ。おまえの心の中は、ねたみと罪でいっぱいだ。」 24シモンは驚いて叫びました。「ああ、そ、そんな恐ろしいことが起こらないように、祈ってくださいっ！」

25ペテロとヨハネは、このサマリヤの町で、イエスのことを証言したり説教したりしてから、サマリヤ人のあちこちの村へ行って、神のすばらしい知らせを伝えながら、エルサレムへ戻りました。

26ところで、ピリポはどうしたでしょう。主の使いが現われて、「さあ、エルサレムからガザの荒野へ通じる道に、お昼ごろ着くように出かけなさい」と言うではありませんか。

27言われたとおりにすると、エチオピアの女王カンダケのもとで、大きな権力を持ち、女王の財政を管理していたエチオピア人の宦官が向こうから来ます。この人は、神殿で礼拝するためにエルサレムへ行き、 28いま馬車で帰るところでした。ちょうど預言者イザヤの書を、声をあげて読んでいる最中です。

29聖霊がピリポをうながしました。「さあ、あの馬車に近づいて、いっしょに行きなさい。」

30ピリポが走り寄ると、イザヤの書を読んでいるのが聞こえます。そこで、「失礼ですが、その意味がおわかりですか」と尋ねました。

31「残念ながら、だれかが教えてくれないとわかりませんな。」こう答えると、その人は、馬車に乗って、そばに座ってくれと頼みました。

3233読んでいたのは、こういうところでした。

「その方は、殺されるために引かれて行く羊のように、
また、毛を刈る者たちの前で黙っている小羊のように、
口を開かなかった。

その方は卑しい者と見なされ、
正しいさばきも受けなかった。

だれが、この時代の人々の邪悪さを語れよう。

その方のいのちが、地上から取り去られたからには。」

34 宦官はピリポに尋ねました。「その方とは、いったいだれのことですか？ イザヤは自分のことを言っているのでしょうか。それとも、だれかほかの人のことを……。」

35 またとないチャンスです。ピリポは、このイザヤのことばから始めて、旧約聖書のあちこちを引用し、イエスのことをくわしく説明しました。

36 さて、道を進んで行くうちに、水のある所に来ました。すると宦官は、「ごらんない。水がありますよ。ここでバプテスマを受けてはいけない理由はないでしょう。どうですか？」と言いました。

37 「心から信じておられるなら、もちろんかまいませんとも。」

「私はイエス・キリストを神の子と信じます。」

38 宦官がはっきり告白したので、馬車を止めさせ、二人して水の中に入り、バプテスマを授けました。39 二人が水から上がった時、主の霊が、あっという間にピリポを連れ去りました。宦官はもう二度とピリポの姿を見ることはできませんでしたが、喜びに胸をはずませ、旅を続けました。40 一方、ピリポはアゾトの町に姿を現わし、そこで、神のすばらしい知らせを伝えました。そして、道々説教しながら、カイザリヤに向かいました。

九

パウロの回心

1 さてパウロは、クリスチャンを全滅させてやろうと、闘志満々、エルサレムの大祭司のところへやって来ました。2 そして、ダマスコの諸会堂あての手紙を書いてくれと頼み込みました。それは、ダマスコのクリスチャンを、男だろうが女だろうが、見つけしだい縛り上げ、エルサレムに連行するためのものでした。

3 パウロがこの仕事で、ダマスコの近くまで来た時、突然、天からまばゆい光がさっと彼を照らしました。4 そして、地に倒れた彼の耳に、こう語りかける声が響いてきました。

「パウロ、パウロ。なぜわたしを迫害するのか。」

5 パウロが、「いったい、どなたですか」と尋ねると、「あなたが迫害しているイエスだ。

6 さあ立って、町に入り、わたしの命令を待て」という答えが返ってきました。

7 同行していた人々は驚き、口もきけずに立ちすくんでいました。彼らには、声は聞こえても、イエスの姿は見えなかったからです。8 9 ようやくパウロは起き上がりましたが、どうしたことでしょう、目が見えません。手を引いてもらって、やっとダマスコに入り、三日間、盲目のまま、何も飲み食いせずに過ごしました。

10 さて、ダマスコにはアナニヤというクリスチャンが住んでいました。主は幻の中で、彼に語りかけました。

「アナニヤよ。」

「はい。」

11 『『まっすぐ』という名の通りに行き、ユダという人の家を探しなさい。そこにタル

ソのパウロという人がいて、いま祈っています。 12 わたしは幻の中で、アナニヤという人が来て、彼に手を置くと、もとどおり見えるようになる、と知らせておいたから。」

13 アナニヤは驚いて、叫びました。 「主よ、パウロですって！あの男がエルサレムのクリスチャンをどんな目に会わせているか、聞いております。 14 それに、祭司長たちから逮捕状をもらい、このダマスコのクリスチャンを一人残らず捕らえる権限を持っているという、もっぱらのうわさです。」

15 しかし、主は言われました。 「さあ、言うとおりにしなさい。 このパウロこそ、わたしの教えを、イスラエル人ばかりでなく、世界中の人々や王たちに伝えるために、わたしが選んだ人です。 16 彼には、わたしのために、どんなに苦しむことになるかを告げるつもりです。」

17 アナニヤは出かけ、パウロを捜し当てました。 そして彼に手を置き、「兄弟パウロ。ここへ来る途中、主にお会いしましたね。 その主イエス様の言いつけでまいりました。あなたが聖霊様に満たされ、また見えるようになるためです」と言いました。

18 するとたちまち、パウロの目から、うろこのようなものが落ち、もとどおり見えるようになりました。 彼は直ちにバプテスマ（洗礼）を受け、 19 食事をすますと、すっかり元気を取り戻しました。 それから数日の間、ダマスコのクリスチャンといっしょに過ごすと、 20 すぐにも会堂へ行き、イエスは神の子だ、と語り始めました。 21 そのことばを聞いて、人々はみな耳を疑いました。 「この人は、エルサレムで、イエスの弟子たちを迫害した張本人じゃないか。 ここへ来たのも、クリスチャンたちをみな縛り上げ、祭司長のもとへ引いて行くためだと聞いていたが……。」

22 しかしパウロは、ますます熱心に、イエスこそほんとうのキリストだと証明したので、ダマスコのユダヤ人たちはまるで訳がわからず、とうとう堪忍袋の緒が切れてしまいました。

23 しばらくして、ユダヤ人の指導者たちは、パウロ殺害を決議しました。 24 そして、昼も夜も町の門を見張りましたが、いつしか、この陰謀はパウロの耳にも入ってしまいました。 25 そこで、パウロの話を聞いて信者になった人たちが、夜の間に、彼をかごに乗せ、町の城壁からつり降ろしました。

26 エルサレムに着いたパウロは、クリスチャンの仲間に加わろうとしましたが、だれもパウロを仲間だとは信じられず、恐れるばかりでした。 27 しかし、バルナバは違いました。 パウロを使徒たちのところへ連れて行き、事の一部始終を説明してやりました。パウロがダマスコに向かう途中で主にお会いしたこと、また主がパウロに告げたことばや、それ以来パウロが、イエスの名によって力強い説教をしたことなど……。 28 それで使徒たちも、ようやくパウロを受け入れました。 それからは、パウロはいつもクリスチャンと行動を共にし、主の名によって大胆に語りました。 29 また、ギリシヤ語を話すユダヤ人と意見を戦わせることもありました。 ところが、彼らの中には、パウロのいのちをねらう連中がいました。 30 それと知った信者たちは、パウロを故郷のタルソへ帰そ

うということになり、カイザリヤまで同行して見送りました。

31 こうして教会は、ユダヤ、ガリラヤ、サマリヤの至る所で無事に守られ、どんどん勢力を伸ばしていきました。信者たちは、心から主を恐れつつ、聖霊に慰められながら生活することを学びました。

ペテロの奇蹟

32 さて、ペテロは、ほうぼうの信者を訪問する旅の途中、ルダの町にもやって来ました。

33 そこでアイネヤという人に会いました。話を聞くと、八年間も中風で寝たきりだそうです。

34 ペテロは、「アイネヤよ。イエス・キリストが治してくださるのだ。さあ起きて、自分でベッドを片づけなさい」と言いました。するとどうでしょう。アイネヤの病気は、たちどころに治ってしまいました。35 ルダとサロン一帯に住む人々はみな、アイネヤが元気に歩き回っている姿を見て、主イエスを信じるようになりました。

36 そのころ、ヨッパの町にドルカス [かもしか] という名の婦人が住んでいました。クリスチャンで、いつも貧しい人たちのことに心を配り、何かと親切にしていました。37 ところが、このドルカスが病気で死んでしまったのです。友人たちは、葬式の準備をし、遺体を二階に安置しました。38 ちょうど、ペテロが近くのルダにいるということなので、使いを出し、ぜひヨッパまで足を伸ばしてほしいと頼みました。39 ペテロは快く承知しました。彼がヨッパに着くやいなや、人々は待ちかねたように、遺体が安置されている二階の部屋まで連れて上がりました。そこは、生前ドルカスがめんどうを見てやった婦人たちで、いっぱいでした。みな、ドルカスに作ってもらった服などを見せ合っては、涙に泣いています。40 ペテロは、みんなを部屋から出し、やおらひざまずいて祈り始めました。それから遺体のほうを向き、「起きなさい。ドルカス」と声をかけました。すると、なんということでしょう。彼女が目を開けたのです！ ペテロをじっと見、体を起こしたのです！ 41 ペテロは、いたわるように手を取って立たせ、一同を呼び入れました。あつけにとられた人々の前に、ドルカスが立っています……。

42 この話は、またたく間に町中に広まり、大ぜいの人が主を信じました。43 ペテロは長いことヨッパにとどまり、その間、皮なめしのシモンの家に泊まっていました。

一〇

神の使いとコルネリオ

1 カイザリヤに、コルネリオという、ローマ軍の士官がいました。イタリア連隊に所属する隊長の一人でした。2 この人はたいそう信仰があつく、一家そろって神を信じていました。また、困っている人には惜しみなく施し、実によく祈る人でもありました。3 ある日の午後、彼は幻を見ました。午後三時ごろのことで、意識ははっきりしていました。幻の中で、御使いが現われ、彼のところへ来て、「コルネリオよ」と呼びかけるではありませんか。

4 じっと御使いを見つめていると、なんだか恐ろしくなりました。「どんなご用でしょ

うか。」

「あなたの祈りも、良い行ないも、神様はすべてご存じです。 56 さあ、ヨッパに使いをやって、シモン・ペテロという人を捜させなさい。 海岸沿いの皮なめし職人シモンの家にいます。 彼に、ここへ来てくれるように頼みなさい。」

7 御使いが姿を消すとすぐ、コルネリオは使用人二人と、神を敬う側近の兵士一人とを呼び寄せました。 8 そして、このいきさつを話し、ヨッパへやりました。

9 - 11 翌日、三人がヨッパの町に近づいたころ、ペテロは祈るために屋上に上がりました。 正午ごろのことで、お腹がすき、食事をしたくなりました。 ところが、昼食の用意がなされている間に、とろとろ夢ごちになったのです。 ふと見ると、天が開け、四すみをつつた大きな布のようなものが降りて来ます。 12 中には、ユダヤ人は食べることが禁じられていた蛇や鳥など、あらゆる種類の動物が入っています。

13 そして、「さあ、どれでも好きなものを料理して食べなさい」という声が聞こえました。

14 「主よ、とんでもありません。 生まれてこのかた、口にしたこともないものばかりです。 ユダヤのおきてで禁じられているのですから。」

15 「ペテロよ、神様に口答えするのか。 神様が、『きよい食べ物だ』と言われたものは、きよいのだ。」

16 同じことが三度あってから、布はすうっと天に引き上げられました。

17 ペテロは、この幻はどういう意味なのだろうと、すっかり考え込んでしまいました。 ちょうどその時です。 コルネリオから遣わされた人たちがシモンの家を探し当て、門口に立ち、 18 「こちらにシモン・ペテロという方が泊まっておいででしょうか」と尋ねました。

19 一方、ペテロは、今しがたの不思議な幻のことをあれこれ考えあぐねていると、聖霊がこうおっしゃいました。 「三人の人が、あなたに会いに来ました。 20 さあ降りて、その人たちに会い、いっしょに出かけなさい。 心配はいりません。 わたしが、その人たちをよこしたのだから。」

21 そこでペテロは下へ降り、「お尋ねのペテロは、私です。 どんなご用でしょうか」と尋ねました。

22 すると三人は、ローマ軍の士官コルネリオが、たいそう信心深い人で、ユダヤ人みんなから好意を持たれていることや、そのコルネリオのもとに現われた御使いが、ペテロを招いて神のことばを聞くように指示なさったいきさつなどを話しました。

ペテロ、コルネリオを訪問

23 ペテロは三人を家に招き入れて一晩泊め、翌日いっしょに出かけました。 ヨッパの信者も数人、同行しました。

24 一行がカイザリヤに到着したのは、次の日でした。 コルネリオは、親類の者や親しい友人たちを呼び集め、一行を、今や遅しと待ち受けていました。 25 そして、ペテロが家に入ると、その前にひれ伏して礼拝したのです。

26 ペテロはそれを押しとどめました。「お立ちなさい。 私は神様じゃありませんよ。」
27 コルネリオは立ち上がり、しばらく二人で話し合ってから、人々の待つ部屋へ入りました。

28 ペテロは一同に言いました。「このようにして外国人の家に入ることが、ユダヤのおきてで禁じられていることは、よくご存じでしょう。 ところが神様は私に、どんな人をも差別してはならないと、幻で示してくださいました。 29 ですから、お招きを受けた時、何のためらいもなく、やって来たわけです。 ところで、いったいどんなご用があるのでしょうか。」

30 コルネリオが口を切りました。「実は、四日前の午後のことです。 ちょうど今ごろですが、いつものように祈っておりましたところ、突然、輝くばかりの衣をまとった人が、目の前に現われたのです。 31 その人は、『コルネリオよ。 あなたの祈りも良い行ないも、神様はすべてご存じです。 32 さあ、ヨッパに使いをやって、シモン・ペテロという人を招きなさい。 海岸沿いの皮なめし職人シモンの家にいます』とおっしゃいました。 33 それで、すぐあなた様を迎えにやったのですが、こんなに早々とお越しいただいて、何とお礼を申し上げてよいやら……。 私たちは今、主があなた様にお命じになったことを、一つ残らずうかがおうと、こうして神様の前に出て待っているのです。」

34 ペテロは話し始めました。

「神様はただユダヤ人だけを愛しておられるのではないことが、はっきりわかりました。

35 神様を礼拝し、また良い行ないをして神様に喜ばれる人は、どこの国にもいるのです。

36 37 イスラエル人に伝えられた神様のすばらしい知らせのことは、すでにお聞きお喜びでしょう。 全人類の主である救い主イエス様によって、私たちが神様と和解できるということです。 この教えは、バプテスマのヨハネが語り始め、ガリラヤからユダヤ全土に広まりました。 38 ナザレのイエス様は、神の聖霊と力とに満たされて、すばらしいことを行ない、また悪霊に取りつかれている人たちをみな治しながら、ほうぼうを巡回されました。 それは、神様がこの方と共におられたからだということも、きっとご存じでしょう。

39 私たち使徒は、イエス様がイスラエル全国、またエルサレムでなさったすべてのことの証人です。 このエルサレムで、イエス様は十字架につけられたのです。 40 41 しかし神様は、三日後にイエス様を復活させてくださいました。 そしてそのことを、一般の人ではなく、神様があらかじめ選んでおられた特定の証人に、示してくださったのです。 私たちは復活したイエス様とお会いして、いっしょに食事もしました。 42 主は、このすばらしい知らせをすべての人に伝えようと、私たちを派遣なさいました。 それで私たちは、このイエス様が、生きている人でも死んだ人でもすべての人を審判する方として、神様に任命されたのだと証言しているのです。 43 もちろんイエス様のことは、今までのどの預言者も、この方を信じる者はだれでも、その名によって罪が赦されると証言しています。」

44 ペテロがまだ話しているうちに、聖霊が一人一人に下りました。 45 ペテロに同行して来たユダヤ人のクリスチャンたちは、外国人にも聖霊の贈り物が与えられたので驚きました。 46 47 しかし、疑う余地のない事実です。 人々は自由に他国のことばで話し、神を賛美していたからです。

「私たちと同じく、聖霊様を受けた以上、この人たちにバプテスマ（洗礼）を授けることに、だれも反対できません。」 こうきっぱり言いきると、 48 ペテロは、キリスト・イエスの名によって、バプテスマを授けました。 コルネリオはペテロに、数日間、泊まってほしいと頼みました。

――

ペテロの報告

1 まもなく、外国人もクリスチャンになった、というニュースが、使徒やユダヤにいるクリスチャンのもとに届きました。 2 そこでユダヤ人のクリスチャンは、エルサレムに帰ったペテロに、面と向かって、非難をあげせました。

3 「外国人と親しくし、おまけに食事までいっしょにしたそうじゃないですか。」

4 それでペテロは、その時のいきさつを包み隠さず話して聞かせました。

5 「ある日、ヨッパで祈っていた時、幻を見たのです。 四すみをつった大きな布が天から降りて来ました。 6 中には、ユダヤ人は食べてはならない、あらゆる種類の獣、爬虫類、鳥が入っていました。 7 そして、『どれでも好きなものを料理して食べなさい』という声がしました。

8 私は必死で、『主よ。 そんなことはできません。 ユダヤのおきてで禁じられているものは、口にすることもありません』と申し上げました。

9 しかし、その声は、『神様がきよいと宣言されたものを、きよくないと言ってはいけない』と言うのです。

10 同じことが三度あってから、布は天に引き上げられました。 11 ちょうどその時、カイザリヤから三人の人が、私のいた家まで迎えに来たのです。 12 聖霊様は、相手が外国人であることなど気にかけず、いっしょに行けとおっしゃいました。 ここにいる六人のクリスチャンも、同行しました。 こうして、使いをよこした人の家に着きました。

13 その人が説明するには、御使いが現われ、ヨッパにいるシモン・ペテロを招け、と言われたというのです。 14 そして御使いは、『ペテロは、あなたとあなたの家の者たちが救われるには、どうしたらよいか教えてください』と告げたそうです。

15 私は彼らに、神様のすばらしい知らせを語りました。 ところが、説教を始めるとすぐ、彼らにも聖霊様が下ったのです。 まさに、あの最初のとくときと同じ光景でした。 16

その時、私は、『ヨハネは水でバプテスマ（洗礼）を授けたが、あなたがたは聖霊様によってバプテスマを授けられる』と言われた主のことばを、ふと思い出したのです。 17 私たちが、主イエス・キリストを信じた時に与えられたのと同じ贈り物が、外国人にも与えられたという、まぎれもない事実を前にしては、だれが神様に、とやかく申せましょう。」

18 ペテロの説明に、疑問は氷解しました。一同は、「神様は、外国人にも、神様に立ち返って永遠のいのちをいただく特権を、お与えになったのだ」と、口々に神を賛美しました。

アンテオケ教会の成立

19 一方、ステパノの死をきっかけとして起こった迫害のために、エルサレムから逃げ出したクリスチャンは、フェニキヤ、キプロス、アンテオケにまでも足を伸ばしました。そしてそれぞれの所で、神様のすばらしい知らせを語ったのですが、相手はユダヤ人に限られました。20 しかし、何人かのキプロス出身とクレネ出身のクリスチャンは、アンテオケで、主イエスについての教えを、ユダヤ人だけでなく、ギリシヤ人にも伝えました。

21 主がいっしょに働かれたので、大ぜいの外国人がクリスチャンになりました。

22 このニュースを耳にすると、エルサレムの教会は、新しくクリスチャンになった人たちを助けようと、さっそくバルナバを派遣しました。23 アンテオケに到着したバルナバは、神のなさるすばらしいことを見て、深く感動し、喜びにあふれました。そしてクリスチャン一人一人に、どんな犠牲をはらってでも、絶対に主から離れないようにと忠告し、励ましました。24 バルナバは聖霊に満たされた、信仰のあつiriっぱな人でした。こうして、たくさんの人が主イエスを信じるようになったのです。

25 このあと、バルナバはパウロを捜しに、タルソへ行きました。26 捜し当てると、アンテオケに連れて来て、二人でまる一年とどまり、新しくクリスチャンとなった多くの人々を教えました。〔そもそも、このアンテオケで、キリストを信じる者たちが、初めてクリスチャンと呼ばれるようになったのです。〕

27 ちょうどそのころ、何人かの預言者がエルサレムからアンテオケにやって来ましたが、28 その中の一人アガボが、ある集会の席上で、大いきんがイスラエル全地に起こる、と聖霊によって預言しました。はたしてこの預言は、クラウデオの治世に事実となりました。29 そこで、アンテオケのクリスチャンは、協議の結果、ユダヤのクリスチャンのために、できる限りの援助をすることになりました。30 そう決まると、さっそく実行に移し、救援物資をバルナバとパウロに託して、エルサレム教会の長老たちのもとへ届けました。

一二

ペテロの逮捕と救出

1 そのころ、ヘロデ王は一部のクリスチャンに迫害の手を伸ばし、2 ヨハネの兄弟、使徒のヤコブを血祭りに上げました。34 このことで、ユダヤ人の指導者たちが上きげんになったことを知ると、今度はペテロを逮捕しました。ちょうど過越の祭りの最中だったので、祭りが終わりしだい、処刑のためにユダヤ人に引き渡すつもりで、牢にぶち込み、十六人の兵士に監視させました。5 教会では、そのあいだ中、ペテロをお守りくださいと、熱心な祈りを神様にささげていました。

6 処刑前夜、ペテロは二人の兵士にはさまれ、二重の鎖につながれて眠っていました。牢

獄の門の前には、ほかの番兵が立っています。 7 そのとき突然、牢獄の中が、ぱっと光り輝き、主の使いが現われました。 御使いはペテロのわき腹をつついて起こし、「さあ、立って、立って。 急ぎなさい」と言いました。 そのとたん、鎖が手首からはずれました。 8 「身じたくを整えて、くつをはきなさい。」 ペテロがそのとおりにすると、今度は、「さあ上着をきて、ついて来なさい」と命じます。

9 ペテロは牢獄を出て、御使いについて行きましたが、その間ずっと、夢か幻でも見ているような気分で、どうしても現実のこととは思えません。 10 第一、第二の見張り所を通り抜け、とうとう町に通じる鉄の門の前までやって来ました。 するとその門も、ひとりでに開くではありませんか。 二人はなんなく外に出て、次の通りまで歩いて行きました。 そのとき御使いの姿は、かき消すように見えなくなりました。

11 ペテロは初めて我に返り、やっと何が起こったかに気づきました。 「夢じゃない、夢じゃないんだ。 主が御使いを遣わし、ヘロデの手から、またユダヤ人どものたくらみから、救い出してくださったのだっ！」 12 何もかもはっきりすると、彼は、マルコと呼ばれるヨハネの母マリヤの家へ急ぎました。 そこには大ぜいの人が集まり、祈っていました。

13 ペテロは玄関の戸を、どんとたたきました。 その音を聞きつけて、ロダという女中が取り次ぎに出て来ました。 14 ところが、声の主がペテロだとわかったと、喜びのあまり、戸を開けることも忘れて、そのまま家の中に走り込み、みんなに、ペテロが帰って来たと知らせました。 15 しかし人々は、「気でも狂ったのか」と言って、取り合おうとしません。 しかし彼女があくまで言いはるので、「それじゃ、きっとペテロについている御使いだ〔とすると、ペテロは殺されたに違いない〕」と、言い合いました。

16 一方ペテロは、そのあいだ中、戸をたたき続けていました。 やつと人々が出て来ました。 戸を開けた時の、彼らの驚きようといったらありません。 17 ペテロは手ぶりでその場を静め、何が起こったのか、主がどのようにして牢獄から出してくださったかを話しました。 そして、「ヤコブやほかの信者たちにもこのことを知らせてほしい」と言って、安全な場所へ立ち去りました。

18 朝になると、牢獄では、ペテロはいったいどこに行ったのかと、上を下への大騒ぎです。 19 ペテロを引き出そうとしたヘロデは、ペテロがいなくなったと知るや、十六人の番兵を片っぱしから逮捕して、軍法会議にかけ、全員に死刑を宣告しました。 ヘロデはその後、カイザリヤに行き、しばらくそこにとどまりました。

20 ヘロデはツロとシドンの住民に激しい敵意をいだいていましたが、カイザリヤ滞在中に、この二つの町の代表者たちが、王の侍従ブラストに取り入って、和解を申し出ました。 というのも、二つの町は経済的にヘロデの国との交易に頼っていたからです。 21 会見の約束ができ、いよいよ、その当日です。 ヘロデは王服を着けて王座に座り、彼らに向かって演説を始めました。 22 演説が終わると、彼らは大喝采を送り、大声で、「神様の声だっ！ とても、人間の声とは思えない」と叫びました。

23するとたちまち、御使いが、ヘロデを罰したので、彼は病気になり、やがて体中にうじがわいて、死んでしまいました。 神だけにふさわしい栄光を横取りし、身のほど知らずにも、人々の礼拝を受け、神に栄光をお返ししなかった報いです。

バルナバとパウロ

24神のすばらしい知らせはますます広まり、新しいクリスチャンが大ぜい誕生しました。

25エルサレムを訪問したバルナバとパウロは、務めを果たしたあと、ヨハネと呼ばれるマルコを連れて、アンテオケに帰りました。

■

一三

1アンテオケの教会の預言者や教師たちの中には、次の人たちがいました。 バルナバ、シメオン〔別名「黒い人」〕、ルキオ〔クレネ出身〕、マナエン〔ヘロデ王とは乳兄弟〕、それにパウロなどです。 2ある日、これらの人たちが礼拝をささげ、断食していると、聖霊が、「バルナバとパウロに、わたしの特別な仕事をさせなさい」と言われました。 3それで、さらに断食して祈ったあと、二人に手を置いて任命し、出発させました。

4二人は聖霊に導かれてセルキヤに行き、そこから、船でキプロス島に向かいました。 5島のサラミスという町に着くと、さっそくユダヤ人の会堂に出向いて説教です。 ヨハネと呼ばれるマルコも、助手として同行しました。 67このあと、町から町へと、島中を巡り歩いて説教を続け、最後にパポスという町にきました。 そこで、偽預言者でバルイエスと名乗る魔術師に出会ったのです。 この男は、総督のセルギオ・パウロの取り巻きの一人でしたが、総督自身は物事に明るい、たいへん理解のある人でした。 かねがね神の教えを聞きたいと思っていた総督は、この機会にバルナバとパウロとを招きました。 8ところが、強力な反対者が現われました。 魔術師エルマ〔バルイエスのギリシヤ名〕です。 彼は、パウロやバルナバのことばに耳を傾けないようにとそそのかし、何としても、総督に主を信じさせまいとやっきになりました。

9しかし、パウロは聖霊に満たされ、魔術師をきつとにらみつけ、 10「悪魔の子、ペてん師めっ！ おまえのように悪事にたけたやつは、正義の敵だ。 どこまで主に反抗するつもりか。 11さあ、神様のさばきを受けるがいい。 そうだ。 おまえは盲目になる。 しばらくの間、日の光が見えなくなるのだっ！」とどなりつけました。

するとたちまち、かすみとやみとが彼をすっぽりおおい、彼は、「おーい、だれか手を引いてくれーっ」と叫びながら、手さぐりで歩き回りました。 12この出来事を目のあたりにした総督は、神を信じ、今さらのように神の教えの偉大さにびっくりしました。

トルコへ

13さて、パウロ一行はトルコに向かうため、船でパポスを発ち、ペルガの港に上陸しました。 ここまで来ると、マルコは二人を捨て、一人でさっさとエルサレムに帰ってしまいました。 14しかしバルナバとパウロは、ピシデヤ地方の町、アンテオケに行きました。

安息日になり、二人は会堂へ出かけました。礼拝をするためです。 15いつものとおり、モーセの書と預言者の書からの朗読がすむと、会堂の管理人たちが、二人に言ってよこしました。「おふた方。何かお話ししていただけますか。よろしかったら、願います。」

16そこで、パウロが立ち上がり、会衆にあいさつしてから、話し始めました。

「イスラエルの人たち、ならびに、ここにおられる神様を敬う皆さん、お聞きください。まず、私たちの歴史からお話ししましょう。

17イスラエルの神様は、私たちのご先祖をお選びになりました。そして、エジプトで奴隷にされた彼らを、目を見張るような方法で救い出し、名誉を回復してくださったのです。 18彼らが荒野をさまよい歩いた四十年の間も、ずっと養い続けてくださいました。

1920また、カナンの子七つの民族を滅ぼし、その土地を相続財産として、分配なさいました。こうなるまでに約四百五十年もかかりました。そのあとは、預言者サムエルが現われるまで、さばき人が国の秩序を保っていたのです。

21やがて人々は、王がほしいと言いだしました。そこで神様は、ベニヤミン族のキスの息子サウロを王とし、四十年間、国を治めさせました。 22しかし、そのサウロも神様に退けられ、代わりにダビデが王になりました。このダビデのことを、神様は『エッサイの息子ダビデこそ、わたしの心にかなう者、わたしの意志に完全に従ってくれる者だ』と言われました。 23このダビデ王の子孫から、約束どおり、イスラエルの救い主、イエス様を起こしてくださったのです。

24この方がおいでになる前に、バプテスマのヨハネは、イスラエルの全国民が罪を捨て、神様に立ち返らなければならないと教えました。 25そのヨハネが、働きを終える時、こう言いきったのです。『あなたがたは、私をだれだと思っているのか。私はメシヤ（救い主）ではない。ほんとうのメシヤはまもなくおいでになる。この方に比べれば、私など、全く取るに足りない。』

26アブラハムの子孫の方々、ならびに、神様を敬う外国人の皆さん。この救いは、私たちみんなのものです。 27エルサレムにいるユダヤ人とその指導者たちは、イエス様を処刑することで、皮肉にも、預言を実現させたのです。安息日ごとに預言者のことが読まれるのを聞きながら、イエス様こそ、その預言されたお方であることを認めようともしませんでした。 28そして、正当な理由は何一つなかったのに、どうしても死刑にしてほしいと、ピラトに要求したのです。 29こうして、何もかも預言どおりに、イエス様は死なれたのです。そのあと、イエス様の遺体は十字架から降ろされ、墓に葬られました。

30しかし神様は、このイエス様を復活させてくださったのです。 31イエス様は幾日もの間、ガリラヤからエルサレムまで、ずっと行動を共にした人たちに、たびたび姿を現わしました。復活のイエス様にお会いした人たちはいつも、人々に、このことを証言し続けてきたのです。

3 2 3 3 バルナバと私もまた、この喜ばしい知らせを伝えようと、こうして、わざわざやって来たのです。 その知らせとは、神様がイエス様を復活させたことによって、私たちのご先祖への約束が、今の時代に実現したということです。 旧約聖書の詩篇の第二篇に、『今日、わたしはあなたに、子としての名誉を与えた』とあるとおりです。

3 4 神様はイエス様を復活させ、二度と死なない方となさいました。 聖書に、『わたしはダビデに約束したすばらしい祝福を、あなたがたに与える』とあるとおりです。 3 5 また詩篇のほかの個所では、もっとはっきりしています。『神様は、ご自分の聖なる方が、朽ち果てるのをお許しにならない。』 3 6 これは、ダビデのことではありません。ダビデは、神様のお心のままに、当時の人たちに仕えた後、死んで葬られ、その体は朽ち果てたからです。 3 7 しかし、神様が復活させた方は、墓の中で朽ちはしませんでした。

3 8 聞いてください、皆さん！ このイエス様こそ、皆さんの罪を赦してくださるのです。

3 9 イエス様を信じる人はみな、すべての罪から解放され、正しい者と宣言されるのです。これは、モーセの法律では、どうしてもできないことでした。 4 0 くれぐれも注意してください。 預言者たちの次のことばが、皆さんに的中しないように。

4 1 『見ろ。 そして滅べ。

真理を見下す者どもよ。

おまえたちの時代に、一つのことをしよう。

どんなに説明しても、

とうてい信じられないことを。』

4 2 その日、会堂からの帰り道、人々はパウロに、次の週も、また話してほしいと頼みました。 4 3 礼拝が終わってからも大ぜいのユダヤ人や信心深い外国人が、パウロとバルナバについて来たのです。 二人は、その人たちに、神の恵みを受けるようにと教えました。 4 4 次の週の礼拝には、町中の人々がこぞって詰めかけ、二人が神のことばを話すのを聞こうとしました。

4 5 しかし、ユダヤ人の指導者たちは、この群衆を見て、ねたみに駆られ、口ぎたなくののしり、ことごとくパウロに反対しました。

4 6 そこでパウロとバルナバは、きっぱり言ってやりました。 「この神様からのすばらしい知らせは、まずあなたがたユダヤ人に伝えられるはずだった。 だが、あなたがたはそれを突っぱね、永遠のいのちを受けるにふさわしくない者であることを、自分から証明したのだ。 いいだろう。 これからは、このすばらしい知らせは、外国人に伝えよう。

4 7 主のご命令のとおりにな。 主は、『わたしはあなたを外国人の光とした。 地の果ても、人々を救いに導くためである』と言っておられるのだ。」

4 8 これを聞いた外国人たちは、うれしさを隠しきれません。 喜んで、パウロの話に耳を傾けました。 そして永遠のいのちを求める人はみな、信仰に入りました。 4 9 こうして神の教えは、この地方全体に広まったのです。

5 0 しかし、ユダヤ人の指導者たちも、おとなしく引き下がってはいません。 うまいこ

と信心深い婦人や町の有力者たちをそそのかし、パウロとバルナバを迫害したあげく、とうとう町から追い出してしまいました。 5 1 二人は、その町と縁を切るしるしに、足のちりを払い落とし、イコニオムへ向かいました。 5 2 一方、主を信じた人たちは聖霊に満たされ、喜びにあふれていました。

一四

1 イコニオムの町でも、パウロとバルナバは連れ立って会堂に行き、力強く語ったので、ユダヤ人も、外国人も、大ぜい信じました。

2 しかし、神のことばを軽んじるユダヤ人たちは、根も葉もないことで二人を中傷し、人々の不信をかき立てました。 3 それにもかかわらず、二人は長い間そこに滞在し、大胆に説教を続けたのです。 主は、すばらしい奇蹟を行なわせ、二人のことばが真実であることを証明なさいました。 4 ところが、町の人たちの意見は真っ二つに分かれました。 ユダヤ人の指導者側の意見に、もろ手を上げて賛成する連中があるかと思うと、使徒たちの味方につく者もあるといったぐあいです。

ルステラでの出来事

5 6 外国人とユダヤ人たちが、ユダヤ人の指導者たちとぐるになり、二人を襲い、石で打ち殺そうとたくらんでいるという情報が、二人の耳に入りました。 二人は、急いで町を出ると、ルカオニヤの町のルステラとデルベ、またその周辺に難をのがれ、 7 そこで、神様のすばらしい知らせを伝えました。

8 ルステラにいた時のことです。 一人の足の立たない人に出会いました。 生まれてこのかた、一步も歩いたことがない人でした。 9 その人がパウロの説教に、一心に耳を傾けていたのです。 当然、パウロの目にとまりました。 その人に、治されるだけの信仰があると見抜いたパウロは、 10 大声で、「立ちなさい」と呼びかけました。 その瞬間、その人はとび上がり、勢いよく歩きだしたのです。

1 1 これを見た人々は、その地方のことばで、「神々だ。 人間の姿をした神々だ」と叫びだしました。 1 2 そして、わいわい騒ぎながら、二人をギリシヤの神々にまつり上げたのです。 バルナバはゼウス、パウロはおもに話をしたので、ヘルメスだということになりました。 1 3 町の門のすぐ外にある、ゼウス神殿の祭司までが、花飾りを持って駆けつけ、門のところで群衆といっしょに、雄牛を数頭いけにえとし、二人にささげようとするではありませんか。

1 4 バルナバとパウロは、この神を汚すふるまいに仰天し、着物を引き裂いて、群衆の中に駆け込み、大声で叫びました。

1 5 「皆さん。 なんということをするのです。 私たちは、皆さん同様、ただの人間じゃありませんか。 こんなばかばかしいことは、おやめなさいっ！ 天と地と海、それにその中のすべてのものをお造りになった神様を礼拝しなさい。 私たちは、そのために、すばらしい知らせを持って来たのです。 1 6 過去の時代には、神様はあらゆる国民が、それぞれ自分勝手な道に進むことを許しておられました。 1 7 といっても、神様のことが

全然わからなかったわけじゃありません。 神様を思い起こさせるものは、いつでも私たちの周囲にあったのです。 たとえば、雨を降らせてくださったのも神様ですし、食べ物が不足しないようにと、すばらしい収穫をあげさせ、喜びに満たしてくださったのも、ほかならぬ神様なのです。」

18 こうして、パウロとバルナバは、やっとのことで、いけにえをささげるのを、やめさせました。

19 しかし、その数日後、また別の事件が起こりました。 アンテオケとイコニウムから数人のユダヤ人が来て、町の人たちを味方に引き入れ、パウロを襲ってさんざん石を投げつけ、町の外へ引きずり出したのです。 ぐったりとしたパウロを見て、てっきり死んだものと思ったからです。 20 クリスマンたちはぐるっと回りを取り巻き、心配そうにながめていました。 するとどうでしょう。 当の本人はむっくり起き上がり、何事もなかったように町へ帰って行ったのです。

翌日、パウロはバルナバといっしょに、デルベに向けて出発しました。 21 そこで神のすばらしい知らせを語り、大ぜいの人をクリスマンにしてから、ルステラ、イコニウム、アンテオケへと引き返しました。 22 それぞれの町でクリスマンたちに会い、ますます神を愛し、また互いに愛し合うように教え、どんな迫害にもくじけず、信仰にとどまり続けるようにと励ましました。 そして、「神の国に入るには、いろいろ苦しい目に会わなければならない」と語りました。 23 二人は、どこの教会でも長老を任命し、彼らのために断食して祈り、だれよりも信頼する主にゆだねました。

24 それがすむと、ピシデヤを通してパンフリヤに帰り、 25 また、ペルガで説教してから、アタリヤに行きました。

26 そしてついに、船でアンテオケに帰って来たのです。 この町は、今まさに終えたばかりの務めを、神からゆだねられ、出発した所でした。 27 二人はさっそく信者たちを集めて、伝道旅行の報告をし、神は外国人にも信仰の門を開いてくださったと話しました。 28 それから、かなり長い間、アンテオケで、信者たちといっしょに過ごしました。

一五

最初の教会会議

1 パウロとバルナバがアンテオケにいた時のこと、ユダヤから来た人たちが、クリスマンに、古いユダヤの習慣どおり割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けなければ救われない、と教え始めました。 2 パウロとバルナバは、このことで彼らと激しく対立し、大論争が持ち上がりました。 それでとうとう、この地方の人を何人かつけて、パウロたちをエルサレムにやり、この問題について使徒や長老たちと協議してもらうことになりました。 3 一行は、町の外で、教会員全員の見送りを受けて出発しました。 途中フェニキヤとサマリヤの町に立ち寄り、外国人も次々に主イエスを信じるようになったというニュースを告げて、クリスマンを大いに喜ばせました。

4 エルサレムに着くと、教会員と指導者たち——使徒全員と長老たち——一同が出迎えま

した。そこで、パウロとバルナバは、今回の伝道旅行で、神がどんなことをしてくださったか、ありのままを報告しました。 5しかし、主イエスを信じる以前はパリサイ派だった人たちのうちの何人かが立ち上がり、外国人といえども、クリスチャンになった以上は、割礼を受け、ユダヤの習慣や儀式を残らず守るべきだと主張しました。 6そこで使徒と長老たちは、この問題に決着をつけるため、会議を開きました。

7激しい論争が続いたあと、ペテロが立ち上がり、意見を述べました。

「皆さん、お忘れですか。 ずっと以前、外国人もこのすばらしい知らせを聞いて信じるために、神様が私をお選びになったことを。 8人の心を何もかもご存じの神様は、ご自分が外国人をも受け入れておられることをわからせようと、私たち同様、彼らにも聖霊様を与えてくださったではありませんか。 9神様は、外国人とユダヤ人を少しも差別なさいません。 だからこそ、私たちと同じように、信仰によって、彼らの心をもきよめてくださったのです。 10それなのに、どうして、私たちにしても、私たちのご先祖にしても背負いきれなかった重荷を、彼らに負わせようとするのですか。 そんなことをしたら、それこそ、神様がなさったことを訂正するようなものです。 11私たちは、すべての人が同じ方法で、すなわち、主イエス様が一方的に与えてくださった恵みによって救われる、と信じているのではありませんか。」

12これを聞くと、あえてそれ以上、議論する者はいなくなりました。 そして一同は、神様が外国人の間で行なわれた奇蹟について語る、バルナバとパウロの話に、耳を傾けました。

13話が終わると、ヤコブが立ち上がりました。 発言するためです。

「皆さん、お聞きください。 14今しがたペテロは、神様が初めて外国人に目をとめ、その中から御名をあがめる者たちを起こされた時のことを、話してくれました。 15この事実は、預言者たちの預言とも一致します。 次のように書いてあるとおりです。

16『この後、わたしは帰って来て、
とざれていたダビデとの契約を更新する。

17わたしを信じる人たちがみな、
外国人も含めて、主を見いだすためである。

18初めから、ご計画を示してこられた神が、
こう言われる。』

19ですから、これはあくまで私の判断ですが……、神様に立ち返る外国人に、ユダヤ人のおきてを押しつけるべきではありません。 20ただ、偶像に供えた肉を食べること、あらゆる不品行、しめ殺した動物の肉を血を抜かないまま食べること、また血を食べることはやめるように言ってやればいいでしょう。 21どこの町でも、ユダヤ人の会堂では、安息日ごとに、何代にもわたって、このことに反対する説教がなされてきたからです。」

22使徒や長老たちをはじめ会衆一同は、パウロとバルナバと共に、アンテオケまで代表を派遣し、この決定事項を報告することを決議しました。 そこで選ばれたのが、教会の

指導者、ユダ〔別名バルサバ〕とシラスでした。

23 二人が持って行った手紙には、こう書いてありました。

「使徒および長老たち、ならびにエルサレムのクリスチャンから、アンテオケ、シリヤ、キリキヤの外国人クリスチャンの皆様へ、

24 こちらから行った何人かのクリスチャンが、いろいろなことを言って、皆様をまどわせ、救いにまで疑問をいだかせたことを、確かにうかがいました。しかし、誤解なさないでください。私たちがそのような指示を与えたわけではありません。25 それでこの際、愛するバルナバとパウロと共に、二人の正式な代表を派遣するのが最もよい方法だと、全会一致で決議しました。26 27 代表のユダとシラスは、主イエス・キリストのために、いのちを危険にさらしてきた人たちです。この人たちが、今回の問題についての決定を、口頭でお伝えするはずです。

28 29 すなわち、偶像に供えた物を食べないこと、しめ殺した動物の肉は、血を抜かないままで食べないこと、血を食べないこと、それから、もちろん不品行を避けることです。これ以外のユダヤ人のおきてを押しつけるようなことは、好ましくありません。それは、聖霊様もお示しになったことですし、私たちも、そう判断するのです。皆様には、これだけ守っていただければ十分です。敬具」

30 四人は、すぐにアンテオケに向かい、クリスチャンの総会を召集して、この手紙を手渡しました。31 人々が、この手紙で、たいへん慰められ、喜びにあふれたことは、言うまでもありません。

32 ユダとシラスは、二人ともすぐれた説教者だったので、多くの説教をして、人々の信仰を力づけました。33 こうして数日が過ぎました。ユダとシラスは、エルサレム教会への感謝とあいさつを託されて、帰って行き、34 35 パウロとバルナバは、そのままアンテオケにとどまりました。そこで説教したり教えたりしている人たちに、協力したのです。

パウロとバルナバ決裂

36 しばらくたつと、パウロはバルナバに、「どうだろう、またトルコへ行っては？ 以前に説教した、ほうぼうの町で、クリスチャンたちが、その後どうしているか、ぜひこの目で確かめようじゃないか」と誘いかけました。37 バルナバも、これには賛成でした。ところが、問題はだれを連れて行くかです。バルナバはマルコと呼ばれるヨハネを考えていました。38 しかし、パウロは反対でした。というのは、ヨハネはこの前の時、パンフリヤで、さっさと一人だけ先に帰ってしまったからです。39 二人の対立は相当に激しく、ついに別行動をとることになりました。バルナバはマルコを連れて、船でキプロスに渡りました。40 41 一方、パウロはシラスに白羽の矢を立てました。二人は人々の祝福を受けて、陸路シリヤとキリキヤに向かい、ほうぼうの教会を力づけました。

一六

1 パウロとシラスがまず行ったのは、デルベでした。それからルステラに行き、そこで、

テモテという信者に会いました。 母親は、クリスチャンのユダヤ人、父親はギリシヤ人ということです。 2 テモテは、ルステラとイコニオムのクリスチャンたちから好感を持たれていたので、 3 パウロは、ぜひ自分たちの伝道旅行に加わるように勧めました。ところが、テモテの父親がギリシヤ人であることはだれもが知っていたので、この地方のユダヤ人の手前、出発前に割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けさせました。 4 一行は町から町を訪問して回り、エルサレムの使徒や長老たちが外国人向けに決めた事柄を伝えました。 5 それで教会は、日を追って、信仰もしっかりし、信者の数も増え、めざましい発展を遂げたのです。

6 聖霊が、今回はトルコのアジヤ地方へは行くなと指示なさったので、一行はフルギヤとガラテヤ地方を通ることになりました。 7 それからムシヤとの境に沿って進み、北のビテナヤ地方に行こうとすると、またもや聖霊に禁じられたのです。 8 そこで、代わりにムシヤ地方を通してトロアスに行きました。

パウロの見た幻

9 その夜、パウロは幻を見ました。 幻の中で、海の向こうに住むマケドニヤ人が、「こちらに来て、私たちを助けてください」としきりに頼むのです。 10 事は決まりました。直ちにマケドニヤに向かうことになったのです。 神様がそこへ私たちを遣わし、すばらしい知らせを伝えようとしておられるのは、まちがいありません。

11 私たちは、トロアスから船で、サモトラケに直航し、翌日ネアポリスに着きました。

12 そしてついに、マケドニヤの国境から少し入った、ローマの植民地ピリピに到着し、数日の間そこにいました。

13 安息日に、私たちは郊外に出て、人々が祈りに来ると思われる川岸に行きました。 やがて、数人の婦人が集まったので、聖書のことばを教えました。 14 その中に、テアテラ市から来た紫布の商人ルデヤがいました。 以前から神様を礼拝していた婦人です。 このルデヤが、私たちの話に耳を傾けていた時、神様は彼女の心を開き、パウロの語ることをみな信じさせたのです。 15 彼女は一家をあげてバプテスマ（洗礼）を受け、「私を主に忠実な者とお思いくださるなら、どうぞ家にお泊まりください」と招待しました。 たったの申し出に、私たちはその招待を受けることにしました。

牢獄で

16 ある日、川岸の祈り場に行く途中、私たちは悪霊に取りつかれた、若い女奴隷の占い師に出会いました。 彼女の占いのおかげで、主人たちは、甘い汁をいっぱい吸っていたのです。 17 この女が、ついて来て、「ねえねえ、この人たちは神様のお使いだよ。 あんたたちにさ、どうしたら罪が赦されるか、教えてくれるんだよ」と大声で叫び続けます。

18 こんなことが毎日続いたので、困り果てたパウロは、ある日、彼女に取りついた悪霊に、「イエス・キリストの名によって命じる。 この女から出て行けっ!」とどなりつけました。 するとたちまち、悪霊は出て行きました。

19 面白くないのは、女の主人たちです。 もう、ふところに金がころがり込むあてがな

くなったのです。その腹いせに、パウロとシラスをつかまえ、広場にいる裁判官たちの前へ引きずって行き、口々に訴えました。

2021「このユダヤ人のやつらときたひにや、町をすっかりだめにしようって魂胆なんです。ローマの法律に反することばかり教えてるんですから。」

22たちまち、二人に反感をいただく人たちで、広場には黒山の人だかりができました。そこで裁判官たちは、二人を裸にし、むちで打たせました。23何度も何度もむちが振り下ろされ、しまいには、二人の背中から、たらたらと血がしたたり落ちました。二人は、牢に放り込まれました。こいつらを逃がしでもしたら命はないものと思え、と脅された看守は、24二人を奥の牢に入れ、厳重に足かせをかけました。

25真夜中ごろ、パウロとシラスは、主に祈ったり、賛美歌をうたったりしていました。ほかの囚人たちも、じっと聞き入っています。その時です。26突然、大地震が起こったのです。牢獄は土台からぐらぐら揺れ動き、戸という戸は開き、囚人たちの鎖もはずれてしまいました。27看守が目を覚ますと、戸が全部開いています。てっきり、囚人はみな脱走したものと思い込み、もうだめだとばかり、剣を抜いて自殺しようとしていました。

28その瞬間、パウロが叫びました。「死ぬなっ！ 全員ここにいるぞっ！」

29看守はあかりを取って来させると、中に駆け込み、恐ろしさのあまりわなわな震えながら、パウロとシラスの前にひれ伏しました。30そして、二人を外に連れ出し、「先生方。救われるには、どうすればよろしいのでしょうか！」と尋ねました。

31二人は答えました。「主イエスを信じなさい。そうすれば、あなたも家族全員も救われますよ。」

32こうして二人は、看守とその家の者たち全員に、主のすばらしい知らせを伝えたのです。33看守は、二人の打ち傷をていねいに洗って手当てをしたあと、家族ぐるみでバプテスマ（洗礼）を受けました。

34それから、二人を自宅に案内し、食事のもてなしをし、家族そろってクリスチャンになったことを、心から喜び合いました。35翌朝、裁判官たちは警備員をよこして、「あの者たちを釈放せよ」と、通告してきました。36そこで看守はパウロに、「お二人とも自由の身です」と伝えました。

37ところがパウロは、警備員たちにこう答えたのです。「とんでもない。あの人たちは、裁判もしないで、いきなり私たちを公衆の面前でむち打ち、そのあげく投獄したんですよ。私たちは、れっきとしたローマ市民だというのに……。それを、今さらなんです。こそこそ釈放しようなんて。それですむ問題だと思っているんですか。自分からやって来て、釈放するのが筋じゃありませんか。」

38警備員たちは、パウロのことばを裁判官たちに伝えました。パウロとシラスがローマ市民だと聞いた時の、彼らの驚きようといったらありません。命が危うくなるかもしれないのです。39さっそく牢獄に駆けつけ、「どうか、ここから出てください」と平身

低頭、二人を連れ出し、町から立ち去ってほしいと頼みました。 40パウロとシラスはルデヤの家に帰り、信者たちに会って、もう一度話をし、町をあとにしました。

一七

迫害

1 さて、一行はアムピポリスとアポロニヤの町を通り、テサロニケに出ました。 その町にはユダヤ人の会堂がありました。 2 パウロはいつものように会堂へ行き、三回の安息日とも、聖書から説教しました。 3 そして、キリストの苦しみと復活の預言を説明し、イエスこそキリストだと証明しました。 4 聞いた人の何人かは、よく理解して信じました。 信心深いギリシヤ人や、町の有力な婦人たちで信じた人も、少なくありません。

5 おさまらないのは、ユダヤ人の指導者たちです。 ねたみに駆られ、とうとう町のやくざどもをけしかけ、暴動を起こしました。 ヤソンの家を襲い、処罰するために、パウロとシラスとを町の議会に引き出そうとしました。

6 しかし、当の二人が見つかりません。 しかたなく、代わりにヤソンと数人の信者を引きずって行き、いかにも大げさに訴えました。 「ご存じでしょうか。 世界中をひっくり返してきたパウロとシラスが、今この町でも騒ぎを起こしているのを。 7 そんなぶっそうな連中を、ヤソンは、事もあろうに家にかくまったのです。 やつらはみな反逆罪を犯してます。 カイザルじゃなく、イエスという別の男が王だ、とふれ回ってるんです。」

8 9 これを聞くと、町民も裁判官たちもひどく不安になり、保釈金を取った上で、彼らを釈放しました。

10 その夜、クリスチャンたちはパウロとシラスを、急いでベレヤへ逃がしました。 ベレヤに着くと、二人はいつものように、会堂で説教です。 11 ベレヤの人たちは、テサロニケの人たちに比べて、ずっと心が広く、喜んで話を聞いてくれます。 そればかりか、二人の言うことがそのとおりかどうか、毎日、聖書を調べるほどの熱心さです。 12 その結果、大ぜいの者が信じました。 中には、名の知れたギリシヤ人の婦人も数人いましたし、男性で信じた人も、かなりの数に上りました。

13 ところが、テサロニケのユダヤ人たちは、パウロがベレヤで伝道していると聞くと、わざわざベレヤまで押しかけ、騒ぎ立てたのです。 14 クリスチャンたちは、すぐにパウロを海岸へ逃がしましたが、シラスとテモテはベレヤに残りました。 15 パウロに同行した人たちは、アテネまで送り、一刻も早く来るようにという、シラスとテモテへのこ とづけを持って、ベレヤに戻りました。

16 アテネで二人を待つ間、パウロは市内を見物することにしました。 ところがどうでしょう。 町は偶像でいっぱいです。 パウロの胸には、むらむらと怒りが込み上げてきました。 17 黙ってはいられません。 会堂へ行き、ユダヤ人や敬虔な外国人たちと議論する一方、毎日広場で、そこに居合わせた人たちと論じ合いました。

アテネでの混乱

18 パウロはまた、エピクロス派やストア派の哲学者たちとも議論を戦わせました。 と

ころが、イエスのことやその復活のことに話がおよぶと、「こいつは夢を見てるんだ」とあざ笑う者と、「おおかた外国の宗教でも押しつけるつもりだろう」と言う者に分かれました。

19 彼らは、マルスの丘の広場で話してはどうかと提案しました。「どうです。その新しい宗教のことをもっとくわしくお聞かせ願えないでしょうか。 20 何やら珍しいことをおっしゃっているようで、とても興味があるのです。」 21 アテネに住む人たちは、生粋のアテネ人も、寄留している外国人もみな、新しもの好きで、いつでも何か目新しいことを論じ合っては、日を過ごしていたのです。

22 マルスの丘の広場に立ったパウロは、大ぜいの人を前にして、演説を始めました。

「アテネの皆さん。 あなたがたは宗教にたいへん関心をお持ちのようですね。 23 町を歩けば、必ず多くの祭壇が目にとまります。 ところで、その中に、『知られない神に』と刻まれたものがありましたね。 あなたがたは、この神様がどういうお方かも知らずに拝んでいるわけですが、私は今、この方のことをお話ししたいと思います。

24 この方は、世界と、その中のすべてのものをお造りになった天地の主です。 ですから、人の造った神殿には、お住みになりません。 25 また人は、この方の必要を満たすこともできません。 第一、この方には、必要なものなど何もありません。 かえって、すべての人にいのちを与え、必要なものは何でも、十分に与えてくださるのです。 26 神様は全人類を、一人の人間アダムから造り、すべての国民を全世界に散らされました。 あらかじめ、どの国が興り、どの国が滅びるか、いつそうなるか、何もかも決め、国々の境界をもお定めになったのです。

27 これもみな、人々が神様を求め、手さぐりしてでも神様を捜し出すためでした。 事実、神様は私たちから遠く離れておられるのではありません。 28 私たちは神様の中に生き、動き、存在しているのです。 あなたがたの詩人の一人が、『私たちは、神の子孫だ』と言ったとおりです。 29 もしこのとおりなら、神様を、金や銀、あるいは石のかけらなどで人間が作った、偶像みたいなものと考えるべきではありません。 30 今までは、神様はこうした無知を、見過ごしておられました。 しかし今は、すべての人に、偶像を捨てて神様に立ち返るようにと命じておられるのです。 31 神様の任命なさった方が正しいさばきを行なう日が、決まっているからです。 神様は、その方を復活させ、そのことの動かぬ証拠とされたのです。」

32 死人の復活にまで話がおよぶと、人々は笑って相手にしなくなり、中には、「ま、くわしいことはあとでお聞きしましょう」と言う人たちもありました。 33 こうして、議論は終わりましたが、 34 数名の者がパウロの側につき、クリスチャンになりました。 市議会議員のデオヌシオや、ダマリスという婦人なども、その中に含まれていました。

一八

1 パウロは、アテネを去り、コリントへ行きました。 23 そこで、ポント生まれのアクラというユダヤ人と知り合いになりました。 この人は妻プリスキラと連れ立って、最近イタリアから来たばかりでした。 彼らは、クラウドオ帝が、ローマの全ユダヤ人の追放

令を出したため、イタリヤから追い出されたのです。 アクラも、パウロと同じ天幕作りの職人だったので、パウロはその家に同居し、いっしょに仕事を始めました。

今からは外国人に

4 パウロは安息日ごとに会堂に出かけ、ユダヤ人だけでなく、外国人をも説得しようとしていました。 5 シラスとテモテがマケドニヤから来てからは、全時間をユダヤ人の説得に費やすことになり、イエスこそキリストだと証言しました。 6 ところが、ユダヤ人たちは反抗し、侮辱を加えるばかりか、イエスのことまで、ひどくののしるではありませんか。もう我慢はできません。 パウロは、彼らときっぱり縁を切るしるしに上着のちりを払い、こう言い放ちました。 「おまえたちの血の責任は、おまえたちに降りかけられっ！ 私のせいじゃない。 これからは、外国人を教えよう。」

7 その後パウロは、テテオ・ユストという外国人の家に泊めてもらうことにしました。 この人は、外国人ながらも神を敬う人で、うまいことに、隣が会堂でした。 8 会堂管理人クリスポの一家は、ほかの大ぜいのコリント人と共に主を信じ、バプテスマ（洗礼）を受けました。

9 ある夜、主は幻の中で、パウロにおっしゃいました。 「恐れるな。 語り続けなさい。 やめてはいけない。 10 わたしがついていて、だれもあなたに危害を加えることはできない。 この町には、わたしにつく者が大ぜいいる。」 11 パウロは、一年六か月の間、この町にとどまり、神の真理を教えました。

12 しかし、ガリオがアカヤ地方の総督に就任すると、ユダヤ人は徒党を組んでパウロに反抗し、力づくで総督のところへ引っぱって行き、 13 「ローマの法律に反するやり方で、神様を礼拝しろと教える不屈き者です」と訴えました。 14 パウロが釈明するより早く、ガリオが口を切りました。 「いいか、ユダヤ人諸君。 犯罪事件なら、諸君の訴えを聞きましょう。 15 しかし、これは何だ。 ことばの解釈とか、人物批判とか、諸君のばかげたおきてに関する事ばかりではないか。 そんなことは、自分たちで始末をつけるがよかろう。 私にはどうでもいいことだし、かかわりになりたくもない。」 16 これだけ言うと、ガリオは、さっさと人々を法廷から追い出しました。

17 暴徒どもは、腹立ちまぎれに会堂の新しい管理人ソステネを捕らえ、法廷の外で打ちたたきました。 しかしガリオは、そんなことには、まるで無関心でした。

18 このあとも、パウロはコリントにとどまりましたが、しばらくすると、クリスチャンたちに別れを告げ、プリスキラとアクラを連れて、船でシリヤに向かいました。 パウロはこの時、一つの誓いを立てていたので、ケンクレヤで頭をそりました。 そうするのが、ユダヤ人の習慣だったのです。 19 一行がエペソに着くと、パウロは、二人を船に残したまま会堂へ出かけ、ユダヤ人たちと議論を戦わせました。 20 21 「もう少し、いてくださいませんか」と頼まれましたが、そんな余裕はありません。 「せっかくですが、どうしても祭りまでにエルサレムへ行かなければならないので、ちょっと……」と断わるほかありませんでした。 機会さえあれば、また必ず来ると約束して、一行は船旅を続け

ました。

22 やがて、船はカイザリヤに着き、上陸したパウロは、まずエルサレムの教会を訪問し、皆にあいさつしてから、アンテオケに向かいました。 23 アンテオケにはしばらくいました。 そのあとまた、トルコへ行き、ガラテヤとフルギヤ地方のクリスチャンを訪問しては、励ましのことばをかけ、信仰の成長に役立つ話をして回りました。

24 そのころたまたま、すばらしい聖書教師で、説教者としても有能なアポロというユダヤ人が、エジプトのアレキサンドリヤからエペソに来ました。 25 26 アポロは、エジプトにいたころ、バプテスマのヨハネのことと、ヨハネがイエスについて語ったことを聞いた以外、何も知りませんでした。 それでも大胆に、また熱心に「メシヤ（救い主）様がもうすぐ来られます。 お迎えの準備を下さい」と会堂で説教しました。 プリスキラとアクラも、その力強い説教を聞きました。 二人はあとでアポロに面会を求め、ヨハネの預言以後、イエスの身に起こったことと、その意味を正確に説明してやりました。

27 アポロの希望はギリシヤへ行くことでした。 それには、クリスチャンたちも賛成です。 大いに励まし、ギリシヤのクリスチャンに手紙で、アポロのことをよろしくと伝えました。 ギリシヤに行ったアポロは、神のためにいかに有能ぶりを発揮し、教会を励ましました。 28 また公の場では、ユダヤ人たちをみごとにやり込め、聖書のことばを引用して、イエスこそキリストだと証明しました。

一九

イエスの名によるバプテスマ

1 アポロがコリントにいる間に、パウロはトルコを通過してエペソに来ました。 そこで会った何人かの弟子たちに、パウロは尋ねました。 2 「ところで、信じた時、聖霊様を受けましたか。」

「いったい何のことでしょう。 聖霊なんて聞いたこともありません。」

3 「それじゃあ、バプテスマ（洗礼）を受けた時、どんな信仰告白をしたんです？」

「バプテスマのヨハネの教えた……。」

4 これを聞いたパウロは、ヨハネのバプテスマは、罪を離れて神に立ち返る決意を表わすものだから、それを受けた者が、ヨハネの証言どおり、あとから来られたイエスを信じるのは、当然のことだと説明しました。

5 彼らはすぐ、主イエスの名によってバプテスマを受けました。 6 そして、パウロが彼らの頭に手を置くと、聖霊が下りました。 すると彼らは、外国語で話したり、預言したりし始めたのです。 7 みなで十二名ほどの人でした。

8 このあと、パウロは会堂で、三か月の間、安息日ごとに大胆に説教し、神の国のことを教えました。 9 中には、パウロの話を非難し、人々の面前で、キリストに逆らうことばを吐く連中もいました。 そんな連中は、もう二度と相手にしないことに決め、会堂での説教はそれっきりになりました。 代わりに、クリスチャンたちを誘って、ツラノの講堂で別の集会を開き、毎日そこで説教しました。 10 これが二年間も続いたので、トルコ

のアジヤ地方に住む人たちは、ユダヤ人だろうが外国人だろうが、主の教えを聞かない人は、ほとんどいないほどでした。 11 しかもパウロは、すばらしい奇蹟を行なう力にも恵まれたので、 12 彼の手ぬぐいや、前かけを病人にかけるだけで、病気は治り、悪霊は出て行きました。

13 ところで、町から町へと渡り歩く、ユダヤ人の魔よけ祈祷師の一行がありました。そこで、試しに主イエスの名を使ってみようという話が持ち上がり、「パウロが伝えているイエスによって命令する。 出て行けっ！」と、まじないを唱えることにしました。 14 こんなことをしたのは、実は、ユダヤの祭司長スケワの七人の息子たちでした。 15 ところが、悪霊に取りつかれた人に実際に試してみると、結果はさんざんでした。悪霊は、平然と「イエスなら知ってる。パウロだって知ってる。だが、おまえらは何者だ」と言い返してきたのです。 16 そればかりか、悪霊に取りつかれた男が、一行のうちの二人に飛びかかり、めったやたらになぐりつけたので、裸にはされるし、重傷は負うしで、命からがら、やっとその家から逃げ出しました。

17 この出来事は、あっという間に、エペソ中のユダヤ人やギリシヤ人に伝わり、町中が大きな恐れに包まれると同時に、主イエスの御名がほめたたえられました。 18 19 それまで魔術を行なっていた信者たちも、そのことを告白し、呪文の本やお札を持ってきて山と積み上げ、みんなの知っている前で焼き捨てました。ざっと見積っても、銀貨五万枚にはなりそうな量でした。 20 このこと一つ取ってみても、この地方一帯が、どれだけ神のことばによって揺り動かされたか、よくわかります。

エペソでの騒動

21 事件が一段落すると、パウロは聖霊の導きで、ギリシヤを回ってから、エルサレムに帰ることにしました。あとでローマへも行くつもりでした。それをはっきりさせると、 22 まず、助手のデモテとエラストとをギリシヤへやり、自分は、なおしばらくトルコにとどまりました。

23 ちょうどそのころ、エペソで、クリスチャンのことで大騒動が持ち上がりました。 24 事を起こしたのは、デメテリオという銀細工人です。この男は職人を大ぜい雇い、ギリシヤの女神アルテミスの神殿の模型作りを手広くやっていました。 25 この男が、自分のところの職人や同業者を集めて、たいそうな演説をぶったのです。

「皆さん。私たちは神殿の模型作りで食べています。 26 ところがですよ、ご存じのように、あのパウロとかいうやつが、手で作ったものは神じゃないなどと、不屈きなことをぬかし、大ぜいの人にふれ回っているのです。おかげで、こちらの売り上げは、がた落ちです。エペソばかりか、この地方全体がそうなんです。 27 もちろん、商売が圧迫されるとか、もうけが減るとかいったことだけを、とやかく言うつもりはありません。私が声を大にして叫びたいことは、このままでは、偉大な女神アルテミス様の神殿のご威光が薄れ、トルコのこの地方は言うにおよばず、世界中の人たちが礼拝してきた、すばらしい女神アルテミス様が忘れられてしまうということです。」

28この演説で、人々は逆上し、大声で「偉大なのはエペソ人の女神アルテミス様だっ！」とわめき始めました。

29たちまち町中は大混乱です。人々はパウロに同行したガイオとアリストアルコとを裁判にかけようと、二人をむりやり引っ立て、円形劇場へなだれ込みました。30これを見て中に入ろうとするパウロを、弟子たちが必死に押しとどめました。31パウロの友人であるこの地方のローマの役人たちも、使いの者をよこし、危険だから、くれぐれも中へは入らないように、と言ってきました。

32一方、劇場の中では、各人がてんでんばらばらのことをわめき立てるので、ほとんどの人が、なぜ集まっているのかさえ、わからない有様でした。

33そうこうするうちに、ユダヤ人たちが、群衆の中からアレキサンデルという男を前に押しやりました。演説させようというのです。アレキサンデルは、進み出て、静かにするよう身ぶりで合図しました。34しかし、彼がユダヤ人だとわかると、群衆は、前よりも激しく騒ぎだし、手のつけようがありません。「エペソ人の偉大な女神アルテミス様、ばんざーいっ！ばんざーいっ！」と二時間も叫び続けました。

35とうとう市長が乗り出し、やっとのことで、なんとか話ができるまでに騒ぎを静めました。「市民の皆さん。エペソが偉大なアルテミス様の宗教の本山であることは、だれもが知っています。アルテミス様のご神体は、天から、われわれのもとに下って来たのです。36それは、はっきりしているのだから、何を言われても、あわてることはありません。くれぐれも軽はずみなことだけは、しないようにしてください。37さて、ここへ連れて来た二人のことですが、女神の神殿から何かを盗み出したり、女神を冒瀆したりしたわけではありません。38もしデメテリオや職人たちが、二人を訴えたいのなら、法廷があるのだから、裁判官の前に持ち出せばいいのです。何事も法律にのっとって進めてもらいたいですね。39また、それ以外のことで不平があれば、定例の市議会に提出すればすむことです。40とにかく、今日のこの騒動は、ローマ政府から騒擾罪に問われるかもしれません。なにしろ、正当な理由が一つもないのだから、どうなっても、責任は負えませんよ。」

41こうして、市長は人々を解散させました。

・

二〇

1騒ぎが収まると、パウロは、使いをやって弟子たちを集め、別れの説教をしてから、ギリシヤへ出発しました。2その旅の途中でも、立ち寄るすべての町で説教し、クリスチャンを力づけることは忘れませんでした。やがてギリシヤに着きました。3そこに三か月の間とどまったあと、船でシリヤへ向かおうと準備を進めていたところ、ユダヤ人たちがパウロの命をねらっているという情報が入ったのです。急いで予定を変え、北のマケドニヤを通して帰ることにしました。

4数人の人が、トルコまで同行することになっていました。プロの息子でベレヤ出身の

ソパテロ、テサロニケから来たアリストアルコとセクンド、デルベのガイオ、それにテモテです。 またテキコとトロピモは、トルコの故郷の町に帰るところでした。 5 彼らはひと足先に出かけ、トロアスで私たちを待っていました。 6 過越の祭りが終わるとすぐ、私たちはマケドニアのピリピから船出し、五日後にはトルコのトロアスに着いて、一週間そこで過ごしました。

三階から落ちた青年

7 日曜日になりました。 私たちは聖餐式（キリスト教の儀式の一つ）のために集まり、パウロが説教しました。 翌日には出発することになっていたの、話は夜中まで続きました。 8 会場の三階の部屋には、たくさんのランプが、あかあかと点されていました。 9 ところが、話がえんえんと続くので、窓ぎわに腰かけていたユテコという青年は、ぐっすり眠り込み、三階からまっさかさまに落ちてしまいました。 人々が抱き起こした時は、もう死んでいました。 10 - 12 パウロは降りて来て、彼を抱きかかえ、「心配するな。大丈夫だ」と言いました。 すると、驚いたことに、そのことばどおりに、青年は生き返ったのです。 人々の喜びはたいへんなものでした。 一同は、もう一度三階に上がり、聖餐式をしました。 パウロは、そのあとも長いこと説教し、夜明けごろ、ようやく出発しました。

13 パウロは陸路アソスに向かうつもりだったので、私たちは船で先に出発しました。 14 そして、アソスで落ち合い、いっしょに船でミテレネまで行き、 15 翌日にはキヨスの沖を過ぎ、次の日サモスに寄港しました。 その翌日には、もうミレトです。

別れのあいさつ

16 パウロは、できれば五旬節の祭りまでにはエルサレムへ行こうと、先を急いでいたので、エペソには立ち寄らないつもりでした。 17 それで、ミレトに上陸すると、さっそくエペソ教会の長老たちに、船まで会いに来るようにとことづけました。

18 集まった長老たちに、パウロはこう語りました。

「私がトルコに足を踏み入れて以来、どんなふう生きてきたかは、よくご存じですね。

19 私は謙そんの限りを尽くし、涙を流しながら、神様のために働いてきました。 ユダヤ人には命をつけねられ、危険な目に会ったのも、一度や二度じゃありません。 20 それでも、ためらわず真理を語りました。 個人的にばかりでなく、堂々と大ぜいの人の前でも。 21 また、ユダヤ人にもギリシヤ人にも、罪から離れ、主イエス・キリストを信じて神様に立ち返るように勧めました。

22 今は、聖霊様が、どうにも逆らえない強い力で、私をエルサレムへ行かせるのです。 そこで何が待ち受けているか、見当もつきません。 23 ただわかっているのは、行く先々の町で、入獄と苦難が待っていると、聖霊様が告げてくださったことだけです。 24 しかし、主イエス様がせよと言われた仕事をやり遂げるためなら、こんなつまらない命でも、喜んで投げ出す覚悟はできています。 その仕事とは、神様の力強い愛とあわれみについての、すばらしい知らせを伝えることです。

25 皆さん。これまで何回か、あなたがたのところを訪問し、神の国のことを教えた私ですが、もう二度とお目にかかることもないでしょう。26 ですから、今ここで、はっきり宣言します。あなたがたが、どんなさばきを受けることになろうと、私の責任ではありません。27 私は、神様の教えを、何もかも話してあげたからです。

28 注意なさい。あなたがたは、神の羊たち〔神様がキリストのいのちと引き替えに買い取った教会〕を養い育てる立場にあるのです。このことをしっかり肝に銘じておきなさい。いいですか、聖霊様が、この監督者としての責任をお与えになったのですよ。

29 私が去ったあと、狂暴な狼のような偽教師たちが忍び込み、情け容赦なく群れを荒らし回るでしょう。30 それだけじゃありません。あなたがたの中からも、弟子を自分の側に引き込みたいばかりに真理を曲げる者が出るでしょう。31 だから、よく見張っていなさい。私といっしょに過ごした三年間を忘れてはいけません。昼も夜も目を離さず、あなたがたのために流してきた、私の涙を忘れてはいけません。

32 私は今、あなたがたを、神様とそのすばらしいみことばとにゆだねます。このことばが、あなたがたの信仰を強くし、神様のためにきよい者とされた人々が相続する財産を、あなたがたにも与えるのです。

33 私はお金やぜいたくな衣服をほしいと思ったことなど、ただの一度もありません。34 この手、この両手が、どれだけ自分の生活や、いっしょにいた人たちの必要のために働いたかは、よくご存じでしょう。35 また、貧しい人たちを助けることでも、常に良い手本となったつもりです。それは『与えることは受けることよりも幸いである』という、主イエス様のことばが、いつも頭にあったからです。」

36 語り終えると、パウロはひざまずき、長老たちのために祈りました。37 人々は別れを惜しんで、一人一人パウロを抱きしめ、おいおい声をあげて泣きました。38 もう二度と会えないだろうと言ったパウロのことばに、胸も張り裂ける思いだったのです。それから一同は、パウロを船まで見送りました。

二一

エルサレムへの最後の旅

1 エペソの長老たちと別れたあと、私たちはコスに直航し、翌日はロドス、それからパトラへと船旅を続けました。2 そこで、シリアのフェニキヤ方面に行く船に乗り替え、3 キプロス島の南を通ってシリアに向かい、一たんツロに上陸しました。ここで船の積み荷を陸上げすることになっていたからです。4 上陸すると、クリスチャンを捜し出し、一週間ほどいっしょに過ごしました。この町のクリスチャンは聖霊のお告げを受け、どうにかしてパウロにエルサレム行きを思いとどまらせようとしました。5 しかし、停泊期間も終わり、私たちは予定どおり船に戻ることになったので、人々は家族総出で、浜辺まで見送りに来ました。互いに祈り合い、別れのあいさつがすむと、6 私たちは船に乗り込み、人々は家へ帰りました。

7 ツロの次はトレマイです。この町のクリスチャンにもあいさつをしましたが、いたの

は、一日だけでした。 8翌日には、もうカイザリヤに着き、そこでは、最初の七人の執事の一人であった、伝道者ピリポの家に泊まりました。 9ピリポには、預言する力のある未婚の娘が四人いました。

10 11数日そこに世話になっているあいだに、やはり預言する力のあるアガボという人の訪問を受けました。 この人は、わざわざユダヤから来たのです。 アガボはパウロの帯を取り、それで自分の手足を縛ってから、言いました。「聖霊様のお告げです。『この帯の持ち主は、エルサレムでユダヤ人からこのように縛り上げられ、ローマ人に引き渡される。』」 12これを聞いた者はみな、この町のクリスチャンも、同行していた私たちも、声をそろえて、エルサレムへは行かないでほしいと、涙ながらに訴えました。

13しかしパウロは、断固として決心を変えません。「なぜ泣くのか。 私の心をくじくのはやめてくれ。 主イエス様のためなら、エルサレムで投獄されてもかまわないのだ。 いや、殺されてもいい、とまで覚悟しているのだ。」 14もうこれ以上何を言ってもむだです。「主のお心のままになりますように」と言って、口をつぐむほかありません。

15しばらくして、私たちは荷物をまとめエルサレムへ出発しました。 16カイザリヤのクリスチャンも幾人か同行し、エルサレムに着くとすぐ、最古参のクリスチャンの一人、キプロス島出身のマナソンの家へ案内してくれました。 そこに泊めてもらうことになっていたからです。 17エルサレムのクリスチャンはみな、私たちを心から歓迎してくれました。

18翌日、パウロは私たちを連れ、ヤコブをはじめエルサレム教会の長老たちに会いに出かけました。 19ひと通りあいさつがすむと、パウロは、この伝道旅行で、神がどれだけ多くのことを成し遂げてくださったかを、くわしく報告しました。

20それを聞いた人々は心から神をほめたたえ、パウロに言いました。「愛する兄弟よ。 ご存じとは思いますが、何千というユダヤ人もまた、主イエス様を信じるようになったのです。 彼らはクリスチャンになっても、ユダヤ人はユダヤの伝統と習慣を守り続けるべきだと強く主張しています。 21そこで困ったことがあるんですよ。 あなたがモーセの法律やユダヤ人の習慣に反し、子供に割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を施すことを禁じているといううわさが、エルサレムに流れているのです。 22どうしたものでしょうね。 あなたが来たことは、必ず彼らの耳にも入るでしょうし……。

23それではなんですが、こうしたらどうでしょう。 ある誓願を立てて頭をそる人が四人います。 24この人たちを神殿に連れて行き、あなたもいっしょに頭をそり、彼らの費用を払ってやるのです。 そうすれば、うわさが事実無根であり、あなたはユダヤ人として、おきてもちょうんと守り、私たちと同じ考えであることが、よくわかってもらえるでしょう。

25もちろん、外国人のクリスチャンには、このようなユダヤの習慣を押しつけるつもりは毛頭ありません。 ただ、前に手紙で知らせたように、偶像にささげた物を食べないこ

と、血を食べないこと、しめ殺された動物の肉は、血を抜かないままで食べないこと、不品行を避けること、これだけを守ってもらえばいいのです。」

26 パウロはこの提案を受け入れ、翌日、四人の人といっしょに儀式を受けるために宮へ行き、ほかの人たちともども、七日後に供え物をささげる誓いを立てたことを公表しました。

27 その七日目がようやく終わるという時、トルコから来た数人のユダヤ人が、宮の中でパウロを見つけたのです。連中は群衆をそそのかしてどっと襲いかかり、28 パウロを押さえつけると大声で叫びました。「おい、みんな、手を貸してくれ一つ！ こいつは、とんでもないやつなんだ。ユダヤ人に逆らえだの、おきてを守るな、だのとふれ回ってるんだ。そればかりじゃないぞ。神殿の規則に反することも教えている。現に、外国人をこの神聖な場所に連れ込むようなまねを平気でやってるんだからな。」29 [連中は、その日の早朝、パウロが、エペソから来た外国人のトロピモといっしょにいるのを見かけたので、パウロが彼を神殿に連れ込んだものと勘違いしたのです。]

30 効果てきめん。この訴えに、町中の人が興奮して騒ぎだしました。人々はパウロ目がけて殺到し、むりやり宮の外へ引きずり出すと、ぴったり門をしめてしまいました。

31 彼らがパウロを殺そうとしていた時、ローマの守備隊司令官のもとに、エルサレムが混乱状態に陥ったという知らせが届きました。32 司令官は、直ちに兵士と士官を率いて現場に駆けつけました。軍隊が近づいて来たので、人々はパウロをなぐるのをやめました。33 司令官はパウロをとらえると、まず二重の鎖で縛らせ、次に、この男は何者で、いったい何をしでかしたのかと、人々に尋ねました。34 ところが、人々がめいめい勝手なことを叫び続けたので、さっぱり事情がつかめません。ひとまず、パウロを兵営へ連行しろと命じました。35 しかし、階段にさしかかった時には、群衆がますますひどく騒ぎ立てたので、パウロをかつぎ上げなければならなくなりました。36 「そいつを殺せっ！ 殺しちまえっ！」とわめきながら、押し寄せて来ました。

37 38 兵営に連れ込まれようという時、パウロは司令官に、「お話ししたいことがあるのですが」と言いました。そのことばに司令官は驚いて、聞き返しました。「おまえ、ギリシヤ語が話せるのか。じゃあおまえは、数年前、反乱を起こし、四千人の殺し屋を引き連れて荒野へ逃亡した、あのエジプト人じゃないのか。」

39 「とんでもありません。私はキリキヤのタルソ出身のユダヤ人です。お願いします。どうかこの人たちに話をさせてください。」

パウロの釈明

40 司令官が許可したので、パウロは階段の上に立ち、身ぶりで人々を静めました。まもなくすっかり静かになったところで、パウロはヘブル語で話し始めました。

二二

1 「私の兄弟とも父とも言うべき皆さん。どうか、私の申し上げることを聞いてください。」2 [パウロがヘブル語で話すのを聞いて、人々はしーんと静まり返りました。] 3

「私はキリキヤの町タルソで生まれたユダヤ人ですが、エルサレムのガマリエル先生のもとで教育を受けました。先生の門下生として、ユダヤのおきてと習慣には、特にきびしく従うように教えられました。つまり、今の皆さん同様、こと神様に関する限り、人並み以上に熱心だったのです。4 クリスマンを迫害し、逃げる者たちを、どこまでも執念深く追い回し、男でも女でも手当たりしだいに縛り上げて投獄したり、殺したり……。

5 そのことは、大祭司様も、議会の議員の方々も証言してくださるでしょう。この人たちに頼んで、ダマスコに住むユダヤ人の指導者あてに、クリスマンを見つけしだいに縛り上げ、処罰するためにエルサレムへ連行することを認めさせる手紙を、書いてもらったのですから。

6 ところが、もうじきダマスコという時、そう、あれはちょうど正午ごろでしたが、突然まばゆい光が、天からさっと私を照らしたのです。7 思わず倒れ伏した私の耳に、『パウロ、パウロ。なぜわたしを迫害するのか』と呼びかける声が聞こえました。

8 『そう言われるあなた様は？』と尋ねると、その声は『あなたが迫害しているナザレのイエスだ』と答えるではありませんか。9 いっしょにいた人たちには、光は見えましたが、ことばはわかりません。

10 『主よ。私はいったい、どうしたらよいのでしょうか。』私がこう尋ねると、主は、『立って、ダマスコの町に入りなさい。将来どんなことがあなたの身に起こるかは、そこで教えられるだろう』というお答えです。

11 ところが、あまりのまぶしさに、目が見えなくなり、連れの者にダマスコまで手を引いて行ってもらわなければなりません。12 ダマスコには、神様のおきてを忠実に守る、信心深いアナニヤという人がいました。ダマスコのすべてのユダヤ人に、たいそう評判のよい人でした。13 この人が来て、『兄弟パウロ。見えるようになれ』と言うと、たちまち彼の姿が見えるようになりました。

14 するとアナニヤは、こう言ったのです。『ご先祖の神様があなたをお選びになったのです。神様がそのことをあなたに知らせ、メシヤ（救い主）に会わせ、その御声を聞かせてくださったのです。15 あなたがこの方の教えを携えて行き、自分で見聞きしたことを、あらゆる所のあらゆる人たちに伝えるためです。16 さあ、何をためらっているのです。お立ちなさい。主の名を呼んでバプテスマ（洗礼）を受け、罪をすっかり洗いきよめていただくのですよ。』

17 18 こうしてエルサレムに帰り、ある日、神殿で祈っていると、うつらうつら夢ごちになり、神様の幻を見たのです。神様は、『さあ、急いでエルサレムを離れなさい。ここの人たちは、あなたがわたしの教えを伝えても信じないから』とおっしゃいました。

19 私は答えました。『主よ。人々はかつて私がどこの会堂でも、あなた様を信じる人たちを投獄し、むち打ったことを、いやと言うほど知っているのです。20 しかも私は、あのステパノが殺された時には、それに賛成して現場に立ち合ったばかりか、石を投げつける連中の上着の番をしたのですよ。』

2 1 しかし神様はやっぱり、『さあ出発しなさい。あなたを遠く、外国人のところへ派遣します』と言われるのです。」

2 2 ここまで話すと、人々はいっせいに叫びだしました。「こんなやつは消しちまえっ！生かしておくな。殺せ、殺せーっ！」 2 3 あたりは興奮のるつぼです。大声でわめく声、声、声……。上着は宙に舞い、あちこちで、ちりをつかんでまき散らす者も出るしまつです。

2 4 どうしてこれほどの怒りを買うのでしょうか。その事情を知りたいと思った司令官は、パウロを兵営に引き入れ、むちで打って白状させようと思いました。

2 5 兵士たちが縛り上げた時、パウロはそばに立っている士官に、「ローマ市民の私を、裁判にもかけずにむち打つのは、法律違反じゃないですか」と言いました。

2 6 これを聞いて、士官はあわてて司令官のところへ駆けつけ、「いかがいたしましょう。あの男はローマ市民だと言っております」と耳打ちしました。

2 7 そこで司令官がじきじきに、問いました。

「はっきりしろ。おまえはローマ市民なのか。」

「おおせのとおり、確かにローマ市民です。」

2 8 「わしもローマの市民権を持っているが、ずいぶん金を積んだものだ。」

「私は生まれながらの市民です。」

2 9 パウロを打とうと、そこに立っていた兵士たちは、ローマ市民だとわかったとたん、びっくりして手を引きました。司令官も、知らなかったとはいえ、ローマ市民を縛ってむち打つように命令したので、ひどく不安になりました。

最高議会で

3 0 翌日、司令官はパウロの鎖を解き、祭司長たちに、ユダヤの最高議会の召集を命じました。その場にパウロを連れ出し、騒ぎの原因を突きとめようと思ったのです。

二三

1 パウロは議会の面々をじっと見つめ、口を開きました。「皆さん。私はいつでも神様の前で、少しも良心に恥じない生活を送ってまいりました。」

2 これを聞いただけで、大祭司のアナニヤは、パウロのそばに立っている者たちに、「やつの口を打て」と命じました。

3 パウロは、きっとアナニヤを見すえてやり返しました。「神様に罰せられるのは、おまえのほうだ。うわべだけは取りつくろっても、自分でおきてを破っている。私を打てだと、なんという裁判官か。」

4 「それが大祭司様に対することばかつ！」そばにいた者たちが叫びました。

5 「あの人が大祭司様ですって？ それは知りませんでした。聖書には、確かに『指導者の悪口を言ってはならない』と書いてありますな。」

6 そのうちパウロは、議会にはサドカイ人（神殿を牛耳っていた祭司階級。ユダヤ教の主流派）もいれば、パリサイ人（信徒で、特におきてを守ることに熱心なユダヤ教の一派）

もいることに気づき、こう叫びました。「皆さん。私は先祖代々のパリサイ人です。私が今ここでさばかれているのは、死人の復活を信じているからなのです。」

7 このことばで、議会はパリサイ派とサドカイ派に真っ二つに分かれてしまいました。8 サドカイ派は、復活も御使いも信ぜず、永遠に生きる霊もないと主張する一方、パリサイ派は、それらを全部信じていたからです。

9 議会は大混乱に陥りました。ユダヤ人の指導者の中にも、パウロは正しいと論じる人が現われるしまつです。彼らは大声でこう言いました。「この人は別に悪いことなんかしちゃいないぞ。たぶんダマスコへ行く途中で、何かの霊か御使いが語りかけたんだろう。」

10 叫び声はますます大きくなり、人々はパウロを両方から奪い合おうとします。今にもパウロが引き裂かれそうな勢いです。心配になった司令官は、兵士たちに、力づくでパウロを人々から引き離させ、兵営に連れ帰りました。

11 その夜、主がパウロのそばに立って、こう言われました。「パウロよ。心配はいらない。あなたは、このエルサレムでと同じように、ローマでもわたしのことを人々に証言するのだ。」

12 13 翌朝、四十名以上のユダヤ人が集まり、パウロを殺すまでは飲み食いをしてないと誓い合いました。14 彼らは、祭司長と長老たちのところへ行ってその決意を告げ、15 「もう少しパウロを尋問したいとか何とか言って、やつをもう一度議会に立たせるよう、司令官に頼んでいただけないでしょうか。あとは、私たちが途中で待ち伏せて、うまいこと始末します」と願い出ました。

16 ところが、この陰謀を、パウロの甥が知ったのです。彼は急いで兵営に駆け込み、このことをパウロに知らせました。

17 パウロは士官の一人を呼び、「この青年を、司令官に会わせてやってください。重大な報告があるそうですから」と頼みました。

18 士官はすぐに、青年を連れて司令官のところへ行き、「囚人のパウロが、この青年をお引き合わせするようにと申しております。何か報告があるそうで……」と伝えました。

19 司令官は青年の手を取り、だれもいないところへ連れて行って、「いったいどんな用件か」と尋ねました。

20 「ユダヤ人たちが、もう少し取り調べたいことがあるようなふりをして、明日パウロをもう一度議会に呼び出すことを願い出ます。21 しかし、どうか許可なさいませんように。四十名以上の者が、パウロを襲い、殺そうと待ち伏せているからです。連中は、パウロを殺すまでは飲み食いしないと誓い合っています。今、連中は外で、あなたの許可が下りるのを待っているのです。」

22 司令官は青年に、「このことはだれにも口外するな」と言い含めて帰しました。2

3 24 それからすぐ、士官を二人呼び、「今夜九時、カイザリヤに向けて出発できるよう準備しろ。兵士は二百名だ。それと槍兵二百名、騎兵七十名も同行させろ。パウロを

馬に乗せ、総督ペリクス閣下のもとへ無事に送り届けるのだ」と命じました。

25 このとき司令官が総督に送った手紙は、次のようなものでした。

26 「クラウド・ルシヤから、総督ペリクス閣下に、ごあいさつを申し上げます。

27 この者は、ユダヤ人に捕らえられ、危うく殺害されるところを、本官が兵を率いて駆けつけ、救出した者でございます。それというのも、れっきとしたローマ市民であったからです。28 その後、議会で、事の真相を調べましたところ、29 問題はユダヤ人の信仰上のことであり、この者を投獄したり、死刑にしたりするような事件ではないことが判明いたしました。30 しかし、この者のいのちをねらう陰謀が巡らされているとの情報をつかみましたので、彼の身柄を閣下のもとに送ることにいたします。また、この者を訴えたければ、以後は、閣下の前に訴えるようにと、その旨指示しておきました。」

31 その夜のうちに、兵士たちは命令どおりパウロをアンテパトリスまで護送し、32 翌朝、そこからカイザリヤまでは騎兵隊に任せて、兵営に引き返しました。

33 カイザリヤに着くと、騎兵隊は、司令官からの手紙といっしょにパウロを総督に引き渡しました。34 手紙を読み終えた総督が、出身地を尋ねたので、パウロはギリキヤだと答えました。

35 総督は、「おまえを訴える者たちが来てから、くわしく取り調べよう」と申し渡し、ヘロデの官邸内の牢獄に、パウロを入れておくよう命じました。

二四

ローマ総督の前で

1 五日後、大祭司アナニヤが、ユダヤ人の指導者数人と弁護士テルトロとを連れて来て、訴えを起こしました。2 総督の前に呼び出されたテルトロは、でたらめの告訴理由を並べ立てました。

「閣下。われわれユダヤ人がおだやかで平和な生活を送れますのも、みな、あなた様のおかげでございます。また、われわれに対する差別待遇の問題も驚くほど改善され、3 一同、心から感謝いたしております。4 さて、あまりくどくならぬよう、手短に、この男に対する訴えの筋を申し上げますので、何とぞ、お聞き届けください。5 このパウロは全く人騒がせな男で、ナザレ人という一派の首領におさまり、世界中を駆け巡ってユダヤ人をたきつけ、ローマ政府に反乱を起こそうとしているのでございます。6 その上、神殿までも汚そうとしたので、引っ捕らえたしだいでございます。

われわれとしては、当然の罰を加えようとしたただけですのに、7 守備隊司令官のルシヤ様が、この男を力づくで奪い、8 ローマの法律で裁判しろとお命じになったのです。閣下がお調べくだされば、われわれの正しいことがおわかりいただけると存じます。」

9 ほかのユダヤ人たちも、口をそろえて、テルトロの言うとおりで、とくり返しました。

10 次に総督は、身ぶりでパウロをうながしました。パウロは立ち上がり、釈明を始めました。

「閣下が長年にわたり、ユダヤ人の問題をさばいてこられたことは、よく存じ上げており

ます。ですから、安心して釈明させていただきます。 11 お調べくださればすぐにわかることですが、私が神殿で礼拝するためにエルサレムに着いてから、十二日しかたっておりません。 12 私はどこの会堂でも町でも、騒ぎを起こせと人々をそそのかしたことなく、一度もございません。 13 この人たちは、何一つ証拠をあげられないはずです。 14 しかし、この人たちが異端ときめつけている救いの道を信じていることだけは、確かでございます。 私はこの道を伝えることで、私たちの先祖の神様に仕えているのです。またユダヤ人のおきてと、預言者の書にあることもみな堅く信じております。 15 この人たち同様、正しい者も不信心な者も共に復活すると信じております。 16 神様の前でも人の前でも、いつも良心に恥じない生活を精一杯心がけているのでございます。 17 私は何年ぶりかで、ユダヤ人への援助金を携え、神様に供え物をささげようと、エルサレムに帰ってまいりました。 18 私を訴える人たちは、私が神殿で感謝のささげ物をしているのを見たのです。 私は規則どおり頭を丸めておりましたし、別に、回りに人だかりがあったわけでも、騒ぎがあったわけでもありません。 ただ、トルコから来たユダヤ人が数人いただけです。 19 私を訴えるのなら、まず、それを見た人たちがここに来るべきです。 20 また、この人たちには、議会で、私に不正な点を見いだせたかどうか尋ねてみてください。 21 私は議会では、ただひと言、『死人が復活するという信仰のことで釈明するため、議会に呼び出されたのです』と叫んだだけでございます。」 22 ペリクスは、クリスチャンが暴動をあおり立てたりはしないことを知っていたので、ユダヤ人には、守備隊の司令官ルシヤが来てから片をつけると言って、裁判を延期しました。 23 一方、パウロのほうは、また監禁するよう命じましたが、看守には、丁重に取り扱い、友人たちの面会や差し入れも自由にさせろと言い含めました。 24 数日後、ペリクスは、ユダヤ人の妻ドルシラを伴って来ました。 パウロを呼び出し、二人でキリスト・イエスに対する信仰について話を聞こうというのです。 25 しかし、話が正義と節制、それに、やがて来る審判のことだったので、こわくなり、「もう帰ってよい。 また折りを見て話を聞こう」と体よく断りました。 26 それから時々、パウロを呼び出しては話し合いましたが、それというのも、パウロから金をもらいたい下心があったからです。 27 こんなふうにして二年が過ぎ、ペリクスはポルキオ・フェストと交替しました。 ペリクスはユダヤ人のきげんを損ねたくなかったので、パウロを捕らえたままにしておいたのです。

二五

1 新総督としてカイザリヤに着いて三日後に、フェストは、エルサレムへ来ました。 2 祭司長やユダヤ人の指導者たちはさっそく面会を求め、パウロの一件を持ち出しました。 3 願うことはただ一つ、パウロを直ちにエルサレムに連れ戻してほしいということです。 [彼らはまだ、途中で待ち伏せて殺そうと思っていたのです。] 4 そんなことは知らないフェストは、パウロはカイザリヤに拘留中だし、自分もすぐ戻るので、 5 パウロを告発したければ、それ相応の人が自分と同行し、向こうで裁判にかけてはどうか、と提案しま

した。

裁判

6 八日か十日の後、フェストはカイザリヤに帰り、翌日、パウロの裁判が開かれました。

7 パウロが出廷したとたん、エルサレムから来たユダヤ人たちが取り囲み、次々に重い罪名をあげて訴えたものの、それを証拠立てることはできませんでした。 8 この訴えに対して、パウロは、「私は潔白です。別にユダヤ人のおきてに反対したわけでもなく、神殿を汚したことも、ローマ政府にそむいたこともございません」ときっぱり否定しました。

9 そこでフェストは、ユダヤ人の歓心を買おうとして尋ねました。「どうだ、エルサレムで裁判を受ける気はないか。もちろん、私の前でだが。」

10 11 「それよりも、ローマ皇帝に上訴する権利を要求いたします。私が無実であることは、あなた様もご存じのはずです。もし、何か死刑にあたるようなことをしているのなら、逃げも隠れもいたしません。しかし、私は潔白でございます。だれにも、私をこの人たちの手に渡して殺させる権利はありません。私はカイザル（ローマ皇帝）に上訴いたします。」

12 フェストは事態をどう始末したものかと、顧問たちに相談してから、「いいだろう、おまえはカイザルに上訴したのだから、カイザルのところへ行け」と言いました。

13 数日後、新総督に敬意を表するため、アグリッパ王がベルニケといっしょに、フェストを訪問しました。 14 二人が何日間か滞在している間に、フェストは、パウロの一件を王に持ち出しました。「実は、ペリクスから引き継いだ囚人が一人いるのですが、 15 どうも、祭司長やユダヤ人の指導者たちは、彼を死刑にしたいらしいのです。私がエルサレムへ行った時、そう申ししていました。 16 もちろん私は、ローマの法律では、裁判もせずに人を有罪にはできないと答えましたがね。それで、この男に、訴える者たちの面前で釈明する機会を、与えることになったのです。」

17 告発者たちがこちらに出向いた翌日、私は裁判を開き、パウロを出廷させました。 18 ところが、訴えというのが全く予想外でして、 19 ユダヤの宗教上の問題なのです。なんでも死んでしまったイエスとかいう人物のことで、パウロはその人が生きていると主張しているのです。 20 こんな事件は、とても手に負えそうもありません。そこで、エルサレムで裁判を受ける気はないかと尋ねてみたら、 21 なんとまあ、カイザルに上訴すると言いだしましてね。しかたありません。皇帝陛下のもとへ送る手はずが整うまで、牢に入れてあるのです。」

22 アグリッパはこの話に興味を示しました。「ほう、直接、その男の話を聞いてみたいものですな。」

「では、明日お聞きいただきましょう。」

23 翌日、盛装した王とベルニケが、司令官たちや町の有力者たちと連れ立って法廷に入ると、フェストはパウロを引いて来いと命じました。

24 まずフェストが立ち上がり、演説しました。「アグリッパ王、ならびにご列席の皆

さん。この地方のユダヤ人もエルサレムのユダヤ人も、この男の死刑を要求しております。25しかし、私の見る限り、彼は何も死刑にあたるようなことはしていないのであります。ところが、この男が自分でカイザルに上訴しましたので、私は、彼をカイザルのもとに送ることに決めたしだいです。26しかし、皇帝に何と書き送ったらよいでしょう。告訴できるだけの理由が何もないのですから。それで皆さんの前に、特にアグリッパ王の前に連れてまいりました。皆さんに調べていただき、何と書いたらいいか教えていただきたいのです。27何の理由もなく、囚人を皇帝陛下のもとに送るのは、はなはだ理屈に合わないことだからです。」

二六

アグリッパに答える

1アグリッパはパウロに、「さあ、おまえの言い分を話せ」とうながしました。そのアグリッパに敬意を表してから、パウロは話し始めました。

2「アグリッパ王。あなた様の前で釈明できますことを、たいへん光栄に存じます。3あなた様がユダヤ人のおきてと習慣に特に精通しておられるからです。どうぞ忍耐してお聞きくださいますように。

4このことは、ユダヤ人もよく知っているのですが、私はタルソで生まれ、エルサレムで、ユダヤ教徒としての徹底した訓練を受け、それにふさわしく生きてまいりました。5また、ユダヤのおきてと習慣を守ることでは、最も厳格なパリサイ派の一人でした。その気さえあれば、ユダヤ人も簡単に証言できることです。6しかし、彼らが訴えたいのは、そんなことはありません。私が、先祖に与えられた約束の実現を待ち望んでいることが、彼らの気に入らないのです。7イスラエルの十二の部族は、私と同じ希望をいदैて昼も夜も努力してきたというのに……。王よ。それが、私だけ罪に問われるとは、理にかないません。8死人の復活を信じるのが犯罪でしょうか。神様が人間を復活させることは、そんなに信じがたいことでしょうか。

9かつて私は、ナザレのイエスの弟子は撲滅すべきだと堅く信じていました。10ですから、祭司長たちの手先になり、エルサレムでクリスチャンを片っぱしから投獄し、裁判の時には、死刑に賛成の票を投じました。11また、クリスチャンに、キリストを冒瀆することばを吐かせるためには手段を選ばず、拷問を加えることもしばしばでした。それほど激しく反対していた私ですから、遠く外国まで迫害の手を伸ばそうとしたのも、不思議はありません。

12ところが、何もかも祭司長たちから任され、そのつもりでダマスコに向かう途中、13あれは、ちょうど正午ごろでしたが、太陽よりもまばゆい光が、天から私と連れの者とを照らしたのです。14私たちはみな、その場に倒れました。その時です。私は、ヘブル語でこう語りかける声を聞いたのです。『パウロ、パウロ。なぜわたしを迫害するのか。そんなことをしたら、自分が傷つくばかりだよ。』

15『あなた様は、いったいどなたです?』と私は尋ねました。

すると主は言われたのです。『わたしかね、わたしは、あなたが迫害しているイエスだ。

16 さあ、立ちなさい。あなたに姿を現わしたのは、あなたを、わたしに仕える者、またわたしの証人として任命するためだ。あなたは、このことをはじめとして、これからあとも、わたしがあなたに現われて示す多くのことを、世界中に語り伝えなければならないのだ。17 心配はいらない。あなたを、ユダヤ人からも外国人からも守ろう。あなたを外国人のところに派遣するのだから。18 人々の目を開き、自分のほんとうの姿に気づかせ、罪を悔い改め、悪魔の暗やみから出て、神様の光の中に生きようようにするために。わたしを信じる信仰によって、彼らは罪の赦しを受け、きよくされたすべての人々と共に、神様の相続財産を受けるようになるのだ。』

19 それで、アグリッパ王よ。私はこの天からの幻に従ったのでございます。20 ダマスコを手はじめに、エルサレム、ユダヤ全国、さらに外国人にも、すべての人が罪を捨てて神様に立ち返り、それを良い行ないで示さなければならない、と宣べ伝えてきました。

21 このために、ユダヤ人は私を神殿でつかまえ、殺そうとしたのです。22 しかし神様のお守りがあったので、私は今日まで生きながらえ、身分の高い人にも低い人にも、あらゆる人にこのことを伝えているのです。私は、預言者とモーセが語ったこと以外、何も話してはおりません。23 私が話しているのは、キリストは苦しみを受け、死人の中から最初に復活して、ユダヤ人にも外国人にも光をもたらす、ということだけです。」

24 ここで突然、フェストが大声をあげました。「パウロ、気が狂ったかっ！あまり学問に身を入れすぎて、おかしくなったな。」

25 「何をおっしゃいます、フェスト閣下。気など狂ってはおりません。まじめに真理を語っているだけでございます。26 アグリッパ王はよくご存じのはずです。そう確信しておりますから、率直に申し上げているのです。これはみな、片すみで起こったことではないのですから。27 アグリッパ王、あなた様は預言者を信じておられますか。もちろん、信じておられるものと確信しておりますが。」

28 アグリッパは、パウロのことばをさえぎりました。「おまえは少しばかり話しただけで、余をクリスチャンにしようというのか。」

29 「お話ししたことが短かろうと長かろうと、そんなことはかまいません。私がひたすら神様にお願いするのは、あなた様をはじめ、ここにおられる皆さん全部が、私と同じようになってくださることです。もちろん、この鎖につながれることは、別ですが……。」

30 ここで王と総督とベルニケ、またほかの人たちもみな席を立ち、出て行きました。31 あとで話し合った結果、一致した意見は、「あの男は、死刑や投獄にあたることは何もしていない」ということでした。

32 アグリッパはフェストに、「カイザル（ローマ皇帝）に上訴さえしていなければ、自由の身になれたものをなあ」ともらしました。

二七

ローマ目指して

1 ようやく、船でローマに向かう手はずが整い、数人の囚人といっしょに、パウロは、ユリアスという親衛隊の士官に引き渡されました。 2 私たちが乗り込んだ船は、トルコ沿岸の幾つかの港に寄港して、ギリシヤに向かうことになっていました。 テサロニケ出身のギリシヤ人アリスタルコも同行したことを、書き添えておきましょう。

3 翌日、船はシドンに入港しました。 ユリアスはパウロにとっても親切で、上陸して友人を訪問したり、もてなしを受けたりすることを許可してくれました。 4 やがて、そこを出帆しましたが、まずいことに、向かい風が吹いてきました。 予定の進路をあきらめなければなりません。 キプロスの北側の島と本土との間を通ることになりました。 5 あとは、そのままキリキヤとパンフリヤの沿岸を航行して、ルキヤ地方のミラに入港しました。 6 ここで、親衛隊の士官は、アレキサンドリヤから来た、イタリア行きのエジプト船を見つけ、私たちを乗り込ませました。

7 8 数日の間たいへんな航海を続け、ようやくクニドはもう目と鼻の先という所まで来ましたが、風があまり強くなったので、サルモネ港の沖を通り、クレテの島陰を進みました。 ひどい風に苦労しながら、島の南岸をゆっくり進んで、やつのことでラサヤ近くの「良い港」と呼ばれる所にたどり着きました。 9 そこに数日とどまりましたが、もう秋分も過ぎ、天候も、長期の航海には危険な時期になっていました。 パウロは航海士たちに忠告しました。

10 「皆さん。 このまま進んだら、きっとひどい目に会いますよ。 難破して積荷を失うだけならまだしも、けが人や死者が出るかもしれません。」 11 しかし囚人を護送している士官は、パウロのことばよりも、船長や船主のことばに耳を傾けたのです。 12 その上、この「良い港」は吹きさらしの場所で、冬を越すには適していないこともあって、大部分の船員も、海岸沿いにピニクスまで行き、そこで冬を過ごしたほうが良いと主張しました。 ピニクスは北西と南西だけが入口になっている良港でした。

13 折からおだやかな南風が吹き始め、絶好の航海日和と思われたので、船は錨を上げ、沿岸を進み始めました。 14 15 ところが、それもつかの間、突然天候が変わり、ひどい暴風〔ユーラクロン〕が襲ってきて、あっという間に船は沖へ沖へと押し流されました。 最初のうちは、なんとか岸へ引き返そうと必死で船を操作した人々も、どうしても手のつけようがないとわかると、すっかりあきらめ、船は吹き流されるままでした。

16 しかし、ようやくクラウドという小島の陰に入り、ほっとひと息です。 引いていたボートを、なんとか甲板に引き上げ、 17 船をロープで縛って、船体を補強しました。 また、アフリカ海岸の浅瀬に乗り上げないように、船具をはずし、風に流されるままにしました。

18 翌日、波はさらに高くなり、船員たちは積荷を捨て始めました。 19 その翌日には、もう手当たりしだい、船具までも捨てざるをえなくなりました。 20 来る日も来る日も恐ろしい嵐は荒れ狂い、最後の望みも絶たれました。

21 長い間、だれも食事をしていません。 パウロは船員たちを呼び集め、こう言いまし

た。「皆さん。最初から私の忠告を聞いて、『良い港』を出なければよかったのですよ。そうすれば、こんな目に会わなくてすんだのです。 22でも、元気を出しなさい。船は沈みますが、だれも死にはしません。

23ゆうべ、私の仕えている神様からの御使いが、そばに立ち、こう知らせてくれたのです。

24『恐れることはない。パウロ。あなたはまちがいなく、カイザル（ローマ皇帝）の前で裁判を受けるのです。そればかりか、神様はあなたの願いを聞き届け、同船の人たち全員のいのちも救ってくださいます。』

25さあさあ、元気を出して、出して。私は神様を信じています。神様がおっしゃることにはうそはありません。 26やがて、私たちはある島に打ち上げられるでしょう。」

27嵐になって十四日目のことです。船はアドリヤ海を漂流していました。真夜中ごろ、水夫たちは陸地が近いと感じました。 28それで水深を測りました。四十メートルほどです。またしばらくして測ってみました。今度は三十メートルになっています。

29この調子では、もうまちがいありません。岸は近いのです。そこで海岸付近の岩場に乗り上げないようにと、船尾から錨を四つ降ろし、祈りながら夜明けを待ちました。

30数人の水夫が、船を捨てて逃げようと、船首から錨を降ろすふりをしながら、救命ボートを降ろそうとしました。 31それを見たパウロは、いち早く兵士たちや士官に、「あの人たちがいなきゃ、助かる見込みはありませんよ」と言ったので、 32兵士たちは綱を切り、ボートを海に落としてしまいました。

33ついに夜明けの光がさし始めたころ、パウロは全員に、食事をするように勧めました。

「皆さんは、今日で二週間も、食べ物を口にできていないじゃありませんか。 34さあ、食事をしましょう。皆さんの髪の毛一本も失われないのですから。」

35こう言うと、パウロは乾パンを取り、皆の前で感謝の祈りをしてから、割って食べ始めたのです。 36それでだれもが元気づけられ、いっしょに食べ始めました。 37上船していた人は、全部で二百七十六人でした。 38食事のあと、積んでいた麦を全部投げ捨て、船を軽くしました。

難船

39夜が明けると、どこの海岸線かはわかりませんが、砂浜のある入江が見えます。それで、岩の間をぬって砂浜まで行けるかどうか相談しました。 40そして、ついに決行と決まりました。まず錨を切り捨て、かじ綱を解き、前の帆を上げ、浜に向かって進みました。 41ところが、砂州に乗り上げてしまい、船首は深くめり込み、船尾は激しい波でこわれ始めたではありませんか。

42兵士たちは、囚人がてんでに泳いで逃げると困るから、いっそ殺してはどうか、と士官に勧めました。 43しかし、ユリアスはパウロを助けたかったので、聞き入れません。そして全員に、泳げる者は海に飛び込んで陸に上がり、 44泳げない者は、板切れや、こわれた船の破片につかまって行くようにと命じました。こうして、全員が無事に上陸

できたのです。

二八

1 2 ところがマルタと呼ばれる島であることは、すぐにわかりました。 島民はとても親切で、雨と寒さでぶるぶる震えていた私たちを暖めようと、浜辺でたき火をしてくれました。

3 パウロが一かかえの木切れをたばねて火にくべると、熱気でまむしがい出し、手に巻きつきました。 4 島の人たちは、まむしがぶらさがっているのを見て、「きっと人殺しなんだよ。 海からは助かって、正義の女神がお見のがしにはならないんだね」と、ひそひそささやき合いました。

5 ところがパウロは、平気な顔でまむしを火の中に払い落とし、ぴんぴんしています。 6 人々は、今にも、はれ上がるか、突然倒れて死ぬのではないかと、息を殺していました。しかし、いくら待っても、いっこうに何も起こりません。 今度は、パウロを神だと考えるようになりました。

7 この浜辺の近くに、島の首長ポプリオの領地がありました。 首長は私たちを招き、三日間も親切にもてなしてくれました。 8 ところが、ポプリオの父が高熱と赤痢で苦しんでいるというので、パウロが行って、彼のために祈り、手を置いて治してやりました。 9 これを聞くと、島中の病人がぞくぞく詰めかけ、みんな治してもらいました。 1 0 それで彼らは、私たちを非常に尊敬し、また出帆の時には、旅に必要なあらゆる品物を、船に積み込んでくれました。

1 1 難破してから三か月後、今度は、この島で越冬していた、アレキサンドリヤの「ふたごの兄弟号」という船に乗り込むことになりました。 1 2 最初の寄港地はシラクサで、三日間停泊し、 1 3 そこからずっと遠回りして、レギオンに行きました。 一日すると南風が吹き始めたので、翌日には、順調にポテオリまで進むことができました。 1 4 そこで数名のクリスチャンに出会い、勧められるままに七日間世話になってから、ローマに向かいしました。

1 5 私たちのことを聞いて、ローマのクリスチャンたちは、わざわざ、アピヤ街道のポロまで迎えに来てくれました。 トレス・タベルネという所で落ち合う人たちもいました。パウロが、この人たちに会えたことを心から神に感謝し、勇気づけられたことは言うまでもありません。

ついにローマ

1 6 ローマに着くと、パウロは、兵士の監視のもとではありましたが、好きな所に住んでもよいことになりました。 1 7 到着して三日後には、パウロは地元のユダヤ人の指導者たちを呼び集め、話をしました。

「皆さん。 私はだれに危害を加えたわけでもなく、ご先祖様の習慣を破った覚えもないのに、エルサレムでユダヤ人につかまり、訴えられて、ローマ政府の手に渡されました。

1 8 取り調べの結果、一たんは釈放と決まりました。 ユダヤ人の指導者たちが主張するような、死刑にあたる罪は認められなかったからです。 1 9 ところが、ユダヤ人がこの

決定に異議を申し立てたのです。 同胞を訴えるつもりは、つゆほどもありませんが、これでは、しかたありません。 カイザル（ローマ皇帝）に上訴しました。 20 今日、皆さん方をお招きしたのは、お近づきになりたかったからです。 また、私が捕らわれの身なのは、メシヤ（救い主）様が来られたと信じているためだと、わかっていただきたかったからです。」

21 ユダヤ人たちは答えました。「私たちは、あなたのことは何も聞いていません。 ユダヤから手紙も来ていませんし、エルサレムから来た人たちからも、そのような報告を受けてはいません。 22 しかし私たちは、あなたの信じていることを、あなたの口からお聞きしたいのです。 クリスチャンについて、私たちの知っていることと言えば、彼らが至る所で非難的だということだけなのですから。」

23 彼らはこうして日を決め、さらに大ぜいでパウロの家に来ました。 パウロは彼らに、神の国のことを語り、またモーセの律法から預言者の書に至るまで、聖書のありとあらゆる箇所を使って、イエスのことを教えました。 話は、朝からえんえん、夕方まで続きました。

24 信じる人もいれば、信じない人もいるというぐあいで、人さまざまです。 25 しかし、ああでもない、こうでもないと言い合いながら帰る彼らの耳には、いつまでも、パウロの最後のことが響いていました。 「聖霊様が預言者イザヤを通してお語りになったことは正しかったのです。

26 『ユダヤ人に告げよ。

「あなたがたは聞くには聞くが理解しない。

見るには見るが認めない。

27 心は肥えて鈍くなり、

耳も遠く、目も閉じられている。

見もせず、聞きもせず、理解もしない。

わたしに立ち返って、いやされようとしなさい。』」

28 29 だから、よく覚えておきなさい。 神様のこの救いは、外国人に与えられました。

彼らはこの救いを受け入れるでしょう。」

30 パウロはそれからまる二年の間、借家に住み、訪れる人たちを歓迎し、 31 大胆に神の国と主イエス・キリストのことを語りました。 それを妨げる者はだれもいませんでした。

■

クリスチャンへの手紙

教会の数が増えていくと、重要な人物がいつも同じ教会にとどまり、直接指導にあたることはできなくなります。広く伝道旅行に出かけ、各地に教会つくったパウロの場合は、特にそうでした。そこで、まだまだ未熟なクリスチャンを教え導き、教会内で持ち上がったやっかいな問題を解決するために、多くの手紙を書いたのです。どの手紙も、それぞれ大切な事柄を扱っています。こうしたパウロの手紙に、ペテロをはじめ、ほかの数人の指導者のものを加えてまとめたのが、この手紙集です。

ローマ人への手紙（ローマ教会の皆さんへ）

著者パウロは、この手紙でローマ教会の信者に自分を紹介するとともに、彼の神学を解説しています。そういうわけで、この手紙は、パウロの手紙のうちで最も組織立ったものと言えるでしょう。まず、人間はだれもが罪人であることを語り、外国人もユダヤ人も、律法を守ることでは神様を喜ばせることはできないこと、および、私たちが罪人であっても、あわれみ深い神様は自ら近づいてくださり、神様に立ち返る道を備えてくださったことを、教えています。

一

ローマの愛する皆さんへ。

1 キリスト・イエスの奴隷であり、伝道者として選ばれ、神様の良い知らせを伝えるために遣わされたパウロが、この手紙を送ります。 2 この良い知らせは、ずっと以前から、神様が預言者を通して、旧約聖書の中で約束しておられたもので、 3 神のひとり息子、主イエス・キリストに関するものです。 この方は、人の子として、ダビデ王の家系にお生まれになりました。 4 しかも、死んでのち復活することにより、神様のきよい性質を備えた、力ある神のひとり息子であることが証明されたのです。

5 このキリスト様を通して、今や、神様のすべての恵みが、それを受ける資格のない罪人の私たちに、あふれるばかり注がれています。そして今、私たちは、神様が人類のためにしてくださったすばらしいことを、全世界の人々に知らせるために、キリスト様から遣わされているのです。それは、すべての人がキリスト様を信じ、従うようになるため

す。

6 7 ローマの愛する皆さん。あなたがたも、キリスト様に深く愛されているのです。また、イエス・キリストに招かれて、神ご自身のもの、つまり神様の聖なる民とされているのです。どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストから、神様の豊かなあわれみと平安が、あなたがたに与えられますように。

8 何はさておき言っておきたいのは、どこへ行っても、あなたがたの評判を耳にすることです。神様を信じるあなたがたの信仰は、世界中に知れ渡っているからです。私は、この良い評判を聞くたびに、イエス・キリストによって、どんなに神様に感謝していることでしょう。9 あなたがたのために私がどれほど祈っているかは、神様をご存じです。私は、神様のひとり息子についての良い知らせを人々に伝えながら、全力投球で仕えている神様に、あなたがたに必要なものが与えられますようにと、昼も夜も祈っています。

1 0 また、神様が許してくださるなら、いつかあなたがたを訪ね、できれば安全な旅をしたいと、いつも祈っています。1 1 1 2 どうしても行きたいと思うのは、信仰をいくらかでもお分かちして、あなたがたの教会が、主にあって強く成長するように役立ちたいからです。それに、私も皆さんの助けが必要です。私の信仰をお分かちするだけでなく、あなたがたの信仰によって、私も力づけてもらいたいのです。こうして私たちは、お互いに励まし合えるでしょう。

1 3 愛する皆さん。私がこれまでに何度も、あなたがたのところへ行こうとしたことを〔しかし、その計画は妨げられてきました〕ぜひ知っていただきたいのです。他の国の諸教会でと同様に、あなたがたのところでも、すばらしい成果を得たいと思ったのです。

1 4 私はあなたがたにも、また、ほかのすべての人にも、文明人にも未開人にも、教育のある人にもない人にも、ばく大な借りがあります。1 5 ですから、何とかして、ローマにいるあなたがたのところにも、神様の良い知らせをお伝えしたいと、心の底から願っているのです。

1 6 というのも、キリスト様についての、この良い知らせを、私は少しも恥じてはいないからです。この知らせは、それを信じる人をだれでも天国に導く、神様の力ある手段です。この知らせは最初、ユダヤ人だけに伝えられていました。しかし今では、すべての人が、この同じ方法で神様のもとに招かれているのです。1 7 この良い知らせは、私たちがキリスト様を信じておゆだねする時、神様は私たちを、天国に入るにふさわしい者、すなわち、神様の目から見て正しい者としてくださる、と教えています。これは、初めから終わりまで、信仰によって達成されます。「正しい人は信仰によって生きる」と、旧約聖書に書いてあるとおりです。

1 8 しかし、真理を押しつける、罪深い邪悪なすべての人に、神様の怒りは天から下ります。1 9 なぜなら、彼らは神様についての真理を、本能的に知っているからです。神様が、この知識を、彼らの心にお与えになったのです。2 0 世界が創造されてからこの

かた、人々は、天地や、神様がお造りになったすべてのものを見て、神様の存在と、その偉大な永遠の力をはっきり知っていました。ですから、彼らには弁解の余地がないのです。

21 そうです。彼らは確かに神様を知っているのです。けれども、そのことを認めず、神様を礼拝せず、毎日神様に守られていることを感謝しようとしません。やがて彼らは、神様がどのようなお方か、また自分たちに何を求めておられるかについて、ばかげたことを考えるようになりました。その結果、彼らの愚かな心はくもり、何が何だか、わからなくなったのです。22 「神様なんか信じなくてもいい、自分は賢いのだ」と主張しながら、その実、全くの愚か者になってしまいました。23 そして、栄光に輝き、永遠に生きておられる神様を礼拝する代わりに、木や石で、鳥や獣や蛇、あるいは、くだらない人間の偶像を作り、それを神としたのです。

24 そこで神様は、彼らがあらゆる性的な罪に深入りするに任せました。そうです。彼らは互いの肉体で、汚らしい罪深い行為にふけたのです。25 彼らは、神様についての真理を知っていながら、信じようとせず、わざわざ、偽りを信じる道を選びました。そして、神様に造られた物には祈りながら、それらをお造りになった神様には従いませんでした。この創造主である神様こそ、永遠にほめたたえられる方です。アーメン。

26 そんなわけで、神様は彼らを放任し、したいほうだいの事をさせました。そのため、女でさえ、定められた自然の計画に逆らい、同性愛にふけるようになり、27 男も、女との正常な性的関係を捨てて、同性間で汚れた情欲を燃やし、恥ずべきことを行ないました。その結果、当然の報いを受けているのです。

28 このように、彼らが神様を捨て、認めようとしなかったので、神様は、彼らに考え出せるかぎりの悪事をさせておられました。29 それで、彼らの生活は、あらゆる悪と罪に染まり、むさぼりや憎しみ、ねたみ、殺意、争い、偽り、苦々しい思い、陰口に満ちたものとなりました。30 彼らは人の悪口を言い、神様を憎み、横柄で、高慢で、大ぼらを吹き、いつも何か新しい悪事を考え出し、親に反抗し続けました。31 わざと物事を曲解し、平気で約束を破り、情け知らずの不親切な者となりました。32 そのような罪を犯せば神様から死の刑罰を受けなければならないことを、よくよく承知の上で、その道を突き進み、しかも、自分ばかりか、他の人まで引きずり込んでいるのです。

二

1 こう書くと、あなたは「なんてひどい連中だろう」と言うかもしれません。しかし、ちょっと待ってください。あなただって、悪いことにかけては五十歩百歩ではありませんか。「そんな悪い連中が罰を受けるのは当然だ」ときめつける時、ほかでもない自分自身にそう言っているのです。あなただって、同じことをしているのですから。2 そういうことをする人には一人残らず、神様は、正義をもって罰をお下しになることを、私たちは知っています。3 それなのに、あなたは、「ほかの人の場合はいざしらず、私の場合は別だ。神様は見逃してくださる」と、たかをくくっているのですか。4 神様がどれ

だけ忍耐しておられるか、わからないのですか。それとも、そんなことは気にもかけないのですか。神様があなたを罰しめせず、長いあいだ待っていてくださったのは、罪から離れるのに必要な時間を与えるためでした。それがわからないのですか。神様のやさしい思いやりは、あなたを悔い改めに導くためのものです。

5ところが、どうでしょう。あなたは耳を貸そうともしません。強情をはり、罪から離れようとしません。こうして、恐ろしい刑罰をどんどん積み上げているのです。なぜなら、神様が裁判官として立ち、すべての人を正しくさばかれる、御怒りの日が近づいているからです。6神様は、一人一人に、その行ないにふさわしい報いをお与えになります。7神様の喜ばれることを忍耐強く行ない、目には見えなくても、神様が与えようとしておられる栄光と栄誉と永遠のいのちを求める人には、それが与えられるのです。8けれども、神様の真理に逆らい、不正な道を歩む人には、恐ろしい罰が下ります。神様の怒りは、そのような人々に注がれるのです。9罪を犯し続ける人には、ユダヤ人にも外国人にも、同じように悲しみと苦しみが降りかかります。10反対に、神様に従う人には、だれであっても、神様からの栄光と栄誉と平安とがあります。11なぜなら、神様はすべての人を公平に扱われるからです。

12 - 15神様はどんな罪も罰します。外国人が罪を犯した場合、たとい彼らが、文字に書かれた神様のおきてを知らなくてもです。彼らは心の奥底では、正しいことと悪いこととを区別できるからです。心の中には、神様のおきてが書かれてあるのです。つまり、彼らの良心が、彼らを責めたり、また時には弁護したりするわけです。ユダヤ人が罪を犯した場合、神様は彼らを罰します。神様のおきてが与えられているのに、従わないからです。彼らは何が正しいかを知りながら、実行しません。結局のところ、なすべきことを知りながら実行しない人は、救われないのです。16神様のご命令によって、キリスト・イエスが、すべての人の心の奥底に潜む思いや動機をさばかれる日が、必ず来ます。このことは、私が伝えている神様の偉大なご計画の一部です。

17あなたは、自分はユダヤ人だと称し、「ユダヤ人には神様のおきてが与えられているのだから、私と神様との間は万事うまくいっている」と考え、「私たちは神様と特別親しい関係だ」と自慢しています。18確かにあなたは、神様が何を求めておられるかを知っています。また、小さい時からずっと、神様のおきてを教えられてきたので、善悪の区別を知り、正しいほうに賛成しています。19自分は神様のもとへ行く道をよく知っているから、それを目の見えない人に示すことができる、と思っています。まるで、暗やみで道に迷った人々を神様のもとに導く燈台の光であるかのように考えています。20すべての知識と真理に満ちた神様のおきてを知っている自分には、愚かな人人を導き、子供たちにさえ神様のことを教える資格があると思い込んでいます。

21そうです。あなたは人を教えています。そのくせ、なぜ自分を教えないのですか。人には「盗むな」と説きながら、なぜ盗むのですか。22「姦淫は悪いことだ」と言いながら、なぜ姦淫するのですか。あなたは、「偶像に祈ってはいけない」と言いながら、

自分では、お金を神としています。

23 あなたは、神様のおきてを知っていると自慢しながら、おきてを破って、神様の名誉を汚しているのです。 24 「あなたがたのゆえに、世の人々は神様をけなす」と旧約聖書に書いてありますが、まさにそのとおりです。

25 もしあなたが神様のおきてに従っているなら、ユダヤ人であることにいくらかの価値はあるでしょう。 しかし、もし従っていないなら、外国人よりすぐれたところはありません。 26 たとい外国人でも、神様のおきてに従うなら、神様はユダヤ人に与えようと計画しておられたすべての特権と栄誉を、お与えになるのではないのでしょうか。 27 事実、そのような外国人は、ユダヤ人のあなたより、はるかにすぐれていることになります。 あなたは神様について多くのことを知っており、神様の約束をいただいているながら、そのおきてに従わないからです。

28 ユダヤ人の両親から生まれたとか、ユダヤ人と認められるための儀式である割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けたとかいうだけでは、真のユダヤ人とは言えません。 29 真のユダヤ人とは、心が神様と正しい関係にある人のことです。 神様は、実際に体の割礼を受けて肉体の一部を切り取った人ではなく、心と思いが全く変えられた人を、捜し求めておられるからです。 人生が全く変えられた人こそ、たとい人にはほめられなくても、神様にほめていただけるのです。

三

1 では、ユダヤ人であることに、どういう利点があるのでしょうか。 彼らには何か特典があるのでしょうか。 ユダヤ人の割礼の儀式に、価値があるのでしょうか。 2 もちろんです。 ユダヤ人であることには、多くの利点があります。

まず第一に、神様はユダヤ人に自分のおきてをおゆだねになりました。〔それは、彼らに神様の御心を知らせ、それを実行させるためでした。〕 3 確かに、ユダヤ人の中には不忠実な者がいました。しかし、一部の不忠実な者が神様との約束を破ったからといって、神様も約束を破るのでしょうか。 4 絶対にそんなことはありません。たとい世界中の人がうそつきでも、神様は違います。 このことについて、旧約聖書の詩篇には「神様のことに誤りはない。 だれが疑いを差しはさもうと、いつも真実で正しい」と書いてあります。

5 ところが、こんなふうに主張する人がいます。 「でも、私たちの神様に対する不忠実な、むしろよかったのではありませんか。 私たちの罪は、かえって目的にかなうのではないのでしょうか。 なぜなら、人々は、私たちがどんなに悪い人間であるかを見て、神様がどんなに正しい方であるかに、気づくでしょうから。 すると、私たちの罪が神様の役に立っているのに、罰せられるのは、不公平ではありませんか。」〔ある人々はこんな理屈をこねるのです。〕 6 とんでもない！ 罪を見過ごすような神様があるのでしょうか。 そんなことで、神様はどうして人をさばけるでしょう。 7 たとえば、もし、私がうそをついたとします。 それと対照的に神の真実がはっきりと際立ち、私の不真実が、かえっ

て神様の栄光を輝かすとしたら、神様は私を罪人としてさばき、有罪の判決を下すことなどできなくなってしまいます。 8このような論理を突きつめてゆくと、最後には、「私たちが悪ければ悪いほど、神様には好都合だ」ということになってしまいます。 しかし、こんなことを言う人がきびしく罰せられるのは当然です。 ところが、事もあろうに、私がそのように説教していると言いはる人々がいるのです。

9 それでは、私たちユダヤ人は、ほかの人々よりすぐれているのでしょうか。 いいえ、絶対にそんなことはありません。 すでに指摘したように、ユダヤ人であろうと外国人であろうと、みな同様に罪人です。 10 旧約聖書に、次のように書いてあるとおりです。

「正しい人は一人もいない。

罪のない人は世界中に一人もいない。

11 真実に神の道に従って歩んだ人は

かつて一人もいない。

そうしたいと心から願った人さえいない。

12 すべての人が道を踏みはずし、

みな、まちがった方向に進んで行った。

正しいことをずっと行なってきた人は

どこにもいない。 一人もいない。」

13 「彼らの会話は、不潔で腐っており、

まるで開いた墓穴からもれる悪臭のようだ。

彼らの舌はうそで固められている。」

「彼らのことばには、

恐ろしい毒蛇のきばと毒がある。」

14 「彼らの口は、

のろいと苦々しいことばで満ちている。」

15 「彼らは自分と意見の合わない人を憎み、

すぐに殺す。

16 彼らの行く所ではどこでも、

悲惨な結果とめんどろな問題があとを絶たない。

17 彼らは一度も心の安らぎを感じたことがなく、

神の祝福を味わったこともない。」

18 「彼らには、

神を恐れて悪事から遠ざかるとうとする気持ちなど、

少しもない。」

19 そんなわけで、神様のさばきが、ユダヤ人に重々しくのしかかっています。 なぜなら、彼らは神様のおきてを守る責任があるのに、守らず、こうした悪事にふけっているからです。 彼らのうち一人として、申し開きのできる者はいません。 事実、全世界が全

能の神様の前に沈黙して立ち、有罪の宣告を受けているのです。

20 さて、おわかりでしょうか。 おきての命じることを実行して、神様に正しい者と認められようとしてもむだです。 私たちが神様のおきてを深く知れば知るほど、自分が従っていないことが明らかになるからです。 神様のおきては、私たちに、自分が罪人であることを自覚させてくれるだけです。

21 22 しかし今や、神様は、天国へ行く別の道を示してくださいました。 その新しい道は、「善人になる」とか、神様のおきてを守ろうと努力するような道ではありません〔とはいっても、この道については、ずっと前から旧約聖書で教えられていたのですから、実際には新しい道とは言えませんが〕。 神様は今、「もし私たちが、イエス・キリストを信じきるなら、あなたがたを受け入れ、『罪のない者』と宣言する」と言われます。 どんな人間であろうと、私たちはみな、キリストを信じきるという、この方法によって救われるのです。 23 そうです。 すべての人は罪を犯しました。 神の輝かしい標準にはほど遠い存在です。 24 けれども、もし私たちがキリスト・イエスを信じきるなら、神様は私たちを「罪のない者」と宣言してくださいます。 このキリスト・イエスが、恵みにより、無償で私たちの罪を帳消しにしてくださるからです。

25 神様はキリスト・イエスを遣わして、私たちの罪のための刑罰を受けさせ、私たちへの怒りをとどめてくださいました。 神様は、私たちをご自分の怒りから救い出すための手段として、キリスト様の血と私たちの信仰とをお用いになりました。 ですから、それまでの時代に罪を犯した者たちを罰せられなかったとしても、神様は完全に公正であられたわけです。 キリスト様が来て人々の罪を取り除く時を、神様は待ち望んでおられたからです。 26 そして今日でも、神様はこの同じ方法で罪人を受け入れてくださいます。 イエス様が彼らの罪を帳消しにしてくださったからです。

しかし、このように、罪を犯した者を赦し、無罪を宣告するのは、神様の公正なやり方に反するのではないのでしょうか。 いいえ、そんなことはありません。 なぜなら、彼らが自分の罪を帳消しにしてくださったイエス様を信じたという事実に基づいて、神様はそうなさるからです。

27 それでは、救われるために、私たちは何か誇れるようなことをしたのでしょうか。 何もしていません。 なぜでしょう。 私たちは自分の善行によって無罪とされるのではないからです。 それは、キリスト様が成し遂げてくださったことと、キリスト様に対する私たちの信仰に基づいているのです。 28 つまり、私たちが救われるのは、キリスト様を信じる信仰だけによるのであって、善行によるものではありません。

29 神様はこの方法で、ユダヤ人だけをお救いになるのでしょうか。 いいえ、それ以外の外国人も、同じようにして神様のもとに行くことができます。 30 神様はすべての人を全く平等に取り扱われます。ユダヤ人であろうと外国人であろうと、人はみな、信仰があれば無罪とされるのです。 31 それでは、信仰によって救われるのなら、もはや神様のおきてに従う必要はないことになるのでしょうか。 正反対です。 実のところ、私た

ちはイエス様を信じきってこそ、ほんとうに神様に従うことができるのです。

四

1 2 この問題について、アブラハムの場合を考えてみましょう。 アブラハムは、人間的に見れば、私たちユダヤ民族の先祖にあたります。 信仰によって救われる問題について、彼はどんな経験をしたのでしょうか。 彼が神様に受け入れられたのは、良い行ないをしたからでしょうか。 もしそうなら、彼は誇れたはずですが。 しかし、神様の目から見ると、アブラハムには、誇る理由などみじんもありませんでした。 3 というのは、旧約聖書に「アブラハムは神様を信じた。 だから、神様はアブラハムの罪を帳消しにして、『罪のない者』と宣言された」と書いてあるからです。

4 5 しかし、アブラハムが天国に行く資格を得たのは、良いことをしたからではないでしょうか。 違います。 救いは贈り物として与えられるものだからです。 もし善行によって救われるとすれば、もはや無料ではなくなってしまう。 ところが、救いは無料なのです。 救いは、自分の力で手に入れようとしない人にこそ与えられます。なぜなら、罪人が、キリスト様は自分を神様の怒りから救い出してくださると信じきる時に、神様は彼らを、正しい者と宣言してくださるからです。

6 ダビデ王は、救われる値打のない罪人が、神様から「罪のない者」と宣言される幸いについて、こう言っています。

7 「罪を赦された者、罪をすっかり消された者は、なんと幸いだらう。

8 もはや主に罪を数え上げられないですむ人の喜びは、どんなだらう。」

9 すると、次のような質問が出て来ます。 この祝福は、キリスト様を信じた上に、さらにユダヤ教のいろいろなおきても守っている人にだけ与えられるのでしょうか。 それとも、ユダヤ教の規則は守らなくても、ただキリスト様を信じてさえいれば与えられるのでしょうか。 アブラハムの場合はどうだったのでしょうか。 「アブラハムは信仰によってこれらの祝福を受けた」と言われています。 それは、ただ信仰だけによったのでしょうか。 それとも、ユダヤ教のいろいろな規則も守ったからなのでしょうか。

1 0 この質問に答えるためには、まず、次の質問に答えなければなりません。 神様はいつ、アブラハムにこの祝福をお与えになったかということです。 それは、彼がユダヤ人になる前——すなわち、ユダヤ人として認められるための儀式である割礼を受ける前——のことでした。

1 1 アブラハムが割礼を受けたのは、神様が彼をその信仰のゆえに祝福すると約束された時より、もっとあとのことです。 割礼の儀式が行なわれる前に、アブラハムはすでに信仰を持っており、神様はすでに彼を受け入れ、ご自分の目から見て正しい者、良い者と宣言しておられました。 割礼の儀式は、そのしるしだったのです。 こうしてアブラハムは、ユダヤ教のいろいろなおきてに従わなくても、信じて救われる人々の、信仰の父とさ

れています。ですから、これらの規則を守っていない人々も、信仰によって神様から正しい者と認めていただけることがわかります。 12 アブラハムは同時に、割礼を受けているユダヤ人の、信仰の父でもあります。ユダヤ人は、アブラハムの例から、自分たちはこの割礼の儀式によって救われるのではないとわかるはずです。なぜなら、アブラハムは、割礼を受ける前に、ただ信仰によって神様の恵みを受けたからです。

13 そういうわけで、全地をアブラハムとその子孫に与えるという神様の約束は、アブラハムが神様のおきてに従ったからではなく、神様は必ず約束を果たしてくださる、と信じたからこそ与えられたことは明かです。 14 にもかかわらず、神様の祝福は「完全に善良な」人に与えられると主張するなら、「信仰を持つ者に対する神様の約束なんか意味がない。信仰なんかばかげてる」と言っているのと同じです。 15 ところが、実際には、神様のおきてを守ることによって神様の祝福と救いとを得ようと努力しても、結局は、神様の怒りを招く結果に終わるだけです。なぜなら、それを守ることなど、とうていできないからです。おきてを破らないためには、破るようなおきてを持たないにかぎります。

16 そういうわけで、神様の祝福は、無代価の贈り物として、信仰によって与えられるのです。ユダヤ人の習慣に従うか否かに関係なく、アブラハムと同じ信仰を持っているなら、神様の祝福を確実にいただけるのです。信仰の面から言えば、アブラハムは、私たちみんなの父です。 17 旧約聖書に、神様はアブラハムを多くの国民の父とされた、とあるのは、この意味にほかなりません。神様は、どこの国の人でも、アブラハムと同じように、神様に信頼する者を、みな受け入れてくださるのです。神ご自身が——そうです。死人を生き返らせ、未来の出来事を、すでに実現したかのような確実さでお語りになる、神ご自身が——そう約束しておられるのです。

18 神様はアブラハムに、「あなたに一人の男の子を授けよう。その子から多くの子孫が生まれ、偉大な民族となるのだ」と言われました。この時アブラハムは、そんな約束はとうてい実現するとは思えなかったにもかかわらず、神様を信じました。 19 アブラハムの信仰は強かったので、百歳の自分が、もう父親になれる年ではないことも、また九十歳の妻サラが子供を産めるとは思えないことも、気にかけませんでした。

20 アブラハムは少しも疑うことなく、ひたすら神様を信じ、その信仰と信頼はますます強くなりました。彼は、そのことがまだ実現しないうちから、その祝福のゆえに神様を賛美しました。 21 神様の約束はどんなことでも実現すると、堅く信じていたのです。

22 この信仰のゆえに、神様は彼の罪を赦し、「罪のない者」と宣言してくださったのです。

23 ところで、「彼は信仰によって神様に受け入れられ、正しい者と認められた」という、このすばらしいことばが書かれたのは、ただアブラハムのためだけでなく、 24 私たちのためでもあったのです。それは、主イエス様を死人の中から復活させた神様の約束を信じる時、神様がアブラハムと全く同様に、私たちをも受け入れてくださることを保証しています。 25 主イエス様は、私たちの罪のために死にました。そして私たちを、神様との正しい関係に入れ、神様の恵みで満たしてくださるために、復活なさったのです。

五

1 そういうわけで、私たちは、神様の約束を信じる信仰によって、神の目から見て正しい者とされているのですから、今や神様との間に真の平和を得ています。 それは、私たちの主イエス・キリストのおかげです。 2 信仰のゆえに、キリスト様は私たちを、いま立っている、この最高の特権ある立場に導いてくださいました。 そして私たちは、神様の私たちに対する計画がすべて実現するのを、確信と喜びにあふれて待ち望んでいるのです。 3 私たちはさらに、さまざまな問題や困難に直面した時も喜ぶことができます。 それは忍耐を学ぶのに役立つからです。 4 忍耐によって、私たちの人格は筋金入りにされ、ひいては神様への信頼を深められるのです。 こうしてついに、私たちの希望と信仰は、強く、何ものにも動じなくなるのです。 5 そうなった時、どんなことが起ころうと失望落胆せず、また、万事が益であるとわかります。 それは、神様がどんなに深く愛していてくださるか、わかるからです。 私たちは、そのあたたかい愛を全身で感じています。 それは、神様が聖霊様を与えてくださり、その聖霊様が私たちの心に、神様の愛を満たしてくださっているからです。

6 私たちが逃れる道もなく、全く窮地に陥っていた、まさにその時、キリスト様はおい
になり、何の役にも立たない、私たち罪人のために死んでくださいました。 7 たとい私
たちが良い人間であったとしても、だれかが自分のために死んでくれるなどとは、考えて
もみなかったでしょう。 もちろん、そういう可能性が全然ないわけではありませんが。
8 しかし、私たちがまだ罪人であった時に、神様はキリスト様を遣わしてくださいました。
そのキリスト様が私たちのために死んだことにより、神様は私たちに、大きな愛を示して
くださったのです。 9 キリスト様は、罪人のために、血さえ流してくださったのですから、
神様が私たちを無罪と宣言した今は、もっとすばらしいことをしてくださるに違いあ
りません。 今やキリスト様は、やがて来る神様の怒りから、完全に救い出してくださる
のです。 10 私たちが神様の敵であった時に、神のひとり息子の死によって、神様のも
とに連れ戻されたくらいですから、私たちが神様の友となり、神様が私たちのうちに生き
ておられる今、どんなにすばらしい祝福が備えられていることでしょう。

11 今や私たちは、神様との驚くべき新しい関係を心から喜んでいます。それはただ、主イエス・キリストが私たちの罪のために死んで成し遂げてくださったこと、すなわち、私たちを神様の友としてくださったことのおかげなのです。

12 アダムが罪を犯した時、罪は全世界に入り込みました。 アダムの罪により、死が全人類に広まり、すべての人は年老いて死ぬよう定められました。 それと言うのも、すべての人が罪を犯したからです。 13 これらの原因がアダムの罪にあることを、私たちは知っています。 というのは、もちろんアダムからモーセまでの時代にも、人々は罪を犯していましたが、神様はそこには、ご自分のおきてを破ったかどで、彼らに死刑を宣告したりは、なさらなかったからです。——神様はまだ、彼らにご自分のおきてを与えず、また、彼らにどんな行為を望んでいるかも、告げておられなかったのです。 14 そうい

うわけで、彼らの肉体の死は、彼らの罪のせいではありませんでした。 アダムのように、禁断の木の実を食べるな、という神様の特別のおきてを破ったわけではないからです。 アダムと、やがて来ることになっていたキリスト様とは、なんと対照的でしょう。 15 人間の罪と神様の赦しとの間には、なんと大きな違いがあることでしょう。 一人の人アダムは、自分の罪によって多くの人に死をもたらしました。 しかし、一人の人イエス・キリストは、神様のあわれみによって、多くの人に赦しをもたらしたのです。 16 アダムの一つの罪が、多くの人に死の罰をもたらしました。 一方、キリスト様は、無代価で多くの罪を取り除き、その代わりにすばらしいいのちを下さるのです。 17 この一人の人アダムの罪により、死はすべての人を支配する王となりました。 しかし、神様から、罪の赦しと無罪放免という無代価の贈り物をいただく人はみな、この一人の人イエス・キリストによって、いのちの王となります。 18 そうです。 アダムの罪は、すべての人に刑罰をもたらしましたが、キリスト様の正しさは、人々を神様の前に正しい者とするのです。 それで、人々は生きることができるのです。 19 神様に従わなかったアダムは、多くの人を罪人にしましたが、神様にお従いしたキリスト様は、多くの人を神様に受け入れられる者としてくださいました。

20 「十戒」が与えられて、すべての人は、自分がいかに神様のおきてに従えない存在か、よくわかるようになりました。 しかし、私たちは、自分の罪深さを知れば知るほど、赦してくださる神様の満ちあふれる恵みが、いつそうわかるようになるのです。 21 以前は、罪がすべての人を支配し、死に導きました。 しかし今では、反対に神様の恵みが私たちを支配するようになり、主イエス・キリストによって、私たちに神様の前での正しい身分を与え、永遠のいのちへと導いてくれるのです。

六

1 では、神様がますます私たちを恵み、赦し続けることができるように、私たちは罪を犯し続けるほうがよいのでしょうか。

2 3 もちろん、絶対にそんなことはありません。 罪を犯さないでいられるようになったのに、なおも罪を犯し続けてよいのでしょうか。 私たちがクリスチャンになり、バプテスマ（洗礼）を受けてキリスト・イエスの体の一部となった時に、罪の支配力は打ち破られてしまったのです。 すなわち、キリスト・イエスの死によって、あなたがたの罪深い性質は打ち砕かれ、力を失ったのです。 4 罪を愛する古い性質は、キリスト様が死なれた時、バプテスマによって、キリスト様と共に葬り去られました。 そして、父なる神が、栄光の力でキリスト様を復活させてくださった時、あなたがたは、キリスト様のすばらしい新しいいのちを与えられ、そのいのちに生きる者となりました。

5 あなたがたはキリスト様の体の一部として、キリスト様が死なれた時、いわば、いっしょに死んだのです。 そして今は、キリスト様の新しいいのちをいただいております、やがてキリスト様と同じように復活するのです。 6 あなたがたの古い邪悪な欲望は、キリスト様といっしょに十字架につけられました。 罪を愛する部分は、打ち砕かれ、致命傷を負

いました。それは、罪を愛する体が、もはや罪の支配を受けず、二度と罪の奴隷にならないためです。 7 罪に対して死んでしまえば、どんな罪の誘惑や力からも自由にされるはずだからです。 8 罪を愛する古い性質が、キリスト様といっしょに「死んだ」のですから、確かにあなたがたは、キリスト様の新しいいのちを共有しているのです。 9 キリスト様は死人の中から復活し、もう二度と死ぬことはありません。死には、もはやキリスト様を支配する力がないのです。 10 キリスト様は、罪の力にとどめを刺すために、ただ一度死なれました。しかし今では、神様との絶えることのない交わりの中に、永遠に生きておられます。 11 ですから、あなたがたの古い罪の性質を、罪に対して死んだものの、反応しなくなったものとみなしなさい。そして、その代わりに、私たちの主イエス・キリストによって、神様に対して生きる者、敏感に応答する者となりなさい。

12 これからはもう、あなたがたの短命な体を罪の支配にゆだねてはいけません。罪深い欲望に従ってはいけません。 13 体のどんな部分をも、罪を犯すための悪の道具にしてはいけません。むしろ、自分自身——あなたがたの全肢体——を、完全に神様にささげなさい。なぜなら、あなたがたは、死人の中から生かされた者であり、神様の思いのままに使っていただく道具として、神様の良い目的に役立とうと願っているからです。 14 罪は、二度とあなたがたを支配しません。なぜなら、あなたがたはもう、おきて〔このおきてを手段として、罪はあなたがたを奴隷にしたのです〕に束縛されてはおらず、神様の恵みとあわれみの下にあつて、自由の身となっているからです。

15 それでは、どうなのでしょう。おきてを守ることによってではなく、神様の恵みを受けることによって救われるのであれば、「かまわないから、どんどん罪を犯そう」ということになるのでしょうか。絶対にそんなことはありません。

16 知らないのですか。自分の主人は自分で選べるのです。〔死を伴う〕罪を選ぶこともできれば、〔無罪の宣告を伴う〕従順を選ぶこともできます。だれかに自分をささげれば、その相手があなたがたを受け入れて主人となり、あなたがたはその奴隷となるのです。 17 神様に感謝すべきことに、あなたがたは、以前は罪の奴隷になる生き方を選んでいましたが、今では、神様からゆだねられた教えに心から従う者となりました。 18 今やあなたがたは、罪という古い主人から解放されて、正しさという新しい主人の奴隷になっているのです。

19 このように奴隷と主人の例をあげてお話しするのは、そのほうが、わかりやすいからです。あなたがたは、かつて、あらゆる罪に仕える奴隷であったように、今は、あらゆる正しいこと、きよいことに仕える奴隷にならなければなりません。

20 あなたがたは、罪の奴隷であった時には、良いことについては無関心でした。 21 その結果はどうだったのでしょうか。明らかに、かんばしくないものでした。だからこそ、かつて自分がしていたことを考えるだけでも、恥ずかしくなるのです。その行き着くところは、永遠の滅びです。 22 しかし今は、罪の力から解放されて、神様の奴隷になっています。そして、神様があなたがたに下さる恵みによって、きよくされ、永遠の

いのちがある者とされるのです。 2 3 罪の支払う報酬は死です。 しかし、神様が、ただで下さる贈り物は、私たちの主キリスト・イエスによる永遠のいのちです。

七

1 キリスト様を信じるユダヤ人の皆さん。 おきては死んだ人まで拘束しないことに、まだ気づかないのですか。

2 一例をあげれば、女は結婚すると、夫が生きている限り、おきてによって夫に束縛されています。 しかし夫の死後は、もはや束縛されません。 結婚の規定は、もう適用されないのです。 3 はかの男と結婚したければ、結婚してかまいません。 夫が生きているうちは罪悪ですが、夫の死後なら、やましいことは少しもありません。

4 かつて、ユダヤ教のおきては、あなたがたの「夫」すなわち主人でした。 しかし、あなたがたは、言わばキリスト様といっしょに十字架上で「死んだ」のですから、「おきてとの結婚関係」は解消されました。 もうおきてに支配されることはありません。 そして、キリスト様の復活と同時に、あなたがたも復活し、新しい人になりました。 今では、死人の中から復活された方と「結婚している」のです。 神様のために良い実を結ぶため、すなわち、善を行なうためにです。 5 あなたがたの古い性質がまだ生きていた時には、罪深い欲望があなたの内部で跳びはね、神様のご命令には何でも逆らい、罪深い行ないという、死に至る腐った実を結びました。 6 しかし、もうユダヤ教のおきてや習慣にわずらわされる必要はありません。 なぜなら、それらに捕らわれていた間に、あなたがたは「死んだ」のですから。そして今では、心から神様に仕えることができるようになっています。 昔のように、一連の規則に機械的に従うではありません。 心から喜んで、真心こめて仕えるのです。

7 私が、神様のおきては悪いものだと言っているとお思いですか。 絶対にそんなことはありません。 おきてそのものが悪いわけではありません。 それどころか、おきてが私の罪を明らかにしてくれたのです。 もし「心に邪悪な欲望をいだいてはならない」というおきてがなければ、私は、自分の心にある罪——そこに潜んでいる邪悪な欲望——に気づかなかったでしょう。 8 ところが罪は、邪悪な欲望に対してこのおきてを逆用しました。 このような欲望が悪いことをわからせながら、かえって、あらゆる禁じられた欲望をかき立てました。 破るようなおきてさえなかったなら、罪を犯すこともなかったと思います。

9 私は、おきてが実際に何を要求しているかを知らなかった時には、気楽に構えていることができました。 しかし、真実がわかった時、自分がおきてを破っており、死を宣告された罪人であることが、はっきりわかりました。 10 ですから、私に関する限り、本来いのちの道を示してくれるはずの良いおきてが、かえって、死の罰を科すものになってしまったわけです。 11 罪は私をだましたのです。 神様の良いおきてを盾に取り、私を死罪に定めたのですから。 12 しかし、おきてそのものは全く正しく、善であることは、おわかりいただけると思います。

13でも、はたして納得できますか。私に死の運命をもたらしたのは、ほかならぬおきてなんです。 どうしておきてが良いものでありえましょう。 その張本人は、実は、罪なのです。 おきてを利用して死罪をもたらしたのは、悪魔的な、この罪だったのです。 罪がどんなにずる賢く、恐ろしく、いまわしいものか、わかるでしょう。 自分の悪い目的のために、ぬけぬけと神様の良いおきてを利用するのですから。 14おきては良いものであり、それ自体に問題はありません。 問題はむしろ私にあります。 私は、罪という主人に、奴隷として売り渡されているからです。

15私は自分が全くわかりません。 ほんとうは正しいことをしたいのに、できないのです。 反対に、したくないこと、憎んでいることをしてしまいます。 16自分の行ないが誤りであること、破っているおきてそのものは良いものであること、それは、よくわかっています。 17しかし、どうにもできません。 それをしているのは、もはや私ではないからです。 悪を行なわせるのは、私のうちに住みついている、私より強力な罪なのです。

18古い罪の性質に関する限り、私は自分が全く腐敗しきっていることを知っています。 どんなにもがいても、自分で自分に、正しいことを行なわせることができません。 そうしたいのですが、できないのです。 19良いことをしたいと思ってもできず、悪いことをしないようにと努めても、どうしてもやめられません。 20自分ではしたくないことをしているとすれば、問題点は明らかです。 すなわち、罪がなお私をしっかり捕らえているのです。

21正しいことをしたいと思っているのに、どうしても悪いことをしてしまう、これが人生の現実であるように思えます。 22新しい性質をいただいた私としては、神様の意志どおり行ないたいのです。 23 - 25ところが、心の奥深くに潜む低劣な性質には、何か別のものがあって、それが私の心に戦いをいどみます。 そして、ついに私を打ち負かし、いまだに私のうちに住みついている罪の奴隷にしてしまうのです。 私は、心では、喜んで神様に従う召使でありたいと願いながら、実際には、相変わらず罪の奴隷となっている自分に気づくのです。

これで、私の実情がおわかりいただけたでしょう。 すなわち、新しいいのちは、「正しいことをせよ」と命じているのに、いまだに住みついている古い性質が、罪を犯したがるのです。 ああ、私はなんとみじめで哀れな人間でしょう。 いったいだれが、このひどい低劣な性質の奴隷状態から解放してくれるのでしょうか。 ただ神様に感謝します！ 主イエス・キリストによって、私は解放されました。 この方が自由の身にしてくださったのです。

八

1 こういうわけで、今やキリスト・イエスに属する人は、有罪の宣告を受けることはありません。 2 なぜなら、いのちを与える御霊の力〔この力を、キリスト・イエスは私に与えてくださいました〕が、罪と死の悪循環から解放してくれたからです。 3 神様のおき

てを知っているだけでは、罪の支配から救い出されません。 私たちはそれを守ることもできないし、実際守ってもいないからです。 ところが、神様は私たちを救うために、別の計画を実行に移されました。 すなわち、神様のひとり息子を、私たちと同じ体を持つ者として〔ただ私たちのような罪の性質を持たない点では異なりますが〕この世にお遣わしになったのです。 そして、彼を私たちの罪のためのいけにえとして、私たちをがんじがらめにする罪の支配を、打ち破られたのです。 4 ですから、今や私たちは、聖霊様に従って歩むなら、神様のおきてに従えるのです。 そしてもはや、古い邪悪な性質の言いなりになることもありません。

5 低劣な性質の言いなりになっている人は、自分を喜ばせるためにだけ生きています。 しかし、聖霊様に従って歩む人は、神様をお喜ばせしようとしている自分に気づくのです。

6 聖霊様に従って歩むなら、いのちと平安が待っています。 しかし、古い性質に従って歩めば、死に行き着くのです。 7 古い罪の性質は、神様に敵対するからです。 古い性質が神様のおきてに従ったことは一度もなかったし、これからも決してありません。 8 ですから、なおも古い罪深い自我に支配されて、欲望に従い続ける者は、決して神様をお喜ばせできないわけです。

9 しかし、あなたがたはそうではありません。 もし神の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、新しい性質に支配されているのです。 〔もしその人のうちにキリストの御霊が住んでおられないなら、その人はクリスチャンではありません。〕 10 ところで、キリスト様がうちに住んでおられるとしても、あなたがたの体は、やはり罪のために死にます。 しかし、あなたがたの霊は生きるのです。 キリスト様があなたがたの霊を赦してくださったからです。 11 そして、もしイエス様を復活させた神の御霊が、あなたがたのうちに住んでおられるなら、神様は、この同じ聖霊様によって、死後も、あなたがたの滅ぶべき体を復活させてくださるのです。

12 ですから、愛する皆さん。 あなたがたの古い罪深い性質がどんなことを要求しても、それに応じる必要は全くありません。 13 もし古い罪深い性質に従い続けるなら、道に迷い、やがて滅びるしかありません。 しかし、もし聖霊様の力によって、その罪深い性質と、邪悪な行ないとを打ち砕くなら、あなたがたは生きるのです。 14 神の御霊によって導かれる者はだれでも、神様の子供だからです。

15 そこで私たちは、奴隷のように、いつもびくびく恐れる必要はありません。 神様の家族の中に、子供としてあたたかく迎え入れられたのですから、実の子供らしくふるまい、神様を「お父さん」と呼ぶべきです。 16 というのは、神の聖霊が、私たちの心の奥底に、私たちはほんとうに神様の子供だと語りかけてくださるからです。 17 ところで、私たちは神様の子供なのですから、神様の財産の分け前をいただくのです。 神様がひとり息子イエスにお与えになったものは、今では私たちのものでもあるからです。 しかし、私たちが神の子の栄光を共に受けるのなら、当然、その苦難をも受けなければなりません。

18 けれども、私たちがいま味わっている苦しみなどは、後にいただく栄光に比べたら、

取るに足りないものです。 19 神様がお造りになったものはみな、やがて神の子供たちが復活させられる日を、忍耐と希望をもって待ち望んでいます。 20 21 その日には、いばらやあざみ、罪、死、腐敗など〔この世界は、神様のご命令により、不本意ながら、これらのものに支配されていますが〕は跡形もなく消え去り、私たちを取り巻く世界は、神の子供たちが喜びをもって味わう、罪からの輝かしい解放にあずかるからです。

22 動物や植物のような自然界のものでさえ、このすばらしい日を待ち望みながら、病気や死の苦しみにうめいていることを、私たちは知っています。 23 そればかりか、クリスチャンでさえ、聖霊様を自分のうちにいただいて、将来の栄光を先取りしているにもかかわらず、苦しみと悩みから解放されたいとうめいています。 また、神様の子供としての完全な権利が与えられるその日を、ひたすら待ちこがれています。 その日には、神様が約束してくださった新しい体、すなわち、もはや病気にかかることも死ぬこともない体をいただくのです。

24 私たちは、このように信じて待ち望むことで救われています。信じて待ち望むとは、今は持っていないくても、やがて与えられると確信して待つことです。すでに持っている人は、神様が与えてくださると期待したり、信じて待ち望んだりする必要はありません。

25 しかし、まだ起こっていないことを、神様を信じて待たなければならないのなら、忍耐強く、確信をもって待ち望むことです。

26 聖霊様も同じようにして——すなわち、私たちの信仰を通して——日常生活の問題や、祈りの中で、助けてくださいます。 私たちは、何を、どのように祈ったらよいかさえ、わからないのですが、聖霊様は、ことばに表わせないほどの切実な感情をこめて、祈ってくださいなのです。 27 すべての人の心を知っておられる父なる神は、御霊が私たちのために、神ご自身のお心にかなう願いをささげてくださる時、その願いの意図するところを、もちろん知っておられます。 28 そして私たちは、神様を愛し、神様のご計画どおりに歩んでいるなら、自分の身に起こることはすべて、益となることを知っているのです。

29 というのは、神様はあらかじめ、だれが自分のもとに来るかご存じで、そのような人々がご自分の息子と同じになるようにと、最初から定めておられたからです。 それは、ひとり息子を大ぜいのクリスチャンの中で長子とするためでした。 30 神様は私たちを選び、招いてくださいました。 そして、私たちがおそばに行くと、私たちに「無罪」を宣言し、キリスト様の良い性質を下さり、神様との正しい関係を結ばせ、さらに、栄光を与えると約束してくださいました。

31 こんなにすばらしい恵みに対して、いったい何と言ったらよいでしょう。 神様が味方なら、だれが私たちに敵対できるのでしょうか。 32 神様は私たちのために、たった一人の息子をさえ惜しまずに、死に渡してしまわれたほどのお方ですから、ほかのすべてのものをも下さらないわけがあるのでしょうか。

33 神様がご自分のものとして選ばれた私たちを、あえて訴えるのはだれですか。 神様ですか。 とんでもない。 神様は、私たちを赦し、ご自分と正しく関係づけてくださっ

た方ではありませんか。

34では、私たちに有罪を宣告するのはだれですか。 キリスト様ですか。 とんでもない。 キリスト様は、私たちのために死に、そして復活し、今は天で、神の右の最も名誉ある座で、私たちのために祈っていてくださるお方ではありませんか。

35では、いったいだれが、私たちをキリスト様の愛から引き離せるでしょうか。 私たちは困難や災難に会い、また迫害され、殺されるかもしれません。 しかしそれは、神様が、もう私たちを愛しておられないからでしょうか。 また、もし私たちが飢え、文なしになり、危険にさらされ、死に脅かされるなら、神様に見捨てられたことになるのでしょうか。

36違います。 旧約聖書にこう書いてあるからです。

「神様のためには、いつでも

死ねる心がまえでいなければならない。

私たちは殺されるのを待つ羊のようだ。」

37しかし、こうした中にあっても、私たちは、いのちを投げ出してまで愛して下さったキリスト様によって、圧倒的な勝利を得るのです。 38神様の愛から私たちを引き離せるものは何一つない、と確信しています。 死にもいのちにも、そんなことはできません。 御使いにもできません。 地獄の全勢力を結集しても、神様の愛から遠ざけることはできません。 今日の恐れも、明日の不安も同様です。 39あるいは、私たちがどこにしようと——空高くのぼっても、海の底深くもぐっても——私たちの主キリスト・イエスの死によってはっきり示された神様の愛から、私たちを引き離せるものは、何一つありません。

■

九

1 - 3私の同胞であるイスラエルの人々、同国人であるユダヤ人の皆さん。 あなたがたがキリスト様のおそばに来ることを、私はどんなに望んでいることでしょう。 昼も夜も、あなたがたのことで心は重く、悲しみのあまり、胸も張り裂けんばかりです。 あなたがたが救われるためなら、私は永遠にのろわれてもかまいません。 むしろ、のろわれたいくらいです。 口先だけでこう言っているのでないことは、キリスト様も聖霊様も知っておられます。

4神様は実に多くのものを与えてくださいました。 それなのにあなたがたは、いっこうに神様に聞き従おうとしません。 神様はあなたがたを、ご自分の特別な民として選び出し、栄光に輝く雲によって導き、また、どんなにあなたがたを祝福したいと思っておられるかをお示しになりました。 さらに、日常生活のさまざまな規則も与えてくださいました。 おかげであなたがたは、神様が自分たちに望んでおられることを知ることができます。 神様はまた、あなたがたに神様を礼拝することを教え、数々のすばらしい約束を与えてくださいました。 5あなたがたの先祖には、神様を信じる偉大な信仰の持ち主がい

ます。キリストご自身も、人間としての出生についてだけ言えば、ユダヤ人であり、あなたがたの同胞だったのです。このキリスト様こそ、今やすべてのものを支配しておられる方です。神様を永遠にほめたたえましょう。

6 それでは、ユダヤ人に対する神様の約束は無効になったのでしょうか。そんなことはありません。〔神様の約束は、真の意味でのユダヤ人にだけ与えられているのです。〕ユダヤ人に生まれついた者がみな、真の意味でのユダヤ人だとは限りません。7 血筋の上でアブラハムの子孫だからと言って、真の意味でのアブラハムの子孫ではありません。なぜなら、聖書に次のように書いてあるからです。アブラハムには、イサクのほかにも子供がいたが、神様の約束が適用されるのは、イサクとその子孫に対してだけであると。8 つまり、アブラハムの子供が全部神様の子なのではなく、神様がアブラハムにお与えになった救いの約束を信じる人々だけが、神様の子供なのです。

9 神様はアブラハムに、「来年、わたしはあなたとサラに男の子を授けよう」と約束しておられました。10 - 13 それから、何年か過ぎて、息子イサクは成長し、結婚しました。その妻リベカがみごもって、ふたごを産もうとしている時、神様はリベカに、「ふたごのうち、初めに生まれる兄のエサウが、弟のヤコブに仕える者となる」とお告げになりました。旧約聖書には、「わたしはエサウではなく、ヤコブを祝福する」と書いてあります。神様がこう宣言されたのは、子供たちがまだ生まれてもおらず、まだ良いことも悪いこともしていなかった時のことです。このことからはっきりわかるように、神様は最初から決めておいたことを実行されたのです。子供たちの行ないによってではなく、神様の意志と選びによって、すべてが決定されたのです。

14 では、神様は不公平なのでしょうか。絶対にそんなことはありません。15 神様はモーセにこう言われました。「わたしは、自分が親切にしたい人に親切にし、情けをかけてやりたい人に情けをかける。」

16 したがって、神様の祝福は、だれかがそれを得ようと決心したからとか、そのために努力したからとかで、与えられるようなものではありません。それは、神様が情けをかけたいと思う人に与えられるものなのです。

17 エジプトの王パロの場合は、この良い例です。神様はパロにこう言われました。「あなたにエジプトの国を与えたのは、わたしの恐るべき力をあなたに示すため、それによって、世界中の人々が、わたしの栄光ある名を耳にするためである。」18 これでわかるように、神様は、ご自分のお考えで、ある人々には親切にし、また、ある人々を不従順な者とされるのです。19 では、なぜ神様は人々の不従順をお責めになるのでしょうか。彼らは、神様のお考えどおりにしたではありませんか。

20 そんなことを言うてはなりません。神様を非難するあなたは、いったい何者なのか。造られた者が造った者に、「なぜ私をこのように造ったのですか」などと言ってよいでしょうか。21 ある人が粘土でつぼを作るとします。その場合、同じ粘土のかたまりを、一つは美しい花びんに、もう一つはごみ捨て容器に作り上げる権利を持っていな

いでしょうか。 22 そのように、どう考えても滅びるしかないような人々に対して、激しい怒りと力を示す当然の権利が、神様にはないと言うのですか。 しかし神様は、これらの人々に対して、これまでずっと忍耐してこられたのです。 23 24 同時に神様は、私たちのようにユダヤ人であっても、外国人であっても、ご自分の栄光の富を与えるためにお造りになった者たちを召し出し、いつくしむことで、神様の栄光がどんなに偉大かをすべての人に示す権利を持っておられます。

25 旧約聖書のホセア書に何と書いてあるか、思い出してください。 神様は、こう言っておられます。

「わたしは自分のために、
ほかの子ら〔ユダヤ人以外の家系の子〕を見つけ出し、
だれからも愛されたことのない、その子らを愛する。

26 そして、かつては
『わたしの民ではない』と宣告された異教徒たちが、
『生ける神の子ら』と呼ばれるようになる。」

27 またユダヤ人については、預言者イザヤがこう叫びました。

「たとい彼らの数が海辺の砂のように多くても、
ほんの一握りの者しか救われない。

28 主はおことばを完全に、
しかもすみやかに、
地上に成し遂げられるからだ。」

29 イザヤはまた、ほかの個所でこう言っています。

「神様のあわれみがなかったら、
ユダヤ人はみな、
ちょうどソドムやゴモラに住む人々が
全滅したように、
一人残らず滅ぼされたに違いない。」

30 それでは、どういうことになるのでしょうか。 実情はこうです。 外国人は、実際には神様を求めていなかったにもかかわらず、神様は、信仰によって無罪とされる機会をお与えになりました。 31 ところが、ユダヤ人は、神様のおきてを守ることによって、神様の前での正しい身分を得ようと、一生懸命努力したのに、得ることができませんでした。

32 なぜでしょう。 信仰によってではなく、おきてを守ること、善良な人間になることによって救われようとしたからです。 彼らは、大きなつまずきの石につまずいたのです。

33 このことについて、神様は旧約聖書の中で、次のように警告しておられます。

「わたしはユダヤ人の通り道に、一つの岩を置く。
多くの者が、それ〔イエス〕につまずくであろう。
しかし、この方を信じる者は、

決して失望させられることがない。」

一〇

1 愛する皆さん。 私が心から願い、祈り求めているのは、ユダヤ人が救われることです。

2 私は、彼らが神様の誉れをどんなに熱心に求めているか、よく知っています。 しかし、それは見当違いの熱心なのです。 3 というのも、彼らには、キリスト様が自分たちを神様の前に正しい者とするために死んでくださったことが、わかっていないからです。 そして、ユダヤ教のおきてや習慣を守ることによって、神様の祝福をいただける善良な人間になろうと、努力を重ねています。 しかし、神様はそんな方法でお救いになるのではありません。 4 彼らが、おきてを守ることによって手に入れようとしているものすべてを、キリスト様は、ご自分を信じる人々に与えてくださいます。 そのことを、彼らは悟っていないのです。 キリスト様は、おきてをすべて終結させたのです。

5 モーセは、「もし人が、非の打ちどころなく善良であり、一生涯、誘惑にも負けず、ただの一度も罪を犯さずにいられるなら、その時はじめて救われる」と書いています。 6 しかし、信仰を通して与えられる救いは、こう教えてくれます。 「あなたは、キリスト様を見つけようと天を捜し回る必要も、助けていただこうと引き降ろす必要もない。」 7 また、「キリスト様をもう一度復活させようと、死人の中を歩き回る必要もない。」

8 というのは、キリスト様を信じることによって与えられる救い〔私たちが宣べ伝えているのは、まさしくこの救いです〕は、すでに、私たちのすぐ手の届く所にあるからです。 実際それは、自分の心や口のように、すぐ近くにあるのです。 9 なぜなら、もし自分の口で「イエス・キリストは私の主です」と告白し、自分の心で、神様はイエス・キリストを死人の中から復活させてくださったと信じるなら、あなたは救われるからです。 10 人は、心で信じることによって、神様から正しい者とされ、その信仰を自分の口で告白することによって、救いを確実なものとするからです。 11 聖書は私たちに、「キリスト様を信じる者は、決して失望させられることがない」と教えています。 12 この点では、ユダヤ人もそれ以外の外国人も同じです。 同じ主がユダヤ人にとっても外国人にとっても主であり、求める者にはだれにでも、ご自分の宝を惜しみなく与えてくださるのです。

13 主の御名を呼び求める者は、だれでも救われるのです。

14 しかし、主を信じていなければ、どうして主に、「救ってください」と求めるのでしょうか。 また、主のことを一度も聞いたことがなければ、どうして主を信じることができるのでしょうか。 だれかが教えてくれなければ、どうして主のことを聞けるのでしょうか。 15 また、だれかが遣わさなければ、どうして人々のところへ出かけて教える人が出るのでしょうか。 旧約聖書に、「神との平和を宣べ伝え、良い知らせをもたらす人の足は、なんとうるわしいことか」とあるのは、まさにこのことです。 つまり、神様の良い知らせを伝える人は、なんと歓迎されることか、というのです。

16 しかし、この良い知らせを耳にした人がみな、喜んで受け入れたわけではありません。 預言者イザヤが、「主よ。 彼らに語った時、だれが、私のことばを信じましたか」と言っ

ているとおりです。17しかし、信仰は、このキリスト様の良い知らせに耳を傾けることから、始まるのです。

18しかし、ユダヤ人についてはどうでしょうか。彼らは神様のことばを聞いたのでしょうか。もちろんです。神様のことばは、彼らをどこまでも追いかけ、良い知らせは地の果てまでも告げ知らされたのですから。19さらに、ユダヤ人は、もし自分たちが神様の救いを拒むなら、その救いはほかの人々に与えられることを、知っていたのでしょうか。もちろん、知っていました。というのは、その昔、モーセの時代に、すでに神様はこう告げておられたからです。

「わたしは、無知な異教の諸国民に
救いを与えることで、
わたしの民にねたみを起こさせ、
その目を覚まさせよう。」

20後に、イザヤも大胆にこう言っています。

「捜し求めもしなかった人々によって
神様は見いだされる。」

21その一方、神様はユダヤ人にも、引き続き御手を差し伸べておられるのですが、彼らは何やかやと理屈をこねて、神様のもとに行こうとしないのです。

――

1では神様はご自分の民であるユダヤ人を退け、見捨ててしまわれたのでしょうか。とんでもない。決してそんなことはありません。この私もユダヤ人であり、アブラハムの子孫、ベニヤミン族の一人であることを、忘れないでください。

23もちろん神様は、最初から選んだ自分の民を見捨てるようなことはなさいませんでした。旧約聖書には何と書いてあるのでしょうか。預言者エリヤは、ユダヤ人を告発し、彼らが預言者を殺し、神様の祭壇をこわしたことを神様に申し上げます。そして、「今なおあなた様を愛する者は、この国中で私一人です。その私も、殺されそうなのです」と訴えました。

4それに対して神様が何とお答えになったか、覚えていますか。「いや、あなただけではない。わたしには、なおもわたしを愛し、偶像を拝んだことのない人が、ほかに七千人いる。」

5今でも同じことが言えます。ユダヤ人の全部が神様から離れ去ったわけではありません。神様の恵みによって選ばれ、救われている人々が、少数ながらいるのです。6しかし、それは神様の恵みのおかげであり、彼らが善良だからではありません。そうでなければ、ただであるはずの贈り物が、もはやただでなくなってしまう。かせいで手に入れるのであれば、ただとは言えません。

7さて、実情はこうです。大部分のユダヤ人は、追い求めていた神様の恵みを、得ることができませんでした。恵みを得たのは、神様に選ばれた少数の者だけでした。ほか

の人々は盲目にされてしまったのです。 8 旧約聖書に次のように記されているのは、このことなのです。

「神様は彼らを眠らせ、目と耳とをふさがれた。

それゆえ、キリスト様のことを語りかけても、

彼らにはわからない。

今日までその状態は続いている。」

9 ダビデ王も同じことを言っています。

「食卓のごちそうや、さまさまの祝福は

彼らのわなとなれ。 彼らを、

『神様とは万事うまくいっている』

という思いにさせよ。

これらの良いものがはね返って来て、

彼らの頭上に落ち、

当然の報いとして彼らを押しつぶすがいい。

10 彼らの目は見えなくなれ。

重荷を負わされて、

いつまでも背中を曲げたまま歩くがいい。」

11 これは、神様がご自分の民であるユダヤ人を退けてしまわれたことを意味するのでしょうか。 絶対にそんなことはありません。 神様の目的は、このことによって神様の救いが外国人にも及び、その結果、ユダヤ人がねたんで、自分でも救いを求めるようになることにあったのです。 12 ところで、考えてもごらん下さい。 ユダヤ人が神様の救いにつまずき、それを拒んだ時、全世界が豊かに恵まれたのです。 とすれば、後にユダヤ人もキリスト様に立ち返る時には、どんなに大きく、すばらしい祝福が、この世に与えられることでしょう。

13 ご存じのように、神様は私を、あなたがた外国人への特使に任命してくださいました。私はこのことを非常に重んじており、できるだけ多くの機会をとらえては、そのことをユダヤ人に思い出させるようにしています。 14 何とかして、ユダヤ人にも、あなたがた外国人が持っているものを求めさせ、幾人かでも救いたいのです。 15 ユダヤ人がクリスチャンになったら、どんなにすばらしいでしょう。 神様がユダヤ人から御顔をそむけたために、神様の救いが、世界のユダヤ人以外の人々に差し出されたのです。 とすれば、ユダヤ人がキリスト様に立ち返るなら、もっとすばらしいことが起こります。 それはちょうど、死人が生き返るようなものです。 16 アブラハムや預言者は神様の民なので、その子孫もまた、神様の民となるはずで、木の根がきよければ、その枝もきよくなるはずだからです。

17 ところが、アブラハムという木の幾枝か——すなわちユダヤ人のある者——は折り取られてしまいました。 そして、いわば野生のオリーブの木の枝であった外国人のあなた

が、それにつぎ木されました。それで今、あなたも、神がオリーブの木に注がれる、特別豊かな滋養分にあずかって、アブラハムとその子孫とに約束された祝福をいただいているのです。

18 しかし、折り取られた枝の代わりにつぎ木されたことを自慢しないように、注意なさい。あなたが重要なのは、ただ神様の木の一部になっているからです。このことを忘れてはなりません。あなたは、ただの枝であって根ではないのです。

19 あなたは「前の枝が折り取られたのは、私に場所を譲るためだった。とすれば、私はかなりいい人間に違いない」と考えるかもしれません。

20 気をつけなさい。ユダヤ人のその枝が折り取られたのは、神様を信じなかったからであり、あなたがつぎ木されたのは、ただ神様を信じたからにほかなりません。このことを忘れないようにしなさい。高慢になってはいけません。むしろ、謙虚になり、感謝する人になりなさい。また、注意深くなければなりません。21 もし神様がもとの木の枝を惜しまれなかったとすれば、あなたをも惜しまれないでしょう。

22 神様がどんなに恵み深く、また、どんなにきびしい方かを考えなさい。不従順な者には、非常にきびしい方ですが、神様を愛し、信じ続ける者には、とても恵み深いお方です。しかし、もしそうしないなら、あなたもまた、折り取られてしまうのです。23 一方、ユダヤ人が不信仰な生き方をやめて神様に立ち返るなら、神様はまた、もとの木についてくださいます。神様には、そうする力があるのです。

24 あなたは、野生のオリーブの木の一部として、神様から遠く離れた存在でしたが、神様は喜んで受け入れ、ご自分の良い木についてくださったのです。これは異例のことです。とすれば、もともとその木の枝であったユダヤ人にはどうでしょう。もっとたやすく、もとの木につぎ木しようと、構えておられるのではないのでしょうか。

25 愛する皆さん。この神様の真理を知っていただきたいのです。そうすれば、高ぶったり、自慢したりすることもないでしょう。確かに、今のところ、ユダヤ人のある者は、神様の良い知らせに反対しています。しかし、そのような状態が続くのは、あなたがた外国人のうち、そう願う者がすべて、キリスト様のもとに来る時までにはすぎません。

26 その時が来れば、イスラエル人はみな救われます。

このことについて、預言者は何と言っているでしょう。

「一人の救い手がシオンから出て、
ユダヤ人をあらゆる不敬虔から立ち返らせる。

27 その時わたしは、
約束どおり、彼らの罪を取り除く。」

28 今のところ、ユダヤ人の多くは、神様の良い知らせに敵対し、それを憎んでいます。しかし、そのことはかえって、あなたがたには益となりました。というのは、神様がその贈り物を、あなたがた外国人に与えてくださることになったからです。しかし、ユダヤ人は、神様がアブラハム、イサク、ヤコブにお与えになった約束のゆえに、今でも愛さ

れているのです。 29 神様の贈り物と招きは決して取り消されないからです。 神様は決して、約束を破ったりはなさいません。 30 あなたがたは、以前は神様に逆らっていましたが、ユダヤ人が神様の贈り物を拒んだので、代わりに、神様のあわれみを受けることになりました。 31 そして今、ユダヤ人は神様に逆らっていますが、いつの日か彼らもまた、あなたがたの受けている神様のあわれみを共に受けるようになるのです。 32 なぜなら、神様はすべての人を同じようにあわれもうとして、すべての人が不従順の罪に落ちるままにされたからです。

33 ああ、なんとすばらしい神様を、私たちは信じていることでしょう。 神様の知恵と知識と富は、なんと偉大なことでしょう。 神様の取り決めと方法とを理解することなど、とうていできません。 34 いったいだれが、主のお心を知ることができますか。 だれが、主の相談相手、案内役となるほどの知識を持っていますか。 35 また、いったいだれが、主から報いがいただけるほど十分に、主にささげましたか。 36 というのも、すべてのものは、ただ神様から出ているからです。 すべてのものは、神様に生かされており、神様の栄光のために存在しているのです。 どうか、この神様に栄光がとこしえにありますように。

一二

1 愛する皆さん。 そういうわけですから、あなたがたにお願いします。 自分の体を神様にささげてください。 それを、神様に喜んでいただける、生きた、きよい供え物としてください。 神様がしてくださったことを思えば、これは、決してむりな注文ではないはずです。 2 世間の人々の生活態度や習慣をまねてはいけません。 むしろ、すること考えることすべての面で、生き生きとした、全く新しい別人となりなさい。 そうすれば、神の道がどんなに自分を満足させてくれるか、わかるようになります。

3 私は、神様の使者として、あなたがた一人一人に神様の警告を伝えます。 自分を正直に評価しなさい。 神様からどれだけの信仰を与えられているかを尺度にして、自分の値打をはかりなさい。 4 5 私たちの体に多くの器官があるのと同様、キリスト様の体にも、多くの器官があります。 私たちはみな、キリスト様の体の各器官です。キリスト様の体が完全になるには、私たちが必要です。 というのは、それぞれが異なった役目を果たすからです。 ですから、私たちは互いに依存し合っており、だれもが、ほかのすべての人を必要としているのです。

6 神様は一人一人に、何かすぐれた能力を授けてくださっています。 ですから、預言する能力を授かっているなら、できる時にはいつも——神様からのことばを受け取る信仰の力に応じて、できるだけ多くの機会に——預言しなさい。 7 ほかに人々に仕える能力を授かっているなら、快く仕えなさい。 教える立場にあるなら、りっぱに教えなさい。 8 説教をする人であれば、力強く、また、人の助けとなるように説教しなさい。 お金をたくさんいただいているなら、人助けのために、惜しみなく使いなさい。 管理者としての能力を与えられ、人々の仕事を監督する立場にあるなら、その責任を誠実に果たしなさい。

悲しんでいる者を慰める人は、クリスチャンとして、喜んでそうしなさい。

9 ただ見せかけだけで人を愛してはいけません。 真心から愛しなさい。 悪いことを憎み、良いことには味方しなさい。 10 兄弟のような愛情で互いに愛し合い、また、心から尊敬し合いなさい。 11 決して仕事を怠けず、熱心に主に仕えなさい。

12 あなたがたのために神様が計画しておられることすべてを喜びなさい。 困難の中でじっと耐え、常に祈りなさい。 13 クリスチャンが困っている時には、助けてあげなさい。 客を家に招いてもてなし、宿が必要なら泊めてあげるようにしなさい。

14 クリスチャンだからというので、だれかに危害を加えられても、のろってはいけません。 むしろ、神様がその人を祝福してくださるように祈ってあげなさい。 15 だれかがしあわせな思いで喜んでいる時には、いっしょに喜んであげなさい。 悲しんでいる人がいたら、いっしょに悲しんであげなさい。 16 互いに心をつにし、楽しく働きなさい。 お高くとまってははいけません。 偉い人に取り入ろうとせず、かえって、平凡な普通の人々と喜んで交際しなさい。 何でも知っているなどと、思い上がってははいけません。

17 悪いことをされても、決して仕返しをしてはいけません。 だれが見ても、あなたがたの正直さを認めるように行動しなさい。 18 だれとも争ってははいけません。 できる限りあらゆる人と仲よくしなさい。

19 愛する皆さん。 決して自分で復讐してはいけません。 復讐は神様に任せなさい。 なぜなら、神様が、「当然報復を受けなければならない人には、わたしが報復する」と言っておられるからです。 20 むしろ、あなたの敵が飢えていたら、食べさせてやりなさい。 のどが渇いていたら、飲ませてやりなさい。 そうすることによって、あなたは、「敵の頭上に燃えさかる炭火を積む」ことになります。つまり、彼は、あなたにしてくれたことを思って、恥じ入るようになるのです。 21 悪に負けてはいけません。 かえって、善を行なうことによって悪に打ち勝ちなさい。

一三

1 上に立つ権威に従いなさい。 神様がお立てになった権威だからです。 神様によらない権威はどこにもありません。 2 ですから、国の法律に従わない者は、神様に従うことを拒んでいるのです。 その人は必ず罰せられます。 3 正しいことをしている人は、支配者を恐れませんが、しかし、悪いことをしている人は、いつも支配者を恐れるのです。 ですから、びくびくしたくなければ、法律を守りなさい。 そうすれば、安心して過ごせます。 4 支配者は、あなたを助けるために、神様から遣わされているのです。 しかし、何か悪いことをしていれば、支配者はあなたを罰するでしょうから、当然、恐れなければなりません。 そのためにこそ、彼は神様から遣わされているのです。 5 法律に従うには、二つの理由があります。 第一に、罰を受けないためであり、第二に、それを守るべきだとわかっているからです。

6 同じ理由で、税金も納めなさい。 政府の役人が国民のために、神様から与えられた仕事を続けるには、給料が必要だからです。 7 支払うべきものは、だれにでも支払いなさい。

い。税金や輸入税をすすんで納め、上に立つ人々に従い、敬うべき人を敬い、重んずべき人を重んじなさい。 8 借りがあれば、全部返しなさい。ただし、他の人を愛するという「借り」だけは別です。その「借り」だけは、いつまでも返し続けなさい。というのは、人を愛することは、神様のすべてのおきて、すべての要求にかなうことだからです。 9 自分を愛するように隣人を愛していれば、その人を傷つけたり、だましたり、殺したり、その人のものを盗んだりしたいとは思わないでしょう。またその人の妻と罪を犯すとか、その人のものを欲しがるとかいった、「十戒」で禁じられていることは、何一つしないでしょう。このように、十戒はすべて、「自分を愛するように、あなたの隣人を愛しなさい」という一つの戒めに含まれるのです。 10 愛はだれにも悪を行ないません。だからこそ、愛は神様の要求をすべて完全に満たすのです。愛こそ、あなたがたに必要なただ一つのおきてです。

11 正しい生活をしなければならない、もう一つの理由があります。すなわち、今や終末に近づいており、時はどんどん過ぎていることに、あなたがたが気づいているからです。目を覚ましなさい。初め信じた時より、今はいっそう、主の来られる時が近いからです。

12 13 夜はふけ、昼がすぐそこまで近づいています。ですから、暗やみに属する悪い行ないを捨てて、昼間生きるため、正しい生活という武具で身をかためなさい。あなたがたの行為は正しいと、だれからも認められるよう、何をするにも、りっぱに、誠実にふるまいなさい。どんちゃん騒ぎをしたり、酔っぱらったり、姦淫したり、肉欲にふけったり、争ったり、ねたんだりして時間を浪費してはなりません。 14 当然なすべき正しい生活ができるように、主イエス・キリストに助けを求めなさい。悪を楽しむような計画を立ててはいけません。

一四

1 仲間に加わりたいという人がいたら、たとえ信仰の弱い人であっても、あたたかく迎え入れなさい。事の良し悪しについて考えが違うからといって、批判してはいけません。 2 たとえば、偶像に供えられた肉を食べてもよいかどうかなどと、議論してはいけません。あなたがたは、偶像に供えられた肉を食べても別に悪くはない、と信じているかもしれませんが、しかし、ほかの人たちの信仰は、もっと弱いのです。彼らは、偶像に供えられた肉を食べるのは悪いとして、全く肉なしですませ、肉類よりむしろ野菜を食べるほうがよいと思っています。 3 肉を食べてもよいと思っている人は、食べようとしない人を見下してはいけません。また、食べようとしない人は、食べる人を非難してはいけません。神様はそのどちらをも受け入れて、自分の子供としてくださったからです。 4 どちらも神様に仕えているのであって、あなたに仕えているわけではありません。神様に対して責任を負うのであって、あなたに責任を負うではありません。正しいか、まちがっているかは、神様がその人に教えてくださるはずです。しかも神様は、その人が正しく行動できるように助けることがおできになります。

5 ある人は、クリスチャンも、神様を礼拝する特別な日として、ユダヤ教の祝祭日を守る

べきだ、と考えています。しかし、他の人は、どの日もみな同様に神様のものだから、いちいちそんな面倒なことをするのは、まちがっているし、ばからしい、と言います。こうした問題については、一人一人が自分で判断しなければなりません。6 もし主を礼拝するために特別な日を守っているなら、主をあがめようとしてすることなのですから、良いことなのです。偶像に供えた肉を食べる人についても、同じことが言えます。彼はその肉のことで主に感謝しているのですから、正しいのです。そんな肉には触れようともしない人もまた、主に喜んでいただこうと切に願うからそうするのであって、彼も感謝しているのです。

7 私たちには、自分の生死をかけて決める権利がありません。8 生きるにしても死ぬにしても、主に従うのです。いずれにせよ、私たちは主のものです。9 キリスト様の死と復活の目的は、私たちが生きている時も死んでいる時も、キリスト様がいつも私たちの主となられることだったのです。

10 あなたがたには、自分の兄弟（信仰を同じくする人）を批判したり、見下したりする資格はありません。だれもが、神様のさばきの座の前に立つことを、忘れてはなりません。11 次のように書いてあるとおりです。

「主は言われる。わたしは生きている。
すべてのひざは、わたしの前にかがめられ、
すべての舌は、神に告白する。」

12 そうです。一人一人が、神様に申し開きをすることになるのです。13 ですから、これからはもう、批判し合ってははいけません。むしろ、人をつまずかせないように生活しようと心がけなさい。兄弟が「悪いことだ」と信じていることを目の前でしてみせて、彼をつまずかせるようなことは、絶対にいけません。

14 私個人は、主イエスの權威に基づいて、はっきり確信しています。偶像に供えた肉を食べることは悪くありません。しかし、それを悪いと信じている人がいるなら、悪いことは避けるべきですから、その人は食べてはいけません。15 兄弟が、あなたの食べる物のことで心を痛めているのに、そのまま平気でいるとしたら、愛によって行動しているとは言えません。あなたの食べる物のことで人を滅ぼしてはなりません。その人のためにも、キリスト様は死なれたのです。16 たとい自分の行為は正しいとわかっている、人の批判的になるようなことをしてはなりません。17 なぜなら、私たちクリスチャンにとって大切なのは、何を食べるか何を飲むかではなく、正しさと、平安と、聖霊様から来る喜びとに、満ちあふれているかどうかだからです。18 このようにキリスト様に仕えてこそ、神様に喜ばれ、また、人々にも喜ばれるのです。19 こうして、教会内の調和を目指し、互いに助け合って成長するように努めなさい。

20 ささいな肉の問題で、神様の働きを台なしにしてはなりません。肉そのものは別に悪くなくても、それが他人のつまずきとなるなら、肉を食べるのはよくないということを、忘れないでください。21 肉だけに限りません。酒の問題でも、そのほか何でも、兄

弟をつまづかせたり、罪を犯させるようなことは一切やめなさい。それこそ正しい行ないです。 2 2 あなたには、自分のしていることは、たとえ神様の目から見ても潔白だ、とわかっているかもしれませんが。しかし、その確信は、心にしまっておきなさい。自分の信仰を人前で見せびらかしてはいけません。もしかしたら、人々がそのために傷つくかもしれないのです。このような場合、正しいと思うことをして、しかも、それが罪を犯すことにならない人こそ、しあわせだと言うべきです。 2 3 しかし、「自分がしようとしていることは悪いことだ」と信じている人は、してはなりません。悪いと思っ

一五

1 2 何かをする場合、別に主に対して何の支障もないとわかっていても、ただ自分の喜びのためにするのはいけません。それは悪いことではないかと、疑問や不安をいだく人のことを思いやり、そういう弱い人々の「重荷」を軽くしてやりなさい。自分ではなく、人を喜ばせましょう。そして、人の益になることをし、その人が主にあって成長できるよう助けましょう。 3 キリスト様も、自分を喜ばせようとはなさいませんでした。「彼が来られたのは、実に、敵対する者たちの侮辱を受けて苦しむためであった」と、詩篇の作者が言っているとおりです。 4 ずっと昔に旧約聖書に書かれたこのことばは、私たちに忍耐を教え、励ますためのものです。また、神様が死と罪の力とを打ち破ってくださる時を、私たちが期待にあふれて待ち望むためのものです。

5 どうか、不動の忍耐力と励ましを与える神様が、あなたがたが一つ思いとなって仲よく暮らしてゆけるよう、助けてくださいますように。一人一人が互いに、キリスト様の、他の人に対する態度を見なうことができますように。 6 そうしてはじめて、私たちはみな、主イエス・キリストの父なる神をほめたたえ、声を合わせて賛美できるのです。

7 そういうわけですから、キリスト様があなたがたをあたたかく受け入れてくださったように、あなたがたもお互い同士、あたたかく教会に受け入れ合いなさい。そうすれば、神様があがめられるのです。 8 イエス・キリストが来られたのは、神様がご自分の約束に対して誠実な方であることを示すため、またユダヤ人を助けるためであったことを、思い出してください。 9 それはまた、外国人も救われて、自分たちに対する神様のあわれみのゆえに神様をほめたたえるためでもあったことを、思い出してください。このことを、詩篇の作者は次のように書いています。

「私は外国人の中で、あなたを賛美し、
あなたの御名をほめ歌おう。」

1 0 また、ほかの個所にはこうあります。

「外国人よ。主の民であるユダヤ人と共に喜べ。」

1 1 さらにまた、

「外国人よ。主をほめたたえよ。」

すべての人よ。主をほめたたえよ。」

12 また、預言者イザヤはこう言っています。

「エッサイの家系に一人の世継ぎが生まれる。

その方は外国人を治める王となる。

彼らは、ただこの方だけに望みをかける。」

13 そこで、私はあなたがた外国人のために祈ります。どうか、希望を与えてくださる神様が、神様を信じているあなたがたを幸せにし、平安で満たしてくださいますように。またどうか、あなたがたに働きかける聖霊様の力によって、神様にある希望にあふれさせてくださいますように。

14 私の兄弟たちよ。あなたがたが知恵に満ち、善意にあふれていること、そして、これらを余すところなく他の人々に教えることができるほど、よくわきまえていることを、私は知っているのです。15 16 しかし、それにもかかわらず、かなり大胆に、そのことを強調してきました。あなたがたに、そのことを思い起こしてもらいたかったからです。私は、神様の恵みにより、キリスト・イエスから、あなたがた外国人のもとに遣わされた特使であって、良い知らせを伝え、かおり高い供え物として、あなたがたを神様にささげる務めを果たしているのです。あなたがたは聖霊様によって、きよい者、神様に喜ばれる者とされています。17 それで、キリスト・イエスが私を用いてなして下さったすべてのことについて、少しは誇ってもよいと思います。18 私は、キリスト様がほかの人たちをどのように有効にお用いになったかについて、どうこう言うつもりはありません。ただこのことだけは知っています。外国人を神様に導くために、キリスト様が私を役立てて下さったということです。私は、ことごと、生活態度、19 および、神からのしるしとして私を通してなされた奇蹟によって、外国人を神様に導いてきました。すべては聖霊様の力によってなされたのです。このようにして、私は、エルサレムからイルリコに至るまで、キリスト様の良い知らせを、くまなく伝えてきました。

20 しかし、そのあいだ中、私が切に願っていたことは、もっと遠くまで出かけることでした。すでに、だれかほかの人によって教会がスタートしている所ではなく、むしろ、キリスト様という尊い名を、まだ一度も聞いたことがない人々のところで、良い知らせを宣べ伝えたいと、切に望んだのです。21 私は、旧約聖書に述べられている計画に従ってきました。すなわち、イザヤが、キリスト様という名を一度も聞いたことのない人々が、見て理解するようになる、と言っているとおりに。22 このような事情のもとで、私は長いこと、あなたがたのところに行けませんでした。

23 しかし、ついに、こちらでの働きも終わり、長いあいだ待ったかいがあって、とうとう、そちらに行けそうです。24 実は今、スペイン旅行を計画しているのです。その途中、ローマに立ち寄るつもりです。そして、わずかな間でも、共に楽しい時を過ごしてから、あなたがたに送られて、旅を続けたいと願っています。

25 しかし、その前に、エルサレムに行かなければなりません。そこにいるユダヤ人の

クリスチャンに贈り物を届けるためです。 26 ご存じのように、マケドニヤとアカヤのクリスチャンが、いま困難な目に会っているエルサレムのクリスチャンのために、募金することにしたからです。 27 彼らは喜んでしてくれました。 エルサレムのクリスチャンには大きな借りがあると思っているのです。 なぜでしょうか。 キリスト様の良い知らせは、エルサレムの教会から伝えられたからです。 彼らは、エルサレム教会から、良い知らせという、すばらしい霊の贈り物を受けました。 そこで、いくらかでも物質的な援助をして、せめてもの恩返しができればと願っているのです。 28 それで私は、このお金を渡して、彼らの善行を完了させしだい、スペイン旅行の途中で、あなたがたを訪ねたいと思っています。 29 その時には、きっと、主からの大きな祝福をお分かちできるでしょう。

30 どうか、私の祈りの友になってください。 主イエス・キリストのゆえに、また、聖霊様によってあなたがたが私を愛する愛のゆえに、私の働きのために、共に精一杯祈ってください。 31 エルサレムにいる、クリスチャン以外の人々から、私が無事に守られるよう祈ってください。 また、私の持つて行くお金を、エルサレムのクリスチャンが喜んで受け取ってくれるようにも、祈ってください。 32 そうすれば、私は、神の御心により、喜びにあふれて、あなたがたのところに行き、互いに励まし合うことができます。

33 どうか、平安を与えてくださる神様が、今あなたがた一同と共にいてくださいますように。 アーメン。

一六

1 ケンクレヤ町出身の、愛するクリスチャン婦人フィベが、そのうちあなたがたを訪れるでしょう。 彼女は教会で熱心に働いてきた人です。 2 どうか、主にある姉妹として、あたたかいクリスチャンの愛で歓迎してあげてください。 できることは何でもして、助けてあげてください。 この人はこれまで、私も含めて、多くの困っている人を助けてくれたのです。 3 プリスカとアクラによろしく。 この夫婦は、私の同労者として、キリスト・イエスのために働いてきました。 4 事実、二人は、いのちをかけて私を守ってくれたのです。感謝しているのは、私だけではありません。 どの外国人教会でも、この二人には感謝しています。

5 また、礼拝のために二人の家に集まっている人々にも、よろしく伝えてください。 私の親しい友であるエパネットによろしく。 アジヤで真っ先にクリスチャンになった人です。

6 骨身を惜しまず働き、助けてくれたマリヤにもよろしく。 7 それから、私の親類で、私と共に投獄されたこともあるアンドロニコとユニアスがそちらにいます。 彼らは使徒たちにも尊敬されており、私よりも先にクリスチャンになった人たちです。 どうぞ、この二人にもよろしく伝えてください。 8 神様の子供の一人として私が愛しているアムブリアトによろしく。 9 また、私の同労者ウルバノと、愛するスタキスとによろしく。

10 それに、アペレがいます。 主によって認められているりっぱな人です。 よろしく伝えてください。 またアリストブロの家で働いている人たちによろしく。 11 私の親

類ヘロデオンによろしく。 ナルキソの家で働いているクリスチャン奴隷の人たちによろしく。 12 主のために働いているツルパナとツルポサによろしく。 また、主のために大変な苦勞をした愛するペルシスによろしく。 13 主がご自分のものとしてお選びになったルポスによろしく。 また愛する彼の母上にもよろしく。 彼女は、私にとっても母でした。 14 どうか、アスンクリト、フレゴン、ヘルメス、パトロバ、ヘルマス、いっしょにいる他の兄弟たちによろしく伝えてください。 15 フィロロゴ、ユリヤ、ネレオとその姉妹、オルンパ、および、いっしょにいるすべてのクリスチャンに、私の愛をお伝えください。 16 互いに親しみをこめてあいさつを交わしなさい。 こちらのすべての教会が、皆さんによろしくと言っています。

17 この手紙を終える前に、もう一つ言っておきたいことがあります。 キリスト様について今まで学んできたことと反することを教えて、分裂を引き起こし、人々の信仰をくつがえすような人たちから離れていなさい。 18 そのような教師たちは、主イエスのために働いているのではなく、自分の利益を求めているだけです。 彼らは口が達者なので、純朴な人たちは、しばしばだまされるのです。 19 しかし、あなたがたが忠実であり、また真実であることは、だれもが知っています。 ほんとうにうれしいことです。 私は、あなたがたがいつも、何が正しいかについては鋭敏であり、一方、いかなる悪にもうとい者であってほしいと願っています。 20 平和の神様はすぐにも、サタンをあなたがたの足の下に踏み砕いてくださいます。 どうか、私たちの主イエス・キリストからの祝福が、あなたがたと共にありますように。

21 私の同労者テモテと、私の親類のルキオ、ヤソン、ソシパテロが、皆さんによろしくと言っています。 22 ここで、この手紙の代筆を務めた私テルテオも、クリスチャンとして皆さんにごあいさつ申し上げます。 23 ガイオも皆さんによろしくと言っています。 いま私は彼の家で世話になっています。 教会はそこで集会を開いているのです。 市の収入役であるエラストと、クリスチャンの兄弟クワルトも、皆さんによろしくと言っています。 24 では、さようなら。 私たちの主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にありますように。

25 - 27 私は皆さんを神様におゆだねします。 私が語った良い知らせにあるとおり、この神様はあなたがたを、主にあって強くし、不動のものとなしうる方です。 この良い知らせは、あなたがた外国人を救う、神様の特別の計画であり、世の初めから秘密にされてきたものです。 しかし今や、預言者たちの予告どおり、また神様の命令どおりに、この知らせは至る所に伝えられています。 世界中の人がキリスト様を信じ、従うようになるためです。 ただ一人の知恵に満ちた神様に、私たちの主イエス・キリストによって、栄光がとこしえまでありますように。 アーメン。

パウロ

■

コリント人への手紙 I（コリント教会の皆さんへ I）

ほんとうの愛！ その愛について、著者パウロはことばを尽くして語ります。 当時、コリントの教会には、いろいろな問題が持ち上がっていました。 その原因は、「自分さえよければ、人はどうでもいい。自分のしたいことをして何が悪い。それが自由というものだ」といった態度にあることを、パウロは鋭い目で見抜いていました。 そして、時には厳しいとも思える口調で忠告し、お互いに心から愛し合い、欠点を補い合い、問題を解決するよう勧めています。

—

1 神様に選ばれて、キリスト・イエスを宣べ伝える伝道者となったパウロと、信仰の友ソステネから、 2 神の民として招かれ、キリスト・イエスによって神様に受け入れられる者とされた、コリント教会の皆さん、および主イエス・キリストの御名を至る所で呼び求めているクリスチャンの方々へ。

この主は、私たちの主であると共に、すべての人の主です。

3 どうか、父なる神と主イエス・キリストが、あなたがたをあふれるほど祝福し、すばらしい平安を与えてくださいますように。

4 神様があなたがたにお与えになったすばらしい贈り物を思う時、感謝せずにはいられません。 今やあなたがたは、キリスト様のものとなったのです。 5 キリスト様は、あなたがたの全生活を充実させてくださり、キリスト様について大胆に語る力や、真理を十分に理解する力を与えてくださいました。 6 以前、私が、キリスト様はきっとそうしてくださる、と話しておいたとおりでしょう。 7 今やあなたがたは、あらゆる恵みと祝福とを手にしたのです。 主イエス・キリストのおいでを待ち望んでいるこの時、主のお心になかったことをするのに必要な、あらゆる霊の賜物と力とが、あなたがたには備わっています。 8 そして、主が再び来られるその日に、あなたがたが罪も欠点もない者と認められるように、主は最後まで責任をもって守ってくださいます。 9 この神様の約束は確かです。 神様はいつでも、口にしたことばをそのとおり実行なさるからです。 この神様があなたがたを、神の子、すなわち主イエス・キリストとのすばらしい交わりに、招き入れてくださったのです。

10 しかし、愛する皆さん、私は主イエス・キリストの御名によってお願いします。 仲間同士の言い争いはやめなさい。 教会の中で仲間割れなどしないよう、真の一致を保ってください。 同じ考え、同じ目的で結ばれて、一つ心になってほしいのです。 11 実は、クロエの家の者が知らせてくれたのですが、愛する皆さん、あなたがたの間には、口論や反目があるそうではありませんか。 12 ある人は「私はパウロの弟子だ」と言い、また、ある人は「私はアポロの弟子だ」とか「私はペテロの弟子だ」と言い、また、ある人は「自分たちだけがキリスト様の真の弟子だ」と言っているそうですね。 13 そのように言い争って、キリスト様を小間切れにするつもりですか。

しかし、このパウロが、あなたがたの罪のために死にましたか。あなたがたのだけれが、私の名によってバプテスマ（洗礼）を受けたでしょうか。 14 いま私は、あなたがたのところで、クリスポとガイオのほかには、だれにもバプテスマを授けなかったことを、心から感謝しています。 15 私が新しく、「パウロの教会」とやらを起こそうとしていたなどと考えられては、たまらないからです。 16 そうそう、ステパナの家族にもバプテスマを授けましたね。しかし、そのほかは、だれにも授けた覚えはありません。 17 キリスト様が私をお遣わしになった目的は、バプテスマを授けさせることではなく、良い知らせを宣べ伝えさせるためです。私の説教も、貧弱に聞こえるかもしれません。難しいことばを使ったり、高尚な考えを述べたりはしないからです。それというのも、キリスト様の十字架の教えの単純さに込められているすばらしい力を、そんなもので薄めてはならない、と考えているからです。

18 「イエス様は私たちを救うために死んでくださった」ということばが、滅んでゆく人々にはどんなにばからしく響くか、私にはよくわかっています。しかし、救われた私たちは、これが神の力そのものであると認めるのです。 19 なぜなら、神様がこう言われるからです。

「わたしは、たとえ人の目には
どんなにりっぱに見える計画でも、
人間の側の救いの計画をことごとく打ちこわし、
最も才気あふれる人の、最もすぐれた考えをも無視する。」

20 こうした知識人、学者、この世の重大問題にかかわる議論家たちについては、何と云われているでしょう。神様は、彼らをみな愚か者とし、そんな知恵など無用の長物だときめつけました。 21 この世がいかにも人間のすぐれた知恵を結集しても神様を見いだせないのは、神様のお考えによることです。そして神様は、一般の人には、ばかばかしくて話にならないような神のことばを信じる人を、救うことにされたのです。 22 これは、ユダヤ人には、ばかしく思われるでしょう。彼らは、説かれていることの真実さを証拠立てるような、天からのしるしを求めているからです。また、それ以外の外国人にも、ばからしいと思われるでしょう。彼らは、理性で納得できることとか、賢明と思われることしか信じないからです。 23 それで、人々を救うために死なれたキリスト様について話すと、ユダヤ人は腹を立て、外国人は「まるでナンセンスだ」と言うのです。

24 しかし神様は、ユダヤ人でも外国人でも、救いへと招かれた人々の目を開いて、キリスト様こそ彼らを救う偉大な神の力であることを、悟らせてくださいました。実に、キリストご自身こそ、人々を救うための、神の知恵に満ちた計画の中心なのです。 25 この、いわゆる「ばからしい」神の計画は、最高の知識人の最も賢明な計画より、はるかにすぐれたものです。また、キリストの十字架上の死という神の弱さは、実は、どんな人間よりも強いのです。

26 愛する皆さん。自分たちの仲間を見回してごらん下さい。キリスト様に従うあな

たがたの中には、有名人や権力者や金持ちはほとんどいません。 27 それどころか、神様は、この世では愚か者、無価値な者と思われる人々を、わざわざお選びになりました。 それは、この世で知恵ある者、りっぱな人とされている人々を辱しめるためです。 28 神様は、いわゆるこの世で見下されている者、全く取るに足りない者を選び、そんな人々を役立てることによって、世間では大物と言われる人を、なきに等しい者とされたのです。 29 ですから、どこのだれであっても、神の御前で自慢することはできません。 30 というのは、あなたがたがキリスト・イエスによっていのちを確保できたのは、ひとえに神様のおかげだからです。 キリスト様は、神様の救いの計画を明らかにしてくださいました。 私たちを神様に受け入れられる者としてくださったのは、このキリスト様でした。 この方は、私たちを、きよく聖なる者とし、また、私たちの救いを買取るために、ご自身を投げ出されたのです。 31 旧約聖書の、「だれでも誇ろうとする者は、主のなさったことだけを誇れ」という、ことばどおりになるためです。

二

1 愛する皆さん。 私が初めて皆さんのところへ行った時、神様からのことばを伝えるのに、程度の高い、難しいことばづかいをしたり、りっぱな理論をふりまわしたりはしませんでした。 2 なぜなら、イエス・キリストと、その十字架上の死以外は語るまい、と決心したからです。 3 私は弱々しく、おずおずと、震えおののきながら、あなたがたのところへ行きました。 4 また私の説教も、雄弁な説得力あることばや、人間的な知恵にはほど遠く、全く単純そのものでした。 しかし、そのことばには神様の力がこもっていて、聞く人々は、それが神様からのことばだとわかったのです。 5 私がそうしたのは、あなたがたの信仰が、人間のすぐれた思想にではなく、神様に根ざしてほしかったからです。 6 とはいえ、成長したクリスチャンの間では、私はすぐれた知恵のことばを語ります。 しかしそれは、この地上の知恵ではなく、また、滅ぶべき運命にある、この世のお偉方の気に入る知恵でもありません。 7 私たちのことばに知恵があるのは、それが神様から出た教えで、天の栄光に導く、神様の知恵に満ちた計画を告げるものだからです。 この特別の計画は、以前は隠されていましたが、世界の始まる前から、私たちのために備えられていたものです。 8 しかし、この世の偉い人々は、このことを理解しませんでした。 もし理解していたら、まさか栄光の主を十字架につけるようなまねは、しなかったでしょう。 9 まさに、旧約聖書の次のことばどおりです。

「普通の人が、これまで見聞きしたことも、想像したこともないほどすばらしいことを、神様は、ご自分を愛する人々のために用意してくださいました。」

10 しかし私たちには、このすばらしいことがわかっています。 神様がご自分の御霊を通して知らせてくださったからです。 神の御霊は、神様の最も奥深い秘密を探り出して、それを教えてくださるのです。 11 人が何を考えているか、その人が実際にどんな人間

であるか、本人以外にはわかりません。同様に、神様の考えを知りうるのは、神の御霊以外にありません。12 事実、神様は私たちに、この世の霊ではなく、ご自分の御霊を与えてくださいました。それは、神様からの、すばらしい恵みと祝福という贈り物を、私たちが知るためです。

13 この贈り物について話す時、私たちは、自分が人間として選んだことばではなく、聖霊様によって教えられたことばを使ってきました。つまり、聖霊様のことを説明するには、聖霊様のことばを用いるのです。14 しかし、クリスチャンでない人は、聖霊様が教えてくださる神様の思いを理解することも、受け入れることもできません。彼には、ばからしく思えるのです。というのは、自分のうちに聖霊様をいただいている人だけが、聖霊様のお考えを理解できるからです。ほかの人にはそれが理解できません。15 聖霊様をいただいている人は、すべてを見抜きます。ところが、この世の人は彼を全く理解できないので、まごつき、とまどうのです。16 どうして、この世の人にそれがわかるでしょう。なぜなら、彼は、主の思いを知ったこともなく、それを主と論じ合ったこともなく、また、祈りによって神様の御手を動かしたこともないからです。しかし、驚くべきことに、実際に私たちクリスチャンは、まさにキリスト様の思いと心の一部を共有しているのです。

三

1 愛する皆さん。私は皆さんにクリスチャン生活の面では、まるで子供に対するように書いてきました。あなたがたは、主に従わないで、好きかってに、ふるまっています。そんなあなたがたに、御霊に満たされた健全なクリスチャンを相手にしているようには書けないからです。2 つまり、堅い食物を避けてミルクを飲ませました。堅い食物の消化はむりだったからです。現に今でも、ミルクしか飲めない有様です。3 相変わらず、よちよち歩きもおぼつかないクリスチャンで、神様に従うどころか、好きかってに、ふるまっているのですから。それは、あなたがたが、ねたみ合い、仲間割れをしていることから、明らかです。実際、あなたがたの態度ときたら、まるで主を信じていない人みたいです。4 「パウロとアポロとどちらが偉いか」などと口論して、教会を分裂させている現状では、主にあって少しも成長していないことを、さらけ出しているようなものではありませんか。

5 私たちが争いの原因になるなんて！ いったい、私が何者だと言うのですか。アポロが何者ですか。ただ神様に仕える者にすぎず、それぞれに特別の才能が与えられて、あなたがたが信じるように、手助けしたにすぎません。6 私の仕事は、あなたがたの心に種をまくことでした。アポロの仕事は、それに水をやることでした。しかし、あなたがたの心の中でそれを生長させたのは神様であり、私たちではありません。7 まく者も、水をやる者も、さほど大切ではありません。大切なのは、生長させてくださる神様なのです。8 アポロも私も、同じ目標を目指して働いていますが、それぞれ、その労苦に従って報酬を受けるでしょう。9 私たちは神様の協力者にすぎません。あなたがたは、

私たちの畑ではなく、神様の畑です。私たちの建物ではなく、神様の建物です。

10 神様は恵みによって、私に、どうしたら腕のよい建築家になれるかを教えてくださいました。私が土台をすえ、アポロがその上に建物を建てました。しかし、その土台の上に建物を建てる者には、細心の注意力が必要です。11 私たちがすでに持っている本物の土台——イエス・キリスト——以外に、土台をすえることなど、だれにもできないからです。12 しかし、この土台の上には、いろいろな材料で建てることができます。金や銀や宝石を使う人もいれば、また、木や草、あるいは、わらなどを用いる人もあります。13 やがて、すべてがテストされる、キリストのさばきの日が来ます。その時には、建築家が各自どんな材料で建てたか明白になります。それぞれの仕事は火でテストされ、なお、価値が変わらないかどうか、ほんとうに完璧な建物かどうか、だれの目にも明らかになります。14 そして、その土台の上に適切な材料を使って建てた人は、建物があとに残るので、報酬を受けます。15 しかし、家が焼けてしまった人は、大損害をこうむります。ただその人自身は、炎の中をくぐり抜けるように、命からがら救われるでしょう。

16 あなたがたは、自分たちがお互いに神の家であり、神の御霊が、その中に住んでおられることが、わからないのですか。17 もし、神の家を汚したり、こわしたりする人がいれば、神様はその人を滅ぼされます。なぜなら、神の家はきよく聖なるものだからです。あなたがたは、その神の家なのです。

18 自分をだますのはやめなさい。「世間一般からすれば、自分は人並み以上のりこう者だ」と、もし考えているのなら、そんな考えはかなぐり捨てて、むしろ、ばかになるほうが身のためです。天からの真の知恵を受ける妨げにならないためです。19 この世の知恵は、神様から見れば愚かだからです。旧約聖書のヨブ記に、「神は人の知恵を、その人を捕らえるわなとして用いられる」と書いてあるとおりです。つまり、人は自分の「知恵」につまずいて倒れるのです。20 また、詩篇には、「主は、人間の考えや判断がどんな程度か、また、それがどんなに愚かしく無益か、よく知っておられる」とあります。21 ですから、この世の知者の弟子であることを誇ってはなりません。神様はすでに、あなたがたに必要なものは全部与えてくださっているからです。22 パウロも、アポロも、ペテロも、あなたがたを助けるために、神様がお遣わしになったのです。神様は全世界を、あなたがたの益になるよう与えてくださいました。生も、また死さえも、あなたがたの配下です。現在のもものも、将来のもものも、すべては、あなたがたの手にあります。23 そして、あなたがたはキリスト様のもの、キリスト様は神様のものです。

四

1 こういうわけで、アポロや私を、神の特別の計画を説明し、その祝福を配って回る、キリスト様の家来と考えてください。2 ところで、家来にとって一番大切なことは、主人の命令に従うことです。3 さて、私の場合はどうでしょう。良い家来だったでしょうか。この点に関して、あなたがたがどう考えようと、また、ほかの人がどう思おうと、

私は少しも気にしません。 この件については、自分の判断さえ、信用していないのです。

4 良心にやましいところは、さらさらありませんが、だからといって、安心しきっているわけでもありません。 調べた上で判決をお下しになるのは、主ご自身だからです。

5 ですから、主がまだお帰りにならないうちから、ある人が良い家来かどうか、せっかちに結論を下すことがないように注意しなさい。 主が来られる時、すべては明るみに出されます。 一人一人の心の奥底までが見通され、ありのままの姿が、だれの目にもはっきり見えるようになります。 その時、私たちが、なぜ主の仕事をしてきたのか、だれにもわかるようになります。 そして、一人一人が、ふさわしい賞賛を神様から受けるのです。

6 これまで私は、アポロと自分を例にあげて説明してきました。ある人を特別にえこひいきしてはならないことを、教えたかったのです。 神様がお立てになった教師の一人を、他の教師以上に誇ってはなりません。 7 いったい何について、そんなに得意になるのですか。 あなたの持ちもので、神様からいただかないものがありますか。 その全部が神様からいただいたものなら、どうして、さも偉そうにふるまうのですか。 また、自力で何かを成し遂げたような態度をとるのですか。

8 あなたがたは、自分に必要な霊の食べ物みな、すでに手にした、と思っているようです。 十分に満ち足り、霊的に満足しています。 私たちを差し置いて、裕福な王様になり、王座にふんぞり返っています。 ああ、ほんとうに王座についていたらよかったのに。 そうすれば、いつか私たちも、その王座で、あなたがたと共に君臨できたでしょうに。 9 しばしば、こんな思いが私に浮かびます。 神様は私たち使徒を、死刑を目前にした捕虜のように凱旋行列の最後に引き出し、人々や御使いの前で見せ物にされたのだ、と。

10 信仰のために私たちが愚か者になったと、あなたがたは言います。 そういうあなたがたは、もちろん、たいそう賢い、分別あるクリスチャンですとも。 私たちは弱くて、あなたがたは強いのです。 人受けのよいあなたがたと違って、私たちは笑いものにされています。 11 今の今まで、私たちは飢えと渇きに悩まされ、寒さをしのぐ着物さえありませんでした。 自分の家もなく、どこへ行っても、冷たくあしらわれるばかりでした。

12 また、生活のために、自ら汗水流して働きました。 私たちをのろう人たちを、かえって祝福し、危害を加えられても耐え忍び、 13 ののしられても、おだやかに答えるのが常でした。 それなのに、今この時に至るまで、私たちは、まるで足もとのちりや、ごみのようです。

14 このように書いたのは、あなたがたに恥をかかせるためではありません。 愛する子供として戒め、さとすためです。 15 たとい、キリスト様のことを教えてくれる人が一万人いたとしても、あなたがたの父はこの私だけであることを、忘れないでください。 良い知らせを伝えて、キリスト様に導いたのは、この私一人なのですから。 16 そこで、お願いがあります。 どうか、私の模範にならい、同じ行ないをしてください。

17 その点であなたがたの助けになればと思い、テモテを遣わします。 彼は、私がキリスト様に導いた一人で、主にあって愛し、信頼できる息子だからです。 彼は、クリスチ

ヤンとしての私の生き方を、私が行く先々の教会で教えているとおりに、あなたがたに思い出させてくれるでしょう。

18 中には、「パウロはこちらへ来て話をつけるのがこわいのだ」と、思い上がっている人たちがいるそうですね。19 しかし、もし主のお許しがあれば、私はすぐにでも行くつもりです。そうすれば、その高慢な人たちが、ただ大きなことを言っているだけか、それとも、ほんとうに神様の力を持っているのか、わかるでしょう。20 神の国は、ことばだけのものではありません。神の力によって生きることなのです。21 さあ、どちらを選びますか。私が罰と叱責をもって行くほうですか。それとも、愛とやさしい心をもって行くほうですか。

五

1 あなたがたの間に起こった、ひどい出来事について、みんながうわさをしています。それは、「異教徒」でもしてかさないほどの不始末で、父の妻（おそらく、ママ母のこと）と不義の関係にある人が、教会にいるそうではありませんか。2 それでもなお、自分たちは「霊的」だと白を切るつもりですか。どうしてそのことで嘆き悲しみ、恥じないのですか。なぜその人を教会から除名しないのですか。

3 4 いっしょにはいませんが、私もこの問題をよく考えてみました。そして、実際にその場に居合わせたように、主イエス・キリストの御名によって、すでに対策を決めました。さっそく教会で集会を開きなさい。——その時、主イエスの力があなたがたと共にあり、私も霊において出席します。——5 そして、その人を罰するために、教会から追放して、サタンの手に引き渡しなさい。そうするのは、主イエス・キリストが帰って来られる時に、その人のたましいが救われるようにと願うからです。

6 潔白さを誇るあなたがたが、こんな事件に目をつぶっているかと思うと、ぞっとします。たとい一人でも、罪を犯すままに放任しておけば、やがてその影響が全員に及ぶことが、わからないのですか。7 恐ろしい癌であるその人を、あなたがたの間から除きなさい。そうすれば、きよさを保てます。神の小羊であるキリスト様は、私たちのためにすでに殺されたのです。8 ですから、悪意や不正でいっぱい、癌に冒された古い生活から、全く離れなさい。しっかりキリスト様につながり、クリスチャン生活において、力強く成長しようではありませんか。悪意や不正のまじったパンではなく、栄誉と誠実と真実の純粋なパンを、食べようではありませんか。

9 私は以前、あなたがたに手紙で、悪い人たちと交際しないように書き送りました。10 しかし、それは、性的な罪を犯している者、欲張りの詐欺師、どろぼう、偶像を拝む者、というような不信仰者とは口もきくな、という意味ではありません。そのような人たちから離れていようとすれば、この世では、とうてい生きていけないからです。11 私がほんとうに意図したところは、自分はクリスチャンだと公言している者で、しかも性的な罪にふける者、食欲な者、人をだます者、偶像を拝む者、酒に酔う者、口ぎたなくののしる者とはつき合うな、ということです。そのような者と共に食事をする事さえいけま

せん。

1 2 1 3 教会外の人たちをさばくことは、私たちの務めではありません。 神様お一人のなさることです。 しかし、教会員でありながら、このような罪を犯す者がいたら、きびしい処置をとることは、当然です。 その悪い人を処罰し、教会から除名しなければなりません。

六

1 クリスチャン同士の争いが生じた場合、どちらが正しいかを、他のクリスチャンに判断してもらおうとせず、異教徒の法廷に訴え出るとは、いったいどういうつもりですか。 2 いつか、私たちクリスチャンがこの世をさばき、支配する日が来ることを知らないのですか。 この世こそあなたがたにさばかれる運命にあるのに、どうしてあなたがたは、内輪のそんなささいな事件さえ解決できないのですか。 3 クリスチャンは、天の御使いさえもさばくようになることがわからないのですか。 この地上での自分たちの問題をさばくくらい、朝飯前のはずです。 4 それなのに、なぜ、教会外の、クリスチャンでもない裁判官のもとへ出向くのですか。 5 あえてあなたがたに恥をかかせようと、私はこう言うのです。 いったい教会には、こうした争いを解決できる賢明な人が、一人もいないのですか。 6 それで、クリスチャンがクリスチャンを訴え、しかも、それを異教徒の前に持ち出すようなまねをするのですか。

7 そもそも、訴え合うこと自体が、クリスチャンにとって、すでに敗北です。 なぜ、不正な仕打ちに甘んじようとしないのですか。 むしろ、だまされるほうが、もっと主に喜ばれるでしょう。 8 ところが、あなたがたは不正を行ない、だまし取り、しかも兄弟（信仰を同じくする人）に対して、そんなことをしているのです。

9 1 0 こんな者が神の国を相続できないのは、当然ではありませんか。 思い違いをしてはいけません。 不道德な生活をしている者、偶像を拝む者、姦淫する者や同性愛にふける者は、神の国を相続できません。 どろぼう、貪欲な者、酒に酔う者、人をそしめる者、強盗も同様です。 1 1 あなたがたの中にも、そんな過去をもつ人がいます。 しかし、主イエス・キリストと神の御霊のおかげで、今や罪は洗い流され、あなたがたは神様のために聖なる者とされ、神様に受け入れられているのです。 1 2 キリスト様が禁じておられること以外、私には、何でもする自由があります。 しかしその中には、自分のためにならないこともあります。 たとい、してよいことであっても、それに捕らえられたら最後、やめようとしても簡単にやめられないことには、手を出しません。 1 3 たとえば、食べることについて考えてみましょう。 神様は、物を食べるために食欲を与え、消化するために胃を備えてくださいました。 しかし、だからといって、必要以上に食べてよい、ということにはなりません。 食べることが第一だなどと考えるはいけません。 なぜなら、いつの日か神様は、胃も食べ物も取り上げるからです。

しかし、性的な罪は絶対にいけません。 私たちの体は、そんなことのためにではなく、主のために造られたのです。 そして、主ご自身が、私たちの体に住もうと願っておられ

ます。 14 神様は、主イエス・キリストを復活させたのと同じ力で、私たちの体をも、死人の中から復活させようとしておられます。 15 あなたがたの体は、事実、キリスト様の体の一部であることが、わからないのですか。 キリスト様の体の一部と売春婦とを結びつけるようなことをしてよいのでしょうか。 とんでもないことです。 16 もし人が売春婦と結びつくなら、その人と彼女は一心同体になることが、わからないのですか。 というのは、神様が聖書の中で言われるとおり、神様の目には、二人の者は一人とみなされるからです。 17 しかし、自分を主にささげるなら、その人とキリスト様は、一人の人として結び合わされるのです。

18 性的な罪とは無縁になりなさいと、私が言うのは、そのためです。 これほど体に悪影響を及ぼす罪は、ほかにありません。 この罪を犯すことは、自分の体に対して罪を犯すことです。 19 体は、神様があなたがたに与えてくださった聖霊の家であって、聖霊様がそこに住んでおられることが、まだわからないのですか。 あなたがたの体は、自分のものではありません。 20 神様が多額の代価を払って、あなたがたを買い取ってくださったからです。 ですから、あなたがたの体のどの部分も、神様の栄光を現わすために用いなさい。 その所有者は神様だからです。

七

1 さて、この前の手紙にあった質問に答えましょう。 もし結婚しないなら、それは良いことです。 2 しかし、普通の場合、結婚するのが一番良いでしょう。 男はそれぞれ妻を、女も夫を持ちなさい。 そうでないと、不品行の罪に陥る危険があるからです。

3 夫は妻に、妻が当然受けるものを、すべて与えなければなりません。 妻もまた、夫に同様の義務を負っています。 4 結婚した女性は、もはや自分の体を自分の思いのままにする権利はありません。 妻の体に対する権利は、夫にもあるからです。 同様に、夫も、もはや自分の体を自分の一存で、どうこうすることはできません。 妻も、夫の体に対する権利を持っているからです。 5 ですから、互いにこの権利を拒んではなりません。 ただ一つの例外があります。 ひたすら祈りに専心するため、二人が合意の上で、一定の期間、夫婦生活から離れる場合です。 そのあと、二人はまたいっしょになるべきです。 それは、自制力の弱さにつけ込む、サタンの誘惑を避けるためです。

6 私は、結婚しなければならない、と言っているのではありません。 ただ、結婚したければ、してもかまわない、と言っているのです。 7 私の願いは、だれもが私のように、結婚しないでもやっていけることです。 しかし、人それぞれです。 神様は、ある人には、夫となり妻となる恵みを与え、ほかの人には、独身のまま幸福にすごす恵みを与えておられます。 8 さて、独身者と未亡人にひとこと言いますが、もし私のようにしていられるなら、独身のままでいるほうが良いのです。 9 しかし、もし自制できないなら、ためらわずに結婚しなさい。 情欲を燃やすよりは、結婚するほうが良いからです。

10 次に、結婚した人たちには、こうしたほうが良いと、単に忠告するのではなく、はっきりと命令しておきます。 この命令は、私が考え出したものではありません。 主ご自

身からの命令です。 妻は、夫と別れてはいけません。 11 しかし、もしすでに別れているなら、そのまま一人にいるか、夫のもとに帰るかしなさい。 また、夫も、妻を離縁してはいけません。

12 ここで、少し私の考えを、付け加えておきましょう。 これは主からの直接の命令ではありませんが、私が正しいと思っていることです。 夫がクリスチャンで妻はそうでない場合、いっしょにいることを妻が望むなら、追い出したり離婚したりしてはいけません。

13 また、妻がクリスチャンで夫はそうでない場合も、夫がいっしょにいることを望むなら、離婚してはいけません。 14 なぜなら、クリスチャンでない夫は、クリスチャンの妻の助けによって、クリスチャンになるかもしれないからです。 また、同様のことが、クリスチャンでない妻の場合にも言えるからです。 もし家族がバラバラになってしまったら、子供たちは主を知る機会を失うことになります。 一方、家族が一つにまとまっていれば、神様の計画によって、子供たちも救われる可能性があるのです。

15 しかし、もしクリスチャンでない夫や妻が、どうしても別れたいと言うなら、そうさせなさい。 こんな時、別れようとする相手を、むりに引き留めるべきではありません。 神様は、自分の子供たちが仲良く平和に暮らすことを望んでおられるからです。 16 なぜなら、結局のところ、妻にとって、いっしょにいれば夫がクリスチャンになるという保証はなく、夫にとっても、妻がクリスチャンになる保証はないからです。

17 しかし、これらを決めるにあたっては、結婚するにしましなくても、神様の導きと助けに従い、どんな立場に置かれようとも、それに甘んじ、神様の御心にかなった生活をしている、と確信しなさい。 私はどこの教会でも、このように指導しています。

18 たとえば、クリスチャンになる前に、すでにユダヤ教の割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けた人は、それを気にしてはいけません。 また、割礼を受けていない人は、今さら割礼を受けるべきではありません。 19 クリスチャンには、割礼を受けているかどうかで、違いはないからです。 しかし、真に神様を喜ばせ、神様の戒めを守っているかどうかでは、大きな違いがあります。 この点が重要なのです。

20 たいていの場合、人は、神様に召された時にしていた仕事を続けるべきです。 21 あなたが奴隷でも、そのことを気にしてはいけません。 しかし、もし自由の身になる機会があれば、もちろん自由になりなさい。 22 もし奴隷のあなたが主に召されたのなら、キリスト様は恐ろしい罪の力からあなたを解放して、自由の身にしてくださったことを忘れてはなりません。 また、もしあなたが自由人であって、主に召されたのなら、今はキリスト様の奴隷であることを忘れてはなりません。 23 あなたがたは、キリスト様が、代価を払って買い取ってくださった身であり、キリスト様のものなのです。 ですから、こうした、この世の誇りや恐れの上べてから、自由になりなさい。 24 愛する皆さん、クリスチャンになった時の状態がどんなものであろうと、その状態にとどまっていなさい。 主が今、助けてくださるからです。

25 さて、今度は別の質問を取り上げましょう。未婚の女性は結婚してもよいか、ということでしたね。この問題について、私は主からとりたてて命令を受けたわけではありません。しかし、主は恵みによって私に、人々から信頼されるに足る知恵を授けてくださいました。それで、喜んで私の見解を申し上げます。

26 クリスチャンは、現在、大きな危機に直面しています。そこが問題なのです。このような時には、結婚しないのが一番良いと考えます。27 だからといって、もちろん、すでに結婚している人は別れてはなりません。しかし、もし結婚していないなら、このような時に、結婚を急いではなりません。28 しかし、もし男性が、どうしても結婚しようと決心し、いま結婚したとしても、それは正しいことです。また、このような時に女性が結婚したとしても、罪を犯すわけではありません。ただし、結婚すれば、余計な問題をかかえ込むことになるでしょう。今は、そんな目に会ってほしくないのです。

29 私たちに残された時間はきわめて短く、主の仕事をする機会もきわめて少ないのです。そんなわけで、妻のある者も、主のために、できるだけ身軽にしていなければなりません。

30 喜びとか、悲しみとか、財産などが、神様の仕事をする妨げになってはなりません。

31 この世の魅力的なものに接する機会の多い者たちは、その機会を正しく利用し、おぼれることがないようにしなさい。現在あるがままの世界は、やがて過ぎ去るからです。

32 何をするにしても、あなたがたがあれこれ思いわずらわないようにと願います。独身の男性の場合、時間を主の仕事のためにささげることも、どうしたら主に喜んでいただけるかを常に考えることもできます。33 しかし、結婚した男性は、そうはいきません。

どうしても、この世での責任や、妻を喜ばせることに、気を取られがちになります。34

こうして、彼の関心は分散するのです。結婚した女性についても、同様のことが言えます。同じ問題に直面するのです。独身の女性は、何とかして主に喜ばれる者になりたい、主に喜ばれることをしたいと心を配ります。しかし、結婚した女性は、家事や、夫の好ききらいまで、いろいろ考えないわけにはいきません。

35 私がこう言うのも、あなたがたのためを思うからであって、結婚させまいとしているわけではありません。私が願うのは、あなたがたが、思いを主からそらすようなことは、できるだけ避けて、主に仕えるのに役立つことは何でもすることなのです。

36 しかし、もし、高まる感情を抑えるのがむずかしいので結婚すべきだ、と考える人がいれば、それも結構です。罪ではありません。そういう人は結婚しなさい。37 しかし、もし独身でいるだけの意志力を持ち、自分は結婚する必要もないし、むしろ、しないほうが良いと考えるなら、その決心はりっぱです。38 つまり、結婚する人は、良いことをしているのであり、結婚しない人は、もっと良いことをしているのです。

39 妻は、夫が活着ている間は、夫の一部です。しかし、夫が死ねば、再婚してもかまいません。ただし、その場合、相手はクリスチャンに限ります。40 けれども、私の考えでは、もし再婚しないでいられるなら、そのほうが、はるかに幸せでしょう。神の

御霊からの助言をいただいて、私はこう言うのです。

八

1 次に、偶像に供えられた物を食べることはどうか、という質問に答えましょう。この件については、だれもが、自分の判断は正しいと思っています。しかし、自分の万全の知識がどんなに重要に思えても、教会を建て上げるためにほんとうに必要なのは、愛です。

2 もし、自分はどんな問題にも答えられる、と思いがっている人がいたなら、それは、自らの無知をさらけ出しているにすぎません。3 しかし、ほんとうに神様を愛している人は、神様に知られているのです。

4 では、先ほどの問題はどうなるでしょう。偶像に供えた肉を食べてもよいのでしょうか。私たちはみな、偶像など実際には神ではなく、神様はただお一人だけで、ほかにはいないことを知っています。5 ある人は、偉大な神々は天にも地にも数多いと考えています。6 しかし私たちは、父なる神ただお一人しかいないことを知っているのです。この神様が、万物を創造し、人間をご自分のものとして造られたのです。また私たちは、ただ一人の主、イエス・キリストがおられることを知っています。この方が、すべてのものを造り、私たちにいのちを与えてくださるのです。

7 けれども、クリスチャンの中には、このことがわかっていない人もいます。そういう人は、これまでずっと、偶像を生きているもののようによく考えてきたので、ただの偶像に供えられたにすぎない物を、あたかも、実在する神々に供えたかのように思ってしまうのです。そのため、それを食べる時にひどく気になり、傷つきやすい良心が痛むのです。8 ただ、このことを覚えておいてください。神様は、私たちがそれを食べるか食べないかなど、気にかけておられません。食べなくても損にはならないし、食べても得をするわけではありません。9 ただし、いくら自由だといっても、あなたがたがそれを食べたために、あなたがたよりも良心の弱いクリスチャンが罪を犯すようなことにならないよう、くれぐれも注意しなさい。

10 あなたが、偶像への供え物を食べても別に害にはならないことを知っていて、神殿の食堂で食事をしたとしましょう。それを、食べてはいけないと思っている人が見たら、どうでしょうか。その人は、いつもそれは悪いことだと思っているのに、つい気持ちがゆるんで、自分もそれを食べてしまうでしょう。11 すると、あなたは、それを食べても差しつかえないことを知っていたために、傷つきやすい良心を持った兄弟に、信仰上の大きな損害を与えた責任を負うことになります。キリスト様は、その兄弟のためにも死んでくださったのです。12 ある行為は悪いと信じている兄弟が、あなたがたのふるまいに刺激されて、その行為をしてしまうなら、あなたがたはその兄弟に罪を犯し、同時に、キリスト様に対しても罪を犯すことになるのです。13 ですから、もし偶像に供えた肉を食べることで、兄弟に罪を犯させるなら、私は一生、それを食べません。私の兄弟に罪を犯させたくないからです。

九

1 私は使徒、すなわち神様の使者ですから、単なる人間に対して責任を負っているわけではありません。 私は、実際、この目で、主イエスを見た者です。 あなたがたの人生が一変したのは、私が主のために一生懸命働いた結果なのです。 2 たとい、ほかの人が私を使徒と認めなくても、あなたがたにとって、私は確かに使徒なのです。 あなたがたは、私を通してキリスト様に導かれたのですから。 3 私の権利をとやかく問題にする人たちに対しては、次のように答えることにしています。

4 いったい、私には、どんな権利もないのでしょうか。ほかの使徒たちのように、あなたがたの家で、客としてもてなしてもらい権利はないのでしょうか。 5 もし私にクリスチャンの妻があればの話ですが、ほかの弟子や主の兄弟やペテロ同様、妻を連れて旅行もできないのでしょうか。 6ほかの使徒はあなたがたから生活費をもらっているのに、バルナバと私だけは、生活のために働き続けなければならないのでしょうか。 7 いったい、自費で軍務につかなければならない兵士がいるのでしょうか。 丹精した作物を食べる権利のない農夫の話など、聞いたこともありません。 世話をしている羊や、やぎの乳も飲めない羊飼いがいるのでしょうか。 8 私は、ただ人間の考えだけを引き合いに出して、権利がどうのこうのと言うものではありません。 神様のおきてでは、どうなっているか示しましょう。 9 神様は、モーセにお与えになったおきての中で、「穀物を踏んで脱穀している牛に口輪をかけて、その穀物を食べる自由を奪ってはならない」と言っておられます。 神様は牛のことだけを心に掛けて、こう言われたのだと思いますか。 10 私たちのことも、心に掛けておられたのではないのでしょうか。 もちろんそうです。 クリスチャンの働き人が、その人のおかげで益を受ける人々から報酬をもらうのは当然であることを、神様は教えたかったのです。 耕す者も脱穀する者も、当然、収穫の分け前にあずかることを、期待してよいのです。

11 私たちはあなたがたの心に、良い霊の種をまきました。 とすれば、そのお返しとして食べ物や着物を要求するのは、行き過ぎでしょうか。 12 あなたがたは、神のこトバを伝えてくれたほかの人たちには、そうした必需品を提供しています。 それは当然のことです。 すると、なおさら私たちは、それらを要求する権利があるはずではありませんか。 けれども、一度も、この権利を持ち出したことはありません。 かえって、働いて自活し、援助を受けませんでした。 どんな報酬も求めなかった理由は、キリスト様の良い知らせをせっかく伝えても、報酬のために、あなたがたの関心が薄れるのではないかと心配したからです。

13 神の宮での奉仕者は、神様にささげられる食べ物の一部を自分のために取るように、という神様の命令を、知らないのですか。 また、祭壇の前で働く人々は、主へのささげ物の分け前をいただくのです。 14 同じように、主は、良い知らせを宣べ伝える者は、それを信じるようになった人々から生活を支えてもらうべきだ、と命じておられます。 15 けれども、私はあなたがたに、ビター文要求したことはありません。 それに、今からでもそうしてほしいと、それとなく、ほのめかしているのでもありません。 実を言えば、

無報酬であなたがたに良い知らせを宣べ伝えることの満足感を失うくらいなら、飢え死にしたほうがましです。 16 それというのも、良い知らせを宣べ伝えても、別に私の名誉にはならないからです。 たとい、やめたいと思っても、やめるわけにはいきません。 もしやめたら、全くみじめなことになります。 それを宣べ伝えなかったら、私は災いに会います。

17 もし自分から進んで、この務めを引き受けたのであれば、主は私に特別な報酬を下さるでしょう。 しかし、実際はそうではなかったのです。 神様が私を選び出して、この聖なる任務につかせてくださったのであって、選ぶ自由などなかったのです。 18 このような状況で、私の受ける報酬とはどんなものでしょう。 だれにも負担をかけず、自分の権利を少しも主張せずに、良い知らせを宣べ伝えることから来る特別の喜び、これこそ、私の報酬なのです。

19 これにはまた、すばらしい利点があります。 だれからも給料をもらわないということは、だれにも気がねがいらないということです。 けれども、一人でも多くの人をキリスト様に導くために、自ら進んで、また喜んで、すべての人の奴隷となりました。 20 ユダヤ人といっしょにいる時は、ユダヤ人のようにふるまいます。 それによって、彼らが良い知らせに耳を傾け、キリスト様に導かれるためです。 また、ユダヤ教の習慣や儀式を守っている外国人といっしょにいる時は、私自身はそのことに同意していなくても、議論したりはしません。 何とかして、彼らを助けたいからです。 21 異教徒といっしょにいる時は、できるだけ、彼らに合わせるようにしています。 もちろん、クリスチャンとしての正しさだけは失わないように、気をつけますが。 こうして、彼らに合わせることによって、その信頼を得、彼らをも助けることができるのです。

22 ささいなことで、すぐに良心を悩ませる人たちのそばでは、自分の知識をひけらかすような行動をしたり、「それは考えが足りない」などと指摘したりはしません。 そうすると、彼らのほうでも心を開いてくれて、力になることができます。 そうです。 キリスト様のことを話し、その人が救われるためには、私はどんな人に対しても、対等の立場に立とうと心がけています。 23 これは、良い知らせを伝えるためであり、また、キリスト様に導かれる彼らを見て、私自身も祝福を受けるためでもあります。

24 競走をする場合、優勝者は一人だけです。 ですから、あなたがたも、優勝するように走りなさい。 25 優勝するには、ベストを尽くせるよう、何事にも節制しなければなりません。 競技の選手は、この世のメダルや優勝杯を得ようと、あらゆる困難と戦い、ひたすらトレーニングに励みます。 しかし私たちは、神様から与えられる、決して朽ちない栄光を受けるために、そうするのです。 26 ですから私は、ゴールを目指して、わき目もふらずに、全力で走ります。 勝つために戦うのです。 空を打つようなボクシングをしたり、おもしろ半分には走ったりもしません。 27 競技の選手のように、自分の体をむち打って、きびしく鍛練し、自分の気分のままにではなく、なすべきことができるよう、訓練しています。 そうでないと、ほかの人たちを競技に参加させておきながら、自

分は失格者として、退場を命じられるかもしれないからです。

・

一〇

1 愛する皆さん。昔、私たちの先祖が荒野でどんな経験をしたか、決して忘れてはなりません。神様は、雲を案内役として立て、彼らを導きました。また、全員が安全に紅海を通り抜けるように導きました。2 これは、彼らの「バプテスマ」であった、とみなしてよいでしょう。彼らは、モーセに従う者として——すなわち、指導者であるモーセにすべてを任せて——海と雲によって、バプテスマを受けたのです。3 4 さらに神様は、奇蹟によって、荒野で彼らに、食べ物と飲み水をお与えになりました。彼らは、キリスト様から水をいただいたのです。キリスト様は、信仰に新しい力を与える力強い岩として、いっしょにおられたのでした。5 それにもかかわらず、大部分の者が神様に従わなかったので、神様は、荒野で滅ぼしてしまいました。

6 この事実から、大切な教訓を学べます。悪事を追い求めてはならないこと、7 また、偶像を拝んではならないことです。〔旧約聖書には、金の子牛を拝むために「人々は座っては飲み食いし、立っては踊った」と書いてあります。〕

8 ほかに、教訓があります。彼らのうちのある人たちが外国人の女と不道德な罪を犯した時は、一日のうちに二万三千人もが死にました。9 また、彼らのように、主がどれだけ忍耐してくださるかを、試すようなまねをしてはなりません。主を試そうとした人たちは、蛇にかまれて死にました。10 また、彼らのように、神様に向かって文句を言ったり、「神様のなさり方は不当だ」などと、不平を並べてはなりません。それゆえに、神様は御使いを遣わして、彼らを滅ぼされたのです。

11 先祖たちの身に起こった、これらのことは、同じことをくり返すなど私たちに警告する実例、すなわち、生きた教訓です。それが記録されたのは、世の終わりが近づいている今、私たちがそれを読んで、彼らの例から教訓を学ぶためにほかなりません。

12 ですから、よく注意しなさい。「私は、そんなことは絶対にしないから大丈夫」などと思っている人がいれば、そういう人こそ、よくよく注意しなければなりません。同じ罪を犯すかもしれないからです。13 ただ、このことを覚えていてください。あなたがたの生活の中に入り込む悪い欲望は、別に新しいものでも、特別なものでもないということです。ほかに多くの人たちが、あなたがたよりも先に、同じ問題にぶつかってきたのです。どんな誘惑にも、抵抗するすべはあります。神様は決して、とても打ちできないほどの誘惑に会わせたりは、なさいません。神様がそう約束されたのであり、神様の約束は必ず実行されるのです。神様は、あなたがたが、誘惑に忍耐強く立ち向かえるように、それから逃れる方法を教えてください。14 ですから、愛する皆さん、偶像礼拝は、どんなものでも、用心深く避けてください。

15 あなたがたは頭がよいのですから、私の言うことが正しいかどうか、自分で考え、判断してください。16 私たちが聖餐式で主の食卓に着き、ぶどう酒を飲んで、主の祝福

を求める時、それは、そのぶどう酒を飲む者がみな、キリスト様の血の祝福を共に受けることを、意味しないでしょうか。 また、一つのパンをちぎって共に食べる時、それは、私たちがキリスト様の体の恩恵を共に受けることを、示すのではないのでしょうか。 17 私たちの数がどんなに多かろうと、問題ではありません。 みな同じパンを食べて、同じキリスト様の、体の部分であることを示すのです。 18 ユダヤ人のことを考えてごらん下さい。 供え物を食べる者はみな、それによって一つとされているのです。

19 私は何を言おうとしているのでしょうか。 異教徒たちが供え物をささげる偶像は、実際に生きているとか、ほんとうの神であるとか、あるいは、偶像への供え物に何か価値があるとか、言おうとしているのでしょうか。 とんでもありません。 20 私が言いたいのは、偶像に物を供える人は、もちろん神様にではなく、悪霊にささげる点で、みな一つに結ばれているということです。 あなたがたの中から、偶像への供え物を異教徒たちと共に食べたりして、悪霊の仲間になる人など、一人も出てほしくありません。 21 主の食卓の杯と悪霊の食卓の杯の両方を飲むことはできません。 同じように、主の食卓のパンと悪霊の食卓のパンを、両方とも食べることなどできません。

22 いったい、あなたがたは、主を怒らせようとしているのですか。 自分が主よりも強いとでも言うのですか。 23 もし食べたければ、偶像への供え物を食べても、一向にかまいません。 その肉を食べても、神様のおきてに反しません。 しかし、だからといって、それをどんどん食べてよい、ということにはなりません。 たとい、少しもおきてに反しないことでも、最善とは限らず、また有益でない場合もあるのです。 24 自分のことばかり考えてはいけません。 他人を思いやり、何がその人にとって最善か、よく考え下さい。

25 こうすればよいのです。 市場で売られている肉は、どれでも自由に食べなさい。 それが偶像に供えられた物かどうか、いちいち尋ねなくてよいのです。 そうすれば、良心を傷つけることもないでしょう。 26 地と、地上にある良いものはみな、主のものであり、あなたがたを楽しませるために、あるのですから。

27 クリスマンでない人から食事に招待された場合、行きたければ、行ってかまいません。 そして、出される物は、何でも食べなさい。 それについて、いちいち尋ねてはいけません。 尋ねなければ、偶像に供えられた物かどうかわからないし、食べて良心が傷つく心配もありません。 28 しかし、もしだれか、「この肉は偶像に供えられたものです」と注意してくれる人がいたら、その人のために、またその人の良心のために、出された肉を食べるのはやめなさい。 29 この場合、肉についての自分の判断よりも、相手の考えが、大切なのです。

しかし、あなたはこう言うでしょう。 「なぜ、他人の考えに支配されたり、束縛されたりしなければならないのですか。 30 神様に感謝してそれを食べることができれば、他人から、とやかく言われる筋合いは、ないではありませんか。」 31 では、その理由を申しましょう。 つまり、食べるにも、飲むにも、何をするにも、ただ神様の栄光のために

すべきだからです。 32 ですから、相手がユダヤ人であれ、外国人であれ、クリスチャンであれ、だれをも、つまずかせてはいけません。 33 これは、私の生活の原則でもあります。 私は、何をするにも、すべての人に喜ばれようと務めています。 自分のしたいことや、つごうの良いことをするのではなく、人々が救われるのに最善のことをするので

――

1 私がキリスト様の模範にならっているように、あなたがたも、私の模範にならってください。 2 愛する皆さん。 あなたがたが私の教えを忘れず、すべてそのとおり実行していることを、とてもうれしく思います。 3 しかし、知っておいてほしいことが一つあります。 それは、妻は夫に責任があり、夫はキリスト様に責任があり、キリスト様は神様に責任がある、ということです。 4 ですから、男が祈ったり説教をしたりする時、帽子を取らないなら、キリスト様を侮辱することになります。 5 また、女が頭にかぶり物を着けずに、人前で祈ったり預言したりすれば、夫を侮辱することになります〔かぶり物は、夫に対する服従のしるしだからです〕。 6 何もかぶりたくないなら、いっそ髪もそってしまいなさい。 もし頭をそるのが女として恥ずかしいことなら、かぶり物を着けなさい。 7 しかし、男は何もかぶるべきではありません〔礼拝の時の女の帽子は、男への服従のしるしだからです〕。

男は神様に似せて造られたのであり、神様の栄光の現われです。 女は男の栄光の現われです。 8 最初の男は女から造られたのではなく、最初の女が男から造られたのです。 9 また、最初の男アダムは、エバのために造られたのではなく、エバが、アダムのために造られたのです。 10 そういうわけで、女は、男の権威の下にあるしるしとして、頭にかぶり物を着けなければなりません。 すべての御使いたちがそれを認めて、喜ぶためです。

11 しかし、神様の計画では、男と女は、お互いを必要とし合う存在であることを、忘れてはなりません。 12 なぜなら、最初の女は男から造られたとは言っても、それ以後、男はすべて、女から生まれたからです。 そして、男も女も、両方をお造りになった神様から出ているのです。

13 あなたがたは、この問題について、実際にどう考えますか。 女がかぶり物も着けずに人前で祈ることは、正しいでしょうか。 14 15 女が頭をおおうことは、感覚的にもきわめて自然ではありませんか。長い髪は女の誇りだからです。ところが、男の長い髪は恥なのです。 16 たとい、この点について別の意見の人がいても、私はこのようにしか教えません。 すなわち、女が教会で公に預言したり祈ったりする時は、必ずかぶり物を着けなさい、と。 このことは、どこの教会でも同じように考えています。

17 さて、もう一つ、私が不服に思っている事を書きます。 あなたがたの聖餐式の集まりが益になるところか、かえって、害になっているように思えるからです。 18 その席で議論し合い、分裂がますます深刻化していると、私の耳にも伝わってきます。 ですから、それを信じないわけにはいきません。 19 たぶん、あなたがたは、だれが正しいか

はっきりさせるには、分裂もやむをえないと思っているのでしょう。

20あなたがたの集まりは、主の晩餐のためではなく、21自分たちの食事をするためのものです。ほかの人と分け合おうと待っている人など、一人もいず、早い者勝ちにがつがつ食べているそうではありませんか。おかげで、十分食べられずにお腹をすかしている者もいれば、浴びるほど飲んで酔っぱらっている者もいる、ということです。22何ということでしょう。ほんとうに、そうなのですか。食べたり飲んだりなら、自分の家でできるではありませんか。そうすれば、教会の名誉を傷つけたり、食べ物を持って来られない貧しい人たちに、恥をかかせたりしないですみます。このことについて、何と言ったらよいでしょう。ほめてでも、もらいたいのですか。まさか！ そうはいきません。

23なぜなら、以前あなたがたに伝えたとおり、聖餐式について、主ご自身がこう言われたからです。すなわち、ユダが主イエスを裏切った日の夜、主イエスはパンを取り、24神様に感謝の祈りをささげてから、ちぎって弟子たちに与え、こう言われました。「取って食べなさい。これは、あなたがたのために引き裂かれる、わたしの体です。わたしを思い出すために、このようにして食べなさい。」25夕食の後、同じように、ぶどう酒の杯を取って言われました。「この杯は、神様とあなたがたとの間の新しい契約です。この契約は、わたしの血によって立てられ、効力を発します。これを飲むたびに、わたしを思い出すため、このようにしなさい。」26ですから、あなたがたは、このパンを食べ、杯を飲むたびに、「主は私たちのために死んでくださった」という主の死の意味を、くり返し告白するわけです。主が再び来られる時まで、続けなさい。

27ですから、もしふさわしくない態度でこのパンを食べ、主の杯を飲む人がいれば、彼は、主の体と血とに対して罪を犯すことになります。28ですから、聖餐に臨む前に、めいめいが注意深く、自分を反省しなければなりません。29もしキリスト様の体を気にもかけず、その意味を考えもせず、ふさわしくないままでパンを食べ、杯を飲むなら、神様のさばきを招くはめになります。キリスト様の死をもてあそんだわけですから。30あなたがたの中に弱い者や病人が多く、また死者も出たのは、そのためです。

31しかし、食べる前に、注意深く自分を反省するなら、さばきや懲らしめを受けることはありません。32けれども、私たちが主にさばかれ、懲らしめられるのは、この世の人々といっしょに有罪を宣告されないためです。33こういうわけですから、愛する皆さん、主の晩餐〔聖餐式〕に集まる時は、皆がそろそろまで待ちなさい。34ほんとうに空腹な人は、家で食べなさい。それは、いっしょに集まりながら、自分の身に罰を受けないためです。

そのほかのことは、そちらに行ってから、お話ししましょう。

一二

1さて、皆さん。聖霊様があなたがたに授けてくださった特別な才能について、書きたいと思います。この点で、少しの誤解もないようにと願うからです。2覚えがあると

と思いますが、あなたがたはクリスチャンになる前、ひと言も口がきけない偶像のもとへ、あちこち出かけたものでした。 3ところが、いま接している人たちは、自分は神の御霊から託されたことばを語っている、と主張する人たちです。 その人たちがほんとうに神様に導かれているのか、それとも、ただそんなふりをしているだけか、どのようにして見分ければよいでしょう。 そのためには、次の点に注意しなさい。 すなわち、神の御霊の力を受けている者はだれも、イエスをのろうことはできないし、また、聖霊様の助けがなければ、だれも、ほんとうの意味で、「イエスは主です」と告白できない、という点です。 4ところで、神様は私たちに、いろいろな種類の特別な才能を与えてくださっていますが、みな、聖霊様から出たものです。 5神様への奉仕はいろいろですが、私たちは同一の主に使われているのです。 6神様は私たちの生活の中で、いろいろな方法で働きかけてくださいます。 しかし、神様のものとされた私たちの中で、また私たちを通してお働きになるのは、ただ一人の神様です。 7聖霊様は、教会全体の利益のために、私たちを通して神様の力を現わしてくださるのです。

8御霊様はある人に、賢明な助言者としての才能を与えておられます。 またある人には、研究し、人に教える点ですぐれた才能を与えておられます。 9また、ある人には特別な信仰を与え、ある人には病気を治す力を与えておられます。 10そのほか、奇蹟を行なう力が与えられている人もあれば、預言や説教をする力をいただいている人もいます。 また御霊様は、ある人には、「自分は神のことばを与えられている」と主張する人が、ほんとうに神の御霊によって語っているかどうかを見分ける力を、与えておられます。 そしてさらに、ある人には、異言〔今まで知らなかったことば〕で語る能力を与え、同時に、別の人にその異言を解き明かす能力を、授けておられるのです。 11こうしたすべての賜物と力は、同一の聖霊様が思いのままに、私たちにくださるのです。

12人体には多くの部分がありますが、その各部分が結び合わされて、一つの体が成り立っています。 キリスト様の「体」についても、同じことが言えます。 13私たちはそれぞれ、キリスト様の体の一部です。 ある者はユダヤ人、ある者は外国人、ある者は奴隷、ある者は自由人です。 しかし、聖霊様は、私たちをみな結び合わせて、一体としてくださいました。 私たちは、ただ一人の御霊様によって、キリスト様の体に結び合わされるバプテスマ（洗礼）を受け、みな、同じ神の霊を与えられているのです。

14確かに、体はただ一つの部分からではなく、多くの部分から成り立っています。 15たとえ足が「私は手ではないから、体の一部ではない」と言いはったところで、体の一部でなくなるわけではありません。 16また、もし耳が「私は耳で、目ではないから、体の一部ではない」などと言ったら、どうでしょう。 そんなことで、耳が体から離れることができますか。 17考えてもごらんください。 もし体全体が目であれば、聞くことができますでしょうか。 もし体全体が巨大な一つの耳なら、においをかぎることができるでしょうか。 18しかし、神様は私たちの体を、そのように造られたものではありません。 体のために多くの部分を造り、各部分を思い通りに配置されました。 19もし体が単一の器官で

きていたら、それこそ、ばけものです。 20ですから、神様は多くの器官を造られました。 しかし、やはり体は、ただ一つなのです。

21目が手に、「私には、あなたなんか必要じゃない」などとは、決して言えません。 また、頭が足に、「あなたなんかいない」とも言えません。

22それどころか、一番弱く、一番不要だと思われる部分が、実は、最も必要なのです。 23そうです。 私たちは、むしろ余分と思える部分が与えられていることを、特に喜ぶのです。 そして、人目にさらすべきでない部分は、人目から注意深く守ります。

24一方、見られてもよい部分は、もちろん、特別な注意を要しません。 そのように、神様は、あまり重要視されない部分が特別に重んじられ、注意深く扱われるように、体を組み立ててくださったのです。 25それは、各部分が幸福になり、互いにいたわり合うためです。 26もし一つの部分が苦しむなら、すべての部分が共に苦しみます。 そして、一つの部分が重んじられれば、すべての部分が喜ぶのです。

27そこで、私は次のことを言いたいのです。 すなわち、あなたがたは共に、キリストという一つの体であり、一人一人が、なくてはならない部分である、と。 28キリスト様は、自分の体である教会を形成する個々の部分として、人々を次のように任命されました。

使徒、

預言者〔神のことばを伝える者〕、

教師、

奇蹟を行なう者、

病気を治す力のある者、

人々を援助する者、

人々の働きを管理する者、

異言で話す者。

29皆が使徒でしょうか。 もちろん違います。 皆が説教者でしょうか。 違います。 皆が教師でしょうか。 皆が奇蹟を行なえるでしょうか。 30皆が病気を治せるでしょうか。 もちろん、そんなことはできません。 神様は全員に、異言で話す能力を与えておられるのでしょうか。 またそれを、皆が理解し、解き明かすことができるのでしょうか。

31そんなことはありません。 しかし、あなたがたは、これらの賜物より、もっと大切なものを、全力を尽くして求めなさい。

ところで、まず、これらの賜物よりもすぐれたものについて教えましょう。

一三

1たとい私に、異言（今まで知らなかったことば）で話す才能があり、また、天と地のあらゆることばを話すことができても、人を愛していなければ、ただの騒音にすぎません。

2同様に、預言をする才能があり、将来の出来事を予知し、あらゆることに通じていても、人を愛さないなら、何の役に立つでしょう。 また、山を動かすほどの強い信仰を持って

いても、愛がないなら、私には何の値打もないのです。 3そして、自分の財産を全部、貧しい人たちに分け与えても、また、良い知らせを宣傳えるために火あぶりの刑に甘んじて、愛がなければ、何の値打もありません。

4愛はきわめて忍耐強く、親切です。 愛は決してねたみません。 また、決して自慢せず、高慢になりません。 5決して思い上がり、自分の利益を求めず、無礼なふるまいをしません。 愛は自分のやり方を押し通そうとはしません。 また、いらいらせず、腹を立てません。 人に恨みをいだかず、人から悪いことをされても、気にしません。 6決して不正を喜ばず、真理が勝つ時は、いつも喜びます。 7だれかを愛する人は、どんな犠牲をはらっても、誠実であろうとするでしょう。 また、いつもその人を信じ、その人に最善を期待し、いのちがけで、その人を守り抜くでしょう。

8神様からいただいた特別の賜物や力は、いつかは尽きるものです。 しかし、愛は永遠に続きます。 預言すること、人の知らないことばで語ること、特別な知識などの賜物は、やがて消え去ります。 9たとい、特別な才能が与えられていても、いま私たちの知っていることは、ほんの一部にすぎません。 また、最高の才能に恵まれた人の説教でも、貧弱なものです。 10しかし、私たちが完全無欠な存在とされる時、これら不完全な賜物は不要になり、消え去ってしまうのです。

11それは、こんなことから説明できるでしょう。 子供の時の私は、子供のように話し、子供のように考え、子供のように判断していました。 しかし、大人になると、考え方も成長して、子供時代とは違い、今では子供っぽいこととは縁を切りました。 12同様に、今の私たちの神様に対する知識や理解は、そまつな鏡にぼんやり映る姿のようなものです。 しかし、やがていつかは、面と向かって、神様の完全な姿を見るのです。 いま私が知っていることはみな、おぼろげで、ぼんやりしています。 しかしその時には、いま神様が私の心を見通しておられるのと同様、すべてが、はっきりわかるでしょう。

13いつまでも残るのが三つあります。 信仰と希望と愛です。 その中で一番すぐれたものは愛です。

一四

1愛を、最高の目標にきなさい。 それと共に、聖霊様が与えてくださる特別な才能、特に、神様のことばを伝える預言の賜物を求めなさい。

2しかし、もしあなたが、異言を語る〔すなわち、今まで知らなかったことばで話す〕場合、それは神様への語りかけであって、人々へではありません。 人々には、そのことばが理解できないからです。 あなたは、御霊の力によって語るのですが、それはみな、秘密の事柄なのです。 3しかし、神様からのことばを語る者は、人々を励まし、慰め、人々の主にある成長を助けます。 4ですから、「異言を語る」者は、自分の信仰を成長させますが、神様のことばを語って預言する者は、教会全体が幸福になることと、きよくなることとを助けるのです。

5もちろん私は、あなたがたがみな、「異言を語る」才能を与えられることを望んでいます。

しかし、それにもまして、神様のことばを語って預言してくれることを望みます。なぜなら、聞いたこともないことばで話すよりも、預言することのほうが、はるかにまさっており、有益だからです。——もっとも、異言のあとで、その内容をわかるように説明できるなら、それも、少しは役立つでしょう。

6 愛する皆さん。私があなたがたのところで、異言を語ったとしても、どうしてプラスになるでしょう。しかし、もし神様から与えられたひらめきを語り明かし、また、いま私にわかっていることや、これから起こることや、神のことばの真理を語るなら、それは、あなたがたにとって必要かつ有意義なことです。7 異言で語るより、はっきりした、わかりやすい国語で語るほうがよいことは、笛やハープのような楽器のことを考えてみても、わかります。はっきりした音色が出なければ、どんな曲を演奏しているのか、だれにもわからないからです。8 もし軍隊のラッパ手が、はっきりした音を出さなければ、それが戦闘の合図であっても、兵士にはわかりません。9 相手に理解できないことばで話しかける場合も、同様です。まるで、だれもいない空間に、話しかけるようなものです。

10 世界には、非常に多くのことばがありますが、どのことばも、それがわかる人にはすばらしいものです。11 ところが私には、ちんぷんかんぷんなのです。そのようなことばで話しかけてくる人と私とは、お互いに外国人同士ということになります。12 あなたがたは、聖霊様が下さる特別の賜物を、熱心に求めているのですから、教会全体の益となるような、最善のものを求めなさい。

13 異言で話す才能を与えられている人は、そのことばを自分で理解する力も与えられるように祈りなさい。そうすれば、あとで、人々にわかりやすく説明できます。14 もし私が、自分でも理解できないことばで祈るなら、霊では祈っていても、自分では何を祈っているのかわかりません。15 では、どうすればよいのでしょうか。私は二通りのことをします。異言で祈り、また、だれにでもわかる普通のことばでも祈るのです。異言で賛美し、また、自分にもわかるように、普通のことばでも賛美するのです。16 もしあなたが、異言を用いて、霊だけで神様を賛美し、感謝をささげても、それを理解できない人たちは、どうして、いっしょに賛美できるでしょう。また、どうして、いっしょに感謝できるでしょう。17 確かに、あなたは心からの感謝をささげていることでしょう。しかし、そこにいる人たちには、何の益にもならないのです。

18 私は、個人的には、あなたがたのだれよりも多く「異言を語る」ことを、神様に感謝しています。19 しかし、公の礼拝の場では、異言で一万語話すよりも、人々に役立つ五つのことばを話すほうが、ずっとよいのです。

20 愛する皆さん。こんな道理がわからないような子供であってはなりません。悪事をたくらむことにかけては、無邪気な赤ん坊でありなさい。しかし、こうしたことを理解する点では、知恵のある大人になりなさい。21 旧約聖書に次のように書いてあります。神様は、外国語で自分の民に語るために、外国人を遣わされるが、それでもなお、民は耳を傾けない、と。22 「異言」は、信者のためではなく、信じない人々のさばき

のしるしとして語られるのです。けれども、預言〔神の深い真理を説くこと〕は、クリスチャンにとって必要なもので、クリスチャンでない者は、まだ、それを聞く準備ができていません。

23 それにしても、まだ救われていない人や、この才能を持っていない人が教会に来て、皆が聞いたこともない国のことばで語っている現場に出くわしたら、きっと気違いだと思いうでしょう。24 しかし、もしあなたがたが、神様のことばを語って預言しているなら〔たといその説教が、主として信者向けのものであっても〕、まだ救われていない者やクリスチャンになったばかりの者〔すなわち、そのようなことがわからない者〕も、みんなの説教によって、自分が罪人であると、はっきり自覚するでしょう。そして、耳にする一つ一つのことばによって、良心を刺されるでしょう。25 そのうちに、心の中の隠れた思いがあらわれ、ついには、「神様は、ほんとうにあなたがたと共におられます」と叫んでひれ伏し、神様を礼拝するでしょう。

26 さて、皆さん、私の言わんとすることをまとめてみましょう。あなたがたが集まる時には、ある人は賛美し、ある人は教え、ある人は神様から教えられた特別の知識を語ります。ある人は異言を話し、またある人は、その異言の内容を人々に説明します。ただし、これらはすべて、全体の益となり、一同が主にあって成長できるよう役立つものでなければなりません。27 異言で話すのは、せいぜい二人か、多くても三人どまりにしないさい。しかも、一度に一人が話し、その内容を解き明かせる人がそばにいないければなりません。28 もし解き明かしのできる人がいなければ、声に出して語ってはいけません。公に語るのではなく、ひとり言か、または神様に向かって語りなさい。

29 預言の才能に恵まれている人の場合も、一人ずつ二人か三人が預言しないさい。そして、ほかの人はみな、それを聞くのです。30 しかし、だれかの預言中に、別の人に主から特別のお告げとか考えが与えられたら、先に話していた人は口をつぐみなさい。31 このようにして、預言の才能に恵まれている人はみな、代わる代わる話しなさい。そして、だれもが学び、励まされ、助けを受けるのです。32 神様からことばを与えられている人は、自分の番まで自制して待つ能力も与えられていることを、忘れてはなりません。33 神様は、無秩序や混乱を喜ばれません。調和を愛する神様ですから、どの教会にも、この調和があるのです。

34 女は教会の集会では黙っていないさい。口をはさんではいけません。なぜなら、聖書にもはっきり記されているように、女は男に服従すべきだからです。35 もし何か質問があれば、家で夫に尋ねなさい。教会の集会で意見を述べることは、女としてふさわしくないからです。

36 この考えに文句がありますか。神様のお心を知るのは、自分たちコリントの信者だけの特権だ、とでも思っているのですか。それなら、まちがっています。37 預言の才能や、そのほか聖霊様が与えてくださる才能に恵まれていると自認する人はまず、私の主張自体が主からの命令であると、認めなければなりません。38 しかし、それでもな

お賛成できないなら、そんな人は、無知のまま放っておきましょう。

39ですから、信仰の友である皆さん、神様からのことばをはっきりと語れる預言者になれるよう、熱心に願いなさい。 また、「異言を語る」のはよくないなどと、決して言うてはなりません。 40ただし、何事も適切に秩序正しく行なうようにしなさい。

一五

1 さて、皆さん、良い知らせとはほんとうは何なのか、思い出してほしいのです。 というのも、それは少しも変質していず、以前あなたがたに宣べ伝えた良い知らせと同じものだからです。 あなたがたは、それを喜んで受け入れました。 そして今に至っています。 信仰が、このすばらしい知らせにしっかり根ざしているからです。 2 もし初めにいい加減な気持ちでその良い知らせを信じたのではなく、今もなお、それを堅く信じているのなら、この良い知らせは、あなたがたを救ってくれるのです。

3 私はまず第一に、かつて自分も知らされた、次のことを伝えました。 すなわち、キリスト様は、聖書に記されているとおり、私たちの罪のために死なれ、 4 葬られたこと、そして預言者たちの予告どおりに、三日目に墓の中から復活されたことです。 5 キリスト様はペテロに姿を現わし、そのあと「十二弟子」の残りの者の前にも立たれました。 6 そしてある時には、五百人以上のクリスチャンの前にも、姿をお見せになったのです。 その中の何人かはもう死にましたが、大部分は今も健在です。 7 それから、キリスト様はヤコブに、そして使徒たち全員に現われました。 8 そして最後に、未熟児みたいな私の前にも現われてくださったのです。 9 私は、使徒の中では一番ちっぽけな者であり、使徒と呼ばれる資格さえない者です。 神の教会の迫害者だったのですから。

10 しかし、今の私があるのは、ただひとえに、あふれるほどに注がれた神様の恵みと、あわれみとのおかげです。 この恵みとあわれみは、むだではありませんでした。 なぜなら、私はほかのどの使徒たちよりも、よく働いてきたからです。 とはいえ、実際に働いたのは私ではありません。 神様が私の内部で働き、祝福してくださったのです。 11 一番よく働いたのが、私であろうとだれであろうと、そんなことは問題ではありません。 大切なのは、私たちが良い知らせを宣べ伝え、あなたがたが、それを信じたという事実です。

12 しかし、これだけは言わせてください。 私たちが伝えたとおり、あなたがたが、キリスト様の死からの復活を信じているのなら、なぜ、「死んだ者は二度と生き返らない」と言ったりする人が出るのですか。 13 もし死人の復活がないなら、キリスト様は、今も死んだままのはずです。 14 もしそれが事実なら、私たちが宣べ伝えていることはすべてむだであり、神様に対するあなたがたの信頼もむなしく、価値のない、絶望的なものとなるのです。 15 そして、使徒はみな、うそつきということになります。 なぜなら、「神様はキリスト様を、墓から復活させられた」という私たちの主張は、もし死人の復活がないのなら、当然、うそになるからです。 16 もし死人が復活しないのなら、キリスト様は、今なお死んだまま、ということになります。 17 そして、神様が救ってくださ

ると信じ続けることは、全くばかげており、あなたがたは、今なお有罪宣告を受けたまま、ということになります。 18 また、すでに死んだクリスチャンは、みな、滅んでしまったことになります。 19 もしクリスチャンであることが、この世の生活でしか価値がないのなら、私たちほどみじめな者はありません。

20 しかし、事実、キリスト様は死人の中から復活しました。そして、復活が約束されている何千万何百万もの人の、復活第一号となられたのです。

21 一人の人〔アダム〕の行為によって、死がこの世に入って来ました。そして、このもう一人の人〔キリスト〕の行為によって、今や、死人の復活は事実となったのです。 22 人はみな、罪深いアダムの子孫として、その血縁のために、死ななければなりません。罪のあるところには、その結果として、死もあるのです。しかし、キリスト様と血縁関係にある者はみな、やがて復活します。 23 ただし、順番があります。最初にキリスト様が復活なさいました。次に、キリスト様が帰って来られる時に、彼に属する全員が復活します。

24 そのあとで、終わりが来ます。その時、キリスト様はあらゆる敵を滅ぼし、国を父なる神にお渡しになります。 25 王としてキリスト様が支配なさるのは、敵を全滅させる時までだからです。 26 その敵の中には、最終の敵である死も入っています。死もまた、打ち破られ、とどめを刺されなければならないのです。 27 というのは、キリスト様には、すべてのものを支配する権威が、父なる神から授けられているからです。ただ、すべてのものと言っても、この支配権をお授けになった父なる神だけは、もちろんキリスト様の支配下に含まれません。 28 キリスト様は、ついにあらゆる敵との戦いに勝利を収めると、神の子として、自分を父なる神の支配におゆだねになります。それは、子にすべてを征服する力をお授けになった神様が、最終的に、最高の存在となられるためです。

29 もし死人の復活がないのなら、死んだ人のためにバプテスマ（洗礼）を受ける人たちには、何の意味があるのですか。将来の死人の復活を信じてもしないのに、どうしてそんなことをするでしょう。

30 また、なぜ私たちは、いつも死に直面し、いのちの危険にさらされるのに、甘んじているのでしょうか。 31 事実、私は毎日、死に直面しています。このことは、あなたがたの主にある成長を、私が誇るのと同じように、確かなことです。 32 もし私が、この地上の生涯のために、野獣——それはエペソの人たちのことですが——と戦ったのだとしたら、どれだけの価値があるでしょう。死後の復活などありえないのなら、「大いに飲み食いして、愉快地に過ごそう。文句があるか。どうせ明日は死ぬ身だ。死ねば、何もかもおしまいなのだ」ということになります。

33 そう言う人たちにだまされてはいけません。それに耳を傾けていると、同じ状態に陥ってしまいます。 34 目を覚まして、罪を犯すのをやめなさい。恥をかかせるつもりで、あえて申しますが、あなたがたの中には、神様について実際には何も知らない、全

くクリスチャンらしくない人がいます。

35 しかし、こう聞く人もいるでしょう。「死人は、どのように復活するのですか。どんな体になるのですか。」 36 なんとばからしい質問でしょう。畑を見れば、わかるではありませんか。まいた種は、まず死ななければ、芽を出しません。 37 そして、その種から出る緑の芽は、初めの種とは全く別物です。土にまくのは、麦でも何でも、干からびた小さな種粒だからです。 38 ところが神様は、その種に、それぞれにふさわしい、美しく新しい体を与えてくださいます。それで、いろいろな種類の種から、それぞれ植物が生長してくるのです。 39 いろいろな種類の種や植物があるように、肉にもいろいろな種類があります。人間、獣、鳥、魚は、それぞれみな異なっています。

40 天の御使いは、私たちとは全く異なった体を持っています。その美しさや栄光は、人間の体の美しさや栄光とは異なっています。 41 太陽には太陽の栄光があり、月や星には別の栄光があります。一つ一つの星にも、美しさや輝きに違いがあります。

42 同じように、死んだら朽ち果てる、私たちの地上の体は、復活の時に与えられる体とは異なったものです。復活の体は決して死にません。 43 今の体は、病気や死で、私たちを悩まします。しかし、復活の時には、それは栄光に満ちたものとなるのです。確かに、今は死ぬべき弱い体ですが、復活の時には、力にあふれた体となるのです。 44 今は死ぬべき人間の体にすぎませんが、復活の時には、神様から与えられる超自然の体になります。自然のままの人体があるように、神様からの超自然の体も存在するのです。

45 旧約聖書には、「最初の人アダムは、自然のままの人間の体を与えられた」と書いてあります。しかし、キリスト様は、アダムより、はるかにまさった方です。なぜなら、いのちを与える方となられたからです。

46 初めはこのような体をまとっている私たちに、後には、神様が天上の体を下さるのです。 47 アダムは地上の土から造られた者ですが、キリスト様は天から来られた方です。

48 人間はだれでも、アダムと同じ土の体を持っています。しかし、キリスト様のものとなった人はみな、キリスト様と同じ、天から与えられる体を、持つようになるのです。

49 今アダムと同じ体を持っている私たちは、そのように、いつの日かキリスト様と同じ体を持つのです。

50 愛する皆さん。念を押しておきます。地上の、血と肉の体は、神の国から閉め出されます。今の私たちの体は死ぬべきもので、永遠に生きることはできません。 51 しかし、ここで驚くべきことを告げましょう。それは、神様のすばらしい特別の計画です。私たちは全滅するものではありません。新しい体をいただくのです。 52 終わりのラッパが鳴り渡る時、一瞬のうちに、そうなるのです。天からラッパの音が響くと、死んでいたすべてのクリスチャンは、たちまち、絶対に死なない、新しい体に復活します。次に、まだ生き残っている私たちもまた、一瞬にして、新しい体になるのです。 53 なぜなら、地上の、死ぬべき今の体は、天上の、決して死ぬことのない、永遠に生きる体に変えられなければならないからです。

54 この時、「死は勝利にのみ込まれた」という旧約聖書のことばが、現実となるのです。

55 56 「死よ。 おまえの勝利はどこにあるのか。

死よ。 おまえのとげはどこにあるのか。」

罪、すなわち死をもたらすとげは、ことごとく切り取られます。 そして、罪をあばくおきても、もはや私たちをさばきません。 57 これらすべてのゆえに、どう神様に感謝したらよいでしょう。 神様は、主イエス・キリストによって、私たちに勝利を与えてくださるのです。

58 そこで愛する皆さん、このように将来の勝利は確実なのですから、しっかり立って、動揺することなく、いつも、主の働きに熱心に励みなさい。 なぜなら、復活は確かであり、主のための働きが、決してむだ骨に終わらないことを、あなたがたは知っているからです。

一六

1 さて、エルサレムのクリスチャンあての献金については、次のようにお願いしたいのです。〔この件に関しては、ガラテヤの諸教会にも同様に通知しておきました。〕 2 日曜日ごとに、めいめいが、前の週の収入の一部を別にしておいて、この献金にあてなさい。その額は、主の助けによって得た収入に応じて決めなさい。 私がそちらに行ってから、一度に全部集めることなど、ないようにしてください。 3 私が着いたら、使者として信頼できる人たちを、あなたがたに選んでもらい、手紙をことづけて、エルサレムに派遣し、その愛の贈り物を届けさせましょう。 4 私も同行するほうがよければ、そうしましょう。 5 私は、まずマケドニアに行ってから、あなたがたを訪問する予定です。 マケドニアには、ちょっと立ち寄るだけです。 6 しかし、あなたがたのところでの滞在は、かなり長びくでしょう。 もしかしたら、ひと冬を過ごすかもしれません。 そうなれば、あなたがたに送られて、次の目的地へ向かえます。 7 今は、旅の途中でちょっとだけ会い、すぐにいとまごいなど、したくないのです。 主のお許しがあれば、しばらく滞在したいと思っています。 8 ただ、五旬節（ユダヤ教の祭りの一つ）までは、エペソを離れません。 9 というのは、ここで、良い知らせを宣べ伝えるための門戸が、広く開放されているからです。 しかし、それだけにまた、敵対する者も多いのですが……。

10 テモテが着いたら、あたたかく迎えてやってください。 私と同様、主の仕事に励んでいる人です。 11 彼が若いからといって、見下したり、無視したりしないでください。 そちらでのすばらしい体験を胸に、喜び勇んで、彼が帰って来られるようにしてください。 私は、彼の一行の帰りを、首を長くして待っています。 12 私はアポロにも、ほかの人たちと共にコリントへ行くよう、しきりに勧めたのですが、彼には、今、それが神様の望んでおられることだとは、どうしても思えないようです。 あとで機会があれば、行くでしょう。

13 目を覚まして、霊的な危険に身構えていなさい。 いつも、主に忠実でありなさい。 勇らしく行動し、強くありなさい。 14 すべての点で、親切と愛から出た行動をとりな

さい。

15 ステパナとその一家を覚えているでしょう。ギリシヤで最初にクリスチャンになった人たちです。今、あちこちのクリスチャンのために、熱心に援助や奉仕の活動をしています。16 どうか、彼らの指示には従ってください。また、彼ら同様、あなたがたのために真心から献身的に働いている人たちを、できる限り助けてください。17 ステパナとポルトナトとアカイコの来訪を、心から喜んでいます。この人たちは、離れていて手助けできないあなたがたに代わって、助けてくれたのです。18 彼らから私が受けた励ましは大きく、たいへん勇気づけられました。あなたがたもきっと、同様に励まされたことでしょう。心から感謝してほしいのです。

19 アジヤの諸教会から、くれぐれもよろしくとのこと。アクラとプリスカ、また、礼拝のためにその家に集まっている人々がみな、心からよろしくと言っています。20 こちらの友人たち全員が、よろしくとのこと。あなたがたも、会った時には、互いに愛のこもったあいさつを交わしなさい。

21 この手紙の最後のことは、私が自分で書きます。22 もし主を愛さない人があれば、その人はのろわれます。主イエスよ、来てください。23 主イエス・キリストの愛と恵みが、あなたがたと共にありますように。24 私の愛が、キリスト・イエスにあつて、あなたがた一同と共にありますように。

パウロ

■

コリント人への手紙 II（コリント教会の皆さんへ II）

キリストの教えを伝えるのは、決して楽なことではありません。むしろ苦しいことのほうが多いでしょう。著者パウロの場合も、まさに苦難の連続でした。先の手紙で、コリント教会の問題が完全に解決したわけではありませんでした。特に、パウロが使徒かどうか引き続き問題になっていました。この手紙でパウロは、自分が使徒であることをくり返し主張しています。そのほか、いつも貧しい者を助けるように、というような実際問題も、述べられています。

一

1 神様からキリスト・イエスの使者に任命されたパウロと、信仰の友テモテから、コリントおよびギリシヤ全土に住むすべてのクリスチャンへ。 2 どうか、私たちの父なる神と主イエス・キリストが、あなたがた一人一人に、あふれるほどの祝福と平安とを、注いでくださいますように。

3 4 私たちの神様は、なんとすばらしいお方でしょう。神様は、主イエス・キリストの父であり、あらゆる慈愛の源です。そして、私たちが苦しみや困難にあえいでいる時、すばらしい慰めと励ましを与えてくださるお方です。 どうしてでしょう。それは、苦しみの中にあって、同情と励ましを必要としている人々に、私たちも、神様から受ける助けと慰めを与えることができるからです。 5 私たちがキリスト様のために苦しめば苦しむほど、慰めと励ましが、もっと豊かにキリスト様から与えられるという事実、これは確かです。 6 7 私たちが大きな苦しみ会遇到のも、あなたがたが神様の慰めと救いを受けるためです。 現に、苦しんでいる私たちを、神様は慰めてくださいました。それはまた、あなたがたのためでもあるのです。 すなわち、あなたがたが同じような苦しい境遇に立たされた時、神様の慰めが、どれほどやさしいものであるかを、私たちの体験から知るためです。 神様は必ず、苦しみに耐え抜く力を与えてくださるのです。

8 愛する皆さん。 私たちがアジャでなめた苦しみについて、ぜひ知っていただきたいと思います。 非常に激しい迫害を受け、打ちのめされて、もうこれ以上生き延びるのはむりかと思いました。 9 死を覚悟し、自分の無力さを痛いほど思い知らされました。 しかし、それがよかったのです。 というのは、そんな状態の中で、何もかも神様にお任せしたからです。 救い出すことができるのは、神様だけです。 死人を復活させることさえ、できるお方なのですから。 10 やはり、神様は私たちを助け、恐ろしい死の危険から救い出してくださいました。 そしてこれからも、何度でも、救い出してくださいるに違いありません。 11 あなたがたもまた、祈りによって私たちを助けてください。 それは、私たちの安全を願う、その祈りに、神様がはっきりと答えてくださるのを見て、あなたがたが、もっともっと感謝と賛美をささげるようになるためです。

12 私たちは、どのような場合にも、自分の知恵に頼らず、助けてくださる主に静かに信頼し、きよさと誠実さをもって行動してきました。 特にあなたがたには、そのようにふ

るまってきました。胸を張ってそう言えるのを、とてもうれしく思います。 1314 私の手紙は、単刀直入に、しかも、真心をこめて書いたものです。どちらにも取れるあいまいなことは、決して書いていません。それで、たとい今は、私についてあまりよく知らないあなたがたでも〔もっとも、いつかはよく知っていただきたいのです〕、私を受け入れ、私を誇りとしてくださるよう望みます。もちろん、今も、ある程度そうしてくれています。ちょうど、主イエスがもう一度帰って来られる日に、私があなたがたを誇りにするのと同じようにです。 1516 あなたがたの私に対する理解と信頼を確信したので、次のような計画を立てました。すなわち、マケドニアへ向かう途中、まずコリントであなたがたに会い、また帰りにも立ち寄るという計画でした。そうすれば、あなたがたは二倍の祝福を受けることができ、私も、あなたがたに送られて、ユダヤへ行けるからです。

17では、なぜ計画を変更したのか、と尋ねるかもしれません。その決心が、まだ固まっていなかったからでしょうか。それとも、私も世間の人のように、ほんとうは「いいえ」のつもりで「はい」と言ったりしたのでしょうか。 18絶対にそんなことはありません。私がそんな人間でないことは、神様の真実さと同様に確かです。私の「はい」は、ほんとうに「はい」なのです。

19テモテとシルワノと私は、神の子キリスト・イエスについて語ってきました。この方は、「いいえ」の意味で「はい」と言われる方ではありません。いつも、ことばどおり実行なさいます。 20また、どれほどたくさんの神様の約束でも、ことごとく実行し、完成なさいます。それで私たちは、この方がどんなに真実な方か、すべての人に知らせ、その御名をほめたたえるのです。 21あなたがたや私を、忠実なクリスチャンとし、また私たちを、良い知らせを宣べ伝える使徒に任命してくださったのは、この神様です。 22また、神様のものとなった証拠の印を私たちに押し、私たちの心に聖霊様を遣わしてくださったのも神様です。この聖霊様は、私たちが神様のものであることの保証であり、また、神様が下さる最初の贈り物です。

23この神様に証人となっていていただき、少しの偽りもない真実を述べましょう。私がまだ、あなたがたを訪問しないでいるのは、きびしくしかりつけて悲しい思いをさせたくないからです。 24コリントへ行く時には、〔もっとも、すでにしっかりした信仰を持っているあなたがたのために、私は、そうお役に立てるわけではありませんが〕あなたがたを喜ばせることをしたいと願っています。悲しみではなく、喜びをもたらしたいのです。

二

1私は、「コリントの人々を苦しめるような訪問は、二度とすまい」と、自分に言い聞かせました。 2もし私があなたがたを悲しませているとしたら、どうして喜べるでしょう。私を喜ばせることができるのは、あなたがただけです。それなのに、私があなたがたを苦しませているとしたら、どうして喜ばせてもらえるでしょう。 3前の手紙であのように書いたのは、私が行く前に、あなたがたの手で、事を処理してもらいたかったからです。

そうすれば、会って、一番喜ばせてくれるはずの人たちから、悲しい思いをさせられなくてすむでしょう。あなたがたの喜びと私の喜びとは、切っても切れない関係なのですから。私が喜び勇んで行くのでなければ、あなたがたも、幸福な気持ちにはなれません。

4 どんなにつらい思いであの手紙をしたためたことか！ 胸も張り裂けんばかりの思いで、正直なところ、泣いてしまったのです。傷つけるつもりなどさらさなく、あなたがたをどれほど愛しているか、また、あなたがたの間で起こった問題をどんなに心にかけているか、ぜひ知ってもらいたかったのです。

5 6 覚えておいてください。あの手紙に書いた、今度の事件の張本人は、私を悲しめたというより、あなたがた全体を悲しめたのです。——もっとも、私もずいぶん悲しい思いをしましたが。私はその人に対して、必要以上にきびしい態度をとりたくありません。彼は、みんなから責められて、もう十分罰を受けています。7 今はむしろ、赦し、慰めてやりなさい。そうしないと、あまりの悲しみと絶望に打ちひしがれて、立ち直れなくなるかもしれません。8 ですから、あなたがたが今もってどんなに深くその人を愛しているか、どうぞ示してやってください。

9 私の手紙は、あなたがたが、どのくらい私の指示に従ってくれるかを、確かめるためのものでした。10 あなたがたがだれかを赦すなら、私もその人を赦します。何であれ、私が赦したのは、キリスト様の権威によって、あなたがたのために赦したのです。11 赦さなければならない理由は、ほかにもあります。それは、サタンにあざむかれたいからです。私たちは、サタンのたくらみを知っているのですから。

12 さて、私がトロアスの町まで行った時、主は、良い知らせを宣べ伝える、絶好の機会を与えてくださいました。13 ところが、そこでは、信仰の友である、愛するテトスに会えなかったのが、彼がどこにいるのか、その身に何か起こったのではないかと、気がかりでなりません。そんなわけで、何とかしてテトスに会おうと、人々に別れを告げ、まっすぐマケドニアに向かったのです。

14 しかし、神様に感謝します。神様は、キリスト様のお働きのゆえに、私たちを、勝利の行進に加えてくださいました。その目的は、私たちがどこにしようと、今、神様が私たちを通して、主のことを他の人々に告げ知らせ、良い知らせを、かぐわしい香水のように、あたりに広めてくださることです。15 神様に関するかぎり、私たちの生活には、すばらしい、かぐわしい香りが漂っています。それは、私たちのうちにあるキリスト様の香りであって、回りの救われている人々にも、救われていない人々にも、一つの香りなのです。16 救われていない人々にとっては、私たちは死と滅びの恐れに満ちた香りのように思われます。けれども、キリスト様を知る人々にとっては、いのちを与える香りなのです。しかし、このような任務にふさわしい者とは、いったいどんな人でしょう。

17 それはただ、私たちのように、神様から遣わされて、真心から語る者、キリスト様の力によって、神様の前で語る者だけです。私たちは、よく人がするように、神様のことを都合よく曲げて、売り歩くようなことはしません。

三

1 私は今、偽教師のまねをして自己推薦を始めているのでしょうか。あなたがたの身近にいる偽教師たちは、自分で自分を推薦したり、あなたがたあての長い推薦状を持って行ったりしなければならないような人たちです。しかし私は、だれからも推薦状を書いてもらう必要などないと思っていますが、いかがでしょう。また、あなたがたからの推薦状も必要ではありません。2 私に必要な推薦状は、あなたがた自身です。あなたがたの心の、そのすばらしい変わりようを見れば、だれにも、私たちの良い働きは一目瞭然です。3 あなたがたは、私たちが書いたキリスト様からの手紙であることが、だれにもわかります。それは、ペンとインキで書かれたのではなく、生きておられる神の御霊によって書かれたものです。石の板ではなく、人の心に刻み込まれた手紙です。

4 大胆にこのような自慢をするのは、キリスト様を通して、心から神様に信頼しているからに、ほかなりません。すなわち、神様は必ず、私たちのことばが真実となるよう助けてくださる、と信じているからです。5 不変の価値があることを、自分の力でできる、と考えているからではありません。私たちの力も成功も、ただ神様から来るのです。6 神様は、人々を救う新しい契約について、人々に知らせることができるよう、助けてくださいました。私たちは、「神様のおきてを全部守れ。さもないと滅びるぞ」と教えているのではありません。「聖霊様が新しいいのちを下さる」と教えているのです。「十戒」を守って救われようとする、古い方法の行き着く先は死です。しかし新しい方法によれば、聖霊様からいのちをいただけるのです。

7 けれども、死に通じる、おきてによる、その古い方法も、初めは輝かしい栄光をおびていたのです。その栄光のまばゆさに、イスラエルの人々は、モーセの顔をまともに見られないほどでした。従うべき神のおきてを示した時のモーセの顔は、神の栄光そのもので光り輝いていたからです。——もっとも、その輝きは、やがて消え去る運命にあったのですが。8 とすれば、聖霊様がいのちを与えてくださる、この今の時には、はるかにすばらしい栄光を、期待できるのではないのでしょうか。9 死に通じる計画にも栄光があったのなら、人々を神様との正しい関係に導く計画には、なおさら、栄光が満ちあふれるのです。10 事実、モーセの顔の最初の栄光は、新しい契約の圧倒的な栄光に比べたら、取るに足りないものです。11 もし消え去ってゆく古い方法にも、天の栄光が満ちていたとすれば、私たちの救いのために立てられた神様の新しい計画には、はるかにまさった栄光があるはずで、それは永遠に続くものだからです。

12 この新しい栄光は、決して消え去らないと確信しているので、私たちはきわめて大胆に語れるのです。13 そして、モーセのように、栄光の消えていく様子をイスラエルの人々から隠すため、顔に覆いをかけたりはしません。

14 覆いがかけられたのは、モーセの顔だけではありません。イスラエルの人々の思いや、理解力も、覆われたのです。今でも、聖書が朗読される時、ユダヤ人の心と意思には、厚い覆いがかかっているように思えます。というのは、聖書のほんとうの意味を知

ることも、理解することもできないからです。この覆いは、キリスト様を信じてはじめて、取り除かれるのです。15確かに、今日でも、彼らがモーセの書を朗読する時、その心には覆いがかかったままです。それで、「十戒」に従うことこそ救われる道だ、と考えているのです。

16しかし、だれでも罪に背を向け、主のほうに向く時、その覆いは取り除かれます。17主は、いのちを与えてくださる御霊です。御霊のおられるところには自由があります。〔それは、神のおきてを守って救われようとするところからの解放です。〕18しかし、私たちクリスチャンには、顔の覆いがありません。鏡のように、主の栄光をはっきり映すことができます。そして、主の御霊がうちで働いてくださるにつれて、私たちはますます主に似た者となるのです。

四

1神様の良い知らせを伝えるという、このすばらしい務めに、私たちが任命してくださったのは、神様ご自身です。それは、あわれみによるのです。ですから、私たちは、決して落胆しません。2信じさせるために、あれこれたくらむようなまねはしません。だましたりは、したくないのです。書かれてもないことを、聖書の教えであるかのように思わせることも、決してしません。そのような恥ずかしい方法は、絶対に用いません。語る時には、神様の前に立って真実を語ります。私たちを知っている人はみな、このことを認めてくれるはずです。

3もし私たちの宣べ伝える良い知らせが、だれかの目に隠されているとしたら、永遠の滅びに突っ走っている人に対してです。4それは、この邪悪な世の神であるサタンのしわざです。目隠しをさせて、その人の上に輝いている良い知らせの栄光が、見えないようにしているのです。また、まことの神、キリスト様の栄光に関する、私たちのすばらしい証言を、理解できないようにしているのです。5私たちは、自分のことを宣伝しているわけではありません。主であるキリスト・イエスのことを、宣べ伝えているのです。自分については、ただ、イエス様が私たちのために成し遂げてくださったことを知ったので、あなたがたに仕える者となった、とだけ言っておきます。6というのは、「やみの中に光が輝け」と言われた神様が、私たちに、イエス・キリストの顔にある神の栄光の輝きを、理解させてくださったからです。

7しかし、このすばらしい宝〔いま私たちのうちに輝いている光と力〕は、こわれやすい器〔私たちの弱い肉体〕の中に入っています。うちにある、その栄光に満ちた力が、確かに神様から与えられたものであって、私たち自身から出たものでないことは、だれの目にも明らかです。

8私たちは四方八方から苦しめられ、圧迫されますが、押しつぶされ、打ちのめされることはありません。「どうしてこんなことが……」と途方にくれるようなことが起きても、絶望して投げ出したりはしません。9迫害されていても、神様は決してお見捨てになりません。打ち倒されても、また立ち上がって、前進を続けます。10この体は、かつ

てのイエス様がそうであったように、いつも死に直面しています。ですから、私たちを安全に守ってくださる方は、うちに生きておられるイエス様だけであることが、だれの目にも明らかになるのです。

1 1 まことに、私たちは、主に仕えているために、絶えず死の危険にさらされています。しかし、そのことでかえって、死ぬべき私たちの体によって、イエス・キリストの力を明らかに示す機会が、常に与えられているのです。1 2 私たちは、良い知らせを宣べ伝えているために、死に直面しています。しかしその結果、あなたがたに永遠のいのちが与えられるのです。

1 3 旧約聖書の詩篇の作者は、「私は信じている。それゆえに語る」と言いました。同じように私たちも、自分が神様の守りの中にあることを確信して、信じていることを大胆に語ります。1 4 主イエス様を死から復活させてくださった神様が、私たちをもイエス様と共に復活させ、あなたがたといっしょに御前に立たせてくださることを、信じています。1 5 こんな苦しみに甘んじているのも、あなたがたのためを思うからです。キリスト様に導かれる人が増えれば増えるほど、その大きな恵みを感謝する気持ちがますます満ちあふれ、主の栄光がますます明らかになるのです。

1 6 ですから、私たちは決して落胆しません。肉体はしだいに衰えますが、うちにある力は日ごとに強くなってゆきます。1 7 今の私たちの苦しみや悩みは、結局のところ、取るに足りないものであり、それほど長続きもしません。しかも、このつかの間の苦しみは、永遠に尽きない、あふれるばかりの、神様の祝福をもたらすのです。1 8 ですから私たちは、いま見えるもの、すなわち、身の回りの苦しみには目をとめません。むしろ、今は見えない天にある喜びを望み見ているのです。苦しみは、やがて消え去ります。しかし、その喜びは、永遠に続くのです。

五

1 私たちがいま住んでいる、天幕の家が取りこわされると〔すなわち、私たちが死んでこの肉体を離れると〕、天にある新しい体、永遠に保証された家がいただけるのです。それは、人の手ではなく、神様の手でつくられた家です。2 今のこの体には、もう飽き飽きしています。だからこそ、天上の体をまるで新しい着物のようにまとえる日を、首を長くして待っているのです。3 それを着れば、体のない霊だけの状態にいることはないからです。4 この地上の体のために、嘆きやうめきがありますが、だからといって、死んで、体のない状態になりたいとは思いません。その新しい体にもぐり込みたいと願うばかりです。そうすれば、この死ぬべき体が、言わば、永遠のいのちに吞み込まれてしまうからです。5 これこそ、神様が私たちのために用意してくださったことであり、その保証として、聖霊様を遣わしてくださったのです。

6 いま私たちは、確信をもって、天上の体を待ちこがれています。また、このように地上の体で過ごしている間は、イエス様と共に過ごす、天上の永遠の家から離れていることも、よく知っています。7 実際に見ることによってではなく、信じることによって、こ

れを事実と認めているのです。 8ですから、少しも恐れません。むしろ、死ぬことは願わしいのです。それは、天の家に主と共に住むことを意味するからです。 9そういうわけで、地上でこの肉体でいようと、肉体を離れて主と共に天にいようと、私たちの目的は、何をするにも、いつも主に喜ばれることです。 10なぜなら、やがて私たちはみな、キリスト様の前で、さばきを受けなければならず、全生活がさらけ出されることになるからです。善であれ悪であれ、地上の体でいる時の行ないに応じて、私たちはそれぞれ、ふさわしい報いを受けるのです。

11ですから、私たちの心には、いつも主を恐れかしこむ厳粛な思いがあります。それで、ほかの人々を説得しようと、やっきになっているのです。それが純粋な気持ちから出ていることを、神様はご存じです。だから、あなたがたにも、このことをはっきり知っていただきたいと、心から願っているのです。

12またもや、私たちが自己推薦を始めたと思いますか。そうではありません。ただ、あなたがたに手ごろな武器を供給しようとしているのです。この武器があれば、外見のりっぱさと説教のうまさとを誇りながら、その実、心の中は偽りと不誠実で満ちている説教者に対抗できます。少なくともあなたがたは、私たちの動機が正しく、しかも誠実である点を誇ることができるのです。 13 14自分のことをこのように言うとは、気が狂っているのでしょうか。もし気が狂っているとすれば、それは神様の栄光のためです。もし正気であるなら、あなたがたのためです。確かに、私たちは何をするにしても、自分の利益を求めるのではなく、キリスト様の愛に動かされて、しているのです。キリスト様が私たちすべてのために死んでくださったことを信じる以上、自分が、今までの古い生活に対して死んだことも信じなければなりません。 15キリスト様は、全人類のために死んでくださいました。それは、キリスト様から永遠のいのちをいただいて生きる人がみな、もはや自分を喜ばせるためではなく、自分のために死んで復活されたキリスト様に喜ばれるように生きるためです。 16ですから、世間の評判や、外見の良し悪しで、クリスチャンを評価するのはやめなさい。以前、私は、その誤った考え方で、キリスト様のことを、単に自分と同じ人間とみなしていました。しかし今では、その考えは一変しました。 17だれでも、クリスチャンになると、内側が全く新しくされます。もはや今までと同じ人間ではありません。新しい人生が始まったのです。

18この新しい出来事はすべて神様から出ています。神様は、キリスト・イエスのお働きによって、私たちをご自分のもとに連れ戻してくださいました。そして、この恵みによる神様との和解を、すべての人に勧める特権をも、私たちに与えてくださったのです。

19つまり、キリスト様によって、この世をご自分と和解させ、その罪を数え立てずに、かえって、帳消しにしてくださったのです。これが、人々に伝えるようにと私たちにゆだねられた、すばらしい知らせです。 20私たちはキリスト様の大使です。神様が、私たちの口から語りかけるのです。あたかも、キリスト様がここで懇願しておられるかのように、お願いします。どうか、せつかく差し出された愛を拒まず、神様と和解して

ください。 2 1 というのは、神様は、罪のないキリスト様に私たちの罪を背負わせ、それと引き換えに、私たちに恵みを注いでくださったからです。

六

1 私たちは、神様と共に働く者として、お願いします。 神様の大きな恵みに関する、すばらしい知らせを聞き逃さないように、気をつけてください。 2 神様はこう言われるからです。

「歓迎の門が大きく開かれている恵みの時に、

あなたの叫びはわたしに届いた。

救いが差し出されている日に、

わたしはあなたを助けた。」

まさしく今、神様はあなたがたを、喜び迎えようとしておられます。 今日、救おうとしておられます。

3 私たちの行動が、だれかをつまずかせたり、主との出会いを妨げたりすることがないように、生活態度には気をつけています。 私たちの欠点が、主を非難する口実に用いられたら大変だからです。 4 事実、あらゆる点で、自分がほんとうに神様に仕える者であることを示そうと努めています。 次から次へと襲ってくる悩み、苦しみ、困難にも、しんぼう強く耐えています。 5 むちで打たれたことも、投獄されたことも、怒り狂う暴徒に取り囲まれたこともありました。 ある時は力尽きるまで働き、ある時は一睡もせずに夜を明かし、また食べる物のない日もありました。 6 健全な生活と良い知らせに対する理解と、忍耐とによって、自分の口に偽りが無いことを証明してきました。 いつも親切にし、愛に富み、聖霊様に満たされてきました。 7 何をするにも、神様の力に助けられて、真実を貫いてきました。 神様を敬う人に備わる、すべての武器——防衛と攻撃の武器——を、いつも手にしていました。

8 人に尊敬されようと軽べつされようと、あるいは非難されようと賞賛されようと、主への忠誠に変わりはありません。 人からはうそつきと呼ばれようと、私たちは正直です。

9 この世から無視されても、私たちは神様に認められています。死に直面しながら生きていても、こんなに生き生きしています。 傷つけられたこともありますが、死を免れてきました。 10 心に痛みがありますが、主の喜びも同時に持っています。 貧しくても、ふんだんに霊の贈り物をしています。 何も持っていなくても、あらゆるものに満たされています。

1 1 愛するコリント教会の皆さん。 私は心にあることをみなお話ししました。 私は心の底から、あなたがたを愛しているのです。 1 2 今なお私たちの間に冷たいものがあるとしても、私に愛が欠けているせいではありません。 あなたがたの愛があまりにも少なく、私まで届かないのです。 1 3 今、実の子供に対するように、あなたがたに話しています。 どうか心を開いてください。 私たちの愛にこたえてください。

1 4 主を愛していない者の仲間入りをしてはいけません。 神の民と罪の民との間に、い

ったいどんな共通点があるでしょう。 光と暗やみとが、どうして共存できるでしょう。

15 キリスト様と悪魔との間に、なんの調和がありえましょう。 クリスマスは、信じていない人と、どうして手をつなぐことができましょう。 16 神の宮と偶像との間に、なんの一致があるでしょう。 あなたがたは神の宮であり、生ける神の住まいなのです。神様はあなたがたについてこう言われました。

「わたしは彼らのうちに住み、
その間を歩む。

わたしは彼らの神となり、
彼らはわたしの民となる。」

17 それゆえ、主はこう言っておられます。

「彼らから立ち去り、縁を切れ。
その汚れたものに触れてはならない。
そうすれば、わたしはあなたがたを迎え入れ、

18 あなたがたの父となり、
あなたがたはわたしの息子、娘となる。」

七

1 愛する皆さん。 私たちは、このようにすばらしい約束を与えられているのですから、肉体と霊を汚すいっさいの悪ときっぱり縁を切って、自分をきよめようではありませんか。そして心から恐れかしこみつつ、ただ神様だけに、自分をささげようではありませんか。

2 どうか、もう一度心を開いてください。 だれ一人、私たちから害を受けた人はいないはずです。 また、惑わされた人もいません。 私たちがだましたことも、人をうまく利用したこともありません。 3 あなたがたをしかったり、責めたりするつもりで、こう言うものではありません。 前にも言ったように、私はいつも心の中であなたがたのことを思い、あなたがたと生死を共にしているのです。 4 限らない信頼を寄せ、あなたがたを、たいへん誇りに思っています。 おかげで大いに勇気づけられました。 さまざまの苦しみの中でも、いつも幸福でした。

5 マケドニアに着いた時、私たちには、少しの安らぎもありませんでした。 外側には四方八方に困難が立ちふさがり、内側は恐れと不安でいっぱいでした。 6 その時、意気消沈している者を励ましてくださる神様は、テトスの到着によって、元気づけてくださいました。 7 また、テトスの到来もさることながら、彼があなたがたのところですばらしい時を過ごしたと聞いて、とてもうれしく思いました。 あなたがたが、どんなに私の訪問を待ちこがれているか、この前の事件でどんなに嘆き悲しんでいるか、また、どんなに私に忠実であり、心から愛してくれているかを、彼が報告してくれました。 それを聞いて、私はほんとうに喜びました。

8 あの手紙を書き送ったことを、もう後悔してはいません。 実は、あれが、あなたがたをどんなに苦しめたかを知って、一時はとても後悔したのです。 けれども、あなたがた

を苦しめたのは、つかの間にすぎませんでした。 9 今では、あの手紙を送ってよかった、と思っています。 苦しめたからではなく、その苦しみのおかげで、あなたがたが神様に立ち返ったからです。 それは、神様がご自分の民に経験させたいと望んでおられる、良い意味での悲しみだったのです。 もうこれで、そちらに行ってきたきびしくしからないうすみます。 10 罪と縁を切らせ、永遠のいのちを求めさせるために、時々、神様は、悲しみを与えます。 そのような悲しみを、嘆いてはなりません。 しかし、クリスチャンでない人の悲しみは、真の悔い改めの悲しみではなく、永遠の死を食い止める力がありません。

11 考えてもごらんなさい。 主が与えられたこの悲しみは、どんなに益となったことでしょう。 あなたがたはそこで絶望せず、かえって、私が手紙で指摘した罪を取り除こうと、真剣に誠意をもって、しかも熱心に努力しました。 あんな出来事が起こったことに恐れをいただき、私の来訪と助けとを心から願うに至りました。 正面からこの問題に取り組み、罪を犯した者を処罰して、問題を解決しました。 実際、事態を正しく処理するために、あなたがたは、できる限りのことをしたのです。

12 あの手紙は、あなたがたが、どんなに私たちのことを心にかけていてくれるか、主の前で明らかにするために書きました。 実は、これこそ、例の罪の張本人や被害者である父親を助けること以上に、私が願ったことなのです。

13 こうして、あなたがたの愛を知り、私たちは大いに勇気づけられました。 その上、テトスの喜びが加わって、喜びも倍増しました。 あなたがたがテトスをあたたかく迎え入れ、くつろがせてくれたおかげです。 14 テトスの出発前に、私は、あなたがたのことを誇りに思っていると話しておきましたが、よくぞ信頼にこたえてくれました。 私はいつも真実を語ってきましたが、テトスに誇ったことも、うそではなかったと証明されたのです。 15 テトスは、あなたがたが彼のことに喜んで耳を傾け、非常な心づかいと深い関心をもって受け入れてくれたことを思い出しては、今まで以上に、あなたがたへの愛を深めています。 16 いま私たちの間には、以前と同様、なんのわだかまりもなくなり、ほんとうにうれしくてたまりません。 再び、あなたがたに全幅の信頼を寄せることができるのです。

■

八

1 ところで、神様が、マケドニアの諸教会にどんな恵みを施されたか、お知らせしたいと思います。

2 多くの試練や困難のただ中にあったマケドニアの諸教会が、ひどい貧しさにもかかわらず、喜びに満ち、その結果、惜しみなく、あふれるほど他の人々に施すようになりました。

3 自分たちの力に応じてささげたばかりでなく、力以上にささげました。 誓ってもいいのですが、私がやかましく催促したからではなく、自発的にそうしたのです。 4 「エルサレムのクリスチャンを援助できるなんて光栄です。 ぜひその献金の仲間に入れてくだ

さい」と、熱心そのものでした。 5 何よりもすばらしいのは、彼らが期待をはるかに超えることをしてくれた点です。 まず、自分自身を主にささげ、また私たちにもゆだねてくれました。 つまり、神様が私たちを通して、どんなことをお命じになっても、それに従うためです。

6 このような献金に対する彼らの熱意を見て、私たちはテトスに、あなたがたのところへ行くよう強く勧めたのです。 初めに献金を勧めたテトスが、この際、あなたがたを励まして、献金の奉仕を完了させるのがよいと思ったからです。 7 あなたがたは、多方面にわたって指導的立場にある人々です。 あつい信仰も持っています。 すぐれた説教者も大ぜいいます。 広い知識、燃えるような熱心、私たちに対するあふれるほどの愛も持っています。 そこで今、喜んでささげるという精神においても、指導者になっていただきたいのです。 8 これは命令ではありません。 献金しなければならない、と言っているわけではありません。 ただ、ほかの人々の献金に対する熱心さを話しているのです。 でも、この献金の奉仕は、あなたがたの愛が、単に口先だけにとどまらず、真実のものだと証明する、一つの手段にはなるでしょう。

9 あなたがたは、主イエス・キリストが、どんなに愛と恵みに満ちておられたかを知っています。 あれほど富んでおられた主が、あなたがたを助けるために、あれほど貧しくなられました。 その貧しさによって、あなたがたを富む者とするためでした。

10 一年前に始めたことを、この際、やり遂げてみたらどうでしょう。 この献金を最初に申し出たのも、最初に実行に移したのも、あなたがたなのですから。 11 あんなに熱意をもって始めたのですから、自分の持っているものの中から、ささげられるものは、みなささげ、喜んでこの計画を完成すべきです。 最初の熱意が、現在の行動にも現われてほしいものです。 12 ささげる熱意がほんとうにあるなら、いくらささげるべきかは、問題ではありません。 神様は、持っていないものまで、ささげるようにとはおっしゃいません。

13 私は、献金を受ける人たちが、あなたがたの犠牲によって楽をするのは当然だと言っているのではなく、 14 両者が分け合うべきだと言っているのです。 現在あなたがたは豊かなので、彼らを援助できます。 そして、今度いつか、あなたがたに助けが必要な時は、彼らが助けてくれるでしょう。 こうして、互いに、必要なものを受け取るのです。

15 このことについて、旧約聖書に何と書いてあるか、覚えていますか。 「多く集めた者も余ることがなく、少ししか集めなかった者も足りないことがなかった」とあります。 ですから、困っている人たちと分け合いなさい。

16 テトスも私と同じように、心からあなたがたのことを思っています。 テトスをこのような気持ちにさせてくださった神様に感謝します。 17 彼は私の勧めに喜んで従い、もう一度あなたがたのところへ行こうとしています。——もつとも、私が勧めなくても、彼はやはり行くことにしたでしょう。 心から、あなたがたに会いたがっているのですから。 18 もう一人の、よく知られている友人を同行させます。 この人は、キリスト様

喜んで分けることができるのです。 9 聖書にこう書いてあるとおりです。

「神を敬う人は、貧しい人々に惜しみなく与える。

その良い行ないは、永遠に名誉となる。」

10 農夫にまく種を与え、そのあとに、食べるための収穫物をふんだんに与えてくださる神様は、あなたがたにも、まく種をもっとたくさん下さり、それをふやしてくださいます。すると、あなたがたはその収穫の実をもっともっとたくさん、人に与えることができるのです。

11 そうです。 神様からたっぷりいただいたあなたがたは、人にもたくさん贈ることができるのです。 そして、私たちが、その贈り物を必要としている人々に届ける時、そこには感謝が満ちあふれ、あなたがたの援助のゆえに神様への賛美がわき上がるのです。 12

そういうわけで、その贈り物は、二つのすばらしい結果を生み出します。 すなわち、困っている人々が助けられること、そして、彼らの神様に対する感謝の念が満ちあふれることです。 13 援助を受けた人々は、自分たちや他の人々に対する気前のよい贈り物に大喜びするだけでなく、あなたがたが教えに忠実に行動している証拠を見て、神様をあがめることでしょう。 14 また、あなたがたを通して神様のすばらしい恵みを知り、熱心に真心から、あなたがたのために祈るようになるでしょう。

15 神様のひとり息子という、言い表わせないほどすばらしい神様の贈り物を感謝します。
一〇

1 お願いがあります。 このパウロが、キリスト様の態度にならって、おだやかにお願いします。 あなたがたの中には、今でも、「パウロは遠く離れていると、ずいぶん強気じゃないか。 ところが面と向かうと、大きな声も出せないほど、弱気になるんだからなあ」と言っている人がいます。

2 私がそちらに行って、わざわざ、きびしく大胆にふるまってみせなくてもすむように、と願っています。 もっとも、私の言動が普通の人間と少しも変わらないと、たかをくくっている人々に対しては、きびしく大胆にふるまうつもりですが……。 3 私のごくあたりまえの弱い人間であることは事実です。 しかし私は、戦いに勝つために、人間的な計画や方策を用いません。 4 悪魔の要塞を打ち破るために、人間の手によらない、神様の強力な武器を使います。 5 この武器は、神様に逆らう、あらゆる高慢な議論と、人々の目から神様を隠している、あらゆる壁を打ち砕きます。 この武器を用いて、私は、反抗する者を捕虜として神様に連れ戻し、回心させて、キリスト様に従わせます。 6 まず、あなたがたにこの武器を向け、キリスト様に従わせたあとで、残りのすべての反抗する者に、挑戦するのです。

7 あなたがたは私を、弱々しく無力な人間だと思っています。 それが問題なのです。 うわべしか見ていません。 けれども、もし必要があれば、私だってキリスト様の力と権威を見せることができるのです。 8 あなたがたに対する権威——それは人を助けるためのものであり、傷つけるためではありません——を、必要以上に誇っているように見えるか

もしれません。しかし、それについては多少誇りすぎても、恥とはならないでしょう。
9 こう言うのも、手紙での叱責が、ただの脅しと受け取られたくないからです。

10 こう言う人もいます。「パウロの手紙なんか気にするな。偉そうなことを言っても、口先だけさ。実際に会ってみればよくわかるよ。いかにも頼りなげで、あれほどへたな説教者はいないな。」
11 こんな人たちに対しては、今度そちらに行ったら、手紙の文面どおり、きびしくふるまうつもりです。

12 よく、自分はたいへんすぐれた人物だと、自己宣伝をする人がいますが、私は、そのまねをするつもりはありません。彼らは、ただ、お互いに比較し合ったり、つまらない尺度で、自分を評価したりするのです。なんてばかげたことでしょう！

13 しかし私たちは、持ってもいない権威を誇るようなことはしません。私たちの目標は、神様が立ててくださった計画を実行することです。それには、そちらであなたがたのために働くことも含まれています。
14 私たちは、自分の分もわきまえずに、権威をふり回しているわけではありません。キリスト様についての良い知らせを、最初にあなたがたに伝えたのは、私たちなのですから。
15 ほかの人の業績を、自分のものだと主張しているではありません。ただ、あなたがたの信仰が成長し、〔私たちに許された限度内であっても〕あなたがたの間での私たちの働きが、大いに広がることを望んでいるのです。

16 そして、さらに遠くの町々、まだだれも働いていない町々にまで、良い知らせを宣べ伝えることができるのです。そうすれば、だれかの活動領域を荒らしたというような問題は、起きないでしょう。
17 「誇りたい者は、主のなさったことを誇れ。自分を誇るな」と旧約聖書にあるとおりです。
18 自分を誇り、その業績を自慢する人は、つまらない人間です。しかし、主の推薦を受ける人は、真に価値ある人です。

――

1 私が愚か者のように話し続けるのを、こらえてください。私の心のうちを、我慢して聞いてください。
2 神様の深い思いやりをもって、あなたがたのことを心にかけています。ちょうど清純なおとめが、やがて夫となる人に愛をささげるように、あなたがたが、ただキリスト様だけをひたむきに愛するよう願っているのです。
3 しかし、エバがエデンの園でサタンに惑わされたように、キリスト様に対する、きよい純真な献身の思いが消えてしまうのではないかと、心配でたまいません。
4 あなたがたときたら、どうもだまされやすく……。だれかが、私たちの伝えたのとは違う教えを伝えたり、あなたがたが受けた聖霊様とは違う霊を伝えたり、あなたがたが救われたのとは違う救いの道を教えたりしようものなら、それを信じてしまうのですから。

5 けれども、そんなお偉い自称「神の使者たち」が私よりすぐれているとは思いません。

6 たとい口べたであっても、少なくとも、自分が話している内容は、よく知っています。それは何度も証明してきたことなので、もうよくわかっていることと思います。

7 あなたがたから何の報酬も受けずに、神様の良い知らせを宣べ伝えたことは、まちがい

だったのでしょうか。　そのために自分を安っぽく見せて、見下げられてしまったのでしょうか。　８９何の負担もかけないで奉仕したいと、あなたがたのところにいる間、他の諸教会から送ってもらって、つまり「奪い取って」、その費用をひねり出していたのです。それが底をついて、食べる物に事欠いた時も、あなたがたにはいっさい要求しませんでした。　マケドニヤのクリスチャンたちが、別の贈り物を持って来てくれたからです。　あなたがたに、ただの一円も求めたことのないこれまでと同様、今後もそのつもりでいます。

１０このことは、あらん限りの真実にかけて、ギリシヤに住むすべての人に約束します。

１１なぜそうするのでしょう。　あなたがたを愛していないからだとでも？　とんでもない。　どれほど愛していることか！　神様がご存じです。　１２しかし、今のやり方を、これからも続けるつもりです。　それは、私たちと同じように神様のために働いている、と誇る人たちの根拠を、くつがえすためです。

１３彼らは、決して神様から遣わされた者ではありません。　「ペてん師」です。　人をだまして、てっきりキリスト様の使徒だと思い込ませるのです。　１４しかし、今さら驚きもしません。　サタンでさえ、光の御使いに変装できるのです。　１５ですから、サタンの手下どもがまねして、敬虔な牧師になりすましたとしても、別段、驚くことはありません。　最後には、その悪事にふさわしい罰を、徹底的に受けるのです。

１６もう一度お願いします。　こんなことを言う私が、理性を失ったなどとは、思わないでください。　しかしまた、それならそれで、「理性を失った愚か者」のことばに、とにかく耳を傾けてください。　あの人たちみたいに、私も少しばかり誇ってみせます。　１７こんな自慢話は、主に命じられてするものではありません。　私は、知恵のない愚か者のつもりなのですから。　１８自分の偉さをしきりに言いふらす、ほかの人のまねを、してみましよう。　１９〔りこうさを誇るあなたがたなのに、よくも、ほくほく顔で、あの愚か者たちの言うことを聞いていますね。　２０奴隷にされても、持ち物を奪われても、利用されても、いばられても、顔をたたかれても、よく平気でいられますね。　２１口にするのも恥ずかしいことですが、私は弱くて、とてもそんなまねはできません。　しかし、彼らが誇るくらいのことは何でも——またもや愚か者に甘んじますが——私だって誇れるのです。〕

２２彼らは、ヘブル人だと自慢しているのですか。　私もヘブル人です。　神様の選びの民、イスラエル人だと言うのですか。　私もそうです。　アブラハムの子孫ですか。　私もそうです。

２３彼らは、キリスト様に仕えていると言うのですか。　しかし、私はもっと仕えてきました。　〔こんなに自慢をする私は、気でも狂ったのでしょうか。〕　彼らよりずっと苦勞して働いてきました。　投獄されたこともかなりの回数に及び、むち打たれたことは数えきれず、何度も何度も死に直面しました。　２４ユダヤ人から、三十九回の恐ろしいむち打ちの刑を受けたことが五度あります。　２５それから、むちで打たれたことが三度、石で打たれたことが一度、難船したことが三度、一昼夜、海上を漂ったことが一度あります。

26 幾度も長い苦しい旅をし、川がはんらんしたり、強盗に襲われたり、同国人からも外国人からも迫害されたりして、何度も危険な目に会いました。 町々では暴徒に取り囲まれ、荒野や嵐の海でやっと命びろいしたこともあります。 クリスチャンだと自称しながら、実はそうでない人たちに苦しめられたこともあります。 27 疲れ果て、苦しみ、たびたび眠れない夜を過ごしました。 飢え渴き、食べ物もなく過ごしたことも、しょっちゅうです。 また服もなく、寒さに震えていたこともありました。

28 こんなことのほかに、絶えず、諸教会がどうなるかという心配をかかえています。 29 誤った道を進んでいる人を見て、悲しまないでいられるでしょうか。 倒れている人を見て、知らん顔ができるでしょうか。 精神的に痛手を受けている人を見て、傷つけた相手を激しく怒らずにいられるでしょうか。

30 しかし、もしどうしても誇る必要があるなら、私はむしろ、自分を弱く見せる事柄を誇ります。 31 主イエス・キリストの父なる神、永遠にほめたたえられる方は、私が真実を語っているのをご存じです。 32 一つ例をあげましょう。 ダマスコで、アレタ王の代官が、私をつかまえようと、町の門を厳重に見張っていました。 33 しかし私は、町の城壁の穴から、綱のついたかごでつり降ろされ、逃げる事ができたのです。 これは、よく知られている出来事です。

一二

1 こんな自慢話は全くばかげていますが、もう少し我慢してください。 私の見た幻と、主から示されたことについてお話ししたいのです。

2 3 十四年前、私は天に引き上げられました。 肉体のままか、それとも霊だけがか、なんてことは、聞かないでください。 私にはわからないのです。 答えられるのは、神様お一人です。 しいずれにしても、私はパラダイスに引き上げられたのです。 4 そこで、人間にはとうてい表現できない、驚くべきことを耳にしました。 [とにかく、その内容を人に話すことは、禁じられています。] 5 こんな経験こそ、自慢するに値します。

しかし、自慢しようとは思いません。 私が誇ろうとしているのは、自分の弱さと、そして、こんなに弱い私を、ご自分の栄光のために使ってください、神様の偉大さだけです。

6 私には誇るべきことが、たくさんあるのですから、たとい誇っても、愚か者にはならないでしょう。 しかし私は、だれにも、私の生活やことばから実際に見聞きする以上に、買いかぶってほしくないのです。

7 このことも、つけ加えておきましょう。 この経験があまりにすばらしかったので、神様は、私が高ぶってはいけないと心を配られました。 それで、肉体に一つのとげを与えられたのです。 それは、高慢にならないように、苦痛を与え、悩ますための、サタンの使いです。 8 私は、もとどおりに回復させてくださいと、三度も神様にお願いしました。

9 そのつど返ってくる答えは、こうでした。 「いや、治すまい。 しかし、わたしはあなたと共にいる。 それで十分ではないか。 わたしの力は弱い人にこそ、最もよく現われるのだから。」 今では、私は、自分の弱さを喜んで誇ります。 力や才能を見せびらか

すのではなく、喜んでキリスト様の力の生き証人になりたいのです。 10 すべてはキリスト様のためであることを知っているのも、その「とげ」も、侮辱も、苦しみも、迫害も、困難も、大いに喜んでいます。 なぜなら、弱い時にこそ、私は強いからです。——無力であればあるほど、それだけしっかりと、キリスト様によりすがようになるからです。

11 結局、私を、自慢ばかりする愚か者にしてしまいましたね。 ほんとうは、こんなに私に書かせるべきではなく、あなたがたが私のことを書くべきなのです。 たとい私が全く価値のない者であるとしても、あのお偉い先生方と比べて、劣る点は何一つありません。

12 私はあなたがたのところで、自分がほんとうに神様から遣わされた使徒である証拠を、すべて明示したではありませんか。 つまり、多くの驚くべきこと、しるし、力ある働きを、忍耐強く行なったのです。 13 私がほかのどの教会の場合とも違って、あなたがたには、しなかったことが、一つだけあります。 負担をかけなかったことです。 食物や住む場所のことで、何一つやかかいになりませんでした。 この不公平については、どうか赦してください。

14 今、私はあなたがたのところに行こうと、三度目の計画を立てています。 今度も、あなたがたには負担をかけないつもりです。 私がほしいのは、お金ではなく、あなたがた自身だからです。 いずれにしても、あなたがたは私の子供です。 小さな子供は親を食べさせる必要はありません。 その逆です。 親が子供を食べさせるのです。 15 私はあなたがたを霊的に養うためなら、喜んで自分自身でも持ち物すべてでも、すっかり差し出します。 たとい、私が愛すれば愛するほど、ますます、うとまれるようになって、そうします。

16 あなたがたの中には、こう言っている人がいます。「確かに、パウロは来ても、何の負担もかけなかったように見える。 だが、あいつは卑劣なやつだから、きっと陰で、うまいこと金をまきあげていたに違いない。」

17 どうして、そんなことができたでしょう。 私が行かせた人たちのうち、だれか、あなたがたを利用しましたか。 18 私はテトスにコリント行きを勧め、また、ほかの友人を同行させました。 彼らがあなたがたをだまして、何かもうけ仕事をしたのでしょうか。 もちろん、そんなことはしませんでした。 私たちは、同じ聖霊様をいただき、同じ歩調で歩いて、同じ方法で行動しているのですから。

19 よく思われないばかりに、こう書くのだ、と思っていることでしょう。 でもそれは、全く見当違いです。 神様の前で、宣言しておきます。 愛する皆さん。 私がこう書いてきたのは、あなたがたを助けるため、その信仰を成長させるためであって、自分のためではありません。 20 心配なことがあります。 私がそちらに着いてみると、期待はずれの状態で、そのため、あなたがたの望まないような行動をとらざるをえない事態が生じないかということです。 もしかしたら、そちらでは、争い、ねたみ、怒り、横暴、悪口、陰口、高慢がいっぱいで、秩序がすっかり乱れているのではないのでしょうか。 21 実際、あなたがたの面前で、神様が私を、穴があつたら入りたい思いにされるのではないでしょ

うか。そして、前々から罪を犯していながら、その邪悪で汚れた行ない——好色、不道徳、他人の妻の横取りなど——を全く気にもかけていない多くの者を見て、悲嘆にくれるのではないのでしょうか。このことが、ほんとうに心配なのです。

一三

1 あなたがたのところへ行こうとするのは、これで三度目です。旧約聖書には、「二人か三人に目撃された悪事は罰せられなければならない」とあります。〔ところで、これは、今度の訪問にあたっての、三度目の警告です。〕2 私は、前回の滞在中、前から罪を犯していた人たちに、すでに警告しておいたはずですが、今また、彼らばかりか、あなたがた全員にも、同様に警告します。今度あったら、きびしく罰するつもりです。容赦はしません。

3 あなたがたは、キリスト様がほんとうに私を通して語っておられるかどうか、知りたいのでしょから、その証拠を示します。キリスト様は、あなたがたに弱い態度をとられるのではなく、あなたがたの内部で強大な力を発揮なさいます。4 キリスト様の人間としての弱い体は、十字架上で死にました。しかし今や、キリスト様は、神様の偉大な力を受けて生きておられます。私たちもキリスト様同様、肉体的には弱い者でしたが、今はまた、キリスト様に似て、強く生きる者となっています。そして、あなたがたに対処するに十分な神の力を、いただいているのです。

5 よくよく自分を吟味しなさい。ほんとうにクリスチャンだと言えますか。クリスチャンとしてのテストに合格していますか。自分の内に住まれるキリスト様と、そのあふれる力とを、いよいよ強く実感していますか。それとも、事実とは裏腹に、ただクリスチャンのふりをしているだけですか。6 私たちはこのテストに合格し、確実に主のものとなっています。このことを、あなたがたに認めてほしいのです。

7 あなたがたが正しい生活をするように祈っています。それは、私たちの教えの正しさが証明され、面目を施したいからではありません。たとい私たちは軽べつされようとも、あなたがたには、正しい行ないをしてもらいたいからです。8 私たちの務めは、いついかなる時にも、正しいことを勧めることであって、悪を望むことではありません。9 自分は弱くて軽べつされても、あなたがたがほんとうに強くなってくれば、うれしいのです。最大の願いと祈りは、あなたがたが一人前のクリスチャンになってくれることです。

10 今この手紙を、そちらに行って、しかったり罰したりしないですむようにと願いつつ、書いています。私に託されている主の権威を、あなたがたを罰するためではなく、強くするために使いたいからです。

11 最後に、次のように書いて、筆を置きます。

喜びなさい。

キリスト様に属する者として成長しなさい。

私のことばを心にとめなさい。

互いに仲よく、平和に過ごしなさい。

どうか、愛と平和の神様が、あなたがたと共にいてくださいますように。

12 主にあって、互いに親しみをこめて、あいさつを交わしなさい。 こちらのクリスチャン全員が、心からよろしくと言っています。 13 どうか、主イエス・キリストの恵みが、あなたがたと共にありますように。 神様の愛と聖霊様との交わりが、あなたがたのものとなりますように。

パウロ

■

ガラテヤ人への手紙（ガラテヤ教会の皆さんへ）

「……らしく」ということばがあります。 その場合、心の内側より、外面を整えようとしがちではないでしょうか。 それは、そのほうが容易だからです。 著者パウロが生きていた二千年前もやはり同じでした。 ガラテヤのクリスチャンにとって、これは大きな問題でした。彼らは規則を守り、評判のよい生活をする人が正しい人間だと、思い違いをしていたのです。 著者は自分の経験から、人は心が変われば、自然に正しい行ないができることに気づいていたのです。

—

1 2 伝道者パウロと、こちらにいるクリスチャン全員から、ガラテヤの諸教会の皆さんへ。私は、どこかの団体から伝道者に任命されたものではありません。 イエス・キリストと、彼を死人の中から復活させた父なる神から、直接任命されたのです。 3 どうか、父なる神と主イエス・キリストが、平安と祝福をあなたがたに与えてくださいますように。 4 キリスト様は、父なる神の計画どおり、私たちの罪のために死に、この悪の世界から、救い出してくださいました。 5 この神様に、すべての栄光が世々かぎりなくありますように。 アーメン。

6 私は、こんなにも早く、あなたがたが神様から離れていくことに驚いています。 神様はあなたがたに、キリスト様を通して永遠のいのちを与えようと、愛と恵みをもって招いてくださったのではありませんか。 それなのに、もうあなたがたは、別の「天国への道」に踏み込んでいます。 そんなものは、全く天国への道からかけ離れています。 7 私が教えた道が、唯一の天国への道なのですから。 あなたがたはキリスト様に関する真理をゆがめ、変質させる者たちに、だまされているのです。

8 私たちが伝えた救いの道以外の道を説くような者は、だれでも——この私であろうと——神様にのろわれるべきです。 そうです。 天から下って来た御使いであっても、永遠にのろわれるべきです。 9 もう一度言います。 だれであっても、あなたがたが受けた良い知らせとは違うものを伝えるなら、神様にのろわれるべきです。

1 0 おわかりと思いますが、私は、甘いことばやおせじで、人の歓心を買おうとはしません。 ただ、神様に喜ばれようとしているのです。 もし私が今もなお、人の歓心を買いたがっているのなら、キリスト様に仕える者とはなれません。

1 1 愛する皆さん。 これは厳粛なことなのですが、私が伝えた天国への道は、単なる人間の思いつきや夢に基づくものではありません。 1 2 イエス・キリストから示された教えにほかなりません。 語るべきことは、イエス・キリストが教えてくださったのです。 この方以外のだれからも、指示されたわけではありません。

1 3 以前、ユダヤ教徒であったころの私については、よくご存じのことでしょう。 情け容赦なくクリスチャンを追い回して迫害し、その壊滅に全力を尽くしました。 1 4 国中捜しても、同年輩で、私ほど熱心なユダヤ教徒はいなかったでしょう。 とにかく、古く

からある、先祖伝来のユダヤ教の規則を全部守ろうと、やっきになっていました。

15ところがその時、あることが起こったのです。生まれる前から、私をご自分のものとして選んでおられた神様が、驚くべき愛と恵みをもって、召し出してくださったのです。

16そして私に、神の子イエス様を示してくださいました。それは、私にユダヤ人以外の外国人を訪ねて、イエス様についての良い知らせを伝えさせるためです。

この体験後、私はすぐだれかに相談するようなことはしませんでした。17私より前から使徒に任命されていた人々の意見を聞くために、エルサレムに上ろうともしませんでした。私は、アラビアの荒野に出て行き、それからダマスコの町に戻ったのです。18ペテロに会うために、エルサレムを訪問したのは、三年後のことです。その時、十五日間ペテロのところに滞在しました。19その間、ペテロのほか会った使徒と言えば、主の兄弟ヤコブだけです。20〔私のことばをよく聞いてください。実に神様の前で、こう述べているのですから。これは、実際に起こったことなのです。うそではありません。〕21エルサレム訪問のあと、私はシリヤとキリキヤに出かけました。22ですから、ユダヤのクリスチャンは、私の顔さえ知らなかったのです。23ただ、彼らの間には、「以前われわれの信仰をつぶそうとした敵が、今はそれを宣べ伝えている」といううわさだけは広まっていました。24それで、私のことで神様をほめたたえていたのです。

二

1それから十四年たって、私はもう一度、エルサレムに上りました。その時はバルナバもいっしょで、テトスも同行させました。2このエルサレム行きは、神様からの明確な指示に基づいたもので、私が外国人に伝えている教えについて、エルサレムのクリスチャンと話し合うのが、目的でした。私は、教会の指導者たちと個人的に話し合いました。それは、私の教えてきた内容を、正しく理解してもらい、また、その正統性を認めてもらいたかったからです。3彼らは、それを承認してくれました。そればかりでなく、私の仲間のテトスにも——彼は外国人であったのに——割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を強要しませんでした。

4だいたいこの問題は、いわゆる「クリスチャン」の連中——ほんとうは偽クリスチャンなのですが——さえ、もぐり込んで来なければ、生じなかったはずですが。実は、彼らはスパイのように偵察し、私たちがキリスト・イエスを信じて得た自由がどんなものか、また、はたしてユダヤ教のおきてに従っているかどうかを、探ろうとしていたのです。奴隷を鎖でつなぐように、彼らの規則で私たちをがんじがらめにしようと、たくらんだわけです。5しかし私たちは、ほんの一時も、連中に耳を貸しませんでした。「割礼を受け、ユダヤ教のおきてを守ることによって救われる」などという考えで、あなたがたを混乱させたくなかったからです。

6エルサレム教会のおもだった指導者たちも、私の宣べ伝えている内容に、何もつけ加えたりしませんでした。〔ついでに言えば、彼らがおもだった偉い指導者であることは、問題ではありません。神様の前では、みな同等だからです。〕7-9事実、教会の柱として

知られている、ヤコブとペテロとヨハネは、外国人を救いに導くために、神様がどんなにすばらしく、私を役立ててくださったか〔ちょうど、ユダヤ人伝道のために、ペテロが大いに祝福され、役立てられたように〕を認めてくれました。 というのも、同一の神様が、私たちに特別の賜物を与えてくださるからです。 彼らは、バルナバと私に握手を求めました。 そして、「われわれは、ユダヤ人を対象として伝道します。 あなたがたは、外国人への伝道をそのまま続けてください」と、励ましてくれました。 10 ただ一つ、貧しい人たちを援助することをいつも忘れないように、との申し出がありましたが、そのことなら、私も熱心に努めてきたところです。

11 ところが、そのペテロがアンテオケに来た時、非常に誤った行動をとったので、私は面と向かって激しく非難しました。 12 実は、ペテロは、初めのうち、割礼にもユダヤ教のさまざまなおきてにも煩わされない外国人のクリスチャンと共に、食事をしていたのです。 ところが、あとからヤコブの友人であるユダヤ人が何人かやって来ると、彼らにとにかく言われるのを恐れて、外国人と食事をするのをやめてしまいました。 そのユダヤ人たちは、おきてを守ることを重んじる形式主義者で、救われるためには割礼を受けなければならない、と主張していたからです。 13 すると、ほかのユダヤ人クリスチャンも、心中うしろめたさを感じるくせに、ペテロのまねをして、本心を偽った行動をし、バルナバまでが、その偽りの行動に巻き込まれてしまいました。

14 私はそれを見て、彼らが自分の信じていることに対して不誠実であり、福音の真理に従っていないことを知りました。 そこで、皆の面前で、ペテロに言ったのです。 「あなたは生まれながらのユダヤ人なのに、もうずっと前から、ユダヤ教のおきてに束縛されないで生きてきたではありませんか。 そのくせ、どうして急に、この外国人にそれを守らせようとするんですか。 15 もちろんあなたも私も、生まれながらのユダヤ人で、外国人のような罪人ではありません。 16 けれども、私たちユダヤ人クリスチャンだって、ユダヤ教のおきてを守ることによって、神様の前で正しい者と認められたのではなく、ただ、罪を取り除いてくださるキリスト・イエスを信じる信仰によってのみ、認められたではありませんか。 だからこそ、私たちもキリスト・イエスを信じたのです。 それは、おきてによってではなく、信仰によって、神様に認められるためです。 おきてを守って救われる人など、一人もいないのですから。」

17 しかし、もし、キリスト様の救いを信じた私たちに、あとになって、それはまちがいった、やっぱり割礼を受け、ユダヤ教のおきてもみな守らなければ救われない、とわかったとしたら、どうなるでしょうか。 キリスト様を信じたおかげで、さんざんな目に会ったことになるわけです。 しかし、私たちの主に関するかぎり、そんなことは、絶対にありえないのです。 18 もし、前に打ちこわした方法——ユダヤ教のおきてを守ることで救われようとする方法——をもう一度打ち建てようとするなら、むしろ、それこそ罪なのです。 19 というのは、おきてに従おうと努力しても——それは失敗以外にないのです——神様の恵みは決して受けられないことが、聖書を読んでわかったからです。 キリ

スト様を信じてはじめて、神様に受け入れられることが、はっきりわかったのです。

20 私はキリスト様と共に十字架につけられました。もはや、私自身が生きているのではありません。キリスト様が、私のうちに生きておられるのです。私のためにご自身をささげてくださいった神の子を信じた結果、今、私の体のうちには、ほんとうのいのちが与えられています。21 私は、キリスト様の死にはしません。もし私たちが、ユダヤ教のおきてを守ることによって救われるなら、キリスト様が死ぬ必要など、なかったはずですから。

三

1 ああ、ガラテヤの皆さん。なんと物わかりが悪いのでしょうか。いったいどんな魔術師にだまされて、魔法にかけられたのですか。私は、十字架上で死なれたキリスト様の姿を、絵のようにありありと目の前に示して、その死の意味をはっきりと教えたではありませんか。2 一つだけ聞いておきます。あなたがたは、なぜ聖霊様をいただくことができたのですか。ユダヤ教のおきてを守ろうと努力したからですか。もちろん、そんなはずはありません。キリスト様のことを聞き、その救いを信じてはじめて、聖霊様はあなたがたのところに来てくださったのです。3 とすると、あなたがたの頭がおかしくなったとしか考えられません。信仰生活の出発点は、ユダヤ教のおきてを守ろうと努力する点にはありませんでした。それなのに、どうして、もっと強いクリスチャンになるために、おきてに従おうと努力するのですか。4 福音のために、あれほど多くの苦しみを経験したあなたがたが、今は、その福音をあっさりと投げ捨ててしまうのですか。とても信じられないことです。

5 もう一度聞きます。なぜ神様は、あなたがたに聖霊様の力を与え、奇蹟を見せてくださったのですか。ユダヤ教のおきてを守ろうと努力したからですか。絶対にそうではありません。キリスト様を信じ、全くお任せしたからです。

6 アブラハムも同じ経験をしました。彼は神様の約束を信じたというだけで、天国へ入る資格を与えられたのです。7 このことから、心から神様に信頼する人はだれでも、アブラハムの真の子孫となることがわかります。

8 聖書は、信仰を持った外国人が救われる、この時のことを、予告してきたのです。神様がずっと昔、アブラハムに、「どこの国の人であろうと、あなたのようにわたしを信頼する人を、祝福しよう」と宣言された時、このことを意味しておられたのです。9 そういうわけで、キリスト様に信頼する人はみな、アブラハムと同じ祝福をいただくのです。

10 ユダヤ教のおきてに頼って救われようとする者は、神様にのろわれます。なぜなら、聖書には、「神の律法の書にあるおきてを一つでも破る者は、のろわれる」とはっきり書いてあるからです。11 したがって、ユダヤ教のおきてを守ろうと努力したからといって、だれ一人、神様の恵みを受けることはできないわけです。なぜなら、神様の前で正しい者と認められる道は、信仰による以外にない、と神様が言っておられるからです。預言者ハバククが「正しい人は信仰によって生きる」と語ったとおりです。12 この信仰に

よる道は、おきてによる道とは、なんと違うことでしょう。 おきてによる道は、おきてを一つ残らず完全に守ることによって救われる、と教えているのですから。 13 ところが、本来なら、私たちが自分の悪い行ないゆえに受けなければならないのろいを、キリスト様は、自分の身に引き受けてくださったのです。 そして、滅びる以外にない状態から、私たちを救い出してくださいました。 なぜなら、聖書に、「イエスが木の十字架にかけられたように」「木にかけられる者はだれでも、のろわれた者である」と書いてあるからです。 14 今では、神様は、アブラハムへの約束と同様の祝福を、外国人にも与えておられます。 そして、私たちはみなクリスチャンとして、この信仰によって、約束の聖霊様をお迎えできるのです。 15 愛する皆さん。 日常生活で人間同士が約束をかわす場合でも、文書にして署名したら、もう変更はできません。 あとになって、約束を破ることはできないのです。

16 ところで、神様は一つの約束を、アブラハムとその「子」にお与えになりました。 ここで「子ら」にではなく、「子」に与えられたと言われている点に、注意してください。「子ら」と言えば、アブラハムの子孫であるユダヤ人全部を指すことになります。 しかし、「子」と言えば、もちろんキリスト様を意味するのです。 17 私の言わんとすることはこうです。 つまり、信仰によって救うという神様の約束——神様はそれを文書にし、署名されました——は、その後四百三十年たって、神様が「十戒」をお与えになった時にも、無効とされたり、変更されたりはしなかったということです。 18 もしおきてによる救いが可能であれば、それは明らかに、アブラハムが恵みを受けた方法とは別ものだとわかります。 アブラハムは、ただ神様の約束を信じたただけなのですから。

19 では、そもそもおきては、何のために与えられたのでしょうか。 それは、神様の約束につけ加えられたものであり、おきてを破ることがどんなに罪深いことかを、人々に示したのです。 ただし、このおきての有効期間は、その約束の指し示す「子」、すなわち、キリスト様が来られる時まででした。 さらにこのほか、次のような点も指摘できます。神様はおきてを、御使いたちを通してモーセにお与えになり、モーセがそれを、民に告示したのです。 20 しかしアブラハムは、約束を、御使いやモーセのような仲介者を通してではなく、神様から直接与えられたのです。

21 とすると、神様のおきてと約束とは、互いに対立するのでしょうか。 もちろん、そんなことはありません。 もし私たちが、おきてによって救われることができたのであれば、それで事はすんだはずです。 罪の力から逃れるための、別の道が開かれる必要など、なかったのです。 22 聖書は、私たちはみな、その罪の力に閉じ込められている、と宣告しています。 そこから解放されるには、イエス・キリストを信じる信仰による以外にありません。 この脱出の道は、キリスト様を信じるすべての人に開かれています。

23 キリスト様が来られるまでは、私たちはおきてに監視されていました。 やがて来られる救い主を信じることができるようになるまで、いわば、保護と監督を受けていたのです。

24 言い替えてみましょう。 ユダヤ教のおきては、キリスト様が来て、信仰によって、神様の前で正しい身分を与えてくださるまでの間、私たちの教師であり、案内役だったのです。 25 しかし、キリスト様が来られた今となつては、もう、私たちを監視し、キリスト様に導くおきては不要です。 26 私たちはみな、すでに、イエス・キリストを信じる信仰によって、神様の子供となったからです。 27 バプテスマ（洗礼）を受けてキリスト様と一体とされた今は、キリスト様に包み込まれているのです。 28 もはや、ユダヤ人とギリシヤ人、奴隷と自由人、男と女というような区別はありません。 みな同じクリスチャンであり、キリスト・イエスにあって一つなのです。 29 そして、キリスト様のものとなった今、私たちは、ほんとうの意味でアブラハムの子孫であり、アブラハムに与えられた神様の約束を、すっかり手に入れたのです。

四

1 しかし、次の点に心をとめてください。 ある父親が、小さな子供にばく大な財産を残して死んだとします。 その場合、子供は、実際には父の全財産の持ち主ではあっても、大きくなるまで、奴隷とほとんど変わらない立場にあります。 2 つまり、父の定めた年齢に達するまでは、後見人や管理者に従う義務があるのです。

3 キリスト様が来られるまでは、私たちもそれとよく似た立場にありました。 ユダヤ教のおきてや儀式によって救われると考えて、その奴隷となっていたのです。 4 しかし、ちょうどよい時が来ると、神様は自分のひとり息子を、女から生まれた者、ユダヤ人として生まれた者として、お遣わしになりました。 5 それは、おきての奴隷になっていた私たちを買い戻して、自由の身とするためであり、神様の子供として迎えてくださるためなのです。 6 このように、神様は、子としての私たちの心に、神の子の御霊を送ってくださいました。それで今、神様を「お父さん」とお呼びできるのです。 7 私たちは、もはや奴隷ではありません。 神様の子供です。 子供であるからには、神様の持つておられるものはすべて、私たちのものです。 それが神様の計画だからです。

8 あなたがた外国人は、神様を知らなかった時、実際には存在しない、神々と呼ばれているものの奴隷でした。 9 ところが今は、神様を知っているのに〔というより、むしろ神様に知られているのに〕、どうして、もとの状態に逆戻りしたがるのですか。 おきてを守って天国に入ろうとする、あの貧弱で、無力で、役立たずの宗教の奴隷に逆戻りしようとするのですか。 10 あなたがたは、ある特定の日や月や季節や年についての定めを守り、それで神様を喜ばせようとしています。 11 そんなあなたがたが、気がかりでなりません。 私があれほど、あなたがたのために一生懸命尽くしてきたのは、全部むだだったのでしょうか。

12 愛する皆さん。 この点について、どうか私と同じ考えでいてください。 私も、以前のあなたがたのように、このような鎖からは自由になっているのですから。 私が初めて伝道した時、あなたがたは私を軽べつしたりはしませんでした。 13 初めてキリスト様の良い知らせを宣べ伝えた時の私は病気であったのに……、 14 そして、その病気は、

人に不快感を与えるものであったにもかかわらず、あなたがたは、私を拒んだり、追い返したりしませんでした。 それどころか、まるで神様からの御使いか、キリスト・イエスであるかのように、迎え入れ、気づかってくれました。

15 あの時、お互いに味わった幸福感は、どこに行ってしまったのでしょうか。 あなたがたは、私を助けるためなら、自分の目をえぐり出してもかまわないとさえ、思ったではありませんか。

16 それが今、真理を告げたために、私はあなたがたを敵に回したのでしょうか。

17 一生懸命あなたがたに取り入っている偽教師たちは、ほんとうに、あなたがたの事を思っているわけではありません。 ただ、もっと自分たちの取り巻きをふやすために、私たちから人々を引き離そうとしているだけです。 18 人が正しい動機と真実な心から親切にするなら、何も文句はありません。 私がその場に居合わせる時だけでなく、いない時にも、そんな態度を示してくれるなら、なおさら、すばらしいことです。 19 ああ、私の子供たちよ。 私はどんなに心配していることか。 あなたがたがキリスト様に完全に支配される時をひたすら待ちながら、生まれて来る子供を待つ母親の苦しみを、もう一度味わっているのです。 20 今あなたがたのそばにいられたら、そしてこんな言い方をしなくてすんだらと、どんなに願うことでしょうか。 これほど離れていては、正直言って、なすすべがないといった感じです。

21 ユダヤ教のおきてを守らなければ救われない、と考えている皆さん。 私のことばに耳を傾けてください。 どうして、おきてのほんとうの意義を理解しないのですか。 22 アブラハムに二人の子供があつて、一人は奴隷である妻から生まれ、もう一人は自由人である妻から生まれた、と書いてあります。 23 奴隷である妻の子供の誕生の場合、取り立てて変わった点はありませんでした。 しかし、自由人である妻の子供は、まずその子供の誕生に関する特別な神様の約束が先行し、それから生まれたのです。

24 25 ところで、この実話は、神様が人間を助けるために開かれた二つの道を示しています。 一つは、おきてを提示して、それを守るようにとお命じになった道です。 神様は、シナイ山でこの道をお示しになりました。 その時、モーセに「十戒」をお与えになったのです。 ちなみに、このシナイ山を、アラビヤ人は「ハガル山」と呼んでいます。 このたとえでは、アブラハムの奴隷である妻ハガルは、戒めに従うことによって神様に喜ばれようとする生き方の象徴、ユダヤ人の母なる都、エルサレムを表わしています。 そして、この生き方に賛同するユダヤ人は、すべてハガルが産んだ奴隷の子供なのです。 26 しかし、私たちの母なる都は、天にあるエルサレムで、それはユダヤ教のおきてに属していません。

27 イザヤの次の預言は、このことを言おうとしたのです。

「喜べ、子供のいない女よ。

喜びの声をあげよ、子供を産んだことのない女よ。

あなたに多くの子供を、

女奴隷の子供より多くを授けよう。」

28 愛する皆さん。あなたがたにしる私にしる、イサクと同じ、神様の約束に基づく子供です。29 約束の子イサクは、奴隷である妻の子、イシュマエルにいじめられました。とすれば、聖霊様によって生まれた私たちが、ユダヤ教のおきてを守るように強要する人々から迫害される現状も、うなずけます。

30 しかし、聖書には、神様がアブラハムにこう言われたと記されています。「奴隷である妻と子供を追い出せ。その女の子供は、自由人である妻の子供といっしょに、アブラハムの跡継ぎにはなれない。」31 愛する皆さん。私たちは、ユダヤ教のおきてに縛られた奴隷の子供ではありません。信仰によって神様に受け入れられる、自由の女の子供です。

五

1 このように、キリスト様は私たちを自由の身にしてくださいました。ですから、この自由をしっかり握っていなさい。もう二度と、ユダヤ教のおきてや儀式にがんじがらめにされた奴隷とならないよう、細心の注意をはらいなさい。2 よく聞いてください。これは大切なことなので。もしあなたがたが、神様の前で正しい者と認められるには、割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受け、ユダヤ教のおきてを守りさえすればいいと考えているなら、キリスト様に救っていただくことはあきらめなさい。3 もう一度言います。割礼を受けて、神様の恵みを手に入れるつもりなら、それ以外のユダヤ教のおきてをも、完璧に守るべきです。そうしなければ、死あるのみです。4 もしあなたがたが、おきてを守ることによって、神様への負債を帳消しにするつもりなら、キリスト様は、あなたがたにとって全く無意味な存在です。あなたがたは、神様の恵みから、すべり落ちてしまったのです。

5 しかし私たちは、キリスト様の死によってこそ、罪が取り除かれ、神様の前で正しい者と認められることを、聖霊様の助けによって確信しています。6 キリスト様から永遠のいのちをいただいた私たちは、割礼を受けたかどうか、ユダヤ教の儀式を守っているかどうか、などと心配する必要はありません。私たちに必要なのは、愛によって働く信仰だけです。

7 皆さんは、順調に走っていました。それを妨害したのはだれですか。真理に逆らわせたのは、だれですか。8 もちろん、神様のはずはありません。あなたがたを、キリスト様に基づく自由へと招いてくださったのは、神様なので。9 とにかく、あなたがたの中に悪い人が一人でもいるなら、その悪影響は全体に及ぶのです。

10 主はこの点について、あなたがたを私と同じ信仰に立ち返らせてくださるものと、確信しています。人を惑わし、かき乱す者には、だれであろうと、神様のさばきが下るのです。

11 よりによってこの私が、割礼やユダヤ教のおきてが救われるための必要条件だと教えている、と言う者がいます。しかし、もしそうなら、もはや私は迫害されることなどな

いはずではありませんか。そんな教えには、だれも腹を立てませんから。 私が今なお迫害されているという事実こそ、私が今も、ただキリスト様の十字架を信じる信仰によって救われる、と教えている証拠なのです。

12 割礼を受けさせて、あなたがたの肉体の一部を切り取りたいと思っている教師たちには、いっそのこと、自分自身をあなたがたから、切り離してもらいたいものです。 とにかく、手を引いてくれればよいがと、私はそればかり願っています。

13 愛する皆さん。 あなたがたは自由を手に入れているのです。 それは、悪を行なうための自由ではなく、互いに愛し合い、仕え合うための自由です。 14 なぜなら、おきての全体は、「自分を愛するように他の人を愛しなさい」という一つの命令に要約されるからです。 15 しかし、互いに愛し合わず、いつもいがみ合ったり、非難し合ったりしているなら、結局、共倒れになってしまいます。 気をつけなさい。

16 あなたがたにお勧めします。 ただ聖霊様の導きに従いなさい。 聖霊様は、どこへ行くべきか、何をなすべきか教えてください。 そうすれば、自分の悪い性質のおもむくままに悪事に走ることがありません。 17 私たちの生まれながらの性質は、聖霊様がお命じになることとは正反対の悪事を好みます。 一方、聖霊様の導きのままに歩んでいる時に行ないたくなる善は、生まれながらの願望とは正反対のものです。 内面のこの二つの力は、どちらも私たちを思いどおりに動かそうと、いつも格闘しています。 そして私たちは、この二つの力の板ばさみになって、したいと思うことが自由にできない状態なのです。 18 しかし、聖霊様に導かれている時には、あなたがたはもう、自分を強制的に、ユダヤ教のおきてに従わせる必要はありません。

19 ところが、生まれながらの悪い性質に従っている時、あなたがたの生活は、次のような悪い実をつけます。 すなわち、汚れた思い、肉欲的な快楽を求める心、 20 偶像礼拝、心霊術〔悪霊の働きを助長するもの〕、憎しみ、争い、嫉妬、怒り、利己心、不平、あら捜し、排他主義と、そこから出て来るまちがった教え、 21 ねたみ、人殺し、泥酔、どんちゃん騒ぎ、そんなあらゆる種類のものです。 前にも言いましたが、もう一度言いましょう。 そのような生活が続ける者は、一人として神の国を相続できません。

22 しかし、聖霊様が生活を支配してくださる時、私たちのうちに、次のような実を結んでくださいます。 それは、愛、喜び、平安、忍耐、親切、善意、誠実、 23 柔和、自制です。 そこには、ユダヤ教のおきてに反するものは何もありません。

24 キリスト様に属する者は、生まれながらの悪い欲望を、その十字架につけてしまったのです。

25 もし私たちが今、聖霊様の力を受けて生きているなら、生活全般に渡って、その導きに従おうではありませんか。 26 そうすれば、名声や人気を得たいあまりに、ねたみ合ったり、いがみ合ったりする必要はなくなります。

六

1 愛する皆さん。 一人のクリスチャンが何かあやまちを犯した場合、神様を敬っている

あなたがたは、やさしく謙そんな気持ちでその人を助け、正しい道に立ち返らせてやりなさい。同時に、今度は自分が悪の道に落ち込むかもしれないと、心を引きしめなさい。

2 相手の悩みを共に背負い、そのようにして、キリスト様の命令に従いなさい。3 ひとかどの人物の自分が、なにもそこまで身を低くする必要はないと思う人は、自分自身をあざむいているのです。そんな人は全く取るに足りない人間です。

4 ほんとうに最善を尽くしているかどうか、もう一度、点検しなさい。そうすれば、よくやれたと自分で満足でき、他人と、とやかく比較することもなくなるでしょう。5 人はみな、それぞれ自分の欠点や悩みを背負っています。一人として、完全な人間はいないのです。

6 神様のことばを教えてくれる人には、報酬を払い、援助しなさい。

7 思い違いをしてはいけません。いいですか。神様を無視することなど実際には不可能であり、種をまいた人は、必ずその刈り取りもすることになるのです。8 自分の悪い欲望を満足させるために種をまく者は、その結果、きっと霊的な滅びと死とを刈り取るはめになります。しかし、聖霊様のよい種をまく者は、聖霊様が与えてくださる永遠のいのちを刈り取ります。9 正しい行ないをすることに疲れ果ててしまわないようにしましょう。失望せず、あきらめずにいれば、やがて祝福を刈り取る日が来るからです。10 ですから、機会さえあれば、だれに対しても、特にクリスチャンには、親切にしましょう。

11 この最後のことばは自筆でしたためます。見てください、この大きな字を。12 何のために、例の教師たちがあなたがたをくどいて割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けさせようと図るのか、わかりますか。その理由は、ただ一つです。すなわち、そのようにして人気を得、迫害を免れたいのです。その迫害とは、キリスト様の十字架が唯一の救いの道であると認めるなら、必ず受けるものなのです。13 そうした割礼を主張する教師たちも、それ以外のユダヤ教のおきては守ろうとしません。そのくせ、あなたがたに割礼を強要するのは、弟子をふやして誇るためなのです。

14 しかし私に関するかぎり、主イエス・キリストの十字架のほかに、誇るものなど、決してあってはなりません。この十字架によって、私は、この世の魅力的なものすべてに対して、ずっと以前に興味を失ってしまいました。そしてこの世も、私に対する興味をすっかり失ってしまったのです。15 割礼を受けているかいはいかは、今や、全然問題ではありません。大切なのは、私たちがほんとうに別の新しい人に造り変えられているかどうか、ということです。

16 どうか、この原則に従って生きるあなたがたに、また、真に神様のものとなった、至る所のクリスチャンにも、神様のあわれみと平安がありますように。17 二度と、こんな問題で論じ合わないようにしたいものです。私の体には、イエス様に敵対する者からむち打たれ、傷つけられた跡が残っていますが、それこそ、キリスト様の奴隷であること

の、しるしなのですから。

18 愛する皆さん。どうか、主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にありますように。 アーメン。

パウロ

■

エペソ人への教会（エペソ教会の皆さんへ）

私たちの心には、自分と違った人々をなかなか受け入れないものがあるようです。差別（家柄、学歴、職業、社会的地位、貧富の差等による）は、古くて新しい問題です。人よりも、少しでも自分が優れていると思いたい心が、差別をつくりあげるのでしょうか。パウロは獄中から、各地の教会に手紙を送りました。その一通がこの手紙です。初めのころの教会には、まだユダヤ人と、それ以外の外国人との間に意見の対立があり、なかなかしっくりいきませんでした。

—

1 エペソに住む、いつも主に忠実な、愛するクリスチャンの方々へ。

神様に選ばれて、キリスト・イエスの使者となったパウロが、この手紙を送ります。2 どうか、父なる神と、主イエス・キリストから与えられる恵みと平安が、あなたがたのものとなりますように。3 さて、主イエス・キリストの父なる神を、どのようにほめたたえたらよいでしょう。神様は、天上のあらゆる祝福で、私たちを祝福してくださいました。それは、私たちがキリスト様のものとなっているからです。

4 神様は、この世界をお造りになる前から、私たちを、ご自分のものとして選んでくださいました。それは、キリスト様が私たちのためにしてくださることに、基づいています。そして、神様は私たちを、ご自分の目から見て、何一つ欠点のない、きよい者にしようとお定めになりました。神様の前に立つ私たちは、その愛に包まれているのです。5 神様の不変の計画とは、イエス・キリストを遣わし、その死によって、私たちを神様の家族の一員として迎えることでした。それが、神様のお考えでした。

6 神様こそ、いっさいの賞賛を受けるべきお方です。神様は、驚くばかりの恵みと愛とを、豊かに注いでくださったのです。それは、私たちが、神様の最愛のひとり息子につながる者となったからです。7 神の子の血を流してまで、私たちの罪を帳消しにしてくださるほど、神様の愛は大きいのです。この神の子によって、私たちは救われました。

8 神様は、豊かな恵みを、あふれるほど注いでくださいました。私たちをよく理解し、何が最善であるか、常にご存じだからです。

9 神様は、キリスト様を遣わしたことの隠れた理由を、私たちに知らせてくださいました。その計画は、ずっと昔から、神様の愛のうちに決定済みでした。10 その目的はこうです。すなわち、機が熟せば、私たちを、天でも地でも、あらゆる所から集めて、いつまでも、キリスト様のものとして神様のそばで過ごせるようにすることです。11 そればかりでなく、キリスト様が成し遂げてくださったことのおかげで、私たちは、神様への喜ばしいささげ物とされています。というのは、神様の主権的な計画の一部として、私たちは、神様のものとなるように、最初から選ばれていたのであり、すべては、ずっと昔からの、神様のお考えどおりになるからです。12 なぜ神様は、このようになされたのでしょうか。それは、最初にキリスト様を信じた私たちに対する、こんなにもすばらしい恵

みを見て、私たちが神様をほめたたえるためなのです。

13 キリスト様が成し遂げてくださったことのおかげで、あなたがたも、救いを約束する良い知らせを聞き、キリスト様を信じるようになりました。そして、キリスト様に属する者であるという証印を、聖霊様に押しいただきました。この聖霊様については、ずっと以前から、クリスチャン全部に約束されていたことです。14 私たちのうちに住まれる聖霊様は、神様が約束のものを全部ほんとうに与えてくださる、という保証です。それで、私たちに押された聖霊の証印は、神様がすでに私たちを買い上げ、ご自分のもとに引き取ってくださることを、保証するのです。これが、栄光の神様をほめたたえる、もう一つの理由です。

15 こういうわけで、私は、主イエスに対するあなたがたの信仰と、ほかのクリスチャンに対する愛とを耳にして以来、16 絶えず神様に感謝してきました。いつも、あなたがたのために、こう祈り求めています。17 どうか、主イエス・キリストの神様、すなわち栄光の父が、あなたがたに知恵を与えて、キリスト様がどのようなお方か、また何をしてくださったかを、正しく、はっきりと理解させてくださいますように。18 また、心にあふれるほどの光が与えられて、神様が、あなたがたを召して与えようとされる将来を、はっきり見きわめることができますように。そして、キリスト様のものとして、私たちが神様にささげられた結果、神様の豊かさがいっそう明らかになったことも、知ってほしいのです。19 また、信じる者を助ける神様の力が、信じられないほど絶大であることを、理解してくれるようにと祈っています。20 21 この同じ絶大な力が、キリスト様を死人の中から復活させ、ほかのどんな王、支配者、権力者、指導者よりもはるかに高い、天の神様の右の座につかせたのです。実に、このキリスト様の栄誉は、この世だけでなく、次に来る世でも、他のすべてに、はるかにまさって輝かしいものです。22 そして神様は、すべてをキリスト様の足の下に従わせ、キリスト様を教会の最高の頭とされました。23 教会は、キリスト様の体であって、すべてを造り、すべてを満たすキリスト様の霊が満ちあふれる場所です。

二

1 以前、あなたがたは神様からのろわれた存在であり、罪のために永遠に滅びる運命でした。2 世間一般の人と同じ生き方をし、別にな変わったところもありませんでした。罪にまみれ、空中の權威を持つ、力ある支配者サタンの言うままになっていたのです。このサタンは、主に反抗する人の心に、今も働きかけています。3 私たちもみな、以前はほかの人たちと全く同じでした。その生活ぶりは、心にある悪を反映したものでした。欲望や悪意のおもむくままに、あらゆる悪事を重ねていたのです。私たちは、生まれつきの悪い性質で悪へと突っ走り、他のすべての人と同様、神様の怒りを受けて当然の者でした。

4 しかし神様は、なんとあわれみに満ちたお方でしょう。こんな私たちを深く愛してくださいました。5 それゆえ、罪のために霊的に死に果て、滅びる運命にあった私たち

をも、キリスト様の復活と同時に生き返らせてくださいました。〔救われる価値などない私たちに、ただ一方的な恵みが注がれたのです。〕 6そして、キリスト様と共に、墓の中から栄光へと、引き上げてくださいました。その天の領域で、私たちはキリスト様と共に、席に着いているのです。これはすべて、キリスト・イエスが成し遂げてくださったわざに基づいているのです。 7神様がキリスト・イエスを通して成してくださった、すべてのことから、神様の恵みのすばらしさがわかります。私たちは今、その恵みがどんなに豊かであるかを示す、見本となれるのです。

8あなたがたは、神様の寛容さのゆえに、キリスト様を信じることによって救われたのです。しかも、そのキリスト様を信じることすらも、あなたがたから自発的に出たことではありません。それもまた、神様からの贈り物なのです。 9救いは、私たちの良い行ないに対する報酬ではありません。ですから、だれ一人、それを手柄として誇ることはできません。 10私たちをこのように造り、キリスト・イエスによる新しい生活に入れてくださったのは、神様です。この新しい生活は、神様がずっと以前から計画してくださったものであり、私たちが互いに助け合って過ごすためのものです。

11あなたがたも、以前は異教徒として、ユダヤ人からは、神様を信じない「汚れた者」と呼ばれていた自分を、決して忘れてはなりません。〔もともと、そういうユダヤ人も、神様を敬うしるしとしての割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）を受けて、信心深そうに儀式や礼拝を守っていたとはいえ、心は汚れたままだったのですが。〕 12思い出してもごらんなさい。そのころのあなたがたは、キリスト様とは全く無縁な生き方をしていました。神様の子供となった人々には敵対し、神様から、何の助けも約束されていませんでした。神様もなく、望みもない、滅びる以外にない存在でした。

13しかし今では、キリスト・イエスに属する者となっています。以前は、神様から遠く離れていたあなたがたも、キリスト・イエスがその血によって成し遂げてくださったことのゆえに、今では、神様のそば近くに引き寄せられているのです。

14キリスト様こそ、私たちの平和の道です。この方は、私たちユダヤ人とあなたがた外国人とを一つの家族とし、両者を隔てていた軽べつという壁を打ちこわして、平和をつくり出してくださいました。 15つまり、ご自分の死によって、相互の激しい敵意を、除いてくださったのです。その敵意の原因とは、ユダヤ人を特別扱いし、外国人をのけ者にする、ユダヤ教のおきてでした。そのおきて制度全体を無効にするために、キリスト様は死んでくださったのです。そして、それまで互いに対立していた二つのグループを、それぞれ自分の手とし、足とされました。こうして、私たちを融合させて、新しい一人の人間をつくられたのです。ついに平和が実現しました。 16私たちが同じ体のそれぞれの器官になったので、互いの怒りは消え去りました。両者とも、神様と和解したからです。こうして、反目は、十字架によって、ついに終わりを告げたのです。 17そして、キリスト様は、遠く離れていたあなたがた外国人にも、近くにいた私たちユダ

ヤ人にも、この平和の良い知らせを、もたらしてくださいました。 18 キリスト様が成し遂げてくださったことのゆえに、ユダヤ人も外国人もみな、聖霊様に助けられつつ、父なる神のもとに行けるのです。

19 今、あなたがたは、もはや神様にとって見知らぬ他国人でも、天国に縁のないよそ者でもありません。 神の家族の一員であり、神の国の市民なのです。 すべてのクリスチャンと共に、神の一家を構成しているのです。

20 あなたがたは今、使徒と預言者という土台の上に立っています。 しかも、この建物の最も重要な土台石は、キリスト・イエスです。 21 私たち信じる者は、常にりっぱな神殿を目指す建物の一部分として、共に、注意深くキリスト様に組み合わされているのです。

22 そして、あなたがたもまたお互いに、御霊によって、キリスト様に組み合わされ、神の家の一部となるのです。

三

1 キリスト様の奴隷である私パウロは、今、あなたがたのために投獄されています。 あなたがた外国人も、神の家族の一員だと告げたからです。 23 私は、外国人に神様の恵みを示すためのこの特別の任務を、神様から受けています。 このことについては、前の手紙でも簡単にふれましたから、もうすでにご存じと思います。 外国人もまた神様の恵みの対象とされているという、この神様の特別の計画を、神様が私に明かしてくださったのです。 4 このように申し上げるのも、これらについて私がどう理解しているかを、わかっただくためです。 5 以前には、神様はこの計画を、自分の民に隠しておられました。 しかし今では、聖霊様を通して、使徒や預言者たちに、はっきりと示しておられます。

6 その特別の計画とは、こうです。 すなわち、神様の子供とされた者たちが全財産を相続する時、外国人もユダヤ人と共に、十分にその分け前にあずかるということです。 ユダヤ人も外国人も、共に神の教会の一員として招かれています。 そして、キリスト様についての良い知らせと、この方が成し遂げてくださったこととを受け入れる時、キリスト様によって大いに祝福するという神様の約束に、両者ともあずかるのです。 7 神様は、この計画をすべての人に伝える光栄ある特権を、私に与えてくださいました。 また、その務めを果たすに十分な、神の力と特別な才能をも、与えてくださったのです。

8 考えてもごらん下さい。 私はそんな資格の全くない者です。クリスチャンの中で最も役立たずの人間です。 それにもかかわらず、キリスト様のうちにある無限の富が外国人にも分け与えられる、という喜ばしい知らせを伝える者として、特に選ばれたのです。 9 それはまた、万物を造られた神様が、世の初めからの特別な計画どおりに、ご自分が外国人の救い主でもあることを、すべての人に説き明かすためでもありました。

10 神様がそうなさる理由は何でしょうか。 それは、天上のもろもろの支配者たちに対して、神の全家族——ユダヤ人も外国人も——が神の教会の中で一丸となっている姿を見せ、神様の完全な知恵を示すためです。 11 これこそ、神様が主キリスト・イエスを通

して、かねてから計画しておられたことなのです。

12 キリスト様と共に、また、キリスト様に頼って神様に近づけば、きっと喜んで迎えていただけることを確信して、私たちは今、恐れることなく、大胆に神様の前に出ることができます。

13 ですから、どうか、私がいま体験している苦しみを知って落胆しないでください。この苦しみは、あなたがたのためであり、それは、あなたがたにとって名誉となり、励ましとなるはずです。14 15 神様のご計画の知恵深さと広大さを思う時、私はひざをかがめて、神の大家族〔その中のある者はすでに天国におり、ある者はまだ地上にいます〕の父なる方に祈ります。16 どうか、父なる神が、その栄光に満ちた無限の富の中から、聖霊様を通して人を内面から強くする力を、あなたがたに与えてくださいますように。17 また、こうも祈ります。どうか、キリスト様が、信じるあなたがたの心に住み、喜んでそこに住み続けてくださいますように。どうか、この上なくすばらしい神様の愛という土壌に、あなたがたが深く根を張れますように。18 19 そして、〔神様の子供とされた者にとっては当然のことですが〕神様の愛が実際にどれほど長く、どれほど広く、どれほど深く、どれほど高いかを知り、また理解できますように。さらに、それを身をもって経験できますように。もっとも、この愛はあまりにも大きいので、それを見極め、完全に把握することは、とても無理ですが。こうして、あなたがたはついに、神ご自身によって満たされるのです。

20 どうか、私たちのないうるかぎりの祈り、願い、考え、望みを無限に超えて、つまり、私たちが大胆に願い求め、夢見することもはるかに及ばないすばらしいことを、その偉大な力でなされる神様に、栄光がありますように。21 どうか、キリスト・イエスによって、教会に救いの計画をもたらしてくださった神様に、栄光が永遠にありますように。アーメン。

四

1 主に仕えたために、今こうして牢獄につながれている私から、お願いします。このようにすばらしい祝福を受けるべくして選ばれたあなたがたは、それにふさわしく生活し、行動してください。2 謙そんで柔和な人になってください。愛をもって互いの欠点を思いやり、互いに忍耐してください。3 聖霊様によって心を一つにされるよう常に努力し、互いに仲良く暮らさない。

4 私たちはみな、一つの体の各器官です。だれもが同じ御霊様を与えられ、同じ輝かしい未来へと招かれています。5 また、私たちの主はただ一人であり、信仰も一つであり、バプテスマ（洗礼）も一つだけです。6 そして、私たちすべての上に立ち、すべての中に宿り、各器官である私たちを貫いて生きておられる、神であり父である方を、知っているのです。7 けれども、キリスト様は私たち一人一人に、それぞれ特別の能力を与えてくださいました。自分の豊かな賜物の宝庫から、お心のままに与えてくださったのです。

8 旧約聖書の詩篇の作者は、このことについて

「キリストは、復活してサタンに打ち勝ち、
勝利を得て天に帰られた時、
人々に惜しみなく賜物をお与えになった。」

と言っています。 9 ここで、キリスト様が天に帰られたという点に注意してください。
それは、最初は天の一番高い所におられたのに、地の一番低い所に下られたことを意味します。 10 この下って来られた方が、天に帰られたのです。 それは、キリスト様が、
底辺から頂点に至るまで、あらゆる点であらゆるものを満たすためなのです。

11 さてこうして、ある者には使徒としての特別な能力が与えられ、ある者にはすぐれた
説教者としての才能が与えられました。 また、キリスト様を救い主として信じるように
と人々を指導する、特別な能力を受けた者もいれば、羊を見守る羊飼いのように、神の民
となった人たちの世話をし、神様のお考えにそって導き教える力を受けた者もいます。

12 なぜこのように、最善を尽くせる能力がそれぞれに与えられたのでしょうか。 それは
は、神の民となった人々が、神様のためにより良く働けるよう整え、キリスト様の体である
教会を、力にあふれた、完成した状態へと建て上げるためです。 13 そしてついに、
私たちはみな、救いについて、また救い主である神の子について、同じ信仰を持つに至り、
主にあって完全に成長した者となるのです。——そうです、キリスト様に完全に満たされ
た状態にまで、成長するのです。

14 そこで、もはや、だれかから間違ったことを教えられたり、うそを真実のように、た
くみに見せかけられたりしても、そのたびに、子供みたいにふらふらと、信じるものを変
えてはいけません。 15 むしろ、誠実に語り、誠実にふるまい、誠実に生きて、常に真
理に従うのを喜び、あらゆる点で、キリスト様〔教会の頭なる方〕にますます似た者とな
るのです。 16 このキリスト様の指揮下で、体全体がみごとに組み合わされ、各器官は
それぞれ特別な方法で他を助けます。 それは、体全体が健康になり、成長して、愛にあ
ふれるためです。

17 そこで私は、主のために、このことを言わせていただきます。もうこれから先、救わ
れていない人と同じ生き方をしてはなりません。 彼らは分別を失い、混乱しているの
です。 18 その閉ざされた心の中は真っ暗です。 神様に対して心を閉ざしているので、
神様のいのちから遠く離れています。 もちろん、神様のお気持ちなど理解できません。

19 彼らは、善悪の区別など、気にもとめません。 不潔な生き方にひたりきっています。
悪だくみと無分別な欲望に押し流され、それを食い止めるすべはありません。

20 しかし、キリスト様が教えてくださった生き方は、全く違います。 21 もしあなたが
たが、ほんとうにキリスト様の声を聞き、キリスト様に関する真理を学んでいるなら、
22 古い邪悪な性質をかなぐり捨てなさい。 古い性質とは、悪い生き方の道連れであつ
た、以前のあなたがた自身のことです。 それは、肉欲とごまかしにまみれ、骨の髄まで
腐りきっていました。

23 今や、あなたがたの態度や考えをみな、より良い方向へ転換しなければなりません。

24 そうです、あなたがたは、全くの別人、きよく善良な人になるべきです。 この新しい性質を身にまといなさい。

25 私たちは互いに体の一部分なのですから、ごまかし合いをやめ、真実を語りなさい。うそをつき合えば、自分自身を傷つけることになるのです。 26 腹を立てることがあっても、恨みをいだいて罪を犯してはなりません。 日暮れまで、怒ったままでいてはいけません。 すぐに冷静さを取り戻しなさい。 27 腹を立てていると、悪魔につけ込むすきを与えるからです。

28 盗みを働いていた人は、すぐにやめなさい。 まともに働きなさい。 そうすれば、困っている人に施すこともできます。 29 悪意あることばを口にしてはいけません。 ただ相手に益となり、助けとなること、また、祝福を与えることだけを話しなさい。

30 聖霊様を悲しませるような生き方をしてはいけません。 この聖霊様は、罪からの救いが完成する日のために、救いの確かな証印を押してくださる方であることを、忘れてはなりません。

31 意地悪、不きげん、怒りを捨てなさい。 けんか、とげのあることば、えこひいきが日常生活に巣くってはいけません。 32 むしろ、互いに親切にし、心のやさしい人になりなさい。 そして、あなたがたを、キリストのものとなったということで赦してくださった神様にならい、お互いに赦し合いなさい。

五

1 子供が、かわいがってくれる父親を見ならうように、何をするにも神様を模範としなさい。 2 キリスト様の模範にならって、他人への思いやりに満ちあふれていなさい。 キリスト様の愛は、あなたがたの罪を取り除くために、ご自身をいけにえとして神様にささげるほど、深かったのです。 このキリスト様の愛の香ばしいかおりを、神様はお喜びになったのです。

3 あなたがたの間に、性的な罪や、不潔な行ない、貪欲があつてはなりません。 そんなことで、だれからも非難されないようにしなさい。 4 汚らしい話や、みだらな会話、下品な冗談は、あなたがたにふさわしくありません。 むしろ、互いに神様の恵みを心にとめて、感謝しなさい。

5 もうよくご存じと思いますが、キリスト様と神様との国に、汚れた人や貪欲な人は入れません。 貪欲な人は、実は偶像礼拝者であつて、神様よりもこの世のものを愛して拝んでいるのです。 6 これらの罪の言いわけをする者たちに、だまされてはなりません。 神様の恐ろしい怒りは、こんな行ないをする者に片っぱしから下るからです。 7 彼らとのつき合いすら禁じます。 8 あなたがたの心は以前は暗やみにおおわれていましたが、今は主からの光にあふれています。 そのことを態度で示しなさい。 9 内面がこの光で輝いているのですから、良いこと、正しいこと、真実なことだけを行なうべきです。

10 日々の生活で、何が主に喜ばれることかを、わきまえなさい。 11 悪と暗やみの無意味な快樂に身を任せてはいけません。 むしろそれを非難し、明るみに出しなさい。 1

2 神様を敬わない者たちが暗やみでふけている快樂は、口にするのも恥ずかしいことです。 1 3 しかし、あなたがたがそれを明るみに出す時、光がその罪を照らし出して、正体をあばきます。 その実態の醜さに気づいて、そのうちの何人かは光の子供となるでしょう。 1 4 だからこそ、聖書にこう言われているのです。

「眠っている者よ。 目を覚ませ。

死人の中から起き上がれ。

そうすれば、キリストがあなたを照らされる。」

1 5 1 6 ですから、自分の行動によくよく注意しなさい。 今は困難な時代です。 愚か者にならないで、賢くなりなさい。 あらゆる機会を十分に生かして、正しい行ないをしなさい。 1 7 軽率に行動せず、主が望んでおられることを実行しなさい。 1 8 酒を飲みすぎてはいけません。 そこには多くの悪が潜んでいるからです。 むしろ、聖霊様に満たされ、支配していただきなさい。

1 9 詩篇と賛美歌を引用し、聖なる歌をうたい、心の中で主に向かって音楽をかなでつつ、互いに主について存分に語り合いなさい。 2 0 常に、あらゆることを、主イエス・キリストの名によって、父なる神に感謝しなさい。

2 1 互いに従順になって、キリスト様をたたえなさい。 2 2 妻は、主に従うのと同様に、夫に従いなさい。 2 3 なぜなら、キリスト様の体である教会がキリスト様にゆだねられているのと同じように、妻は夫にゆだねられているからです。 [キリスト様は教会のために心を配り、その救い主となるために、実にいのちさえも投げ出されたのです。] 2 4 そういうわけですから、妻は、教会がキリスト様に従うのと同じように、どんなことでも、喜んで夫に従わなければなりません。

2 5 また、夫は、教会のためにいのちを捨てるほどの愛を示されたキリスト様にならって、妻を愛しなさい。 2 6 キリスト様のその行為は、バプテスマ（洗礼）と神のことばで教会を洗いきよめ、きよく、汚れのないものとするためでした。 2 7 こうして、一点のしみも、しわも、何の傷もない、きよく完全な栄光の教会として、迎え入れようとされたのです。 2 8 これこそ、夫が妻に対してとるべき態度です。 つまり、夫は妻を、自分の体の一部のように愛さなければなりません。二人は一体なのですから、夫が妻を愛する時、実は自分自身を愛しているのです。 2 9 3 0 自分の体を憎む者はいません。 愛し、いたわるのが普通です。 それは、キリスト様が自分の体である教会をいたわってくださるのと同じです。 私たちは、その体の各部分なのです。

3 1 夫と妻が一体であることは、聖書もはっきり証言しています。「人は結婚する時、父母のもとを離れなければならない。 それは、完全に結びついて、二人が一心同体となるためである。」 3 2 これは、なかなか理解しにくいことですが、私たちがキリスト様の体の各部分であることを説明するには適切な例です。

3 3 そこで、もう一度言います。 夫は妻を、自分の体の一部のように愛しなさい。 そして妻は、夫を心から尊敬し、従いなさい。

六

1 子供は両親に従いなさい。神様は、親が子供を監督する権威を認めておられるのです。従うのは正しいことです。2「あなたの父と母とを敬え。」これは、神様の「十戒」では筆頭のもので、一つの約束がついています。3つまり、「父母を敬うなら、あなたは幸せになり、長生きする」とあるのです。

4両親にもひとこと言っておきます。子供を、いつもがみがみしかりつけ、小言を並べ立てて、反抗心を起こさせたり、恨みをいだかせたりしてはいけません。かえって、主がお認めになる愛のこもった訓練と、助言や忠告を与えて育てなさい。

5奴隷は主人に従い、最善を尽くしなさい。キリスト様に仕えるのと同じようにしなさい。67主人の目の前でだけ一生懸命に働き、隠れて怠けるようではいけません。神様が望まれることを、心を尽くして行ない、キリスト様のために働くのと同様、いつも熱心に喜んで働きなさい。8あなたがたが、奴隷であろうと自由人であろうと、良い行ないには、一つ一つ主が報いてくださることを忘れないように。

9主人たる者も、いま私が奴隷たちに勧めたのと同じ態度で、奴隷を正しく扱いなさい。脅すばかりではいけません。自分もキリスト様の奴隷であることを忘れないように。あなたがたの主も、奴隷の主も同じお方なのです。主は人を差別したりはなさいません。

10最後に、覚えておいてほしいことがあります。あなたがたは、自分のうちにある主の超自然的な力によって強められるべきだということです。11悪魔のどんな戦略や策略にも立ち向かえるように、神様のすべての武具で身をかためなさい。12戦う相手は、血や肉を持った人間ではなく、肉体のない者たちです。すなわち、目に見えない世界の支配者たち、強大な悪魔的存在、この世を支配する暗やみの大王たち、それに、霊界にいる無数の悪霊どもです。

13ですから、いついかなる攻撃にも対抗できるように、神様の武具の一つ一つを役立てなさい。そうすれば、すべてが終わった時も、なおしっかり立てるでしょう。

14しかし、そのためには、腰に真理の帯をしめ、神の承認という胸当てをつけなければなりません。15次に、神との平和の知らせを伝えるために直ちに出発できる、丈夫なくつをはきなさい。16どんな戦いにも、守りの盾として必要なのは信仰です。これがあれば、ねらい定めて射かけてくるサタンの火矢を、消し止めることができます。17また、救いのかぶとをかぶり、御霊の剣〔神のことば〕を手にしなければなりません。

18いかなる場合にも祈りなさい。どんなことでも、聖霊様の考えにそって神様に求めなさい。必要なものをひたすら願い求めなさい。各地に散らばったすべてのクリスチャンのために、熱心に祈り続けなさい。19また、私のためにも祈ってください。主のことを大胆に告げる時に、また、主の救いは外国人にも及ぶと説明する時に、適切なことばが与えられるよう祈ってください。20私は今、神様からのこの知らせを伝えたために、鎖につながれています。しかし、この牢獄の中でも、語るべきことを、主のために大胆に絶えず語れるよう祈ってください。

21 心から愛する信仰の友、主の仕事のための忠実な協力者テキコが、あなたがたに私の近況を残らず知らせてくれるでしょう。 22 テキコをそちらへ送るのは、私たちの様子を知ってもらい、それを励みにしてほしいからです。

23 どうか、クリスチャンの皆さんに、父なる神と主イエス・キリストからくる、信仰に伴う平安と愛とが注がれますように。 24 どうか、神様の恵みと祝福が、主イエス・キリストを心から愛する、すべての人にありますように。

パウロ

■

ピリピ人への手紙（ピリピ教会の皆さんへ）

ピリピは、今のギリシヤの北部にあり、ローマの植民都市として栄えた町でした。ここはまた、パウロにとっても思い出深い町で、彼がヨーロッパに最初の教会をつくったのもこの町でした。それも、捕らえられ、むちで打たれながらつくったのです。それにこたえて、ピリピ教会のクリスチャンも、パウロのために献身的に尽くし、彼の経済的必要を満たしたこともしばしばでした。その教会に、パウロは、キリストを信じる者の喜びを、真実こめて語ります。

—

1 キリスト・イエスの奴隷であるパウロとテモテから、ピリピの町にいる牧師と執事たち、およびクリスチャンの皆さんへ。

2 どうか、神様の祝福があなたがた一同にありますように。父なる神と主イエス・キリストが、一人一人を、あふれるばかり祝福し、心にも生活にも、平安を満たしてくださいように。3 あなたがたを思う私の祈りは、いつも神様への賛美にあふれています。

4 そして、私の心は喜びに満たされるのです。5 それは、あなたがたが、キリスト様についての良い知らせを、初めて聞いた日から今日まで、全力をあげて、その知らせを宣傳伝える働きに協力してくれたからです。6 あなたがたの内面に良い働きを始めた神様は、引き続き、必ずそれを恵みのうちに成長させ、やがてキリスト・イエスが帰って来られる日に、ついに完成してくださいと、私は強く信じています。

7 こう考えるのも、きわめて当然です。あなたがたは、私にとって特別な存在なのですから。私が獄中にある時も、自由の身で真理を弁明し、キリスト様のことを語っている時も、あなたがたは、私と共に神様の祝福をいただいたのです。8 私がキリスト・イエスのやさしさをもって、どんなに深くあなたがたを愛し、慕っているかをご存じなのは神様だけです。9 私はこう祈っています。どうか、あなたがたの他の人々への愛が、もっともっと満ちあふれますように。同時に、霊的な知識と洞察力も、さらに深められますように。10 それは、あなたがたに、善悪をはっきり見分ける力がいつも備わり、主が来られる日までずっと、だれからも非難されることなく、心がきよく保たれるよう、願うからです。11 どうか、常に神の子供にふさわしく、親切な良い行ないができますように。それは、大いに主をほめたたえ、主の栄光を現わすことになるのです。

12 愛する皆さん。このことは、わきまえてほしいものです。つまり、ここで私の身に起こることはすべて、キリスト様についての良い知らせを広めるのに、たいへん役立っているという事実です。13 周囲の人たちはみな、兵營の兵士に至るまで、私が、ただクリスチャンであるというだけの理由で投獄されていることを、知っているからです。

14 また、私を見て、ここにいる多くのクリスチャンは、投獄など恐れなくなりました。ともかく、彼らは耐え忍んでいる私の姿に勇気づけられ、ますます大胆に、キリスト様のことを人々に語るようになったのです。

15 もっとも、中には、神様が私をこのように役立ててくださるのをねたんで、この良い知らせを宣べ伝えている人もいます。彼らは、勇敢な伝道者という名声がほしいのです。しかしこのほか、もっと純粋な動機から伝道している人もいます。16 私を愛する気持ちから、そうしているのです。つまり、私をこのような状況下におかれた主の目的が、真理を弁明させる点にあることを知っているからです。17ところが、別の人たちは、自分たちの成功によって、獄中にある私の苦痛がもっと増すだろうと考えて、つまり、私にねたませようとして、伝道しているのです。18しかし、どのような動機からであれ、キリスト様についての良い知らせが宣べ伝えられるのは事実であり、私は喜んでいきます。19これから喜び続けるでしょう。なぜなら、あなたがたの祈りや、聖霊様の助けによって、このことがすべて私に益となることが、わかっているからです。20というのも、私は、次のような熱心な期待と希望とをいだいて生きているからです。すなわち、自分で恥じるようなことは一つもせず、かえって、この試練の時も、今まで同様、常にキリスト様のために、大胆に語り、また、生きるにしても、死ぬにしても、いつもキリスト様のすばらしさを身をもって現わしたい、と思っているのです。21なぜなら、私にとって、生きることは、キリスト様のために良い機会を得たことを意味し、死ぬことは、さらにすばらしいことを意味するからです。22しかし、生きているからこそ、人々をキリスト様に導く機会に恵まれるとすれば、生と死のどちらがよいのか、ほんとうはわかりません。23ある時は生きていたいと思い、また、ある時には反対の気持ちになります。というのも、この世を去ってキリスト様のそばにいることほど、願わしいことはないからです。そのほうが、地上にとどまっているより、どれだけ幸せかわかりません。24しかし、地上では、もっとあなたがたの役に立てることも事実です。25そうです。私にはまだ、この世で生きる使命があるのです。それで、あなたがたの信仰の成長を助け、もっと喜びにあふれさせるために、きっと、もうしばらくの間、地上に長らえることになるでしょう。26私が生き延びて、もう一度そちらに行った時、あなたがたのうちに喜びがわき上がり、私を無事に守ってくださったイエス・キリストを、心から賛美するようになるのです。27しかし、たとえ私の身にどんなことが降りかかろうと、あなたがたは、いつもクリスチャンらしく生活するよう心がけてください。そうすれば、もう一度会えるにしても、会えないにしても、あなたがたについて、いつでもうれしい報告を聞けるでしょうから。つまり、あなたがたが、キリスト様の良い知らせを宣べ伝えるという、一つの目標に向かって、しっかり協力して立っており、28敵対する者たちのどんなしわざにも、たじろぐことがないと。実際、このことは、彼らの滅びを暗示するのですが、あなたがたにとっては、神様が共にいて、永遠のいのちを与えてくださることの、確かな証拠となります。29あなたがたは、ただキリスト様を信じるだけでなく、キリスト様のために苦しむという特権をも与えられているのです。30私たちは、共に戦っているのです。あなたがたは、先にキリスト様のために苦しんでいる私の姿を見ました。そして、今なお、激し

く大きな戦いの真ただ中にいる私のことを、よく知っているはずです。

二

1 あなたがたの間には、クリスチャンとして互いに励まし合う気持ちが、少しでもありますか。私を助けたいと思うほどの愛がありますか。私たちは同じ御霊様を共にいただいており、主にあって互いに兄弟であるということの、ほんとうの意味がわかっているでしょうか。やさしい心と思いやりが、少しでもあるでしょうか。2 もしそうなら、互いに愛し合い、心からうちとけ合い、心と思いと目的とを一つにして共に働き、私を心から喜ばせてください。

3 自己中心的になったり、見栄を張ったりしてはいけません。謙そんになって、他の人を自分よりもすぐれた者とみなさない。4 身の回りのことばかりに、とらわれるのではなく、他人にも目を向け、その行動にも関心を持ちなさい。

5 私たちに対するキリスト・イエスの態度を、見なさい。6 キリスト様は神様なのに、神様としての権利を要求したり、それに執着したりはなさいませんでした。7 かえって、その偉大な力と栄光を捨てて、奴隷の姿をとり、人間と同じになりました。8 そればかりか、さらに自分を低くし、まさに犯罪人同様、十字架上で死なれたのです。

9 しかし、それだからこそ、神様はキリスト様を高く天に引き上げ、最高の名をお与えになりました。10 それは、そのお名前のもとに、すべてのものが天でも地上でも地下でもひざまずき、11 すべての口が「イエス・キリストは主です」と告白して、父なる神がほめたたえられるためです。

12 心から愛する皆さん。私がそちらにいた時、あなたがたはいつも、私の教えに細心の注意をはらって従ってくれました。離れている今はなおさら、注意深く善行に励んでください。救われているのなら、当然そうすべきなのです。深い尊敬の思いをこめて神様に従い、神様をお喜ばせできないことから手を引きなさい。13 神様は人の心に働きかけて、従おうとする思いを起こさせ、神様が望まれる行ないができるよう、助けてくださるのです。

14 何事においても、不平を言ったり、理屈をこねてはいけません。15 16 だれから非難されないためです。心の曲がった頑固な人がひしめいている暗い世の中で、あなたがたは、神様の子供として、汚れのない、きよらかな生活を送らなければなりません。世の人々の間で、いのちのことばを高く掲げ、燈台のように輝きなさい。

そうすれば、キリスト様が帰って来られる時、私は、あなたがたに対する労苦がむだでなかったことを知り、どんなに喜ぶことでしょう。17 あなたがたの信仰を、供え物として神様にささげる時、その上に、たとえ私の血を注がなければならないとしても——あなたがたのために、いのちを捨てなければならないとしても——私はうれしいのです。そして、あなたがた一人一人にも、この喜びを分けてあげたいのです。18 このことは、当然、あなたがたにとっても喜びなのですから。私があなたがたのために、いのちを捨てる特権を持っていることを、共に喜んでください。

19 主のお許しがありしだい、テモテをそちらへやりたいと思っています。 そうなれば、彼から、あなたがたのことや、そちらの様子を報告してもらい、元気づけられると期待しています。 20 テモテほど親身になって、あなたがたのことを心配している人はいません。 21 ほかの人はみな、自分の計画に心を奪われ、キリスト・イエスのことなど気にかけていないようです。 22 しかし、テモテは違います。 よくご存じのとおり、まるで私の息子のように、キリスト様の良い知らせを宣べ伝えるのを助けてくれました。 23 それで、ここでの私の取り扱いがどうなるかわかりしだい、テモテを行かせるつもりです。 24 私も、近いうちに主がそちらを訪ねさせてくださる、と確信しています。 25 それはさておき、エパフロデトを、あなたがたのもとに帰さなければ、と考えています。 よくぞ、困っていた私を助けるために、エパフロデトをよこしてくれました。 まことに、彼と私は、血を分けた兄弟のように、手を取り合って働き、戦ってきました。 26 いま彼に、そちらへ帰ってもらいます。 彼は、あなたがた一同のことを思ってホームシックにかかっており、その上、自分の病気のことがそちらに知れたのを、ひどく気にしているからです。 27 病気のことは、ほんとうです。 実際、危うく、いのちを落とすところでした。 しかし神様は、エパフロデトをあわれんでくださったのです。 それは、もうこれ以上、悲しみが重ならないようにとの、私へのあわれみでもありました。 28 それで、エパフロデトを帰してやりたいと、心から願っています。 あなたがたが彼に会って感謝にあふれる姿が、目に浮かぶからです。 それは私にもうれしいことですし、心配も軽くなります。 29 どうか喜びにあふれ、主にあって迎えてやってください。 また、その労をねぎらい、感謝の気持ちを表わしてください。 30 なぜなら、彼はいのちがけでキリスト様のために働き、今にも死にそうな目に会ったからです。 彼は離れているあなたがたに代わって、私に尽くしてくれたのです。

三

1 愛する皆さん。 どんなことが起ころうと、主にあって喜びなさい。 こう何度も言いますが、それを私は、別にわずらわしくは思いませんし、あなたがたも聞かされたほうがいいのです。

2 救われるためには割礼（男子の生殖器の包皮を切り取る儀式）を受ける必要があると教える、あの悪い連中を警戒してください。 危険な犬ですから。 3 肉体の一部を切り取りさえすれば、神様の子供になれるのではありません。 霊をもって神様を礼拝する者こそ、神様の子供なのです。 その礼拝こそが、ただ一つの真の「割礼」です。 クリスマスの誇れることと言ったら、キリスト・イエスが成し遂げてくださったわざだけです。自分で自分を救うことなどとてもできないと、よく知っているはずです。

4 しかし、万一、自分を救える見込みがある人間をあげるとしたら、それは私だ、と言ってもいいでしょう。 もし、人間的に見て救われる人がいるとしたら、私には、確かにその可能性があります。 5 生粋のユダヤ人として、由緒あるベニヤミンの家系に生まれた私は、八日目に、ユダヤ人のしるしとしての儀式である、割礼を受けました。 つまり、

だれにも引けを取らない、正真正銘のユダヤ人です。　その上、ユダヤ教のおきてや習慣のすべてを守る点にかけては、最もきびしいパリサイ派に属していました。　6 熱心さの点ではどうだったかと言うと、もちろん、熱心なあまり、教会を激しく迫害したほどです。そして、ユダヤ教のささいな規則や規定にも徹底的に従おうと、懸命に努力しました。

7 しかし、以前、非常に価値があると思っていたこれらのものを、今ではことごとく捨ててしまいました。　それは、ただキリスト様だけに信頼し、キリスト様だけに望みをかけるためです。　8 そうです。　主であるキリスト・イエスを知っているという、途方もなくすばらしい特権と比べれば、ほかのものはみな、色あせて見えるのです。　私は、キリスト様以外のものは、がらくた同然にみなし、全部捨ててしまいました。　それは、キリスト様を自分のものとするためであり、　9 また、もはや、良い人間になろうとか、おきてに従って救われようとか考えるのはやめて、ただキリスト様を信じることによって救われ、キリスト様と結ばれるためです。　神様が、私たちを正しい者と認めてくださるのは、信仰——ただキリスト様だけに頼ること——を持っているかどうかで、決まるからです。

10 私は今、ほかのことはいっさい考えず、ただこのことだけを求めています。　つまり、真にキリスト様を知ること、キリスト様を復活させた超自然的な力を、身をもって体験すること、そして、キリスト様と共に苦しみ、また死ぬとは、どういうことかを知ることです。　11 死人の中から復活した者特有の、生き生きとした新しいいのちに生きる者となるためには、どんな犠牲もいといません。

12 なにも、自分が完全な人間だ、などと主張するつもりはありません。　学ぶべきことも、まだたくさん残っています。　ただ、キリスト様が何のために救ってくださったかを知り、私に与えられている目標に到達する日を目指して、努力しているのです。

13 愛する皆さん。　私は、まだその目標に達してはいません。　ただこの一事に、全力を注いでいます。　すなわち、過去に執着せず、前にあるものを望み見、　14 ゴールに到着してほうびを得るために、一生懸命努力しているのです。　このほうびを与えようと、神様は、私たちを天へと召しておられます。　それは、キリスト・イエスが成し遂げてくださったことに基づくのです。

15 私は、一人前のクリスチャンである、あなたがたがみな、この点について、私と同じ考え方をするようにと願います。　もし何かの点でこの考え方からはずれているなら、神様はきっと指摘してくださるでしょう。——16 もちろん、あなたがたが、与えられた真理に完全に従っているならば、の話です。

17 愛する皆さん。　どうか私の生き方を見ならってください。　また、私を手本として生きている人たちに目をとめてください。　18 というのは、今までも、しばしば注意してきたことですし、今また、涙ながらに訴えたいのですが、クリスチャンとして歩みながら、実はキリスト様の十字架に敵対している者が大ぜいいるからです。　19 彼らの行き着く先は永遠の滅びです。　自分の欲望を神とし、ほんとうは恥じるべきことを誇っているからです。　頭は、この地上の生活のことでいっぱいになっています。　20 しかし、

私たちのふるさは天にあります。そこには救い主である主イエス・キリストがおられます。私たちは、キリスト様がそこから帰って来られるのを、ひたすら待ち望んでいるのです。21 その時、キリスト様は、あらゆる所の、あらゆるものを従わせる超自然的な力で、私たちの死ぬべき体を、ご自身と同じ栄光の体に変えてくださるのです。

四

1 愛するクリスチャンの皆さん。私はあなたがたに、ぜひ会いたいと願っています。あなたがたは私の喜びであり、私の働きが結んだ実なのですから。愛する皆さん。どうかいつまでも、主に対して真実であってください。

2 ここで今、愛する二人の婦人ユウオデヤとスントケにお願いします。どうか、主の助けによってけんかをやめ、もとどおり仲よくなってください。3 私の真実の協力者である皆さん。あなたがたにもお願いします。彼女たちを助けてやってください。キリスト様についての良い知らせを宣傳伝えるために、私と手を組んで働いてくれた人たちからです。それに、いのちの書に名前が記されているクレメンスやほかの協力者たちとも、力を合わせて働いてくれたのです。

4 いつも、主にあって喜びに満たされていなさい。もう一度言います。喜びなさい。

5 自己中心的でなく、思いやりにあふれていることを、だれからも認められますように。主がもうすぐ来られると、いつも意識していなさい。6 何事も心配してはなりません。むしろ、どんなことでも祈りなさい。神様にお願いしなさい。そして、祈りに答えてくださる神様に感謝するのを、忘れてはなりません。7 そうすれば、人間の理解をはるかに超えた、すばらしい神様の平安を経験できます。キリスト・イエスに頼る時、その平安は、あなたがたの心と思いを静め、安らかにしてくれるのです。

8 さて、皆さん、筆をおく前に、もう一つ申し上げたいことがあります。真実なこと、良いこと、正しいことに注目しなさい。きよいこと、愛すべきことについて思いめぐらし、他人の長所に目をとめなさい。神様を喜び、賛美することばかりを考えなさい。9 私から学んだこと、その行動から教えられたことがあれば、みな実行しなさい。そうすれば、平和の神が、共にいてくださいます。

10 あなたがたが、また助けてくれるようになって、どんなに感謝し、また、主を賛美しているか知れません。あなたがたはいつも、できるかぎりのものを私に送ろうと心がけていたのに、機会に恵まれなかったのです。11 生活に困っていたから、こう言うのではありません。私は、物が豊富にあろうとなかろうと、楽しく生きていくすべを学びました。12 文なしの時にも、何でもそろっている時にも、どのように生活すべきか知っています。満腹の時にも空腹の時にも、豊かな時にも貧しい時にも、どんな境遇でも満足する秘訣を身につけたのです。13 なぜなら、力を与え、強めてくださるキリスト様に助けられて、私は、神様の要求を、何でも成し遂げることができるからです。14 しかし、それにしても、よくぞ今、困難な状況下にある私を助けてくれました。

15 よくご存じのとおり、キリスト様についての良い知らせを携え、初めてあなたがたを

訪問した私が、その後マケドニヤを離れて他の地方に向かった時、物をやり取りして協力してくれたのは、あなたがたピリピの教会だけでした。ほかに、そんな教会はありませんでした。16 テサロニケ滞在中でさえ、二度までも、物資を援助してくれました。17 贈り物を感謝するのはもちろんのこと、何よりもうれしいのは、その親切な行ないのゆえにあなたがたが受ける、豊かな報いのことです。

18 今のところ、必要な物は何でもそろっています。それどころか、必要以上に満たされています。エパフロデトにことづけてくれた贈り物をいただいて、十分すぎるほどです。その贈り物は、神様が喜んで受け入れてくださる、香ばしいかおりの供え物です。

19 この神様は、キリスト・イエスが成し遂げてくださったことに基づいて、ご自身の栄光の富の中から、あなたがたに必要なものをすべて満たしてくださる方です。20 父なる神に、栄光が、とこしえに限りなくありますように。アーメン。

パウロ

追伸

21 そちらのクリスチャン全員によろしくお伝えください。こちらにいる兄弟たち（信仰を同じくする人々）がよろしくとのこと。22 また、他のクリスチャンもみな、特にカイザル（ローマ皇帝）の宮廷に仕えている人々が、よろしくと言っています。23 どうか、主イエス・キリストの祝福が、あなたがたの霊と共にありますように。

■

コロサイ人への手紙（コロサイ教会の皆さんへ）

この手紙は、エペソ教会への手紙と同じ時に書かれました。コロサイは、今のトルコにあたる地方にあった町です。その教会に、キリストは神であるという真理をあいまいにする教えが、はびこったのです。そこで、この事態をどう解決したらよいか、パウロに問い合わせることになり、エパfrasが代表に選ばれました。彼の報告を聞いたパウロが、その教えのどこがまちがっているかをはっきり指摘し、キリストは確かに神であることを書き送ったのがこの手紙です。

—

1 神様に選ばれて、キリスト・イエスの使者となったパウロと、信仰の友テモテから、2 コロサイの町に住む、神の民とされた、忠実なクリスチャンの皆さんへ。

どうか、父なる神が、あなたがたに祝福を豊かに注ぎ、すばらしい平安を、あふれるほどに与えてくださいますように。3 私たちは、あなたがたのために祈る時、いつも、まず主イエス・キリストの父なる神に感謝します。4 それは、あなたがたの主に対する深い信頼と、神の民となった人々に対する深い愛とを耳にしているからです。5 また、あなたがたは、キリスト様の良い知らせを初めて聞いた時からずっと、天国にある喜びを早く味わいたいと、首を長くして待ちこがれています。6 今ではこの同じ良い知らせが、世界中に行き渡り、至る所で人々の人生が変えられています。それはちょうど、あなたがたが初めて、この良い知らせを聞いたその日に、罪人に対する神様の豊かな恵みを真に理解して、人生が全く変えられたのと同じです。

7 この良い知らせをあなたがたに伝えたのは、私たちと共に働いている、愛するエパfrasでした。彼は、イエス・キリストに忠実に仕えており、今ここで、あなたがたに代わって私たちを助けてくれています。8 彼はまた、あなたがたが、どんなに他の人々を愛しているかを知らせてくれました。そのような愛は、聖霊様が与えてくださったものです。9 そういうわけで、私たちは、そのことを聞いた時から、絶えずこう祈り求めています。どうか、神様が何を望んでおられるか、はっきり、あなたがたにわかりますように。また、霊的なことに対する理解力が与えられますように。10 いつも主に喜ばれる生き方をして、主の評判を高めることができますように。常に他の人々に善意と親切とを示し、神様をますます深く知るに至りますように。

11 また、こうも祈っています。あなたがたが、神様の栄光ある偉大な力に満たされて、どんなことが起ころうとも常に前進し、いつも、主の喜びにあふれていることができますように。12 また、私たちを、光の国のすばらしい居住権を得るにふさわしい者としてくださった父なる神に、いつも感謝できますように。13 父なる神は、私たちを、サタンの支配する暗黒から救い出して、愛するひとり息子キリスト様の支配下に、移してくださいました。14 この神の子は、自分の血という代価を払って、私たちの自由を買い取ってください、すべての罪を赦してくださったのです。

15 キリスト様は、目には見えない神様に生き写しの方であり、神様がまだ何もお造りにならない前から、生きておられました。16 事実、キリスト様は、すべてのものの創造者なのです。天にあるものも地にあるものも、目に見えるものも見えないものも、霊の世界の王座や主権や支配や権威もすべて、この方がご自分の目的と栄光のために、お造りになったのです。17 キリスト様は他のすべてのものに先立って存在し、すべてのものは、キリスト様によって成り立っています。18 キリスト様は、ご自分に属する人々からなる体——すなわち、キリストの教会——の頭です。教会はキリスト様から始まったのです。キリスト様は、死人の中から、だれよりも先に復活された方です。それは、あらゆる点で、第一の地位を占めるためです。19 なぜなら、神様は、ご自分のすべてが、ひとり息子の中に宿ることを望まれたからです。

20 神様は、実に、キリスト様の成し遂げられた働きに基づいて、天と地のすべてのものが神様のもとに行く道を、開いてくださいました。というのは、神の子キリスト様が十字架の上で死なれたことにより、その血によって、すべてのものが、神様との平和な関係を持つに至ったからです。21 そのすべてのものの中には、かつて神様から遠く離れていた、あなたがたも含まれています。あなたがたは、以前は神様の敵であり、神様を憎み、悪い考えや行ないによって、神様から離れていました。22 しかし今は、キリスト様が人間として十字架上で死なれたことにより、神様と和解させていただいたのです。その結果、キリスト様はあなたがたを、神様の前に連れ出してくださいました。少しも非難されるところのない、きよい者として、立たせるためです。23 ただしあなたがたは、真理を堅く信じ、その真理にしっかり根ざしてゆるがず、主によって強くされなければなりません。また、イエス様があなたがたのために死んでくださったという良い知らせを、はっきりと確信し、この救いに対する信頼を、決して失わないことです。あなたがた一人一人にもたらされた、このすばらしい知らせは、今や世界中に広がっています。そして、私パウロは、これをほかの人々に伝える働きに、いそしんでいるのです。

24 しかし、あなたがたのために苦しむことも、私の務めです。私は喜んでいます。なぜなら、キリスト様の体、すなわち教会のために、キリスト様の苦しみの残された部分の仕上げを、手伝わせていただいているからです。

25 神様が私を遣わされたのは、教会を助け、あなたがた、ユダヤ人以外の外国人に、その救いの計画を知らせるためです。26 27 神様はこれまで何世紀何世代にもわたって、この救いの計画を秘密にしてこられました。しかし今ついに、神様を愛し、神様のために生きる人人に、この計画を明かされたのです。この栄光に富んだ計画は、あなたがた外国人のためのものでもあり、その深い意味は、「栄光を実現する唯一の希望は、あなたがたの心の中に住むキリストである」ということです。

28 ですから、私たちはどこへ行っても、耳を傾けるすべての人にキリスト様のことを話し、できるかぎり手を尽くして、警告を与えたり教えたりしています。そして、キリスト様が成し遂げてくださったことのゆえに、彼ら一人一人を、完全な者として神様の前に

立たせることができるよう、願っています。 29これが私の務めです。 キリスト様が私のうちに力強く働いてくださるからこそ、この務めを果たせるのです。

二

1あなたがたとラオデキヤの教会とのために、またほかにも、直接には会ったことのない多くの友人のために、私がどんなに祈りながら苦闘しているか、知っていただきたいのです。 2私はこう祈り求めています。 あなたがたが心に励ましを受け、強い愛のきずなで互いに結ばれますように。 また、ゆるぎない確信と鋭い理解力をもって、ますます深く、キリスト様を知ることができますように。 というのは、今ついに明らかにされた神様の特別の計画とは、キリストご自身にほかならないからです。 3このキリスト様のうちには、まだ手がつけられていない、すばらしい知恵と知識の宝が、そっくり隠されているのです。

4私がこう言うのは、あなたがたが、だれかの巧みなことばでだまされはしないか、と心配するからです。 5遠く離れていても、私の心は共にあり、あなたがたの秩序ある生活と、キリスト様に対する強い信仰とを見て喜んでいます。 6すでにキリスト様の救いを信じたあなたがたは、日常の問題についてもキリスト様に信頼し、キリスト様と共に生き生きと生活しなさい。 7キリスト様に根を深く下ろし、養分を吸収しなさい。 主にあって成長し続け、真理に立って、強くたくましくなりなさい。 キリスト様が成し遂げてくださったすべてに感謝し、喜びにあふれて生活しなさい。

8あのむなしい、だましごとの哲学によって、だれからも信仰と喜びとを奪われないように、注意しなさい。 あんな哲学は、キリスト様のことばに基づくものではなく、人間の考えや思いつきから出た、まちがいだらけの浅薄な解答でしかありません。 9なぜなら、キリスト様のうちにこそ、神様の性質のすべてが、肉体をとって宿っているからです。 10ですから、キリスト様を自分のものとしているなら、すべてを手に入れたことになります。 そして、キリスト様と結びつくことによって、神様に満たされているのです。 キリスト様は、すべての力を従えた、権威ある、最高の支配者です。

11あなたがたがクリスチャンになった時、キリスト様は、悪い欲望から解放してくださいました。 それは、割礼（男子が生まれて八日目にその生殖器の包皮を切り取る儀式）という肉体の手術によってではなく、心のバプテスマ（洗礼）という霊的な手術によってなされたことです。 12ですから、古い、悪い性質は、キリスト様と共に死に、共に葬られたのです。 そして、キリスト様を死人の中から復活させた、力ある神様のことばを信じたあなたがたは、キリスト様と共に、新しいいのちへと復活させていただいたのです。

13あなたがたは、以前は罪の中で死んでおり、罪深い欲望を断ち切ることもできませんでした。 そんなあなたがたに、神様はキリスト様のいのちそのものを、分け与えてくださったのです。 それは、すべての罪を赦し、 14あなたがたに不利な証書——神のおきてに違反したことを記す明細書——を、塗りつぶしてしまわれたからです。 この罪の明細書は、キリスト様の十字架に釘づけにされて、無効となったのです。 15こうして

神様は、罪を犯したあなたがたを責め立てる、サタンの力をくじかれました。そして、十字架の上でのキリスト様の勝利を、公然と示されたのです。この十字架によって、罪はすべて取り除かれました。

16 そういうわけですから、あなたがたは、食べ物や飲み物のことで、あるいはユダヤ教の祭り、新月の儀式、安息日などを守らない、などという問題で、人からとやかく言われてはなりません。17 というのは、これらの取り決めは、キリスト様が来られる前にだけ有効であった、一時的な規則にすぎないからです。つまり、本体——キリストご自身——の影でしかなかったのです。18 御使いを礼拝すべきだと言われて拒否する時、「今に罰があたるぞ」などと、相手に言わせてはなりません。彼らは、幻を見たと言って、正当性を主張します。この高慢な人々〔しかし、謙そんだと自認しているのですが〕は、実に想像をたくましくしているのです。19 けれども彼らは、キリスト様につながっていません。しかし、キリスト様の体を構成する私たちはみな、キリスト様を頭として結びついています。というのは、私たちは、キリスト様の強力な筋肉によって、互いにしっかりと結び合わされており、神様から養分と力とをいただく時にのみ、成長するからです。20 21 言わばキリスト様と共に死んだあなたがたは、「善行をし、さまざまな規則を守ることによって救われる」というような、この世の考えから解放されたのです。それならなぜ、「あれは食べるな、なめるな、さわってもいけない」などという規則にいつまでも縛られ、結局、この世の考えに従う生活を続けているのですか。22 そんな規則は、人間の教えにすぎません。食物は食べるためにあり、食べればなくなります。23 こんな規則は、自分に強制するきびしい礼拝とか、謙そんとか、肉体の苦行などを伴うので、いかにもすぐれたもののようにながれがちです。しかし、それによって、人の心に忍び込む、悪い思いや欲望に打ち勝つことはできないのです。それはただ、その人を高慢にするだけです。

三

1 キリスト様が死人の中から復活された時、あなたがたも、いわば共に生き返ったのですから、天にある無尽蔵の富と喜びに、目を向けなさい。そこでは、キリスト様が栄誉と力とを帯びて、神様の右の座についておられます。2 天国のことで心が満たされていなさい。地上のことをあれこれ気に病んではいけません。3 一度死んだわけですから、この世に何の未練もないはずです。あなたがたの真のいのちは、キリスト様と共に天の神様のもとにあるのです。4 真のいのちであるキリスト様が再び戻って来られる時、あなたがたも彼と共に輝き、そのすべての栄光にあずかるのです。

5 ですから、罪深い肉欲を捨てなさい。心の中に巣くう、悪い欲望を抹殺しなさい。性的な罪、汚れ、情欲、恥ずべき欲望などと縁を切りなさい。この世の富や快楽を慕い求めてはいけません。それは、神でないものを神とする、偶像礼拝だからです。6 そんなことをする人に、神様の恐ろしい怒りは下るのです。7 あなたがたも、この世的な人間として生きていた時には、そんなことをしていました。8 けれども今は、怒り、憎し

み、ののしり、口ぎたない悪口などの、汚れた服をみな脱ぎ捨てる時なのです。

9 だまし合いはやめなさい。 うそは、あらゆる悪にまみれた古いいのちの特徴でした。しかし今では、その古いいのちは死んだのです。 10 あなたがたは真新しいのちに生きています。 ということは、正しいことへの探究心が旺盛で、この新しいのちを与えてくださったキリスト様に、ますます似た者になりたいと、絶えず努めているのです。 11 この新しいのちに生きる者には、国籍、人種、教育、社会的地位の違いなどは、全く問題ではありません。 そんなものには何の意味もないのです。 大切なのは、キリスト様を、しっかりつかんでいるかどうかです。 そして、キリスト様を自分のものにする機会、だれにも平等に与えられているのです。

12 神様に選ばれて、この新しいのちを与えられたあなたがたは、神様の深い愛と思いやりに包まれているのですから、他の人々に対して情け深く、やさしく親切でなければなりません。 謙そんな態度で、どんな時にも、おだやかに忍耐強く行動してほしいものです。 13 寛容の精神を身につけ、いつでも人を赦しなさい。 いつまでも恨んではいけません。 主があなたがたを赦してくださったのですから、あなたがたも、人を赦すべきではありませんか。

14 何よりも大切なことは、愛にあふれて生きることです。 そうすれば、教会全体が、完全な調和を保てるのです。 15 キリスト様からくる平安が、いつもあなたがたの心と生活を満たすようにしなさい。 そうすることが、キリスト様の体の一部とされたあなたがたの責任であり、特権でもあるからです。 また、いつも感謝していなさい。

16 キリスト様の教えを心にとめ、そのことばによって、人生が豊かに潤されるようにしなさい。 知恵を尽くして、そのことばを互いに教え合い、忠告し合い、感謝にあふれて、詩篇と賛美歌と霊の歌を、主に向かって高らかに歌いなさい。 17 何をするにも、何を語るにも、主イエス様の代理人として行動し、主イエス様と共に、父なる神の前に出て、心から感謝しなさい。

18 妻は夫に従いなさい。 それは、主が人々のためにお定めになったことだからです。

19 夫は妻を愛し、いたわりなさい。 つらく当たったり、邪険な態度をとったりしてはいけません。

20 子供は常に両親に従いなさい。 それは、主に喜ばれることだからです。 21 父親は、子供がしょげ返って、やる気をなくすほど、がみがみしかってはなりません。

22 奴隷はいつも地上の主人に従いなさい。 主人が見ている時だけ、気に入られようと一生懸命に働くのではなく、陰日向なく仕えなさい。 主を愛しているのですから、主に喜んでいただけるよう、真心から主人に従いなさい。 23 地上の主人のためだけでなく、主ご自身のために尽くしているように、何事においても、喜んで精一杯働きなさい。 24 報酬を下さるのは主キリストであることを、忘れてはなりません。 キリスト様は、所有しておられるものの中から、有り余るほどの相続分を与えてくださいます。 あなたがたは、実は、この主キリストのために働いているのです。 25 主のために最善を尽くさ

ない者は、その報いを受けます。主はずるい横着者を、特別、大目に見たりはなさらないからです。

四

1 奴隷の主人は、奴隷全員を正しく、公平に扱いなさい。あなたがたにも天に主人がいて、その行動は全部見られていることを、忘れてはなりません。

2 祈りに飽いてはいけません。熱心に祈り続けなさい。神様は祈りに答えてくださると信じて待ち、それが聞き入れられたら、感謝するのを忘れてはなりません。3 また、私たちのことも忘れないでください。キリスト様の良い知らせを伝える機会が多く与えられるように、祈ってほしいのです。この良い知らせのために、いま私は投獄されているのです。4 どうか、私がこの良い知らせを、勇気をもって、自由に、完全に、しかもわかりやすく〔当然そうすべきなのですが〕語れるように祈ってください。

5 与えられた機会を最大限に生かして、あなたがたも、この良い知らせを人々に伝えなさい。彼らとは、いつも賢く慎重に接しなさい。6 あなたがたの会話が、良識的であり、善意にあふれるよう心がけなさい。そうすれば、相手の一人一人に適切な答えができます。

7 愛する信仰の友テキコが、私の様子を知らせてくれるでしょう。テキコは共に主に仕えている、熱心な働き人です。8 彼に行ってもらうのは、そちらの様子も知りたいし、また、あなたがたを慰め、力づけもしたいからです。9 彼に、あなたがたの仲間の一人、忠実な愛する信仰の友オネシモを同行させます。オネシモとテキコが、こちらの現状をみな知らせることでしょう。

10 私といっしょに牢につながれているアリストアルコと、バルナバの親類のマルコが、よろしくとのことです。前にもお願いしたように、もしマルコがそちらへ行ったら、心から歓迎してやってください。11 イエス・ユストもまた、よろしくと言っています。以上が、こちらで共に神の国のために働く、ユダヤ人のクリスチャンです。彼らから、どんなに励まされたことでしょう。

12 あなたがたの町から来た、キリスト・イエスのしもべエパfrasも、よろしくと言っています。彼はいつも、あなたがたが強く完全な者となり、何事においても、神様が望まれるとおりに行動できるようにと、熱心に祈り求めています。13 あなたがたのために、またラオデキヤやヒエラポリスのクリスチャンのために祈る彼の熱意のほどは、私がよく知っています。

14 愛する医者ルカ、それにデマスが、よろしくとのことです。

15 どうか、ラオデキヤに住むクリスチャンの友人たちに、また、ヌンパと、礼拝のためにヌンパの家に集まっている人たちに、よろしく伝えてください。16 それから、この手紙を読み終えたら、ラオデキヤの教会にも回してください。また、ラオデキヤの教会あての私の手紙も、そちらに回覧されたら読んでください。17 アルキポに、「主から命じられたことをすべて、忠実に果たすように」と伝えてください。

18 このあいさつは、私の自筆です。 私が獄中にいることを忘れないでください。 どう
うか神様の祝福が、あなたがたに満ちあふれますように。

パウロ

■

テサロニケ人への手紙Ⅰ（テサロニケ教会の皆さんへⅠ）

テサロニケは、今なおサロニカという名で繁栄している町で、紀元一世紀には、マケドニヤ地方の主要な町の一つでした。パウロはこの町でも、キリストの教えを伝えましたが、彼に反対するユダヤ人が暴動を起こし、彼を町から追い出してしまったのです。しかし、キリストを信じたギリシヤ人も大ぜいいました。ユダヤ人の迫害に会いながら、信仰を守り続けるこれらの人たちに、パウロは、きよく正しい生活をして、キリストの再来を待つよう励まします。

一

1 パウロとシルワノとテモテから、父なる神と主イエス・キリストに属するテサロニケ教会の皆さんへ。どうか、父なる神と主イエス・キリストからの祝福と平安が、あなたがたにありますように。

2 私たちは、あなたがたのために欠かさず祈り、神様に感謝しています。3そして、いつも忘れずに、あなたがたの愛にあふれた労苦と、強い信仰、それに主イエス・キリストのおいでを熱心に待ち望む態度を、父なる神に申し上げているのです。

4 愛する皆さん。あなたがたが神様から選ばれ、愛されている事実を、私たちはよく知っています。5それは、私たちが伝えたイエス・キリストの良い知らせを、無関係だと聞き流さず、非常な関心をもって迎え入れた、あの態度から明らかです。私たちが語った教えは、あなたがたの人生に重大な影響を与えました。それは、聖霊様によって、これこそ真理だという不動の確信が与えられたからです。また、私たちの生活態度そのものも、語ったことばの正しさを、あなたがたに実証したと言えるでしょう。6こうして、あなたがたも、私たちや主ご自身のあとに続く者となりました。多くの試練や悲しみにもめげず、聖霊様からいただいた喜びにあふれて、私たちの教えを受け入れたからです。7こうしてあなたがたは、マケドニヤとアカヤ中の、クリスチャンの模範となりました。8その働きのおかげで、今では、主のことばはマケドニヤ、アカヤは言うにおよばず、あらゆる地域の人々に知れ渡っています。どこへ行っても、神様に対するあなたがたの目ざましい信仰を賞賛する声を耳にします。ですから、そのことについて、これ以上、何も語る必要がないくらいです。9人々のほうで、あなたがたの、私たちへのすばらしい歓迎ぶりや、偶像を捨てて神様に立ち返り、今では真の生ける神にのみ仕える者となったいきさつ、10また、神の子の到来を待ち望む熱心さについて、話してくれるからです。この神の子こそ、神様が死人の中から復活させたイエス様であり、罪に対する神様の恐るべき怒りから救い出してくださる、唯一の救い主なのです。

二

1 愛する皆さん。私たちの訪問が、あなたがたに及ぼした大きな意義については、認めてくれることでしょう。2そちらに行く前に、私たちがピリピでどんな目に会い、どれほど苦しんだか、よく知っているはずです。しかし、神様から勇気を与えられた私たち

は、四方八方、敵に囲まれながらも、大胆に、神様からの良い知らせを、伝えることができました。 3 ですから、私たちが不純な動機や悪い目的からではなく、まじめで誠実な気持ちから伝道したことを、確認してほしいものです。

4 私たちは、神様から任命された伝道者として、真理だけを語るのもであって、聞く者の好みに合わせて内容を変えることなど、絶対にしません。 なぜなら、私たちは神様お一人に仕えているのであり、神様は、人の心の奥底に潜む思いまでも、鋭く見抜くお方だからです。 5 よくご存じのとおり、私たちはこれまで、へつらって人に気に入られようとしたことなど、一度もありません。 また、お金がほしくて、必要以上になれなれしくしたこともありません。 それは神様がご存じです。 6 また名誉という点では、キリスト様の使徒として、当然賞賛されてもいい権利を持っています。 しかし、あなたがたからはもちろん、ほかのだれからも、そんな名誉を求めたことはありませんでした。 7 それどころか、子供を養い、世話をする母親のように、やさしくふるまってきました。 8 心から、あなたがたを愛していた私たちは、ただ、神様の教えを伝えるだけでなく、いのちさえ喜んで与えたいと思うほどでした。 それほどまでに、深く愛したのです。

9 愛する皆さん。 私たちが、生活費のためにも、どれほど苦勞して働いたか、覚えているでしょう。 そちらにいた時も、夜昼休みなく、汗水流して働きました。 それは、神様の良い知らせを伝える時、だれにも金銭上の負担をかけさせまいとする配慮からでした。

10 一人一人に対して、私たちが純粋な気持ちで、正直に、だれからも非難されないよう

に行動したことは、神様だけでなく、あなたがたも、証人となってくれるはずです。 11 父親が子供をさとすように、一人一人に勧め、また、励ましてきました。 よもや、それを忘れてはいないでしょうね。 12 また、日々の生活が、あなたがたをご自分の国とその栄光とに招いてくださった神様の御心にそい、喜ばれるものとなるように、と教えてきました。

13 私たちは、神様に感謝せずにはおられません。 それは、私たちが伝道した時、あなたがたはそのことばを、ただ人間の口から出たものと見なさず、神様のことばとして聞いてくれたからです。 これは事実、神様のことばであって、信じる者の生活を一変させるのです。

14 さて、愛する皆さん。 あなたがたはユダヤの諸教会と同じ苦しみを味わっています。 つまり、同胞のユダヤ人に苦しめられた彼らのように、あなたがたも同国人に迫害されているからです。 15 ユダヤ人たちは、自分たちの預言者を殺したばかりか、主イエス様すらも手にかけてしまいました。 そして今は、私たちにも激しい迫害の手を伸ばし、追い出してしまったのです。 その上、神様にも人間にも敵対して、 16 外国人への伝道を妨害しようとしてしました。 彼らは、一人の外国人も救われてほしくないのです。 このようにして罪に罪を重ねた彼らに向かって、神様の怒りは、ついに爆発しました。

17 愛する皆さん。 あなたがたのもとを離れてから、かなりになるので〔もっとも、心はいつもそばにいますのすが〕、もう一度、ぜひ会いたいものと思っていました。 18 そ

れで、何とかしてそちらへ行こうと努力したのです。特にこのパウロは、何度も試みたのですが、そのつど、悪魔にじゃまされて果たせませんでした。 19 私たちに希望と喜びとを与え、誇りの冠となってくれるものは、いったい何でしょうか。それはまさに、あなたがたなのです。そうです、主イエス・キリストが再び来られる時、その前で、大きな喜びをもたらしてくれるのは、あなたがたなのです。 20 あなたがたこそ、私たちの勝利のしるしであり、また喜びです。

三

1 もうこれ以上、我慢できなくなったので、私だけがアテネにとどまることにして、 2 3 兄弟（信仰を同じくする人）であり、協力者であり、また神様の伝道者でもあるテモテを、そちらへ行かせました。それは、あなたがたの信仰を強め、励まし、どんな困難の中でも、失望せずにしっかり立ってくれることを願ったからです。〔しかし、ご存じでしょうが、クリスチャンにとって、困難とは、神様の計画の範囲内の出来事なのです。 4 私がそちらにいた時、やがてきっと苦難が訪れると警告しておきましたが、それが、いま事実となったのです。〕

5 私はもうこれ以上、不安な気持ちに耐えきれず、あなたがたの信仰が、以前のようにしっかりしているかどうか確かめたくて、テモテに行ってもらいました。悪魔に誘惑されて信仰を奪い取られ、これまでの苦労が水のあわになったのではないかと心配だったからです。 6 ところが、今こちらに帰って来たテモテから、あなたがたの信仰と愛が、変わらずにしっかりしているとの報告を受け、どんなに喜んでいることでしょう。またあなたがたは、私たちの訪問を昨日のことのよう覚えていて、同じように会いたがっているそうですね。 7 愛する皆さん、私たちは、身も心も押しつぶされそうな困難と苦しみの中にありながらも、あなたがたの、主へのまごころが変わらない事実を知って、ほんとうに慰められました。 8 主にあつて堅く立っていてくれるなら、それだけで、私たちはどんな困難にも耐えていけるのです。

9 あなたがたが与えてくれた喜びを、どれほど神様に感謝して祈ったらよいでしょう。 10 ぜひ、もう一度会って、あなたがたの信仰の不足分を補いたいと、昼も夜も神様に求めています。 11 どうか、父なる神と主イエスが、再会の機会を与えてくださいますように。 12 また、どうか主が、あなたがたを思う私たちの愛のように、あなたがた相互の愛と、他の人々への愛を深め、満ちあふれさせてくださいますように。 13 そして、どうか父なる神が、あなたがたの心を強くし、きよめて、主イエス・キリストがご自分に属する、すべての人と共に再び来られる時、父なる神の前で、あなたがたに無罪を宣告してくださいますように。

四

12 愛する皆さん。さらに付け加えます。あなたがたは日々の生活で、どうしたら神様をお喜ばせできるかを、すでに知っているはずです。そのために、私たちは主イエス様からの戒めを知らされたのですから。そこでお願いします。というより、これは主

イエス様の命令と思ってほしいのですが。どうか、この目標に向かって、さらに熱心に励んでください。 34 なぜなら、神様が望んでおられることは、あなたがたがきよくなることだからです。つまり、あらゆる不品行の罪を避けて、きよらかな品位ある結婚生活を送ってほしいのです。 5 神様を知らず、そのお心も知らない異教徒のように、汚れた肉欲におぼれてはいけません。

6 また、他人の妻を横取りして、その人をあざむくようなことをしてはいけません。前もって厳重に警告しておいたように、主はこれらについて、恐ろしい刑罰を下されるからです。 7 私たちが神様に召されたのは、汚れた思いや欲情のとりこになったりするためではなく、きよく清潔な生活を送るためです。 8 もし、これらの戒めに従うことを拒むなら、人間の規則に違反したというより、聖霊様を与えてくださった神様に、そむいたことになるのです。

9 ところで、クリスチャン同士の純粋な兄弟愛については、とやかく言う必要もない、と確信しています。なぜなら、神様みずから、あなたがたに、互いに愛し合うことを教えてくださったからです。 10 実に、あなたがたの愛は、国中のすべてのクリスチャンをおおうほど強いものだ、と聞いています。そうであればこそ、心からお願いしたいのです。ますます兄弟愛を深めなさい。 11 そして、以前にも教えたように、静かな生活を送り、仕事に身を入れ、喜んで働きなさい。 12 そうすれば、クリスチャンではない人たちからも信用され、尊敬されることでしょう。また、お金の問題で人の世話にならなくなるでしょう。

13 それから、愛する皆さん。クリスチャンが死んだらどうなるか、よく知っておいてほしいのです。それは、悲しみのあまり取り乱して、何の希望もない人たちと同じようにならないためです。 14 私たちは、イエス様の死後の復活を、確かなことと信じています。ですから、イエス様が帰って来られる時、すでに死んで世を去ったすべてのクリスチャンを、神様が共に連れ戻してくださると信じてよいのです。

15 私は、主から直接聞いたとおりを伝えるのですが、主が再び来られる時に、私たちが生きていたとしても、すでに墓の中にいる人たちをさしおいて主にお会いすることは、断じてありません。 16 主は、大号令と、天使長の声と、神の召集ラッパの響きと共に、天から下って来られます。その時、まず最初に復活して主にお会いできるのは、すでにこの世を去っているクリスチャンです。 17 それから、なお生きて地上に残っている私たちが、いっしょに雲に包まれて、空中で主とお会いするのです。そして、いつまでも主と共に過ごすことになります。 18 ですから、このことをわきまえて、互いに慰め合い、励まし合いなさい。

五

1 もちろん、それらがいつ起こるかという質問には、愛する皆さん、私は何も答える必要がありません。 2 その時を言い当てることができる人などいないことは、よくご存じのはずです。主の日は、夜中にこっそり忍び込むどろぼうのように、思いがけない時に来

ます。3人々が、「万事順調で、何もかも平穏無事だ……」と、たかをくくっている時、突然、災いが襲いかかるのです。それはちょうど、出産の時、母親に陣痛が襲うのに似ています。その災いから逃れうる人はいません。身を隠す場所など、どこにもないからです。

4しかし、愛する皆さん。あなたがたは、このことについて皆目わからない、暗やみにいるわけではありません。ですから、主の日が来ても、強盗に襲われた時のように、あわてふためくことはないはずです。5あなたがたはみな、光の子供、真昼の子供であって、暗やみや夜に属する者ではないからです。6ですから、ほかの人たちのように眠りこけないで、目を覚まして見張っていなさい。主が再び来られる日に備えて、慎重に行動しなさい。7夜、人々は眠り、また酔いつぶれます。8しかし、私たちは、昼の世界に生きる者らしく、信仰と愛のよろいで身を守り、すばらしい救いの望みのかぶとをかぶり、慎しみ深くふるまいましょう。

9なぜなら、神様は、怒りをぶちまけるために私たちをお選びになったのではなく、主イエス・キリストによって救うために、選んでくださったからです。10主イエス・キリストの死は、主が再び来られる時に、私たちを、その生死の状態にかかわらず、永遠に主と共に生かすためでした。11そういうわけですから、すでに実行していることですが、互いに励まし合い、助け合いなさい。

12愛する皆さん。あなたがたの間で一生懸命働き、まちがいがあれば親身になって忠告してくれる、教会の役員たちを尊敬しなさい。13その人たちは、何とかしてあなたがたの手助けをしようと、真剣なのですから、彼らを高く評価して、心から愛しなさい。くれぐれも言うておきますが、争いなど起こさないようにしてください。

14愛する皆さん。なまけ者や手に負えない乱暴者は、きびしく注意しなさい。臆病な人を励まし、弱い人を思いやりなさい。そして、だれに対しても忍耐しなさい。15悪をもって悪に仕返ししないように、気をつけなさい。かえって、お互いに、またどんな人にも、常に善意を示すよう心がけなさい。16いつも喜びにあふれていなさい。

17いつも祈りに励みなさい。18どんなことがあっても、感謝を忘れないように。これこそ、神様が、キリスト・イエスに属するあなたがたに、望んでおられることだからです。

19聖霊様の恵みを無に はいけません。20預言する者を軽べつしてはいけません。21万事よく調べて、それがほんとうに良いものかどうかを確かめなさい。そして、ほんとうに良いものであれば、受け入れなさい。22あらゆる種類の悪から遠ざかりなさい。23どうか、平和の神様が、あなたがたを完全にきよめてくださいますように。霊とたましいと体とが、いつも健全で、主イエス・キリストが再び来られる時に、少しも非難されない者としてくださいますように。24あなたがたを招いて自分の子供としてくださった神様は、約束どおり、きっとそうしてくださいます。25愛する皆さん。私たちのために祈ってください。26全員に、心からのあいさつを送ります。27この手

紙を、すべてのクリスチャンが読むようにしてください。それは主の命令です。 28 どうか、主イエス・キリストから、あふれるほどの祝福が、あなたがたに注がれますように。
パウロ

▪

テサロニケ人への手紙Ⅱ（テサロニケ教会の皆さんへⅡ）

パウロは、最初の手紙のあと、すぐにこの手紙を書きました。前回と同様、キリストがもう一度来られることが、その主題です。テサロニケの教会では、このことが大きな問題だったからです。それというのも、キリストはもう来てしまったと言いふらして、人々をあわてさせる者がいたからです。中には、それをいいことに、仕事もせず、毎日ぶらぶらするだけの者もありました。そうしたデマにのせられたり、怠惰に流れることを、パウロはきつく戒めています。

—

1 パウロとシルワノとテモテから、私たちの父なる神と主イエス・キリストに守られている、テサロニケの教会の皆さんへ。

2 どうか、父なる神と主イエス・キリストが、あふれるばかりの祝福と平安とを、あなたがたに与えてくださいますように。

3 愛する皆さん。私は、神様にたいへん感謝しています。それは、あなたがたの信仰がめざましく成長し、お互いがますます深い愛で結ばれているからです。それを思うと、自然に神様に対する感謝の思いがわき上がってきます。もちろん感謝して当たり前のことですが。4 激しい迫害と困難の真ただ中にあるにもかかわらず、あなたがたが忍耐しつつ、神様への完全な信仰を守っていることを、他の教会に大いに誇っています。5 それは、神様のさばきが公平に、また正しく行なわれている証拠です。なぜなら、神様は、苦しみを経験させることによって、あなたがたに神の国に入る資格を与え、6 同時に、迫害する者たちには、その報いとして、さばきと刑罰とを下されるからです。

7 そういうわけで、困難のただ中にある、あなたがたに言っておきます。主イエス・キリストが、力ある御使いたちを従えて、燃え立つ炎の中に、突如として天から姿を現わされる時、神様はあなたがたにも私たちにも、休息を与えてくださるのです。8 その時、神様には目もくれなかった者や、主イエス・キリストによる神様の救いの計画を拒んだ者には、恐るべきさばきが下ります。9 彼らは、永遠の地獄で刑罰を受け、主の前から追放されて、二度と栄光に輝く主の力を見ることはないのです。10 その日、おいでになった主は、ご自分に属するクリスチャンのために成し遂げたそのお働きのゆえに、誉れと賞賛とをお受けになります。そして、私たちが伝えた神様のことばを信じ抜いたあなたがたは、主と共に生きる者となるのです。

11 そのためにも、いつも、あなたがたのことを思って祈っています。どうか、神様が、あなたがたの信仰を評価して、神様のおめがねにかなう、良い子供としてくださいますように。12 そうすれば、神様によって変えられたあなたがたを見て、すべての人が主イエス・キリストの名を賛美するようになるでしょう。そして、あなたがたも、主のものになるという、願ってもない栄光を受けます。神様と主イエス・キリストの恵みによって、そうしていただけるのです。

二

12 さて、主イエス・キリストがもう一度来られることと、その時、一堂に集められた私たちが、主にお会いすることについては、どう考えていますか。愛する皆さん。主の日はもう来たなどという、うわさを耳にして、興奮したり、あわてたりしないでください。たとい、このことについて幻を見たとか、神様から特別のお告げを受けたとか言う人が現われても、また、私たちからのもののように偽造した手紙をちらつかされても、信用してはいけません。3 どんなことを言われても、惑わされたり、だまされたりしないように気をつけなさい。

なぜなら、主の日は、次の二つの現象が起こるまでは実現しないからです。まず、世をあげて神様に逆らう時代が来ます。それから、反逆の人、すなわち地獄の子が現われます。4 彼は、神と名のつくものには、ことごとく反抗し、また、礼拝の対象をすべて打ちこわします。そして神殿に入って、神の座につき、自分こそ神だと宣言します。5 このことについては、そちらに滞在中、口をすっぱくして話しておいたはずですが、覚えていないのですか。6 あなたがたは、姿を現わそうとする彼を引き止めている者がだれであるかを知っているはずです。彼は定められた時が来るまで、出て来られないのです。7 この反逆と地獄の子が現われるきざしは、すでにあちこちに見られます。しかし、引き止めている者が身を引くまでは、姿を現わせません。8 時が来れば、いよいよこの悪の張本人が飛び出すことになりますが、主イエス様が来られ、御口の息によって、彼を焼き滅ぼしてしまわれます。9 この罪の子は、悪魔の手先であり、悪魔のあらゆる力を与えられて、やって来ます。不思議なわざを披露しては人々をだまし、すばらしい奇蹟を行なう者であるかのように見せかけるのです。10 こうして、真理を拒んで地獄への道に突っ走る者たちを、すっかり、とりこにしていまいます。そのような人たちは、真理を信じることも愛することもせず、まして救われようなどとは考えもしなかったのです。11 そこで神様は、彼らがうそで丸め込まれるままに放っておかれるのです。12 真理を捨てて、うそを信じ、罪を犯すことを楽しむ彼らに、さばきが下るのは、当然のことです。

13 しかし、主に愛されている皆さん。あなたがたのことを考えると、神様に感謝せずにはおられません。なぜなら、神様は初めから、あなたがたを救おうとしてお選びになり、聖霊様の働きと、真理に対するあなたがたの信仰によって、きよめてくださったからです。14 神様は私たちの口を通して、あなたがたに、このすばらしい知らせを語ってくださいました。そればかりか、主イエス・キリストの栄光を分け与えようと、招いてくださったのです。

15 愛する皆さん。これらのことを深く心にとめて、しっかり立ちなさい。そして、私たちが手紙で伝え、またそちらに滞在中に教えた真理を、失わないようにしなさい。

16 どうか、私たちを愛し、何の値打もない者に永遠の慰めと希望とを与えてくださった、主イエス・キリストと父なる神が、17 あらゆる励ましをもって、あなたがたを勇気づ

け、ことばと行ないとで、善を追い求めさせていただきますように。

三

1 愛する皆さん。 この手紙を書き終えるにあたって、お願いしたいことがあります。 どうか、私たちのために祈ってください。 主のことばが至る所で急速に広まって勝利を収め、あなたがたのところと同様、各地でも救われる人が続出するように祈ってください。

2 また、私たちが悪い連中の手から救い出されるように祈ってください。 すべての人が、主を愛しているわけではありませんから。 3 しかし、主は真実な方ですから、あなたがたに力を与え、悪魔のどんな攻撃からも守ってくださいます。 4 私たちは主に信頼しているので、あなたがたが、私たちの教えを現に実行しており、これからもその態度は変わらないと確信しています。 5 どうか、主の導きによって、神様の愛と、キリスト様の忍耐とを、あなたがたが、ますます深く理解しますように。

6 愛する皆さん。 ここで主イエス・キリストの名により、その權威を受けて命令します。 私たちが身をもって示した教えに従わず、ぶらぶらと日を過ごしているクリスチャンとは、絶交しなさい。 7 どういう生活をすればよいかは、もうよくわかっているはずです。 私たちは、そちらで、だらしのない生活をしたことはありません。 それを手本にしてください。

8 私たちは、だれからも、ただでパンをもらいませんでした。 人に負担をかけたくなかったのも、必要な物は、昼夜働いて得た収入で手に入れました。 9 私たちに、それを要求する権利がなかったからではなく、自分の生活は自分で支えるという模範を、身をもって示したかったからです。 10 そちらでも、「働かない者は食べる資格がない」という鉄則を、教えたはずです。

11 ところが、聞くところによると、あなたがたの中には、働くのをいやがり、一日中ぶらぶらして、うわさ話に花を咲かせている人がいるらしいですね。 12 そういう人たちに、主イエス・キリストの名によって忠告し、また命じます。 じっくり腰を落ち着けて、まじめに仕事に精を出し、自活できるようになりなさい。 13 それから、愛する皆さん。 あなたがたには、いつでも、生き生きと正しい行ないをしてほしいものです。

14 もし、この手紙の教えに聞き従わない者があれば、特に注意して、そんな人とは絶交しなさい。 自らそのことに気づいて恥じ入らせるためです。 15 その人を敵視してはいけません。 彼には、兄弟に対するような忠告が必要です。 16 どうか、どんな場合にも、平和の主が、あなたがたに平安を与えて、共にいてくださいますように。

17 この最後のあいさつは、私の自筆です。 どの手紙にもそうしています。 18 どうか、主イエス・キリストの祝福が、あなたがた一同にありますように。

パウロ

▪

テモテへの手紙 I

パウロが、息子のようにかわいがっていたテモテに送った手紙です。テモテは、パウロの勧めでキリストを信じ、以後行動を共にし、献身的に協力した青年です。パウロも、手足となって働く彼を信頼し、やがてエペソの教会の指導を一手に任せるようになりました。しかし、年若くして責任ある立場におかれたテモテには、それなりの苦勞もありました。そうしたことを思いやり、パウロは、父親のようなやさしさで、指導者としてのあり方を教えています。

—

1 私たちの救い主である神様と、唯一の希望である主イエス・キリストから遣わされた、イエス・キリストの宣教者パウロから、 2 テモテへ。

あなたは、信仰の面から言えば、私の息子みたいなものです。どうか、父なる神と主イエス・キリストの、恵みとあわれみによって、あなたの心と思いとが、豊かな平安で満たされますように。

3 4 私がマケドニアに出発する際、指示しておいたように、あなたは引き続き、エペソの教会にとどまり、まちがった教えを言い広めている者の口を封じてください。彼らの作り話や伝説、また、くだらない系図論争に、とどめを刺しなさい。このような教えは、信仰によって救われるという神様の計画を、人々が受け入れるのを妨げるばかりか、かえって、さまざまの疑問と議論を巻き起こすものになります。 5 私がひたすら願い求めるのは、すべてのクリスチャンが純粋な愛の心になり、その思いがきよめられ、信仰が強められることです。

6 しかし、まちがった教えを広める教師たちは、この目標を見失い、議論やくだらない話で時間をつぶしています。 7 彼らは、モーセのおきての教師としての名声を得たがるのですが、そのおきての本質は、少しもわかっていないのです。 8 おきては、神様の意志にかなって用いられるなら、ほんとうに良いものです。 9 しかし、神様に救われた私たちのためのものではありません。それは、神様を憎み、反抗心をいだき、罰あたりなことばを吐き、父母に逆らい、人殺しをする罪人のためにあるのです。 10 11 おきては、不道徳で不潔な者たち、すなわち、同性愛にふける者、子供を誘拐する者、うそをつくる者、そのほか、祝福を約束する神様の良い知らせにそむく者の罪を、はっきり指摘するためにあるのです。私は、この良い知らせを伝える使者として任命されました。

12 私は、主キリスト・イエスに、どう感謝したらよいかわかりません。主は私を使者の一人に選び、忠実に奉仕する者となる力を下さいました。 13 以前の私は、キリスト様の名をあざけり、主を信じる者たちを追い回し、あの手この手で迫害しました。しかし主は、そんな私さえ、あわれんでくださったのです。その時はまだ、キリスト様を知らず、自分のしていることの恐ろしさもわからなかったからです。 14 主は、なんと恵み深いお方でしょう。どのように主に信頼すべきか、どうしたらキリスト・イエスの愛

に満たされるかを、教えてくださいました。

15「キリスト・イエスは、罪人を救うために、この世に来てくださった」ということは真実です。このことをだれもが知ってくれるようにと、心から願っています。私は、その罪人の中でも首領格の人間です。16それにもかかわらず、神様は私をあわれんでくださいました。キリスト・イエスは、どうにも手がつけられない罪人に対してさえ、自らの忍耐深さを教えようと、私みたいな者を選ばれたのです。それによって、だれにも永遠のいのちを持つ希望が与えられるのです。17どうか、永遠の王であり、決して死ぬことのない、目には見えない、ただ一人の、知恵に満ち満ちた神様に、栄光と誉れとが、永遠にありますように。アーメン。

18息子テモテよ。あなたに命じます。主が預言者たちを通して言われたように、主のための戦いをりっぱに戦い抜きなさい。19キリスト様を信じる信仰を、しっかり守りなさい。また、正しいと思うことは進んで行ない、いつも良心に恥じない歩みをしなさい。悪いことと知りながら、良心に逆らって、あえて行動に移す人がいます。神様をないがしろにするような人が、たちまちキリスト様への信仰を失ったとしても、少しも不思議はありません。20ヒメナオとアレキサンデルの二人は、その悪い見本です。私は、彼らを罰するために、悪魔の手に引き渡さざるをえませんでした。それは、キリスト様の名を辱しめてはならないことを、身をもって学ばせるためです。

二

1さて、次のことを勧めます。すべての人のために、神様のあわれみが注がれるよう熱心に祈り、とりなしなさい。そして、やがて彼らにも恵みが与えられると信じて、感謝しなさい。

2王のため、また権威と重い責任を負っているすべての人のために祈りなさい。それは、主を敬い、主を深く思いながら、平安のうちに落ち着いた一生を過ごすためです。3そうすることはたいへん良いことで、救い主である神様に喜んでいただけることです。4神様はすべての人が救われて、真理を理解するに至ることを、切に望んでおられるからです。56その真理とは、こうです。神と人間とは、それぞれ別の岸に立っています。そして、人となられたキリスト・イエスがその間に立ち、ご自分のいのちを、全人類のために差し出すことによって、両者の橋渡しをされたのです。

これこそ、神様が時にかなって私たちに示された教えにほかなりません。7この真理を外国人に教え、救いは信仰によって与えられるという、神様の計画を伝えるために、私は宣教者また使徒として選ばれました。これは、うそ偽りのない真実です。8そこで勧めます。男は、罪を犯したり、怒ったり、恨みをいだいたりせずに、どこででも、きよい手を上げて祈りなさい。910同じように、女も、控え目な服装や態度で、品位を保つように心がけなさい。クリスチャンの女性は、はでなヘアスタイルや宝石や高価な着物によって人の注意を引こうとはせず、良い行ないとやさしく親切なふるまいによって身を飾りなさい。11女は、物静かに、謙そんな心で教えを聞き、また学ぶべきです。

1 2 女が男にものを教えたり、権力をふるったりするようなことが、決してあってはなりません。 女は、教会の集会では黙っていなさい。 1 3 なぜなら、神様は最初にアダムを、そのあとでエバをお造りになったからです。 1 4 アダムは悪魔にだまされませんでした、エバはだまされ、罪を犯してしまいました。 1 5 そこで神様は、女に子を産む時の苦しみをお与えになったのです。 しかし、もし女が神様を信じ、控え目な態度で愛にあふれた生活を送るなら、そのたましいは救われます。

三

1 「人がもし牧師になりたいと願うなら、それはすばらしいことです」ということばは、真実です。 2 牧師になる人は、だれからもうしろ指をさされたりしない人でなければなりません。 ちゃんとした結婚をしており、勤勉で思慮深く、折り目正しい生活をして、善行に励む人であるべきです。 また、客をよくもてなし、有能な聖書の教師でなければなりません。 3 酒飲みでも、けんか好きでもなく、やさしく親切で、金銭にこだわらず、 4 子供たちのしつけも行き届いた、良い家庭の主人でなければなりません。 5 自分の小さな家庭すら取りしきれない人が、どうして神様の教会を指導できるでしょう。

6 また、牧師となる者は、クリスチャンになって、まだ日の浅い人ではいけません。 早く牧師に選ばれたというので、高慢になる危険性があるからです。 高慢は墮落の前ぶれです〔悪魔がその良い例です〕。 7 また、クリスチャンでない教会外の人からも、評判の良い人でなければなりません。 そうでないと、悪魔のわなにはまって、訴える口実を与えたり、自由に教会員を指導する力を奪われたりするからです。

8 教会の執事も、牧師と同じように、善良でまじめな人でなければなりません。 大酒飲みや、お金に執着する人でなく、 9 信仰の、秘められた源であるキリスト様に、真心から仕える人でなければなりません。 1 0 ですから、正式に執事として任命する前に、その人柄や能力をテストするため、教会で何かほかの仕事をさせてみなさい。 もしそれをりっぱにやり遂げたら、執事として任命しなさい。

1 1 執事の妻も、思慮深く、酒におぼれず、陰口をきかず、すべてに忠実な人でなければなりません。 1 2 執事は、ちゃんとした結婚をしており、家族のだれからも慕われる円満な家庭の主人であるべきです。 1 3 執事の務めをりっぱに果たす人は、人からは尊敬され、また、自ら主への確信と信頼もますます強められて、二重の報いを受けることになります。

1 4 私は、近いうちに、そちらを訪問したいとは思っていますが、念のために、この手紙を書いています。 1 5 もしその訪問がしばらく実現しなくても、生ける神の教会のために、どのような人を役員として選ぶべきかを、あなたに知ってもらいたいからです。 教会は、真理を高く掲げるとりでなのです。

1 6 神様を敬う生涯を送ることは、決して、なまやさしいものではない、と言われますが、まさにそのとおりです。 しかし、その解決はキリスト様のうちにあるのです。

キリストは人として地上に来られ、

その霊において汚れなく、
きよらかであることが証明され、
御使いたちに仕えられ、
諸国民の間に宣べ伝えられ、
至る所で信じられ、
再び栄光のうちに天に引き上げられたのです。

四

1 しかし、聖霊様がはっきりと予告されたように、終末の時代には、教会の中からも、キリスト様から離れ、悪霊の教えを広める教師の熱心な弟子になる者が現われます。 2 そのような教師は、平気でうそをつき、しかもそれを何度もくり返すので、良心が完全に麻痺しています。 3 彼らは、結婚や肉を食べることを禁じたりします。 しかし、神様はそれらを、よく訓練されたクリスチャンが喜び楽しむようにと、備えてくださったのです。

4 神様がお造りになったものはみな良い物で、感謝して受ければ、何一つ捨てる必要はありません。 5 それらは、神様に祝福を求める祈りと、神様のことばとによって、きよめられるからです。

6 このことを、ほかの人たちに、はっきり教えなさい。 そうすれば、あなたは牧師の義務をりっぱに果たしたことになるのです。 牧師は、自らの信仰と、従ってきた真理の教えとによって成長するのです。

7 ばかばかしい理論や、くだらない作り話を、あれこれ議論し、むだに時間を費やしてはなりません。 むしろ、時間と労力とを有効に使って、いつも霊的に高められるよう、自分を訓練しなさい。 8 体の訓練も大いにけっこうですが、霊の訓練はさらに大切であり、あらゆる行動の原動力になるのです。 ですから、あなたは霊の訓練に励み、もっとすぐれたクリスチャンを目指しなさい。 そうすることは、今の地上の生活のためだけでなく、未来の生活にも役立つからです。 9 これは、万人に共通の真理です。 10 私たちは、これを人々が信じるようにと、多くの苦しみに会いながらも一心に励んできました。 それは私たちが、生ける神に希望を託しているからです。 神様はすべての人のために、特にその救いを受け入れた人たちのために死に、復活されたお方なのです。

11 これらのことを、どんな人でも十分理解できるように教えなさい。 12 年が若いからといって、軽く見られてはいけません。 かえって人々の模範になりなさい。 あなたが、ことばと実践によって教えていることを、人々にも実行させなさい。 愛、信仰、きよらかな思いの、良い模範を示しなさい。 13 私がそちらに行くまで、教会で聖書を朗読し、その内容を教え、神様のことばを伝えなさい。

14 かつて教会の長老たちがあなたの頭に手を置いて祈ってくれた時、神様が預言を通して与えてくださった特別な能力を大切にしなさい。 15 その能力を十分に活用して、今の仕事に全身全霊、打ち込みなさい。 そうすれば、だれの目にも、あなたの進歩と向上が明らかになるでしょう。 16 自分の思想と行動全般に、いつも気を配っていなさい。

正しいことには、あくまでも忠実でありなさい。 そうすれば、神様はあなたを祝福し、他の人たちを助けるのに役立つ者としてくださいます。

五

1 年上の人に、きついことば使いをしてはいけません。 むしろ、父親に対するように、尊敬の念をこめて話しかけなさい。 年下の人には、弟に対するように話しなさい。 2 年上の婦人には母親のように、若い女性には、少しも不純な気持ちをいだかないで、妹のように接しなさい。

3 夫に先立たれて、だれにも面倒をみてもらえない婦人がいたら、教会は親身になって世話すべきです。 4 しかし、もしその人に子供か孫がいる場合は、その責任は彼らにあるのです。 なぜなら、親切は、まず自分の家庭から、つまり、困っている親の面倒をみることから始まるのです。 神様はそのことを、たいへんお喜びになります。

5 教会が世話すべき人は、身寄りのない貧しい未亡人たちです。 中でも、ひたすら神様に信頼し、多くの時間を祈りに費やす人たちは、6 あちこち遊び歩いて、うわさ話に花を咲かせ、おもしろおかしく暮らしている未亡人は、世話する必要がありません。 そんな人は、たましいが死んでいるのです。 7 このことを、教会規則に明記しておきなさい。 そうすれば、教会員は何が正しいかを知り、進んでそれを実行するでしょう。

8 自分の親類、ことに家族の苦しみを見て見ぬふりをするような人は、クリスチャンの風上にも置けません。 神様を知らない人よりも悪いのです。

9 教会の特別な働き人になりたいと願う未亡人には、一定の条件をつけるべきです。 すなわち、少なくとも六十歳以上で、結婚歴は一度に限らなければなりません。 10 また、これまで善行を積み、評判のよかった人でなければなりません。 次のことを調べる必要があります。 子供をりっぱに育て上げたかどうか。 クリスチャンに限らず、見知らぬ旅人をも親切にもてなしたかどうか。 病人や困っている人に助けの手を差し伸べたかどうか。 常にだれにでも、やさしくふるまう心がまえでいたかどうか。

11 若い未亡人を、そのような特別な婦人たちと同列に扱ってはいけません。 それというのも、若い人はキリスト様への誓いを無視して、再婚したがるからです。 12 その結果、初めの約束を破ったというので、きびしい非難にさらされることになります。 13 その上、彼女たちときたら、怠けやすく、あちこちの家を遊び歩いては、うわさ話に花を咲かせ、やたらに、おせっかいをやきたがるのです。 14 それで私は、そういう若い未亡人には再婚を勧め、子供を産み、家庭を大切にするよう指導するのが一番だと思います。 そうなれば、だれにも非難されずにすむでしょう。 15 実際、すでに教会に背を向け、悪魔の誘いに乗って道を踏みはずした未亡人が、何人かいるからです。

16 もう一度念を押しますが、親類に未亡人のかかえている場合は、その面倒を見るべきです。 教会に余計な負担をかけてはいけません。 そうでないと、ほんとうに一人ぼっちで身寄りのない未亡人を援助するお金が、なくなってしまうからです。

17 与えられた仕事を忠実に果たしている牧師は、それに見合う十分な報酬を受け、心か

ら尊敬されるべきです。説教と教育の両方に熱心に励んでいる牧師の場合は、特にそうでなければなりません。18なぜなら、旧約聖書に「穀物を踏んで脱穀している牛に口輪をかけ、その穀物を食べるのを禁じてはいけない」とか、「働く者が報酬を受けるのは当然である」とか書いてあるからです。

19牧師への不満の訴えは、二、三人の証人がいなければ、取り上げてはいけません。20万一、牧師が実際に罪を犯した場合は、教会員全員の前で責めなさい。その悪い例にならう人を一人も出さないためです。

21私は、神様と主イエス・キリストと聖なる御使いたちの前で、厳粛な思いで命じます。あなたがその牧師と親しい間柄であろうとなかろうと、公平に対処しなければなりません。

22牧師を選ぶ時は、慎重を期しなさい。そうでないと、その人の罪を見のがす結果になり、あなたもその罪を黙認したことになるからです。あなたも、いっさいの罪から離れ、きよい生活をしなさい。23だからといって、ぶどう酒を全く断つ必要はありません。病気がちのあなたには、むしろ胃の薬として、時々少量を飲むように勧めます。

24中には、牧師でありながら、罪の生活から足を洗えず、しかも、そのことが、だれの目にも明らかな人がいます。そんな場合は、直ちに何らかの手を打ちなさい。しかし中には、最後のさばきの日に初めて、その恐るべき真相がばあかれる場合もあるのです。

25こうも言えます。ある牧師のりっぱな行ないが、現にだれにも知れ渡っている場合もあれば、反対に、ずっとあとにならないと、その業績が認められない場合もあるということです。

六

1クリスチャンである奴隷は、主人を心から尊敬して、一生懸命働きなさい。キリスト様に従う者となりながら、怠け者だと非難されてはなりません。そんなことで、神様の名と教えとが笑いものにされてはたまりませんから。2主人が、たまたまクリスチャンの場合でも、それをいいことに気をゆるめたりせず、むしろ、いつそう熱心に働きなさい。その結果、益を受けるのは、信仰を同じくする、あなたの兄弟なのですから。

テモテよ。すべての人にこれらの真理をよく教え、心から従うように勧めなさい。3中には、これらを見做す人がいるかもしれません。しかしこれは、主イエス・キリストの健全な教えであり、神様を敬う生活の、基礎となるものです。4違った教えを広める人がいれば、それは高慢のなせるわざであり、自分の無知をさらけ出す行為だとみなしなさい。つまり、キリスト様のことばをいい加減に解釈し、ねたみや怒りにかられて議論を果てしなく続け、その結果、悪口や非難、不信感のとりこになるのです。5こうして議論に明け暮れ、心が罪にゆがんでいる人は、真理をどう表現すればよいのか知りません。彼らにとって、真理とは、金もうけの手段にすぎないのです。そんな人から遠ざかりなさい。

6ほんとうの金持ちになりたいと思いますか。もし今、幸福で、心が満ち足りているなら、あなたはすでに金持ちなのです。7私たちは、一円たりとも身につけてこの世に生

まれたわけではありません。 また、この世を去る時にも、一円も持って行けません。 8
ですから、食べる物と着る物があれば、満足すべきです。 9 しかし、金持ちになりたが
る人は、もうけ話には見境がなく、すぐ悪に走ってしまいます。 その結果、ひどい目に
会い、心を汚し、ついには、地獄へ送り込まれることになります。 10 お金を愛するこ
とは、あらゆる悪の根源です。 中にはお金を愛するあまり、信仰を捨て、神様から離れ
てしまった人もいます。 おかげで、そんな人はわが身を刺し通す、激しい悲しみに襲わ
れるのです。

11 テモテよ。 あなたは神に仕える者です。 ですから、これらすべての悪から逃れて、
正しく良いことを熱心に励みなさい。 神様を信頼し、人を愛し、忍耐強く、ものやわら
かな態度を身につけ、 12 神様のために戦い続けなさい。 神様から与えられた、永遠
のいのちをしっかりと握っていなさい。 あなたは、この永遠のいのちについて、多くの証
人の前で、堂々と告白したのです。

13 私は、すべてのいのちの創造者である神様と、ポンテオ・ピラトの前での大胆な証人
キリスト・イエスとの前で、あなたに命じます。 14 主イエス・キリストが再び来られ
る時まで、主が命じられたことをすべて成し遂げ、だれからも非難されるところのない者
になりなさい。 15 その時が来ると、キリスト様は、祝福に満ちた、ただ一人の力ある
神から遣わされて、天から姿を現わします。 この力ある神は、王の王、主の主として、
16 死ぬことのない、ただ一人の方であり、だれも近づけない、まばゆい光の中に住んで
おられます。 普通の人、だれ一人、神様を見たことはありませんし、これから、決
して見ることはできません。 どうか、このまことの神様に、誉れと、永遠の権威と支配
とが、世々かぎりなくありますように。 アーメン。

17 金持ちには、高慢にならないように、そして、すぐになくなるお金に望みをかけない
ように教えなさい。 また、必要なものをいっさい備えて、私たちの人生を楽しませてく
ださる生ける神様を誇りとし、この方だけを信頼するように忠告しなさい。 18 また、
お金の生きた使い道を教えてやりなさい。 自分の持ち物はすべて神様からいただいた物
だとわきまえて、困っている人には喜んで分けてやるように心がけなさい。 そうすれば、
神様の前でたくさんの善行をほどこす者となり、 19 自分のために、ほんとうの宝を天
に積むことになるのです。 これこそ、未来に備える、ただ一つの絶対に安全な投資です。
また、そうする人は、この地上でも、実りあるクリスチャン生活を送れるのです。

20 テモテよ。 神様から託された任務を完全に果たしなさい。 知識を鼻にかけ、かえ
って無知をさらけ出しているような人と、くだらない議論にふけられないよう、気をつけな
さい。 21 彼らの中には、人生で最も大切なものを見失った者、すなわち神様を知らな
い者がいるのです。

どうか、神様のあわれみが、あなたがたにありますように。

パウロ

・

テモテへの手紙 II

囚われの身であり、処刑を間近にひかえたパウロが、最愛の弟子テモテに送った遺書とも言える手紙です。自分は犯罪人という最もみじめな境遇におかれ、しかも、エペソの教会では、大ぜいの信者が造反運動を起こすという悲しい出来事に直面して、パウロはテモテに、どんなにつらい時も、正しい教えを伝えることだけは忘れないように、と訴えます。そして、自分の一生は、まさにそうした戦いの連続であり、それを勇敢に戦い抜いたことを語ります。

—

1 2 キリスト・イエスを信じる者に神様が約束された永遠のいのちを、人々に伝えるために遣わされた、キリスト・イエスの宣教者パウロから、愛するテモテへ。どうか、父なる神と主キリスト・イエスが、恵みとあわれみと平安とを、あなたに注いでくださいますように。

3 テモテよ。私はあなたのことを、どんなに神様に感謝しているか知りません。毎日、あなたのために祈り、長い夜も、何度となく思い出しては、どうかあなたに祝福があるように、と願い求めています。神様は、先祖代々の神であり、また、私の神です。そして、この神様に喜んでいただくことだけが、私の生きがいなのです。

4 私は、ぜひもう一度あなたに会いたい、と願っています。この願いがかなえられたら、跳び上がって喜ぶことでしょう。今でも、あの別れの時の、涙にくれたあなたの姿が、まぶたに焼きついているのです。

5 あなたの主に対する熱心な信仰は、お母さんのユニケやおばあさんのロイスに少しも劣らないことを、私はよく知っています。そして、今でもその信仰は変わらないと信じています。

6 ですから、お願いしたいのです。私があなたの頭に手を置いて祈った時、うちに注ぎ込まれた力と勇気を、もう一度、奮い起こしなさい。7 なぜなら、神様が遣わされた聖霊様は、人を恐れず、知恵と力とをみなぎらせ、人を愛し、喜んで人と共に歩むことを、要求なさるからです。8 もしあなたが、この力を奮い起こすなら、主について人前で語るのをためらったり、キリスト様のゆえに牢獄につながれている私のことを、恥じたりしなくなるでしょう。それどころか、私と共に苦しむ覚悟ができるはずです。神様は、苦しみのただ中にあっても、力を与えてくださるのですから。

9 神様は私たちを救い、そのきよい仕事に任命するため、選んでくださいました。それは、私たちにその仕事をする資格があったからではなく、何もかも、この世が始まる前から、神様によって決められていたことなのです。それによって、愛とあわれみを、キリスト様を通して私たちに示そうとされたのです。10 そして、救い主キリスト・イエスが地上に来られた今、神様は、その計画の全貌を明らかにしてくださいました。キリスト様は死の力を打ち破り、ご自分を信頼する者に、永遠のいのちに至る道を切り開いてく

ださったのです。 11そして神様は私を、この良い知らせを外国人に宣べ伝え、教える使者にお選びになったのです。

12そのため、私はいま獄中で苦しんでいるのです。 しかし、それを少しも恥とは思いません。 なぜなら、自分が、どなたを信頼しているのかよく知っており、またその方は、お任せしたものをみな、再び来られるその日まで、安全に守ってくださる、と確信しているからです。

13私が教えた真理、特にキリスト・イエスが与えてくださった信仰と愛とを、しっかり握っていなさい。 14あなたのすばらしい才能は、うちに住んでおられる聖霊様からの贈り物ですから、十分に注意して守りなさい。

15ご存じのとおり、アジアから来たクリスチャンは、みな私を捨てて行きました。 フゲロとヘルモゲネでさえ、離れて行ったのです。 16どうか主が、オネシポロとその家族とを、祝福してくださいますように。 彼は、たびたび私を訪ね、励ましてくれました。 彼が来るたびに、新鮮な空気を胸いっぱい吸い込んだように、たいそう元気づけられたのです。 しかも彼は、私が獄中にいることを、少しも恥ずかしいこととは思いませんでした。 17その証拠に、彼はローマに着くとすぐ、あちこち捜し歩いて、ついに私を訪ねあててくれたのです。 18どうか、再びキリスト様のおいでになる日に、主が、彼を特別に祝福してくださいますように。 エペソでの彼の献身ぶりは、あなたのほうがよく知っています。

二

1私の子テモテよ。 キリスト・イエスから力をいただいて、強くなりなさい。 2なぜなら、あなたには、多くの証人の前で、私から聞いたことを、ほかの人に伝える使命があるからです。 この偉大な真理を、信頼のおける人、すなわち、自分が信じるだけでなく、人にも伝えることのできる人に教えなさい。

3キリスト・イエスのりっぱな兵士として、私と共に苦しんでください。 4キリスト様の兵士となった以上、この世のさまざまな事に、うしろ髪を引かれてはなりません。 そんなことでは、キリスト様の軍隊に入隊させてくださった方を、悲しませるだけです。 5ルールに違反した競技者は失格し、賞を得ることができません。 同様に、主の仕事に携わる人も、主の規則に従うべきです。 6身を粉にして働いた農夫が、多くの収穫をあげるのは当然です。 ですから、あなたも一生懸命働きなさい。 7以上の三つの例を、よく考えなさい。 これらのたとえの意味を理解する力が、主から与えられますように。

8 イエス・キリストが、人間としてダビデ王の家系から生まれ、同時にまた神であること〔それは、死人の中からの復活という、驚くべき事実によって証明されました〕を、いつも覚えていなさい。 9私が今こんなつらい目に会い、犯罪者のように牢獄に放り込まれているのは、ほかでもありません。 このすばらしい真理を人々に伝えたからです。 しかし、私は鎖でつながれていても、神様のことばは、つながれてはいません。 10私は喜んで、どんな苦しみも耐え忍びます。 それは、神様に選ばれた人に、キリスト・イエス

の救いと、永遠の栄光とをもたらすためです。

11 私は、次の真理を知っているので慰められます。 すなわち、キリスト様のために苦しみを受けて死ぬ時が、天で、キリスト様と共に生きる時の始まりを意味する、ということです。 12 もしも、主に仕える現状をつらいと思うことがあれば、いつの日か必ず主と共に王座につき、共に治めるようになることを思い起こして、がんばりなさい。 もし、私たちが苦しみには堪えかねて、キリスト様を拒むようなことがあれば、キリスト様も、私たちを拒まれるに違いありません。 13 たとい、信仰をなくしたかと思えるほど、私たちが弱くなっても、キリスト様は真実を貫き、私たちを助けてくださいます。 私たちは主の一部分になっているので、切り捨てられることはないのです。 そして、主はいつも約束を果たしてください。

14 このすばらしい事実を、教会員の心にしっかり植えつけなさい。 そして、つまらない問題で議論するのを、主の名によって禁じなさい。 そんな議論は混乱を招くだけで、百害あって一利なしだからです。 15 あなたは、神様から「よくやった」と、おほめのことがいただけるように、熱心に励みなさい。 神様に仕事ぶりを評価される時、胸を張っていられるような、りっぱな働き人になりなさい。 そのために、聖書が教えていること、意味することを学びなさい。 16 人々を憎しみの渦に巻き込むような、くだらない議論を避けなさい。 17 そんな議論は、火のように、どんどん燃え広がって、人々を傷つけるばかりです。 議論好きのヒメナオとピレトは、まさしくこの種の人間です。 18 あの連中は真理の道を踏みはずし、死人の復活など、もうすんだことだとして偽りの教えを言い広め、それを真に受けた人の信仰を、台なしにしています。

19 しかし神様の真理は、巨大な岩のようにしっかり立っていて、だれも揺るがすことはできません。 この土台となる石には、次のようなことばが刻まれています。 「主は、真に自分に属する者を知っておられる。」 また、「自らクリスチャンだと名のる人は、悪から遠ざかりなさい。」

20 裕福な家では、金銀の高価な器だけでなく、木や土の粗末な器も備えてあります。 高価な器は客をもてなすために使い、粗末な器は台所用か、残飯入れに使います。 21 あなたがいつも、罪を犯さないように注意しているなら、家中で一番高価な純金の器になれるでしょう。 つまり、キリスト様の最高の目的のために、用いていただけるのです。

22 若者がいだきがちな情欲を避け、遠ざかりなさい。 反対に、いつも正しいことをしたいという気持ちをいだいていなさい。 信仰と愛とを保ち、主を純粋な心で愛している人々とのつき合いを、大切にしなさい。

23 くり返しますが、人々の心を乱し、怒らせるだけの、くだらない議論に巻き込まれないように、注意しなさい。 24 クリスチャンは争ってはなりません。 過ちを犯している人を、やさしく忍耐をもって正せるようになりなさい。 25 真理に逆らう人たちを、謙そんな心で教え、さとしなさい。 おだやかに、思いやりをもって話せば、あるいは神様の助けによって、その人はまちがった考え方を改め、真理を信じるかもしれません。 2

6 こうして正気に戻った人たちは、罪の奴隷として、思うままにあやつる悪魔のわなから逃れ、神様のみこころに従うでしょう。

三

1 テモテよ。これから書くことを、よく心にとめておきなさい。終末の時代には、クリスチャンになることが非常にむずかしくなります。2 自分だけを愛し、また、お金だけがすべてだと考える風潮が、はびこるからです。高慢な者、大風呂敷を広げる者、神様をあざける者、両親にそっぽを向き、感謝することを知らない者、手がつけられない、ならず者が現われます。3 また、頑固で、決して他人を理解しようとししない者、うそつきの常習犯で、問題ばかり起こし、頭はみだらな思いでいっぱい、といった連中が増えます。彼らは乱暴で残忍な行動をし、善良であろうとする人をあざ笑います。4 友を裏切り、怒りっぽく、すぐに思い上がり、神様を礼拝するひまがあつたら、もっとおもしろいことをして過ごそうと考えます。5 教会に出席する者がいたとしても、聞いたことを何一つ信じようとししないのです。目をしっかり開けて、そんな人たちには近寄らないようにしなさい。

6 中には、うまく他人の家に入り込み、だらしのない愚かな女たちにつけ入って、新しい教えを吹き込む者がいます。7 このような女は、目新しい教師にはすぐ飛びつきますが、いつまでたっても真理がわかりません。8 また、こうした教師も、モーセに逆らった、ヤンネとヤンブレのように、真理に逆らっているのです。その心は汚れ、ねじけていて、クリスチャンの信仰に刃向かってくるのです。

9 しかし、いつまでもそんなことが続くわけではありません。ヤンネとヤンブレの罪がだれの目にも明らかになったように、いつかは、彼らの、うそでこり固まった行為も、明白になるのです。

10 私がそんな人間でないことは、わかってもらえるはずですが。あなたは、私が何を信じ、何を望み、どのように生活しているか、よく知っています。キリスト様に対する私の信仰も、苦しみも、そして、あなたへの愛と忍耐も知っています。11 神様の良い知らせを伝えたために、私がどれだけ痛めつけられたかも知っています。アンテオケ、イコニウム、ルステラで受けた迫害の一部始終も、知っているはずです。しかし主は、私を守ってくださいました。12 確かに、キリスト・イエスのお考えにそって、神様を敬う生活を送ろうとする人はみな、敵対する者から苦しめられ、迫害されます。13 しかし、大ぜいの人をだます悪人や偽教師は、自分も悪魔にだまされて、ますます悪の深みにはまり込むのです。

14 けれども、あなたは、真理を教えた私たちを信頼していなさい。15 また、小さな子供のころから、自分がどのように聖書を教えられてきたか、覚えているでしょう。この聖書こそ、キリスト・イエスを信じることによって救われるための知恵を、与えてくれたのです。16 全体が神様の靈感によって書かれた聖書は、何が真理であり、何が悪であるかをよく教えてくれます。また、私たちの生活をまっすぐにし、正しいことを行なう

力を与えてくれます。 17 こうして神様は、私たちをあらゆる点で整え、すべての人に善を行なう力を、十分に授けてくださるのです。

四

1 それで私は、神様とキリスト・イエスとの前で、厳粛な思いで忠告します。 [キリスト様は、いつの日か神の国を完成させるために現われて、生きている者と死んだ者とをさばかれるお方です。] 2 どんな時にも、神様のことばを熱心に伝えなさい。 機会があろうとなかろうと、つごうの良し悪しにかかわらず、励みなさい。 過ちを犯している教会員には、忠告して、正しい道に引き戻してやりなさい。 そして善を行なうよう励まし、たゆまず神様のことばを教え続けなさい。 3 なぜなら、人々が真理のことばは耳ざわりだと敬遠し、自分につごうのよい話をする教師を求めて歩き回る時代が来るからです。 4 彼らは聖書の教えに耳を傾けようとせず、まちがった教えにしっぽを振ってついて行くのです。

5 ですから、危機感をいだき、絶えず目を覚まして警戒していなさい。 主のために受ける苦しみを、恐れてはいけません。 他の人たちをキリスト様へ導きなさい。 なすべきことを、一つ残らず成し遂げなさい。

6 こう言うのも、私の最期が迫っているからです。 いつまでも助けてあげるわけにはいきません。 もうすぐ天国へ旅立ちます。 7 主のために、長いあいだ困難な戦いを続けてきた私は、主への真実を守り通しました。 しかし今ついに、休む時が来たのです。 8 天では、冠が待っています。 正しい裁判官である主が再び来られる日に、いただく冠です。 もちろん私だけにではなく、主を熱心に待ち望む日々を過ごす人々全員に、授けられるのです。

9 できるだけ早く、こちらへ来てください。 10 11 デマスは私を捨てて、テサロニケに行ってしまいました。 この世の楽しみに心を奪われてしまったのです。 クレスケンスはガラテヤへ、テトスはダルマテヤへと、それぞれ出かけ、私のもとに残ったのはルカだけです。 こちらへは、マルコも連れて来てください。 彼に頼みたいことがあるのです。 12 [テキコも、今はここにいません。 エペソへ使いにやりましたから。] 13 ついでに、私がトロアスのカルボの家に置いてきた上着を、忘れずに持って来てください。 それから羊皮紙の書物も、お願いします。

14 銅細工人アレキサンデルが、私にひどい仕打ちをしました。 主が罰してくださることでしょうが、 15 彼には気をつけなさい。 とにかく、私たちのことばに、ことごとく逆らったのですから。

16 私が初めて、裁判官の前に連れ出された時、弁護してくれる人は一人もいませんでした。 だれもが見捨てて、逃げてしまったのです。 どうかそのことで、彼らが神様から責められませんように。 17 しかし主は共にいて、私を助けてくださいました。 神様のことがあらゆる国の人に伝えられるため、大胆に説教する機会を与えてくださいました。 また、あわやライオンのえじきとなるところを、助け出してくださいました。 1

8 主は、いつもあらゆる悪から救い出し、ついには、天国に導き入れてくださるのです。
神様に、栄光がいつまでも限りなくありますように。 アーメン。

19 プリスカとアクラに、またオネシポロの家族に、よろしく伝えてください。 20 エ
ラストはコリントにとどまり、トロピモは病気のため、ミレトに残して来ました。

21 冬になる前に、何とかこちらへ来てください。 ユズロがよろしくとのこと。 プ
デス、リノス、クラウデヤ、そのほかのクリスチャンもみんな、よろしくと言っています。

22 どうか、主イエス・キリストが共におられますように。

パウロ

■

テトスへの手紙

クレテ島にある教会を指導していた、テトスあてのパウロの手紙です。テトスは有能な青年で、パウロもその力を高く評価し、たいせつな役目につかせたことも何度かありました。この手紙で取り上げているクレテ島も、道德水準が低く、なかなか大変なところでした。このような教会には、特にしっかりした指導者が必要です。 どのような人を選んだらよいか、また、教会の責任者として、人々をどのように教え、訓練したらよいか、適切な助言がなされています。

一

1 - 4 神様の奴隷であり、イエス・キリストの使者であるパウロから、同じ主を信じる信仰によって、私の真実の息子となった、愛するテトスへ。

どうか、父なる神と救い主キリスト・イエスが、あなたに祝福と平安とを注いでくださいますように。

私は、神様に選ばれた人たちに信仰を与え、真理を教えるために、遣わされた者です。 神様の真理には、信じる人の生活を全く変える力があり、また、永遠のいのちを与える力もあります。 これは、世界が造られる前からの、神様の約束です。 神様は、うそをつくことができないお方です。 それで今、約束どおり、最善の時を選んで、この良い知らせを公表し、それをすべての人に告げ知らせる特権を、私におゆだねになったのです。 こうして私は、救い主である神様によって、この働きに任命されたのです。

5 ところで、あなたをクレテ島に残して来たのは、島の教会を強めるため、思う存分働いてもらいたかったからです。 前もってお願いしておいたように、私の指示どおり、牧師を町ごとに任命してください。 6 牧師として選ぶ人は、正しい生活を送っていて、世間的にも評判のよい人でなければなりません。 すなわち、ちゃんとした結婚をしており、子供も、主を愛するクリスチャンでなければなりません。 かりにも、子供が親に反抗的だとか、乱暴者だとか、とかくのうわさのある人は避けなさい。

7 牧師は神様に仕える者ですから、だれからも非難されない人であるべきです。 高慢な人、短気な人、大酒飲み、けんか好き、金銭欲の強い人に、その資格はありません。 8 心から客をもてなし、善意にあふれ、考え深く、だれにでも公平で、良識ある、きよらかな心の持ち主でなければならないのです。 9 また、教えられた真理にしっかりと立つ、信仰の強い人であることも大切な条件です。 なぜなら、彼らの使命は、人々に真理を教え、反対する者に、その誤りを、はっきり指摘することにあるからです。

10 こう言うのは、真理に従わない人が大ぜいいるからです。 特に、「クリスチャンはみな、ユダヤ人のおきてを守るべきだ」と主張する連中は、その代表的な例だと言えます。これはまた、なんとばかげた議論でしょう。 彼らは、人の目をくらませて、真理を見いだすのを阻むのです。 11 そんな議論は、直ちにやめさせなさい。 おかげで、すでに何家族かが、神様の恵みから離れてしまいました。 そんなことを教える連中の目当ては、

一にも二にも金もうけです。 12 彼らのことを、同じクレテ出身の預言者は、いみじくもこう言いました。 「クレテ人はみな、うそつきで悪いけどもの。 なまけ者で食いしんぼう。」 13 まさにそのとおりです。 ですから、人々を甘やかさず、その信仰を強めるように、びしびし教育しなさい。 14 そして、ユダヤ人の作り話や、真理に逆らう者の言い分に耳を傾けることなど、きっぱりやめさせなさい。

15 きよい心の持ち主には、すべてのものがきよく、良いものに見えます。 しかし、心の曲がった不真実な者には、すべてが曲がって見えるのです。 それは、その汚れた思いと反抗的な心が、見るもの聞くものすべてを、ゆがめるからです。 16 そういう連中は、口先では神様を知っていると言うのですが、行ないを見れば、そのうそは一目瞭然です。 心は腐れきっていて不従順で、何一つ良いことをする資格がありません。

二

1 しかし、あなたは、真の基督教にふさわしい生き方を、教会員に教えなさい。 2 老人には、まじめで落ち着いた生活をするように勧めなさい。 年輪を重ねた者は、考え深く、真理を信じ、すべての点で愛と忍耐とをもって行動しなければなりません。

3 老婦人には、何事にも静かで、ていねいな物腰を忘れないように教えなさい。 陰口をたたいたり、大酒を飲んだりせず、人生経験を積んだ婦人にふさわしく、良いお手本となるべきです。 45 そうすれば、若い女性に、落ち着いた生活を送り、夫と子供とを愛し、考え深く、きよらかな心で、家事に精を出し、夫にやさしく従順でいるようにさとせるのです。 そうなれば、クリスチャンの信仰が、身近な人たちから、けなされることもないでしょう。

6 同様に、青年にも、思慮深く、まじめに生活するように勧めなさい。 7 まずあなたが、正しい模範を示すことです。 真理を愛し、何事にも真剣に取り組んでいることが、だれの目にもはっきりわかるようにしなさい。 8 良識的に、筋道を立てて話しなさい。 そうすれば、反対する者たちも、けちをつけることができず、かえって恥じ入るでしょう。 9 奴隷には、主人に喜ばれるよう、言いつけを守り、一生懸命働くように勧めなさい。 口答えはいけません。 10 こそこそと物を盗んだりするのはやめて、自分が全く信頼に値する人間だということを、身をもって示すべきです。 その誠実な態度を見て、ほかの人々も、救い主である神様を信じる気を、起こすかもしれません。

11 というのも、永遠の救いという神様からの贈り物が、今、だれにでも、ただで提供されているからです。 12 しかも、この贈り物をいただくと同時に、神様が私たちに望んでおられることが実現するのです。 それは、神様を認めない生き方と、罪にまみれた快樂とを捨て去って、日々、神様を敬う正しい生活を送ることであり、 13 偉大な神様と救い主イエス・キリストとの栄光が現われる日を、待ち望むようになることです。 14 キリスト様は、私たちの罪のために、神様のさばきを受けて死んでくださいました。 それは、罪のどろ沼にはまり込んで、どうにも動きのとれない私たちを助け出して、ご自分の民とし、心のきよい、熱心な、善意の人と変えてくださるためでした。

15以上のことを教会員に教えて、実行するように励ましなさい。必要とあれば、きびしく戒め、誤りを正してやりなさい。あなたには、当然その権威があるのですから。あなたの教えが、だれからも軽んじられないように、気をつけなさい。

三

1 支配者の権威に服従し、いつも従順で、良いことは何でも進んで行なうよう、教会員を指導しなさい。 2 また、人の悪口を言ったり、けんかをしたりせず、やさしい態度で、すべての人に礼儀正しく接するように教えなさい。

3 以前は私たちも、分別の足りない、不従順な者であり、人に迷わされ、さまざまな快樂や欲望のとりこになっていました。心は悪意とねたみの固まりで、憎んだり憎まれたりという、罪の生活に明け暮れていました。

4 しかし、救い主である神様が、恵みと愛とを示してくださる時が、ついに来たのです。

5 神様は、私たちの罪のよごれを洗い落とし、心に聖霊様を遣わして、新しい喜びで満たし、以前の悲惨な生活から救い出してくださいました。それは、私たちに、救われる資格があったからではなく、ただ、神様の恵みとあわれみのおかげなのです。 6 聖霊様は、私たちの心をしっかり占領してくださいました。これはみな、救い主イエス・キリストが成し遂げてくださった救いがあるからこそ、実現したのです。 7 こうして神様は、私たちを、ご自分の目にかなった正しい者と宣言してくださいます。これは、神様の恵み以外の何ものでもありません。私たちは今、永遠のいのちの相続権を認められ、実際にそれをいただく日を、心から待ち望んでいるのです。

8 これまで話してきたことは、すべて真実です。ですから、確信をもって、クリスチャンはいつも良い行ないに励むべきだ、と教えなさい。そういう生き方は、正しいだけでなく、すばらしい結果を生むことにもなるからです。

9 堂々巡りの議論にふけったり、あやしげな神学論争に巻き込まれたりしてはいけません。ユダヤ人のおきてを守ることについての議論や論争も避けなさい。そんなものは、何の益にもならず、むしろ害をまき散らします。 10 教会を分裂させる人がいたら、一度か二度、きびしく警告しなさい。それでも聞き入れなければ、きっぱり縁を切ってしまいなさい。 11 そんな人は、正しい価値判断ができず、悪いとわかっていながら、罪を犯しているのです。

12 ところで、アルテマスかテキコを、そちらへ派遣しようと思っています。二人のどちらかが着きしだい、あなたは、ニコポリの私のもとに来てください。私は、そこで冬を過ごすことにしましたから。 13 アポロと法律の専門家ゼナスとが旅立てるように、あなたも、できるだけ骨折り、必要な物が全部そろうよう、気を配ってやってください。

14 私たち一同は、助けが必要な人々を進んで援助する習慣を、もっと身につけなければなりません。そうすれば、実を結ぶ生活を送れるでしょう。

15 こちらの人がみな、よろしくと言っています。そちらのクリスチャンの友人たちに、よろしく伝えてください。神様の祝福が、あなたがたと共にありますように。

パウロ

■

ピレモンへの手紙

ピレモンは、パウロの指導を受けてキリストを信じた、信望のあついクリスチャンでした。裕福な人で、彼の家がコロサイの信者たちの集会場になっていました。この人のところから逃げ出したオネシモという奴隷が、ローマで監禁中のパウロと出会い、クリスチャンになったのです。一度は主人を裏切ったものの、今では同じ信仰にはいったオネシモを、ピレモンのもとに帰そうと決心したパウロは、快く迎えてやってほしいという執りなしの手紙を持たせます。

1 2 イエス・キリストの良い知らせを伝えたことで投獄されたパウロと、信仰の友テモテから、愛する同労の友ピレモンへ。 また、礼拝のために、あなたの家に集まっている皆さんと私たちの姉妹アピヤ、それに私同様、キリストの十字架の兵士となったアルキポに、この手紙を送ります。

3 父なる神と主イエス・キリストが、あなたがたに、祝福と平安とを与えてくださいますように。

4 愛するピレモンよ。 あなたのことを、私はいつも神様に感謝しています。 5 それは、主イエス・キリストとすべてのクリスチャンに対する、あなたの愛と信頼とを、いつも耳にするからです。 6 それで、他人との交際において、クリスチャンとしてのあなたのりっぱな態度が、相手の心をとらえ、その生活までも変えることができるように、と祈っています。 7 愛する友よ。 こう言う私も、あなたの愛によってどれだけ慰められ、励まされたか知れません。 ほんとうに、あなたの親切は多くのクリスチャンを元気づけました。

8 9 そんなあなたを見込んで、ぜひ、お願いしたいことがあるのです。 もっとも、正しいことをしてもらおうというのですから、キリスト様の名によって命令してもよいのです。しかし、私たちの間には愛がありますから、あえて命令はしません。 年老いた今、キリスト・イエスのために投獄されている、この私からのお願いです。 10 どうか、鎖につながれた獄中で、私が主に導いたオネシモを、愛の心でやさしく迎えてやってください。私はオネシモを、わが子のように思っているのです。 11 オネシモ〔「役に立つ」という意味〕は、以前あなたのもとにいたころは、役立たずの奴隷であつたかもしれません。しかし、クリスチャンとなった今、あなたにとっても私にとっても、その名のとおり、役立つ者となりました。 12 そのオネシモを、そちらへ帰します。 その時、私の心もいっしょに行くでしょう。

13 内心、私は、キリストの良い知らせを伝えたことで捕らわれの身となっている間は、彼をそばにおいて、あなたの代わりに世話をもらいたいと思いました。 14 しかし、あなたの同意なしに、そんなことはしたくなかったのです。 親切は、無理じいされてするものではなく、心から喜んでするものですから。 15 こう考えてはどうでしょう。 オネシモが、しばらくのあいだ逃亡していたのは、永久にあなたのものとなるために、ほか

ならなかったのだ、というふうに。 16 それも奴隷としてではなく、はるかにまさった者、つまり、私にとって特にそうなのですが、愛するクリスチャンの兄弟としてです。 あなたの感慨もひとしおでしょう。 単なる奴隷と主人の関係を超えて、キリスト様を信じる兄弟同士になったのですから。

17 もしほんとうに私を友と思ってくれるなら、私を歓迎するように、オネシモをも、心から迎えてやってください。 18 もし彼が、何か損害をかけたり、物を盗み出していたりしたら、その請求は、こちらに回してください。 19 私が支払いましょう。 [その保証として、自筆でこの個所をしたためます。] この際、あなたの私に対する借りについては、とやかく言いますまい。 あなたのたましいが救われたのも、私の助けがあったればこそ、なのですが……。 20 愛する友よ。 どうか、愛にあふれたすばらしい態度で、私の弱っている心を喜ばせ、主を賛美させてください。

21 この手紙は、あなたが期待以上のことをしてくれる、と確信して書いたのです。

22 それから、私の泊まる部屋を用意しておいてくれませんか。 神様があなたがたの祈りに答えてくださり、まもなく私もそちらへ行けるようになる、と期待しているからです。

23 キリスト・イエスのことを語ったために、共に囚人の身となっているエパフラスが、よろしくと言っています。 24 それから、私といっしょに働いているマルコ、アリストルコ、デマス、ルカも、よろしくとのことでした。

25 主イエス・キリストの祝福が、ご一同と共にありますように。

パウロ

■

ヘブル人への手紙

ヘブル人とはユダヤ人のことです。ユダヤ人は神殿をとっても重要なものと考えていました。ですから、そこではいつも、いろいろな宗教儀式が行なわれ、事あるごとに動物の犠牲がささげられていました。たとい、クリスチャンになっても、神殿での儀式を熱心を守る習慣は変わりませんでした。このようなユダヤ人に、ほんとうにたいせつなのは、儀式を守るのではなく、身代わりとなって死んでくださったキリストを信じることだと、この手紙は教えています。

一

1 ずっと昔、神様は、幻や夢や、時には直接の語りかけなどの、いろいろな方法で、預言者を通して先祖たちに、ご自分の計画を少しずつ明らかになさいました。

2 しかし今の時代には、ご自分のひとり息子を通して語っておられます。神様はその子にすべてを受け継がせ、彼によって、世界とその中のすべてのものをお造りになったのです。

3 神の子は、神様の栄光を受けて、まばゆいばかりに輝いています。また、その人格と行動すべてにおいて、神であることを示し、力あることばによって、宇宙を統御しておられます。そればかりか、私たちのいっさいの罪の記録を消し去ってきよめるために、死んでくださいました。そして今は、最高の栄誉を受けて、天におられる偉大な神様のそばに、座っておられるのです。

4 こうしてこの方は、御使いより、はるかにすぐれた存在となりました。それは、父なる神がおつけになった「神の子」という名が、御使いたちの名や肩書きとは比べ物にならないほど、すぐれていたからです。5 神様はどの御使いに対しても、「あなたはわたしの子だ。今日あなたに、その名にふさわしい栄誉を与えた」などと言われたことはありません。しかし、イエス様に対しては、そう言われたのです。さらに、「わたしは彼の父であり、彼はわたしの子である」と宣言されました。6 それから、長子であるイエス様を地上に送る時、「御使いはみな、彼を拝め」と言われました。

7 御使いたちについて、神様は、「風のように速い使者、燃える炎のような力を持つしもべ」と紹介しておられます。8 しかし、神の子については、全く違います。

「神よ。

あなたの国は永遠に続く。

その支配は、いつも公平で正しい。

9 あなたは正義を愛し、悪を憎む。

それであなたの神は、

ほかのだれよりも多く、

あなたに喜びを注がれた。」

10 そればかりか、神の子を「主」と呼んで、こう言われました。

を見てはいません。 9しかし、しばらくの間、御使いよりも低くされ、私たちのために死の苦しみを味わうことにより、今は栄光と誉れの冠を授けられた、イエス様を見ています。 まことに、イエス様は、神様の大きい恵みのゆえに、全人類のために死なれたのです。 10栄光を現わすために、すべてのものをお造りになった神様が、ご自分を信じる者たちを天まで引き上げるため、イエス様を苦しみに会わせたのは、まことに正しいことでした。 この苦しみをくぐり抜けて、イエス様は人々を救いに導くにふさわしい、完全な指導者となられたのです。

11イエス様によってきよめられた私たちは、今では、イエス様と同じ父を持っています。 だからこそ、イエス様は、私たちを兄弟と呼ぶのを、恥とはされないのです。 12イエス様は、旧約聖書の詩篇の中で、こうっておられます。 「わたしは、父なる神のことを、兄弟たちに語ろう。 そして、声を合わせて神を賛美しよう。」 13また別の個所で、「兄弟たちと共に、神を信じよう」と言い、さらに「さあ、わたしはここにいる。 神が与えてくださった子供たちといっしょに」と述べておられます。

14神様の子供である私たちは、血も肉もある人間です。 そこでイエス様も、血肉を持った人間の姿でお生まれになりました。 それは、人間として死ぬことにより、死の権力をふるう悪魔の力を打ち砕くためです。 15これだけが、死を恐れて、一生涯、恐怖の奴隷となっている人々を、救い出す方法だったのです。

16私たちはみな、イエス様が、御使いとしてではなく、一人の人間、一人のユダヤ人として来られたことを知っています。 17イエス様には、あらゆる点で、兄弟である私たちと同じになることが、どうしても必要だったのです。 そうしてはじめて、イエス様は、私たちにとってはあわれみ深く、神様にとっては忠実な大祭司として、私たちの罪を取り除くことができたのです。 18自ら、試練と非常な苦しみを体験された主イエス様は、試練にあえいでいる私たちの苦しみをよく理解して、実にみごとに助けてくださるのです。

三

1そういうわけですから、神様の手で、天国の市民として選び出された、愛する皆さん。 お願いします。 どうか、神の使者であり、私たちの信仰の大祭司であるイエス様に、目をとめてください。

2神の家で忠実に奉仕したモーセ同様、イエス様も、自分を大祭司に任命された神様に忠実な方です。 3しかしイエス様は、モーセより、はるかにまさった栄光を、お受けになりました。 豪華な家よりも、その家を建てる人のほうが賞賛されるのと同じです。 4家を建てることのできる人は大ぜいいますが、すべてのものを造られたのは、神様です。 5確かにモーセは、神の家のために、賞賛に値する仕事をしました。 しかし彼は、単なる神の召使にすぎません。 モーセの果たした主要な役割は、後に起こることを暗示することでした。 6しかしキリスト様は、神様の忠実な息子として、神の家のいっさいの管理を任されました。 もし私たちが、最後まで、揺るがぬ確信を持ち続け、喜びと主への

信頼を失わなければ、その神の家となれるのです。そして神様が、そこに住んでくださるのです。

78 ですから、聖霊様はこう警告します。キリスト様の声に注意深く耳を傾けなさい。今日その声を聞いたなら、昔のイスラエル人のように、心を閉ざしてはいけません。彼らは荒野で試練を与えられた時、神様の愛にそむき、心を鋼鉄のように堅くして、文句を言い続けたのです。9 彼らは神様が忍耐強いので図にのり、何度も何度も反抗しましたが、四十年の間、神様はそれを忍び通されました。そればかりか、彼らの目の前で驚くべき奇蹟を行ない続けられました。10 しかし、とうとう神様が、こう宣言される時が来たのです。「わたしの怒りは極に達した。彼らはわたしに心を向けたことがなく、いつもほかを見ていた。そんな彼らに、わたしの用意した道が見いだせるはずがない。」

11 神様は怒り、決して人々を休息の地に導かないと、誓いを立てられたのです。

12 愛する皆さん。心が悪に染まり、不信仰にこりかたまって、生ける神様から離れることがないように、自分の心を見張りなさい。13 まだ時間があるうちに、日々、互いにこのことを確かめ合いなさい。そうすれば、一人も罪の魅力に惑わされて、神様に心を閉ざす人が出ないでしょう。14 もし私たちが、初めてキリスト様を信じた時と同じ気持ちで、神様に信頼し、最後まで忠実であれば、キリスト様にあるいっさいの祝福を、受けることができるのです。

15 ですから、今この時が、かんじんなのです。次の警告を、かた時も忘れてはなりません。「今日、語りかけてくださる神様の声を聞いたなら、荒野で反抗したイスラエル人のように、心をかたくなにしていけない。」

16 神様の声を聞きながら、逆らった人たちとは、いったいだれでしょう。指導者モーセに率いられて、エジプトを脱出した人たちです。17 四十年もの間、終始神様の怒りを買ったのは、いったいだれでしたか。罪のために荒野で死に果てた、あのイスラエル人ではありませんか。18 神様が誓って、約束の地に入らせないと断言されたのは、だれに対してでしたか。従うことを拒んだ、あの人たち全員に対してです。19 約束の地に入れなかったのは、神様に信頼しなかったからです。

四

1 とはいえ、だれでも、神様の用意された休息の地に入れるという約束は、今でも有効です。ですから、あなたがたの中で、万一にも入りそこなう者が出ないように、警戒しようではありませんか。2 なぜなら、モーセの時代の人たちと同様、私たちにも、救いをもたらす、すばらしい知らせが伝えられているからです。ところが、モーセの時代の人たちには、この知らせは何の役にも立ちませんでした。彼らは聞いても信じなかったからです。3 休息の地に入れるのは、神様を信じる私たちだけです。世の初めから、受け入れ態勢を整えて待っておられた神様は、「わたしは怒って誓う。わたしを信じない者を決して入らせない」とも宣言されたのです。

4 私たちは、神様が準備万端ととのえて、待っておられることを知っています。神様は

創造の七日目に、計画どおりにすべてをなし終えて休まれた、と書いてあるからです。

5にもかかわらず、彼らは閉め出されてしまいました。神様がついに、「彼らを決してわたしの休息に入れない」と言われたからです。6しかし、休息の地への約束はまだ有効であり、中には、そこに入ることが許されている人もいます。それは、不従順のため、最初に与えられた機会を失った人たちではありません。

7しかし神様は、新しい機会を与えてくださいました。それが今なのです。最初の人たちの失敗の後、長い年月が過ぎたころ、神様はダビデ王を通して、このことを知らせてくださいました。すでに引用したように、「今日、語りかけてくださる神様の声を聞いたら、心をかたくなにしていけない」と。

8ここでの新しい休息の地とは、ヨシュアに率いられて入った、パレスチナの地ではありません。もしそうなら、ずっとあとになって、今日がそこに入る時だ、などと言われるはずがないからです。9そういうわけで、完全な休息が、今なお、神様を信じる人たちを待ち受けているのです。10キリスト様は、もうすでに、そこにお入りになりました。神様が創造の働きを終えて休まれたように、キリスト様も、任務を果たして、今はゆっくり休んでおられるのです。11ですから私たちも、この休息の地に入れるように、最善を尽くしましょう。イスラエルの人たちが、神様に不従順であったために、入りそこねたことを肝に銘じて、くれぐれも注意しようではありませんか。

12神様のことは生きていて、力にあふれています。それは、鋭い刃物みたいに切れ味がよく、心の奥深くに潜んでいる思いや欲望にまでメスを入れ、私たちの赤裸々な姿をさらけ出します。13神様はすべての人の心を、その人がどこにしようと、探り知るお方です。神様に造られたもので、その目から隠れおおせるものは、一つもありません。今も生きて、すべてを見抜かれる神様の前に、裸のままさらけ出されているのです。私たちはこの方に対して、自分のした、いっさいのことを、弁明しなければなりません。

14しかし、私たちを助けるために、天にのぼられた偉大な大祭司、神の子イエス様が味方です。ですから、イエス様への信仰を、決して失うことがありませんように。15この大祭司は、私たちと同じ試練に会われたので、人間の弱さをよく知っておられます。しかしただの一度も、誘惑に負けて罪を犯したことはありません。16ですから、躊躇せず、思いきって、神の王座に近づいてあわれみを請い、必要な時に必ず与えられる恵みを、いただくではありませんか。

五

1 - 3ユダヤの大祭司は、人々の代表として、いろいろな供え物をささげ、神様に仕えます。しかし、大祭司といえども同じ人間なので、人々のためだけでなく、自分の罪が取り除かれるためにも、いけにえの動物の血をささげます。また、彼も人間なので、愚かで無知な人人を、やさしくいたわることができます。彼自身も同じ試練にさらされているので、他の人々の問題をわが事のように理解し、同情できるのです。

4もう一つ大祭司について言えるのは、自分の意志では大祭司になれないということです。

アロンが選ばれた時のように、大祭司となる者は、神様から直接、その務めに任命される必要があります。

5 キリスト様も、名誉ある大祭司の地位につかれましたが、自分の意志で、そうなさったわけではありません。神様がお選びになったのです。神様はこの方に、「わが子よ。今日、わたしはあなたに栄誉を授けた」と言われました。6 またさらに、「あなたは、メルキゼデクと同じ位にある、永遠の祭司に選ばれた」と告げました。

7 キリスト様はこの地上におられた時、神様に願い、死から救いうるただ一人の方に、たましいのうめきと涙とをもって祈られました。この祈りは、どんな場合にも神様に従おうとする、キリスト様の切なる願いのゆえに、聞き入れられたのです。

8 イエス様は神の子であられたのに、神様に従うことには多くの苦しみが伴うことを、身をもって学びました。9 この体験を通して、ご自分の完全さを実証し、その上で、ご自分に従うすべての人に永遠の救いを与える者となられたのです。10 ここで、神がキリスト様を、メルキゼデクと同じ位に立つ大祭司としてお選びになったことを、思い起こしなさい。

11 このことについては、まだまだ話し足りません。しかし、聞く意志がないあなたがたに、理解してもらうのはむりです。

12 13 あなたがたは、もう長い間、クリスチャンとして生きてきました。もうほかの人を教えても当然なのに、もう一度、神様のことばのイロハから手ほどきしてもらわなければならないほど、だめになっています。まるで、固形物を食べるまでには成長していないので、いつもミルクばかり飲んでいる赤ん坊みたいです。クリスチャン生活のごく初歩のところを行きつ戻りつして、善悪の区別さえ、おぼつかない状態なのです。要するに、まだ赤ん坊のクリスチャンです。14 あなたがたがもっと成長し、正しい行ないをすることによって、善悪の区別がつくようになるまでは、堅い霊の食べ物を食べることも、神様のことばの深い意味を悟ることも、むりでしょう。

六

1 ですから、基督教の初歩の教えをいつまでも卒業できずに、堂々巡りをするのはやめましょう。むしろ、もっと理解力を高め、さらにすぐれた教えを目指して進みましょう。善行によって救われようとするまちがいや、神様を信じる信仰の必要性などを、これ以上聞くには及びません。2 バプテスマ（洗礼）、聖霊様を受けること、死人の復活、永遠のさばきについても、これ以上教えられる必要はありません。

3 主のお許しがあれば、次の段階に進もうではありませんか。

4 - 6 あなたがたが、いったん、神様の良い知らせを理解し、天からの恵みを味わい、聖霊様をいただく特権を与えられ、また、神様のことばのすばらしさを知り、未来の世界の超自然的力をはだで感じ取ったとします。しかし、それでもなお、神様に背を向けたら、もう一度、主に立ち返ることはできません。キリスト様を拒絶することは、神様のひとり息子をもう一度十字架につけ、人前でさらしものにするからです。そ

んな人は、もはや悔い改めようにも、改めようがありません。

7十分に雨を吸い込んでよく潤った畑が、農夫に大豊作をもたらしたとしたら、その畑は、神様の祝福をむだにしなかったことになります。 8しかし、いばらやあざみばかりを生えさせるなら、その畑は役立たずとして、焼き払われてしまいます。

9愛する皆さん。 とはいえ、すべてが、あなたがたに当てはまるわけではないでしょう。 私は、あなたがたが救いにふさわしい実を結んでいるものと、確信しています。 10神様は、決して不公平な方ではありません。 あなたがたが、神様のために熱心に働いてきたことや、クリスチャンの同胞に、ずっと援助の手を差し伸べてきた愛を、決してお忘れにはなりません。 11そこで私たちは、あなたがたがこの世にあるかぎり、いつも人を愛し続けて、十分な報いを受けることができるようにと、ひたすら願っています。

12前途に希望をいだいているかぎり、クリスチャンであることに飽き飽きしたり、信仰生活が怠惰に流れたり、無関心に陥ったりすることはありません。 かえって、強い信仰を持ち、忍耐し続けることによって、神様の約束なさったものを余すところなく受けた人たちの模範に、なろう者となるでしょう。

13アブラハムに与えられた約束を思い出しなさい。 神様は、自分以上にすぐれた存在はありえないので、自分の名を指して誓われました。 14すなわち、幾度もアブラハムを祝福し、子供を与え、偉大な国民の父とする、と言われたのです。 15そこでアブラハムは、その約束を忍耐して待ち望み、ついに約束どおり、息子のイサクを授かりました。

16人は何かを約束した場合、それを必ず実行する意志と、万一破った時には、どんな罰にも甘んじる覚悟を示すために、自分よりもすぐれた者の名にかけて誓います。 いったん誓ってしまえば、もうだれも、とやかく言うことはできません。 17そういうわけで、神様からの助けを約束された人たちが、その約束の絶対的な確かさを知り、その計画の変更を気づかう必要がないように、神様も誓いによって約束の確かさを保証されたのです。

18神様は、約束と誓いの両方を与えてくださいました。 この二つは、全面的に信頼できます。 神様はうそをつかないからです。 そのため、救いを求めて神様のもとに逃れて来る人たちは、確かな保証をいただいて、新たな勇気を奮い起こすことができます。 そして、神様の救いの約束を、少しの疑いもなく確信できるのです。

19必ず救われるという確かな望みは、私たちのたましいにとって、信頼できる不動の錨です。 そして、この望みこそ、私たちを、天の神聖な幕の内側におられる神様と結び合わせるものなのです。 20キリスト様はすでに幕の内側に入られました。 そこで、メルキゼデクの位を持つ名誉ある大祭司として、私たちのために、とりなしていてくださるのです。

七

1メルキゼデクは、サレムの町の王で、すぐれて高い神様の祭司でした。 アブラハムが多くの王たちとの戦いに勝って凱旋した時、メルキゼデクは出迎えて祝福しました。 2その時アブラハムは、戦利品の十分の一をメルキゼデクに差し出しました。

メルキゼデクという名前の意味は「正義」であり、サレムという町の名は「平和」を意味していました。ですから、彼は正義の王であり、平和の王です。 3メルキゼデクには父も母もなく、先祖の記録也没有ありません。 また誕生も死もなく、そのいのちは、神の子のいのちに似ています。 それゆえ、彼は永遠に祭司なのです。

4メルキゼデクがどんなに偉大な人物であるか、考えてみましょう。

神様がお選びになった人の中で、最も尊敬されていたアブラハムでさえ、メルキゼデクには、王たちからの戦利品の十分の一を与えました。 5メルキゼデクがユダヤ人の祭司であつたなら、確かにアブラハムのこの行為も、うなずけます。 というのは、後に、神様の民は、血のつながった親族である祭司のために献金することを、おきてによって義務づけられたからです。 6ところが、メルキゼデクはアブラハムの親族ではなかつたのです。しかし、アブラハムは彼に献金しました。

メルキゼデクもまた、偉大なアブラハムを祝福しました。 7言うまでもなく、祝福を与える人は祝福を受ける人よりも、常に偉大なはずです。

8また、ユダヤ人の祭司たちは、やがては死ぬべき人間であるにもかかわらず、一般から十分の一のささげ物を受けましたが、メルキゼデクは、永遠に生きている、とされています。

9さらに、十分の一を受けるユダヤ人祭司の先祖であるレビ自身も、アブラハムを通してメルキゼデクに十分の一をささげたと言って差しつかえないでしょう。 10レビは、まだ生まれてはいませんでした。が、メルキゼデクに十分の一をささげた、アブラハムの直系の子孫だからです。

11もしユダヤ人の祭司とおきてに、私たちに救う力があるとしたら、なぜ神様は、あえてアロンの位に等しい祭司〔ユダヤ人の祭司はすべてアロンの位を受け継いでいる〕ではなく、メルキゼデクの位に等しい祭司である、キリスト様をお立てになったのでしょうか。

12 - 14新しい系統の祭司が立てられる時、それを受け入れるために、神様のおきても改められなければなりません。 キリスト様がレビ族とは全く無関係の、しかも、モーセが祭司として任命したこともない、ユダ族から出られたことは、周知の事実です。 15そういうわけで、私たちは、これまでの神様の秩序に大きな変更があつたことを、認めざるをえません。 キリスト様が、メルキゼデクの位に等しい、新しい大祭司として立てられたからです。 16この新しい大祭司は、古いおきてに属するレビ族からではなく、尽きることのない、いのちからほとばしる力を基として、立てられたのです。 17旧約聖書の詩篇の作者は、はっきりキリスト様を指して、「あなたは、永遠にメルキゼデクの位に等しい祭司です」と証言しています。

18家系を重んじる古い祭司職の制度は、廃止されました。 それは人々を救う力のない無益な制度でした。 19だれも、神様との正しい関係を結べなかつたのです。 しかし、今は違います。 私たちは、もっとすぐれた希望を与えられています。 キリスト様のおかげで神様に受け入れられた私たちは、神様に近づくことができるからです。

20 神様は誓いをもって、キリスト様を永遠の大祭司としてお立てになりました。 21 かつて祭司たちをお立てになるのに、そんな誓いをされたことは、一度もありません。しかしキリスト様に対してだけは、次のように誓われたのです。「主は、いったん立てた誓いを変えることは決してない。あなたは、永遠にメルキゼデクの位に等しい祭司である。」 22 この誓いのゆえに、キリスト様は、新しいすぐれた約束の確かさを、いつまでも保証してくださるのです。

23 古い契約のもとでは、大ぜいの祭司が必要でした。祭司が年老いて死ぬと、跡継ぎを立てて、祭司制度を絶やさないようにしたのです。

24 しかし、イエス様は不滅のお方なので、いつまでも祭司であられます。 25 また、ご自分を通して神様のもとに来る人々を、一人残らず、完全に救うことができになります。永遠に生きておられるイエス様は、いつも神様のそばで、ご自分の血によって彼らの罪が帳消しになっていることを、神様に思い起こさせてくださるのです。

26 このような大祭司こそ、私たちが必要としていたお方です。彼はきよく、少しの欠点も罪のしみもなく、罪人によって汚されることもないからです。この大祭司のために、天では、名誉ある特別席が設けられているのです。 27 普通の祭司は、神様の前に出る時、まず自分の罪をきよめるために、そして人々の罪のために、毎日、動物のいけにえの血をささげる必要がありました。しかしキリスト様には、その必要が全くありません。なぜなら、十字架にかかって自分をいけにえとしてささげ、ただその一度の行為で、すべてを成し遂げてしまわれたからです。 28 古い祭司制度のもとでは、大祭司といえども、自らを悪から守ることのできない、罪ある弱い人間でした。しかし後に、神様は誓いをもって、自分のひとり息子という完全なお方を、永遠の大祭司に任命されたのです。

八

1 以上書いてきたことを要約すると、次のようになります。 私たちの大祭司はキリスト様であり、現在、天で、神様の次に名誉ある地位についておられます。 2 このお方は、人間の手によらず、主によって建てられた天の神殿で、祭司の仕事をしておられます。

3 大祭司の務めは、供え物といけにえとをささげることです。ですからキリスト様も、その務めをなさいます。 4 この方のいけにえは、地上の祭司たちがささげるいけにえより、はるかにまさっています。〔しかし、もしキリスト様が、今なお地上におられるとしたら、決して祭司にはなれなかったでしょう。この地上には、ユダヤ人の古いいけにえの制度を守る祭司がいるからです。〕 5 地上の祭司が奉仕する神殿は、天にある本物の神殿をまねて造ったものにすぎません。幕屋を建てようとしたモーセは、シナイ山で神様から指示を受け、天にある幕屋の型に寸分違わぬものを造るように、と警告されたからです。 6 しかし今、キリスト様は天における祭司として、古いおきてに従っている祭司たちより、はるかに重要な任務をゆだねられています。なぜなら、キリスト様が私たちに伝えてくださる神様の新しい契約には、さらにすばらしい約束が含まれているからです。

7 古い契約は、もはや無効になりました。もし効力があれば、別の新しい契約を立てる必要はなかったでしょう。8 しかし神様は、古い契約の欠陥を指摘して、次のように宣言されたのです。「わたしが、イスラエルやユダの人と、新しい契約を結ぶ日が来ます。9 この契約は、彼らの先祖の手を引いて、エジプトの地から導き出した日に与えた古い契約とは、全く異なるものです。彼らはそれを守らなかったで、わたしは無効にしなければなりませんでした。10 しかし、ここにわたしは、イスラエルの人と新しい契約を結びます。わたしはこのおきてを、彼らの心に刻みます。そうすれば、たとえ何も言わなくても、彼らに、わたしの思いが、はっきりわかるようになるのです。心の中におきてがあるので、彼らは喜んで従うようになるでしょう。こうして、わたしは彼らの神となり、彼らはわたしの民となるのです。11 その日にはだれも、友人や隣人、兄弟に向かって、『君も、主を知りなさい』と言う必要がなくなります。なぜなら、どんな人でも、わたしを知るようになるからです。12 わたしは、彼らの悪い行ないに対してあわれみを示し、その罪を二度と思い出しません。」

13 神様は古い契約に代えて、この新しい契約について語っておられます。古いものは今や時代遅れとなり、全くいらなくなったからです。

■

九

12 ところで、神様と人間との間に交わされた最初の契約にも、礼拝についての規定があり、そのために建てられた神聖な幕屋がありました。この幕屋には二つの部屋があり、第一の部屋は聖所と呼ばれ、金の燭台と、特別なきよいパンを載せる机が置いてありました。3 聖所の奥に、幕で仕切られた第二の部屋があつて、至聖所と呼ばれていました。4 至聖所には、金の香壇と、全面を純金でおおわれた契約の箱がありました。その箱には、「十戒」を記した二枚の石の板、マナを入れた金のつぼ、芽を出したアロンの杖が納めてあったのです。5 この箱の上には、ケルビム〔神の栄光の守護者たち〕と呼ばれる御使いの像があつて、黄金のふたをおおうように、大きな翼を広げていました。このふたは、「恵みの座」と呼ばれます。しかし、これ以上くわしく述べる必要はないでしょう。6 さて、これらが全部ととのえられた上で、祭司は必要があれば第一の部屋に出入りして、務めを果たしました。7 ただし、奥の第二の部屋には、大祭司だけが、年に一度だけ、一人で入って行きました。そのとき彼は、血を携えて行かなければなりません。その血は、彼と民全体があやまって犯した罪をきよめるための供え物として、「恵みの座」にふりかけられました。

8 聖霊様はこのことを通して、次のことを教えておられます。古い制度のもとでは、第一の部屋と、それに代表される、しきたりがあるかぎり、一般の人たちは至聖所に入ることができない、ということです。

9 これは、現在の私たちへの大切な教訓となっています。なぜなら、古い制度のもとでは、供え物といけにえが幾度ささげられても、それを携えて来る人たちの心まで、きよめ

ることはできないからです。 10つまり、古い制度は、飲み食いや、体の洗いきよめなどの、こまごました規則からなる、一定の儀式を取り扱っているにすぎないからです。 それでも人々は、キリスト様が、神様のもっとすぐれた新しい道をお示しになるまで、その規則に縛られていました。 11キリスト様は、すでに私たちのものとなった、この格段にすぐれた制度の大祭司として、来られました。 そして、人間やこの世の手を借りる必要の全くない、天にある、さらに偉大で完全な幕屋に入られました。 12しかも、ただ一度、血を携えて奥の至聖所に入り、それを「恵みの座」にふりかけました。 それも、やぎや子牛の血ではなく、自分の血をです。 この方は自らそうすることによって、私たちの永遠の救いを保証してくださいました。

13もし、古い制度のもとで、雄牛ややぎの血、あるいは若い雌牛の灰が、人々の体を罪からきよめることができるとすれば、 14ましてキリスト様の血は、どれほど確実に、私たちの心と生活を変えることでしょう。 キリストご自身のいけにえは、古い規則に縛られる悩みから、私たちを解放し、生ける神様にお仕えしたい気持ちに駆り立てるのです。 それは、不滅の方である聖霊様の助けによって、一つの罪も欠点もない完全なお方が、自分を喜んで神様にささげ、私たちの罪のために死んでくださったからです。 15キリスト様は、この新しい契約を携えて来られました。 それで、神様に招かれる人はみな、約束されたすばらしい祝福に、いつまでもあずかることができるのです。 なぜなら、古い制度のもとで犯した罪の刑罰から救い出すために、キリスト様は死んでくださったからです。

16さて、ある人が財産の相続人を指定し、遺言状を残して死んだとします。 しかしその被相続人の死が証明されなければ、だれもその財産に手出しできません。 17遺言は、被相続人の死後に、初めて有効になるのです。 その人が生きている間は、いくら、それが自分に関するものでも、どうにもなりません。

18そういうわけで、最初の契約も、効力を発揮するために、〔キリスト様の死の証拠として〕血がふりかけられなければなりませんでした。 19すなわち、モーセは、民に神様のおきてをことごとく語り聞かせてから、水と共に子牛とやぎの血を取り、ヒソプの枝と紅色の羊毛とにつけて、おきての書と民全体にふりかけました。 20そして、厳かに宣言しました。 「この血は、今や神様とみんなとの契約が、効力を発したしるしだ。 この契約は、神様が私に命じて、みんなとの間に立てられたものだ。」 21またモーセは、神聖な幕屋にも、礼拝用のすべての器具にも、同じように血をふりかけました。 22古い契約のもとで、すべてのものは、血をふりかけることによってきよめられた、と言えます。 血を流すことなしに、罪の赦しはありえないからです。

23それで、天上のものにかたどって造られた地上の神聖な幕屋とその中のすべてのものは、このようにモーセによって、すなわち、動物の血をふりかけることによって、きよめられる必要がありました。 しかし、その原型である天の本物の幕屋は、はるかにすぐれたいけにえによって、きよめられたのです。

24 キリスト様は、天にあるものの模型にすぎない、地上の神殿に入られたのではありません。天そのものに入れ、今は、私たちの友として、神様の前におられます。25 しかもこの方は、地上の大祭司が、毎年きまって動物の血を至聖所にささげたように、自分を何度もささげるようなことは、なさいませんでした。26 もしそうであれば、世の初めから、何度も死ななければならなかったでしょう。しかし、そうではありません。この方は、この時代の終わりに、死によって罪の力を永遠に無効とするため、ただ一度、おいでになったのです。

27 人間には、一度だけ死んで、その後さばきを受けることが定められているように、28 キリスト様も、多くの人の罪のためにご自身をささげて、一度だけ死なれました。そして、もう一度おいでになりますが、今度は罪を取り除くためではありません。その時の目的は、彼を熱心に、忍耐して待ち望んでいるすべての人に、完全な救いを与えることなのです。

一〇

1 ユダヤ人のおきてによる古い制度は、やがてキリスト様が与えてくださるもののすばらしさを、かすかに味わわせてくれるにすぎません。いけにえは、年ごとに何度もくり返されましたが、その制度下にある人たちを救えませんでした。2 もし救う力があるのなら、一度だけのいけにえで十分なはずであり、礼拝する人々はみなきよめられ、その罪意識も消えてしまったことでしょう。

3 ところが、事実は反対でした。年ごとのいけにえは、人々の心をなごませるところか、かえって、不従順と罪とを思い起こさせたのです。4 雄牛とやぎの血では、実際に罪を取り除けないからです。

5 それゆえキリスト様は、この世に来られた時、次のように言われたのです。「神よ。雄牛や、やぎの血は、あなたの心にかないません。それで、わたしに肉の体を与え、祭壇の上のいけにえとなさいました。6 罪のためのささげ物として、あなたの前で殺されて焼かれる動物のいけにえでは、あなたは満足されませんでした。7 そこでわたしは、『まさに、聖書に書いてあるとおり、わたしはあなたの御心を行ない、いのちを捨てるためにまいりました』と申し上げたのです。」

8 すなわち、キリスト様は、古い制度が要求する、さまざまのいけにえやささげ物では、神様は満足されない、と語ったあとで、9 「わたしはいのちを捨てるために来ました」とつけ加えたのです。

キリスト様は、はるかにすぐれた制度を打ち立てるために、最初の制度を廃止されます。

10 この新しい計画にそって、ただ一度死なれ、それによって、私たちは罪を赦され、きよくされているのです。11 古い契約のもとでは、祭司たちは毎日、祭壇にいけにえをささげますが、それらは、決して罪を取り除くことができません。

12 しかしキリスト様は、いつまでも有効な、ただ一つのいけにえとして、私たちの罪のために、自分を神様にささげてくださり、そのあと、最も名誉ある神様の右の座について、

13 敵が足の下に踏みつけられる、その日を待っておられます。 14 キリスト様は、この一度かぎりの行為によって、ご自分がきよめる人々をみな、永遠に、神様の目からも完全なものとしてくださったのです。

15 聖霊様も同じ証言をなさいます。 16 「イスラエルの人たちは最初の契約を破りましたが、わたしが新たに彼らと結ぼうとしている契約は、これです。 わたしは、常にわたしの意志を知らせるために、おきてを彼らの心に書き記します。 そして、おきてを彼らの思いの中に据えるので、彼らは喜んでこれに従うようになります。」 17 さらに聖霊様は、こうも言われます。 「わたしは、二度と彼らの罪と不法行為を思い出しません。」

18 このように、罪が永久に赦され、また、忘れ去られてしまうなら、罪を取り除くためのいけにえを、これ以上ささげる必要はありません。 19 ですから、愛する皆さん。 今や私たちは、血を流されたイエス様のおかげで、神様のおられる至聖所に、堂々と入って行けるのです。 20 この新しいいのちに至る道は、キリスト様が、ご自分の体という幕を引き裂くことによって、切り開いてくださいました。 私たちはこの道を通して、きよい神様の前に進み出ることができるのです。

21 また、偉大な大祭司が神様の家を支配しておられるのですから、 22 私たちは、まちがいなく受け入れられるという確信と、真実な心をもって、神様の前にまっすぐ進み出ようではありませんか。 私たちの心は、キリスト様の血を注がれてきよめられ、体は、きよい水で洗われているのですから。

23 いま私たちは、神様が約束してくださった救いを、希望をいだいて待ち望むことができます。 今や私たちは、一点の疑いもなく、救いが確実であることを、だれにでも話せます。 神様のことばは、必ず実現するからです。

24 神様が成し遂げてくださった、すべてのことにこたえて、私たちも互いに助け合い、親切にし合い、善行に励もうではありませんか。

25 教会員としての義務を怠ったり、集会を休んだりする人たちにならってはいけません。 主が再びおいでになる日は、もう間近なのですから、互いに励まし合い、忠告し合いましょう。

26 もし罪の赦しの真理を知ってから、ことさらに救い主を拒否して、罪を犯し続ける人がいるとしたら、そんな罪は、キリスト様の死によっても赦されません。 もはや、そんな罪を消す方法は、どこにもないのです。 27 その人には、敵対する者を一人残らず焼き尽くす、神様の激しい怒りと恐ろしい刑罰が待っているだけです。 28 モーセのおきてに従わなかった者たちは、その罪に対する二、三人の証言が得られれば、容赦なく殺されました。 29 それならなおさら、神様のひとり息子を踏みつけ、罪をきよめるキリスト様の血を汚れたものとみなし、神様のあわれみを人々にもたらす聖霊様を侮辱し、はざかしめる者には、どんなに恐ろしい刑罰が下るか、胸に手をあて、よく考えてみなさい。

30 私たちは、「正義はわたしのものである。 復讐はわたしがする」、また「主がその民をさばかれる」と断言された方を、よく知っています。 31 生ける神の御手に陥ること

は、なんと恐ろしいことでしょう。

32 初めてキリスト様を知ったころの、祝福されたすばらしい日々を、いつまでも忘れないようにしなさい。 また、死ぬほどの苦しみに会いながらも、主と共に戦い抜いてきた事実を、いつも心にとめていなさい。 33 時には、あなたがた自身があざけられたり、打ちのめされたりもしました。 また時には、同じ苦しみをなめている人たちに、心からの同情を寄せたりしました。 34 牢獄に捕らわれの身となった人たちと共に苦しみ、また全財産を奪われても、喜んで、それを耐え抜いた日々もありました。 その秘訣は、天にある、もっとすぐれたものを永遠に獲得できると、わかっていたからです。

35 このような、すばらしい祝福が待っているのですから、どんなことがあっても、主を信じ続けなさい。 やがて主から受ける報酬を、いつも思い起こしなさい。 36 神様の約束されたものを、そっくりいただきたいと願うなら、神様の御心を、忍耐強く実行しなければなりません。 37 キリスト様のおいでになる日が、これ以上遅れることはありません。 38 信仰によって、神様の前に正しいと認められた人たちは、どんなことでも主を信じ、信仰によって生きなければなりません。 しりごみするような人を、神様は喜ばれません。

39 しかし私たちは、神様に背を向けたり、みじめな結果を見たりしたことは、これまで一度もありませんでした。 かえって、神様を信じる信仰が、たましいの救いを確実にしてくれるのです。

――

1 信仰を、どう定義したらよいでしょう。 それは、願い事が必ずかなえられるという、不動の確信です。 また、何が起こるか分からない行く手にも、望みどおりのことが必ず待ち受けていると信じて、疑わないことです。 2 神様を信じた昔の人たちは、この信仰で名高いのです。

3 信仰によって、すなわち神様を信じることによって、私たちは、この世界と天体のすべてが神様のことばによって造られ、しかもそれらはみな、無から創造されたことを知のです。

4 アベルが神様の命令に従い、カインより、はるかに神様に喜ばれる供え物をささげたのは、信仰があったからです。 アベルの供え物が喜ばれたのは、神様が彼を受け入れてくださったことの証明にほかなりません。 アベルは、はるか昔に死にましたが、今なお彼から、神様への信頼について、多くの教訓を学べます。

5 エノクも、神様に信頼しました。 それで神様は、死を経験させずに、彼を、天に引き上げてくださいました。 神様が連れ去ったので、彼は、突然、姿を消したのです。 神様は、ご自分がどんなにエノクを大切に思っているかを、前々から告げておられました。

6 信仰がなければ、神様に喜ばれることはできません。 神様のもとに来ようとする人はだれでも、神様の存在と、熱心に神様を求めれば必ず報いられることとを、信じなければなりません。

7 ノアも、神様を信じた人です。 将来の出来事について、神様から警告を受けた時、洪水のきざしなど何一つなかったにもかかわらず、そのことばを信じました。 そして、時をむだにせず、すぐに箱舟の建造に取りかかり、家族を洪水から救いました。 神様を信じたノアの態度は、当時の人たちの罪や不信仰と比べて、ひとときわ輝いています。 この信仰のゆえに、ノアは、神様に受け入れられたのです。

8 アブラハムは神様を信じました。 ですから神様に、生まれ故郷を離れて、新しく与えられる地に向かうようにと指示された時、そのことばに従いました。 彼は、行く先も知らずに出て行ったのです。 9 そして、神様の約束された地に入ったあとも、外国からの旅行者のように、天幕生活を送りました。 神様から同じ約束を受けた息子のイサクと孫のヤコブも、この地で、同様に天幕生活を送りました。 10 アブラハムがこうした生活に耐えられたのは、揺るがぬ土台を基とした天の都に、神様は必ず連れて行ってくださると確信して、待ち望んでいたからです。 その天の都を設計し、建設されたのは、神ご自身にほかなりません。

11 アブラハムの妻サラの信仰も、すばらしいものでした。 サラはすでに年老いていたにもかかわらず、母親になることができました。 神様の約束は必ず実現すると、堅く信じていたからです。 12 このようにして、年を取りすぎ、子供を生むことなど、全く絶望と思われていたアブラハムから、天の星や海辺の砂のように、数えきれないほどの子孫が生まれたのです。

13 信仰に生きたこの人たちは、神様が約束されたものを手にしてから、死んだものではありません。 しかし彼らは、約束のものが待ち受けているのを見て、心から喜びました。 この地上がほんとうの故郷ではなく、自分がほんのつかの間、ここに滞在する旅人にすぎないことを、自覚していたのです。 14 そう認めた時、彼らは心から、天にある故郷を慕い求めました。

15 もし彼らに、この世の魅力ある生活に帰る気があったら、いつでも帰れました。 16 しかし彼らは、そんなものには目もくれず、神様が用意された天の都を一心に見つめて生活しました。 それで神様は、彼らの神と呼ばれることを誇りとされたのです。

17 神様がアブラハムの信仰を試された時にも、アブラハムは最後まで、神様とその約束とを信じました。 彼は、息子のイサクを神様にささげ、祭壇の上で殺そうとまでしたのです。 18 そうです。 まさにアブラハムは、イサクに刀を振りおろそうとしたのです。 このイサクを通して一つの国民となる子孫を与えるという、神様の約束があったにもかかわらず、少しもためらいませんでした。 19 たといイサクが死んでも、神様はもう一度生き返らせてくださると信じていたのです。 まさに、そのとおりのことが起こりました。 イサクは確かに死ぬ運命にあったのに、生きたまま、再びアブラハムの手に戻されたのです。 20 イサクが二人の息子ヤコブとエサウに、神様が将来、必ず祝福を与えてくださると確信したのも、信仰によることでした。

21 年がい、死を目前にしたヤコブは、信仰によって、杖にすがりながら立ち、神様に祈

りをささげました。そして、息子ヨセフの二人の子を、かわるがわる祝福しました。

22 死期が迫ったと感じたヨセフは、信仰によって、神様がイスラエルの人たちをエジプトから脱出させてくださることを、確信に満ちて語りました。それを信じきっていた彼は、エジプト脱出の際に、自分の骨をも携えて行くことを約束させました。

23 モーセの両親も信仰者でした。優秀な子供が授けられたことを知った彼らは、神様がエジプト王の手から、その子を救い出してくださると信じました。それで、子供を殺せという王の命令にもひるまず、その子を、三か月のあいだ隠しておいたのです。

24 25 信仰によって、モーセは成人した時、王子として扱われることを拒みました。むなしい罪の快樂にふけるよりは、神の民と共に苦しむ道を選んだのです。26 彼は、エジプト全土の宝をわがものにするよりも、やがて来ると約束されていたキリスト様のために苦しむほうが、はるかにすぐれていると考えました。その目は、神様からの大きな報いに注がれていたのです。27 神様を信じていた彼は、王の怒りをも恐れず、エジプトの地をあとにしました。わき目もふらずに、まるで、いっしょに歩まれる神様の姿を見ているかのように、前進しました。28 信仰によって、モーセは神様の指示どおり、人々に小羊を殺させ、その血を家々の門柱に注ぎかけました。こうして、その家の長子は、神様から遣わされた恐ろしい死の使いから守られました。しかしエジプト人の長子は、この死の使いによって全滅したのです。

29 イスラエルの人たちは、神様を信じて、紅海を、まるで、かわいた陸地を歩むように、まっすぐ渡りました。しかし、追跡して来たエジプト人は、続いて渡ろうとして、一人残らずおぼれ死んだのです。

30 信仰によって、イスラエル人が、神様の命令どおり、七日間エリコの町の城壁を回ると、城壁はくずれ落ちました。31 売春婦ラハブは、神様とその力を信じていたので、イスラエルのスパイを、自分の家にかくまいました。その信仰によって、彼女は、神様への服従を拒んだエリコの住民が滅ぼされた時にも、救い出されたのです。

32 これ以上、何をつけ加える必要があるでしょう。ギデオン、バラク、サムソン、エフタ、またダビデ、サムエル、そのほかの多くの預言者の信仰について話し始めたら、いくら時間があっても足りません。33 彼らはみな、神様を信じました。その信仰によって、戦いに勝ち、国々を征服し、正義の政治を行ない、神様が約束されたものを受け取ることができました。ライオンの穴に投げ込まれても危害を受けず、34 燃えさかる炉に投げ込まれても、やけど一つしませんでした。ある人は、危うく刀で切り殺されるところを救われました。ある人は病弱の身であったのに、健康な体に変えられました。ある人は、戦いでめざましい力を与えられ、攻め寄せる敵の軍隊をことごとく退散させ、大勝利を収めました。35 また中には、信仰によって、愛する者を死人の中から生き返らせていただいた女たちもいました。また、さらにすぐれたいのちに復活するために、釈放など願わず、むち打ちや、死刑に甘んじた人たちもいました。彼らは、神様を捨てて自由の身となるよりも、むしろ死を望んだのです。

36 またある人たちは、あざけられ、むち打たれ、さらに鎖につながれ、投獄されました。
37 38 また石を投げつけられたり、のこぎりで真っ二つにされたりして死ぬ人もいました。 また、信仰を捨てて自由になるより、刀で切り殺されることを選んだ人、羊や、やぎの皮を着て荒野や山をさまよい、穴や洞窟に隠れた人もいます。 彼らは飢えと病気に悩まされ、苦しめられ、ひどい仕打ちを受けました。——彼らが正しい生き方を追求したからです。 39 神様を信じた彼らのすばらしい信仰は、神様から賞賛されるほどでした。ところが、だれ一人、神様が約束されたものを全部、手に入れたわけではありません。 40 彼らが待ち望んでいたのは、もっとすぐれた報いであり、神様も、やがて、それを与えるつもりでした。 それは、神様が今、私たちのために用意しておられる報いと同じです。
一二

1 このように、数えきれないほどの信仰の勇者が、競技場の正面観覧席で、私たちの競技を見つめているのです。 だから、スピードを落とさせたり、うしろへ引き戻そうとする力に目を光らせなさい。特に、足にうるさくまつわりついて、つまずかせようとする罪をふり捨てなさい。 そして、神様の用意された特別のコースを、忍耐して走り抜こうではありませんか。

2 私たちの指導者であり教師であるイエス様から、目を離さないようにしなさい。 イエス様は十字架の死のあとの喜びを知って、恥をもいとわず十字架にかかられました。 そして今は、神様の王座の隣、名誉ある座についておられるのです。 3 気力を失い、弱り果てることがないように、いつも、罪人の恐ろしい仕打ちを忍ばれた、イエス様のことを思っていなさい。 4 あなたがたは、罪や誘惑と戦っています。 けれどもまだ、血を流すほどのきびしい戦いを、経験したことはありません。 5 その上、あなたがたは、神様の激励のこばを、すっかり忘れてはいませんか。 神様は、こう声をかけてくださるのです。

「わたしの子よ。

主に懲らしめられて、腹を立ててはなりません。

主にあやまちを指摘されて、気落ちしてはなりません。

6 主が懲らしめるのは、あなたが憎いからではなく、あなたを愛しているからです。

主がむち打つのは、

あなたが真に神の子供だからです。」

7 進んで神様の訓練を受けなさい。 神様は、父親として当然のことを、子供のあなたがたに、しておられるのです。 父親から一度も懲らしめを受けたことのない子供が、どこにいるのでしょうか。 8 神様は、ほんとうの子どもであればこそ、必要に応じて懲らしめるのです。 もしそうでなければ、あなたがたは、ほんとうは神様の家族でないことになります。 9 この世では父親が子供を罰しても、子供から尊敬されなくなるようなことはありません。 だとしたら、私たちは真に生きることを学ぶために、喜んで神様の訓練を

受けるべきではないでしょうか。

10 肉親の父親は、私たちの将来のために、ほんの短い間だけ、それも、限られた知識に基づいて、訓練してくれます。ところが神様は、私たちの最善を願って、神様のきよさを共有させようと、いつも、正当な懲らしめを与えてくださるのです。11 罰を受けた当初は、だれも気持ちがいいはずはなく、むしろ、傷つけられたと感じるものです。しかしあとになれば、それが自分の益となり、信仰の面でも、性格の面でも、プラスとなっていることが、わかるのです。

12 ですから、弱った手をしっかり握りしめ、震えるひざをまっすぐにして、立ち上がりなさい。13 そして、自分の前に、まっすぐで平らな道を切り開きなさい。そうすれば、あとに続く人たちが、たとい弱くて足が不自由でも、倒れたり、けがをしったりせず、かえって、丈夫になるでしょう。

14 争いは努めて避け、きよい生活を追い求めなさい。きよくない人は主を見ることができないからです。15 あなたがたのうちのだれも、神様の最高の祝福を見失わないように、互いに注意し合いなさい。あなたがたの間に、苦々しい思いの根がはびこらないように、十分に警戒しなさい。その根から出た芽は悩みの花を咲かせ、大ぜいの人の信仰生活に、害を及ぼすからです。16 まただれも、性的な罪にのめり込んだり、エサウのように神様に無関心にならないように、よく注意しなさい。エサウは、ただ一度の食事のために、神様の祝福のしるしである、長子の権利を売りました。17 あとになって、後悔し、涙ながらにその権利を取り戻したいと願いましたが、遅すぎたのです。このことを、決して忘れないようにしなさい。

18 あなたがたは、イスラエルの人たちが、シナイ山で神様からおきてを授けられた時のように、恐怖、燃える火、黒雲、暗やみ、たけり狂う嵐に、面と向かう必要はありません。

19 そこでは、すさまじいラッパの音が響き、また神様の声がとどろきました。それを聞いた人たちは、あまりの恐ろしさに、それ以上何もお語りにならないでくださいと、必死に頼んだのです。20 彼らは、「たとい動物でも、山に触れるものは殺されなければならない」という神様の命令におびえ、あとずさりしました。21 モーセさえ、この光景を目のあたりにして、恐怖に震えおののいたのです。

22 しかしあなたがたは、シオンの山に近づいているのです。そこは生ける神の都、天にあるエルサレムであり、無数の御使いたちが楽しげに集う所です。23 またあなたがたは、天に登録されている人たちの教会、すべてをさばく神様、すでに完全なものとされて天にいる、救われた者たちの霊に近づいているのです。24 またさらに、新しい契約をもたらしたイエスご自身、復讐を叫ぶアベルの血ではなく、恵みに満ちた罪の赦しを与える血に、近づいているのです。

25 そこで、あなたがたに語りかけてくださる方に、ぜひとも、聞き従いなさい。イスラエルの人たちにとって、指導者モーセに従うことを拒んだ時、さばきは決定的なものとなりました。ましてや、天からの神様の声を拒む時、どんなに恐ろしい罰が下ることで

しょう。 26 シナイ山から語られた神様の声は、大地を揺り動かしました。 しかし、「今度は地だけでなく、天をも揺り動かす」と、神様は宣言しておられます。 27 つまり、土台の弱いものをすべてふるいにかけて、決して動じないものだけを、残そうとしておられるのです。

28 私たちは、何もののにも滅ぼされない御国を与えられているのですから、感謝の思いと、きよい恐れとをい দিয়ে 仕え、神様をお喜ばせしようではありませんか。 29 神様は、すべてを焼きつくす火だからです。

一三

1 真実の兄弟愛をもって、愛し合いなさい。 2 よそから来た人を、親切にもてなしなさい。 中には、そうして、気づかないうちに御使いをもてなした人もいます。 3 獄中にある人たちのことを忘れてはいけません。 その境遇を思っ て、同じ気持ちになり、苦しみを共に分け合いなさい。 また、しいたげられている人たちの悲しみを、思いやりなさい。 あなたがたは、その苦しみがどんなものか経験ずみなのですから。

4 結婚とその誓約を尊びなさい。 純潔を保ちなさい。 神様は不品行な者、姦淫する者を、まちがいなく、さばかれるからです。

5 お金を愛する心を捨て、現在、与えられているもので満足しなさい。 神様は、こう約束しておられるからです。 「わたしはどんな場合にも、あなたの期待にそむかず、あなたを見捨てない。」 6 ですから、私たちは確信をもって、こう答えることができます。「主は私を助けてくださいます。 だから、何もこわくありません。 ただの人間が、私にどんな手出しができません。」

7 神様のことばを教えてくれた指導者たちのことを、思い出しなさい。 その生活からにじみ出た、すべての良いものに心をとめなさい。 そして、彼らに見ならって、主を信じなさい。

8 イエス・キリストは、昨日も今日も、いつまでも変わることがありません。 9 ですから、いろいろの珍しい教えに心を奪われてはなりません。 あなたがたの霊的な力は、神様からの贈り物であって、ある特定の物を食べる、儀式上の規則によって得られるものではありません。 そのような規則は、たとえ厳守しても、その人を助けてくれません。

10 私たちには、キリスト様がいけにえとなられた十字架という祭壇があります。 ユダヤ人のおきてにしがみついて、救いを見いだそうとする人は、この祭壇から助けを受けることはできません。 11 ユダヤ人のおきてによると、大祭司は罪のためのいけにえとして、殺された動物の血を携えて聖所に入りますが、動物の体は、町の外で焼かれることになっています。 12 イエス様も、町の外で苦しみを受けて死なれました。 この、町の外で流された血によって、私たちの罪は洗いきよめられたのです。

13 だから私たちは、町の外に出て〔この世の人たちの関心事をあとにし、人々からさげすまれることも覚悟して〕、キリスト様のはずかしめを身に受け、共に苦しむために、この方のもとに行こうではありませんか。 14 この世は、私たちの住む所ではなく、私たち

は、天にある永遠の住まいを待ち望んでいるからです。

15 イエス様に助けられながら、神様のすばらしい御名を宣べ伝えることによって、常に、賛美の供え物をささげましょう。 16 いつも、良い行ないをすることと、困っている人たちに持ち物を分けることとを心がけなさい。 神様はこのような供え物を、とても喜んでくださるのです。

17 教会の指導者たちに服従し、喜んでその教えを実行しなさい。彼らの職務は、あなたがたのたましいを見守ることだからです。 しかも彼らは、この役目をどれだけ忠実に果たしたか、神様に報告する義務があるのです。 彼らが、悲しみながらではなく、喜んで報告できるようにしてやりなさい。 そうするのが、あなたがたの身のためでもあるのです。 18 私たちのために祈ってください。 私たちの良心は純粋であり、いつもそうありたいと願っているからです。 19 そして今は、できるだけ早くあなたがたのところへ帰れるように、特に祈ってほしいのです。

20 21 偉大な羊飼いである主イエス様を、死人の中から復活させてくださった平和の神様が、どうか、あなたがたに、神様の意志にそった行ないをするのに必要な、すべてのものを満たしてくださいますように。 神様とあなたがたとの間に立てられた永遠の契約の血によって、このことが可能となりますように。 また、キリスト様の力によって、主に喜ばれるものだけを、あなたがたのうちに造り出してくださいますように。 どうか、キリスト様に、栄光がいつまでもありますように。 アーメン。

22 皆さん。 私がこの手紙で語ってきたことを、どうか忍耐して聞いてください。 これは要点だけを手短かに書いたものです。 23 なお、同志テモテが、牢獄から釈放されました。 もし彼が早く来れば、いっしょにあなたがたを訪問できるでしょう。 24 あなたがたの指導者たち、またクリスチャンの皆さんに、よろしく伝えてください。 私といっしょにいるイタリヤのクリスチャンも、よろしくと言っています。 25 神様の恵みが、あなたがたと共にありますように。

敬具

■

ヤコブの手紙

この手紙が書かれた当時、大ぜいのユダヤ人が世界各地に散らばっていました。その中のクリスチャンにあてて、ヤコブはこの手紙を送ったのです。彼はエルサレム教会の指導者で、人々から尊敬されるりっぱな人物でした。信仰の面でも行ないの面でも、すばらしい模範を示していた彼が、正しい生活をするのがどんなにたいせつか、キリストを信じていると言いながら、行ないが伴わなければいかに無意味であるかを、例をあげて具体的に説明しています。

—

1 神様と主イエス・キリストに仕えているヤコブから、国外にいるユダヤ人のクリスチャンに、ごあいさつ申し上げます。

2 愛する皆さん。あなたがたの人生は、多くの困難と誘惑に満ちていますか。そうであれば、喜びなさい。3 行く道の険しさは、忍耐を養う良いチャンスとなるからです。

4 忍耐力を十分に養いなさい。さまざまな問題が持ち上がった時、そこから逃げ出そうと、もがいてはいけません。忍耐力が十分身につけば、完全に成長した、どんなことにもビクともしない、ねばり強い性格の持ち主になれるでしょう。

5 神様が何を望んでおられるか知りたいなら、遠慮なく、直接たずねなさい。神様は喜んで教えてください。願い求める人には、いつでも惜しみなく、あふれるばかりの知恵を授けてくださるからです。そのことで、決してとがめ立てはなさいません。6 ただし、その場合、神様は必ず答えてくださると確信して、願い求めなさい。疑う心は、風に波立つ水面のようで、少しの落ち着きありません。7 8 そんな状態でなした決心は、猫の目のように、くるくる変わる不安定なものです。必ず与えられるという信仰がなければ、主に何を期待してもむだです。

9 クリスチャンの中で、この世で見下されている人は、かえって、そのことを喜びなさい。主の目からは、高く評価されているからです。10 11 また裕福な人は、財産が主にとっては無一文に等しいことを知って、喜びなさい。金持ちの一生は、真夏の太陽の下で色あせ、美しさを失い、ついには枯れてしまう花のように、はかなく過ぎ去ってしまうからです。忙しく飛び回っていても、その働きの完成を見ないうちに死ぬことになるのです。

12 誘惑に負けて悪に走らない人は幸いです。なぜなら、神様を愛する人に約束された、いのちの冠を、ほうびにいただけるからです。13 悪事に手を出したくなった時、神様から誘惑されたなどと、言ってはなりません。神様が悪事を望まれるはずはありませんし、また、悪事へ誘ったりもなさるわけもないのです。14 人は自分の悪い考えや願いに引きずられて、誘惑されるのです。15 その悪い考えが悪事へと駆り立て、ついには、神様から永遠に引き離される、死の刑罰へと追いやるのです。16 ですから、愛する皆さん、決して道を誤ってはいけません。

17 すべて良いもの、完全なものは、光を造られた神様から来るのです。 神様には、わずかな変化もくもりもなく、いつまでも輝いているのです。 18 神様は、思いのままに、真理のことばによって、新しいいのちを与えてくださいました。 こうして私たちは、いわば、神様の新しい家族の、最初の子供とされたのです。

19 愛する皆さん。 人のことばには耳を傾け、口数を少なくし、しかも腹を立てないのが一番だ、と心得なさい。 20 怒りは、神様の標準から、私たちを遠く引き離すからです。

21 ですから、生活を総点検して、どんな悪をも、すっかり取り除いてしまいなさい。 そして、素晴らしい神様のことばを受け入れて、謙虚に喜びなさい。 そのことばには、私たちの心をしっかりとらえ、たましいを救う力があるからです。

22 また、聞くだけでなく、神様の教えに従うことも、忘れてはなりません。 聞くだけは聞いて、その実、良心を偽った行動をとることなどありませんように。 23 聞いただけで、実行に移さない人は、鏡に映る顔をながめているようなものです。 24 しばらくして鏡から離れると、自分がどんな表情をしていたか、すっかり忘れてしまいます。 25 しかし、罪から解放する神様のおきてを一心に見つめて離れない人は、すぐに忘れてたりしないばかりか、その命令を実行します。 神様は、そんな人の行ないに対して、大きな祝福を与えてくださるのです。

26 もし、「私はクリスチャンです」と言いながら、平気で、とげのあることばを口にする人がいれば、そんな人は自分をあざむいていることになります。 そんな信仰には何の値打也没有ありません。 27 父なる神の目から見て、純粋で欠点のないクリスチャンとは、みなしごや未亡人の世話をする人のことです。 このような人のたましいこそ、この世で生活していても悪に染まることなく、いつも神様に対して真実なのです。

二

1 愛する皆さん。 人をえこひいきし、相手が金持ちか貧しいかによって、態度をがらりと変えながら、どうして臆面もなく、「私は主イエス・キリストを信じています」などと言えるでしょう。

2 たとえば、教会に、りっぱな身なりで高価な金の指輪をはめた金持ちと、みすぼらしい身なりの貧乏人とが、同時に入って来たとします。 3 その時、金持ちには、ちやほやして、教会の特等席へ案内し、貧しい人には、「あんたはあそこに立つか、床にでも座るがいい」と言うなら、どうでしょう。 4 そんな態度は、あなたがたのクリスチャンとしての信仰を、根本から疑わせるものであり、悪い動機にふり回されている証拠です。

5 愛する皆さん、よく聞きなさい。 神様は貧しい人を選んで、豊かな信仰を持つ者としてくださいました。 天国は、そういう人のものです。 それは、神様を愛する者に約束された贈り物だからです。 6 それなのに、あなたがたは、貧しい人を軽べつしたのです。 あなたがたをひどい目に合わせ、裁判所に訴えるのは、金持ち連中ではありませんか。 7 また、あなたがたが仕える、イエス・キリストの尊い名をあざ笑うのも、彼らだと知って

いるでしょう。

8「自分を愛し、気遣うように、隣人を愛し、親身になって世話をしなさい」という主の命令を、ほんとうに守っているなら、けっこうなことです。 9しかし、えこひいきして、金持ちにはおせじを言うなら、主のおきてを破り、罪を犯していることになります。

10神様のおきて全体を、注意深く守っていても、一点でもつまずけば、全部破った人と同罪です。 11なぜなら、「他人の妻と結婚してはならない」と言われた神様は、「殺してはならない」とも要求されるのです。 ですから、ちゃんとした結婚生活を送っていても、だれかを殺せば、それで、おきての全部を破ったことになります。 そして、明らかに罪ある者として、神様の前に立たせられます。

12あなたがたは、キリスト様の言いつけを守ったかどうかで、判決を下されるのです。 ですから、よくよく注意してものを考え、行動しなさい。 13思いやりのない人には、容赦なくさばきが下ります。 しかし、情け深い人は、神様にあわれんでいただけるのです。

14愛する皆さん。 クリスチャンの信仰を持っていると主張しても、他人を見捨てていたら、どうしてその信仰を実証できるでしょう。 そんな信仰では、一人も救えません。

15あなたがたの中に、着る物ばかりか、その日の食べ物にも事欠いている人がいたとします。 16その人に、「それはお困りですね。 でも神様が、祝福してくださいますよ。 暖まって、お腹いっぱい食べてください。 では、さようなら」と言うだけで、実際に何もしないなら、そんな信仰が何の役に立つでしょう。

17これでわかるように、信仰を持っていると言う人は、それを善行によって証明しなければなりません。 そうでなければ、信仰は死んだも同然で、全く無用の長物です。

18ある人が、こう言っています。「神様に近づく道は信仰以外にないと主張する人よ。 私はあえて、行ないも同様に重要だと言いたい。 そうでなければ、自分に信仰があるかないかを、どうして証明するのか。 しかし私は、私の行ないを見る人々に、私の信仰を理解させることができる。」

19信じればそれで事足れりと考える人が、まだいるでしょう。 あなたは、神様はただ一人だと信じていますか。 よろしい。 しかし、覚えておきなさい。 悪魔も、そう信じて疑わないのです。 そのために、身の毛もよだつ思いで恐れているのです。 20ああ、あなたは、なんと愚かであわれな人でしょう。 神様の命令を実行しなければ、「信じる」ことなど、全くむだであることを、いつになったら悟るのですか。 良い行ないをしてはじめて、信仰は本物と言えるのです。

21先祖アブラハムでさえ、その行ないによって、神様の前に正しい者と認められたではありませんか。 彼は、息子イサクを供え物として祭壇にささげよと、神様に命令された時、いさぎよく従いました。 22アブラハムは、心から神様を信じていたので、どんなおことばにも、喜んで従ったのです。 こうしてアブラハムの信仰は、実際の行動によって、完全なものと認められました。 23ですから、「アブラハムは神様を信じた。 それ

で神様の目に正しい者と認められた」という旧約聖書のことばどおりとなり、彼は「神の友」と呼ばれるまでになったのです。 24 このことから、人は信仰だけではなく、行ないによって救われることが、よくわかると思います。

25 売春婦ラハブも、その一例です。 彼女はイスラエルの使者たちをかくまい、別の道から、安全に逃がしてやりました。 この行為によって、彼女は救われたのです。 26 たましいのない体が、もぬけのからであるように、良い行ないをする力のない信仰は死んでも同然です。

三

1 愛する皆さん。 人の欠点をあばくのに、やっきになってはいけません。 自分だって、欠点だらけではありませんか。 たとえば、人よりもすぐれた判断力を持つべき私たち宗教の教師が、もし悪を行なうなら、ほかの人より、はるかにきびしいさばきが下るのは当たり前です。

2 舌を思いどおりコントロールできる人は、すべての点で、自分を完全に制することができます人です。 3 馬を意のままに引き回したい時は、口に、小さなくつわをかけるだけでよいのです。 4 また大きな船も、小さなかじ一つで、どんな嵐の中でも、思いのままに進路を変えることができます。

5 同様に、舌もちっぽけなものですが、使い方を誤ると、途方もなく大きな害を生じます。 小さな火でも、大森林を焼き尽くすのです。 6 舌は炎です。 それは悪のかたまりで、体全体を毒します。 舌には地獄そのものの火が燃えさかり、私たちの人生を、滅びと災いの炎で包み込むのです。

7 人間は、あらゆる獣、鳥、魚、地をはうものをも、思いのままに支配できます。 8 しかし、自分の舌だけは思いどおりにできません。 舌はいつでも、死の毒を吐き出そうと身構えているのです。 9 私たちは、この舌で、ある時は天の父なる神をほめたたえ、またある時は神様に似せて造られた人間をのろいます。 10 つまり、祝福とのろいが、同じ人の口から出ているのです。 愛する皆さん。 こんなことがあっていいでしょうか。

11 同じ泉の水が甘くなったり、苦くなったりするでしょうか。 12 いちじくの木にオリーブの実がなったり、ぶどうの木にいちじくの実がなったりするでしょうか。 もちろん、ありえないことです。 塩水の池から、真水を汲むこともできません。

13 たくさんの善行を施している人は、賢い人です。 しかもその善行を鼻にかけなければ、真の意味での賢さを、身につけていると言えるでしょう。 14 もし自分に、苦々しい思いやねたみや利己心があるとわかれば、決して善人ぶったり、賢さをひけらかしたりしてはいけません。 それは、最もたちの悪いうそをつくことです。 15 ねたみや利己心は、神様からの知恵ではなく、地上のものであり、真理に逆らえとたきつける、悪霊のものです。 16 ねたみや、野心のうず巻くところには、秩序がなく、あらゆる悪がはびこっています。

17 しかし天からの知恵は、第一に純粹であり、おだやかなやさしさに満ちています。 そ

して、平和を愛し、だれにも礼儀正しくふるまいます。 独善的でなく、人のことばに喜んで耳を傾けます。 また、思いやりと善意にあふれた態度をとります。 それには真心がこもっており、単純率直で、誠実さにあふれています。 18ほんとうに平和を願う人は、平和の種をまいて、善行の実を刈り取るのです。

四

1あなたがたの口論や争いは、いったい何が原因ですか。 心にうず巻く、悪い欲望から出たものではありませんか。 2あなたがたときたら、人殺しをしてでも、欲しいものを手に入れたがります。 うらやんでも手に入れることができないと、力づくでも取ろうとして、けんかになるのです。 結局、原因は、神様に願い求めることを忘れている点にあります。 3いくら願い求めても、手に入らない場合は、その目的や動機が、まちがっていると考えなさい。 とすれば、自分を楽しませるだけのものを求めがちだからです。

4あなたがたは、まるで、夫の敵に媚びるふしだらな妻みたいです。 この世の快樂という、神様の敵と馴れ合うのは、神様を敵に回すことを意味します。 念を押しますが、もし不信仰なこの世の快樂を第一に求めるなら、神様の友になど、なれっこありません。 5「神様が私たちのうちに住まわせてくださった聖霊様は、ねたむほどの愛をもって、私たちを見守っておられる」と書いてある聖書のことばを、どう理解しているのですか。 6神様は私たちに、すべての悪い欲望に立ち向かうための強い力を、さらに与えてくださいます。 聖書に約束されているように、神様は、謙そんな者には力をお与えになりますが、高慢な者は敵視なさるのです。

7ですから、神様の前に謙そんになりなさい。 そして、悪魔に立ち向かいなさい。 悪魔はしっぽを巻いて逃げるでしょう。 8神様に近づきなさい。 そうすれば、神様も近づいてくださいます。 罪ある人たちよ。 罪の生活から足を洗いなさい。 純粹で真実な心の持ち主だと認めていただけるように、神様への思いで、心を満たしなさい。 9悪いことをした時には、涙を流して、心から悲しみなさい。 笑いを悲しみに、喜びを憂いに変えなさい。 10こうして、主の前で、自分がいかにつまらない存在か、いやというほど思い知らされる時、主はあなたがたを助け起こし、力づけてくださるのです。

11愛する皆さん。 批判や悪口に明け暮れてはいけません。 これが守れないようなら、「互いに愛し合いなさい」という神様のおきてを踏みにじるだけでなく、恐れ多くも、おきてのほうがまちがっていると、さばくことになるのです。 あなたがたのなすべきことは、おきての良し悪しを決めることではなく、それに従うことです。 12正しくさばくことのできる方は、おきてを造られた神様お一人です。 神様だけが、意のままに、私たちを救ったり、滅ぼしたりなさるのです。 それなのに、あなたは何の權威によって、人をさばいたり、批判したりするのですか。

13「今日か明日、あの町に出かけ、一年ぐらい腰をすえて、一もうけしてやろう」ともくろむ人よ。 よく聞きなさい。 14明日どんなことがわが身に起こるか、どうしてわかるでしょう。 あなたがたのいのちは、朝霧のように、はかないものです。 今は見え

ても、次の瞬間、消えてしまいます。 15 ですから、こう言うべきです。 「もし主がお許しくださるなら、私は、あのこと、このことをしよう。」 16 ところが、あなたがたきたら、自分の計画に夢中なのです。 このように自分に頼っているのは、決して神様をお喜ばせできません。

17 また、何をすべきかわかっていながら、手をこまぬいているのも罪だということを、自覚しなさい。

五

1 金持ちよ、よく聞きなさい。 今や、迫り来るさまざまな恐ろしい災いのために、声をあげて泣き叫びなさい。 2 あなたがたの富は腐り、せつかくの美しい着物も虫に食われて、ぼろぼろになるからです。 3 手持ちの金銀は、たちまち値打を失います。 しかも、そのことが、かえってあなたがたに不利な証拠となり、まるで火のように全身をなめ尽くすでしょう。 今まで後生大事にしてきたものがすべて、やがて到来する審判の日には、このような運命をたどるのです。 4 聞きなさい。 農場労働者の叫び声を。 あなたがたはその労賃を搾取したではありませんか。 彼らの叫びは、万軍の主の耳に達しているのです。

5 この地上でぜいたく三昧に暮らし、ありとあらゆる快樂にふけたあなたがた。 まるで、屠殺場送りになるために、心を肥え太らせてきたようなものです。 6 あなたがたは、自分を守るすべもない善良な市民に、罪をかぶせて殺してきたのです。

7 8 ですから、愛する皆さん。 主が再び来られる時まで、忍耐していなさい。 貴重な秋の収穫を期待する、農夫の忍耐に学びなさい。 勇気を出しなさい。 主は、もうすぐ帰って来られるのですから。

9 皆さん。 互いにぶつぶつ文句を言っではいけません。 自分だけは、人から非難されない自信でもあるのですか。 見なさい。 偉大な裁判官である主が、すぐそこまで来ておられます。 だから、非難は主にお任せしなさい。

10 どんな苦難の中でもじっと忍耐した、主の預言者を見なさい。 11 彼らは、地上で非常な苦しみに会いましたが、最後まで忠実に主に従いました。 それで今、天国で幸福に満ちあふれているのです。 ヨブは、悲しみの中で主を信じ続けた模範です。 私たちは、ヨブの生き方から、主のご計画の結末には必ず祝福が伴うことを知ったのです。 主は、恵みとあわれみにあふれたお方だからです。

12 しかし、愛する皆さん。 何よりも大切なことは、天にしろ地にしろ、とにかく何を指しても、いっさい誓わないことです。 ただ「はい」、または「いいえ」とだけ言えばいいのです。 誓ったばかりに、罪を犯して、神様のさばきを受けないためです。

13 悩んでいる人がいますか。 その人は、神様に祈り続けなさい。 また、喜んでいる人がいたら、昼も夜も、主を賛美しなさい。

14 病気の人はいませんか。 その人は教会の長老を招き、主が治してくださるように、油を注いで祈ってもらいなさい。 15 その祈りが、信仰によってささげられたものなら、

病気は治るでしょう。主が、病状を回復させてくださるからです。もし病気の原因が罪によるものなら、主はその罪をも赦してくださいます。

16 ですから、互いに罪を告白し、祈り合いなさい。正しい人の熱心な祈りには、大きな力があり、驚くほどの効果があります。17 エリヤは、取り立てて、私たちと変わったところもない人でしたが、雨が降らないようにと熱心に祈りました。すると、三年半ものあいだ一滴も降りませんでした。18 そしてまた、雨が降るようにと祈ると、今度は滝のように降って、草木の緑も回復し、農作物も生き生きと生長するようになりました。

19 愛する皆さん。たとえば、ある人が神様から離れて、もはや主を信じなくなったとします。その時、だれかが彼を助け、もう一度真理をよく理解させて連れ戻したとしたら、どうでしょう。20 その人は、迷子になった、たましいを死から救い出し、人の犯した多くの罪を神様に赦してもらった働きをしたことになるのです。

ヤコブ

■

ペテロの手紙 I (ペテロからの手紙 I)

現在のトルコにあたる地方に点在していた教会に、ペテロが出した手紙です。キリストが選んだ十二人の弟子たちの中で、ペテロは中心的存在でした。のちに、各地に教会ができ、大ぜいの人々がキリストを信じるようになってからも、彼はやはり第一人者として、すべての教会とクリスチャンを指導しました。その彼が、いよいよ激しく燃え上がる迫害の火の手の中で、そういう時にこそ神様を信じ、希望をもって戦い抜くように、励ましのことばをかけています。

—

1 イエス・キリストの宣教者ペテロから、エルサレムを追われて、ポント、ガラテヤ、カパドキヤ、アジア、ビテニヤの各地方に分散したユダヤ人のクリスチャンへ。

2 愛する皆さん。父なる神は、ずっと昔からあなたがたを選び、自分の子供にしようと、決めておられました。そして、聖霊様の働きかけにより、あなたがたの心は、イエス・キリストの血によってきよめられ、神様に喜ばれるものと変わったのです。どうか、神様があなたがたを祝福し、すべての不安と恐れから、解放してくださいますように。

3 主イエス・キリストの父なる神こそ、すべての賞賛を受けるにふさわしい方です。私たちは、神様の測り知れないあわれみによって、新しく生まれ変わる特権を与えられ、今では神様の家族の一員として、迎えられたのです。キリスト様が死人の中から復活してくださったおかげで、私たちは永遠のいのちの希望にあふれています。4 神様は自分の子供たちのために、お金では買えない永遠のいのちを贈る、と約束してくださいました。それは純粋で、しみ一つない完全な状態で、天に保管されており、絶対に変質したり、腐敗したりしません。5 神様は超自然的な力によって、あなたがたが、まちがいなく天で永遠のいのちをいただけるよう、守ってくださいます。あなたがたが、神様を信じているからです。やがて来る終わりの日に、この永遠のいのちは、あなたがたのものとして、だれの目にも、はっきり示されるでしょう。6 ですから、心から喜びなさい。今しばらくの間、地上での苦しみが続きますが、行く手には、すばらしい喜びが待ち受けているからです。

7 これらの試練は、あなたがたの信仰をテストするためにあるのです。それによって、信仰が、どれほど強く、純粋であるかが量られます。それはちょうど、金が火によって精錬され、不純物が取り除かれるのに似ています。しかも神様には、あなたがたの信仰は、金などより、はるかに貴重なのです。ですから、信仰が火のような試練のるつぼの中で鍛えられ、なお強化されるなら、あなたがたは、イエス・キリストの再び来られる日に、多くの賞賛と栄光と名誉とを、受けることになるでしょう。

8 あなたがたは、イエス・キリストに一度も会ったことがないのに、愛しています。今、姿を見ているわけでもないのに、信じています。地上に生きている今も、天からの、ことばに表わせない喜びに満たされ、幸福感に浸っているのです。9 それだけではありま

せん。主を信じれば、たましいの救いが与えられるのです。

10 この救いについては、預言者も完全に知っていたわけではありません。救いの預言はしましたが、それが実際には何を意味しているのか、自分でも、よくわからなかったのです。11 心の中のキリスト様の霊が、何を語っておられるのか、納得できませんでした。聖霊様は、やがてキリスト様の身にふりかかる苦難と、それに続く大きな栄光とを書きとめるように、命じられたのです。彼らは、いったいそれが、いつ、だれに実現するのだろう、といふかったのです。

12 彼らは、これらが自分たちの時代にではなく、ずっとあとに、すなわち、この時代に実現することを、あとになって知らされました。そして今やついに、このすばらしい知らせは、私たち全員に、はっきり告げ知らされたのです。これは、預言者に語られた時と同様、天から遣わされた聖霊様の力によって、伝えられたのでした。それは、またとない、すばらしいものだったので、天の御使いでさえ、何とかして知りたいと願ったほどでした。13 そういうわけですから、あなたがたは、イエス・キリストが再び来られる時を、これまで以上の恵みを期待して、真剣に、身を慎んで、ひたすら待ち望むことができるのです。

14 あなたがたは、神様の子供なのですから、神様に従いなさい。何も知らずに悪事を重ねた昔の生活に、舞い戻ってはいけません。15 かえって、子供として招いてくださった、きよい神様にならい、あらゆる点できよい行ないをしなさい。16 主みずから、「わたしはきよい者であるから、あなたがたも、きよくなければならない」と言われました。

17 あなたがたが祈りをささげる天の父なる神は、公平な方で、さばきの時に、決してえこひいきなどなさいません。人の行ないをすべて、正しく公平にさばかれます。ですから、天に行くその日まで、主を恐れ、慎み深く生活しなさい。18 神様は、あなたがたの先祖が、天国へ行こうとして迷い込み、むなしい努力を重ねた迷路から、あなたがたを救い出すために、身の代金を支払ってくださいました。ありきたりの金や銀を積まれたものではありません。19 一点の罪も、しみもない神様の小羊、キリスト様の尊い血が支払われたのです。20 神様はこのために、世の始まる前から、キリスト様を選んでおられました。そして、この終わりの時代に、あなたがたへの祝福として、だれの目にも見える形で、キリスト様を遣わされたのです。

21 こういうわけで、キリスト様を死人の中から復活させ、栄光をお与えになった神様を、心から信頼してまちがいありません。あなたがたの信仰と希望とは、ただ神様にかかっているのです。22 今や、キリスト様を信じたあなたがたは、たましいが利己心と憎しみからきよめられたので、だれをも、真実に愛することができます。ですから、互いに心から熱く愛し合いなさい。

23 あなたがたには、新しいいのちがあります。そのいのちは、両親から受け継いだものではありません。両親がくれた肉体のいのちは、やがて朽ち果てますが、新しいいの

ちは永遠に続きます。このいのちは、今も生きて働く神様のことばであるキリスト様から出ているのです。24生まれながらの古いいのちは、枯れてしまう草のようです。どんな栄誉も、やがてはしぼみ、散っていく花と同じです。25しかし、主のことばは、いつまでも変わりなく続きます。これこそ、あなたがたへの良い知らせです。

二

1ですから、憎むこと、善人ぶること、不正直、ねたみ、陰口をきくことなどはやめなさい。23すでに、主の恵みといつくしみを経験したのですから、泣いてミルクを欲しがる赤ん坊のように、熱心に救いの完成を祈り求めなさい。4キリスト様に近づきなさい。キリスト様は生ける土台石となり、神様はその上に、神の家をお建てになるのです。キリスト様を、人々は拒絶しましたが、神様は最も重要な存在として選ばれたのです。

5そして今、あなたがたは、神の家を建て上げるための生ける石となったのです。そればかりか、神様のきよい祭司となりました。イエス・キリストによって、神様に受け入れられたあなたがたは、喜ばれる供え物を神様にささげなさい。6旧約聖書にこう書いてあります。「見よ。わたしはキリストを、教会の尊い土台石とするために、特に選んで遣わした。彼に信頼する者は、決して失望しない。」

7そうです。キリスト様は、信じる者にとって、何よりも尊いお方です。しかし、キリスト様を拒絶する者にとっては、どうでしょう。聖書に、「建築士たちの投げ捨てた石が、家を建てる時になくてはならない土台石となった」と書いてあるとおりです。8また、聖書には、キリスト様は彼らにとって、「つまずきの石、妨げの岩」となられた、ともあります。彼らのつまずきの原因は、神様のことばに耳を傾けず、従おうとしないことです。それで彼らは、罰を受けて倒れるほかなかったのです。

9しかし、あなたがたは、そうではありません。あなたがたは、神様から選ばれた王なる祭司であり、きよい民として、神様のものとされた人たちです。それはすべて、どうして自分が、暗やみから神様のまばゆいばかりの光へと招き入れられたかを、人々に語り伝えるためなのです。10あなたがたは、以前は全くなきに等しい者でしたが、今は神様のものとされています。以前は神様のいつくしみからは縁遠い者でしたが、今はそのいつくしみによって、生活そのものを変えられています。

11愛する皆さん。この地上では、あなたがたは単なる旅人にすぎません。ほんとうの故郷は天にあるのですから、この世の快樂から遠ざかりなさい。そんな快樂は、身のためにならず、かえって、あなたがたのたましいに戦いをいどむのです。

12救われていない人の前では、日常のふるまいに、くれぐれも注意しなさい。そうすれば、今はあなたがたを疑いの目で見たり、悪口を言ったりしている彼らも、やがて、キリスト様が来られる時には、あなたがたのりっぱな行ないを認めて、神様をほめたたえるでしょう。1314主のために、国家の定めたすべての法律に従いなさい。主権者である王が定めた法律にはもちろん、王の役人が定めた法律にも、従うべきです。なぜなら、王に任命された役人の使命は、悪い者を罰し、正しい者に榮譽を与えることだからで

す。

15 神様が望まれることは、あなたがたの行ないが、良い知らせのすばらしい影響力に目をつぶってあざ笑う者どもに、うむを言わせないほど、りっぱなものとなることです。 16 あなたがたは、法律からも解放された自由人です。 しかし、だからといって、好き勝手なまねをしていいわけではありません。 ただ神様に従うという一点で、自由人であるべきなのです。

17 だれをも尊敬しなさい。 クリスマンはお互いに深く愛し合いなさい。 神様を恐れ、国家を尊びなさい。

18 召使は主人を尊敬し、どんな言いつけにも従いなさい。 親切で物わかりのいい主人だけにでなく、残忍で乱暴な主人にも、従いなさい。 19 正しい者だというのに罰を受けるとしたら、その時は主をほめたたえなさい。 20 悪いことをしてなぐられる場合は、たとえどんなに我慢してみせても、りっぱだとは言えません。 しかし、正しいことをしたばかりに、かえって苦しみを受け、それをじっと耐える場合には、神様に喜んでいただけます。

21 この苦しみは、神様が与えてくださった務めでもあるのです。 あなたがたのために苦しまれたキリスト様が、模範です。 この方について行きなさい。 22 キリスト様は一度も、罪を犯したり、うそをついたりなさいませんでした。 23 侮辱されても口答えせず、苦しめられても仕返しをせず、公平にさばかれる神様に、自分をお任せになりました。 24 キリスト様は、自分の体に私たちの罪を負い、十字架上で死んでくださいました。 そのおかげで、私たちは、罪ときっぱり手を切り、正しい生活を始めることができたのです。 キリスト様が傷つくことによって、私たちの傷が治ったのです。 25 あなたがたは神様から離れて、迷子の羊のように、さまよっていました。 しかし今は、どんな敵の攻撃からも、たましいを安全に守ってくださる羊飼いのもとに帰ったのです。

三

12 妻は夫に歩調を合わせなさい。 そうすれば、今は、あなたがたが語る主のことばに耳を傾けようとしない夫であっても、その敬虔な態度に打たれて、やがては信仰を持つようになるからです。 神様を敬う生活は、どんなことばよりも影響力があります。

3 宝石や、ぜいたくな着物や、ヘアスタイルなどで、外見を美しく見せようと夢中になってはいけません。 4 むしろ、やさしく、おだやかな心の持ち主となり、いつまでも色あせのしない魅力で、内面を美しく飾りなさい。 これこそ、神様の目に価値あるものです。

5 このように崇高な美しさを、昔の敬虔な婦人たちは身につけていました。 心から神様を信じ、夫に歩調を合わせていたのです。

6 たとえばサラは、夫アブラハムを一家の主人として尊敬し、従いました。 このサラに見ならいなさい。 そうすれば、サラの信仰を受け継ぎ、正しい行ないをすることになるのです。 これで、夫のきげんを損ねる心配もなくなるでしょう。

7 同様に、夫も、妻を心にかけてやりなさい。 いつも妻の気持ちを察し、女が男よりも

弱い者であることを意識して、いたわってやりなさい。 神様の祝福は、妻と共に受け継ぐべきものと心得なさい。 もし妻に対する態度が誤っていれば、あなたがたの祈りは、むなしくなってしまいます。

8 さて、あなたがた一同に言うておきます。 お互いに家族の一員として、心から思いやりなさい。 やさしい心と、謙そんな思いで愛し合いなさい。 9 害を受けたからといって、仕返しをするのはやめなさい。 侮辱されたからといって、口ぎたなく、ののしり返してはいけません。 かえって、その人のために、神様の助けを祈り求めなさい。 だれに対しても親切にきなさい。 そうすれば、神様から祝福していただけます。

10 幸福で正しい生涯を送りたいなら、舌を制し、くちびるからうそが出ないようにきなさい。 11 悪から遠ざかって、善を行ないなさい。 平和な生涯を送りたいと願うなら、熱心に追い求めて、手に入れなさい。 12 主は常に、自分の子供たちを見守り、その祈りに耳を傾けてくださいます。 しかし、悪事を働く者には、主のきびしい顔が向けられているのです。

13 善を行ないたいと願うあなたがたに、だれが害を加えるでしょう。 14 かりに、そのような事があっても、かえって、うらやましがられるでしょう。 神様があなたがたに報いてくださるからです。 15 心を動揺させないで、ただ主キリスト様を信じなさい。 もしだれかに、「なぜキリスト様を信じるのか」と尋ねられたら、いつでもその理由を話せるようにしてきなさい。 それも、おだやかに、親切な態度で説明すべきです。

16 正しいことを行ないなさい。 そうすれば、悪者呼ばわりする人たちも、やがては、あなたがたの正しい生き方に気づいて、自分たちの行為を恥じるでしょう。 17 いいですか。 あなたがたが苦しむことが神様の望みであれば、悪いことをして苦しみを受けるよりも、正しいことをして苦しみを受けるほうが、はるかにいいのです。

18 キリスト様も苦しみました。 一度も罪を犯したことの無い、潔白な方であったにもかかわらず、私たち罪人のために一たび死なれたのです。 それは、私たちを確実に神様のもとに導くためでした。 キリスト様の体は死にましたが、その霊は生きて、 19 牢獄につながれている霊を訪ね、神様のことばを伝えました。 20 これらの霊とは、ずっと昔の、ノアの時代の者たちを指します。 彼らは、ノアが箱舟を造っている間、神様が忍耐して待っておられたにもかかわらず、神様のことばを拒否しました。 結局、当時の大洪水から助かったのは、たったの八人でした。 21 [このことから、バプテスマ(洗礼)が、ありありと浮かんでくるではありませんか。 私たちの受けるバプテスマは、キリスト様の復活による、死と滅びの運命からの救出を意味します。 それは、体が水できれいに洗われるからではなく、バプテスマを受けることによって、神様に立ち返った私たちが、心が罪からきよめられるようにと願うからです。] 22 今、キリスト様は天で、神様の次に名誉ある座につき、すべての御使いと天の軍勢を従えておられます。

四

1 キリスト様は、苦しみを受け、苦痛を忍ばれました。 ですから、あなたがたも、いつ

苦しみに会ってもいい心がまえでいなさい。 肉体が苦しめば苦しむほど、罪はその力を失うことを覚えておきなさい。 2 こうして、あなたがたは残る生涯を、人間的な欲望の追求に費やすことなく、神様の御心のままに生きようと、細心の注意をはらうようになるのです。 3 あなたがたの過去は、性的な罪、みだらな肉欲、泥酔、乱交パーティー、酒宴、偶像礼拝など、神様を恐れない快樂に満ちていました。 もうそれで十分です。

4 昔の仲間は、もうどんなに誘っても、あなたがたが悪い遊びに応じないのを見て、ずいぶん驚くことでしょう。あるいは、ばかにし、笑いものにすることもかもしれません。 5 しかし、覚えておきなさい。 彼らは、生きている者と死んだ者すべてをさばく、偉大な裁判官の前で、そのすべての行為について、まちがいなく罰を受けることになるのです。 6 だからこそ、この良い知らせは、洪水で滅ぼされた人々にも、伝えられたのです。 それは、たとい肉体には死の罰が下されても、霊においては、神様にならって生きるためでした。

7 世の終わりが近づいています。 ですから、真剣で、分別のある、祈りの人となりなさい。 8 何よりも大切なことは、どんな時にも、深く愛し合うことです。 愛は、多くの欠点を補うからです。 9 食べる物にも事欠き、宿にも困っている人がいたら、気持ちよく家に迎え入れてやりなさい。

10 神様はあなたがた一人一人に、何らかの特別な能力を授けておられます。 その能力によって、互いに助け合い、神様からのあふれる祝福をひとり占めにはせず、他の人と分かち合いなさい。 11 説教するために選ばれた人は、あたかも、神様があなたを通してじかにお語りになるように、語りなさい。 人を助けるために選ばれた人は、神様が下さる力とエネルギーに満たされて、人々を助けなさい。 それは、イエス・キリストを通して、神様がほめたたえられるためです。 どうか、栄光と力が、いついつまでも、キリスト様にありますように。 アーメン。

12 愛する皆さん。 炎のように燃えさかる試練に出会っても、あわてたり、おじけづいたりしてはいけません。 ふりかかる試練は、決して思いがけないものでも、異常なものでもないからです。 13 むしろ、その試練によって、キリスト様と苦しみを分かち合えるのですから、喜びなさい。 やがて、キリスト様の栄光が輝きわたる時、あなたがたは、その栄光を共に受けて、すばらしい喜びを味わうのです。

14 クリスマンであるばかりに、ののしられ、侮辱されるなら、ほんとうに幸せです。 そんな時には、神の御霊が大いなる栄光で包んでくださるからです。 15 どうか皆さん。 人殺しや盗みの罪に問われたり、問題を引き起こしたり、みだりに他人の事柄に首を突っ込んだりして、そのために苦しむことがないよう気をつけてください。 そんなニュースが、私の耳に入らないようにしてください。 16 しかし、クリスマンだからというので苦しみを受けるなら、少しも恥じることはありません。 それは、キリスト様の家族の一員とされ、キリスト様の名で呼ばれる特権を受けた証拠ですから、神様をほめたたえなさい。 17 なぜなら、さばきの時が、すでに来ているからです。 しかもそのさばきは、

神様の子供たちから始まるのです。 このように、クリスチャンの私たちでさえ、さばかれるのなら、主を信じたことのない人々には、どんなに恐ろしい運命が、待ち受けていることでしょう。 18正しい人が、かろうじて救われるのであれば、神様を信じない人々は、いったい、どんなことになるのでしょうか。

19ですから、あなたがたの今の苦しみが、神様のお心にそうものであるなら、なお続けて善を行ないなさい。 そして、あなたがたを造られた神様に、すべてをお任せしなさい。神様から見捨てられることは、決してありません。

五

1 さて、教会の長老に、私も同じ長老の職にある者として、ひとこと言っておきます。 私は、キリスト様の十字架上の死の目撃者として、また、再び来られるキリスト様の栄光を共に受ける者として、ぜひとも、次のことをお願いしたいのです。 2神様の羊の群れを養いなさい。 いやいやながらではなく、喜んで、その務めに当たりなさい。 利益を求める気持ちからでなく、熱心に、喜んで、羊の群れを飼いなさい。 3ワンマンぶりを発揮せず、りっぱな模範を示して、彼らを指導するよう心がけなさい。 4そうすれば、偉大な羊飼い、キリスト様がおいでになる時、永遠に朽ちない栄光の冠を、ほうびとしていただけるのです。

5次に、青年は長老たちの指導に従いなさい。 みな、謙そんな思いで互いに仕え合うべきです。 神様は、謙そんな者を特別、祝福してくださいますが、高慢な者には容赦なさいませんから。 6もしあなたがたが、神様の力強い手の下で慎み深くしているなら、ちよūdよい時に、神様は高く引き上げてくださるでしょう。

7思いわずらいや心配事をすべて、神様にお任せしなさい。 というのも、神様のほうで万事、心にかけていてくださるからです。

8最大の敵である悪魔の攻撃に備えて、くれぐれも警戒しなさい。 悪魔は、飢えて、ほえたけるライオンのように、引き裂くべき獲物を求めて、うろつき回っているのです。 9主を信じ、悪魔の攻撃に立ち向かいなさい。 そして、世界中のクリスチャンが、同じ苦しみを通して来たことを、忘れないようにしなさい。

10キリスト様を通して、あふれるほど恵みを注いでくださる神様は、あなたがたに、しばらくの苦しみのあとで、永遠の栄光を与えてくださるのです。 神様がじきじきにあなたがたを力づけ、堅く立たせて、今まで以上に強めてくださいます。 11どうか、すべてのものを支配する絶対的な力が、永遠に神様にありますように。 アーメン。

12この手紙を筆記してくれたのは、忠実な信仰の友シルワノです。 私は、この手紙があなたがたを力づけるよう、期待しています。 なぜなら、どうしたら神様から確実に祝福していただけるかを、記したからです。 この手紙が、あなたがたを、神様の愛のうちにしっかりと立たせるのに役立つと信じます。

13ローマにある教会〔共に主を信じる、クリスチャンの皆さん〕が、よろしくと申しております。 私の息子マルコも、よろしくとのことです。 14クリスチャンとして、互

いに愛に満ちたあいさつを交わしなさい。 キリスト様を信じる皆さんに、平安がありますように。

ペテロ

■

ペテロからの手紙 II

自分の信条を、最後まで守り続けるのは容易なことではありません。そのために、つらい思いや苦しい思いをし、損をすることもあるからです。 かつてイエスに「たとい、みんながあなた様を見捨てようと、私だけは、この私だけは絶対に、見捨てなどいたしません」と言い合ったペテロも、いざという時はだめでした。 そのペテロが、生涯を閉じるにあたって、迫害を受けて苦しんでいるクリスチャンを勇気づける人となりました。 そして最後には殉教したのです。

—

1 イエス・キリストの召使であり、宣教者であるシモン・ペテロから、同じ信仰の持ち主である皆さんへ。 ここで言う信仰とは、神であり救い主であるイエス・キリストから与えられたものです。 それは、なんと尊いものでしょう。 また、その信仰を与えてくださるキリスト様は、なんと正しく、なんと恵み深いお方でしょう。

2 あなたがたも、神様のいつくしみと平安とを、もっとたくさんいただきたいと願うでしょう。 それなら、もっと深くイエス・キリストについて学びなさい。 3 キリスト様を知れば知るほど、その偉大な力を通して、神様に従う正しい生活を送るために必要なすべてのものが、いただけるのです。 そればかりか、キリスト様は、自分の栄光と、みがかれた品性をも、私たちに与えてくださるのです。 4 さらに、かねてお約束のすばらしい祝福をも、余すところなく注いでくださっています。 この約束のゆえに、私たちは陥りやすい肉欲や腐敗から守られ、キリスト様のご性質をそなえた者となれるのです。

5 ところで、これらの贈り物をいただくために、信仰はもちろん、それとは別に必要なものがあります。 まず神様に喜ばれるために、一生懸命励まなければなりません。 しかし、それだけではだめです。 さらによく神様を理解し、神様が何を望んでおられるかを、知らなければなりません。 6 そして次に、自分の欲を捨て、忍耐と敬虔さを身につけ、喜んで、神様にすべてをゆだねなさい。 7 そうすれば、次の段階に進むことができます。 すなわち、人に好意を示し、気持ちよく交際し、深い愛で結ばれるようになります。 8 こうなれば、あなたがたは霊的な面でますます強められ、主イエス・キリストのために、多くの有益な働きができるのです。 9 しかし、信仰さえあればよいと考え、それ以上のものを追い求めない人は、盲目か、ひどい近眼です。 そんな人は、神様が、これからは主のために、正しく、りっぱな生活を送るようにと、過去の罪から救ってくださったことなど、すっかり忘れているのです。

10 ですから、愛する皆さん。 ますます熱心に、自分がほんとうに神様に招かれ、選ばれた者であることを、身をもって証明しなさい。 そうすれば、人生で、決してつまずいたり、倒れたりしないでしょう。 11 そして神様は、あなたがたを、主であり、救い主であるイエス・キリストの永遠の国に迎え入れるために、門を広く開けてくださるでしょう。

12 もちろん、こんなことは、すでによくわかって、一步一步着実に歩んでいるでしょうが、それでもなお、常にこれらのことを思い起こしてもらいたいのです。 13 14 もう、私の生涯も残り少なく、まもなく死ぬことを、主イエス・キリストから示されています。それで、この世にあるかぎり、これらの注意書きを送ろうと、決心したのです。 15 私が死んだあとにも、これらのことを忘れないように、あなたがたの心に、はっきりと刻み込んでおきたいからです。

16 私たちは、主イエス・キリストの力と、再び地上へ来られることについて話してきましたが、それは、うまく考え出した作り話ではありません。 私はこの目で、キリスト様の輝きと栄光とを、はっきり見たのです。 17 18 キリスト様が、聖なる山の上で、父なる神から誉れと栄光とを受けて輝かれた時、私はその場に居合わせました。 その時、栄光にあふれる厳かな声が天から響くのを、はっきり聞いたのです。 「これこそわたしの愛する子、わたしの大いなる喜び。」

19 こうして、預言者のことばが現実となるのを、目のあたりにしたのです。 これら預言者のことばに、今まで以上の関心を寄せるのは、たいへん良いことです。 そのことばは、暗い部屋のすみずみまでも照らし出す明かりのようなもので、難解なまま、暗やみの中に放りっぱなしにされかねない多くのことに光をあて、理解させてくれたのです。 このことばの真理に思いをはせる時、あなたがたのたましいに、夜明けの光が差し込み、明けの明星であるキリスト様が、心を照らしてくださるのです。 20 21 なぜなら、聖書にある預言者のことばは、預言者がかつてに考え出したものではないからです。 それは、これら神様を敬う人の心に住まれる聖霊様がお授けになった、混じりけのない神様からのことばなのです。

二

1 しかし、これらの預言者の活躍していた時代にも、偽預言者は現われました。 同様に、あなたがたの中にも偽教師が現われます。 彼らは神様について、巧妙なうそをつき、自分を買収してくださった主に対してさえ、逆らおうとします。 しかし、彼らを待っているのは、突然襲いかかる恐ろしい最期です。 2 性的な罪のどこが悪いと、居直る彼らの教えに、多くの人がつり込まれることでしょう。そして、ひいては、キリスト様とその教えとが、笑いものにされるでしょう。

3 偽教師連中は貪欲で、人のふところをねらうためには、手段を選ばないのです。 しかし神様は昔から、そんな連中をきびしく罰してこられました。 連中の滅びは、目前に迫っています。 4 神様は、御使いでさえ、罪を犯した場合は少しも手加減せず、地獄に投げ落とし、審判の日まで、無気味なほら穴の暗やみに、鎖につないで閉じ込めました。 5 また、大昔、洪水前の人たちにも、神様のことばを語ったノアとその家族七人を除いて、少しの容赦もされなかったではありませんか。 そして、神様を恐れない者の住む世界を、大洪水によって滅ぼしてしまいました。 6 また神様は、ソドムとゴモラの町を灰の山と変え、地上から消し去りました。 それは、後世の、神様を無視する者へのみせしめであり、

それによって、彼らが神様を恐れるようになるためです。

78 しかし、同時に主は、ロトをソドムから無事に救い出してくださいました。 ロトが正しい人だったからです。 ソドムに住んでいた彼は、来る日も来る日も、身の毛もよだつ恐ろしい悪事を見て、心を痛めていたのです。 9 このように、主は私たちを、さまざまな誘惑から必ず救い出してくださいます。 しかし、神様を恐れない人々には、最後の審判の日まで、次々と罰が下るのです。 10 汚れた欲望に身を任せている者や、高慢で自己中心で、栄誉を受けた人たちを少しも恐れず、かえってあざけるような者には、主は特にきびしい態度で臨まれるのです。 11 主の前に仕える御使いでさえ、これら偽教師より、はるかにまさった力と権威とを持つにもかかわらず、不正な者に、主の前で非難を浴びせたりはしません。

12 しかし、偽教師連中は畜生にも劣るのです。 彼らは、したいほうだいのことをしています。 まるで、捕らえられ、殺されるために生まれてきたようなものです。 何も知らずに、見えない世界の恐るべき力をあざ笑っているのです。 彼らが、悪霊や地獄の勢力と共に滅ぼされるのは、目に見えています。

13 それが、偽教師たちを待つ運命です。 彼らの罪からすれば、当然のことです。 来る日も来る日も、悪の楽しみにふけているのですから。 彼らがあなたがたの間にもぐり込んでいることは、不名誉な面汚しです。 つまり、彼らは正直者を装って、愛の交わりに加わりながら、一方では、胸のむかつくような罪の生活を送って、あなたがたをだましているのです。 14 その罪に濁った視線は、どんな女性をも逃がしません。 しかも、彼らのみだらな行為は底なし沼で、うわついた女を誘惑するゲームに熱中しています。 そして、ますます貪欲になり、ついには、わが身を滅ぼしてしまうのです。 まさにのろわれた者たちです。 15 進むべき道を踏み誤った彼らは、不正によって得た金を愛したベオルの子バラムのように、さまよい続けています。 16 もっともバラムは、狂った道をそれ以上進まないようにと、警告を受けました。 自分のろばに、人間の声でしかられた、という旧約聖書の記事を、読んだことがあるでしょう。

17 このような偽教師は、干上がった泉のように、何の役にも立ちません。 口約束を重ねるばかりで、何一つ実行しようとしません。 まるで嵐に吹き飛ばされる雲のように、少しも落ち着きがありません。 その行く手に待ちかまえているのは、暗やみにおおわれた、永遠の落とし穴です。 18 彼らは臆面もなく、自分の罪と誘惑の手柄話を語ります。 つまり、肉欲をえさにして、やっとの思いで罪の生活から足を洗った人たちを、もう一度、罪へ誘い込もうとしているのです。

19 彼らはこう言います。「善人になったからって、救われるもんじゃないんだよ。 それなら、いっそのこと、悪いことをしたほうが、ましじゃないか。 やりたいことは、やればいい。それが自由というもんだ。」

しかし、このように、おきてからの「自由」を教えながら、実は自分が、罪と滅びの奴隷になっているのです。 何かに支配された人は、その奴隷です。 20 主であり、救い主

であるイエス・キリストについて学び、この世の悪い生活から、いったん足を洗った人が、またもとの罪の生活に舞い戻り、その奴隷になるなら、その状態は以前より、もっと悪くなるでしょう。 21 キリスト様を知ったあとで、目の前のきよい戒めに背を向けるくらいなら、キリスト様について何にも知らなかったほうが、はるかにましです。 22 古いことわざに、「犬は自分が吐いた物をなめ、豚はいくら洗ってやっても、どろの中をころげ回る」というのがありますが、まさに罪の生活に舞い戻る人々に、ぴったりのことばではありませんか。

三

12 愛する皆さん。 これは二通目の手紙です。 私はこの二通の手紙で、あなたがたがすでに知っている事柄を、もう一度、思い起こさせようとしたのです。 あなたがたはそれを、昔の聖なる預言者から、また、主であり、救い主である方のことばを伝えた、私たち使徒から学びました。

3 まず第一に思い出してほしいことは、終末の時代には、あざける者どもが現われ、真理をあざ笑い、思いつくかぎりの悪を行なうということです。 4 彼らはこんな議論のベテランです。 「ほんとうにイエスは、また帰って来ると約束したのかい。 それじゃ今、イエスはどこにいるんだい。 この世界は造られた最初の日から、何一つ変わってないじゃないか。 イエスが帰って来るなんて、ありっこないよ。」

5 6 彼らは、神様がかつて、この世界を大洪水によって滅ぼされたという事実には、わざと目をつぶっています。 洪水が起こったのは、神様が命令して天と地とを造り、周囲に水をめぐらされてから、ずっとあとのことでした。 7 神様は、今の天と地とを、最後の審判の日には火で焼き滅ぼすために、そのまま残しておくように、お命じになったのです。 その日には、神様を恐れない者は、すべて滅ぼされます。

8 愛する皆さん。 いいですか。 主にとって、一日は千年のようであり、千年は一日のようです。 9 それで、再び主がおいでになるという約束が、なかなか実現しないので、時には、いったいどうしたのかと、じれったく思うかもしれません。 しかし主は、いたずらに日を延ばしておられるのではありません。 かえって、一人でも滅びないように、罪人が悔い改めるために必要な時間を与えようと、待っておられるのです。 10 しかし主の日は、どろぼうのように、思いがけない時に来ます。 その時、天は恐ろしい響きをたてて消えうせ、天体は火だるまとなって崩れ落ち、地と地上のすべてのものは、跡形もなく焼き滅ぼされてしまいます。

11 このように、私たちの周囲のものいっさいが、溶けてなくなる運命にあるのです。 そうであれば、私たちはどれほど神様を敬い、きよい生活を送らなければならないことでしょう。 12 その日を今か今かと待ち望むだけでなく、その日を早めるようにしなければなりません。——その日、神様は天に火を放たれ、天体は火に包まれ、溶け去ります。 13 しかし私たちは、そのあと、新しい天と地を造るという、神様の約束をいただいています。 そこには、神様の目にかなう正しい人だけが住むのです。

14 愛する皆さん。 あなたがたはこれらの出来事と、主が再び来られることとを、待ち望んでいるのですから、罪を避けて生きることには精一杯励みなさい。 また、再びおいでになった主に喜んでいただけるよう、すべての人と平和に過ごしなさい。

15 16 なぜ主が、こんなにも長く待っておられるのか、よく考えてみなさい。 主は、私たちが救いの教えを伝える時間を与えておられるのです。 学識の深さで知られる、愛する兄弟パウロも、多くの手紙の中で、同じことを書いています。 しかし彼の手紙には、むずかしいところがあるので、中には、それをいいことに、わざと的はずれの解釈をする人がいます。 彼らは、聖書のほかの箇所でもそうするのですが、パウロが言おうとしていることとは、全く別の意味を引き出しているのです。 それは、自分で滅びを招いているようなものです。

17 愛する皆さん。 前もって警告しておきます。 このような不正な者の、誤った考えに引き込まれないように、よくよく注意しなさい。 そうでないと、あなたがた自身も混乱するからです。 18 むしろ、霊的な面で成長しなさい。 そして、主であり、救い主であるイエス・キリストを、もっと深く知りなさい。 このキリスト様に、すべての栄光と輝かしい名誉が、今も、後も、永遠までもありますように。アーメン。

ペテロ

■

ヨハネの手紙Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ（ヨハネからの手紙Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ）

漁師あがりのヨハネは、兄弟ヤコブと共に、キリストから「雷の子」とあだ名されるほど、激しい気性の持ち主でした。ところが、キリストはこのヨハネに、弟子たちの中でも特に目をかけたのです。こうして、キリストの愛を知ったヨハネは、晩年には「愛の人」と呼ばれるほどの人物になりました。彼の口から出ることばは、いつも決まって、「愛し合いなさい」でした。この手紙でも、神様の愛を知ること、互いに愛し合うことのすばらしさが語られています。

一

1 私は、この世界が造られる前から存在しておられたキリスト様を、この目で見、そのことばをこの耳で聞き、その体にこの手でさわりました。キリスト様は、神様のいのちのことばです。2 このいのちである方を、神様は私たちに紹介してくださいました。私たちは、確かにこの方を見ました。私が伝えたいのは、永遠のいのちである、このキリスト様のことです。この方は初め、父なる神と共におられましたが、やがて、私たちの前に姿を現わされました。3 もう一度言いますが、私たちは実際に見聞きしたことを、伝えているのです。それは、あなたがたも私たち同様、父なる神やそのひとり息子イエス・キリストと交際できる者とされ、喜びにあふれるためです。4 もしこの手紙の忠告どおりに実行すれば、あなたがたは喜びに満たされ、私たちも共に喜ぶことになるのです。5 神様は光であり、少しも暗い部分がありません。これが、神様から私たちにゆだねられた、あなたがたへの教えです。6 神様の友だと言いながら、霊の暗やみと罪にはまり込んで生活しているなら、私たちは、うそをついているのです。7 しかし、神様の光の中におられるキリスト様にならって、私たちも光の中で生活すれば、互いにすばらしい交際と喜びとを味わうことができます。そして、神の子イエス様の血が、私たちをすべての罪からきよめてくださるのです。

8 もし、自分には罪がないと言いはるなら、それは、自分をだましているのであって、真理を受け入れようとしない証拠です。9 しかし、もし自らの罪を神様に告白するなら、神様はまちがいなくそれを赦し、すべての悪からきよめてくださいます。〔なぜなら、キリスト様は、私たちの罪を帳消しにするために、死んでくださったからです。〕10 潔白だと言いはる人は、自分がうそつきになるばかりか、神様まで、うそつき呼ばわりすることになります。なぜなら、神様は「人間は罪を犯した」と、はっきり宣言しておられるからです。

二

1 私の幼い子供たちよ。私がこう言うのも、あなたがたに、いつも罪から離れていてほしいからです。しかし、もし罪を犯したとしても、父なる神の前で弁護してくださる方がおられます。その方は、イエス・キリストです。キリスト様は、すべての点で正しく、完全に神様のお心にかなった方です。2 そして、私たちの罪に対する神様の怒りを

一身に引き受け、私たちを、神様と交際できる者としてくださいました。私たちの罪が赦されるために、自らを神様に差し出されたのです。それは、私たちのためばかりでなく、全世界のためでもあります。

3 私たちがこの方に属していることを、どうすれば確かめられるでしょう。それには、神様の要求を実行するほかありません。

4 ある人は、「私はクリスチャンだ。天国を目指して歩んでいるし、まちがいなくキリスト様のものだ」と主張するでしょう。しかし、もしその人がキリスト様の命令に従っていなければ、うそをついているのです。5 キリスト様の教えを実行している人は、ますます神様を愛します。これが、クリスチャンであるかどうか、見分ける方法です。6 自分はクリスチャンだと言う人は、キリスト様と同じ生き方をすべきです。

7 愛する兄弟たち。私は今、新しい戒めをつくり出しているわけではありません。これは、初めからある古い戒めであり、すでに何度も聞いたものです。8 にもかかわらず、この戒めは、常に新しいのです。これは、キリスト様にとって真理であり、あなたがたにとっても、そうです。「互いに愛し合いなさい」という戒めを守る時、私たちの生活から暗やみは逃げ去り、キリスト様のうちにある、新しいいのちの光が輝き渡ります。

9 キリスト様の光の中を歩んでいると言いながら、仲間のクリスチャンを憎む人は、相変わらず暗やみにとどまるのです。10 仲間のクリスチャンを愛する人は、光の中を歩む者であり、罪と暗やみにつまずくことなく、行く手をはっきりと見渡せます。11 しかし、仲間を憎む人は、霊の暗やみをあてどなくさまよい、行く先もわかりません。暗やみのために足下さえ、よく見えないのです。

12 幼い子供たちよ。このように書き送るのは、あなたがたの罪が、すでに救い主イエス様の名によって、赦されているからです。13 年長者たちよ。私がこう書き送るのは、あなたがたが、世の初めから生きておられるキリスト様を、実際に知っているからです。青年たちよ。私がこう語りかけるのは、あなたがたが悪魔との戦いに勝ったからです。少年少女たちよ。私がこう書き送るのは、あなたがたが父なる神を知ったからです。14 このように私は、永遠に生きておられる神様を知っている父親や、神様のことばを心にとめて悪魔との激戦に打ち勝つ強い青年にも、語っているのです。

15 この世と、その中のすべてのものに、心を奪われてはなりません。もし、それらを愛するなら、実際には、神様を愛していないのです。16 すべて世的な事柄——性欲におぼれたり、ほしいものを何でも手に入れたがったり、財産や地位を鼻にかけたりする悪い願望——は、神様から出たものではないからです。それらはみな、この不正な世の生み出したものです。17 この世は、やがて滅び去ります。同時に、これらの禁じられた悪い欲望も消滅します。しかし、常に神様に従って歩む者は、永遠に生きるのです。

18 愛する子供たちよ。この世の終わりが近づいています。すでに耳にしていたとおり、今や多くの反キリスト〔キリスト様に敵対する者〕が姿を現わしました。このことから、終末の近いことは確かです。19 この、キリスト様に敵対する者は、これまで

ずっと私たちの教会の会員のふりをしていましたが、ほんとうの意味で、仲間ではなかったのです。 そうでなければ、教会にとどまり続けたはずです。 彼らが出て行った時、私たちの仲間でなかったことが証明されたのです。

20 しかし、あなたがたは違います。 聖霊様が与えられて、すでに真理を知る者となっていますから。 21 ですから、私は、あなたがたに真理を知らせなくてはと考えると、この手紙を書いているわけではありません。 そうではなく、本物と偽物との区別ができる者となるよう、なおいっそうの注意を促しているのです。

22 一番のうそつきとは、だれでしょう。 イエス様はキリスト（救い主）ではない、と言う者です。 父なる神と神の子とを信じない者、それが反キリストです。 23 神の子キリスト様を信じない人は、父なる神を自分の父とすることができません。 しかし、信じる人は、父なる神をも自分の父とできるのです。

24 ですから、あなたがたのなすべきことは、初めから教えられてきたことを、信じ続けることです。 そうすれば、常に父なる神や神の子と親しく交際できるのです。 25 これこそ、キリスト様から与えられた約束であり、永遠のいのちです。

26 これまで、私が反キリストについて注意を促したのは、あなたがたの目をごまかし、まちがった教えに引きずり込もうとたくらむ者に、だまされてほしくないからです。 27 しかし、今やあなたがたは、聖霊様をいただきました。 聖霊様が心のうちに生きておられます。 ですから、何が正しいかを判断するのに、だれからも教えてもらう必要がありません。 聖霊様が、すべてを指示してくださるからです。 聖霊様は真理であって、決してうそをつきません。 あなたがたは聖霊様の指示に従って、キリスト様のうちに生きるべきで、絶対に離れ出てはいけません。

28 そこで、幼い子供たちよ。 いつまでも、主との親しい友好関係を保ちなさい。 そうすれば、キリスト様が帰って来られる時、ちゃんと用意ができていて、主にお会いするのをためらったり、恥じたりしないですむでしょう。 29 私たちは、神様が正しい方であり、正しいことだけを行なわれると知っています。 ですから、正しい行ないをする者はみな、神様の子供だと判断できるのです。

三

1 天の父は、どんなに、私たちを愛しておられることでしょう。 私たちを、ご自分の子供として受け入れてくださいました。 考えてもごらんください。 神様の子供とされたのです。ところが、神様を知らない多くの人は、当然、私たちが神様の子供であることを、理解できません。 2 愛する友よ。 私たちは、もうすでに神様の子供です。 これから先のことは想像もつきませんが、ただこの一事だけは、わかっています。 つまり、キリスト様がお帰りになる時、私たちがキリスト様に似た者となるということです。 というのは、キリスト様のありのままの姿を目のあたりにするからです。 3 このことをほんとうに信じる人はみな、自分の身を、いつもきよく保とうと心がけます。 キリスト様はきよい方だからです。

4 しかし、罪を犯し続ける人は、神様に逆らうのです。 罪はすべて、神様の心に反する行為だからです。 5 あなたがたは、キリスト様が人間となられたのは、私たちの罪を取り除くためであったことを、よく知っています。 また、キリスト様は何の罪も犯さず、どんな時にも、神様の心からそれなかったことも、知っているはずです。 6 ですから、もし私たちが、いつもキリスト様のそば近くにおり、従順に従うなら、罪を犯し続けたりしないですみます。 彼らが罪を犯すのは、真の意味でキリスト様を知らず、キリスト様のものとなっていないからです。

7 愛する子供たちよ。 このことで、だれにもだまされてはいけません。 もし、あなたがたが、いつも善を行なっているなら、キリスト様と同じように、正しく歩んでいるのです。 8 しかし、もし依然として罪を犯し続けるなら、それは、悪魔の一味になり下がった証拠です。 悪魔は、初めの罪以来、ずっと罪を重ねてきました。 しかし神の子は、この悪魔のしわざを打ち破るために来られたのです。 9 神様の家族の一員として新しく生まれた人には、神様のいのちが宿っているので、もはや罪を犯す習慣はありません。 新しいいのちに支配されているので、罪を犯し続けることができないのです。——その人は二度目の誕生を迎えたのです。

10 そこで今、私たちは、神様の子供と悪魔の仲間とを、はっきり見分けることができます。 罪の生活を送り、兄弟であるクリスチャンを愛さない者は、自分から神様の家族ではないと、証明しているようなものです。 11 私たちは初めから、「互いに愛し合いなさい」と教えられていたからです。

12 カインのようになってはいけません。 カインは悪魔の仲間になって弟を殺しました。なぜでしょう。 弟の正しい生活と比べて、自分の生活があまりにも悪いと自覚していたからです。 13 ですから、愛する友よ。 たとい全世界があなたがたを憎んでも、驚いてはいけません。

14 ほかのクリスチャンを愛しているなら、私たちは、地獄から救い出され、永遠のいのちを与えられたと確信できます。 そうでない者は、永遠の死にとどまっているのです。

15 だれでもクリスチャンの仲間を憎む者は、心の中で人殺しをしているのです。 言うまでもないことですが、人殺しに、永遠のいのちはありません。 16 キリスト様は、私たちのために、進んでいのちを捨ててくださいました。 そのことによって、私たちはほんとうの愛を知ったのです。 ですから、私たちも、兄弟であるクリスチャンのために、いのちを捨てるべきです。

17 クリスチャンが、自分ではぜいたくに暮らしていながら、困っているクリスチャンがいても、見て見ぬふりをしたとしたら、どうでしょう。 どうして、その人に神様の愛があると言えるでしょう。 18 幼い子供たちよ。 口先だけで人を愛するのではなく、真実をこめて愛し、実践によって、神様の愛を示そうではありませんか。 19 そうすれば、自分が神様の側に立っていることを、ますます強く確信できるでしょう。 そして、良心にみじんもやましいところがなく、主の前に立てるのです。 20 もし、悪いことをした

と、良心の責めを感じても、それ以上に、主は強く感じておられるはずです。主は私たちのすることを、何もかもご存じだからです。

2 1 しかし、愛する友よ。もし私たちの良心が潔白であれば、完全な確信と信頼をいだいて主の前に出ることができます。2 2 また願い求めるものは何でも、いただけるのです。なぜなら、私たちは主に従い、主に喜ばれる行ないをしているからです。2 3 神様の命令には、喜んで従わなければなりません。つまり、神の子イエス・キリストの名を信じ、互いに愛し合わなければなりません。2 4 神様の命令に喜んで従う人は、神様と共にいるのです。そして、神様もその人のそばにいてくださるのです。これは、神様が遣わしてくださった聖霊様から教えていただいたことで、そのとおりだと確信できる事実です。

四

1 心から愛する友よ。だれかが「これこそ神様の教えです」とふれ回っても、それをうのみにして、何もかも信じてはなりません。まず、それが確かに神様から出たものかどうかを、試しなさい。多くの偽教師があちこちに現われているからです。2 彼らのことばが聖霊様から出たものかどうかを確かめる方法があります。つまり、神の子イエス・キリストが、現実に生身の人間となられたことを、その人が認めるかどうかで決まるのです。もしそのことを認めるなら、彼のことばは神様から出たものと信じていいでしょう。3 しかし、そうでなければ、神様から出たものではなく、明らかに「反キリスト」と同じく、キリスト様に敵対する者から出ているのです。この反キリストが出現することは、以前から聞かされていたはずです。彼らは今、至る所で、キリスト様への敵意をむき出しにしています。

4 愛する友よ。あなたがたは神様の側につく者として、キリスト様に敵対する者と戦い、すでに勝利を収めてきました。それは、心のうちに、この不正な世に巣くう、どんなに悪い教師よりも、はるかに強い方がおられたからです。5 その教師連中は、この世につく者であり、この世のことにのみ心を奪われています。ですから、この世の人たちは、彼らに関心を寄せるのです。6 しかし、私たちは神様の子供です。ですから、いつも神様と共にいて、親しく語り合っている人だけが、私たちのことばに耳を傾けるのです。そうでない人は、耳を貸そうとしません。このことから、ほんとうに神様から出たことばを語っている人かどうかを、見分けることができるのです。神様から出た教えに、この世は耳を傾けないからです。

7 愛する友よ。互いに愛し合いましょう。愛は神様から出ています。ですから、人を愛する親切な人は、その行ないによって、自分が神様の子供であることを証明すると同時に、ますます深く、神様を知るようになるのです。8 反対に、人を愛さない不親切な人は、神様を知らないことを暴露しています。なぜなら、神様は愛だからです。

9 神様は、かけがえのないひとり息子を、この不正な世に遣わし、その方の死によって、私たちに永遠のいのちを与えてくださいました。そのようにして、どんなに私たちを愛

しておられるかを、証明されたのです。 10 この神様の行為によって、私たちは、何がほんとうの愛か、知ることができました。 真の愛とは、神様に対する私たちの愛ではなく、私たちに対する神様の愛なのです。 それは、私たちの罪を責める自らの怒りをなだめるために、神様がひとり息子を差し出された愛に尽きるのです。

11 愛する友よ。 神様がこれほど愛してくださったのですから、私たちもまた、互いに愛し合おうではありませんか。 12 私たちは、これまで一度も神様を見たことがありません。 しかし、互いに愛し合う時、神様は、私たちの心の中に住んでくださり、心の中の神様の愛を、なおいっそう強めてくださるのです。 13 神様は、私たちの心に聖霊様を遣わしてくださいました。 そのことが、私たちが神様と共に生き、神様も私たちと共に歩んでくださる証拠です。 14 さらに私たちは、神様がひとり息子を世の救い主として遣わされたのを、この目で見、それを、いま全世界に伝えています。 15 イエス様を神の子と信じ、それをはっきり告白する人のうちには、神様が生きておられます。 そして、その人も神様と共に歩んでいると言えるのです。

16 私たちは、どんなに神様に愛されているか、知っています。 現に、神様の愛を身近に感じ、また、私たちを心から愛すると言われた神様を、信じているからです。 神様は愛です。 愛のうちに生きる人は神様と共に生きるものであり、神様もまた、その人のうちに生きておられるのです。 17 キリスト様と共に歩む時、私たちの愛は成長して、いっそう完全なものとなっていきます。 そうすれば、さばきの日に、恥じ入ったり、うろたえたりしないですみます。 それどころか、確信と喜びにあふれて、主の顔を見ることができるのです。 なぜなら、私たちは、キリスト様と愛で結ばれているからです。

18 私たちを心から愛してくださる方を、どうして恐れる必要があります。 もし恐れがあるなら、それは神様が私たちに何をなさるか、不安をいだいている証拠です。 神様の完全な愛は、そんな恐れを、すべて取り除きます。 恐れている人は、神様の愛をまだ十分理解していないのです。 19 これでわかるように、私たちが神様を愛せるのは、神様がまず愛してくださったからなのです。

20 もし「私は神様を愛しています」と言いながら、兄弟であるクリスチャンを憎み続ける人がいれば、その人はうそつきです。 目の前の兄弟を愛せない人が、どうして、見たこともない神様を愛せるでしょう。 21 ですから、神様を愛する者は、兄弟をも愛すべきです。 これは、神様が命じておられることです。

五

1 イエス様はキリスト、すなわち、神の子であり救い主であると信じるなら、その人は神様の子供です。 父なる神を愛する人はみな、神様の子供たちを愛するはず。 2 そういうわけで、あなたがたが、どれだけ神様を愛し、従っているかで、神様の子供たちをどれだけ愛しているかがわかるのです。 3 神様を愛するとは、そのご命令を守ることです。 決して、むずかしいことではありません。 4 神様の子供たちはみな、神様に従います。 そして、キリスト様に信頼することによって助けを受け、罪と悪との楽しみに、

打ち勝つことができるのです。

5 イエス様がほんとうに神の子であると信じる人以外に、この戦いに勝てる人はいません。

6 - 8 私たちは、イエス様が神の子であると知っています。なぜなら、イエス様がバプテスマ（洗礼）を受けられた時、また、死を目前にされた時、天からの神様の声が、そのことを証言したからです。さらに、永遠に真実であられる聖霊様も、そう証言しておられます。ですから、私たちには三つの証言があるわけです。すなわち、私たちの心の中で語られる聖霊様の声と、キリスト様がバプテスマを受けられた時の天からの声と、キリスト様の死の前に聞こえてきた声の、三つです。この三つが一致して、イエス・キリストは神の子である、と証言しているのです。9 私たちは、法廷での証人のことばを信じます。では、なおさら、神様のことばを確信できるはずです。神様自身がはっきりと、イエス様は神の子である、と宣言しておられるのですから。10 このことを信じる人はみな、心でそう確信しています。信じない人は、神様をうそつき呼ばわりしているのです。神の子についての神様の証言を、信じようとしなからず。

11 神様の言われたこととは、何でしょう。それは、神様が私たちに、永遠のいのちを与えてくださったこと、また、永遠のいのちが神の子のうちにあるということです。12

2 12 そういうわけで、神の子を信じる人には、いのちがあり、信じない人にはないのです。

13 すでに神の子を信じているあなたがたに、このように書き送るのは、あなたがたには永遠のいのちがあることを自覚させたいからです。14 私たちは、神様の心にかなうことを願い求めるなら、いつでもその願い事は聞き届けていただけると確信しています。15 ですから、願い事をする時に、確かに神様が耳を傾けてくださっているとわかれば、神様は必ずその祈りに答えてくださる、と確信できるのです。

16 もし、罪を犯しているクリスチャンを見かけたら、その人が赦していただけるよう、祈ってやりなさい。それが取り返しのつかない罪でなければ、神様は、彼のいのちを助けてくださいます。しかし、死に至る罪があります。そんな罪にはまり込んでいる人のためには、祈っても無意味です。17 もちろん、すべての悪が罪であることに違いはありません。しかし、私がここで取り上げているのは、いわゆる一般的な罪ではなく、死に至る罪のことです。

18 神様の家族の一員とされている人には、罪を犯す習慣はありません。神の子キリスト様に、しっかりと支えられているので、悪者は手出しできないのです。19 私たちは神様の子供ですが、周囲の世界は、悪魔の力の支配下にあることを、知っています。20 また、神の子キリスト様が来られたことで、私たちに真の神様を知る力が与えられたことも、知っています。ですから今、私たちは、ただ一人の真の神であり、永遠のいのちである神の子イエス・キリストのうちにいるのです。21 愛する子供たちよ。心の中に、神様にとって代わる何かがあるなら、すぐ取り除きなさい。

ヨハネ

・

1 教会の長老ヨハネから、神様を信じ、神様のものとなりきっている、愛する夫人キュリアと、その子供たちへ。 私は、あなたがたを心から愛しています。 そして、あなたがたは、教会員にも心から慕われています。 2 私たちの心のうちには、いつも真理が宿っているので、 3 父なる神とそのひとり息子イエス・キリストが、真実と愛と、測り知れないあわれみと平安とを注いで、私たちを祝福してくださるのです。

4 こちらにいるあなたの子供たちの中に、真理に従って歩み、神様の命令どおりに正しく生活している者がいるのを見て、非常にうれしく思っています。

5 そこで、キュリアよ。 もう一度、思い起こしてほしいことがあります。 それは、当初から与えられていた、「クリスチャンは互いに愛し合いなさい」という、神様の戒めです。

6 もし私たちがほんとうに神様を愛しているなら、その命令には喜んで従うはずです。 神様は最初から、互いに愛し合うように、と命じておられるのです。

7 偽教師があちこちに出現していますから、くれぐれも注意しなさい。 あの連中は、イエス・キリストが、私たちと同じ肉体を持った人間として世に来られたことを、信じないのです。 彼らは、真理にそむく者であり、キリスト様に敵対する者です。 8 彼らと同じ道をたどって、賞を得るためのこれまでの労苦が、水のあわとならないよう、くれぐれも注意しなさい。 あなたがたには、ぜひとも、主から十分な報いを受けてもらいたいのです。 9 キリスト様の教えからはずれて、それを守ろうとしない者は、神様をないがしろにしているのです。 しかし、キリスト様の教えに忠実な者は、真の意味で、父なる神とそのひとり息子とを理解していると言えます。

10 あなたがたを訪問する人の中で、まちがった教えを説こうとたくらんでいる連中を、絶対に迎え入れてはいけません。 まして、励ますようなまねは、いっさいやめなさい。

11 そんなことをすれば、自分から悪の仲間入りをするはめになるのです。

12 忠告したいことは、まだまだありますが、この手紙には書きますまい。 一日も早くそちらへ行って、直接これらのことについて語り合い、共に楽しい時を過ごしたいからです。

13 神様に選ばれているあなたの姉妹の子供たちから、よろしくとのことです。

ヨハネ

・

1 長老ヨハネから、愛するガイオへ。

2 ガイオよ。 私は、あなたがすべての点で榮え、たましいも体も健全であるように、と祈っています。 3 旅行の途中で、こちらに立ち寄ったクリスチャンが、あなたのうれしい消息を聞かせてくれたので、とても喜んでいます。 彼らは、あなたが、いつもきよく、真実にあふれ、神様の良い知らせにふさわしく生活している、と報告してくれました。 4 私の子供たちのことで、こんな知らせを聞くことほど、大きな喜びはありません。

5 ガイオよ。 あなたは、旅行中の教師や伝道者を、もてなしてくれているそうですね。さぞかし、神様はお喜びでしょう。 6 世話になった人たちが、こちらの教会に立ち寄って、あなたの友情と愛にあふれたもてなしについて、話してくれました。 あなたが物惜しみせず、心からもてなし、彼らを次の旅へ送り出してくれることは、私にとっても、たいへんうれしいことです。 7 それは主のための旅行であり、信者でない人々に、ひたすらこの良い知らせを伝えているのです。 そのために必要な食物も衣服も、泊まる所もお金も、信者でない人々から受け取るわけにはいきません。 8 ですから、私たちが協力して、そのめんどろを見るべきです。 そうすれば、いっしょに主の働きに参加していることになりますから。

9 この件について、私は教会あてに短い手紙を送っておきました。 ところが、自分を指導者として売り込もうとねらっている、高慢なデオテレペスが、私の権威を認めず、私の忠告を聞き入れようとしません。 10 今度そちらに行ったら、彼の行ないを指摘するつもりです。 そうすれば、彼がどんなにひどいことばで私を中傷しているか、わかるでしょう。 彼は、自分が、旅行中の伝道者を歓迎しないばかりか、ほかの人をも抱き込んで、そうさせないのです。 そして言うことを聞かない人々を、教会から追い出そうとしています。

11 ガイオよ。 デオテレペスのような悪い手本に影響されず、ひたすら、良い行ないをするよう心がけなさい。 正しいことを行なう人は、神様の子供であることを、自ら証明しており、いつも悪の道を歩む者は、神様から遠く離れていることを、自ら証明しているのです。 12 しかしデメテリオは、だれにも評判のよい人です。 真理そのものから高く評価されているのです。 私も彼を高く買っています。 私のことばに、うそはないことを、よくご存じのはずです。

13 言いたいことは山ほどありますが、今回は、これだけにします。 14 まもなくそちらで、あなたに会い、思う存分語り合うつもりですから。 15 では、ひとまず筆を置きます。 こちらの友人たちから、よろしくとのこと。 ご一同に、くれぐれもよろしくお伝えください。

ヨハネ

■

ユダの手紙（ユダからの手紙）

いろいろな人がキリストを信じるようになり、キリスト教がしだいに広まると、残念なことに、まちがった教えも語られるようになりました。 そのために、正しい信仰を捨てる人や、何を信じたらいいのかさえ、わからなくなる人も出るしまつです。 こうした状態を憂えて、ユダはこの手紙を書いたのです。 人々を指導する立場にありながら、かえって、人々の心を惑わすことばを語る者たちの誤りを、遠慮なく指摘し、正しい信仰を守り抜くよう勧めています。

1 イエス・キリストに仕えているヤコブの兄弟ユダから、各地のクリスチャンの皆さんへ。あなたがたは、神様に選ばれ、イエス・キリストに守られている人たちです。 2 どうか、神様の恵みと平安と愛とが、ますます豊かに与えられますように。

3 愛する皆さん。 私は前々から、神様が与えてくださった救いについて、幾つかのことを手紙で書き送りたいと願っていました。 ところが、今、それとは別のことを書き送らなければならなくなったのです。 それは、かつて、神様を信じるすべての者に与えられた真理のことばを守るために、勇敢に戦ってほしいということです。 4 こう言うのも、実は、神様を恐れない教師連中が、あなたがたの中に忍び込んで来たからです。 彼らの主張はこうです。 「クリスチャンとなったからには、もう神様のさばきなど、くよくよ考える必要はない。 何でも自由に、やりたいことをやればいい。」 こんな連中は、ずっと昔から、聖書に書かれているとおりの運命をたどるのです。彼らは、私たちのただ一人の支配者であり主である、イエス・キリストに、背を向けてしまったのです。

5 私の答えはこうです。 あなたがたには、とつくに、わかりきっていることですが、念のためにくり返します。——主は、イスラエルの全民衆をエジプトから救い出し、そのあとで、主に信頼せず従いもしなかった者を、一人残らず殺してしまわれた、という事実です。 6 また、もう一つ、心にとめてほしいことがあります。 それは、かつては汚れなく、きよい存在であったにもかかわらず、自ら墮落し、罪に落ちていった、あの御使いたちのことです。 神様は、そんな御使いを、審判の日まで鎖につなぎ、暗黒の牢獄に閉じ込めてしまわれました。 7 それからまた、ソドムとゴモラ、およびその周辺の町々に起こったことも、忘れてはなりません。 この町々は、同性愛など、あらゆる種類の肉欲でいっぱい、悪徳の町であり、そのため、刑罰の火で焼き滅ぼされたのです。 そしてこのことは、罪人を罰するための地獄が実在することを、後世の人々に知らせる警告となったのです。

8 それにもかかわらず、偽教師は臆面もなく、邪悪で不道德な生活にふけっています。 みだらな行為によって自分の肉体を汚し、上に立てられている権威ある者をあざ笑い、さらに、榮譽を受けた者をさえ、ばかにしているのです。 9 御使いとして最高の権威を持つミカエルでさえ、モーセの体について悪魔と言い争った時、あえて、悪魔をののしったり、あざけったりはせず、「主が、おまえを戒めてくださるように」と言っただけではありませ

んか。 10 それなのに、あの偽教師たちときたら、自分にもわからないことを、片っぱしからあざけったり、ののしったりしています。まるで動物のように、したいほうだいのことをして、自分のたましいを、永遠の滅びへと追いやっているのです。

11 災いが、彼らに下りますように。 弟殺しのカインと同じ道をたどっているからです。また、バラムと似て、金のためなら、どんなことでも平気でするからです。 彼らはコラのように、神様に従わず、そののろいを受けて死ぬのです。

12 こういう連中が、教会での愛の会食に加われば、大きな汚点を残します。 彼らは、他人のことなどおかまいなしに、大声で笑ったり、ふざけたりしながら、むさぼり食うのです。まるで、からからに乾ききった大地の上を、一滴の雨も降らせずに通り過ぎる、雲みたいです。 おおいに期待させるだけで、何の役にも立たないのです。 また、収穫の時期になっても、実一つつけない木に似ています。 その状態は、ただの死ではなく、二重の死を意味します。 彼らは、根こそぎ引き抜かれて、焼かれるしかないのですから。

13 彼らがあとに残すものと言え、海岸に打ち寄せる荒波が残していく、汚ないあぶくのような、恥と不名誉だけです。 彼らは、一見、夜空に輝く星のように見えますが、その行く手には、神様が用意された永遠の暗やみがあるだけです。

14 最初の人アダムとは近い年代に生きたエノクも、こういう連中のことを知っていて、「ごらんなさい。 主が幾百万の聖なる者と共に来られます。 15 主は、全世界の人を自分の前に立たせて、正当な刑罰を宣告されます。 その時、彼らの神様に対する恐るべき反逆行為の数々と、神様に刃向かうことばのいっさいが、明るみに出されるのです」と言っています。 16 このような連中は、いつも不平を言うだけで、決して満足しません。ただ欲望のままに、どんな悪事でも平気で行ない、大口をたたいて、自慢ばかりに明け暮れます。 もし、彼らが少しでも人を敬うとすれば、相手から何かをもらおうという魂胆がある時だけです。

17 愛する皆さん。 主イエス・キリストの使徒たちから教えられたことを、思い出さない。 18 つまり、終末の時代には、あざける者たちが現われるはずではありませんか。 彼らの生きがいは、思いつくかぎりの悪を行なうことです。 19 彼らはこの世の悪を愛し、人々をあおりたてて議論をしかけ、分裂させます。 彼らの心の中には、聖霊様が住んでおられないのです。

20 しかし、愛する皆さん。 あなたがたは、今のきよい信仰を土台として、自分の生活を、いっそうしっかりと打ち立てなければなりません。 そして、聖霊様の力と励ましを受けて、祈る習慣を身につけなさい。

21 いつも、神様の愛のうちにいなさい。 そうすれば、神様から祝福がいただけます。 主イエス・キリストが下さろうとしておられる永遠のいのちを、忍耐強く待ち望みなさい。

22 逆らって議論をしかけてくる人々を、あたたかく迎え、疑う人々に、心から同情しなさい。 23 ある人々を、地獄の火からつかみ出すようにして、救ってやりなさい。 あるいは、親切にして、人々が主を見いだすよう、助けてやりなさい。 ただし、彼らの罪

に引きずられてしまつては、元も子ありません。 罪人である彼らには同情しても、罪そのものは、たとい、粒ほどのものでも憎みなさい。

2425ただ一人の神様であられ、私たちを主イエス・キリストによって救つてくださる方に、すべての栄光がありますように。 偉大さと尊厳と、あらゆる力と権威とは、初めから神様のものです。 今も、これから後も、いついつまでも、神様のものです。 神様はまた、あなたがたを、つまずいたり、倒れたりしないように守り、罪のない完全な者とし、永遠の喜びの声をあげて、栄光に輝く神様の前に立てるようにしてくださるのです。 アーメン。

ユダ

■

この世の終わりに

聖書の最後は、迫害の渦中にあるクリスチャンへの慰めと、将来起こる出来事の予告とでしめくくられています。教会は、今はこの世の権力のもとで、多くの苦しみを味わわされることでしょう。しかし、やがて神様が世界をまったく新しくし、正義をもって、完全に支配なさる時がくるのです。その時を望み見て、どんな時にも絶望することなく、あくまで信仰を貫き、神様に忠実に生きるようにと励ましながら、輝かしい未来の約束を与えて、聖書は終わります。

ヨハネの黙示録（ヨハネの見た幻）

紀元一世紀の後半、クリスチャンは激しい迫害を受けていました。ヨハネも、教会の指導者ということで、地中海のパトモスという島に流されました。そこで神様が、これから起こることを幻の中で教えてくださったのです。今は、クリスチャンであるばかりに苦しい目に会わされていても、必ず報われる時が来る、悲しみも苦しみもない新しい世界ができる、と慰めてくださったのです。このことを、すべてのクリスチャンに知らせようと書かれたのが、本書です。

一

1 この書物は、イエス・キリストについて、すぐにも起ころうとする出来事を書いたものです。それらは、今までベールにおおわれていましたが、神様のお許しを得て、キリストが神様の召使ヨハネに、幻によって示したのです。その時、天から遣わされた御使いが、この幻の意味を説き明かしたので、2 ヨハネは、それを一つ残らず書きとめました。すなわち、神様とイエス・キリストのことばと、自分が見聞きした、すべてのことを書きとめたのです。

3 この預言のことばを教会で朗読する人と、それを聞いて、その内容に心をとめる人は、主から特別の祝福をいただきます。この預言が、もうすぐ実現しようとしているからです。

4 ヨハネから、
トルコにある七つの教会の、愛する皆さんへ。

今も昔も存在し、やがて来られる神様から、またその王座の前におられる七つの霊から、
5 さらに、私たちにすべての真理を忠実に示してくださる、イエス・キリストから、恵み
と平安とが、あなたがたに注がれますように。 このイエス・キリストは、死人の中から
最初に復活された方であり、二度と死ぬことのない方です。 この方は、地上のどの王よ
りもはるかに偉大で、私たちに変わらぬ愛を注ぎ、罪から解放するために、自分の血を流
してくださいました。 6 この方は私たちを、神の国の民として集め、父なる神に仕える
祭司としてくださいました。 イエス・キリストが永遠にほめたたえられますように。 そ
の支配は永遠に続きますように。 アーメン。

7 見なさい。 この方が、雲に乗っておいでになります。 すべての人の目が、特に、こ
の方を突き刺して殺した者たちの目が、この方に注がれるでしょう。 その時、人々はみ
な、恐れと悲しみのあまり、激しく泣きます。 うそではありません。 アーメン。 そ
のとおりになりますように。

8 今も昔も存在し、やがて来られる全能の主なる神が、こう言われます。 「わたしは、
あらゆることの初めであり、終わりである。」

9 この手紙を書いているのは、あなたがた同様、主のために苦しんでいる、兄弟ヨハネで
す。 私もまた、イエス様から忍耐することを教えられました。 そして、私たちは、イ
エス様の国に入る権利をいただいているのです。

ヨハネの見た幻

私は、神様のことばを宣べ伝え、また、イエス・キリストが成し遂げてくださったことを
告げ知らせたために、パトモス島に流されているのです。 10 さて、主の日のことでし
た。 私が礼拝をしていると、突然、うしろから大きな声が聞こえたのです。 まるでラ
ッパの響きのようで、 11 こう語りかけました。 「わたしは初めであり、終わりであ
る。 これからあなたの目に映ることを、一つ残らず書きとめ、トルコにあるエペソ、ス
ミルナ、ペルガモ、テアテラ、サルデス、フィラデルフィヤ、ラオデキヤの七つの教会に、
手紙を送りなさい。」

12 いったいだれだろう、とふり向くと、私のうしろに七つの金の燭台がありました。 1
3 そして、その燭台の真ん中に、一人の人が立っていました。 その方は「人の子」と呼
ばれるイエス様のようであり、長い衣をまとい、胸には金の帯を締めていました。 1
4 その髪は、羊毛か雪のように真っ白で、目は燃える炎のように、鋭く光っていました。
15 足は、みがきあげられた真鍮のように輝き、声は、海岸に押し寄せる大波のとどろき
のようでした。 16 この方は、右手に七つの星をつかみ、口には、切れ味のいい両刃の
剣をくわえ、顔は、澄みきった青空の太陽のように輝いていました。

17 18 それを見た時、その足もとに倒れて、私は死んだようになりました。 しかし彼
は、私に右手を置いて、こう言われたのです。 「恐れてはいけない。 わたしは初めで
あり、終わりです。 死んでのち復活し、今は永遠に生きる者となり、死と地獄とのかぎ
を持っています。 19 いま見たこと、また引き続き示されることを、書きとめなさい。

20 わたしの右手にある七つの星と、七つの金の燭台の意味を教えましょう。 七つの星は七つの教会の指導者たち、七つの燭台は七つの教会を指します。

二

1 エペソにある教会の指導者あてに、次のような手紙を送りなさい。

『各教会を巡り、右手で教会の指導者を支えておられる方が、こう言われます。

2 「わたしは、あなたの多くの良い行ないと、わたしのための労苦と忍耐とを、ずっと見てきました。 また、教会内の罪に目をつぶらず、使徒だと自称しながら、実はそうでない者のうそを注意深く調べて、見破った事実を知っています。 3 あなたはわたしのために、どんな時にも、じっと耐え、決してくじけませんでした。 4 しかし、一つだけ非難すべき点があります。 それは、あなたがわたしを、初めのころほど愛していないことです。 5 どうしてそうなったのか、胸に手を当てて考え、初めの愛に立ち返って、以前のように励みなさい。 さもないと、わたしは行って、あなたの燭台を、諸教会の中から取り除きます。

6 しかし、ほめるところもあります。 あなたが、わたしと同じように、ニコライ派の人々のみだらな行ないを、憎んでいることです。

7 聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げを、よく聞きなさい。 わたしは勝利を得る人に、神様のパラダイスにある、いのちの木の実を食べさせます。』

8 スミルナにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。

『この手紙は、初めであり、終わりであり、死んでのち、復活された方からのものです。

9 「わたしは、あなたが、主のためにどんなにひどい苦しみと貧しさに耐えてきたかを、知っています。 [しかし、実際は天の宝を得ているのです。] さらに、自分こそユダヤ人[神様に選ばれた者]だと主張する人々から、白い眼で見られ、非難されてきたことも知っています。 しかし、あの連中は悪魔の仲間であって、真のユダヤ人ではありません。

10 これから先、出会うことになる苦しみを、少しも恐れてはなりません。 悪魔は、信仰を試そうとして、まもなく、あなたがたのうちの何人かを、牢獄に投げ込むでしょう。そして、あなたがたは十日間、苦しむことになります。 しかし、たとい死に直面するようなことになっても、最後まで、わたしに忠実でありなさい。 そうすれば、いのちの冠[終わりのない栄光の未来]をあげましょう。 11 聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げを、よく聞きなさい。勝利を得る人は、決して第二の死によって危害を受けません。』

12 ペルガモにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。

『この手紙は、切れ味のいい両刃の剣をふるう方からのものです。

13 「わたしは、あなたを取り巻く環境をよく知っています。 そこには憎むべき悪魔の王座があり、悪魔礼拝が盛んです。 それでも、あなたはいつも、わたしに従順でした。わたしの忠実な証人アンテパスが、悪魔の弟子の手にかかって殉教した時も、あなたは、わたしを捨てませんでした。

14 かしなお、二、三の非難すべき点があります。教会の中で、バラムの信奉者を、見過ごしにしているではありませんか。バラムは昔バラクに入れ知恵し、イスラエルの民を性的な罪に巻き込み、偶像礼拝に走らせて、滅びに追いやろうとたくらみました。15 あなたの教会にも、そのバラムに従う者が巣くっています。

16 心と態度を改めなさい。さもないと、わたしはすぐにでも行って、口の剣で、彼らと戦うでしょう。

17 聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げを、よく聞きなさい。勝利を得る人は、天から下る秘密のマナを食べることができます。また、めいめいに白い石が与えられます。その石には、本人以外はだれも知らない、新しい名前が刻まれているのです。』

18 テアテラにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。

『この手紙は、燃える炎のような目と、真鍮のように輝く足を持つ、神の子からのものです。

19 「わたしは、あなたが貧しい人々に親切にし、物資を援助し、めんどうを見てやったことを知っています。また、あなたの愛と信仰と忍耐とを知っています。そして、これらの点で、たゆまず成長していることも、認めています。

20 かしなお、非難すべき点があります。あのイゼベルという女を放任しているではありませんか。女預言者だと自称しているあの女は、性的な罪など大した罪ではないと、クリスチャンをそそのかしています。しかもそう口にするだけでなく、実際にその罪を犯させ、また、偶像への供え物の肉を食べさせようとしているのです。21 わたしは、その考えと態度を改める機会を与えましたが、あの女は拒みました。22 さあ、今、わたしのことばに耳を傾けなさい。この女を、激痛を伴う病気にします。彼女の不道徳にならう者も全員、罪を悔い改めてわたしのもとへ戻らなければ、同じ目に会います。23 次に、この女の子供たちをも、打ちのめして殺します。こうしてすべての教会は、わたしが、人の心と思いの奥深くまで探ることを知なのです。わたしは一人一人に、それぞれの行ないに応じて報います。

24 テアテラの教会の中で、この誤った教え〔この教えの支持者たちは、これを「深い真理」と呼んでいますが、実際には悪魔の落とし穴です〕に、まだ毒されていない人々については、これ以上、何も問いただすつもりはありません。25 ただ、わたしが行くまで、いま手にしているものを、しっかり握りしめていなさい。

26 勝利を得る者、すなわち、最後までわたしを喜ばせてくれる者に、諸国民を支配する権威を与えます。27 父なる神から支配権をいただいたわたしにならって、あなたは、鉄の杖で人々を治めるのです。彼らは、砕けた陶器のように、粉みじんになるでしょう。

28 また、あなたに明けの明星を与えます。

29 聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げに、耳を傾けなさい。』

三

1 サルデスにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。

『この手紙は、神様の七つの霊と七つの星を持つ方からのものです。

「わたしは、あなたが、生き生きした活動的な教会だという評判とは裏腹に、実際には、死んだ状態にあることを知っています。 2 だから目を覚まさない。 残された一握りの者たちを力づけなさい。 死の一手手前まで来ている人たちをです。 あなたの今までに行ないは、どう見ても、神様の前に正しくありません。 3 最初に聞いたこと、また、信じたことを思い出しなさい。 それをしっかりと守って、もう一度、わたしに心を向けなさい。 さもないと、わたしはどろぼうのように、思いがけない時に、あなたを襲って、罰します。

4 しかしなお、サルデスの教会には、この世の汚れに衣を染めていない少数の人々がいます。 その人々は白い衣を着て、わたしと共に歩きます。 その資格があるからです。 5 勝利を得る人はみな、白い衣をまといます。 わたしは、その人の名をいのちの書から消し去りはせず、父と御使いの前で、彼らはわたしのものであると、はっきり宣言するでしょう。

6 聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げに、耳を傾けなさい。』

7 フィラデルフィヤにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。

『この手紙は、きよく真実な方、ダビデのかぎを持つ方からのものです。 この方が、そのかぎで開くと、だれも閉じることができず、閉じると、だれも開くことができません。

8 「わたしは、あなたをよく知っています。 あなたは、決して強くはありませんが、わたしの教えを守ろうと努力し、わたしの名を否定しませんでした。 それで、あなたの前に、だれも閉じることのできない門を、開いておきました。

9 とくと、ごらんなさい。 クリスチャンだと自称しながら〔実は、うそをついているのです〕、悪魔に味方する者を、わたしがどんな目に会わせるかを。 あなたの足もとにひれ伏させ、わたしのあなたに対する愛を、わからせてやります。

10 あなたは迫害にもめげず、じっと忍耐して、わたしの教えに従ってきました。 それで、いのちあるすべての人間を試すために、全世界に襲いかかる大きな悩みと試練の時に、わたしもあなたを守ります。 11 見なさい。 わたしはすぐに来ます。 いま手にしているわずかなものを、しっかりと握りしめていなさい。 自分の冠をだれにも奪われないためです。

12 わたしは、勝利を得る人を、わたしの神様の神殿の柱とします。 そこは安全で、もはや追い出されたりはしません。 わたしはその人に、神様の名を刻みます。 そして、神様の都、すなわち、天の神様のもともとから下って来る、新しいエルサレムの市民とします。 こうして、彼は、わたしの新しい名を刻まれるのです。

13 聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げに、耳を傾けなさい。』

14 ラオデキヤにある教会の指導者に、次のような手紙を送りなさい。

『この手紙は、確固として立つ方、忠実で、過去、現在、未来にわたって存在する万物の、真の証人である方、神様に造られたものの根源である方からのものです。

15「わたしは、あなたをよく知っています。 あなたは冷たくもなく熱くありません。むしろ、冷たいか熱いかの、どちらかであってほしいのです。 16しかし、なまぬるいだけなので、わたしは口から吐き出します。

17あなたは、『私は金持ちだ。 ほしいものは何でも手に入るし、もうこれ以上望むものはない』とうそぶいています。 しかし、そんなあなたが、霊的には、この上なくあわれで、みじめで、貧しくて、盲目で、おまけに裸同然であることに、気づいていないのです。

18忠告しておきます。 ほんとうの金持ちになるために、火で精錬された純金を、わたしから買いなさい。 また、裸の恥をさらさないために、しみ一つない清潔な白い衣を、わたしから買いなさい。 また、見えるようになるために、わたしから目薬を買いなさい。

19わたしは愛する者を絶えず訓練し、しかったり、懲らしめたりします。 ですから、もし、あなたが今の冷淡さを捨て、神様に対して熱心な態度をとらなければ、当然、わたしの罰を受けることになります。

20ごらんなさい。 わたしは戸の外で、しきりにたたいています。 その呼びかけにこたえて戸を開ける人なら、だれとでも、わたしは中に入って、親しく語り合います。 そして、お互いに楽しい時を過ごすのです。 21勝利を得る人を、わたしといっしょに王座につかせましょう。 ちょうど、わたしが勝利を得た時、父から、王座に共に座ることを許されたように。 22聞く耳のある人は、聖霊様の諸教会へのお告げに、耳を傾けなさい。」』

四

開かれた門

1それから、私が見ていると、天にある開かれた門が見えました。 すると、聞き覚えのある、あの大きなラッパの響きみたいな声が出て、こう語りかけました。 「さあ、ここに上って来なさい。 将来、必ず起こることを見せてあげましょう。」

2あつという間にわたしは、聖霊様によって天に引き上げられました。 そこで目にしたのは、王座とそこに座っておられる方でしたが、私はその栄光に圧倒されてしまいました。 3その方から、ダイヤモンドやルビーのようにきらめく光が、輝きわたっていました。 またエメラルドのように光る虹が、王座を取り巻いていました。 4王座の周りには二十四の座があり、二十四人の長老が座っていました。 全員が白い衣をまとい、金の冠をかぶっていました。 5王座からいなくと雷鳴が鳴りわたり、その中に、声も聞こえました。 王座の正面には、神様の七つの霊を意味する七つの明かりが、燃えさかっていました。 6その前に、きらきりと水晶のような海が広がり、王座の四方には、前後に目のついている生き物が四つ、立っていました。 7第一の生き物はライオンの姿で、第二の生き物は雄牛のように見えました。 第三の生き物の顔は人間のようでした。 第四の生き物は、大空に翼を広げたわしの姿をしていました。 8この四つの生き物は、それぞれ六つの翼を持ち、その翼にも、おびただしい目がついていました。 そして、昼も夜も、絶えずこう叫び続けているのです。「聖なる、聖なる、聖なる全能の神、主よ。 昔も、

今も存在し、やがて来られる方。」

9 これらの生き物が、王座にぎして永遠に生きておられる方に、栄光と誉れと感謝とをささげた時、 10 二十四人の長老はこの方の前にひれ伏して礼拝し、冠を王座の前に投げ出して賛美しました。 11 「おお主よ。 あなたは栄光と誉れと力とを受けるにふさわしい方です。 すべてのものをお望みどおりに造り、存在させておられるのですから。」

五

小羊と巻物

1 また私は、王座にぎす方の右手に、巻物が握られているのを見ました。 その巻物には、表にも裏にも文字があり、七つの封印で閉じてありました。 2 一人の力ある神様の御使いが、大きな声で、「この巻物の封印を破り、それを開く資格のある方は、どなたですか」と尋ねていました。 3 しかし、天にも地にも死人の中にも、だれ一人、その巻物を開いて読むことのできる者はいませんでした。

4 どこを捜しても、巻物を開くのにふさわしい人が見あたらないので、私は、がっかりして泣き出してしまいました。 巻物の内容を、教えてもらえないからです。

5 ところが、二十四人の長老の一人が、慰めてくれたのです。「泣くのはやめなさい。 ごらんなさい。 ユダ族から出たライオン、ダビデの根である方がおられます。 その方が勝利を得て、あの巻物を開き、七つの封印を破る資格を得られたのです。」

6 それから私は、二十四人の長老と王座と四つの生き物との間に、小羊が立っているのを見ました。 小羊には、かつて直接の死因となった傷跡がありました。 この方は、七つの角と七つの目を持っていました。 その目は、全世界に遣わされる神様の七つの霊です。

7 小羊は前に進み出て、王座にぎす方の右手から、巻物を受け取りました。 8 その時、四つの生き物と二十四人の長老は、小羊の前にひれ伏したのです。 彼らはそれぞれ、ハーブと香のたちこめる金の鉢とを手にしていました。 この香は、神様の民の祈りを意味します。

9 彼らは新しい歌を、高らかに歌っていました。 「あなたこそ、巻物を受け取って封印を破り、それを開くのにふさわしい方。 あなたは殺されましたが、その血によって、あらゆる民族の中から、神様のために、人々を買い取ってくださいました。 10 そして、その人々を神の国に集め、神様の祭司、地上の支配者とされました。」

11 それからまた、私は幻によって、王座と生き物と長老たちとの回りで歌う、幾千万もの御使いの声を聞きました。 12 彼らは大声で、「小羊こそ、ふさわしい方。 殺された小羊こそ、力と、富と、知恵と、強さと、誉れと、栄光と、祝福とを受けるにふさわしい方」と歌っていました。

13 それからまた、私は、天地のすべての者、地下や海中に眠る死者全員の叫び声を聞きました。 「祝福と誉れと栄光と力とが、王座にぎす方と小羊とに、永遠にありますように。」 14 すると、四つの生き物は「アーメン」と言い、二十四人の長老はひれ伏して礼拝しました。

六

馬の幻

1 さらに見ていると、小羊は第一の封印を破って、巻物を開き始めました。すると、四つの生き物の一つが、雷のようにとどろく声で「来なさい」と呼びました。

2 目をこらしていると、一頭の白い馬が現われました。馬上の人は、弓を持ち、冠をかぶっていました。そして、次々と勝利を収めながら、なお勝利を求めて、出て行きました。

3 それから、小羊は第二の封印を破り、巻物を開きました。すると、第二の生き物が「来なさい」と呼ぶのが聞こえました。

4 次に現われたのは、赤い馬です。その馬上の人には、長い剣と、平和を奪って地上に混乱を招く権威が与えられました。こうして、戦争と殺害が各地で勃発しました。

5 小羊が第三の封印を破った時、第三の生き物が「来なさい」と呼ぶのを聞きました。すると、黒い馬が現われました。その馬にまたがる人は、秤を手にしていました。6すると、四つの生き物の間から、こんな声が聞こえました。「パン一個も、大麦一キロも六千円。オリーブ油もぶどう酒もない。」

7 第四の封印が破られた時、第四の生き物が「来なさい」と呼ぶのを聞きました。8今度は、青ざめた馬が姿を現わしました。その馬にまたがる人の名は死でした。そのあとに、地獄という名の人の乗っている馬が続きました。彼らには、戦争とききんと伝染病と獣とによって、地上の人々の四分の一を殺す権威が与えられました。

9 小羊が第五の封印を破った時、私は祭壇を見ました。そしてその祭壇の下に、神様のことばを伝え、自分たちの証言に忠実であったために殉教した人全員の、たましいが見えました。10彼らは大声で、主に、こう叫んでいました。「おお、きよく、真実で、絶対者なる主よ。地上の人々のひどい仕打ちを、さばいては、くださらないのですか。いったいいつ、私たちの血の復讐をしてくさるのですか。」11すると、その一人一人に白い衣が与えられ、こう言い渡されました。「もうしばらく休むがよい。まだ、お前たち同様、殉教する者が、イエスに仕える同胞の中から出るからだ。」

12 小羊が第六の封印を破るのを見ていると、突然、大地震が起こりました。太陽は黒布でおおわれたように暗くなり、月は血のように赤く変わりました。13そして、星が地上に落ちたのです。まるで、いちじくの青い実が、大風にバラバラと振り落とされるようでした。14星をちりばめていた天は、巻物が巻き取られるように消え去り、すべての山や島は、激しい揺れのために、あちこちへその場所を変えました。15地上の王、指導者、金持ち、将軍、身分の高い人も低い人も、奴隷も自由人も、人々はこぞって、ほら穴や山の岩陰に身を隠し、16山々に向かって、大声で叫びました。「私たちの上に倒れかけ！王座にぎしておられる方の顔から、小羊の怒りから、私たちを隠してくれ。17神様と小羊の怒りの日がついに来たのだ。だれがそれに耐えられよう。」

七

神様に選ばれた人

1 それから私は、四人の御使いが地の四すみに立っているのを見ました。 彼らは、四方からの風をしっかりと押さえていたので、木の葉一枚そよがず、海面は鏡のようになめらかになりました。 2 次に、もう一人の御使いが、生ける神の大きな印を持って、東から来るのが見えました。 彼は、地と海とを破壊する権限を与えられた四人の御使いに、大声でこう叫びました。 3 「お待ちなさい。 私たちが、神様に仕える人々の額に神様のしるしをつけ終わるまでは、手出しをしてはなりません。 地にも海にも木にも、害を加えてはいけません。」

4 - 8 それから私が、「いったい、何人の人に、神様のしるしはつけられたのでしょうか」と尋ねると、「十四万四千人」という答えが返ってきました。 その人々は、イスラエルの全十二部族から選ばれていました。 内訳は次のとおりです。

ユダの部族一万二千人

ルベンの部族一万二千人

ガドの部族一万二千人

アセルの部族一万二千人

ナフタリの部族一万二千人

マナセの部族一万二千人

シメオンの部族一万二千人

レビの部族一万二千人

イッサカルの部族一万二千人

ゼブルンの部族一万二千人

ヨセフの部族一万二千人

ベニヤミンの部族一万二千人

9 その後、私の目には、おびたしい群衆が映りました。 あらゆる国民、民族、言語の人々で、とても数えきれたものではありません。 彼らは白い衣をまとい、しゅろの枝を手にして、王座と小羊との前に立っていました。 10 そして、声を張り上げ、「救いは、王座にぎしておられる神様と、小羊とから来ます」と叫んでいました。

11 御使いはみな、王座と長老、それに四つの生き物の回りに集まり、ひれ伏して神様を礼拝してから、 12 こう言いました。「アーメン。 祝福と、栄光と、知恵と、感謝と、誉れと、力と、勢いとが、永遠に神様にありますように。 アーメン。」

13 その時、二十四人の長老の一人が、私に尋ねました。 「この白い衣の人たちがだれだか、わかりますか。 どこから来たか知っていますか。」

14 「わかりません。 どうか教えてください」と答えると、こんな答えが返ってきました。 「あの人たちは、激しい迫害をくぐり抜け、小羊の血でその衣を洗って、白くした人たちです。 15 だから、こうして神様の王座の前において、昼も夜も、神殿で奉仕しているのです。 そして、王座にぎしておられる方によって、安全にかくまわれています。」

16 もう二度と飢えることがなく、また渴くこともありません。 彼らは灼熱の太陽からも、完全に守られているのです。 17 それは、王座の正面に立たれる小羊が、羊飼いと
して彼らを養い、いのちの水の泉に導いてくださるからです。 また神様は、彼らの目か
ら、あふれる涙を、すっかり、ぬぐい取ってくださるのです。」

八

1 小羊が第七の封印を破った時、天に、およそ半時間ほどの静けさがありました。 2 そ
れから私は、神様の前に立つ七人の御使いを見ました。 その御使いに七つのラッパが与
えられました。

襲いかかる災い

3 すると、金の香炉を手にした、もう一人の御使いが現われて、祭壇のそばに立ちました。
彼に多量の香が与えられましたが、それは、クリスチャンの祈りと共に、王座の前にある
金の祭壇にささげるためのものでした。 4 香のかおりは、クリスチャンの祈りと混じり
合って、祭壇から、神様の前に立ちのぼりました。

5 それから御使いは、その香炉に、祭壇から取った火をいっぱい盛って、それを地に投
げつけました。 そのとたん、雷鳴がとどろき、いなずまが走り、激しい地震が起こった
のです。

6 すぐさま、七つのラッパを手にした七人の御使いが、ラッパを口に当てました。

7 第一の御使いがラッパを吹き鳴らしました。 すると、血の混じった雹と火が、すごい
勢いで地上に突き刺さりました。 そのため、地上の三分の一が火に包まれ、木の三分の
一と、青草がすべて灰になりました。

8 9 第二の御使いがラッパを吹き鳴らしました。 すると、炎に包まれた巨大な山のような
ものが、海に投げ込まれました。 そのため、船の三分の一が破壊され、また、海の三
分の一が血のように赤く染まって、魚の三分の一が死にました。

10 第三の御使いがラッパを吹き鳴らしました。 すると、燃えさかるたいまつのような
大きな星が、天から落ちて来て、川と泉の三分の一に、ばらまかれました。 11 この星
は「苦よもぎ」と呼ばれました。 川の水の三分の一が苦よもぎのように苦くなり、その
水を飲んだ人が大ぜい死んだからです。

12 第四の御使いがラッパを吹き鳴らしました。 するとたちまち、太陽の三分の一と、
月の三分の一と、星の三分の一が、打たれて暗くなりました。 そのため、昼間は三分の
二の明るさしかなく、夜もいっそう暗くなりました。 13 また見ていると、一羽のわし
が大空高く舞いながら、鋭い叫び声をあげていました。「ああ、災いが来る。 災いが地上
の人々に襲いかかる。 あと三人の御使いがラッパを吹き鳴らせば、恐るべきことが起こ
るのだ。」

九

底なしの穴

1 第五の御使いがラッパを吹き鳴らしました。 すると、私は、天から地上に落ちて来る、

一人の人を見ました。その人には、底なしの穴を開くかぎが与えられていました。2 彼が底なしの穴を開くと、大きな炉から立ちのぼるような煙が、吹き上げました。そのため、太陽も空も、黒ずんでしまいました。

3すると、煙の中からいなごが飛び出し、地上を駆け巡りました。そのいなごには、さそりのように人を刺す力が与えられていました。4いなごは、草や木には見向きもしないで、ただ、額に神様のしるしのない人々にだけ害を加えよと、命令されていたのです。

5しかし、人間を殺すことは禁じられ、ただ、さそりに刺されたと同じ、激しい痛みで苦しめることが、五か月間だけ許されていました。6その間、人々は苦しさのあまり自殺をはかりますが、どうしても死にきれません。どんなに死にたいと願っても、死は逃げて行くのです。

7このいなごは、まるで、戦闘の構えが整った馬のような姿をしていました。頭には金の冠をかぶり、顔は人間そっくりでした。8毛は女の髪のように長く、鋭いライオンのような歯をむき出していました。9また、鉄製の胸当てのようなものを着け、その羽音は、戦場になだれ込む戦車隊の響きを思わせました。10また、さそりのように鋭く刺す尾には、五か月のあいだ人々を激痛で苦しめる力がありました。11彼らの王は、底なしの穴の支配者で、その名をヘブル語でアバドン(破壊)、ギリシヤ語でアポリュオン(破壊者)と呼ばれていました。

12第一の災いは過ぎ去りました。しかし、あと二つの災いが待っているのです。

四人の悪霊

13第六の御使いがラッパを吹き鳴らしました。すると、神様の王座の前にある金の祭壇の四すみから、声が響いてきました。14その声が、第六の御使いに命じました。「大ユーフラテス川のほとりにつながれている、四人の強い悪霊を解き放ちなさい。」15この悪霊は、定められた年、月、日、時が来るまで、つながれていたのです。そして今や、人類の三分の一を殺すため、解き放たれたのです。16彼らは、総勢二億もの大軍団を率いていました。私はその数を聞きました。

1718私は幻の中で、彼らが馬に乗って出て来る有様を見ました。兵士たちの胸当ては、火のような赤色や、空色や、黄色でした。馬の頭は、ライオンの頭そっくりで、その口から吐き出される煙と火と燃える硫黄とで、人類の三分の一は殺されてしまいました。

19人間を殺す武器は、その口だけでなく、尾にもありました。尾は蛇の頭に似ており、それで打たれると、人間は致命傷を負うのです。

20しかし、これらの災害にも生き残った人々は、それでもなお、神様を礼拝しようとはしませんでした。相変わらず悪霊礼拝を続け、金、銀、銅、石、木で作られた偶像を捨てませんでした。これらの偶像は、見ることも、聞くことも、歩くこともできないものです。21また彼らは、殺人、魔術、不道德、盗みに対する考えと態度を、改めようとはしませんでした。

秘密の計画

1 それから、もう一人の強い御使いが、雲に包まれ、天から下って来ました。その頭上には虹がかかり、顔は太陽のように輝き、足は火のように光っていました。2 彼は開かれた小さな巻物を持っていました。そして、右足を海上に、左足を陸上に置き、3 大声で叫びました。それはライオンのほえる声そっくりでした。すると、答えるかのように、七つの雷が私の耳をつんざいたのです。

4 私は、雷のことばを書きとめようとしたのですが、天からの声に、押しとどめられました。「書きとめてはいけない。公表すべきものではないのだから。」

5 それから、海と陸地にまたがる強い御使いは、右手を高く天にさしのべ、6 天とその中のすべてのもの、地とそれに満ちるすべてのもの、海とその中に住むすべてのものを造られた、永遠に生きておられる神様を指して誓いました。「もうこれ以上、延期されません。7 いよいよ、第七の御使いがラッパを吹き鳴らす時、神様に仕える預言者に告げ知らせてからこのかた、ずっと秘密にされていた神様の特別の計画が、ついに実行に移されるのです。」

8 すると、再び天からの声が、こう語りかけました。「さあ行って、海と陸地にまたがる強い御使いから、開かれた巻物を受け取りなさい。」

9 そこで私は、その御使いに近寄って、「巻物をいただきたいのです」と頼みました。すると彼は、「よろしい。さあ、この巻物を取って食べなさい。初めは蜜のように甘いのですが、飲み下すと、腹の中で苦くなります」と答えました。10 そこで私は、巻物を受け取って食べました。すると言われたとおり、口の中では甘かったのに、飲み下すと苦くなり、腹が痛くなりました。

11 すると、彼はこう言いました。「あなたは、多くの人々、国民、民族、王について、もっと預言しなければなりません。」

――

預言者殺害

1 そして私は、杖のような物差しを手渡されたのです。それで神様の神殿と祭壇のある内庭を測り、また、そこで礼拝している人の数を調べるように、と命令されました。2 さらに、こう注意されました。「神殿の外庭は測る必要はありません。そこは、外国人に任せられるからです。彼らは四十二か月の間、この聖なる都を踏みにじって荒らします。3 それからわたしは、二人の証人を任命し、特別な力を授けて、荒布を着たまま、千二百六十日間、預言させます。」

4 この二人の預言者とは、全地の神様の前にある、二本のオリーブの木、また二つの燭台のことです。5 もし彼らに害を加えようとする者があれば、彼らの口から吹き出した火で、焼き滅ぼされてしまいます。

6 彼らは、その三年半の預言のあいだ中、大空を閉じて雨を降らせない力を与えられます。また、川や海を血に変えたり、思いのままに何度でも、あらゆる災害を地上に下す力も持

っています。

7しかし、三年半にわたる証言の期間が終わると、底なしの穴から出て来る独裁者の挑戦を受け、殺されることになります。 89その死体は、三日半、都エルサレムの大通りにさらしものにされます。〔この都は、あのいまわしい「ソドム」や「エジプト」と、並び称される所です。〕またここは、主が十字架につけられて殺された所でもあります。さて、彼らの死体を葬る人など一人も出ず、諸国からエルサレムを訪れた人々が、そのむくろに群がって見物します。 10彼らが殺されたことで、世界中が喜び、その日を記念して、プレゼントの交換や、パーティーが行なわれるでしょう。なぜなら、この二人の預言者によって、非常に痛めつけられたからです。

11ところが、どうでしょう。 三日半たって、神様からのいのちの霊が、その二つの死体に入ると、彼らは立ち上がるのです。 それを見て、すべての人が恐怖におののきます。

12その時、天から「のぼって来なさい」という大きな声が響くのです。すると二人の預言者は、敵の目の前で雲に包まれ、天にのぼって行きました。

13ちょうどその時刻に、恐ろしい地震が起こって、都の十分の一の建物がこわれ、死者は、七千人にのぼります。生き残った人も、恐怖に打ちひしがれて、天の神様をあがめるようになるのです。

14第二の災いが過ぎ去りました。しかし、第三の災いが待ちかまえています。

15第七の御使いがラッパを吹き鳴らすと、天から大きな声が響きました。「世界はすべて、主とキリスト様の手に渡った。主は永遠に支配者である。」

16すると、神様の前の席にいた二十四人の長老が、地にひれ伏して礼拝し、声をそろえて、神様を賛美しました。 17「今も、昔も存在される全能の神、主に、心から感謝します。あなたが、偉大な力を発揮して、世界を支配する王となられたからです。 18諸国の民はあなたに怒りを燃やしましたが、今度は、あなたの怒りが下される番です。今や、地を滅ぼす原因となった人々が、滅ぼされる時が来たのです。死人がさばかれ、あなたに忠実に仕えた者が報いを受ける時です。預言者も、一般の人々も、すべてあなたの名をほめたたえる者は、小さい者も大きい者も、あなたから報いを受けるのです。」

19その時、天にある神様の神殿が開け放たれ、中に契約の箱が見えました。 いなずまが走り、雷鳴がとどろき、大粒の雹が降って、全世界は大地震で揺れ動きました。

・

一二

女とその子

1また、やがて何かが起こることを暗示する、大きなしるしが天に描き出されました。 一人の女が太陽をまとい、月を踏みつけ、十二の星の冠をかぶっている姿が見えました。 2この女は妊娠していましたが、出産を間近に控え、陣痛の苦しみに、大声でうめいていました。

3すると、突然、巨大な赤い竜が現われました。 七つの頭と十本の角を持ち、七つの冠

をかぶっていました。 4そして、しっぽで、天の星の三分の一を払い落とし、地上にばらまきました。 また、子供を産もうとしている女の前に立ちはだかり、生まれおちた子を、すぐに食べようと、待ちかまえていました。 5女は男の子を産みました。 将来、その子は強大な権力を握り、すべての国の王になると約束されていました。 その子は神様のそばの王座へ引き上げられ、6女は荒野に逃げのびました。 そこには、神様の用意された場所があり、彼女は千二百六十日の間、かくまわれたのです。

7やがて、天で戦争が始まりました。 ミカエルと部下の御使いたちは、竜とその手下の墮落した御使いたち相手に戦いました。 8とうとう竜は敗れ、天から追放されることになりました。 9こうして、この巨大な竜、悪魔とかサタンとか呼ばれ、全世界をだまし続けてきた、古い大蛇は、手下もろとも、地上に投げ落とされてしまったのです。

10そのとき私は、天のすみずみにとどろき渡る、大声を聞きました。 「ついに時が来た。 神様の救いと力と支配と、キリスト様の権威とが、完全に現わされる時が来た。 クリスマスを、昼となく夜となく、神様の前で非難してきた者が、地上に投げ落とされたから。 11クリスマスは、小羊の血と自らの証言によって、打ち勝った。 いのちを惜みず、小羊のために投げ出したのである。 12天よ、喜べ。 天に住む者よ、喜べ。 しかし、地上の人々には災いがのぞむ。 悪魔が、自分の時の残り少ないことを知って、怒りに燃え、あなたがたのところに下って行ったからだ。」

13竜は、自分が地上に投げ落とされたことに気づくと、男の子を産んだ女を追いかけました。 14しかし女は、大わしのような翼を二つ与えられ、荒野へ飛んで行きました。 そこには、彼女のために場所が用意されており、そこで三年半の間、竜である大蛇を避けて、安全に暮らすことができるのです。

15ところが、大蛇は水を洪水のように吐き出し、女を殺そうと迫りました。 16しかし、大地は口を大きく開けて水を飲み干し、危機一髪で女を助けたのです。 17怒り狂った竜は、今度は女の子孫の生存者、すなわち神様のおきてを守り、自分はイエス様に属する者だと、はっきり告白した者たちに、攻撃のほこ先を向けました。 18そして、海辺の砂の上で、待ちかまえていました。

一三

竜の奇蹟

1私は幻の中で、今度は海の中から、一匹の不思議な獣がはい上がって来るのを見ました。 その獣には七つの頭と十本の角があり、角には十の冠がついています。 そして、それぞれの頭には、神様を汚し、あざける名前が書いてありました。 2その姿はひょうに似ていましたが、足は熊、口はライオンのものでした。 竜はこの獣に、自分の力と地位と大きな権威とを授けました。

3私は、獣の七つの頭のうちの 하나가、回復の見込みがないほど傷ついているのに気がつきました。 ところが、その致命傷が治ったではありませんか。 すると、世界中の人が、この奇蹟に驚き、獣に従うようになったのです。 4そして、その獣を礼拝するばかりか、

そんな不思議な力を授けた竜をも拝み始めました。彼らは大声で、「これほど偉大な方を見たことがない。この方にたち打ちできる者などいないだろう」と、喝采を送りました。5それから、竜は獣に、主をののしるようにけしかけ、四十二か月間、地上を思うままに支配する権威を与えました。6そこで獣は、そのあいだ中、神様の名と神殿、および天に住むすべての人を、ののしり続けました。7竜はまた、獣に、クリスチャンを向こうに回して打ち勝つ力を与えました。さらに、世界のあらゆる人々を支配する権威も授けました。8殺された小羊のいのちの書に、世の初めから名前が書き込まれていない人々は、こぞって、この悪い獣を礼拝しました。

9聞く耳のある人は、よく聞きなさい。10クリスチャンの中で、投獄される運命にある人は、逮捕され、連行されるでしょう。また、死ぬように定められている人は、殺されます。しかし何があろうと、あわててはいけません。こんな時こそ、あなたがたの忍耐と信仰が、試されるからです。

11さて、私の目に、もう一匹、奇怪な獣が地からのぼって来る姿が映りました。小羊のように二本の小さな角をつけていましたが、その声は、竜のようにすごみを帯びていました。12この獣は、あの致命傷が治った獣の権威をそっくり行使して、全世界の人に、むりやり、その獣を礼拝させました。13また、多くの人の目の前で、燃える火を天から降らせるといった不思議な奇蹟を行ない、あつと言わせたりしました。14こうして、地上のすべての人々をだましたのです。このような不思議なわざができたのは、最初の獣のうしろだてがあったからです。それでこの獣は、全世界の人々に、致命傷を負いながらも生き返った、最初の獣の大きな像を作れ、と命令しました。15出来上がった像に、この獣が息を吹き込むと、像は、しゃべることさえ、できるようになりました。するとその像は、自分を拝まない者は一人残らず殺してしまえ、と命令しました。

16また獣は、大きい者にも小さい者にも、金持ちにも貧乏人にも、奴隷にも自由人にも、片っぱしから右手か額に、いれずみを彫らせました。17つまり、獣の名か、あるいは、その名を意味する数字を彫らせ、そのマークがなければ、仕事につくことも、店で買物をすることも、できないようにしたのです。18これは、細心の注意をはらって解くべきなぞです。この数字の意味を解ける人は、解いてごらんなさい。獣の名前の文字を数字になおすと、六百六十六になるのです。

一四

新しい歌

1それから私は、エルサレムのシオンの山の頂に立っている、小羊の姿を見ました。また、そのそばに、額に小羊と小羊の父の名とが刻まれている、十四万四千人がいるのを見たのです。2そのとき私は、滝のとどろきか激しい雷鳴のような、天からの音を耳にしました。ハーブに合わせて歌う大合唱でした。

3それは、十四万四千人の大合唱であり、彼らは神様の王座と、四つの生き物および二十四人の長老の前で、今まで聞いたこともない、すばらしい新しい歌をうたいました。地

上から救い出された、この十四万四千人を除いて、だれも、その合唱に加われませんでした。4 彼らは童貞で、汚れを知らず、小羊のあとを、どこまでもついて行くのです。神様と小羊とにささげるきよい供え物として、地上の人々の中から買い取られた者なのです。5 彼らは、非難されるような偽りを口にしません。少しも、とがめられない人々なのです。

6 また私は、もう一人の御使いが天を飛ぶ姿を見ました。それは、地上のあらゆる民族、部族、国語の人々に、永遠の、すばらしい知らせを運ぶところでした。

7 彼は大声で叫びました。「神様を恐れ、その偉大さをほめたたえなさい。神様が裁判官として、審判の座に着かれる時が来たのだ。天と、地と、海と、その源を造られた方を礼拝しなさい。」

8 次に、もう一人の御使いが天を飛んで来て、こう言いました。「大いなる都、バビロンが倒れた。世界中の人々を惑わして、不純な行為と罪とのぶどう酒を飲ませた報いだ。」

9 続いて第三の御使いが飛んで来て、大声で叫びました。「海から上がって来た獣と、その像を拝み、額か手にいれずみを彫った者よ。10 あなたがたは一人残らず、神様の怒りの杯にあふれるぶどう酒を、飲まなければならない。それも、水で割らないものを。そして、聖なる御使いと小羊との前で、火と、燃える硫黄とで苦しめられるのだ。11 その苦しみの煙は、昼も夜も、ひと息入れるひまもなく永遠に立ちのぼる。獣とその像とを拝み、獣の名のいれずみをしたからだ。12 このことによって励まされ、神様の民が、襲いかかるどんな試みや迫害にも、耐えるように。彼らは、最後までしっかりと神様の戒めを守り、イエス様に信頼するクリスチャンだから。」

13 また私は、頭上で、次のように語る天からの声を聞きました。「さあ、書きとめなさい。主のために殉教した人々が、その報酬を受ける時が、ついに来たのです。聖霊様は言われます。『そのとおり。彼らには十分な祝福が注がれる。今こそ、いっさいの労苦と試みから解放されて休む時なのだ。その良い行ないが、彼らといっしょに天まで立ちのぼるから。』」14 その時、急にあたりの様子が変わって、白い雲がわき上がり、その雲に乗ったお方が見えました。イエス様のようにでした。その方は「人の子」と呼ばれ、純金の冠をかぶり、よく切れるかまを手にしていました。

さばきの時は来た！

15 そこへ、もう一人の御使いが神殿から現われ、その方に叫びました。「どうぞ、かまで刈り取りをお始めください。地上の穀物は実って、刈り入れを待っています。」16

そこで、雲に乗っておられる方が、かまを入れ始めると、刈り取られたものは一個所に集められました。17 そのあと、もう一人の御使いが天の神殿から出て来ました。彼もまた、鋭いかまを持っていました。

18 同時に、火で世界を滅ぼす権威を授かっている御使いが現われて、かまを持った御使いに、大声で叫びました。「さあ、そのかまで、地上のぶどう畑から実を刈り集めなさい。もう十分に熟して、さばかれる時を待っている。」19 そこで御使いは、言われた

とおりにかまを入れ、ぶどうを刈り集めて、神様の怒りの大きな酒ぶねに投げ込みました。
20 酒ぶねの中のぶどうは、都の郊外で踏まれました。すると、酒ぶねからあふれ出た
血は、三百二十キロもの流れになり、その深さは、馬のくつわに届くほどでした。

一五

モーセと小羊の歌

1 また私は、天に、これからの出来事を暗示する、もう一つの巨大なしるしを見ました。
最後の七つの災害を地上に下す任務が、七人の御使いに与えられたのです。こうして、
ついに神様の怒りが頂点に達しました。

2 目の前に、火とガラスの海のようなものが広がっていました。そのほとりには、あの悪い
獣とその像、またその数字のいれずみとに打ち勝った、すべての人が立っていました。
彼らはみな神様のハープを手にして、34 神様に仕えたモーセの歌と小羊の歌とをうた
っていました。

「全能の神、主よ。
目を見張るべきものは、
あなたの偉大なみわざです。
世々生きておられる永遠の王よ。
ただ、あなたの道だけが
正しく真実なのです。
ああ、主よ。
あなたを恐れず、
その名をほめたたえない者は、一人もおりません。
ただ、あなただけがきよいお方です。
すべての国々の民は来て、
あなたを礼拝します。
あなたの正しさが、
明らかにされたからです。」

5 それから、さらに見ていると、天にある神殿の聖所が大きく開かれました。
6 七つの災害を地上に下すよう任命された七人の御使いが、その聖所から姿を現わしまし
た。彼らは、しみも傷もない、真っ白な亜麻布の衣服をまとい、胸には金の帯を締めて
いました。7 それから、四つの生き物の一つが、永遠に生きておられる神様の、激しい
怒りで満ちた金の鉢を、七人の御使いに、一つずつ手渡しました。8 聖所には、神様の
栄光と力とから立ちのぼる煙が一面に漂い、七人の御使いが七つの災害を下し終えるまで、
だれも、そこに入ることが許されませんでした。

一六

七人の御使い

1 また私は、神殿から大きな声が、七人の御使いに呼びかけるのを聞きました。「さあ、

出かけて行って、神様の怒りで満ちた七つの鉢を、地上にぶちまけなさい。」

2そこで、第一の御使いが神殿から出て行き、鉢を地上にぶちまけました。すると、獣のいれずみをして、その像を拝む者全員に、恐ろしい悪性のはれものができました。

3第二の御使いが鉢を海にぶちまけると、海は死人の血のようになり、海中のすべての生物が死に絶えました。

4第三の御使いは、鉢を川と泉にぶちまけました。すると、水はたちまち血に変わりました。5私は、水を支配している御使いのことばを聞きました。「今も昔も存在される聖なる方。あなたの、このようなさばきは、ほんとうに正しいものです。6あなたのきよい民や預言者は、殉教を遂げ、この地上に血を流しました。今度はあなたが、彼らを殺した者たちの血をしたたらせる番です。これは、当然の報いなのです。」

7また私は、祭壇の御使いの、こんな声を聞きました。「全能の神、主よ。あなたのさばきは正しく、真実です。」

8次に、第四の御使いが、鉢を太陽にぶちまけました。すると、太陽は、すべての人を火で焼く力を得ました。9人々は、その激しい炎熱に焼かれながらも、なおその心や態度を改めて、神様の栄光を恐れようとはせず、かえって、災害を与えた神様の名をのろいました。

10それから、第五の御使いは、海からはい上がった獣の王座に鉢をぶちまけました。すると、獣の国は暗やみでおおわれ、その民は苦しみのあまり、舌をかみ切って自殺をはかりました。11そして、苦痛とはれものとのために、天の神様をのろいましたが、自分の悪い行ないを悔い改める気は、さらさらありませんでした。

12第六の御使いは、鉢を大ユーフラテス川にぶちまけました。すると、川の水がすっかり干上がり、東方の王がいつでも軍隊を率いて、西方に攻め入る道ができました。13また私は、竜と獣と偽預言者の口から、かえるに似た三つの悪霊が飛び出すのを見ました。14この奇蹟を行なう力を持った悪霊たちは、全世界の支配者に相談をもちかけました。迫っている全能の神様の恐ろしい審判の日に備えて、一丸となって主と戦おう、とけしかけるためです。

15「用心していなさい。わたしはどろぼうのように、思いがけない時に来ます。目を覚まして待っている人は幸いです。そのような人は、着物をきちんと着ているので、裸で外を歩くような恥はかきません。」

16こうして彼らは、ヘブル語でハルマゲドン〔メギドの山〕と呼ばれる場所の近くに、世界の全軍隊を結集させました。

17次に、第七の御使いが、鉢を空中にぶちまけました。すると、「すべてが終わった」という大きな声が、天の神殿の王座から響き渡りました。18すると、雷鳴がとどろき、いわずが走り、史上最大の大地震が発生しました。19大いなる都「バビロン」は三つに裂け、世界各地の都市もすべて破壊されて、瓦礫の山と化しました。「バビロン」の罪を、神様は一つ残らずご存じであり、そのために、「バビロン」は神様の激しい怒りの

ぶどう酒のあふれる杯を、最後の一滴まで飲み干す罰を受けたのです。 20 島々は消え去り、山々は平地に変わりました。 21 また、なんと三十五キロもの重さの雹が降って、多くの被害が出、人々は、この恐ろしい雹のことで神様をのろいました。

一七

悪名高い女

1 災害をぶちまけた七人の御使いの一人が、私に近づき、こう話しかけました。 「ついて来なさい。 地の大水の上に座っている悪名高い大淫婦がどんな目に会うか、見せましょう。 2 世の王たちは、この女とみだらな関係を結び、世界中の人々が、この女の不正のぶどう酒に酔いしれました。」

3 そして御使いは、私を幻の中で荒野へ連れて行きました。 そこには、赤い獣にまたがる一人の女の姿がありました。 その獣には七つの頭と十本の角があり、体中に、神様を冒瀆することばが書き込まれていました。 4 女は紫と赤の服をまとい、金や宝石や真珠の、きらびやかな飾りを身につけていました。 また、みだらな行為であふれた、金の杯を抱えていました。

5 そして、額には「世界中のみだらな女と偶像礼拝者の母、大いなるバビロン」という、なぞめいたことばが刻まれていたのです。

6 彼女は血に酔っているようでした。 しかもその血は、彼女が殺したクリスチャンの血だったので、私は背筋が凍りつく思いでした。

7 すると御使いが、こう語りかけました。 「なぜ、そんなに驚いているのですか。 この女と獣の正体を教えましょう。 8 この獣は、昔は生きていましたが、今はいません。しかし、やがて底なしの穴から現われて、永遠の滅びに突っ走るでしょう。 地上に住む人々のうち、世の初めから、いのちの書に名前が書かれていない人は、その絶滅したと思われていた獣が、もう一度姿を現わすのを見て、血の気を失うほど驚くでしょう。

9 さあ、よく考えなさい。 この獣の七つの頭とは、女の住む七つの丘に建てられた都のことです。 10 それはまた七人の王を意味します。 そのうち五人の王は、すでに倒れました。 第六の王は現在、王位についており、第七の王は、まもなく姿を現わすでしょう。 しかし、その王座も長くはありません。 11 赤い獣そのものは、第八の王であり、彼が一度死んだということは、七人の中の一人として、以前、王座に君臨していたことを意味します。 彼は二度目に王となってから、最後の滅びに向かうのです。 12 十本の角は、これから王位につこうとしている、十人の王を表わします。 彼らは、赤い獣と共に支配するため、一時的に王座につくのです。 13 彼らは同盟を結んで、自分たちの力と権威とを、その獣に与えます。 14 そして、一致団結して小羊と戦いますが、結局、小羊の勝利に終わります。 なぜなら、小羊は主の主、王の王であり、その配下も、特別にえり抜きの、忠実な者だからです。

15 あの女の座っている海や湖や川は、あらゆる人種や国民からなる、おびただしい人々を表わしています。

16 やがて、赤い獣と十本の角は、その女を憎み、襲いかかって裸にし、あげくの果ては、火で焼き殺すことになります。 17 というのも、それらは神様の計画にあることで、神様は、彼らの思いを支配し、目的を達成なさるのです。 彼らは赤い獣に権威を与えることで一致します。 これも神様のお考えどおりです。 18 あなたが幻で見たあの女は、地上の王を支配する大いなる都のことです。」

一八

大いなる都の最後

1 これらのことの後、私はもう一人の御使いが、大きな権威を授けられて、天から下って来るのを見ました。 地上は、その輝きで明るくなりました。

2 彼は大声で叫びました。 「バビロンが倒れた。 あの大いなるバビロンが倒れた。 そこは悪魔の巢窟、悪霊や、あらゆる汚れた霊のたまり場となった。 3 あらゆる国の人々が、彼女のみだらな毒ぶどう酒に酔いしれたからだ。 また、地上の支配者は彼女と快楽にふけり、全世界の商人は、彼女のぜいたくな浪費のおかげで、大もうけをしたからだ。」

4 それから私は、天から別の声を聞きました。 「クリスチャンよ。 あの女から遠ざかりなさい。 その罪に関係してはなりません。 そうでないと、いっしょに罰を受けることになります。 5 あの女の罪は数えきれず、積み上げられて天にまで達したので、神様の罰がいよいよ下るのです。

6 彼女から受けた仕打ちをそっくりそのまま、いや、それ以上の仕返しをしなさい。 悪事に対しては、二倍の罰を与えなさい。 彼女は人々に、多くの災いの飲み物を飲ませようとたくらみました。 それを倍にして飲ませなさい。 7 ぜいたく三昧に遊び暮らした彼女に、それに見合うだけの苦しみと悲しみとを与えなさい。 彼女はうぬぼれています。 『私は女王で、身寄りのない未亡人とは違う。 悲しみなど知らない。』

8 おかげで、たった一日のうちに、死の悲しみと嘆きと飢えとに襲われ、彼女は焼き滅ぼされてしまうのです。 さばきをなさる主は、力ある偉大なお方だからです。」

9 彼女の不純な行為に手を貸し、多くの分け前をもらって、ぜいたくの限りを尽くした地上の支配者は、その焼けこげの死体から立ちのぼる煙を見て、涙にくれるでしょう。 10

そして、恐怖に震えながら、遠巻きにして立ち、「ああ、悲しいことだ。 力ある都バビロンよ。 あなたへのさばきは、あっという間に下った」と叫ぶでしょう。

11 また、地上の商人も泣き悲しむでしょう。 もはや、お得意先がなくなったからです。

12 彼女ほどの客は、またとなかったのです。 納めた商品は、金、銀、宝石、真珠、上等の麻布、紫色の絹、紅色の絹、いろいろな香木、象牙細工、高価な木彫り、青銅、鉄、大理石、 13 肉桂、香水、香料、香油、乳香、ぶどう酒、オリーブ油、上質の小麦粉、小麦、牛、羊、馬、戦車、奴隷に及び、さらには人の命までも商ったのです。

14 彼らは叫びます。 「あなたの秘蔵のものは、全部その手から奪い去られました。 あれほどご自慢だった、豪華で、粋をこらしたぜいたくは、もう二度とできません。 すべては永久に失われたのですから。」

15 これらの品を納めて、ぼろもうけをしていた商人は、わが身への危険を恐れて、遠く

離れて立ち、泣き悲しむでしょう。 16 17「ああ、悲しいことだ。 あんなに美しかった大いなる都が、あっという間に荒れ果ててしまった。 最高級の紫色の布と紅色の麻布をまとい、金や宝石や真珠で飾りたてていた都よ。 そのすべての富も、一瞬のうちに消えてしまった。」

また、各国の船主や商船の船長、乗組員も遠くから、 18 彼女が焼かれる煙を見て、涙ながらに、「これほどすばらしい都が、この世にあっただろうか」と嘆くでしょう。 19 そして、頭にちりをかぶって、悲しむのです。 「ああ、ああ、大いなる都よ。 その有り余る富のおかげで、われわれは大金持ちになれたのに。 それが何もかも、一瞬のうちに失われてしまった。」

20 しかし、天よ、神の子供よ、預言者よ、使徒よ。 彼女の最後を喜びなさい。 ついに神様は、あなたがたのために、彼女へのさばきを下されたのです。

21 その時、一人の強い御使いが、ひき臼のような丸い石を持ち上げ、海に放り投げて叫びました。 「大いなる都バビロンは、この石のように投げ捨てられ、もはや、永久に浮かび上がりません。 22 もう楽しい音楽はとだえ、ピアノ、サキソホン、トランペットの音も聞こえません。 種々の産業はすたれ、ひき臼をひく人影も、二度と見ることはありません。 23 夜は真っ暗やみで、窓からは明かりももれず、結婚式の喜びの鐘も、花婿と花嫁の楽しそうな声も聞こえません。その名を世界に鳴りとどろかせた商人たちも、鳴りをひそめます。彼らはすべての国の人々をたぶらかす、彼女の魔術のおかげで、もうけていたのです。 24 彼女は、殉教したすべての預言者や神のきよい民の、血の責任を問われるのです。」

一九

天の大群衆

1 この後、私は、天からおびたしい群衆の叫び声を聞きました。 「ハレルヤ、主を賛美せよ。 救いは神様からの贈り物、誉れと権威は神様だけのものです。 2 その審判は正しく、真実だからです。神様は、姦淫によって地上に悪をはびこらせた、あの大淫婦を処罰し、神様に仕える者たちが殺されたことに復讐されたのです。」

3 彼らは、くり返しくり返し主を賛美しました。 「主をほめたたえよ。 彼女の焼かれる煙は、永遠に立ちのぼる。」

4 すると、二十四人の長老と四つの生き物はひれ伏し、王座におられる神様を礼拝して、「アーメン、ハレルヤ。 主を賛美せよ」と言いました。

5 また、王座から声がしました。 「神様を恐れ、神様に仕えているすべての者よ。 小さい者も大きい者も、神様をほめたたえよ。」

6 そのとき私は、ちょうど大群衆の叫び声か、海岸に打ち寄せる大波、あるいは、激しい雷鳴のとどろきのような声を聞きました。「主を賛美せよ。 主である全能の神様が支配なさる時が来たのです。 7 さあ、大いに喜び楽しみ、神様をほめたたえましょう。 小羊の結婚の時が来て、花嫁のしたくも整いました。 8 花嫁衣装は、輝くばかりの、きよく

真っ白な最上の麻布で作られています。」 この麻布は、クリスチャンの正しい行ないを表わしているのです。

9 御使いは、次のことばを書きとめるよう、促しました。 「小羊の結婚披露宴に招かれた人は幸いです。」 御使いはまた、こう付け加えました。 「これは神様の口から出たことばです。」

10 そのとき私は、御使いの足もとにひれ伏して、礼拝しようと思いました。すると御使いは、「何をするのです。 そんなことはやめなさい。 私も、神様に仕える者にすぎません。 あなたや、イエス様への信仰を証言しているクリスチャンたちと同等なのです。 すべての預言も、いま私が告げたすべてのことばも、その目的は、ただイエス様を証言することです。」

王の王

11 それから天が開かれ、私は、そこに白い馬を見ました。 その馬に乗っているのは「忠実、また真実」と呼ばれ、正しいさばきをし、戦いをなさる方です。 12 目は炎のように輝き、頭にはたくさんの冠をかぶっていました。 額には名前が記されていましたが、その意味を知っているのは本人だけでした。 13 この方は血に浸した衣を着て、「神様のことば」という肩書きをつけておられました。 14 天の軍隊は、きよく真っ白な最上の麻布を身につけ、白馬にまたがって、彼に従いました。

15 この方は、諸国民を切り倒す、鋭い剣をくわえておられました。そして、鉄のような手で、国々を完全に支配なさるのです。 また、全能の神様の激しい怒りに満たされた酒ぶねを踏まれるのです。 16 衣と、ももには、「王の王、主の主」という肩書きが記されていました。

17 そのとき私は、光の中に立つ一人の御使いが、大声ですべての鳥に呼びかけるのを見ました。 「さあ、集まりなさい。 偉大な神様の宴会の始まりです。 18 さあ、王、司令官、偉大な将軍、馬と乗り手、それから大きい者と小さい者、奴隷と自由人のすべての肉を食べなさい。」

19 それから私は、悪い獣が地の支配者と軍隊とを召集し、馬に乗っておられる方とその軍隊とに、戦いをいどんでいるのを見ました。 20 しかし、悪い獣は捕らえられ、続いて偽預言者も縛り上げられました。 この偽預言者は、悪い獣と手を組んで、人々を奇蹟であつと言わせ、いれずみをした悪い獣の礼拝者たちを、だましていたのです。 結局、悪い獣も偽預言者も、硫黄の燃えさかる火の池に、生きたまま投げ込まれました。 21 彼らに従った軍隊もまた、白い馬にまたがる方の鋭い剣で殺されました。すると、天の鳥が、むさぼるように、その肉をついばんでしまいました。

二〇

悪魔、底なしの穴へ

1 そのとき私は、底なしの穴のかぎと太い鎖とを手にした御使いが、天から下って来るのを見ました。 2 彼は、悪魔とかサタンとか呼ばれている、あの古い蛇である竜をつかま

え、鎖で縛って、千年の間、 3 底なしの穴に閉じ込めてしまいました。 こうして竜は、定められた千年が過ぎるまでは、世界の国々をだますことが、できなくなりました。 しかし、その期間が終われば、しばらくの間だけ自由な活動が許されるのです。

4 それから私は、数多くの王座を見ました。 そこには、さばく権威を神様から授けられた人々が、座っていました。 私はまた、イエス様について証言し、神様のことばを伝えただために首をはねられた人々のたましいと、獣をもその像をも拝まず、額や手にいれずみをしなかった人々のたましいとを見ました。 その人々はみな生き返って、キリスト様と共に千年間、世界を支配しました。

5 これが第一の復活です。〔残りの死者は、千年が過ぎるまで、 死んだままでした。〕 6 第一の復活を経験する人は幸いな人であり、 きよい人です。 彼らには、第二の死など、恐ろしくありません。神様とキリスト様の祭司になった彼らは、キリスト様と共に、千年間、支配するからです。

7 千年の後、悪魔は閉じ込められていた場所から出されます。 8 悪魔は、地上の国々をだまそうと行き巡り、戦いのために、人々をゴグとマゴグともども駆り立てます。 それは、海辺の砂のように数えきれない大軍です。 9 彼らは、地上の広々とした大平原に攻め上り、クリスチャンと都エルサレムとを取り囲みます。 ところが、天の神様のもとから、敵軍めがけて火が下り、彼らを焼き滅ぼしてしまいます。

10 その後、人々をだましていた悪魔は、獣や偽預言者と同じく、硫黄の燃える火の池へ投げ込まれます。 そこで、昼も夜も、永遠に苦しむのです。

11 また私は、大きな白い王座と、そこに座しておられるお方とを見ました。 地も空も、そのお方の顔を避けて逃げ出し、影も形もなくなってしまいました。 12 私はすべての死者が、大きい者も小さい者も、神様の前に立つのを見ました。 いのちの書をはじめ、さまざまな書物が開かれました。 死者は、これらの書物の規定に従い、それぞれの行ないに応じて、さばかれました。 13 海も地も地下の世界も、その中の死者を吐き出しました。 そして各自が、その行ないに応じて、さばかれました。 14 死も地獄も、火の池に投げ込まれました。 この火の池が、第二の死です。 15 いのちの書に名前の記されていない者はみな、火の池に投げ込まれたのです。

二一

新しい世界

1 それから私は、新しい地と新しい空とを見ました〔そこには海はありません〕。 今までの地も空も、消え去ってしまいました。 2 また、私ヨハネは、神様のもとを出て天から下って来る、聖なる都、新しいエルサレムに目を奪われました。 その眺めのすばらしさは、まるで、結婚式に美しく着飾った花嫁のようでした。

3 私は、王座から大声で叫ぶ声を聞きました。 「ごらんなさい。 神様の住まいが人々の間にあります。 神様は人々と共に住み、人々は神様の国民となります。 神様自ら人々の中に住み、 4 その目から涙をぬぐってくださいなのです。 もはや、死も悲しみも叫び

も苦痛ありません。それらはみな、永遠に姿を消したからです。」

5 王座におられる方が宣言されました。「ごらんなさい。わたしはすべてを新しくします。」そして、続いてこう言われました。「これらのことを書きとめなさい。わたしが伝えることは、真実で、信頼できるからです。6 いっさいのわざが成し遂げられました。わたしは初めであり、終わりです。のどの渇いている者には、いのちの水の泉をあげましょう。7 勝利を得る人はだれでも、すべての祝福を相続できるのです。わたしはその人の神となり、その人はわたしの息子となります。8 しかし、わたしに従うのをやめるような臆病者、不忠実な者、墮落した者、人殺し、不道德な者、魔術を行なう者、偶像礼拝者、うそをつく者——こんな連中の行き着く先は、火と硫黄が燃えさかる池です。これが第二の死なのです。」

9 その時、最後の七つの災害の鉢をぶちまけた、七人の御使いの一人が来て、私に言いました。「ついて来なさい。小羊の妻となる花嫁を紹介しましょう。」

栄光の都

10 幻の中で、御使いは私を、高い山の頂上に連れて行きました。そこで私は、すばらしい都、きよいエルサレムが、神様のもとを出て、天から下って来るのを見ました。11 都は神様の栄光に包まれ、宝石のように光り輝き、碧玉のように透き通っていました。12 都には、分厚い城壁が高くそびえ、十二人の御使いの守る十二の門があり、それぞれに、イスラエルの十二部族の名が記されていました。13 また、門は東西南北の方角に、三つずつ設けられていました。14 城壁には十二の土台石があつて、それぞれに、小羊の十二使徒の名が書き込まれていました。

15 御使いは、都と門と城壁とを測るために、金の物差しを手にしていました。16 実際に測ってみると、都は縦横長さの等しい正方形であることがわかりました。おまけに高さも同じで、立方体をなしているのです。それぞれの長さは二千四百キロでした。17 次に城壁の厚さを測ってみると、六十六メートルありました。〔御使いは、これらの数字を読み上げました。〕

18 19 都そのものは、ガラスのように透き通る純金でできていました。城壁は碧玉で、さまざまな宝石がちりばめてある、十二の土台石の上に築かれていました。

第一の土台石は碧玉、

第二はサファイヤ、

第三は玉髄、

第四はエメラルド、

第五は赤縞めのう、

20 第六は赤めのう、

第七は貴かんらん石、

第八は緑柱石、

第九はトパーズ、

第十は緑玉髓、

第十一はヒヤシンス石、

第十二は紫水晶です。

21 十二の門は、それぞれ、一つの大きな真珠でできていました。大通りは、ガラスのように透き通る純金でした。

22 それにしても、都には、どこにも神殿が見あたらないのです。というのも、全能の神である主と小羊とを、都のどこでも、自由に礼拝できるからです。23 都には、太陽も月もありません。神様と小羊との栄光が、明るく照らしていたからです。24 その光は全世界に及ぶのです。世界中の支配者たちが、それぞれの栄光を携えてやって来ます。25 都の門は決して閉じられず、一日中、開かれたままです。ここには夜がないからです。26 あらゆる国の栄光と誉れが、都に運ばれて来ます。27 汚れた者は、入れてもらえません。不道德な者、不正直な者は、一人たりとも入れません。小羊のいのちの書に名前が記されている人々だけが、ここに入れるのです。

二二

いのちの水の川

1 それから御使いは、いのちの水の川を、見せてくれました。それは水晶のように透き通り、神様と小羊との王座から流れ出て、2 都の大通りの中央を貫いていました。川の兩岸には、十二種の実をつける、いのちの木が生えていました。その木には、それぞれひと月ごとに実がなりました。その葉は、世界中の病気に効く薬草として使われました。

3 都の中に、のろわれたものは何一つありません。神様と小羊との王座があって、神様に仕える者たちが礼拝しているからです。4 彼らは、神様と顔を合わせることができます。その額には、神様の名が書き込まれていますから。5 また、都には夜がありません。ですから、明かりも太陽もありません。神である主が、光そのものだからです。人々は永遠に支配し続けるのです。

6 7 御使いは、私にこう告げました。『わたしはすぐに来る』という約束は真実で、信じるに足ることばです。預言者に、将来の出来事を予告された神様は、それがいよいよ実現するのを知らせようと、御使いをあなたに遣わされたのです。このことを信じ、この書物に記されているすべてを信じる人は幸いです。』

8 以上の一連の出来事を見聞きした私ヨハネは、それらを示してくれた御使いの前にひれ伏して、礼拝しようと思いました。9 ところが彼は、前回同様、それを拒んだのです。「そんなことをしてはいけません。私は、イエス様に仕える者にすぎません。あなたや、あなたの兄弟である預言者たちや、この書物の真理に心をとめるすべての人々と同じなのです。ただ神様だけを礼拝しなさい。」

10 それから御使いは、私に指示しました。「あなたが書きとめたことを隠しておいてはいけません。いよいよ、それらが現実となるからです。11 その時が来ると、不正

な者はますます不正を重ね、汚れた者はますます汚れるでしょう。 反対に、正しい者はますます正しい行ないに励み、きよい者はますますきよくなるのです。」

わたしはすぐに来る！

12 「ごらんなさい。 わたしはすぐに戻って来ます。 同時に、各自の行ないにふさわしい報いをもたらします。 13 わたしは初めであり、終わりです。 最初であり、最後です。 14 都の門から入る資格と、いのちの木の実を食べる権利とを受けたいと、自分の衣服を洗っている人は幸いです。

15 都の外には、神様から離れた者、魔術師、不道德な者、人殺し、偶像礼拝者、好んでうそをつく者、偽りを行なう者がうごめいています。 16 わたし、イエスは、これらすべてを諸教会に知らせるため、あなたがたに使者を送りました。 わたしはダビデの根であり、その子孫です。 また、ひとときわ輝く明けの明星です。 17 聖霊様と花嫁は、『来てください』と言っています。 これを聞く人々は、同じように『来てください』と言いなさい。 のどが渇いている人〔求めている人〕は、だれでも来なさい。 そして、いのちの水を、ただで飲みなさい。

18 わたしは、この書物を読むすべての人に、厳かに宣言します。ここに書かれていることに、一語でも書き加える人がいれば、神様はその人に、この書物にあるとおりの災いを下されます。 19 また反対に、この預言の書物から一語でも取り除く人がいれば、神様はその人から、いのちの木の実を食べる権利ばかりか、きよい都に入る権利をも取り上げるでしょう。

20 これらを知らせてくださった方が、はっきり宣言します。 『そうです。 わたしはすぐに戻って来ます。』

アーメン、主イエスよ。 来てください。

21 主イエス・キリストの恵みが、あなたがた一同と共にありますように。 アーメン。

■